本書の見かた

本書ではお車の各装置や装備の正しい取り扱いかたと、快適ドライブ情報やお手入れのしかた、万一のときの応急処置などを記載しています。

◎ **お車を安全･快適にお使いいただくため、ご使用前に必ずお読みください。**
◎ **「警告」「注意」は安全のために特に重要です。よく読んでお守りください。**

- 本書の中で使用しているマークと意味は次のようになっています。

安全のために守っていただきたいこと。	
⚠ 警告	守らないと生命の危険または重大な傷害につながるおそれがあります。
⚠ 注意	守らないと傷害につながるおそれがあります。
お車のために守っていただきたいこと。	
アドバイス	守らないと装備品や車両の破損につながるおそれがあります。
お車を使ううえで知っておいていただきたいこと。	
知識	知っておくとお車の性能を十分にお使いいただけるとともに、いろいろな装備を上手に使うことができます。
🚫	安全のためにしてはならない行為。（イラスト内に表示されています）

- コントロールパネルのスイッチは<＊＊＊＊>、操作画面に表示されるメニューや項目は［＊＊＊＊］と表示しています。
- 参照して読んでいただきたいページなどを、➔ マークで表示しています。
- 本書では、標準装備またはメーカーオプションのナビゲーションシステムを装着した車両のことを「メーカーオプションナビゲーションシステム装着車」と示しています。
- 日産販売会社で取り付けられた装備（ディーラーオプション）については、その装備に付属の取扱説明書をお読みください。
- 点検･整備、保証については別冊のメンテナンスノートをお読みください。
- メーカーオプションナビゲーションシステム装着車は、別冊のナビゲーションシステム取扱説明書も合わせてお読みください。
- その他、ご不明な点はカーライフアドバイザー（営業部員）にお申しつけください。

- 交通ルールやマナーを守って運転しましょう。
- 自然環境保護に配慮してください。
- 本書と別冊のメンテナンスノートはお車の中に保管してください。
- お車をゆずられるときは次に所有される方のために、本書をお車に付けておいてください。
- 車両の仕様変更により、本書の内容が実車と一致しない場合がありますのであらかじめご了承ください。

目次

■ 外観フロント.**2**
■ 運転席まわり.**8**
■ 外観リヤ.**4**
■ インストルメントパネル.**10**
■ 車室内.**6**

イラスト目次 P.2

■ 日産 e-POWERの特徴.**14**
■ 安全にご利用いただくために.**16**
■ 日産e-POWERと上手に付き合うために.**19**

日産 e-POWERとは P.13

■ 運転する前に.**22**
■ お子さまの安全のために.**37**
■ シートベルト.**26**
■ エアバッグ.**31**

安全なドライブのために P.21

■ 計器類.**46**
■ アドバンスドドライブアシストディスプレイ（メータータイプ(B)）.**95**
■ 警告灯・表示灯.**55**
■ ヘッドアップディスプレイ★.**118**
■ アドバンスドドライブアシストディスプレイ（メータータイプ(A)）.**64**
■ メーターの明るさの調節.**124**

メーターの見かた P.45

■ キー.**126**
■ ミラーの調節.**161**
■ エアコンの操作.**173**
■ ドアの施錠と解錠.**132**
■ 窓ガラスの開閉.**168**
■ オーディオ★.**185**
■ シート・ハンドルの調節.**149**
■ 燃料補給口の開閉.**171**

各部の操作 P.125

■ 始動する.**188**
■ 運転支援機能.**211**
■ 運転する.**191**
■ 駐車支援システム.**317**
■ ランプをつける、ワイパーを使う.**198**

運転のしかた P.187

■ 室内灯.**360**
■ 収納装備.**362**
■ その他の室内装備.**366**

室内装備 P.359

■ まずはじめに.**394**
■ 緊急時の対処法.**398**

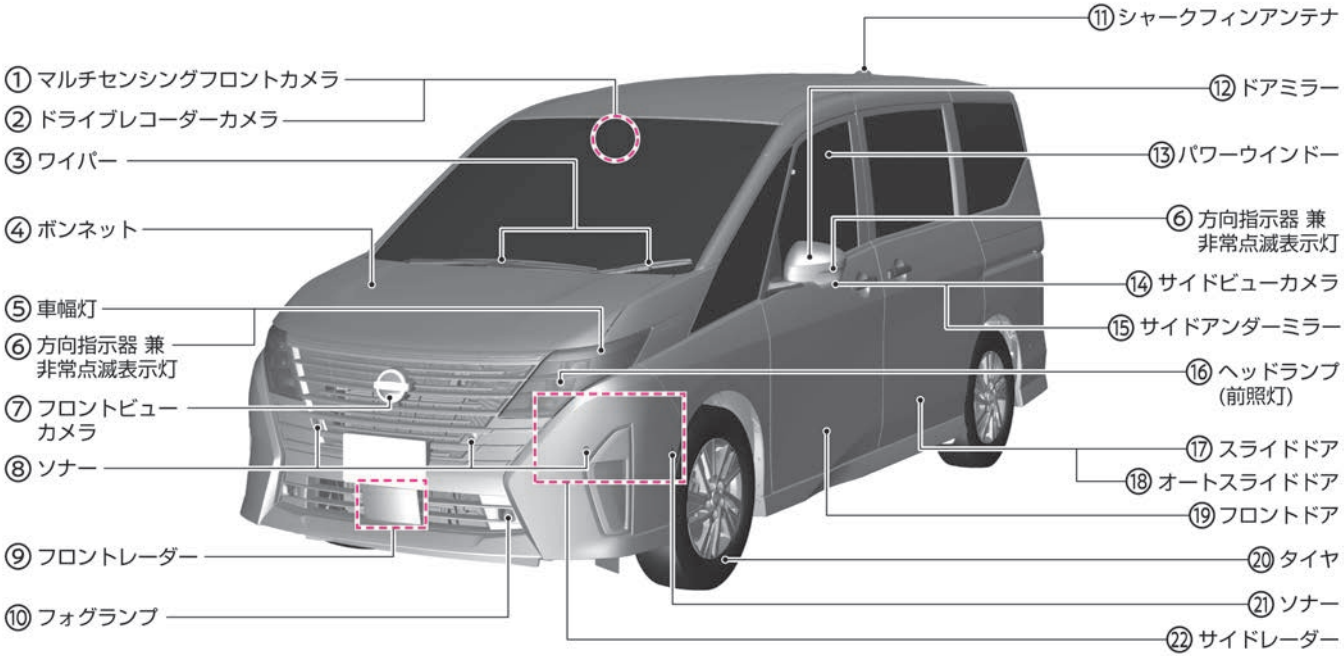
トラブルがおきたときは P.393

■ メンテナンスの前に.**458**
■ 清掃・お手入れ.**473**
■ 工具・ジャッキ.**459**
■ サービスデータ.**479**
■ 点検と整備.**463**

メンテナンス P.457

索引 P.485

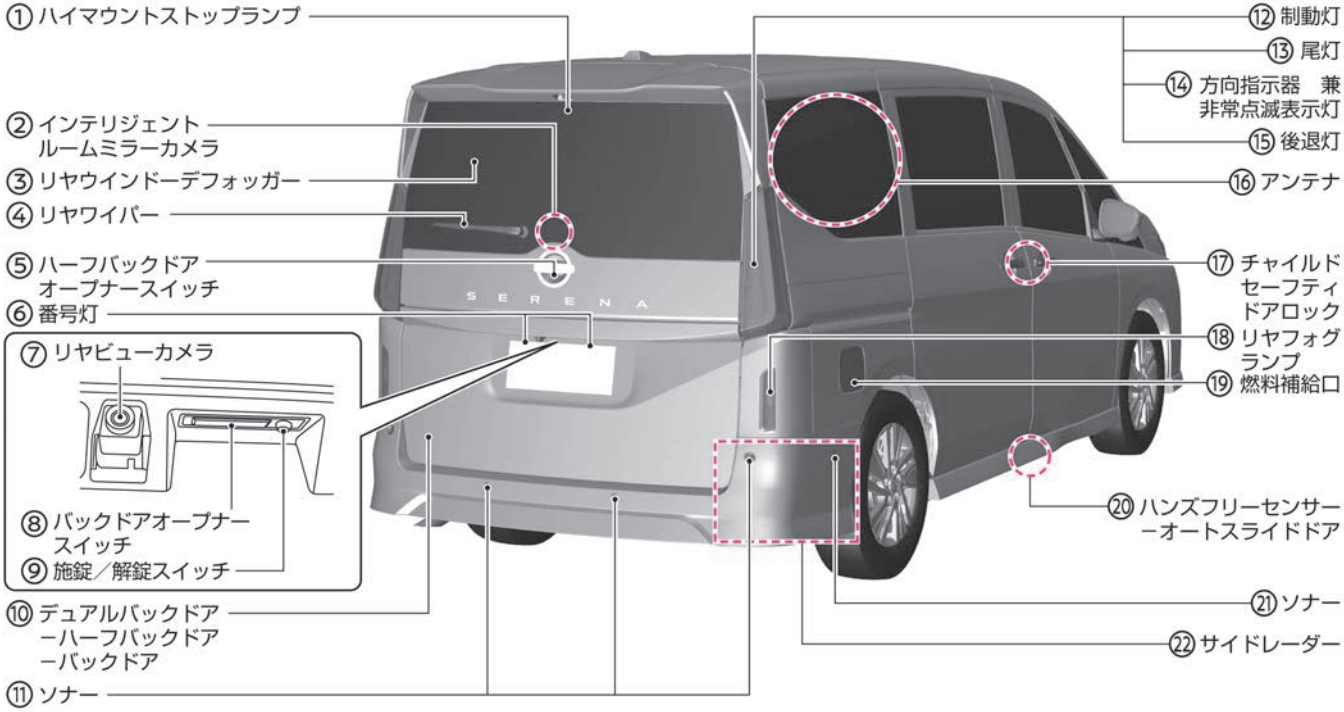
外観フロント


① マルチセンシングフロントカメラ
② ドライブレコーダーカメラ
③ ワイパー
④ ボンネット
⑤ 車幅灯
⑥ 方向指示器 兼 非常点滅表示灯
⑦ フロントビューカメラ
⑧ ソナー
⑨ フロントレーダー
⑩ フォグランプ
⑪ シャークフィンアンテナ
⑫ ドアミラー
⑬ パワーウインドー
⑥ 方向指示器 兼 非常点滅表示灯
⑭ サイドビューカメラ
⑮ サイドアンダーミラー
⑯ ヘッドランプ (前照灯)
⑰ スライドドア
⑱ オートスライドドア
⑲ フロントドア
⑳ タイヤ
㉑ ソナー
㉒ サイドレーダー

外観フロント

① マルチセンシングフロントカメラ（➔P.225、➔P.475）
② ドライブレコーダーカメラ★（➔P.369）
③ ワイパー（➔P.206）
④ ボンネット（➔P.463）
⑤ 車幅灯（➔P.198、➔P.455、➔P.482）
⑥ 方向指示器 兼 非常点滅表示灯（➔P.204、➔P.455、➔P.482）
⑦ フロントビューカメラ★（➔P.317、➔P.476）
⑧ ソナー（➔P.92、➔P.116、➔P.225、➔P.324、➔P.476）
⑨ フロントレーダー（➔P.225、➔P.475）
⑩ フォグランプ★（➔P.205、➔P.455、➔P.482）
⑪ シャークフィンアンテナ（プロパイロット2.0付車）（➔P.232、➔P.473）
⑫ ドアミラー（➔P.165）
⑬ パワーウインドー（➔P.168）
⑭ サイドビューカメラ★（➔P.317、➔P.476）
⑮ サイドアンダーミラー★（➔P.166）
⑯ ヘッドランプ（前照灯）（➔P.198、➔P.455、➔P.482）
⑰ スライドドア★（➔P.134）
⑱ オートスライドドア★（➔P.137）
⑲ フロントドア（➔P.132）
⑳ タイヤ（➔P.466）
㉑ ソナー★（➔P.225、➔P.324、➔P.476）
㉒ サイドレーダー（プロパイロット2.0付車）（➔P.225、➔P.475）

外観リヤ

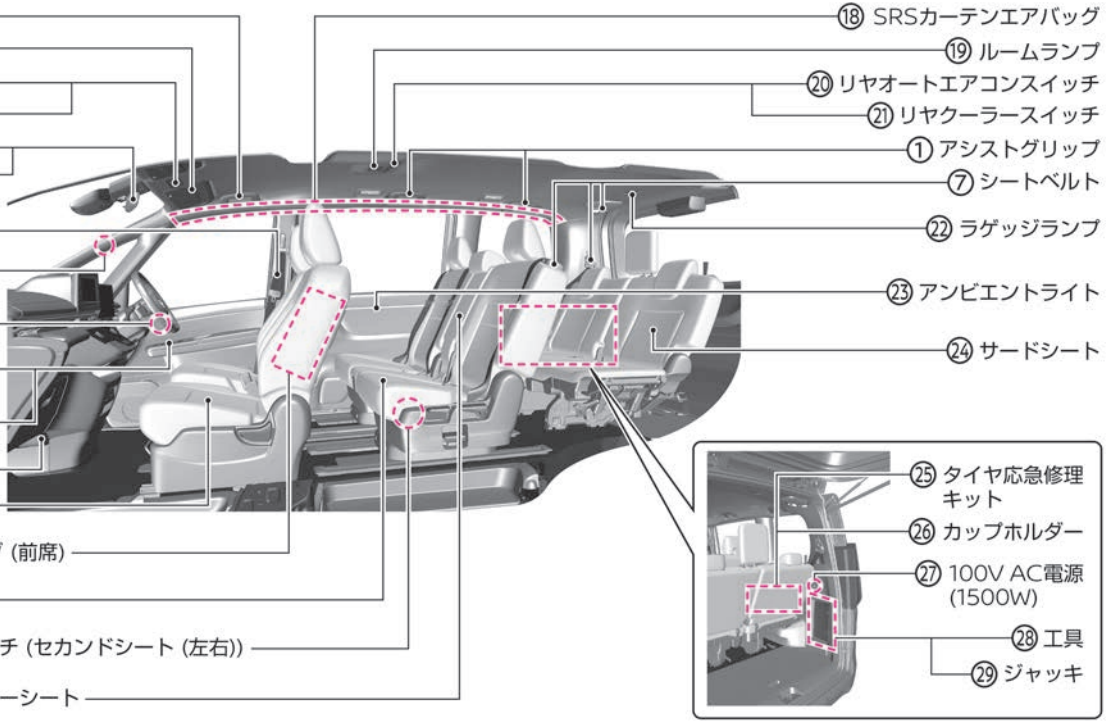

① ハイマウントストップランプ
② インテリジェント
ルームミラーカメラ
③ リヤウインドーデフォッガー
④ リヤワイパー
⑤ ハーフバックドア
オープナースイッチ
⑥ 番号灯
⑦ リヤビューカメラ
⑧ バックドアオープナー
スイッチ
⑨ 施錠／解錠スイッチ
⑩ デュアルバックドア
ーハーフバックドア
ーバックドア
⑪ ソナー
⑫ 制動灯
⑬ 尾灯
⑭ 方向指示器　兼
非常点滅表示灯
⑮ 後退灯
⑯ アンテナ
⑰ チャイルド
セーフティ
ドアロック
⑱ リヤフォグ
ランプ
⑲ 燃料補給口
⑳ ハンズフリーセンサー
ーオートスライドドア
㉑ ソナー
㉒ サイドレーダー
SERENA

外観リヤ

① ハイマウントストップランプ（➔P.455、➔P.482）
② インテリジェント ルームミラーカメラ★（➔P.162、➔P.478）
③ リヤウインドーデフォッガー（➔P.452）
④ リヤワイパー（➔P.208）
⑤ ハーフバックドアオープナースイッチ（➔P.147）
⑥ 番号灯（➔P.198、➔P.455、➔P.482）
⑦ リヤビューカメラ★（➔P.317、➔P.476）
⑧ バックドアオープナースイッチ（➔P.146）
⑨ 施錠／解錠スイッチ（➔P.132）
⑩ デュアルバックドア
- ハーフバックドア（➔P.147）
- バックドア（➔P.146）
⑪ ソナー（➔P.92、➔P.116、➔P.225、➔P.324、➔P.476）
⑫ 制動灯（➔P.455、➔P.482）
⑬ 尾灯（➔P.198、➔P.455、➔P.482）
⑭ 方向指示器 兼 非常点滅表示灯（➔P.204、➔P.455、➔P.482）
⑮ 後退灯（➔P.455、➔P.482）
⑯ アンテナ（➔P.185）
⑰ チャイルドセーフティドアロック（➔P.135）
⑱ リヤフォグランプ★（➔P.205、➔P.455、➔P.482）
⑲ 燃料補給口（➔P.171）
⑳ ハンズフリーセンサー★
- オートスライドドア（➔P.142）
㉑ ソナー★（➔P.225、➔P.324、➔P.476）
㉒ サイドレーダー（➔P.225、➔P.475）

☆／★：車両型式、オプションなどで異なる装備

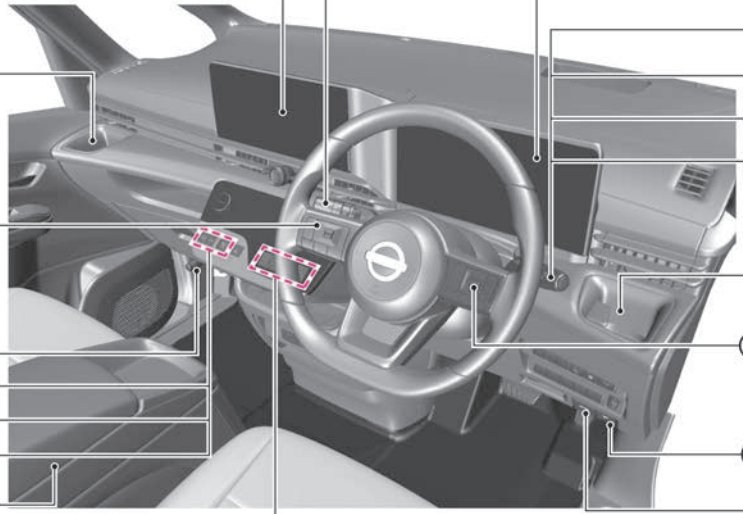
車室内


① アシストグリップ
② サンバイザー
③ マップランプ
④ SOSコールスイッチ
⑤ ルームミラー
⑥ インテリジェントルームミラー
⑦ シートベルト
⑧ ドライバーモニターカメラ
⑨ ロックノブ
⑩ パワーウインドースイッチ
⑪ ドアミラースイッチ
⑫ 電源ソケット
⑬ フロントシート
⑭ SRSサイドエアバッグ (前席)
⑮ セカンドシート
⑯ ヒーターシートスイッチ (セカンドシート (左右))
⑰ スマートマルチセンターシート
⑱ SRSカーテンエアバッグ
⑲ ルームランプ
⑳ リヤオートエアコンスイッチ
㉑ リヤクーラースイッチ
① アシストグリップ
⑦ シートベルト
㉒ ラゲッジランプ
㉓ アンビエントライト
㉔ サードシート
㉕ タイヤ応急修理キット
㉖ カップホルダー
㉗ 100V AC電源 (1500W)
㉘ 工具
㉙ ジャッキ

車室内

① アシストグリップ（➔P.390）
② サンバイザー（➔P.389）
③ マップランプ（➔P.360）
④ SOSコールスイッチ★（➔P.366）
⑤ ルームミラー★（➔P.161）
⑥ インテリジェント ルームミラー★（➔P.162）
⑦ シートベルト（➔P.26）
⑧ ドライバーモニターカメラ★（➔P.314）
⑨ ロックノブ（➔P.134）
⑩ パワーウインドースイッチ（➔P.168）
⑪ ドアミラースイッチ（➔P.165）
⑫ 電源ソケット（➔P.378）
⑬ フロントシート（➔P.149）
⑭ SRSサイドエアバッグ（前席）（➔P.35）
⑮ セカンドシート（➔P.151）
⑯ ヒーターシートスイッチ（セカンドシート（左右））★（➔P.378）
⑰ スマートマルチセンターシート★（➔P.154）
⑱ SRSカーテンエアバッグ（➔P.36）
⑲ ルームランプ（➔P.360）
⑳ リヤオートエアコンスイッチ★（➔P.177）
㉑ リヤクーラースイッチ★（➔P.179）
㉒ ラゲッジランプ（➔P.361）
㉓ アンビエントライト★（➔P.361）
㉔ サードシート（➔P.156）
㉕ タイヤ応急修理キット（➔P.398）
㉖ カップホルダー（➔P.364）
㉗ 100V AC電源（1500W）★（➔P.380）
㉘ 工具★（➔P.459）
㉙ ジャッキ★（➔P.459）

運転席まわり



① ナビゲーションシステム

② カップホルダー

③ ステアリングスイッチ (左)
－アドバンスドドライブアシストディスプレイ
－オーディオ
－ボイスアシスタント

④ 発炎筒

⑤ EVモードスイッチ

⑥ e-Pedalスイッチ

⑦ プロパイロットパーキングスイッチ

⑧ センターコンソールボックス／フロントセンタートレイ
－100V AC電源 (1500W)
－コンソールポケット

⑨ ワイパー・ウォッシャースイッチ

⑩ メーター

⑪ ライトスイッチ

⑫ 方向指示器スイッチ

⑬ フォグランプスイッチ

⑭ リヤフォグランプスイッチ

② カップホルダー

⑮ ステアリングスイッチ (右)
－プロパイロット
－ハンズフリーフォン
－音声操作

⑯ フューエルフィラーリッドオープナー

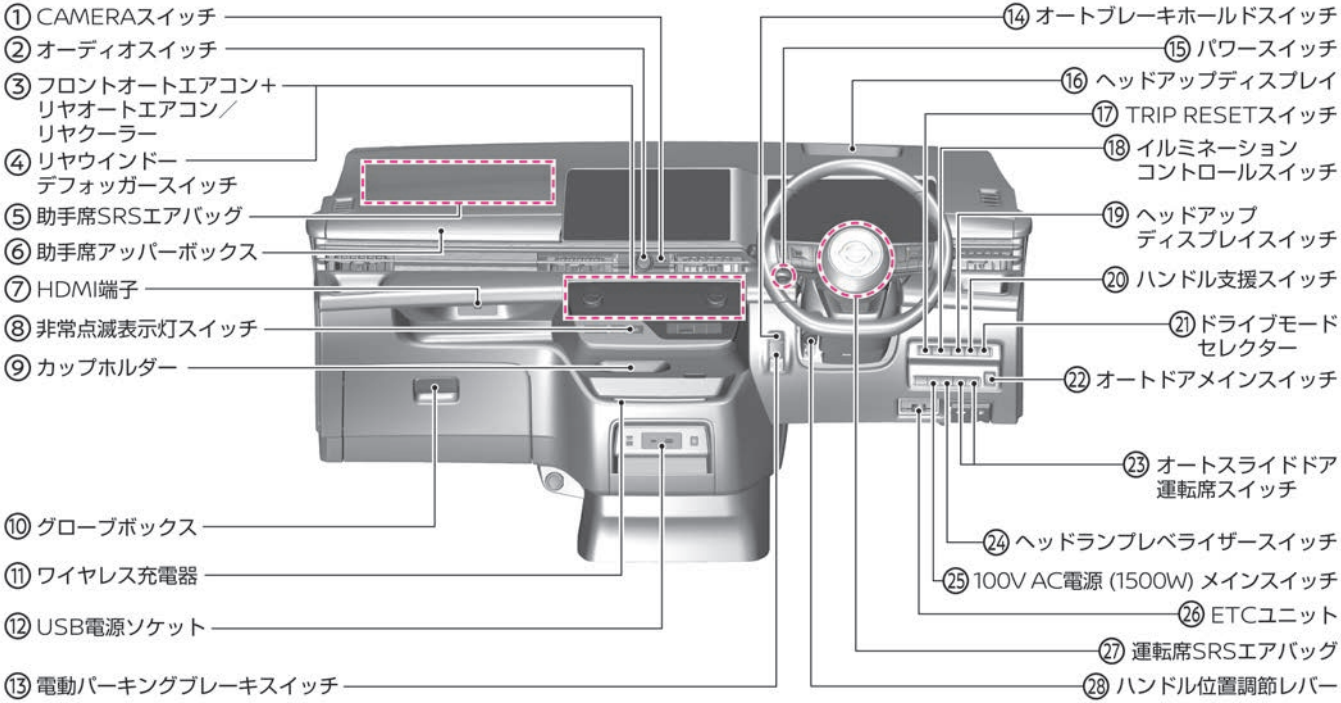
⑰ ボンネットオープナー

⑱ シフトスイッチ

運転席まわり

① ナビゲーションシステム★（別冊※）
② カップホルダー（➔P.363）
③ ステアリングスイッチ（左）
- アドバンスドドライブアシストディスプレイ（➔P.64、➔P.95）
- オーディオ★（➔P.185、別冊※）
- ボイスアシスタント★（別冊※）
④ 発炎筒（➔P.395）
⑤ EVモードスイッチ（➔P.215）
⑥ e-Pedalスイッチ（➔P.211）
⑦ プロパイロット パーキングスイッチ★（➔P.331）
⑧ センターコンソールボックス★（➔P.362）／フロントセンタートレイ★（➔P.363）
- 100V AC電源（1500W）★（➔P.380）
- コンソールポケット★（➔P.363）
⑨ ワイパー・ウォッシャースイッチ（➔P.206）
⑩ メーター（➔P.46、➔P.47、➔P.48）
⑪ ライトスイッチ（➔P.198）
⑫ 方向指示器スイッチ（➔P.204）
⑬ フォグランプスイッチ★（➔P.205）
⑭ リヤフォグランプスイッチ★（➔P.205）
⑮ ステアリングスイッチ（右）
- プロパイロット（➔P.229）
- ハンズフリーフォン★（別冊※）
- 音声操作★（別冊※）
⑯ フューエルフィラーリッドオープナー（➔P.171）
⑰ ボンネットオープナー（➔P.463）
⑱ シフトスイッチ（➔P.191）
※ ナビゲーションシステム取扱説明書をお読みください。

インストルメントパネル



インストルメントパネル

① CAMERAスイッチ★（➔P.317）
② オーディオスイッチ★（別冊※）
③ フロントオートエアコン＋リヤオートエアコン★／リヤクーラー★（➔P.173）
④ リヤウインドーデフォッガースイッチ（➔P.452）
⑤ 助手席SRSエアバッグ（➔P.33）
⑥ 助手席アッパーボックス（➔P.363）
⑦ HDMI端子★（別冊※）
⑧ 非常点滅表示灯スイッチ（➔P.394）
⑨ カップホルダー（➔P.363）
⑩ グローブボックス（➔P.362）
⑪ ワイヤレス充電器★（➔P.384）
⑫ USB電源ソケット（➔P.378、別冊※）
⑬ 電動パーキングブレーキスイッチ（➔P.192）
⑭ オートブレーキホールドスイッチ（➔P.193）
⑮ パワースイッチ（➔P.188）
⑯ ヘッドアップディスプレイ★（➔P.118）
⑰ TRIP RESETスイッチ（➔P.50）
⑱ イルミネーションコントロールスイッチ（➔P.124）
⑲ ヘッドアップディスプレイスイッチ★（➔P.121）
⑳ ハンドル支援スイッチ（➔P.235）
㉑ ドライブモードセレクター（➔P.213）
㉒ オートドアメインスイッチ（➔P.138）
㉓ オートスライドドア運転席スイッチ★（➔P.141）
㉔ ヘッドランプレベライザースイッチ★（➔P.205）
㉕ 100V AC電源（1500W）メインスイッチ★（➔P.382）
㉖ ETCユニット★（別冊※）
㉗ 運転席SRSエアバッグ（➔P.33）
㉘ ハンドル位置調節レバー（➔P.159）
※ ナビゲーションシステム取扱説明書をお読みください。

MEMO

日産e-POWERとは

日産 e-POWERの特徴

セレナe-POWERってどんな車？ P.14

安全にご利用いただくために

高電圧部品について P.16

セレナe-POWERの取り扱いに関する注意事項 P.17

セレナe-POWERが事故にあったときの注意事項 P.17

日産e-POWERと上手に付き合うために

燃費を良くするためのポイント P.19

ナビゲーションシステムを使ってより静かに走行する（メーカーオプションナビゲーションシステム装着車） P.19

セレナ e-POWERってどんな車？

セレナe-POWERはガソリンエンジンで発電用モーターを動かすことにより発電し、その電力をリチウムイオンバッテリーに蓄えたり直接走行用モーターに供給したりします。そしてそれらの電力で走行用モーターを駆動し走行する自動車です。

走行用モーター

リチウムイオンバッテリーに蓄えられた電力やエンジンと発電用モーターで発電された電力を使用して、エンジンの代わりにタイヤを動かす力を生み出します。

発電用モーター

ガソリンエンジンの力により発電します。

リチウムイオンバッテリー

発電用モーターで発電された電力や走行用モーターの回生電力を蓄え、走行時に走行用モーターに電力を供給します。

リチウムイオンバッテリーの残量が低下すると、エンジンが始動し自動的に充電を行うため、電気自動車のような外部からの充電は必要ありません。

ただし、車両を長時間放置すると少しずつ放電するため、少なくとも2～3か月に一度、約30分間は運転してください。（リチウムイオンバッテリーがダメージを受け、使用できなくなるおそれがあります。）

万一、リチウムイオンバッテリーがあがり、e-POWERシステムを始動できない場合は、日産販売会社にご連絡ください。

回生ブレーキ

ガソリンエンジン車のエンジンブレーキの代わりに走行用モーターを使って減速することを回生ブレーキと呼びます。減速するときに発電するため、発電した電力でリチウムイオンバッテリーを充電することができ、エネルギーを無駄にせず燃費を良くすることができます。

知識

- 回生ブレーキは、長い下り坂でリチウムイオンバッテリーが満充電になった場合や低温時、滑りやすい路面ではブレーキの効きが弱くなることがあります。また、指定サイズ以外のタイヤを使用しているときやタイヤの状態によっては、回生ブレーキが正常に作動しなくなることがあります。

車両接近通報装置

本車両は走行時の音がとても静かで通行人が車両の接近に気づきにくいため、警報装置がついています。交差点などの徐行中に警報音が鳴ります。

➔ 車両接近通報装置（P.220）

エンジンが作動するとき

e-POWERシステムでは次のようなときにエンジンが作動する場合があります。

- リチウムイオンバッテリーの残量が少ないとき（発電のため）
- アクセルペダルを強く踏み込んだとき（発電のため）
- 長い下り坂を走行しているとき（エンジンブレーキ相当の減速をさせるため）※
  ※：エンジンは作動していますが燃料は消費しません。
- 暖房をONにしたとき（熱源となるエンジン水温を上げるため）
- エンジンが冷えているとき（暖機のため）
- e-POWERシステムが作動している状態でボンネットを開けたとき（整備時の事故を防止するため）
- チャージモード中（発電のため）
  ➔ チャージモード（P.215）
- フロントガラスの<デフロスタースイッチ>をONにしたとき

e-POWER システム特有の音や振動

e-POWERシステム始動後は、次のような特有の音や振動が発生する場合がありますが異常ではありません。

- エンジンルームからのモーター音
- エンジンの始動・停止による音や振動
- アクセルペダルから足を離したときやブレーキペダルを踏んだときの作動音やモーター音
- 急加速時のエンジン音
- フロントシート下からのファン作動音
- 歩行者に車両の接近を知らせるための音
  ➔ 車両接近通報装置（P.220）

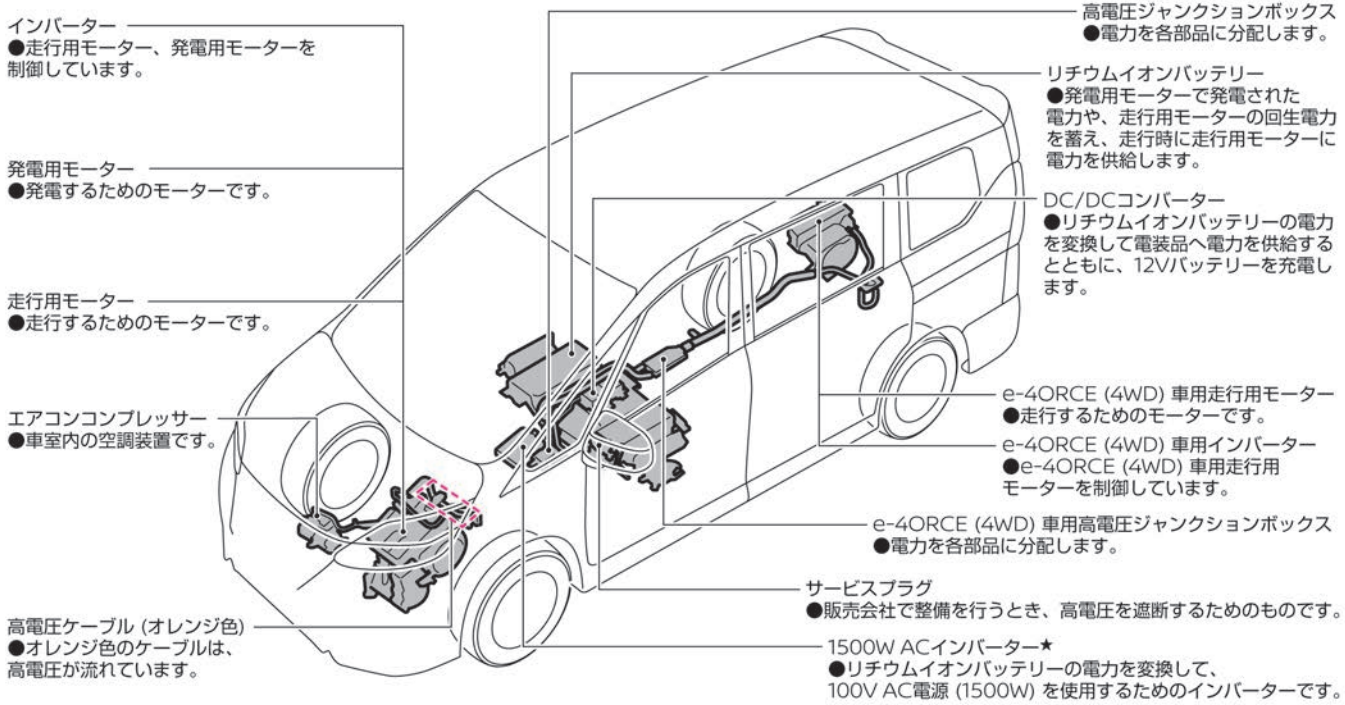
日産 e-POWERの特徴

知識

- 従来のガソリンエンジン車と比較して、アイドリング時のエンジン回転数は高めに設定されています。これはアイドリング中でもリチウムイオンバッテリーを充電するためで、異常ではありません。

高電圧部品について

e-POWERシステムには以下の高電圧部品が使われています。高電圧部品は高い電圧を使用していますので、分解や取り外しは絶対にしないでください。また、走行した直後などに高温になることがあるため、手を触れないようにしてください。主な高電圧部品は次のとおりです。



セレナ e-POWER の取り扱いに関する注意事項

e-POWERシステムを適切に取り扱うため、次のことを必ずお守りください。

⚠ 警告

- **高電圧部位には触れない。**

  最大で約420Vの直流高電圧が使用されているため、高電圧ケーブルやコネクター、高電圧部品（走行用モーターやリチウムイオンバッテリーなど）には触れないでください。感電すると生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあります。車両のエンジンルーム内に貼られているラベルの記載事項に必ず従ってください。

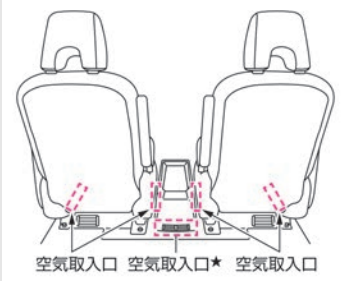
- **リチウムイオンバッテリーに水をかけない。**

  車室内、ラゲッジルームにふたのないバケツや水槽など、水がこぼれるおそれがあるものは置かないでください。リチウムイオンバッテリーに水がかかると故障の原因になります。

⚠ 注意

- **高温に注意する。**

  走行直後はエンジンルーム内が高温になっている可能性があります。エンジンルーム内に貼られているラベルの記載事項に必ず従ってください。



- **冷却用空気取入口をふさがない。**

  フロントシート下、およびセンターコンソール／フロントセンタートレイ左右下部と車両後方下部（2WD車のみ）に、リチウムイオンバッテリーとDC/DCコンバーターを冷却するための空気取入口があります。

  性能低下や車両故障につながるため、荷物や衣類などで空気取入口をふさがないでください。また、液体や砂など、異物が入らないように注意してください。万一、リチウムイオンバッテリー周辺に多量の液体をこぼしてしまった場合は、すみやかに日産販売会社にご連絡ください。

- **フロントシート下には重量物を載せない。**

  フロントシート下にはリチウムイオンバッテリーが配置されているため、重量物を載せたり踏みつけたりして強い負荷をかけないよう注意してください。

セレナ e-POWER が事故にあったときの注意事項

事故が発生したときは、次のことを必ずお守りください。

⚠ 警告

- **高電圧部品および高電圧ケーブルが露出しているときは絶対に触れない。**

  高電圧部品および高電圧ケーブルの位置は、（➔P.16）を確認してください。

- **リチウムイオンバッテリーから液漏れが見られる場合は、すみやかに日産販売会社に連絡する。**

  火災が発生するおそれがあります。

- **車室内や車外に液体が漏れているときは絶対に触れない。**

  万一、リチウムイオンバッテリーから漏れた液体が皮膚や衣服に付着したときは、水道水などのきれいな水で洗い流し、すみやかに医師の診察を受けてください。

- **走行中、床下に強い衝撃を受けたときは、安全な場所に停車し、損傷がないか点検する。**

  床下に損傷が見られる場合は、絶対に触れずすみやかに日産販売会社にご連絡ください。

- **リチウムイオンバッテリーや高電圧部品から火災が発生したときは、できるだけ早く車両から離れる。**

警告

火災を消火するときは、必ず電気火災用の消火器（ABC、BCまたはCタイプ）を使用してください。消火栓などから大量の放水が可能な場合のみ、水での消火も可能です。不適切な消火作業は危険なため、絶対に行わないでください。

- **事故などで車両が損傷し、安全であることを確認できない場合は、車両から離れて日産販売会社に連絡する。**

  日産販売会社に連絡するときは、（ガソリンエンジン車ではなく）e-POWERシステムである旨をご連絡ください。

- **板金・塗装による修理が必要な場合は、必ず日産販売会社に連絡する。**

  車体が大きく破損・変形しているとき、破損の状態によっては漏電や感電のおそれがあります。高電圧部位（リチウムイオンバッテリーなど）、およびこれらを接続する配線（オレンジ色）には絶対に触らないでください。

- **事故などでランプが破損したまま走行しない。**

  内部に水などが入ると、発煙し火災につながるおそれがあります。

アドバイス

- けん引が必要なときは、2WD車は前輪または4輪を、e-4ORCE（4WD）車は4輪を持ち上げてけん引してください。けん引時に駆動輪が接地していると、走行用モーターが発電し、車両を破損するおそれがあります。

  けん引について（P.396）

知識

- 衝突時やe-POWERシステムに異常があると、高電圧システムがOFFになり走行可能表示灯が消灯する場合があります。これはケガや事故につながる危険を最小限に抑えるもので、異常ではありません。

日産e-POWERと上手に付き合うために

燃費を良くするためのポイント

燃費は、道路状況、天候や気温、乗員数などに大きく左右されます。

次のようなことに気をつけ電力の消費を抑えると、燃費が良くなります。

お出かけ前に

電力の消費が少ないルートを選択する。

- 上り坂の走行は電力の消費が多くなります。上り坂の少ないルートを選択すると電力の消費を抑えられます。

不要な荷物は積んだままにしない。

- 荷物を減らし、車両重量を軽くすることで、電力の消費を抑えられます。

適切なタイヤ空気圧にする。

- タイヤ空気圧が低下していると、より多くの電力を消費します。
  ➔ タイヤの点検項目 (P.466)

知識

- 燃費が大幅に悪化する場合は、次のようなことが原因として考えられます。
  - 走行するルートの地形に上り坂が多い
  - 高速道路など、高速で走行を続けている
  - 頻繁に急発進、急加速、急ブレーキをしている

運転するときは

なめらかに発進、加速する。

- 急発進、急加速をすると、より多くの電力を消費し、燃費が悪くなります。
- パワーメーター（➔ P.50、または ➔ P.96）で電力の消費状況を確認しながら加速することで、電力の消費を抑えた加速ができます。

車間距離に余裕を持ち、必要以上の減速を極力避ける。

- 必要以上の減速を避けることで、再加速するための電力の消費を抑制できます。

高速道路などで速度を出しすぎない。

- 速度の出しすぎは、電力を無駄に消費します。

エアコンの設定温度を控えめにし、必要がなければこまめにOFFにする。

- エアコンによる余分な電力の消費を抑えられます。
- 暖房使用時、設定温度を24℃以下に下げると燃費が良くなります。
- 必要のないときは後席用エアコンをOFFにすると燃費が良くなります。
  - 暖房使用時：3列目に人が乗っていないとき（フロントオートエアコン＋リヤオートエアコン付車のみ）
  - 冷房使用時：2列目以降に人が乗っていないとき

寒いときは、エアコンの代わりにヒーターシート★やステアリングヒーター★を使用する。

- エアコンを使わずにヒーターシートやステアリングヒーターを活用することで、エンジン作動頻度を抑えられ燃費が良くなります。
  ➔ ヒーターシート★ (P.377)
  ➔ ステアリングヒーター★ (P.377)

デフロスターは必要以上に使用しない。

- 窓のくもりが取れたら、他の吹き出し口に切り替えることで、エンジン作動頻度を抑えられ燃費が良くなります。

ドライブモードをECOにして走行する。

- ドライブモードをECOにすると、STANDARD、SPORT、SNOW★より、エンジン作動頻度を抑えられ燃費が良くなります。
- ECOやSPORTを使用しているときは、アクセルペダルを緩めたときの回生ブレーキによる減速力が強くなり、減速時のエネルギーをより多く回収できます。
- ECOが最も燃費重視のモードとなります。
  ECO←STANDARD←SPORT/SNOW★の順に燃費が良くなります。
  ➔ ドライブモードセレクター (P.213)

ナビゲーションシステムを使ってより静かに走行する（メーカーオプションナビゲーションシステム装着車）

先読み充放電制御について

ナビゲーションシステムで設定した目的地までのルート情報（道路勾配や渋滞状況）をもとに、リチウムイオンバッテリーの充放電のタイミングを先読みし、e-POWER

らしいエコで静かな走行体験を実現します。

- あらかじめリチウムイオンバッテリーの充電量を増やして、目的地付近でエンジンが作動しないようにします。
- 下り坂手前であらかじめリチウムイオンバッテリーの充電量を減らして、回生エネルギーをより多く回収できるようにします。

先読み充放電制御の作動について

- 先読み充放電制御は、ナビゲーションシステムでルート案内中に自動的に有効になります。
- ナビゲーションシステムのルート案内中であっても、次の場合は先読み充放電制御が有効にならない場合があります。
  - ナビゲーションシステムで案内されたルートから外れたとき
  - GPSの受信状況が悪いとき
  - 設定したルートの距離が短いとき
  - e-POWERシステムがエンジンの作動を必要と判断したとき

安全なドライブのために

運転する前に

運転前の準備 P.22
運転するときに注意すること P.23
心臓ペースメーカーなどをご使用の方の注意事項 P.24
盗難防止機能 P.25

シートベルト

3点式シートベルト P.26
シートベルトの注意事項 P.29

エアバッグ

SRSエアバッグ P.31
SRSエアバッグ（前席） P.33
SRSサイドエアバッグ（前席） P.35
SRSカーテンエアバッグ P.36

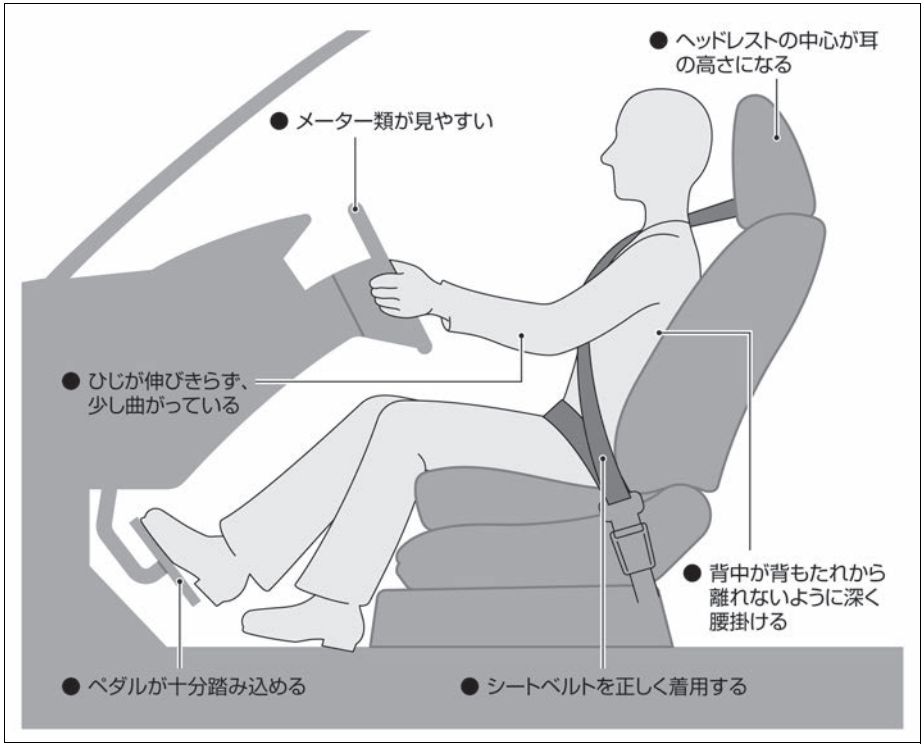
お子さまの安全のために

お子さまを乗せるときに注意すること P.37
チャイルドシート P.38

運転前の準備

正しい運転姿勢がとれるよう、ハンドル（➔P.159）、シート（➔P.149）、ミラー（➔P.161）を調節し、シートベルトを着用してください。

正しい運転姿勢について



⚠ 警告

- **ハンドル、シート、ミラーの調節は、必ず走行前に行う。**
  走行中に調節すると、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- **ハンドルやシートを調節したあとは、確実に固定されていることを確認する。**
  固定されていないと運転姿勢が突然変わり、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- **背もたれと背中の間にクッションなどを入れない。**
  運転姿勢が不安定になり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

シートベルトの着用

- 走行前に必ずシートベルトを正しく着用してください。
  ➔シートベルト (P.26)
- 小さなお子さまを乗せるときは、お子さまの年齢や体格に合ったチャイルドシートをご使用ください。
  ➔チャイルドシート (P.38)

ミラーの調節

- ハンドル、シートを調節したあと、ミラーを調節します。確実に後方確認ができる位置に、ミラーを調節してください。

➲ ドアミラー (P.165)
➲ ルームミラー★ (P.161)

インテリジェント ルームミラー付車

インテリジェント ルームミラーがOFFの状態（ルームミラーモード）で、確実に後方確認ができる位置に調節してください。

➲ インテリジェント ルームミラー★ (P.162)

運転するときに注意すること

⚠ 警告

排気ガスには十分注意する

- **排気ガスには無色無臭で有害な一酸化炭素が含まれています。一酸化炭素を吸い込むと一酸化炭素中毒になり、重大な健康障害におよぶか、死亡につながるおそれがあります。**
- **次の状況では、e-POWERシステムを長時間作動したままにしない。**

  排気ガスが車両周辺に滞留したり、車室内に侵入したりするおそれがあります。

  — 雪が積もった場所に駐停車するとき
  — 降雪時に駐停車するとき
  — 車庫や屋内、壁などに囲まれた換気が悪い場所に駐停車するとき
  — 仮眠や長時間の駐車をするとき
  — 排気管が腐食または損傷しているおそれがあるとき
  — 他車の排気口が近くにあるとき

- **走行する前に、バックドアが確実に閉まっていることを確認する。**

  走行中に排気ガスが侵入するおそれがあります。

- **車室内に排気ガスが侵入したと感じたときは、窓を開けて十分に換気をする。**
- **排気管に穴や亀裂がある場合や排気音に異常があるときは、日産販売会社で点検を受ける。**

  排気ガスが車室内に侵入するおそれがあり危険です。

車室内に人やペットを残さない

- **お子さま、介護を必要とされる方、ペットを車室内に残さない。**

  炎天下では車室内が高温になり、生命にかかわるおそれがあり危険です。

診断機接続用のコネクターにはご注意を

- **診断機接続用のコネクターには、後付け用品を取り付けないでください。12Vバッテリーがあがったり、警告灯が点灯したりするなど、思わぬトラブルを招くおそれがあります。**

燃料が入った容器やスプレー缶などを積まない

- **ガソリンや可燃性ガスの入ったスプレー缶などは積まない。**

  引火や爆発するおそれがあり危険です。

火気には十分注意する

- **操作部が露出しているガスライターをグローブボックスなどの小物入れに入れない。また、床やシートのすき間に落としたままにしない。**

  荷物を押し込んだときやシートを動かしたときに、ライターの着火ボタンが押されてガスが噴出し、火災につながるおそれがあります。また、ライターを使用したあと、すぐに収納すると火災を起こすおそれがあります。

- **灰皿を使ったあとは、マッチやタバコの火が消えていることを確認し、必ずふたを閉める。**

  紙くずなど燃えやすいものは入れないでください。出火するおそれがあります。

故障や破損したまま走行しない

- **排気音が大きくなったときは、日産販売会社で点検を受ける。**

  排気管が腐食したり路面干渉などで損傷したりしているおそれがあります。また、排気管に穴が開いたまま走行を続けると、高温の排気ガスが漏れ、排気ガスが車室内に侵入し、火災につながるおそれがあります。

- **事故などでランプが破損したまま走行しない。**

  内部に水などが入ると、発煙し火災につながるおそれがあります。

⚠ 警告

e-POWERシステムを作動したまま仮眠をしない

- 万一、シフトポジションがP以外だと、急発進し、思わぬ事故につながるおそれがあります。また、無意識に<シフトスイッチ>を操作したり、アクセルペダルを踏み込んだりして思わぬ事故やエンジン過熱による火災などにつながるおそれがあり危険です。

⚠ 注意

ウインドーにアクセサリーを取り付けない。

- 視界の妨げになったり、吸盤がレンズの働きをしたりして火災を起こすおそれがあります。また、SRSエアバッグが作動したときアクセサリーが飛んでケガをするなど、思わぬ事故につながるおそれがあります。

改造しない

- **市販の不適合品のマフラー取り付けや、日産純正部品以外の車両の性能や機能に適さない部品を使用しない。**

  正常な性能を発揮できないだけでなく、故障や火災など思わぬ事故につながるおそれがあります。

- **電装品などを取り付けるときは、必ず日産販売会社にご相談ください。不適切な取り付けや誤った配線は、故障や火災など思わぬ事故につながるおそれがあります。**
- **ハンドルの取り外しや交換を不適切に行うと、SRSエアバッグが正常に作動しなかったり、不意に作動したりして、思わぬ傷害を受けるおそれがあります。**

アドバイス

改造しない

- 12Vバッテリーの端子に電装品やアース線などを直接つながないでください。12Vバッテリーあがりのおそれがあります。
- 日産自動車が国土交通省に届け出をした部品以外を装着すると、違法改造になることがあります。

無線送信機の取り付けについて

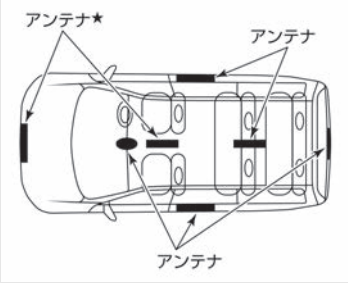
- お車に無線送信機を取り付けると、電装システムに影響をおよぼす可能性があります。悪影響を防ぐための措置や取り付け方法については、必ず日産販売会社にご相談ください。お客さまのご要望により、無線送信機の取り付けに関する詳しい情報（周波数帯域・電力レベル・アンテナ位置・取り付け条件）を日産販売会社にてご提供します。

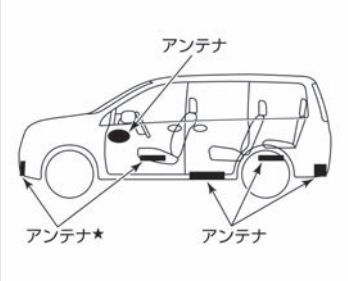
心臓ペースメーカーなどをご使用の方の注意事項

心臓ペースメーカーなどをご使用の方は、次のことにご注意ください。

⚠ 警告

インテリジェントキーについて





- **植込み型心臓ペースメーカーおよび植込み型除細動器（ICD）を使用されている方は、アンテナから約22cm以下の範囲に装着部位を近づけない。**

⚠ 警告

ドアおよびバックドア開閉時、ドアにあるスイッチ操作時、e-POWERシステム始動時などに発生するキーの電波が植込み型心臓ペースメーカーおよび植込み型除細動器（ICD）の作動に影響を与えるおそれがあります。

- **植込み型心臓ペースメーカーおよび植込み型除細動器（ICD）以外の医療電気機器を使用されている方は、医療電気機器製造業者などへ影響を確認してから使用する。**

  キーの電波が医療電気機器の動作に影響を与える場合があります。

SOSコール★について

- **SOSコールは無線通信機能を利用しているため、心臓ペースメーカーやその他医療用電気機器を使用する場合は、当該の各医療用電気機器メーカー、もしくは販売業者に電波による影響について必ず確認する。**

  SOSコールの電波が医療用電気機器の動作に影響を与える場合があります。

  ➲ 先進事故自動通報システム★ (P.366)

盗難防止機能

イモビライザー（盗難防止装置）について

車両の盗難に対する防御性能を高めるために、あらかじめ登録されているインテリジェントキー以外でのe-POWERシステムの始動を禁止するシステムです。

- キーに登録された信号は、キーごとに異なります。

3 点式シートベルト

シートベルトは、シートに身体を固定することで安全を確保するための安全装置です。

走行するときは、必ずシートベルトを正しく着用してください。

⚠ 注意

- **プリテンショナーシートベルトの部品や配線を修理しない。また、電気テスターを使ってプリテンショナーのシステムの回路診断をしない。**

  誤って作動したり、正常に作動しなくなったりするおそれがあります。

ELR（緊急固定）付シートベルトについて

- 身体の動きに合わせて伸縮し、衝突時など強い衝撃を受けると、ベルトがロックし身体を固定します。

プリテンショナーシートベルトについて

⚠ 警告

- **SRSエアバッグ警告灯が点灯しているときは走行しない。**

  <パワースイッチ>をONにしてから約7秒間はシステムチェックを行うため、プリテンショナーが作動しません。必ずSRSエアバッグ警告灯が消灯してから走行してください。

⚠ 注意

- **廃車にするときやプリテンショナーシートベルトを廃棄するときは、必ず日産販売会社に相談する。**

アドバイス

- プリテンショナーが作動したとき作動音や白煙が出ますが、火災ではありません。
- プリテンショナーは、一度作動すると再使用できません。衝突を起こしたときは必ず日産販売会社で点検を受け、作動済みの場合は交換してください。

- 衝突などで車両前方、後方、側方から強い衝撃を受けたときに、装着したシートベルトを瞬時に巻き取り、乗員の拘束性能を高めます。
- 前突または側突時は、SRSエアバッグと同時に作動します。
  後突時は、プリテンショナーのみ作動します。
  ➔ SRSエアバッグ (P.31)
- 運転席にはダブルプリテンショナー機構が付いています。車両前方から強い衝撃を受けたとき、肩からシートベルトを巻き上げると同時に腰側からも巻き上げ、乗員の拘束性能を高めます。

シートベルトの着用のしかた（フロントシート / セカンドシート / サードシート左右）

⚠ 警告

- **ベルトが肩に確実にかかる位置にアンカーの高さを調節する。また、アンカーが確実に固定されていることを確認する。**

  万一のときに肩からベルトが外れるなど、シートベルトが十分な効果を発揮せず、重大な傷害につながるおそれがあります。

- **セカンドシート中央席としてスマートマルチセンターシート★に座るときは、必ず運転席側・助手席側セカンドシートの前後位置と背もたれの角度を合わせる。**

  シートベルトが正しく着用できず、万一のときに重大な傷害につながるおそれがあります。

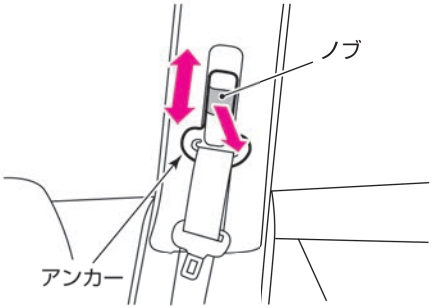
⚠ 警告

- **セカンドシート中央席のシートベルト★を使用するときは、バックルに「CENTER」と表示されているものを使用する。**

  シートベルトが正しく着用できず、万一のときに重大な傷害につながるおそれがあります。

1. 正しい姿勢でシートに座り、タングを持ってベルトをゆっくり引き出します。
   ベルトを腰骨のできるだけ低い位置に掛け、たるみがないように密着させます。

2. ベルトがねじれないようにして、タングをバックルに "カチッ" と音がするまで確実に差し込みます。



3. 肩ベルトのアンカー位置の高さを調節します。（フロントシートのみ）
   ノブを引きながらアンカー部を上下させ、ベルトが肩に確実に掛かる位置に調節し手を離します。手を離したあと、"カチッ" と音がするまで動かし固定させます。

4. 外すときは、バックルのボタンを押し、タングを持ってゆっくり戻します。

- ベルトがロックして引き出せないときは、一度ベルトを強く引いてから緩め、再度ゆっくり引き出してください。

シートベルトの着用のしかた（サードシート中央）

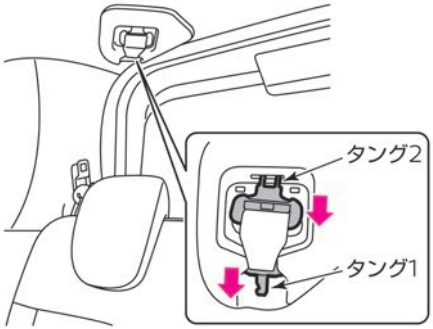
⚠ 警告

- **サードシート中央席に座るときは、左右シートの前後位置と背もたれの角度を合わせる。**

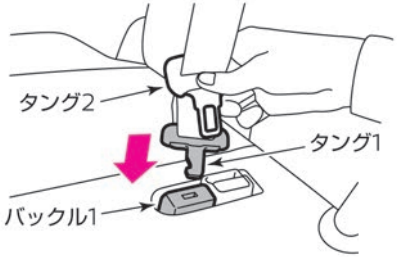
  シートベルトが正しく着用できず、万一のときに重大な傷害につながるおそれがあります。

- **サードシート中央席用のタングとバックルは正しく差し込んで使用する。**

  サードシート中央席用のタングとバックルは2個ずつあります。着用するときは必ずタング1と2、バックル1と2を正しく差し込んでお使いください。正しく固定されていないと、万一のときシートベルトが十分効果を発揮せず、重大な傷害につながるおそれがあります。



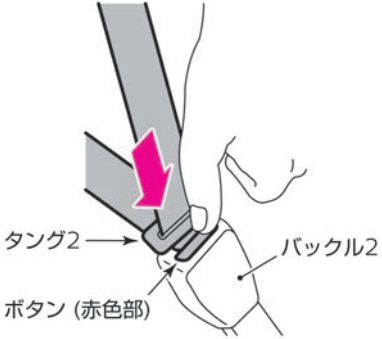
1. タング1を車両後方側の格納部から抜き出したあと、タング2を車両前方側の格納部から抜き出します。



2. タング1をバックル1に "カチッ" と音がするまで確実に差し込みます。

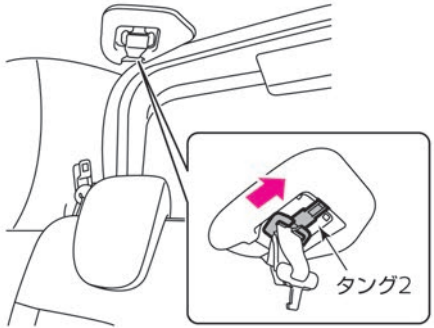
3. 正しい姿勢でシートに座り、タング2を持ってベルトをゆっくり引き出します。
ベルトを腰骨のできるだけ低い位置に掛け、たるみがないように密着させます。

4. ベルトがねじれないようにして、タング2をバックル2に "カチッ" と音がするまで確実に差し込みます。

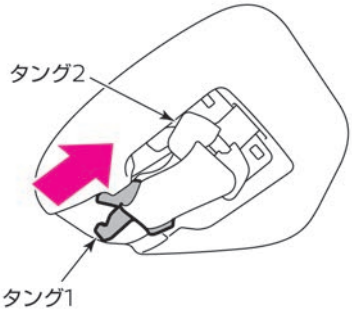


5. 外すときは、バックル2のボタン（赤色部）を押し、タング2を持ってゆっくり戻します。

6. タング1を持って、バックル1のボタンをタング2で押し込んでロックを解除します。



7. タング2を車両前方側の格納部に差し込みます。



8. タング2を手で押さえながらタング1のベルトを少し引き出し、タング1を車両後方側の格納部に差し込みます。

●ベルトがロックして引き出せないときは、一度ベルトを強く引いてから緩め、再度ゆっくり引き出してください。

●ベルトを外すとき、タングが急に戻ることがあるため、タングから手を離さないでください。

●バックル2に、「CENTER」と表示されているものをご使用ください。

シートベルトの注意事項

⚠ 警告

● **走行する前に全員がシートベルトを着用する。**

着用しないと、万一の事故時や急ブレーキ時に、生命にかかわる重大な傷害につながるおそれがあります。

● **シートベルトを着用するときは、次のことを必ず守る。**

シートベルトを正しく着用しないと、万一のとき重大な傷害につながるおそれがあります。

— 運転者は正しい運転姿勢で、同乗者は正しい着座姿勢で着用してください。

— 2人以上で1本のベルトを使用しないでください。

— ベルトはねじれた状態で着用しないでください。ねじれがあるとベルトの幅が狭くなり、万一のとき衝撃力が分散できず、局部的に強い力を受けることがあります。

— 腰部ベルトは腰骨のできるだけ低い位置にぴったりと着用してください。ベルトが腰骨からずれていると、腰部に強い圧迫を受けることがあります。

— 肩ベルトは脇の下を通さず、確実に肩に掛けてください。肩に十分に掛かっていないと、上半身が拘束できないことがあります。

— クリップなどで故意にベルトにたるみをつけ、身体から浮いた状態に調節しないでください。ベルトにたるみがあると、十分な効果が発揮できないことがあります。

● **シートの背もたれを倒したまま走行しない。**

シートベルトが効果を十分発揮せず、衝突時などに身体がシートベルトの下に入り込み、ベルトにより重大な傷害を受けるおそれがあります。

● **バックルや巻き取り装置の中に異物を入れない。**

シートベルトが正常に機能を発揮せず、万一のとき重大な傷害につながるおそれがあります。

● **妊娠中や疾患のある方も、万一のときのためにシートベルトを着用する。**

ただし、局部的に強い圧迫を受けるおそれがあるため医師に相談し、注意事項を確認してください。妊娠中の方は、腰ベルトを腹部から避け腰部のできるだけ低い位置にぴったりと着用してください。肩ベルトは確実に肩を通し、腹部を避けて胸部に掛かるように着用してください。

● **お子さまにも必ずシートベルトを着用させる。**

⚠ 警告

お子さまをひざの上に抱いていると、衝突時などにお子さまを支えることができず、お子さまが重大な傷害を受けるおそれがあります。

- **シートベルトが首や顔に当たるなど、適正な着用ができない小さなお子さまには、チャイルドシートを使用する。**

➔ チャイルドシート (P.38)

- **事故などで衝撃を受けたり傷がついたりしたシートベルトは、日産販売会社に点検を依頼する。**

一度強い衝撃を受けたシートベルトやベルト部分に傷がついたり破れたりしているシートベルトは、機能を十分に発揮しないことがあります。

⚠ 注意

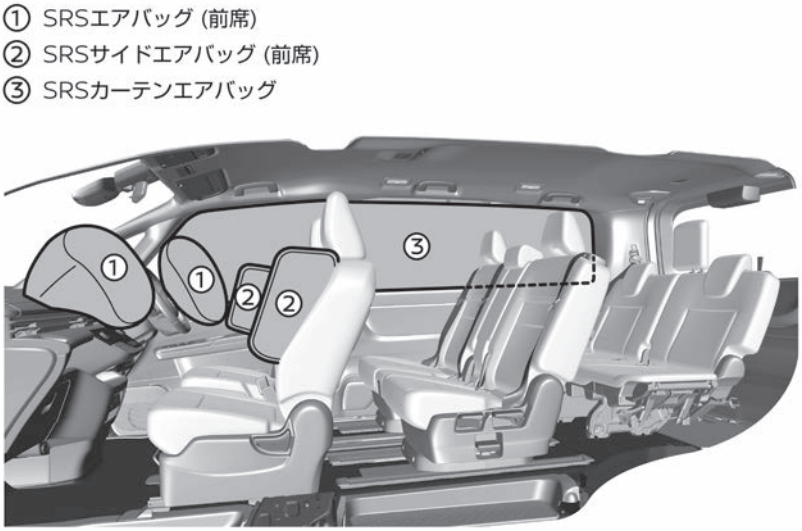
- **シートベルトの清掃にベンジンやガソリンなどの有機溶剤は絶対に使用しない。**

ベルトの性能が落ち、シートベルトが機能を十分に発揮できないことがあります。シートベルトの清掃は中性洗剤かぬるま湯で行い、乾かしてからお使いください。

SRS エアバッグ

SRSエアバッグは乗員に重大な危害がおよぶような強い衝撃を受けたときにふくらみ、乗員への衝撃を緩和します。シートベルトと併用することで安全性を高めるため、シートベルトは必ず着用してください。

SRS エアバッグの種類

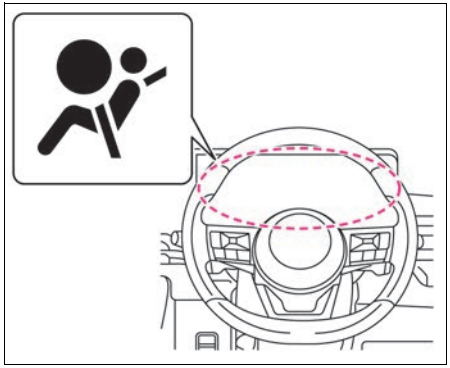


アドバイス

- 廃車にするときやSRSエアバッグを廃棄するときは必ず日産販売会社にご相談ください。
- SRSエアバッグは、一度ふくらむと再使用できません。日産販売会社で交換してください。

- SRSエアバッグは高温のガスにより高速でふくらむため、事故の状態によっては、擦過傷、打撲、やけどなどを負うことがあります。
- SRSエアバッグがふくらむとき、作動音や白煙が出ますが火災ではありません。また、発生するガスによりむせることがありますが毒性はありません。
- SRSとは、「Supplemental Restraint System」の略でシートベルトの補助拘束装置の意味です。

SRS エアバッグの作動



SRSエアバッグは、<パワースイッチ>がONのときに作動可能です。

<パワースイッチ>をONにしたあと、約7秒間はSRSエアバッグ警告灯が点灯します。このとき、システムチェックを行うため、SRSエアバッグは作動しません。警告灯が消灯してから走行してください。

SRSエアバッグは、正面衝突や側面衝突で衝撃を受けたときに作動します。ただし、衝撃が車体で吸収または分散され、車両の損傷は大きくても乗員への衝撃が強くならないときは、作動しないことがあります。

SRSエアバッグが作動するような衝撃を感知すると、非常点滅表示灯が自動的に点滅します。<非常点滅表示灯スイッチ>を押すと消灯しますが、二次災害を防ぐため、安全が確保できるまでは消灯しないことをおすすめします。また、衝撃の大きさによっては、点滅しないことがあります。

● 助手席SRSエアバッグ、助手席側のSRSサイドエアバッグおよびSRSカーテンエアバッグは、乗員がいなくても作動します。

SRS エアバッグの注意事項

⚠ 警告

● **SRSエアバッグ警告灯が次の状態のときは走行しない。**

— <パワースイッチ>をONにした直後、SRSエアバッグ警告灯が約7秒間点灯しないとき（消灯したままのとき）

— SRSエアバッグ警告灯が点灯し続けるとき

SRSエアバッグが正常に作動せず、重大な事故につながるおそれがあります。日産販売会社にご相談ください。

● **正しい姿勢でシートベルトを正しく着用する。**

SRSエアバッグはシートベルトを補助する装置です。SRSエアバッグだけでは、身体の飛び出しなどを防止することはできません。また、SRSエアバッグの効果が発揮されないおそれがあります。

● **助手席には、チャイルドシートを後ろ向きに取り付けない。**

SRSエアバッグが作動したときに強い衝撃を受け、死亡または重大な傷害につながるおそれがあります。やむをえず助手席に取り付けるときは、シートをできるだけ後ろに下げ、必ず前向きに取り付けてください。

➔ チャイルドシート (P.38)

● **必ず次のことを守る。**

SRSエアバッグが誤って作動したり正常に作動しなくなったりし、重大な傷害につながるおそれがあります。

⚠ 警告

— SRSエアバッグ格納部を修理するときは、日産販売会社にご相談ください。また、SRSエアバッグ格納部に傷がついているとき、およびひび割れがあるときは、そのまま使用せず日産販売会社で交換してください。
SRSエアバッグ（前席）の格納場所は（➔P.33）をお読みください。
SRSサイドエアバッグ（前席）の格納場所は（➔P.35）をお読みください。
SRSカーテンエアバッグの格納場所は（➔P.36）をお読みください。

— SRSエアバッグ格納部に過度の衝撃を与えないでください。

— 電気テスターを使用したSRSエアバッグの回路診断、または回路を変更しないでください。

— エアロパーツなどの取り付けや、サスペンションを改造するときは、日産販売会社にご相談ください。不適正な改造をすると衝撃を正しく検知できません。

● **SRSエアバッグが作動したときは、30分経過するまでエアバッグに触らない。**

高温になるため、やけどをするおそれがあります。

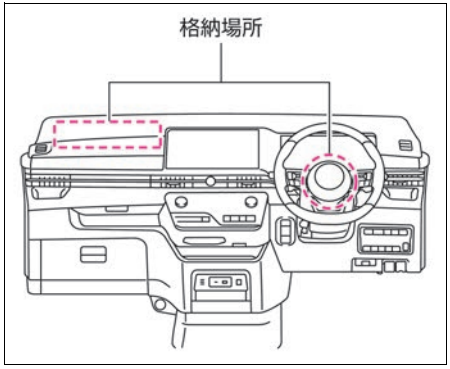
● **SRSエアバッグ作動時の残留物（カス）などが目や皮膚に付着したときは、できるだけ早く水で洗い流す。**

皮膚の弱い方などは、まれに皮膚に刺激を感じることがあります。

SRS エアバッグ（前席）

車両前方から強い衝撃を受けたときSRSエアバッグが瞬時にふくらみ、乗員の頭部にかかる衝撃を緩和します。

格納場所



運転席SRSエアバッグは、ハンドル部に格納されています。

助手席SRSエアバッグは、助手席側インストルメントパネル部に格納されています。

SRS エアバッグが作動するとき

● 次のような衝撃が強いときに作動します。
— 25km/h以上の速度で厚いコンクリートのような壁に正面衝突したとき
— 車両前方左右、約30°以内の方向から強い衝撃（上記と同等）を受けたとき

● 次のような車両下部に強い衝撃を受けたときも作動することがあります。（車両の損傷は少なくても乗員への衝撃は強いとき）
— 高速で縁石などに衝突したとき
— 深い穴や溝に落ち込んだとき
— ジャンプして地面にぶつかったとき

● 助手席SRSエアバッグが作動した衝撃でフロントガラスが割れることがあります。

● 運転席、助手席SRSエアバッグはふくらんだあとすぐにしぼむので、視界の妨げになることはありません。

SRS エアバッグが作動しにくいとき

次のような衝撃が弱いときは作動しないことがあります。

● 停車している同クラスの車に約50km/h以下の速度で衝突したとき

● 衝突時に折れない電柱などに約30km/h以下の速度で正面衝突したとき

● トラックなどの荷台の下にもぐり込んだようなとき

● 斜め前方からガードレールなどに衝突したとき

SRS エアバッグが作動しないとき

一度、SRSエアバッグが作動したあとに衝突しても作動しません。また、次のようなときは作動しません。

- 横方向や後ろから衝突されたとき
- 横転、転覆したとき

SRS エアバッグ（前席）の注意事項

⚠ 警告

- **SRSエアバッグ格納部に身体を近づけない。また、内がけでのハンドル操作はしない。**

  ハンドルから顔をできるだけ（約30cm以上）離し、ハンドルにもたれかかるなど、手や顔、胸などを不必要に近づけないでください。SRSエアバッグ作動時に強い衝撃を受け、重大な傷害につながるおそれがあります。

- **不適正なハンドルに交換したり、SRSエアバッグ格納部にステッカーなどを貼ったりしない。**

  SRSエアバッグ作動時に正常に作動しなくなり、重大な傷害につながるおそれがあります。

- **フロントガラスにアクセサリーなどを付けない。**

  SRSエアバッグ作動時に重大な傷害につながるおそれがあります。

- **SRSエアバッグ格納部に身体を近づけない。また、お子さまを近づかせない。**

  SRSエアバッグ作動時に強い衝撃を受け、重大な傷害につながるおそれがあります。

  SRSエアバッグ格納部に手や足を置いたり、顔や胸などを不必要に近づけたりしないでください。また、お子さまをSRSエアバッグ格納部の前に立たせたり、ひざの上に抱いたりせず、後席シートに乗せてください。

- **チャイルドシートは後席シートに取り付ける。**

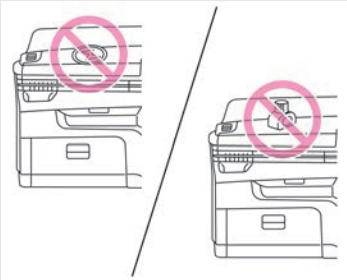
  SRSエアバッグ作動時に重大な傷害につながるおそれがあります。

  やむをえず助手席シートに取り付けるときは、シートをできるだけ後ろに下げ、必ず前向きに取り付けてください。乳児用チャイルドシートなど後ろ向きにしか使用できないシートは必ず後席シートに取り付けてください。

- **チャイルドシートは走行する前に確実に固定されていることを確認する。**

  固定方法および取り扱いかたは、チャイルドシートに付属の取扱説明書に従ってください。

⚠ 警告



- **SRSエアバッグ格納部およびその周辺にステッカーなどを貼ったり、アクセサリーや芳香剤などを置いたりしない。**

  SRSエアバッグ作動時に重大な傷害につながるおそれがあります。

SRS サイドエアバッグ（前席）

車両側面から強い衝撃を受けたとき、衝撃を受けた側のSRSサイドエアバッグが瞬時にふくらみ、乗員の主に胸部にかかる衝撃を緩和します。

格納場所

SRSサイドエアバッグは、運転席、助手席ともにシート背もたれ側面（外側）に格納されています。

SRS サイドエアバッグが作動するとき

次のような衝撃が強いときに作動します。

- 一般的な乗用車に25km/h以上の速度で側面に真横から衝突されたとき

SRS サイドエアバッグが作動しにくいとき

次のような衝撃が弱いときは作動しないことがあります。

- 側面に斜め方向から衝突されたとき
- 側面にバイクが真横から衝突したとき
- エンジンルームまたはラゲッジルームに衝突されたとき
- 横転、転覆したとき
- 斜め前方から衝突したとき
- 電柱などに衝突したとき

SRS サイドエアバッグが作動しないとき

一度、SRSエアバッグが作動したあとに衝突しても作動しません。また、次のようなときは作動しません。

- 停車中や走行中の車に正面衝突したとき
- 後ろから衝突されたとき

SRS サイドエアバッグの注意事項

⚠ 警告

- **SRSサイドエアバッグの格納部に近づかない。**

  ドアにもたれるなど、フロントシートの背もたれ側面（外側）に近づかないでください。特にお子さまが窓から腕を出したり、フロントシートの背もたれを抱えたりしないように注意してください。万一のとき重大な傷害を受けるおそれがあります。

- **フロントシートのSRSサイドエアバッグ格納部付近に傘やカバンなどを置かない。**
- **シートカバーは、フロントシート背もたれ側面を覆わないものを使用する。**

  SRSサイドエアバッグが正しく作動しないおそれがあります。

⚠ 注意

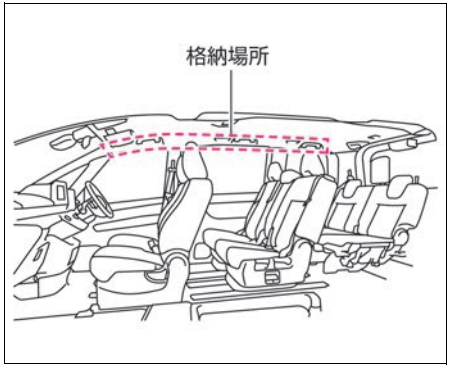
- **ドアをガラスが割れるほど強く閉めない。**

  SRSサイドエアバッグが誤作動するおそれがあります。

SRS カーテンエアバッグ

車両側面から強い衝撃を受けたとき、衝撃を受けた側のSRSカーテンエアバッグが瞬時にふくらみ、乗員の主に頭部にかかる衝撃を緩和します。

格納場所



SRSカーテンエアバッグは、運転席側、助手席側ともに窓側の天井部に格納されています。

SRS カーテンエアバッグが作動するとき

次のような衝撃が強いときに作動します。

- 一般的な乗用車に25km/h以上の速度で側面に真横から衝突されたとき

SRS カーテンエアバッグが作動しにくいとき

次のような衝撃が弱いときは作動しないことがあります。

- 側面に斜め方向から衝突されたとき
- 側面にバイクが真横から衝突したとき
- エンジンルームまたはラゲッジルームに衝突されたとき
- 横転、転覆したとき
- 斜め前方から衝突したとき
- 電柱などに衝突したとき

SRS カーテンエアバッグが作動しないとき

一度、SRSエアバッグが作動したあとに衝突しても作動しません。また、次のようなときは作動しません。

- 停車中や走行中の車に正面衝突したとき
- 後ろから衝突されたとき

SRS カーテンエアバッグの注意事項

⚠ 警告

- **SRSカーテンエアバッグの格納部に近づかない。**

  万一のとき重大な傷害を受けるおそれがあります。

- **センターピラー（ロックピラー）まわり、ルーフサイド部などのSRSカーテンエアバッグ格納部付近に、アクセサリーやハンガーなどを取り付けない。**

  SRSカーテンエアバッグが作動したときに重大な傷害を受けるおそれがあります。

⚠ 注意

- **ドアをガラスが割れるほど強く閉めない。**

  SRSカーテンエアバッグが誤作動するおそれがあります。

お子さまを乗せるときに注意すること

お子さまを乗せるときは、次のことに注意してください。

⚠ 警告

お子さまにもシートベルトを着用する

- **お子さまにも必ずシートベルトを着用させる。**

  お子さまをひざの上に抱いていると、衝突時などにお子さまを支えることができず、お子さまが重大な傷害を受けるおそれがあります。

  ➔ 3点式シートベルト (P.26)

小さなお子さまにはチャイルドシートを使用する

- **シートベルトが首や顔に当たるなど、適正な着用ができない小さなお子さまには、チャイルドシートを使用する。**

  ➔ チャイルドシート (P.38)

チャイルドシートは後席シートに取り付ける

- **チャイルドシートは後席シートに取り付け、走行する前に確実に固定されていることを確認する。**

  固定方法および取り扱いかたは、チャイルドシートに付属の取扱説明書に従ってください。

- **助手席には、チャイルドシートを後ろ向きに取り付けない。**

  SRSエアバッグが作動したときに強い衝撃を受け、死亡または重大な傷害につながるおそれがあります。やむをえず助手席に取り付けるときは、シートをできるだけ後ろに下げ、必ず前向きに取り付けてください。

- **チャイルドシートは使用していないときでもシートにしっかりと固定するか、ラゲッジルーム（荷室）などに収納する。**

  車室内に放置したままにすると、急ブレーキ時などに思わぬ事故につながるおそれがあります。

お子さまは後席シートに乗せる

- **お子さまを助手席に乗せるのは避ける。**

  お子さまの動作が気になったり、スイッチ、レバー類のいたずらなど安全運転の妨げになったりするおそれがあります。

  また、助手席SRSエアバッグの格納部に近づいていると、万一の事故などでSRSエアバッグが作動したときに強い衝撃を受け、重大な傷害につながるおそれがあります。

ドア、ウインドーなどは大人が操作する

- **ドアやウインドーなどの開閉は、お子さまには操作させない。**

  開閉時に手、首、足などを挟んだりして、重大な傷害につながるおそれがあります。

- **チャイルドセーフティドアロック（➔P.135）や＜パワーウインドーロックスイッチ＞（➔P.168）を使用し、お子さまが操作できないようにしてください。**

窓から手や顔を出さない

- **お子さまが腕や顔を出さないように注意する。**

  急ブレーキ時に窓枠などにぶつかったり、車外の障害物に当たったりして、重大な傷害につながるおそれがあります。

車室内にお子さまだけを残さない

- **車から離れるときは、必ずお子さまを一緒に降ろす。**

  炎天下では車室内が高温になり、生命にかかわるおそれがあり危険です。

⚠ 警告

- **お子さまのいたずらで車の発進、火災など、思わぬ事故につながるおそれがあります。**

チャイルドシート

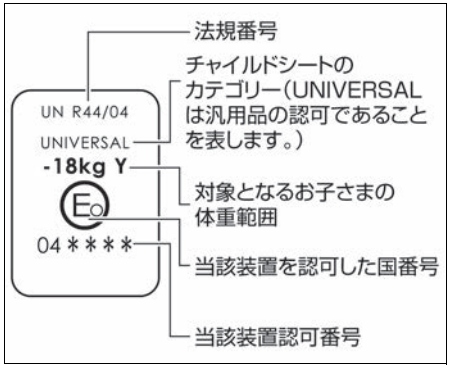
お子さまの年齢や体格に合わせてチャイルドシートを選択し、車両に適切に取り付けてください。

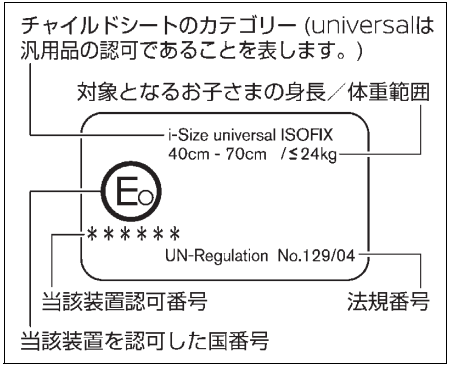
⚠ 警告

- **助手席には、チャイルドシートを後ろ向きに取り付けない。**

SRSエアバッグが作動したときに強い衝撃を受け、死亡または重大な傷害につながるおそれがあります。やむをえず助手席に取り付けるときは、シートをできるだけ後ろに下げ、必ず前向きに取り付けてください。

チャイルドシートについて





- 乳児用チャイルドシート、チャイルドシート、ジュニアチャイルドシートを総称してチャイルドシートと呼んでいます。
- UN R44またはR129はチャイルドシートに関する国際法です。UN R44またはR129の基準に適合した汎用（ユニバーサル）チャイルドシートには、認可マークが貼られています。
- チャイルドシートには、乳児用チャイルドシート、チャイルドシート、ジュニアチャイルドシートの3種類があります。お子さまの年齢や体格に合わせて、適切なチャイルドシートをお選びください。
- チャイルドシートの固定方法および取り扱いかたは、チャイルドシートに付属の取扱説明書に従ってください。
- この車はUN R44またはR129の基準に適合したISO FIX対応取付装置を標準装備しています。

チャイルドシートの選びかた

この車両には、シートベルトで取り付けるチャイルドシートと、ISO FIX対応チャイルドシートを取り付けることができます。ISO FIX対応チャイルドシートは、シートベルトを使わずに固定するため、簡単に取り付けることができます。

■ シートベルト固定タイプのチャイルドシート

シートベルトを使ってチャイルドシートを固定します。

➔ シートベルト固定タイプのチャイルドシートの取り付けかた (P.43)

■ ISO FIX対応チャイルドシート

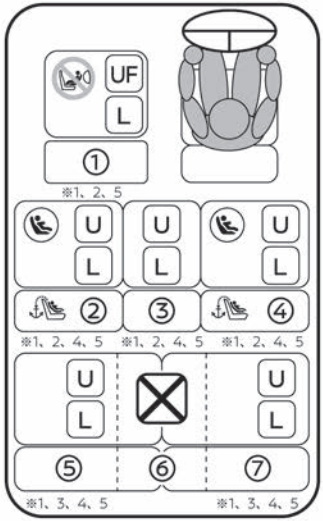
セカンドシートに付属しているISO FIX対応チャイルドシート用アンカー（固定装置）で固定します。

➔ ISO FIX対応チャイルドシートの取り付けかた (P.43)

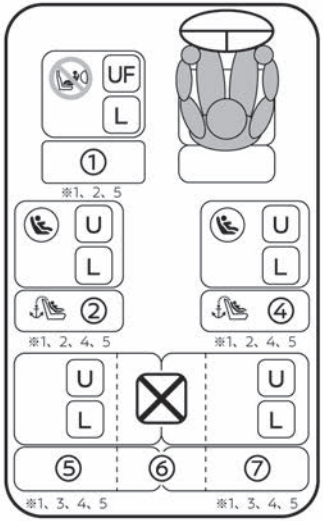
使用できるチャイルドシートについて

チャイルドシートの取り付け位置により、使用できるチャイルドシートが異なります。

スマートマルチセンターシート付車



スマートマルチセンターシート無車



凡例

マーク	説明
U	車両シートベルト固定式汎用型チャイルドシートに適している
UF	車両シートベルト固定式の前向きに取り付ける汎用型チャイルドシートに適している
	ISO FIXチャイルドシートに適している
	後向きチャイルドシート取り付け禁止
	ISOFIXチャイルドシート上部取付金具を装備している座席
L	添付リストに記載されたチャイルドシートに適している
	チャイルドシートの取り付けに適していない

※1：チャイルドシートを装着する際は、スライド位置を最も後方に調整してください。

※2：ベルトで固定するチャイルドシートの場合、背もたれは初段ロック位置に調節してください。

ISO FIXで固定するチャイルドシートの場合、背もたれは初段ロックから12ノッチ後方に調節してください。

※3：背もたれは初段ロックから5ノッチ後方に調節してください。

※4：後席シートにチャイルドシートを取り付けるときは、お子さまやチャイルドシートが前の座席と干渉しないように前の座席を調節してください。

※5：チャイルドシートがヘッドレストに干渉して取り付けられない場合は、一番上に上げてください。上げてもこの干渉が避けられない場合は取り外してください。

幼児拘束装置メーカーに関する詳細情報

座席位置	助手席	後席					
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
汎用ベルト式に適する着席位置（○/X）	○ （前向きのみ）	○	○	○	○	X	○
ISO FIX着席位置（○/X）	X	○	X	○	X	X	X
横向き固定具に適する着席位置（L1/L2）	-	-	-	-	-	-	-
適する最大の後向き固定具 （R1/R2X/R2/R3）	-	R3	-	R3	-	-	-
適する最大の前向き固定具（F2X/F2/F3）	-	F3	-	F3	-	-	-
適する最大のブースター固定具（B2/B3）	-	-	-	-	-	-	-

● ISO FIX対応のチャイルドシートをすでにお持ちの場合、ご使用前にUN R44またはR129の基準に適合していることを確認してください。詳しくは、チャイルドシートに付属の取扱説明書を参照してください。

■ 推奨チャイルドシート

日産自動車が推奨するチャイルドシートです。詳しくは日産販売会社にご相談ください。

年齢（目安）	体重（目安）	身長（目安）	推奨チャイルドシート	座席位置						
				①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
0-18か月	<13kg	<100cm	日産i-Sizeチャイルドシート（後向き）	×	×	×	×	×	×	×
9か月-4歳	9-18kg	76-100cm	日産i-Sizeチャイルドシート（前向き、後向き）	×	×	×	×	×	×	×
4歳-6歳	15-25kg	100-125cm	日産ジュニアシートevo（前向き）	○（ベルト取付のみ）	○	○（ベルト取付のみ）	○	○（ベルト取付のみ）	×	○（ベルト取付のみ）
6-12歳	22-36kg	125-150cm	日産ジュニアシートevo（前向き）	○（ベルト取付のみ）	○	○（ベルト取付のみ）	○	○（ベルト取付のみ）	×	○（ベルト取付のみ）

チャイルドシートがヘッドレストに干渉し安定して取り付けられない場合は、一番上に調整してください。上げても安定しない場合には取り外してください。

シートベルト固定タイプのチャイルドシートの取り付けかた

⚠ 警告

- **チャイルドシートが確実に固定されていることを確認する。**

  確実に固定されていないと、急ブレーキや衝突などでチャイルドシートが飛び出し、重大な傷害を受けるおそれがあります。必ずチャイルドシートに付属の取扱説明書に従って取り付けてください。

1. ヘッドレストを外し（ヘッドレストとチャイルドシートが干渉してチャイルドシートを正しく取り付けられない場合）、チャイルドシートを座席に置きます。
   シートベルトをチャイルドシートに通し、タングをバックルに“カチッ”と音がするまで確実に差し込みます。
   ➲ ヘッドレストの調節のしかた (P.150)

2. チャイルドシートに付属の取扱説明書に従って固定します。
   チャイルドシートを前後左右にゆすり、しっかり固定されていることを確認します。

ISO FIX 対応チャイルドシートの取り付けかた

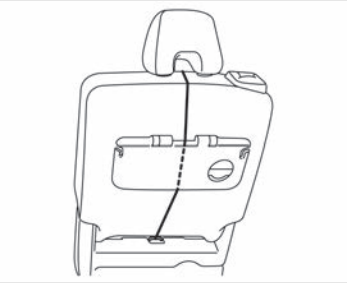
⚠ 警告

- **ISO FIX対応チャイルドシートを取り付けるときは、セカンドシートのヘッドレストを取り外す。（ヘッドレストとチャイルドシートが干渉してチャイルドシートを正しく取り付けられない場合）**
- **チャイルドシートが確実に固定されていることを確認する。**

  確実に固定されていないと、急ブレーキや衝突などでチャイルドシートが飛び出し、重大な傷害を受けるおそれがあります。必ずチャイルドシートに付属の取扱説明書に従って取り付けてください。
- **チャイルドシートを取り付けるときは、アンカー部周辺に異物がないことやシートベルトなどがかみ込んでいないことを確認する。**

  チャイルドシートが確実に固定されず、急ブレーキや衝突などでチャイルドシートが飛び出し、重大な傷害を受けるおそれがあります。

⚠ 警告

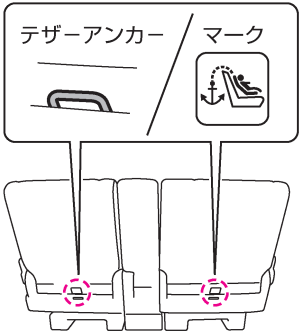


- **パーソナルテーブル付車にテザーベルトを取り付けるときは、パーソナルテーブルを引き上げて、テーブル中央部のすき間に通す。**

  ➔ パーソナルテーブル（サードシート用）の使いかた（P.387）

- **走行するときはパーソナルテーブル★を格納する。**

1. ISO FIXロアアンカーは、セカンドシート左右背もたれのマーク下側にあります。
   ヘッドレストを外して（ヘッドレストとチャイルドシートが干渉してチャイルドシートを正しく取り付けられない場合）、チャイルドシートを座席に置き、チャイルドシートに付属の取扱説明書に従ってロアアンカーに固定します。
   ➔ ヘッドレストの調節のしかた（P.150）



2. テザーアンカーは、セカンドシート左右背もたれ裏側にあります。
   テザーアンカーにフックを固定し、テザーベルトを締めます。
   チャイルドシートを前後左右にゆすり、しっかり固定されていることを確認します。

- シートカバーを装着するときは、スリットがあるものを使用してください。

メーターの見かた

計器類

各部名称（メータータイプ(A)クラシック表示） P.46
各部名称（メータータイプ(A)エンハンス表示） P.47
各部名称（メータータイプ(B)） P.48
メーター P.49

警告灯・表示灯

警告灯の表示位置（メータータイプ(A)クラシック表示） P.55
警告灯の表示位置（メータータイプ(A)エンハンス表示） P.56
警告灯の表示位置（メータータイプ(B)） P.57
表示灯の表示位置（メータータイプ(A)クラシック表示） P.58
表示灯の表示位置（メータータイプ(A)エンハンス表示） P.59
表示灯の表示位置（メータータイプ(B)） P.60
表示灯がついたときは P.61

アドバンスドドライブアシストディスプレイ（メータータイプ(A)）

アドバンスドドライブアシストディスプレイとは（メインメニュー） P.64
車両情報画面 P.65
アドバンスドドライブアシストディスプレイとは（ショートカットメニュー） P.76
各種設定画面 P.79
その他の表示機能 P.92

アドバンスドドライブアシストディスプレイ（メータータイプ(B)）

アドバンスドドライブアシストディスプレイとは（メインメニュー） P.95
車両情報画面 P.96
アドバンスドドライブアシストディスプレイとは（ショートカットメニュー） P.105
各種設定画面 P.106
その他の表示機能 P.116

ヘッドアップディスプレイ★

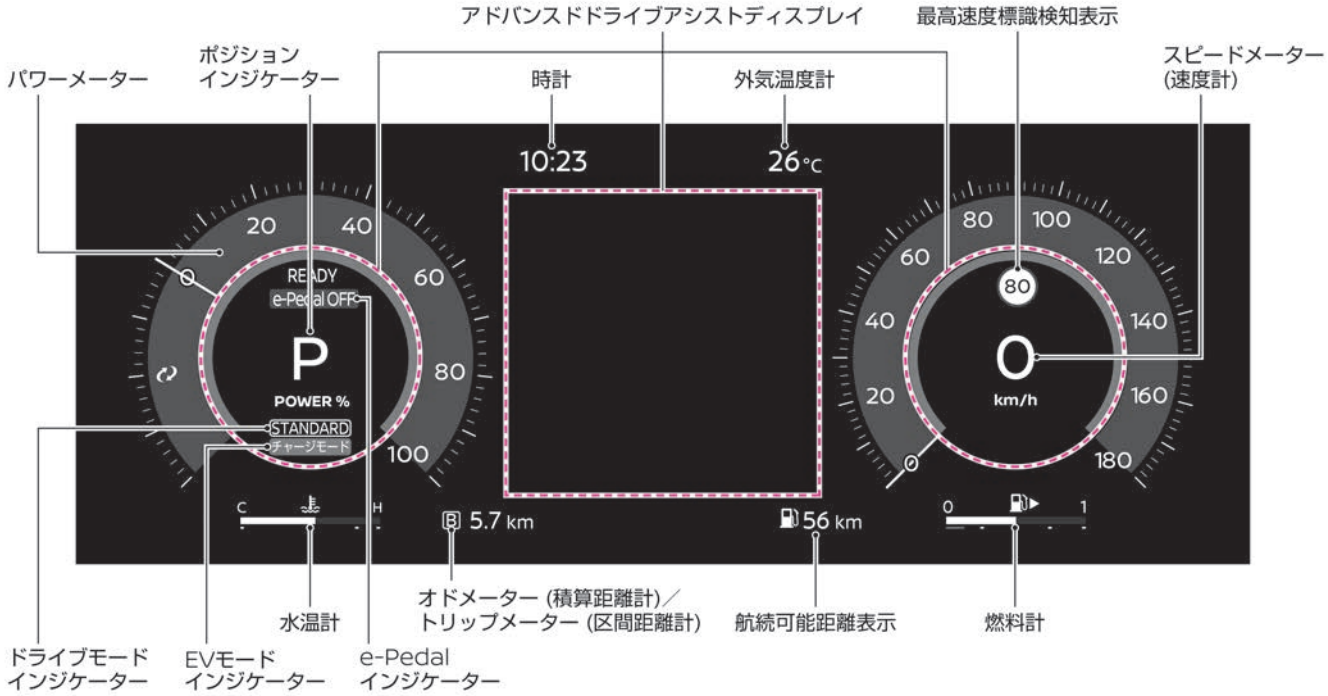
ヘッドアップディスプレイとは P.118
走行支援機能画面 P.118
各種設定画面 P.120

メーターの明るさの調節

イルミネーションコントロール P.124

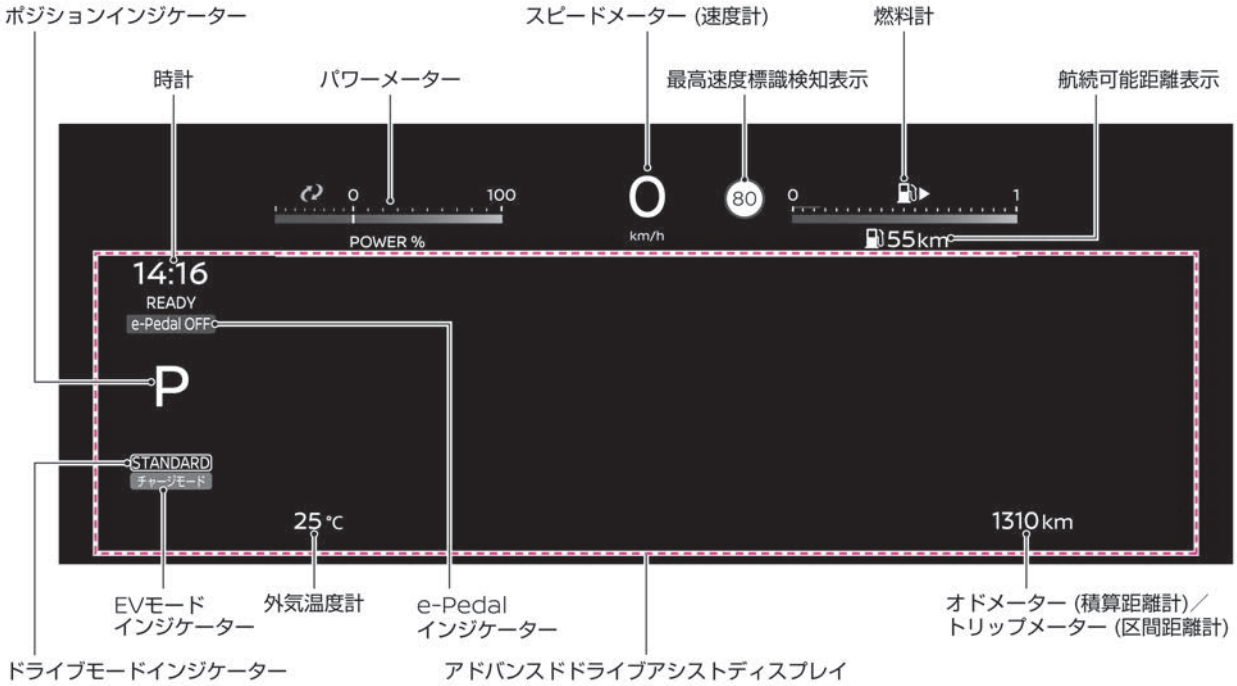
各部名称（メータータイプ (A) クラシック表示）

＜パワースイッチ＞をONにすると、計器類が表示されます。＜パワースイッチ＞がONのとき、ステアリングスイッチの＜ ☰ ＞スイッチで［メーター画面モード変更］を選択し、＜OK＞スイッチを押すと表示画面が切り替わります。なおメーター表示は、クラシック表示とエンハンス表示の2種類あります。



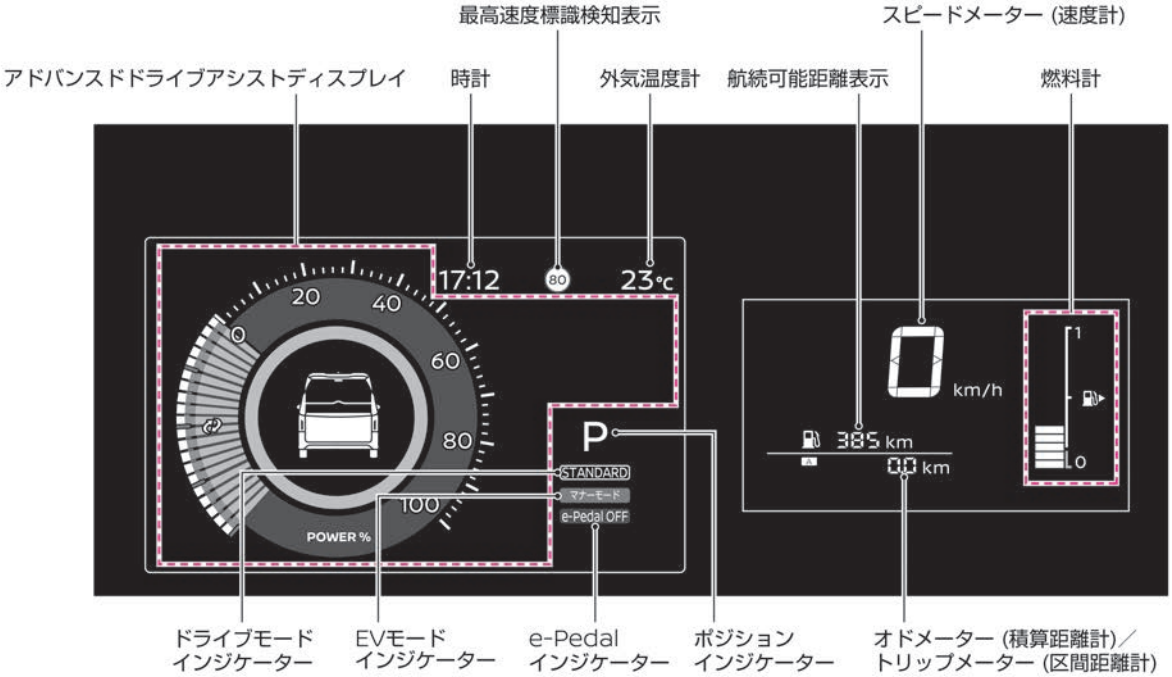
各部名称（メータータイプ (A) エンハンス表示）

<パワースイッチ>をONにすると、計器類が表示されます。<パワースイッチ>がONのとき、ステアリングスイッチの< ☰ > スイッチで［メーター画面モード変更］を選択し、<OK>スイッチを押すと表示画面が切り替わります。なおメーター表示は、クラシック表示とエンハンス表示の2種類あります。



各部名称（メータータイプ (B)）

＜パワースイッチ＞をONにすると、計器類が表示されます。



メーター

メーターには、パワーメーター、航続可能距離表示などがあります。<パワースイッチ>をONにすると表示します。

スピードメーター（速度計）

● 走行速度を表示します。

水温計★

エンジン冷却水の温度を表示します。

⚠ 警告

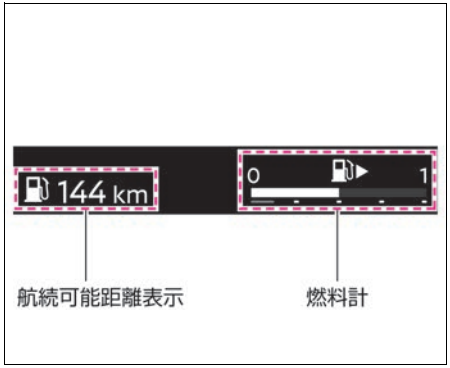
● **オーバーヒートを示したときは、ただちに安全な場所に車を停めて処置をする。**

そのまま走行を続けると、エンジン故障の原因となり、火災につながるおそれがあります。

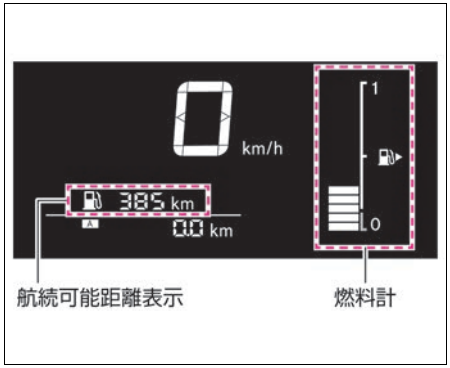
詳しくは、オーバーヒートしたときは（➔P.452）をお読みください。

燃料計／航続可能距離表示

メータータイプ (A)（クラシック表示の場合）



メータータイプ (B)



燃料計

● 燃料の残量を表示します。

● 燃料タンクの容量は約52ℓです。

航続可能距離表示

● 現在の燃料残量と平均燃費から、走行可能な距離を表示します。

● 燃料残量警告灯（➔P.414）が点灯したあとも燃料を補給しないと［---］と表示します。

知識

● ⛽▸の矢印は燃料補給口が車両右側にあることを示しています。

● 坂道やカーブなどでは、タンク内の燃料が移動するため、正しく表示されない場合があります。燃料が少なくなってきたら、早めの給油を心がけてください。

● 10ℓ以下の給油では、航続可能距離が更新されないことがあります。

時計

● 時刻を表示します。

● メーカーオプションナビゲーションシステム装着車は、ナビゲーションシステムの時計と連動しており、時刻は自動的に調整されます。
アドバンスドドライブアシストディスプレイで設定［⚙］⇒［時計］⇒［時計設定モード］を選択すると、時刻の設定を手動に切り替えることができます。

設定の詳細については時計（➔P.85または➔P.110）をお読みください。

● メーカーオプションナビゲーションシステム非装着車の時計は、12Vバッテリー

を外すと記憶が消去されます。 12Vバッテリーを接続後、 正しい時刻に調整してください。

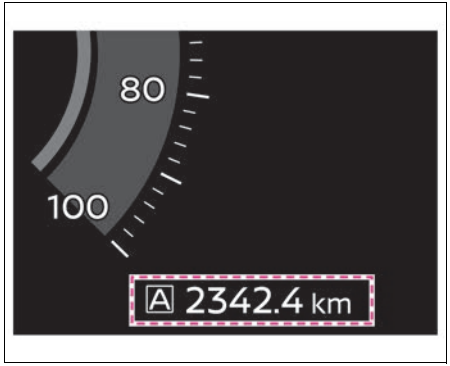
- メーカーオプションナビゲーションシステム装着車の時計は、12Vバッテリーを接続後しばらく走行すると、自動的に調整されます。
- 時刻の表示は、12時間表示または24時間表示を選択できます。

外気温度計

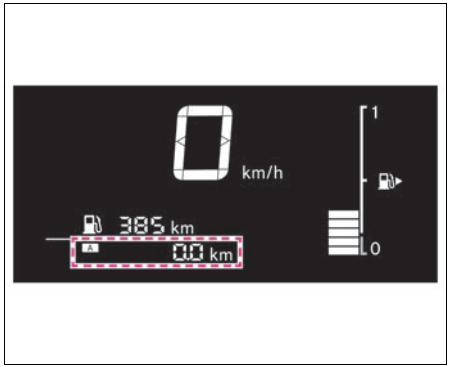
- 外気温を表示します。
- 外気温センサー取り付け部の温度を表示するため、実際の外気温とは異なることがあります。

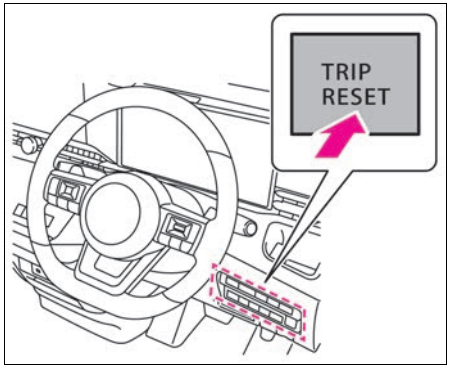
オドメーター（積算距離計）／トリップメーター（区間距離計）

メータータイプ(A)（クラシック表示の場合）



メータータイプ(B)





- ＜TRIP RESET＞スイッチを押すごとに、オドメーター⇒トリップメーター［A］⇒トリップメーター［B］⇒オドメーターの順に切り替わります。

オドメーター（積算距離計）

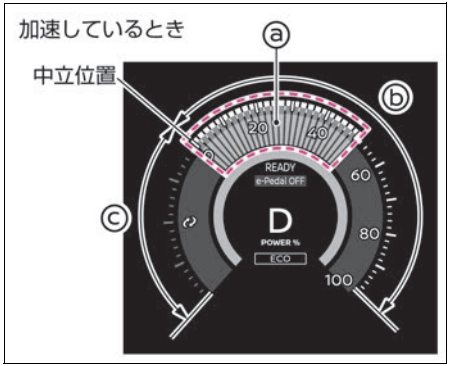
- 総走行距離をkmで表示します。

トリップメーター（区間距離計）

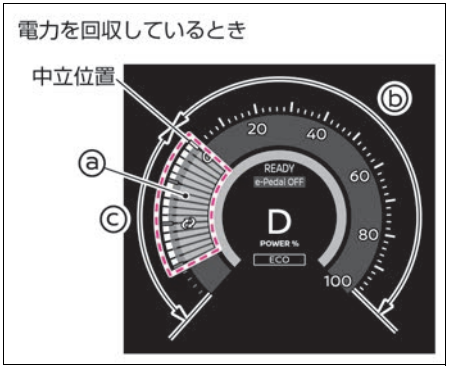
- リセットしてからの走行距離をkmで表示します。［A］と［B］でそれぞれ使い分けることができます。
- ［A］または［B］のどちらかリセットしたい方を表示し、＜TRIP RESET＞スイッチを1秒以上押すとリセットされます。
- 12Vバッテリーを外したときは、トリップメーターの［A］と［B］の記憶が消去され0に戻ります。

パワーメーター（メータータイプ (A) クラシック表示）

走行中の出力（加速力）と回生量（電力の回収量）を表示します。



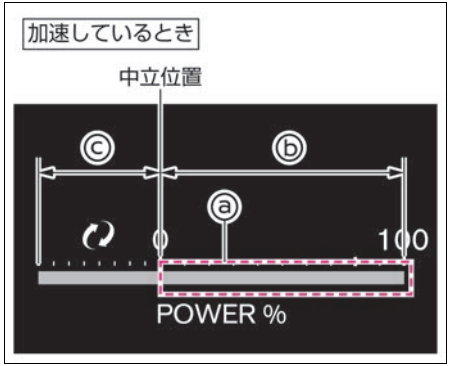
●一定の速度で走行しているときや加速しているときは、ゲージⓐが中立位置より右側ⓑに表示されます。
●急加速など、より多くの電力を消費しているときほど、ゲージⓐが右側ⓑに増えていきます。



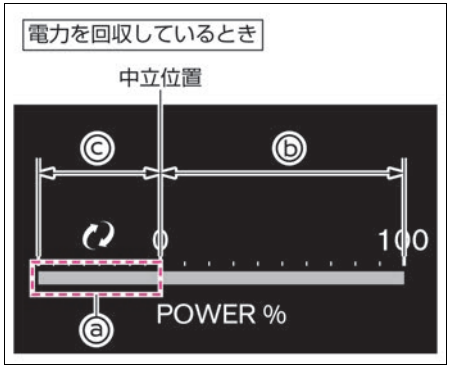
●電力を回収しているときは、ゲージⓐが中立位置から左側ⓒに増えます。ゲージが左側ⓒに増えると、多くの電力を回収していることを表します。

パワーメーター（メータータイプ (A) エンハンス表示）

走行中の出力（加速力）と回生量（電力の回収量）を表示します。



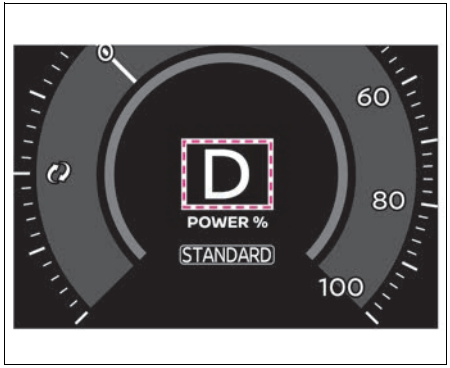
●一定の速度で走行しているときや加速しているときは、ゲージⓐが中立位置より右側ⓑに表示されます。
●急加速など、より多くの電力を消費しているときほど、ゲージⓐが右側ⓑに増えていきます。



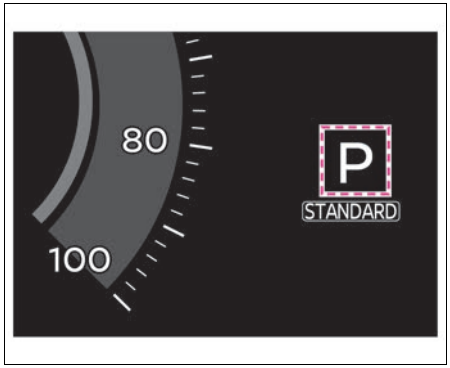
●電力を回収しているときは、ゲージⓐが中立位置から左側ⓒに増えます。ゲージが左側に増えると、多くの電力を回収していることを表します。

ポジションインジケーター

メータータイプ (A)（クラシック表示の場合）



メータータイプ(B)



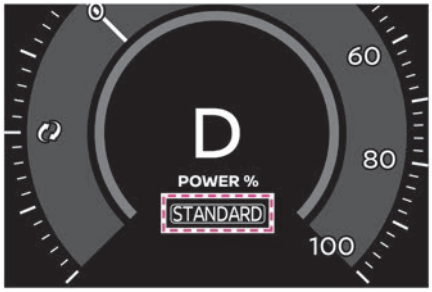
● <シフトスイッチ>のシフトポジションを表示します。
➔ シフトスイッチの操作 (P.191)

アドバイス

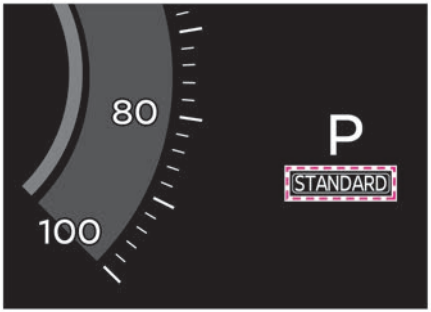
● 12Vバッテリー電圧低下、および12Vバッテリーあがりにより電装品への電源供給が停止されると、ポジションインジケーターが消灯する場合があります。その場合は<シフトスイッチ>の<P>スイッチを押してシフトポジションをPにしてください。

ドライブモードインジケーター

メータータイプ (A)（クラシック表示の場合）



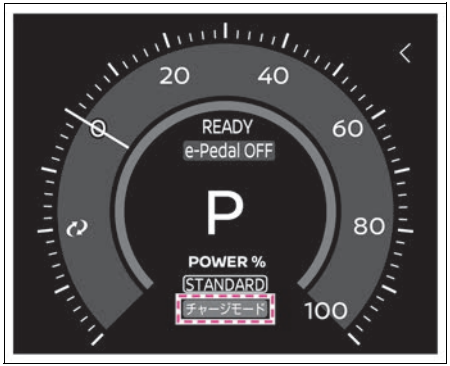
メータータイプ(B)



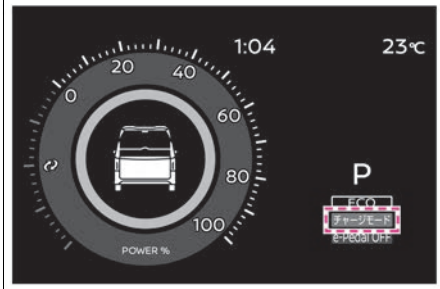
● 現在選択されているドライブモードが表示されます。ドライブモードは次のモードがあります。
— STANDARD
— SPORT
— ECO
— SNOW★
➔ ドライブモードセレクター (P.213)

EV モードインジケーター

メータータイプ(A)（クラシック表示の場合）



メータータイプ(B)

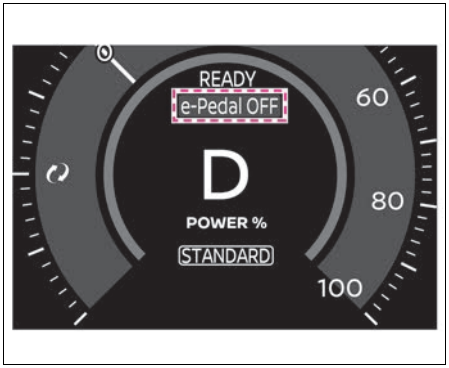


● EVモードを変更すると表示されます。

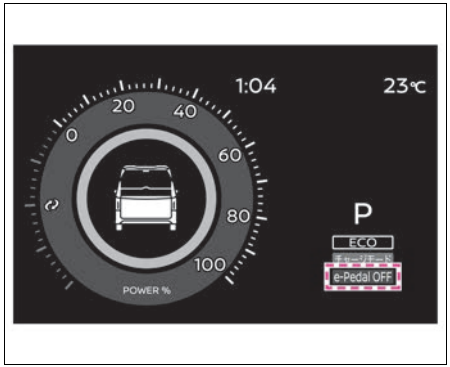
● EVモードは次のモードがあります。
➔ チャージモード (P.215)
➔ マナーモード (P.216)

e-Pedal インジケーター

メータータイプ(A)（クラシック表示の場合）



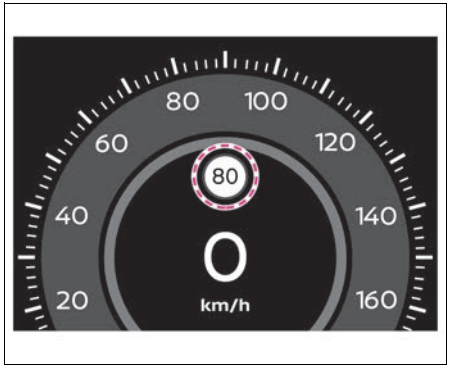
メータータイプ(B)



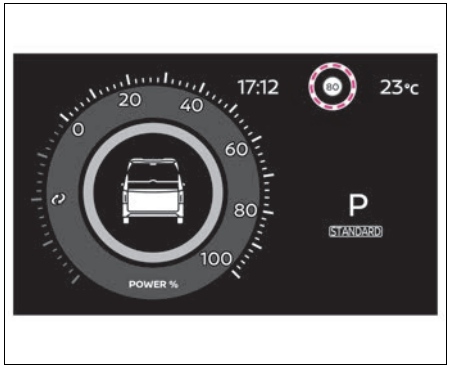
● ＜e-Pedal＞スイッチを押してe-Pedal StepをONにすると［e-Pedal］と表示し、e-Pedal StepがOFFのときは［e-Pedal OFF］と表示します。
➔ e-Pedal Stepの使いかた (P.211)

最高速度標識検知表示

メータータイプ(A)（クラシック表示の場合）



メータータイプ(B)



● フロントガラス上部にあるマルチセンシングフロントカメラにより最高速度標識

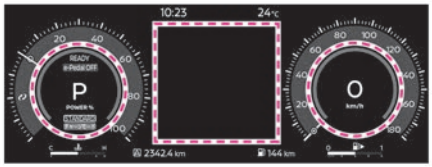
を検知し、アドバンスドドライブアシストディスプレイに表示します。

●アドバンスドドライブアシストディスプレイで設定［ ⚙ ］⇒［運転支援］⇒［標識検知支援］⇒［制限速度標識］（メータータイプ(A)）または設定［ ⚙ ］⇒［運転支援］⇒［速度標識表示］（メータータイプ(B)）を選択すると、機能のON・OFFを切り替えることができます。

設定の詳細については、運転支援（➔P.80または➔P.106）をお読みください。

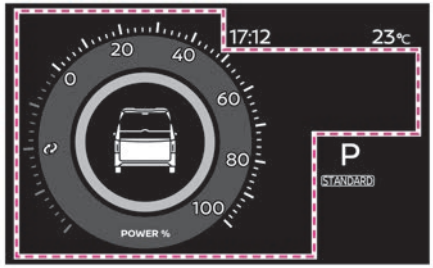
アドバンスドドライブアシストディスプレイ

メータータイプ(A)（クラシック表示）



メータータイプ(A)（エンハンス表示）

メータータイプ(B)

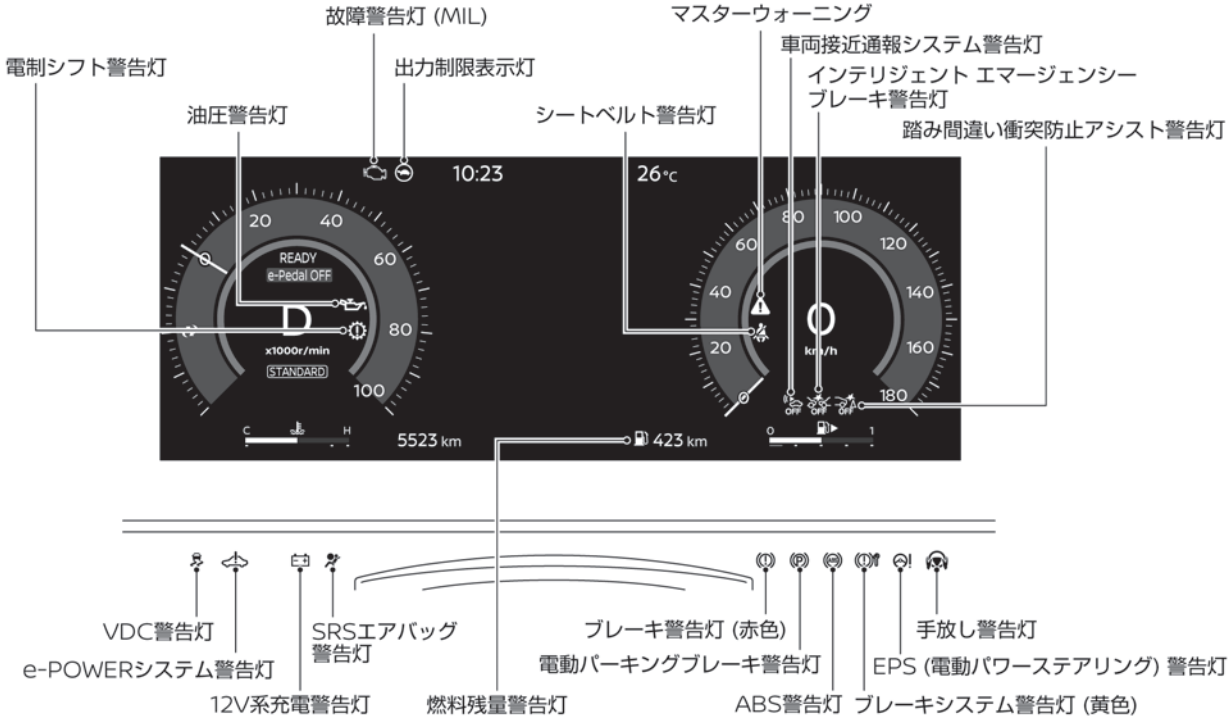


●アドバンスドドライブアシストディスプレイで、様々な機能の作動状態を表示したり、設定したりすることができます。

アドバンスドドライブアシストディスプレイについては、（➔P.64または➔P.95）をお読みください。

警告灯の表示位置（メータータイプ (A) クラシック表示）

次のイラストは、説明のためすべての警告灯を表示しています。通常は警告すべき事象がおこったときに該当の警告灯のみ点灯または点滅します。<パワースイッチ>がONのとき、ステアリングスイッチの< ☰ >スイッチで［メーター画面モード変更］を選択し、<OK>スイッチを押すと表示画面が切り替わります。なおメーター表示は、クラシック表示とエンハンス表示の2種類あります。

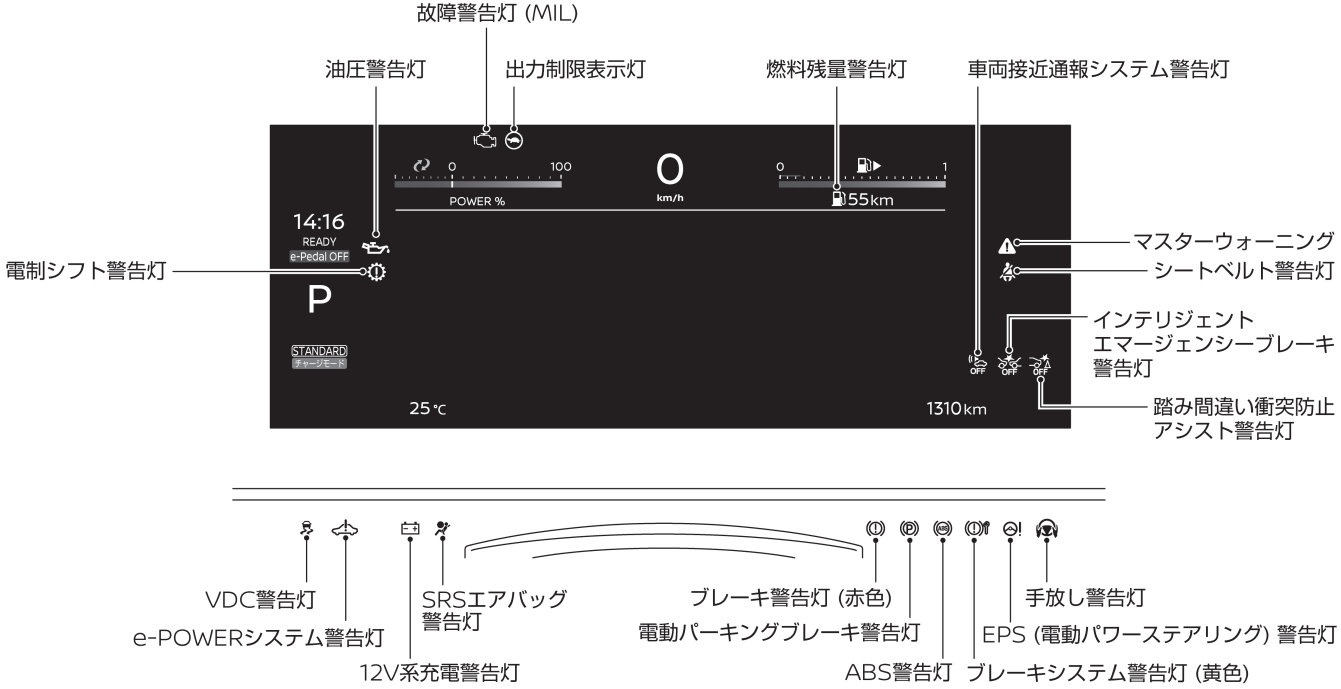


各警告灯については、（➔P.409）をお読みください。

☆／★：車両型式、オプションなどで異なる装備

警告灯の表示位置（メータータイプ (A) エンハンス表示）

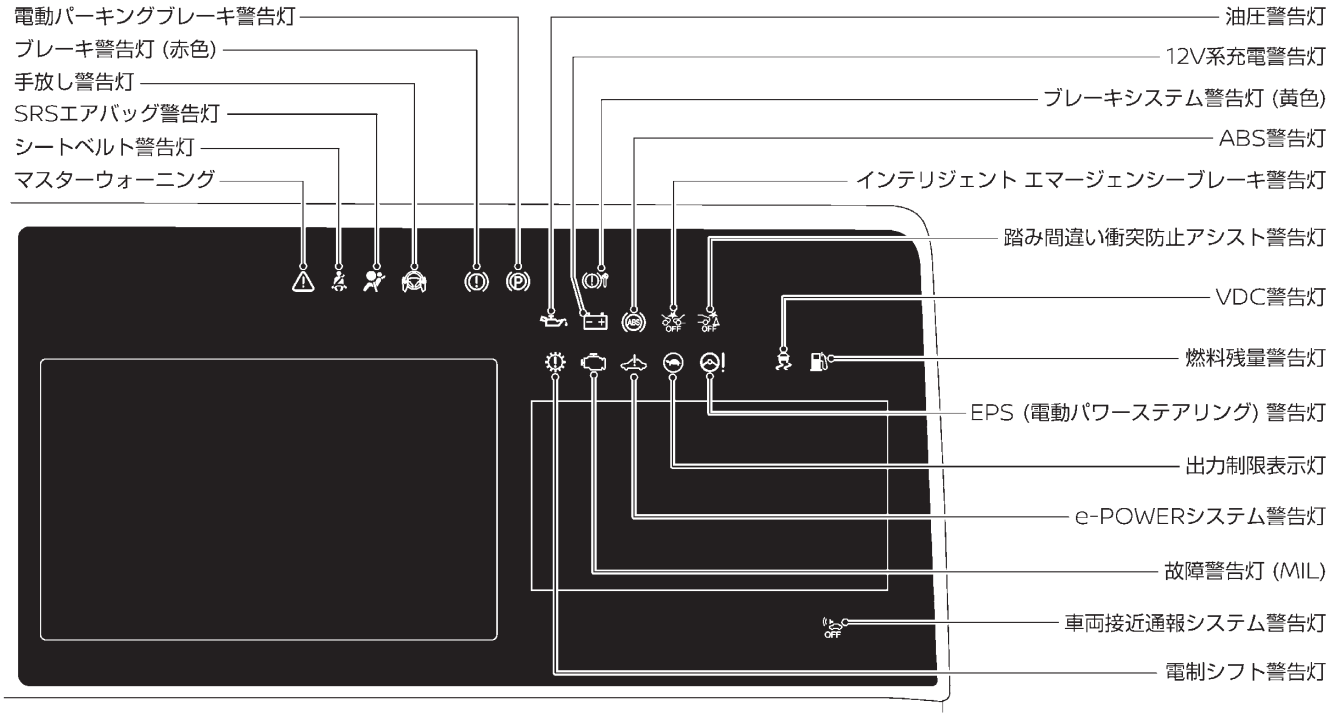
次のイラストは、説明のためすべての警告灯を表示しています。通常は警告すべき事象がおこったときに該当の警告灯のみ点灯または点滅します。<パワースイッチ>がONのとき、ステアリングスイッチの< ☰ >スイッチで［メーター画面モード変更］を選択し、<OK>スイッチを押すと表示画面が切り替わります。なおメーター表示は、クラシック表示とエンハンス表示の2種類あります。



各警告灯については、（➔P.409）をお読みください。

警告灯の表示位置（メータータイプ (B)）

次のイラストは、説明のためすべての警告灯を表示しています。通常は警告すべき事象がおこったときに該当の警告灯のみ点灯または点滅します。

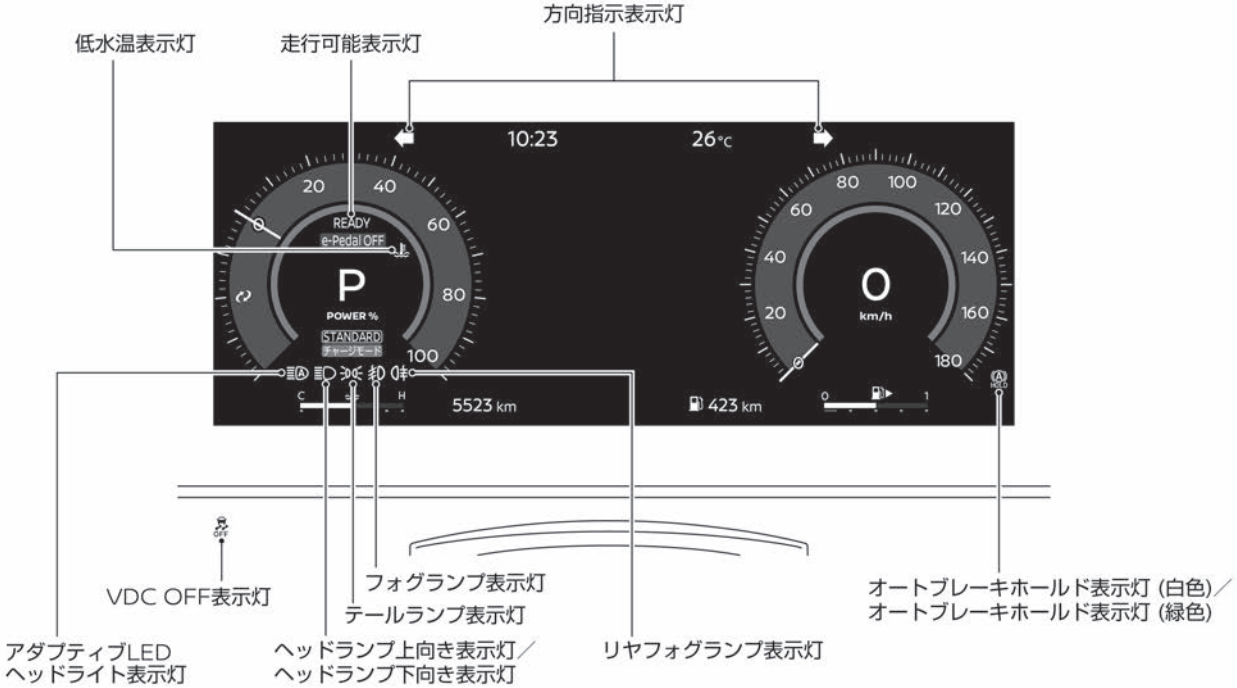


各警告灯については、（➔P.409）をお読みください。

☆／★：車両型式、オプションなどで異なる装備

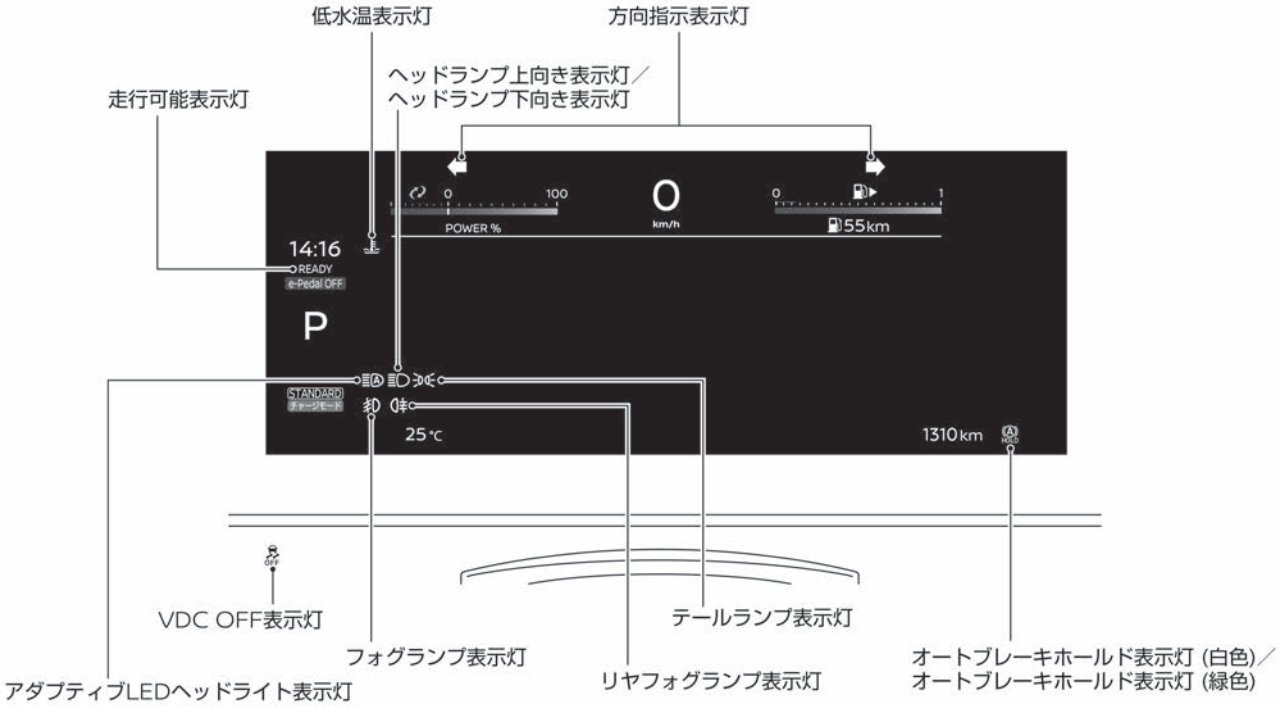
表示灯の表示位置（メータータイプ (A) クラシック表示）

次のイラストは、説明のためすべての表示灯を表示しています。通常は事象がおこったときに該当の表示灯のみ点灯または点滅します。<パワースイッチ>がONのとき、ステアリングスイッチの< ☰ >スイッチで［メーター画面モード変更］を選択し、<OK>スイッチを押すと表示画面が切り替わります。なおメーター表示は、クラシック表示とエンハンス表示の2種類あります。



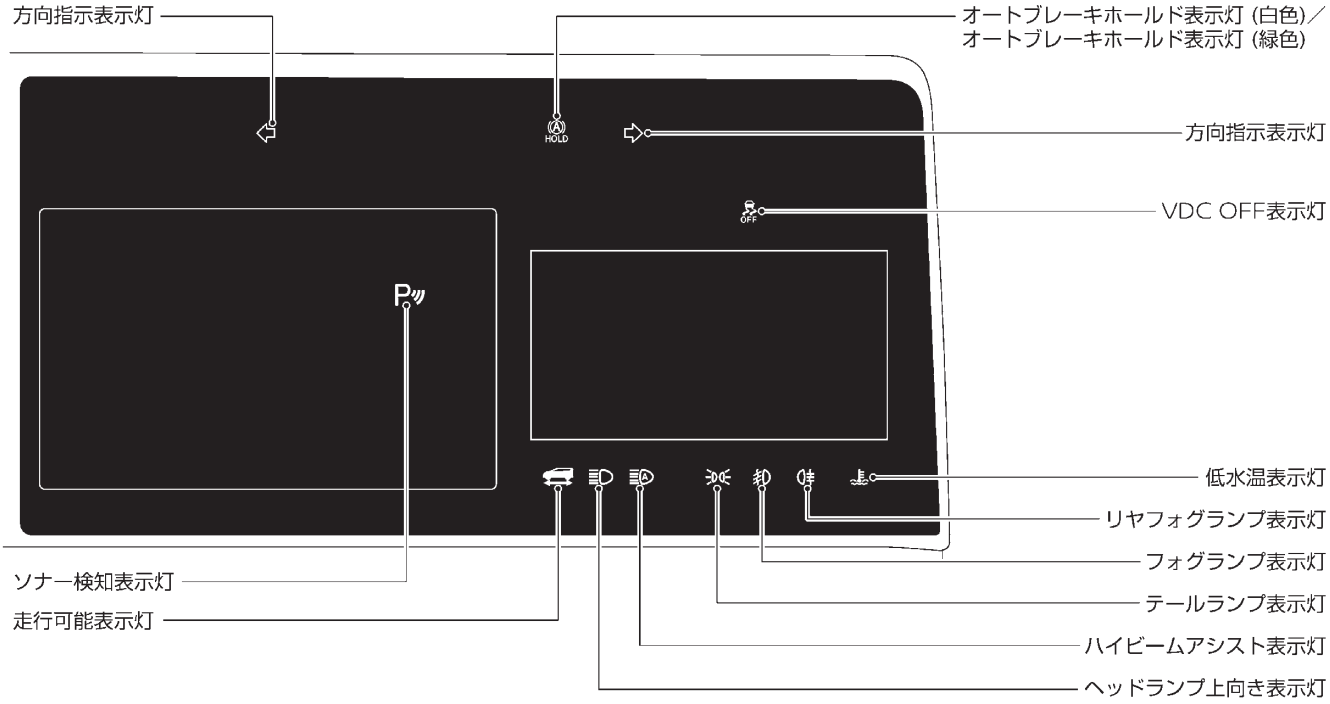
表示灯の表示位置（メータータイプ (A) エンハンス表示）

次のイラストは、説明のためすべての表示灯を表示しています。通常は事象がおこったときに該当の表示灯のみ点灯または点滅します。<パワースイッチ>がONのとき、ステアリングスイッチの< ☰ >スイッチで［メーター画面モード変更］を選択し、<OK>スイッチを押すと表示画面が切り替わります。なおメーター表示は、クラシック表示とエンハンス表示の2種類あります。



表示灯の表示位置（メータータイプ (B)）

次のイラストは、説明のためすべての表示灯を表示しています。通常は事象がおこったときに該当の表示灯のみ点灯または点滅します。



表示灯がついたときは

表示灯は、何らかのシステムが作動していることなどをお知らせするものです。点灯または点滅している理由は、次の説明をお読みください。警告や表示は、グレード、オプションなどにより異なります。

表示灯	名称	点灯・点滅する条件	説明・対処方法
	方向指示表示灯	● ＜非常点滅表示灯スイッチ＞を押すと左右同時に点滅します。 ● ＜パワースイッチ＞がONのとき、方向指示器を作動させると、作動させた側のみ点滅します。	● 点滅が速くなった場合は、日産販売会社で点検を受けてください。 ➔ 方向指示器の使いかた (P.204)
	ヘッドランプ上向き表示灯	● ヘッドランプのハイビーム（上向き）を点灯させると点灯します。	➔ ハイビーム（上向き）への切り替えかた (P.203)
	ヘッドランプ下向き表示灯★	● ヘッドランプのロービーム（下向き）を点灯させると点灯します。	➔ ライトスイッチの使いかた (P.198)
	テールランプ表示灯	● 車幅灯、尾灯、番号灯を点灯させると点灯します。	➔ ライトスイッチの使いかた (P.198)
	フォグランプ表示灯★	● フォグランプを点灯させると点灯します。	➔ フォグランプの使いかた (P.205)
	リヤフォグランプ表示灯★	● リヤフォグランプを点灯させると点灯します。	➔ リヤフォグランプ★の使いかた (P.205)
OFF	VDC OFF表示灯	● ＜パワースイッチ＞をONにすると点灯し、数秒後に消灯します。 ● ＜パワースイッチ＞がONのとき、VDCをOFFにしていると点灯します。	➔ VDC（ビークルダイナミクスコントロール） (P.218)

☆／★：車両型式、オプションなどで異なる装備

警告灯・表示灯

表示灯	名称	点灯・点滅する条件	説明・対処方法
ハイビームアシスト付車	ハイビームアシスト表示灯	● ハイビームアシストをONにすると点灯します。	➔ ハイビームアシスト★ (P.200)
アダプティブLEDヘッドライトシステム付車	アダプティブLEDヘッドライト表示灯	● アダプティブLEDヘッドライトシステムをONにすると点灯します。	➔ アダプティブLEDヘッドライトシステム★ (P.202)
	オートブレーキホールド表示灯（白色）	● オートブレーキホールド機能が待機状態のとき白色に点灯します。	➔ オートブレーキホールド (P.193)
	オートブレーキホールド表示灯（緑色）	● オートブレーキホールド機能が作動しているとき緑色に点灯します。	➔ オートブレーキホールド (P.193)
メータータイプ(A) メータータイプ(B)	走行可能表示灯	● 走行できる状態になると点灯します。（走行中も点灯し続けます。） ● e-POWERシステム始動時、走行可能な状態になるまで点滅します。	● 点滅しているときは、点灯状態になるまで、ブレーキペダルを踏んだまま<パワースイッチ>を押し続けてください。

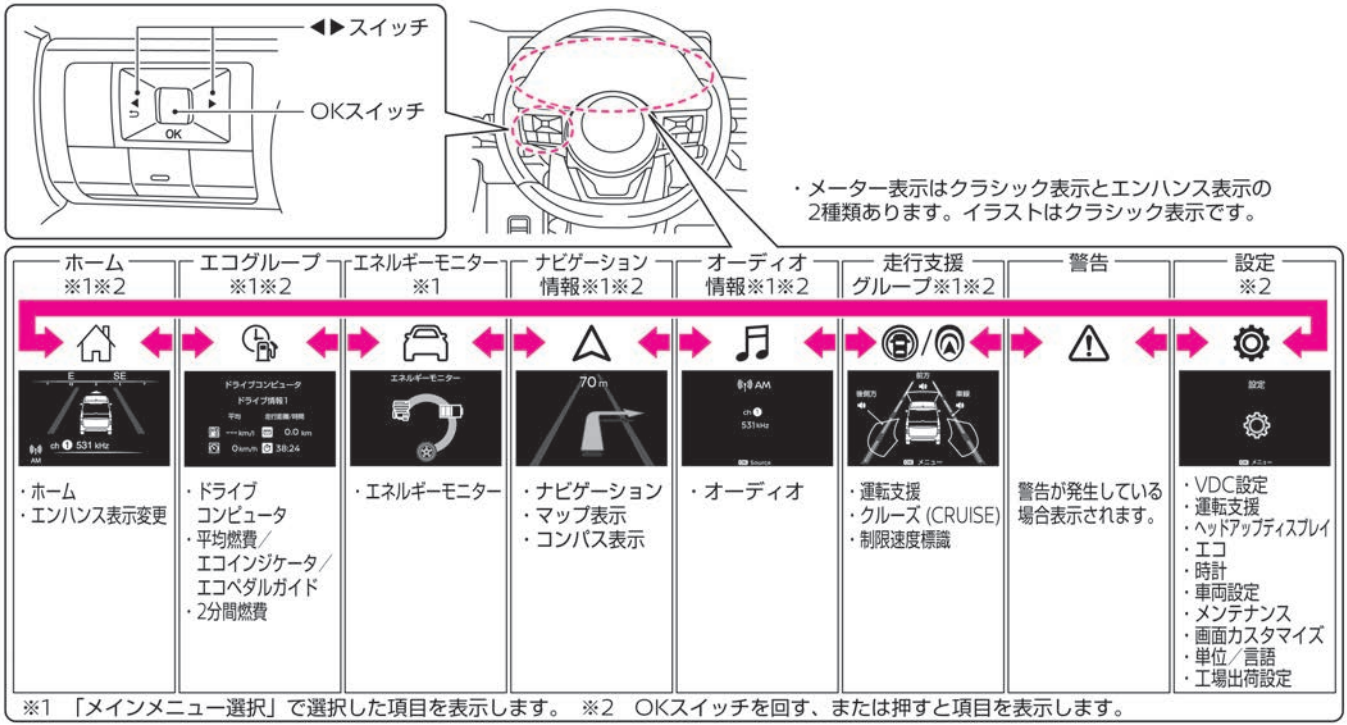
警告灯・表示灯

表示灯	名称	点灯・点滅する条件	説明・対処方法
	低水温表示灯	● <パワースイッチ>をONにすると点灯し、数秒後に消灯します。 ● エンジン冷却水の温度が低いと点灯します。 ● エンジン冷却水温が低いときは、低水温表示灯が消灯せずに点灯し続けますが、エンジンの暖機により、しばらくすると規定の水温以上に達して、消灯します。	アドバイス ● しばらく走行したあとも点灯し続けるときは、水温センサーの異常が考えられます。すみやかに日産販売会社で点検を受けてください。
	ソナー検知表示灯★	● ソナーにより障害物を検知したときに点滅します。	● 車両が障害物に近づくと、ソナー検知表示灯の色が緑→黄（オレンジ）→赤の順に切り替わります。 ● 障害物をよけてください。

アドバンスドドライブアシストディスプレイ（メータータイプ(A)）

アドバンスドドライブアシストディスプレイとは（メインメニュー）

アドバンスドドライブアシストディスプレイで、様々な機能の作動状態を表示したり、設定したりすることができます。<パワースイッチ>がONのとき、ステアリングスイッチの<◀▶>スイッチを押すと、ホーム、エコグループ、エネルギーモニター、ナビゲーション情報、オーディオ情報、走行支援グループ、警告、設定の順で表示項目が切り替わります。車種またはソフトウェア更新などにより表示できる項目が異なる場合があります。



車両情報画面

様々な車両情報を表示したり、各種設定をしたりすることができます。

ホーム

<パワースイッチ>がONのとき、ステアリングスイッチの<◀▶>スイッチでホーム［ ］を選択し、<OK>スイッチを回すと項目が切り替わります。ステアリングスイッチの使いかたは（➔P.64）をお読みください。

アドバンスドドライブアシストディスプレイで設定［ ］⇒［画面カスタマイズ］⇒［メインメニュー選択］で選択していると表示します。

画面表示	項目	概要	詳細説明
	ホーム	● 次の情報を表示します。 — オーディオ情報 — ナビゲーションシステム情報	● オーディオやメーカーオプションナビゲーションシステムの使用状況によって、表示される項目は変わります。
	エンハンス表示変更	● エンハンス表示のタイプを切り替えます。 ● ［メインメニュー選択］で［表示なし］を選択すると表示されます。	● クラシック表示のときは表示されません。

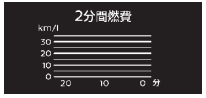
エコグループ

<パワースイッチ>がONのとき、ステアリングスイッチの<◀▶>スイッチでエコグループ［ ］選択し、<OK>スイッチを回すと項目が切り替わります。ステアリングスイッチの使いかたは（➔P.64）をお読みください。

アドバンスドドライブアシストディスプレイで設定［ ］⇒［画面カスタマイズ］⇒［メインメニュー選択］で選択していると表示します。

画面表示	項目	概要	詳細説明
	ドライブコンピュータ	● ドライブコンピュータを表示します。ステアリングスイッチの<OK>スイッチを押すと［ドライブ情報1］、［ドライブ情報2］、［給油後走行情報］の順で画面が切り替わります。 表示している情報をリセットするときは、リセットしたい画面を表示中にステアリングスイッチの<OK>スイッチを長押しします。その後リセットメニューからリセットする項目を選択し、再度ステアリングスイッチの<OK>スイッチを押します。リセット画面が表示されるので、［はい］を選択し、再度ステアリングスイッチの<OK>スイッチを押すとリセットされます。 画面の切り替えかたについては（➔P.64）をお読みください。	● ［ドライブコンピュータ］の項目 — 平均燃費 — 平均車速 — 走行距離 — 走行時間 ● ドライブコンピュータの平均燃費をリセットすると、エコペダルガイドの平均燃費も連動してリセットされます。

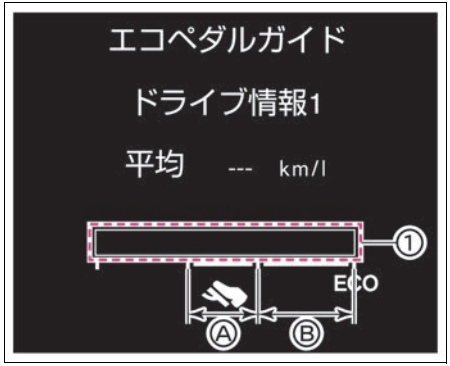
アドバンスドドライブアシストディスプレイ（メータータイプ(A)）

画面表示	項目	概要	詳細説明
 	平均燃費／エコインジケータ／エコペダルガイド	● ドライブモードがECOのときに表示します。 ① リセットしてからの平均燃費を表示します。ステアリングスイッチの＜OK＞スイッチを押すと［ドライブ情報1］、［ドライブ情報2］、［給油後走行情報］の順で画面が切り替わります。 表示している情報をリセットするときは、リセットしたい画面を表示中にステアリングスイッチの＜OK＞スイッチを長押しします。その後リセットメニューからリセットする項目を選択し、再度ステアリングスイッチの＜OK＞スイッチを押します。リセット画面が表示されるので、［はい］を選択し、再度ステアリングスイッチの＜OK＞スイッチを押すとリセットされます。 画面の切り替えかたについては（➔P.64）をお読みください。 ② アドバンスドドライブアシストディスプレイで設定［ ⚙ ］⇒［エコ］⇒［エコ情報設定］⇒［エコインジケータ］の設定をONにしているとき、アクセルペダル操作に応じてエコインジケータが3段階で点灯します。 ③ 走行しているとき、アクセルペダルの踏み加減を表示します。	● ➔ ドライブモードセレクター(P.213) ● 平均燃費は、12Vバッテリー交換後やリセット後は［---］と表示します。 ● 平均燃費は約30秒ごとに更新されます。 ● 平均燃費をリセットすると、ドライブコンピュータの平均燃費も連動してリセットされます。 ● エコインジケータ、エコペダルガイドの詳細については、エコインジケータ（➔P.68）、エコペダルガイド（➔P.68）をお読みください。
	2分間燃費	● 2分ごとの平均燃費を、最大30分前まで棒グラフで表示します。 ● クラシック表示は20分、エンハンス表示は30分で表示されます。	-

■ エコインジケータ

- アドバンスドドライブアシストディスプレイでエコペダルガイドを表示して走行しているとき、アクセルペダル操作に応じてエコインジケータ①が3段階で点灯します。
- エコドライブするほど、点灯範囲が大きくなります。
- アドバンスドドライブアシストディスプレイで設定［ ⚙ ］⇒［エコ］⇒［エコ情報設定］⇒［エコインジケータ］を選択すると、エコインジケータのON・OFFを切り替えられます。
  設定の詳細については、エコ（➔P.85）をお読みください。
- シフトポジションがRのときは、点灯しません。

■ エコペダルガイド



- アドバンスドドライブアシストディスプレイでエコペダルガイドを表示して走行しているとき、アクセルペダルの踏み加減を①に表示します。
- アクセルペダルの踏み加減をエコ運転領域Ⓐに入るように調整することで、燃費向上につながります。
  アクセルペダルの踏み加減をⒷの範囲内に調整することでさらなる燃費向上につながります。
- シフトポジションがRのときは、点灯しません。

エネルギーモニター

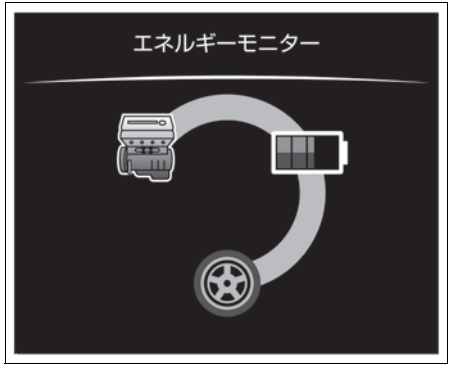
＜パワースイッチ＞がONのとき、ステアリングスイッチの＜◀▶＞スイッチでエネルギーモニター［ 🚗 ］を選択します。

ステアリングスイッチの使いかたは（➔P.64）をお読みください。

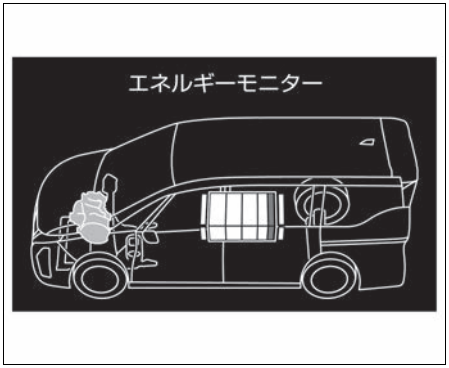
アドバンスドドライブアシストディスプレイで設定［ ⚙ ］⇒［画面カスタマイズ］⇒［メインメニュー選択］で選択していると表示します。

- エンジン、リチウムイオンバッテリーおよびタイヤ間のエネルギーの流れを表示します。
- 画面は実際の表示とは異なる場合があります。

クラシック表示

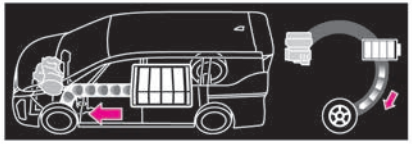


エンハンス表示

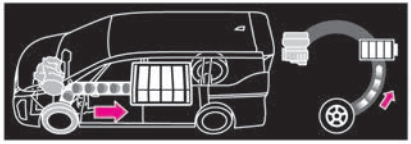


- エンジンからの矢印は、エンジンで発電したエネルギーが流れている状態を示すものです。
- e-POWERシステムでは、発電しなくてもエンジンが作動することがあります。発電していないときは矢印は表示されません。
- ブレーキランプが点灯しているときは、エネルギーモニター内のブレーキランプも点灯します。

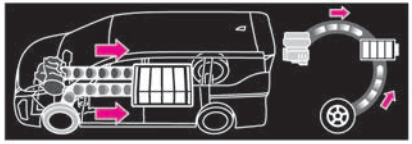
エネルギーモニター（2WD車）



・リチウムイオンバッテリーに蓄えられたエネルギーを使って走行している状態



・回生ブレーキを使ってリチウムイオンバッテリーを充電している状態



・エンジンと回生ブレーキ、両方のエネルギーで充電している状態

・エンジンで発電したエネルギーで、走行と充電の両方をしている状態
・エンジンで発電したエネルギーとリチウムイオンバッテリーに蓄えられたエネルギー、両方を使って走行している状態
・エンジンで発電したエネルギーを使って走行している状態

・エンジンで発電したエネルギーで、リチウムイオンバッテリーを充電している状態

・エネルギーの流れがない状態

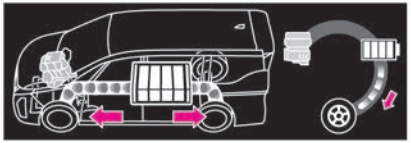
エンジン表示色

灰色：エンジンが燃料を消費していない状態
橙色：エンジンが燃料を消費している状態

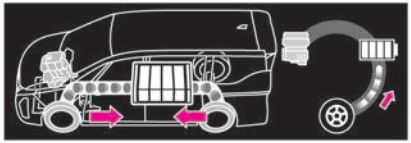
バッテリー表示色

青色：バッテリー残量が通常状態
・バッテリー残量を表示します。
黄色：バッテリー残量が低下状態
・バッテリー残量が低下すると、青色から黄色に表示色が変わります。（バッテリー残量が少ないときは、通常よりも駆動出力が低下することがあります。）

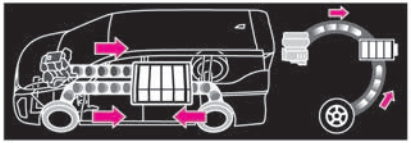
エネルギーモニター (e-4ORCE (4WD) 車)



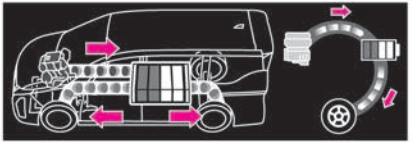
・リチウムイオンバッテリーに蓄えられたエネルギーを使って走行している状態
・2WD状態のときは、リア側のエネルギーの流れは表示されません。



・回生ブレーキを使ってリチウムイオンバッテリーを充電している状態
・2WD状態のときは、リア側のエネルギーの流れは表示されません。



・エンジンと回生ブレーキ、両方のエネルギーで充電している状態
・2WD状態のときは、リア側のエネルギーの流れは表示されません。



・エンジンで発電したエネルギーで、走行と充電の両方をしている状態
・エンジンで発電したエネルギーとリチウムイオンバッテリーに蓄えられたエネルギー、両方を使って走行している状態
・エンジンで発電したエネルギーを使って走行している状態
・2WD状態のときは、リア側のエネルギーの流れは表示されません。

・エンジンで発電したエネルギーで、リチウムイオンバッテリーを充電している状態

・エネルギーの流れがない状態

エンジン表示色

灰色：エンジンが燃料を消費していない状態
橙色：エンジンが燃料を消費している状態

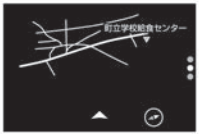
バッテリー表示色

青色：バッテリー残量が通常状態
・バッテリー残量を表示します。
黄色：バッテリー残量が低下状態
・バッテリー残量が低下すると、青色から黄色に表示色が変わります。(バッテリー残量が少ないときは、通常よりも駆動出力が低下することがあります。)

ナビゲーション情報

<パワースイッチ>がONのとき、ステアリングスイッチの<◀▶>スイッチでナビゲーション情報［ △ ］を選択し、<OK>スイッチを回すと項目が切り替わります。ステアリングスイッチの使いかたは（➔P.64）をお読みください。

アドバンスドドライブアシストディスプレイで設定［ ⚙ ］⇒［画面カスタマイズ］⇒［メインメニュー選択］で選択していると表示します。

画面表示	項目	概要	詳細説明
	ナビゲーション	● メーカーオプションナビゲーションシステムで目的地を設定していると、ナビゲーションシステムと連動し、次の右左折までの距離などを表示します。 ● 目的地を設定していないときは、表示されません。 ● エンハンス表示のときは、表示されません。	● メーカーオプションナビゲーションシステムの取り扱いについては、別冊のナビゲーションシステム取扱説明書をお読みください。
	マップ表示	● メーカーオプションナビゲーションシステムで目的地を設定していると、ナビゲーションシステムと連動し、ルートガイドを表示します。	
	コンパス表示	● コンパス（車両の進行方位）を表示します。	-

オーディオ情報

<パワースイッチ>がONのとき、ステアリングスイッチの<◀▶>スイッチでオーディオ情報［♫］を選択します。ステアリングスイッチの使いかたは（➔P.64）をお読みください。

アドバンスドドライブアシストディスプレイで設定［⚙］⇒［画面カスタマイズ］⇒［メインメニュー選択］で選択していると表示します。

画面表示	項目	概要	詳細説明
	オーディオ	● 現在使用中のオーディオ情報を表示します。 ● この画面を表示中に、ステアリングスイッチの<OK>スイッチを押すと、オーディオの種類を切り替えることができます。	● オーディオの取り扱いについては、別冊のナビゲーションシステム取扱説明書をお読みください。

走行支援グループ（表示項目）

<パワースイッチ>がONのとき、ステアリングスイッチの<◀▶>スイッチで走行支援グループ［Ⓐ］／［Ⓑ］を選択し、<OK>スイッチを回すと項目が切り替わります。ステアリングスイッチの使いかたは（➔P.64）をお読みください。

アドバンスドドライブアシストディスプレイで設定［⚙］⇒［画面カスタマイズ］⇒［メインメニュー選択］で選択していると表示します。

アドバンスドドライブアシストディスプレイ（メータータイプ(A)）

画面表示	項目	概要	詳細説明
	運転支援	● 運転支援システムのON・OFF状態を表示します。 ● 運転支援システムで各機能の状態を表示します。詳細は➔運転支援ステータス画面（P.243）をお読みください。 ● この画面を表示中に、ステアリングスイッチの<OK>スイッチを押すと、走行支援システムのメニュー画面を表示し、各システムのON・OFFを設定できます。詳しくは運転支援（➔P.80）の中の該当項目をお読みください。	● 詳しくは、各走行支援システムの説明をお読みください。 — ➔インテリジェント エマージェンシーブレーキ（P.276） — ➔踏み間違い衝突防止アシスト（P.283） — ➔衝突回避ステアリングアシスト（P.282） — ➔BSW（後側方車両検知警報）／インテリジェント BSI（後側方衝突防止支援システム）（P.289） — ➔LDW（車線逸脱警報）／インテリジェント LI（車線逸脱防止支援システム）（P.298） — ➔インテリジェント FCW（前方衝突予測警報）（P.302）
	クルーズ（CRUISE）	● プロパイロットの作動状態を表示します。ステアリングスイッチの<プロパイロットスイッチ>を押すと、運転支援画面を表示してから数秒後にクルーズ画面に切り替わります。 ● この画面を表示中に、ステアリングスイッチの<OK>スイッチを押すと、プロパイロットのメニュー画面を表示し、ハンドル支援とルート走行支援★のON・OFFを設定できます。	● プロパイロットについては、（➔P.229）をお読みください。 ● <ハンドル支援スイッチ>でもハンドル支援のON・OFFを切り替えることができます。 ➔プロパイロットに関連するスイッチ（P.235） ● ブレーキランプが点灯しているときは、メーター内のブレーキランプも点灯します。

アドバンスドドライブアシストディスプレイ（メータータイプ(A)）

画面表示	項目	概要	詳細説明
	制限速度標識	● 最高速度標識／はみ出し通行禁止標識の検知状態を表示します。	● 最高速度標識検知／はみ出し通行禁止標識検知については、（➔P.309）をお読みください。

警告

警告について

● 異常を検知するとマスターウォーニング［ ⚠ ］が点灯し、アドバンスドドライブアシストディスプレイに警告を表示します。
警告を一時的に消すときは、<OK>スイッチを押します。

● 警告が表示されたときは、すみやかに適切な処置をしてください。放置すると故障や思わぬ事故につながるおそれがあります。

確認のしかた

異常を検知している場合は、<パワースイッチ>がONのときにステアリングスイッチの<◀▶>スイッチで警告［ ⚠ ］を選択すると、異常を検知している警告が確認できます。

警告メッセージの表示画面については、（➔P.418）をお読みください。

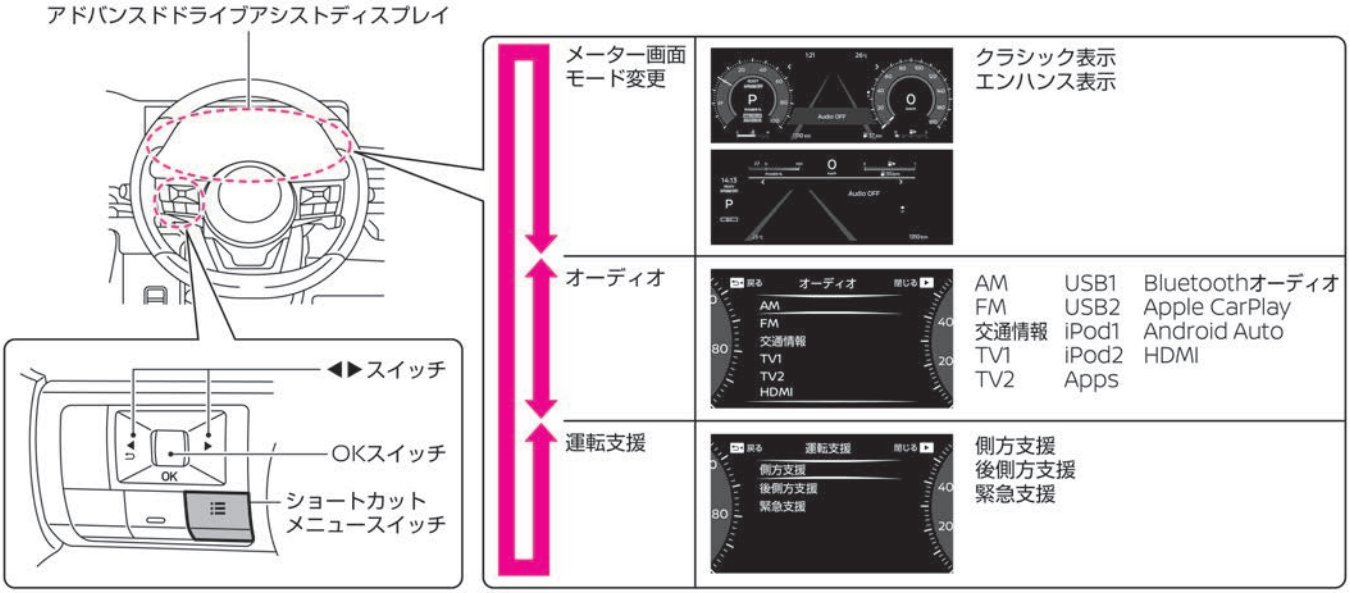
ステアリングスイッチの使いかたは（➔P.64）をお読みください。

アドバンスドドライブアシストディスプレイ（メータータイプ(A)）

アドバンスドドライブアシストディスプレイとは（ショートカットメニュー）

＜パワースイッチ＞がONのとき、ステアリングスイッチの＜ ☰ ＞スイッチを押すと、よく使用する設定項目画面をすばやく表示することができます。メーター画面モード変更、オーディオ、運転支援のいずれかの表示項目を選択できます。

画面の切り替えかた（ショートカットメニュー）

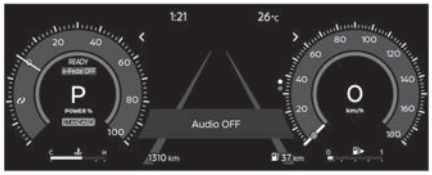


・車種により表示できる項目が異なります。

メーター画面モード変更

● ＜パワースイッチ＞がONのとき、ステアリングスイッチの＜ ☰ ＞スイッチを押してから［メーター画面モード変更］を選択し、＜OK＞スイッチを押すと表示画面が切り替わります。なおメーター表示は、クラシック表示とエンハンス表示の2種類あります。
ステアリングスイッチの使いかたは（➔P.64）をお読みください。

クラシック表示



● 左側にパワーメーター、右側にスピードメーター（速度計）が大きく表示される画面です。

エンハンス表示

● 左右のアナログメーター表示をデジタル表示化および移動して、中央のアドバンスドドライブアシストディスプレイを拡大した画面です。

オーディオ

ステアリングスイッチの< ☰ >スイッチを押してから<OK>スイッチを回して［オーディオ］を選択し、<OK>スイッチを押して決定することができます。

項目 1	詳細説明
AM	● オーディオの取り扱いについては、別冊のナビゲーションシステム取扱説明書をお読みください。 ● 機器接続状況により表示は異なります。
FM	
交通情報	
TV1	
TV2	
USB1	
USB2	
iPod1	
iPod2	
Apps	
Bluetoothオーディオ	
Apple CarPlay	
Android Auto	
HDMI	

運転支援

ステアリングスイッチの< ☰ >スイッチを押してから<OK>スイッチを回して［運転支援］を選択し、<OK>スイッチを押して決定することができます。

項目 1	項目 2	詳細説明
側方支援	車線逸脱警報	● 設定の詳細については、設定（各種設定画面）の運転支援をお読みください。 ➔ 運転支援 (P.80)
	車線逸脱防止支援	
後側方支援	後側方車両検知警報	
	後側方衝突防止支援	
緊急支援	前方衝突防止支援	
	踏み間違い衝突防止支援	

各種設定画面

運転支援システムのON・OFF設定をはじめ、時計の調整やアラームの設定などができます。

ステアリングスイッチの使いかたは（➔ P.64）をお読みください。

設定（各種設定画面）

各種設定画面では、次の機能の設定ができます。ステアリングスイッチの<◀▶>スイッチで設定［ ⚙ ］を表示し、<OK>スイッチを押して設定画面を表示させ<OK>スイッチを回して選択します。<OK>スイッチを押して決定することができます。

➔ 設定例1（メインメニュー選択） (P.91)

➔ 設定例2（タイヤ） (P.91)

■ VDC設定

項目	機能
システム	● VDC機能のON・OFFを設定します。 ➔ VDCのON・OFFのしかた (P.219)

■ 運転支援

項目 1	項目 2	機能
インテリジェントクルーズ	ルート減速支援	● プロパイロットのルート減速支援機能のON・OFFを設定します。 ➲ ルート減速支援機能★ (P.247) ● ルート減速支援機能をOFFにしても、次の設定がONの場合はカーブでの減速が作動します。 設定［ ⚙ ］⇒［運転支援］⇒［車線維持支援］⇒［ハンドル支援］
	制限速度支援	● 標識検知機能で検出した速度をプロパイロットの設定車速に反映させる機能のON（［手動］／［自動］）・OFFを設定します。 ➲ 制限速度支援機能★について (P.248)
	制限速度支援設定	● 標識検知機能で検出した速度を、プロパイロットの設定車速に反映させるときのオフセット速度を選択します。 — -10km/h～+10km/hまでの範囲内で速度を設定できます。 ➲ 制限速度支援機能★について (P.248)
車線維持支援	ハンドル支援	● 車線維持機能（ハンドル支援）のON・OFFを設定します。 ➲ 車線維持機能（ハンドル支援）について (P.249)
	ハンズオフモード （プロパイロット2.0付車）	● 車線維持機能（ハンドル支援）のハンドルを離して走行する機能のON・OFFを設定します。 ➲ 車線維持機能（ハンドル支援）（プロパイロット2.0付車） (P.251)

アドバンスドドライブアシストディスプレイ（メータータイプ(A)）

項目 1	項目 2	機能
車線変更支援 （プロパイロット2.0付車）	ルート走行支援	● ルート走行支援機能のON・OFFを設定します。 ルート走行支援機能について（➔P.264）
	ルート走行支援モード	● ルート走行支援機能の［連続］/［単一］を選択します。 ［連続］：複数車線を連続した車線変更の提案、支援をします。 ［単一］：1車線ごとに車線変更の提案、支援をします。 ルート走行支援機能について（➔P.264）
	方向指示器スイッチ連動	● 車線変更支援機能の方向指示器との連動のON・OFFを設定します。 車線変更支援機能について（➔P.257）
	追い越し支援	● 追い越し支援機能のON・OFFを設定します。 追い越し支援機能について（➔P.260）
	追い越し支援判断	● 追い越し支援の判断を、［スポーツ］/［標準］/［コンフォート］から選択します。 追い越し支援機能について（➔P.260）
側方支援	車線逸脱警報	● LDW（車線逸脱警報）のON・OFFを設定します。 ➔LDW（車線逸脱警報）／インテリジェント LI（車線逸脱防止支援システム）（P.298）
	車線逸脱防止支援	● インテリジェント LI（車線逸脱防止支援システム）のON・OFFを設定します。 ➔LDW（車線逸脱警報）／インテリジェント LI（車線逸脱防止支援システム）（P.298）
後側方支援	後側方車両検知警報	● BSW（後側方車両検知警報）のON・OFFを設定します。 ➔BSW（後側方車両検知警報）／インテリジェント BSI（後側方衝突防止支援システム）（P.289）
	後側方衝突防止支援	● インテリジェント BSI（後側方衝突防止支援システム）のON・OFFを設定します。 ➔BSW（後側方車両検知警報）／インテリジェント BSI（後側方衝突防止支援システム）（P.289）

アドバンスドドライブアシストディスプレイ（メータータイプ(A)）

項目 1	項目 2	機能
緊急支援	前方衝突防止支援	● インテリジェント エマージェンシーブレーキ、衝突回避ステアリングアシスト、インテリジェント FCW（前方衝突予測警報）のON・OFFを設定します。 ➲ インテリジェント エマージェンシーブレーキ (P.276) ➲ 衝突回避ステアリングアシスト (P.282) ➲ インテリジェント FCW（前方衝突予測警報） (P.302)
	踏み間違い衝突防止支援	● 踏み間違い衝突防止アシストのON・OFFを設定します。 ➲ 踏み間違い衝突防止アシスト (P.283)
先行車発進お知らせ		● 先行車発進お知らせの設定を、［OFF］、［遅め］、［標準］、［早め］から選択します。 ➲ 先行車発進お知らせ (P.315)
標識検知支援	制限速度標識	● 最高速度標識検知のON・OFFを設定します。 ➲ 標識検知機能 (P.309)
	道路標識	● 進入禁止標識検知／一時停止標識検知のON・OFFを設定します。 ➲ 標識検知機能 (P.309)

アドバンスドドライブアシストディスプレイ（メータータイプ(A)）

項目 1	項目 2	機能
駐車支援	後退時車両検知警報	● RCTA（後退時車両検知警報）のON・OFFを設定します。 ➔RCTA（後退時車両検知警報） (P.305)
	移動物検知	● 移動物 検知のON・OFFを設定します。 移動物 検知機能について（➔P.323）
	前方ソナー	● フロントソナーのON・OFFを設定します。 ➔ソナー表示 (P.92)
	後方ソナー★	● リヤソナーのON・OFFを設定します。 ソナー表示（➔P.92）
	ソナー検知距離	● ソナー検知距離を［遠］、［中］、［近］から選択します。障害物までの最長距離が110%（［遠］）、100%（［中］）、90%（［近］）で変更できます。 ［中］を選択したときの障害物までの最長距離は、（➔P.324）をご参照ください。 ➔ソナー表示 (P.92)
	ソナー自動表示	● 障害物に近づいたときの、割り込み表示のON・OFFを設定します。 ➔ソナー表示 (P.92)
	ソナー音量	● ボリューム（警告音（ブザー））を、［大］、［中］、［小］から選択します。 ➔ソナー表示 (P.92)
ドライバーモニター	ふらつき警報	● インテリジェント DA（ふらつき警報）のON・OFFを設定します。 ➔インテリジェント DA（ふらつき警報） (P.308)
	ドライバーモニターカメラ（プロパイロット2.0付車）	● ドライバーモニターシステムのON・OFFを設定します。 ドライバーモニターシステムについて（➔P.313）
運転支援サウンド設定（プロパイロット2.0付車）	音声案内	● 運転支援の音声案内のON・OFFを設定します。
	警報音設定	● 運転支援の警報音の音量を、［小］、［中］、［大］から選択します。

アドバンスドドライブアシストディスプレイ（メータータイプ(A)）

項目 1	項目 2	機能
走行時間	---分／---分	● 設定した時間まで連続走行したことをお知らせします。 ＜OK＞スイッチを回すと分が切り替わり、＜OK＞スイッチを押すと決定します。 — 最大360分まで設定できます — 設定時間は30分単位で切り替わります （＜◀＞スイッチを押すと設定前の画面に戻ります）
	リセット	● ［はい］を選択すると、走行した時間をリセットできます。
凍結注意		● 外気温が3℃以下になったときに表示する凍結注意表示のON・OFFを設定します。

■ ヘッドアップディスプレイ★

項目 1	項目 2	機能
明るさ		● ヘッドアップディスプレイ表示の明るさを設定します。 — -10～10までの範囲内で明るさを設定できます ➔ ヘッドアップディスプレイの調整のしかた（P.122）
高さ		● ヘッドアップディスプレイ表示の高さを設定します。 — -10～10までの範囲内で高さを設定できます ➔ ヘッドアップディスプレイの調整のしかた（P.122）
傾き		● ヘッドアップディスプレイ表示の傾きを設定します。 — -10～10までの範囲内で傾きを設定できます ➔ ヘッドアップディスプレイの調整のしかた（P.122）
表示項目	ナビゲーション	● ナビゲーションシステム表示のON・OFFを設定できます。
	運転支援	● 運転支援表示のON・OFFを設定できます。
	制限速度標識	● 最高速度標識検知表示のON・OFFを設定できます。
	オーディオ	● オーディオ表示のON・OFFを設定できます。
	TEL/SMS	● ハンズフリーフォン／ショートメッセージ（SMS）表示のON・OFFを設定できます。

項目 1	項目 2	機能
リセット		● ヘッドアップディスプレイの設定を初期設定に戻します。 ステアリングスイッチの<OK>スイッチを押すとリセット画面が表示されるので、［はい］を選択し、再度ステアリングスイッチの<OK>スイッチを押すとリセットされます。 ➔ ヘッドアップディスプレイの調整のしかた (P.122)

■ エコ

走行中は操作できません。

項目 1	項目 2	機能
エコモード設定	クルーズコントロール	● ドライブモードがECOのとき、燃費を優先する機能に設定するかしないかを、項目ごとにON・OFF設定することができます。 ➔ ドライブモードについて (P.214)
	空調	
エコ情報設定	エコインジケータ	● エコインジケータのON・OFFを設定します。 OFFにすると、エコインジケータが表示されなくなります。 エコインジケータ（➔P.68）
	エコドライブレポート	● エコドライブレポートのON・OFFを設定します。 OFFにすると、エコドライブレポートが表示されなくなります。 エコドライブレポート（➔P.93）
燃費履歴リセット		● 燃費履歴画面を表示します。 ● リセットするときは、この画面を表示中にステアリングスイッチの<OK>スイッチを押します。リセット画面が表示されるので、［はい］を選択し、再度ステアリングスイッチの<OK>スイッチを押すとリセットされます。

■ 時計

走行中は操作できません。

項目 1	項目 2	機能
表示		● 時計表示のON・OFFを設定します。 時計（➔P.49）

項目 1	項目 2	機能
時計設定モード	自動	● GPSからの情報を使って自動で時刻を設定します。
	手動	● ［時計設定］から手動で時刻を設定します。
時間表示		● ＜OK＞スイッチを押すと12時間表示、24時間表示を切り替えます。
時計設定		● 時計を設定します。 ① ＜OK＞スイッチを押すと「時」調整画面に切り替わります。 ② ＜OK＞スイッチを回して「時」を調整します。 ③ ＜OK＞スイッチを押すと「分」調整画面に切り替わります。 ④ ＜OK＞スイッチを回して「分」を調整します。 ⑤ ＜OK＞スイッチを押すと時刻が設定されます。 （＜◀＞スイッチを押すと前の調整画面に戻ります）

■ **車両設定**

走行中は操作できません。

項目 1	項目 2	機能
ライト/照明	ウエルカムヘッドライト	● ウェルカムライト機能のON・OFFを設定します。 ウェルカムライト機能（フェアウェル機能付）（➔P.204）
	室内間接照明★	● スライドドア内側にある間接照明の明るさを5段階+OFFで設定できます。 アンビエントライト★（➔P.361）
	オートライト感度調整★	● インテリジェント オートライトシステム（フロントワイパー連動、薄暮れ感知「おもいやりライト」機能付）の点灯タイミングを、［より早い］、［早い］、［標準］、［遅い］から選択します。 ➔AUTO（自動点灯・消灯）の使いかた（P.198）

アドバンスドドライブアシストディスプレイ（メータータイプ(A)）

項目 1	項目 2	機能
ロック	keyエントリー	● ドアにあるスイッチでの施錠・解錠機能のON・OFFを設定します。 ➔インテリジェントキー機能による施錠・解錠のしかた (P.132)
	オートドアアンロック	● 自動で解錠される機能のON・OFFを設定します。 ［シフト連動］：シフトポジションをPに切り替えると解錠されます。 ［パワーOFF連動］：＜パワースイッチ＞をOFFにすると解錠されます。 ［OFF］：オートドアアンロックをOFFにします。 オートドアアンロック（➔P.132）
	降車時オートロック	● 降車時オートロック機能のON・OFFを設定します。 降車時オートロック機能（➔P.128）
	接近時アンロック	● 接近時アンロック機能のON・OFFを設定します。 接近時アンロック機能（➔P.128）
ワイパー	車速連動★	● 車速連動機能のON・OFFを設定します。 ➔フロントワイパーの使いかた (P.206)
	雨滴感知★	● 雨滴感知機能のON・OFFを設定します。 ➔フロントワイパーの使いかた (P.206)
	リバース連動	● リバース連動機能のON・OFFを設定します。 ➔リヤワイパーの使いかた (P.208)
	ドリップ拭き取り	● ドリップ拭き取り機能のON・OFFを設定します。 ➔ウォッシャーの使いかた (P.209)

項目 1	項目 2	機能
ドアミラー	自動開閉OFF	● ドアロック連動格納機能がOFFになります。 ➔ ドアロック連動格納機能について (P.166)
	パワーON連動	● ドアロック連動格納機能がONになります。また、<パワースイッチ>をONにしたときにドアミラーが開く設定になります。 ➔ ドアロック連動格納機能について (P.166)
	ドアアンロック連動	● ドアロック連動格納機能がONになります。また、リモコンキーまたは、ドアにあるスイッチで解錠すると、ドアミラーが開く設定になります。 ➔ ドアロック連動格納機能について (P.166)
オートスライドドア	閉作動中ブザー	● オート閉作動中のブザーのON・OFFを設定します。 ➔ オートスライドドアについて (P.137)

■ メンテナンス

走行中は操作できません。

項目	機能
オイル交換時期	● 車両システムが自動で設定したエンジンオイル交換までの距離を表示します。 — エンジンオイル交換までの距離は、走行状況に応じてシステムにより自動で設定されます。手動で設定することはできません。 — エンジンオイル交換後は、必ず表示をリセットしてください。リセットするときは、この画面を表示中にステアリングスイッチの<OK>スイッチを押すとリセット画面が表示されます。［はい］を選択し、再度<OK>スイッチを押すと走行した距離をリセットできます。 アドバイス ● エンジンオイル交換時以外にリセットはしないでください。

項目	機能
オイル/オイルフィルター タイヤ ユーザー	● 次回メンテナンスを行うまでの距離を設定できます。設定値を超えるとメンテナンスする距離がきたことを表示で知らせます。（定期交換部品などの交換距離については、別冊のメンテナンスノートをお読みください） — ＜OK＞スイッチを回すと距離が切り替わり、＜OK＞スイッチを押すと決定します。（＜ ◀ ＞スイッチを押すと設定前の画面に戻ります） — 500km～30,000kmまでの範囲内で距離を設定できます。 — 設定距離は500km単位で切り替わります。 — ［リセット］を選択して＜OK＞スイッチを押すとリセット画面が表示されます。［はい］を選択し、再度＜OK＞スイッチを押すと走行した距離をリセットできます。 ● 機能を停止することができます。 — 停止する場合は、距離表示を［---］に合わせ＜OK＞スイッチを押し決定します。

■ 画面カスタマイズ

走行中は操作できません。

項目 1	項目 2	項目 3	機能
メインメニュー選択			● 車両情報画面で表示させたい項目を選択することができます。 ➔ 車両情報画面（P.65）
ナビゲーション設定	自動割込み設定		● 走行中、次の右左折点に接近したとき、メーター内にポップアップでお知らせする機能のON・OFFを設定します。
クルーズ画面切替			● クルーズ画面切替のON・OFFを設定します。 ONにするとプロパイロットのシステムをONにしたとき、画面がクルーズ画面に切り替わります。 ➔ プロパイロット（P.229）

アドバンスドドライブアシストディスプレイ（メータータイプ(A)）

項目 1	項目 2	項目 3	機能
メーター演出	アニメーション		● ディスプレイ演出のON・OFFを設定します。OFFにすると、e-POWERシステム始動時のアニメーションがOFFになります。
	サウンド		● ディスプレイ演出のON・OFFを設定します。OFFにすると、e-POWERシステム始動時および停止時のサウンドがOFFになります。
オペレーションガイダンス	ライト		● ライトスイッチを回したとき、スイッチ位置をメーター内にポップアップで表示する機能のON・OFFを設定します。
	ワイパー	フロント	● ワイパースイッチを動かしてフロントワイパーを作動させたときに、スイッチ位置をメーター内にポップアップで表示する機能のON・OFFを設定します。
		リア	● ワイパースイッチを動かしてリヤワイパーを作動させたときに、スイッチ位置をメーター内にポップアップで表示する機能のON・OFFを設定します。
	アダプティブヘッドライト		● ライトスイッチが<AUTO>の位置以外でアダプティブLEDヘッドライトシステムのスイッチを押したときに、オペレーションガイダンスをメーター内にポップアップで表示する機能のON・OFFを設定します。 アダプティブLEDヘッドライトシステム（➔P.202）

■ 単位／言語

走行中は操作できません。

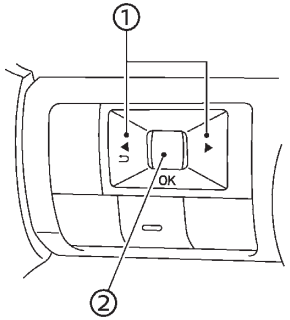
項目	機能
距離/燃費	● 距離と燃費の表示単位をkm、 km/lまたはkm、 l/100kmに切り替えます。
温度	● 温度の単位を ℃ または ℉ に切り替えます。
言語	● 表示言語を日本語またはEnglishに切り替えます。

■ 工場出荷設定

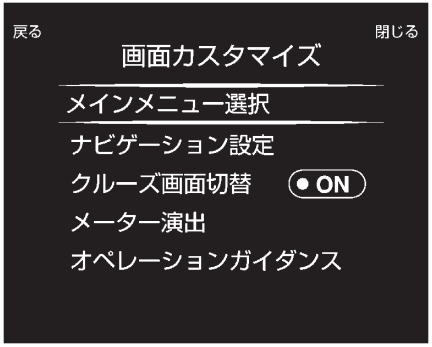
走行中は操作できません。

機能
工場出荷時の設定にリセットすることができます。 ● ［はい］を選択すると、各種設定が初期化されます。

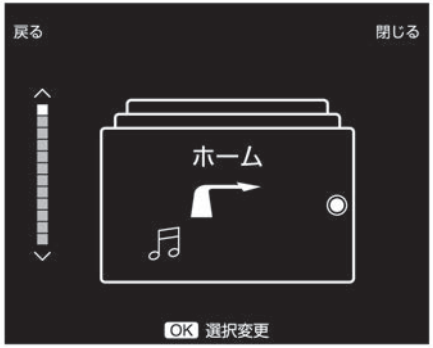
設定例 1（メインメニュー選択）



1. ステアリングスイッチの＜◀▶＞スイッチ①を数回押し、設定［ ⚙ ］画面を表示して＜OK＞スイッチ②を押します。
2. ステアリングスイッチの＜OK＞スイッチ②を回して、［画面カスタマイズ］を選択し、＜OK＞スイッチ②を押して決定します。



3. ステアリングスイッチの＜OK＞スイッチ②を回して、［メインメニュー選択］を選択し、＜OK＞スイッチ②を押して決定します。

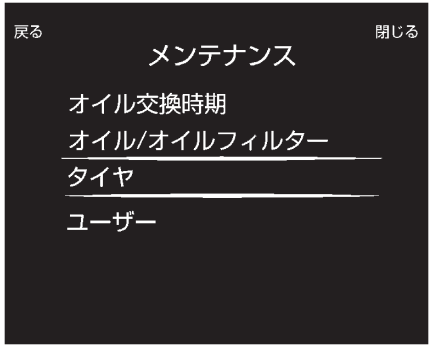


4. 表示させたい項目を、ステアリングスイッチの＜OK＞スイッチ②を回して選択し、＜OK＞スイッチ②を押して選択すると表示できるようになります。

設定例 2（タイヤ）

1. ステアリングスイッチの＜◀▶＞スイッチ①を数回押し、設定［ ⚙ ］画面を表示して＜OK＞スイッチ②を押します。
2. ステアリングスイッチの＜OK＞スイッチ②を回して、［メンテナン

ス］を選択し、<OK>スイッチ②を押して決定します。



3. ステアリングスイッチの<OK>スイッチ②を回して、［タイヤ］を選択し、<OK>スイッチ②を押して決定します。
4. タイヤ画面でステアリングスイッチの<OK>スイッチ②を押して、次回メンテナンスを行う距離の設定画面に進みます。（［---km/---km］の右側の表示）
※左側の表示は、設定後に走行した距離を表示します。
リセットを選択してステアリングスイッチの<OK>スイッチ②を押すと走行した距離をリセットできます。（［---km /---km］の左側の表示）
5. ステアリングスイッチの<OK>スイッチ②を回して距離を切り替え、<OK>スイッチ②を押して決定します。
設定距離は500km単位で切り替わります。
※機能を停止する場合は、距離表示を［---］に合わせ<OK>スイッチ②を押して決定します。

その他の表示機能

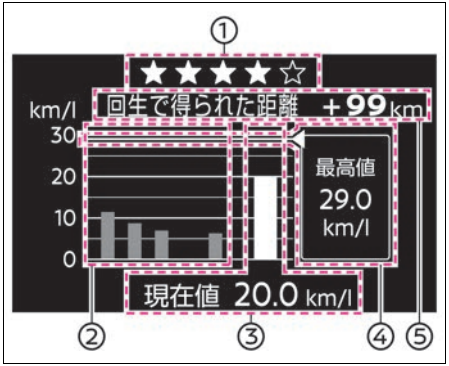
ソナー表示

● 車両が障害物に近づくと、アドバンスドドライブアシストディスプレイのソナー表示色が緑→黄（オレンジ）→赤の順に切り替わり、警報音（ブザー）が鳴ります。

表示色	警報音
緑	ピッ、ピッ、ピッ・・・
黄（オレンジ）	ピピピピピ・・・
赤	ピー

● 次の場合にソナー機能が作動します。
— シフトポジションをRにしたとき
— シフトポジションがDまたはBで障害物を検知したとき（約10km/h以下）
● ソナー表示中にステアリングスイッチの<OK>スイッチ、<◀▶>スイッチを押す、または<OK>スイッチを回すと一時的にソナー機能を停止できます。
● ただし次の場合は、一時停止が解除されます。
— シフトポジションをN、Pにしたとき
— 約12km/h以上で走行したとき
● ソナーについては、（➔P.324）をお読みください。
● アドバンスドドライブアシストディスプレイで設定［ ⚙ ］⇒［運転支援］⇒［駐車支援］を選択すると、ソナー機能の各種設定が行えます。
設定の詳細については、運転支援（➔P.80）をお読みください。
● ソナーが障害物を検知すると、ソナー画面が割り込み表示します。割り込み表示はOFFにすることができます。
➔運転支援（P.80）
● ソナーのお手入れについては、（➔P.476）をお読みください。
● 障害物の検知は前方4個、後方4個のソナーセンサーを使用して検知をします。

エコドライブレポートについて



<パワースイッチ>をOFFにすると、エコドライブレポート画面を表示します。
今回の評価などの結果表示は、約10分以上走行したときに表示します。

① **今回の評価**
エコドライブするほど★が増えます。

② **履歴**
過去5回分の平均燃費を表示します。

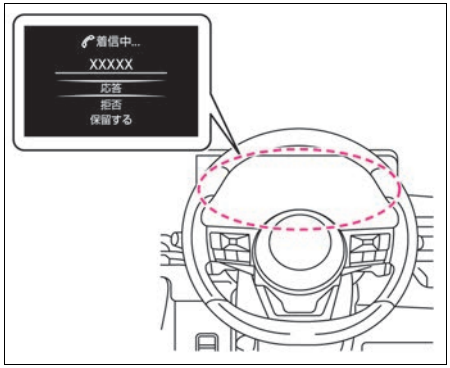
③ **現在値**
今回の平均燃費を表示します。

④ **最高値**
過去のベスト燃費を表示します。

⑤ **回生で得られた距離**
今回の走行で回生した電力量を距離換算で表示します。

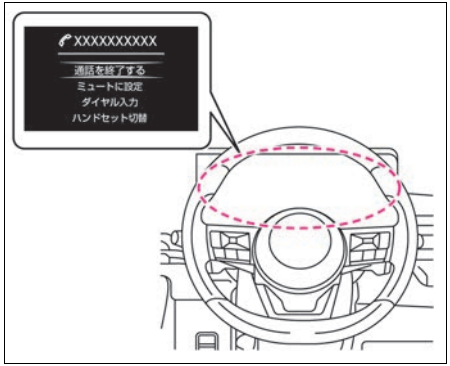
● アドバンスドドライブアシストディスプレイで設定［ ⚙ ］⇒［エコ］⇒［エコ情報設定］⇒［エコドライブレポート］を選択すると、エコドライブレポートの表示・非表示を切り替えることができます。
設定の詳細については、エコ（➔P.85）をお読みください。

着信表示



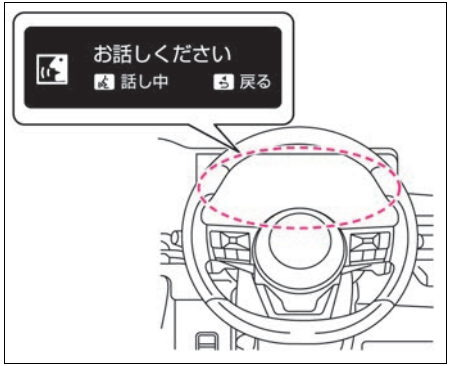
● 携帯電話をハンズフリー接続しているときに、着信すると表示します。
ハンズフリーフォンについては、別冊のナビゲーションシステム取扱説明書をお読みください。

通話表示



● 携帯電話をハンズフリー接続しているときに、通話すると表示します。
ハンズフリーフォンについては、別冊のナビゲーションシステム取扱説明書をお読みください。

音声操作表示

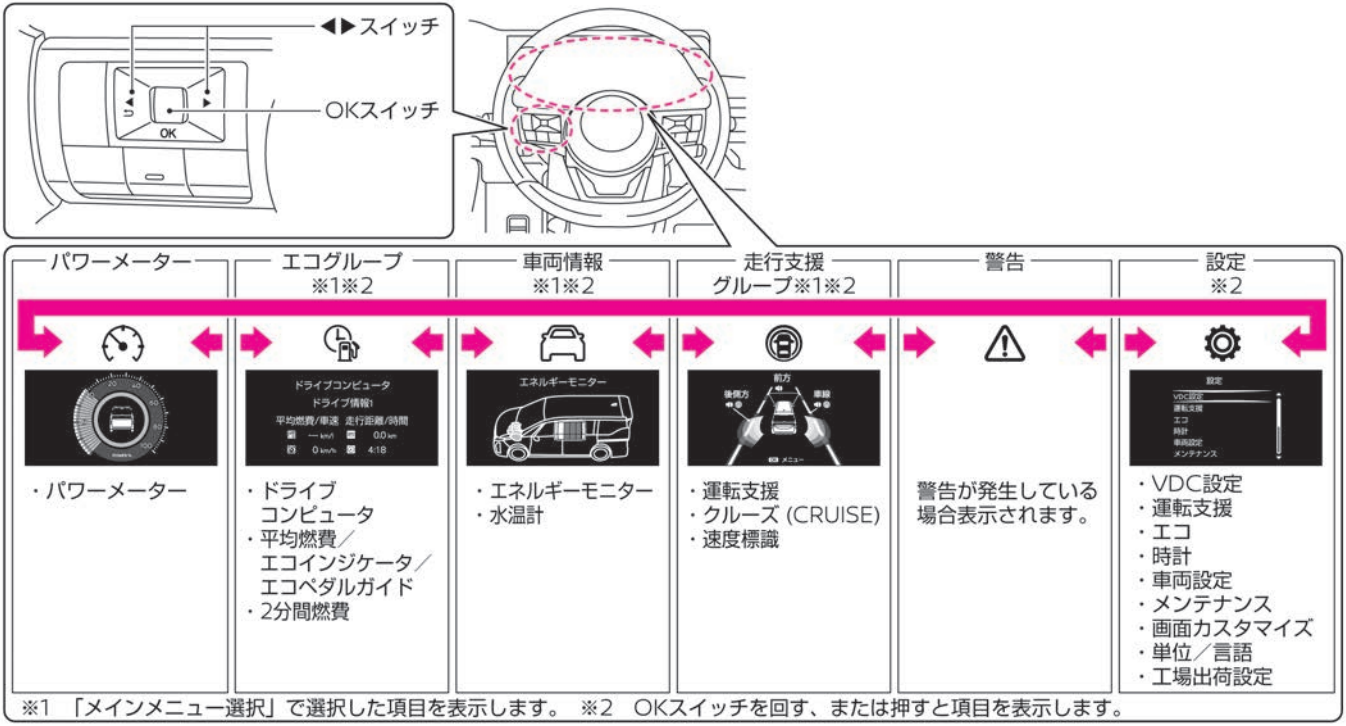


● メーカーオプションナビゲーションシステムで音声操作を行うと、アドバンスドドライブアシストディスプレイに音声操作表示をします。
音声操作については、別冊のナビゲーションシステム取扱説明書をお読みください。

アドバンスドドライブアシストディスプレイ（メータータイプ(B)）

アドバンスドドライブアシストディスプレイとは（メインメニュー）

アドバンスドドライブアシストディスプレイで、様々な機能の作動状態を表示したり、設定したりすることができます。<パワースイッチ>がONのとき、ステアリングスイッチの<◀▶>スイッチを押すと、パワーメーター、エコグループ、車両情報、走行支援グループ、警告、設定の順で表示項目が切り替わります。車種により表示できる項目が異なる場合があります。

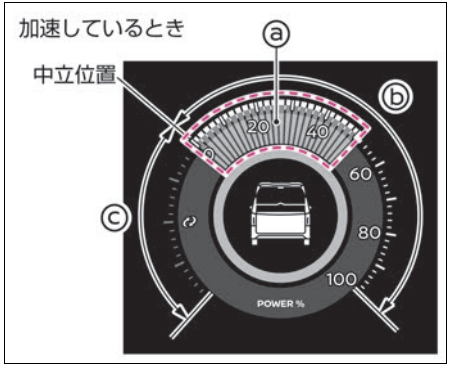


車両情報画面

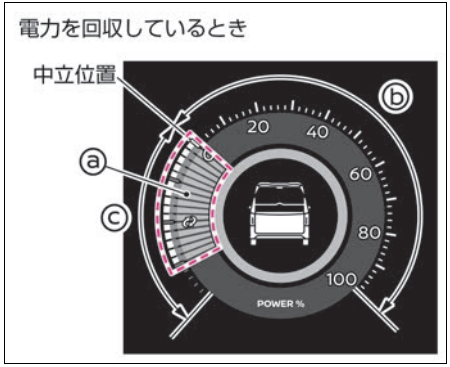
様々な車両情報を表示したり、各種設定をしたりすることができます。

パワーメーター

走行中の出力（加速力）と回生量（電力の回収量）を表示します。



- 一定の速度で走行しているときや加速しているときは、ゲージⓐが中立位置より右側ⓑに表示されます。
- 急加速など、より多くの電力を消費しているときほど、ゲージⓐが右側ⓑに増えていきます。



- 電力を回収しているときは、ゲージⓐが中立位置から左側ⓒに増えます。ゲージⓐが左側ⓒに増えると、多くの電力を回収していることを表します。

知識

- アドバンスドドライブアシストディスプレイで設定［ ⚙ ］⇒［画面カスタマイズ］⇒［パワーメーター車両表示］を選択すると、パワーメーター内に車両を表示することができます。設定の詳細については、画面カスタマイズ（➔P.113）をお読みください。
- ブレーキランプが点灯しているときは、メーター内のブレーキランプも点灯します。

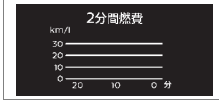
エコグループ

<パワースイッチ>がONのとき、ステアリングスイッチの<◀▶>スイッチでエコグループ［ ］を選択し、<OK>スイッチを回すと項目が切り替わります。ステアリングスイッチの使いかたは（➔P.95）をお読みください。

アドバンスドドライブアシストディスプレイで設定［ ］⇒［画面カスタマイズ］⇒［メインメニュー選択］で選択していると表示します。

画面表示	項目	概要	詳細説明
	ドライブコンピュータ	● ドライブコンピュータを表示します。ステアリングスイッチの<OK>スイッチを押すと［ドライブ情報1］、［ドライブ情報2］、［給油後ドライブ情報］の順で画面が切り替わります。 表示している情報をリセットするときは、リセットしたい画面を表示中にステアリングスイッチの<OK>スイッチを長押しします。その後リセットメニューからリセットする項目を選択し、再度ステアリングスイッチの<OK>スイッチを押します。リセット画面が表示されるので、［はい］を選択し、再度ステアリングスイッチの<OK>スイッチを押すとリセットされます。 画面の切り替えかたについては（➔P.95）をお読みください。	● ドライブコンピュータの項目 — 平均燃費 — 平均車速 — 走行距離 — 走行時間 ● ドライブコンピュータの平均燃費をリセットすると、エコペダルガイドの平均燃費も連動してリセットされます。

アドバンスドドライブアシストディスプレイ（メータータイプ(B)）

画面表示	項目	概要	詳細説明
 	平均燃費／エコインジケータ／エコペダルガイド	● ドライブモードがECOのときに表示します。 ① リセットしてからの平均燃費を表示します。ステアリングスイッチの<OK>スイッチを押すと［ドライブ情報1］、［ドライブ情報2］、［給油後ドライブ情報］の順で画面が切り替わります。 表示している情報をリセットするときは、リセットしたい画面を表示中にステアリングスイッチの<OK>スイッチを長押しします。リセット画面が表示されるので、［はい］を選択し、再度ステアリングスイッチの<OK>スイッチを押すとリセットされます。 画面の切り替えかたについては（➔P.95）をお読みください。 ② アドバンスドドライブアシストディスプレイで設定［ ⚙ ］⇒［エコ］⇒［エコ情報設定］⇒［エコインジケータ］の設定をONにしているとき、アクセルペダル操作に応じてエコインジケータが3段階で点灯します。 ③ 走行しているとき、アクセルペダルの踏み加減を表示します。	● ➔ ドライブモードセレクター(P.213) ● 平均燃費は、12Vバッテリー交換後やリセット後は［---］と表示します。 ● 平均燃費は約30秒ごとに更新されます。 ● 平均燃費をリセットすると、ドライブコンピュータの平均燃費も連動してリセットされます。 ● エコインジケータ、エコペダルガイドの詳細については、エコインジケータ（➔P.99）、エコペダルガイド（➔P.99）をお読みください。
	2分間燃費	● 2分ごとの平均燃費を、最大20分前まで棒グラフで表示します。	—

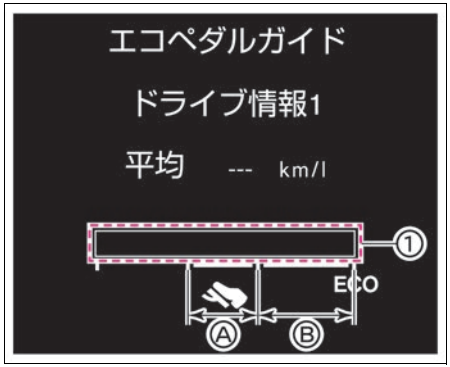
■ エコインジケータ

- アドバンスドドライブアシストディスプレイでエコペダルガイドを表示して走行しているとき、アクセルペダル操作に応じてエコインジケータ①が3段階で点灯します。
- エコドライブするほど、点灯範囲が大きくなります。
- アドバンスドドライブアシストディスプレイで設定［ ⚙ ］⇒［エコ］⇒［エコ情報設定］⇒［エコインジケータ］を選択すると、エコインジケータのON・OFFを切り替えられます。

➲ エコ (P.109)

- シフトポジションがRのときは、点灯しません。

■ エコペダルガイド

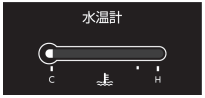


- アドバンスドドライブアシストディスプレイでエコペダルガイドを表示して走行しているとき、アクセルペダルの踏み加減を①に表示します。
- アクセルペダルの踏み加減をエコ運転領域Ⓐに入るように調整することで、燃費向上につながります。
  アクセルペダルの踏み加減をⒷの範囲内に調整することでさらなる燃費向上につながります。
- シフトポジションがRのときは、点灯しません。

車両情報

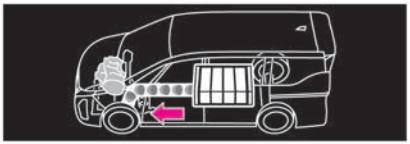
<パワースイッチ>がONのとき、ステアリングスイッチの<◀▶>スイッチで車両情報［ 🚗 ］を選択し、<OK>スイッチを回すと項目が切り替わります。ステアリングスイッチの使いかたは（➲P.95）をお読みください。

アドバンスドドライブアシストディスプレイで設定［ ⚙ ］⇒［画面カスタマイズ］⇒［メインメニュー選択］で選択していると表示します。

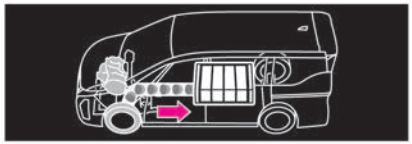
画面表示	項目	概要	詳細説明
	エネルギーモニター	● エンジン、リチウムイオンバッテリーおよびタイヤ間のエネルギーの流れを表示します。 画面は実際の表示とは異なる場合があります。	● エンジンからの矢印は、エンジンで発電したエネルギーが流れている状態を示すものです。 ● e-POWERシステムでは、発電しなくてもエンジンが作動することがあります。発電していないときは矢印は表示されません。 ● ブレーキランプが点灯しているときは、エネルギーモニター内のブレーキランプも点灯します。
	水温計	● エンジン冷却水の温度を表示します。	⚠ 警告 ● **オーバーヒートを示したときは、ただちに安全な場所に車を停めて処置をする。** そのまま走行を続けると、エンジン故障の原因となり、火災につながるおそれがあります。 詳しくは、➲オーバーヒートしたときは(P.452)をお読みください。

■ エネルギーモニター

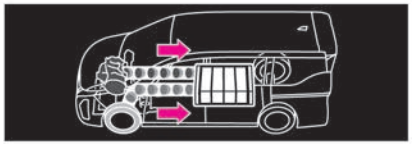
エネルギーモニター（2WD車）



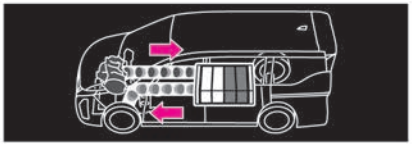
・リチウムイオンバッテリーに蓄えられたエネルギーを使って走行している状態



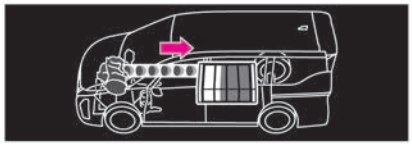
・回生ブレーキを使ってリチウムイオンバッテリーを充電している状態



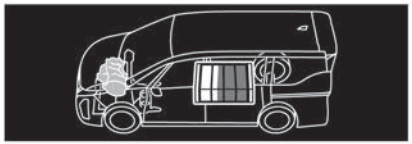
・エンジンと回生ブレーキ、両方のエネルギーで充電している状態



・エンジンで発電したエネルギーで、走行と充電の両方をしている状態
・エンジンで発電したエネルギーとリチウムイオンバッテリーに蓄えられたエネルギー、両方を使って走行している状態
・エンジンで発電したエネルギーを使って走行している状態



・エンジンで発電したエネルギーで、リチウムイオンバッテリーを充電している状態



・エネルギーの流れがない状態

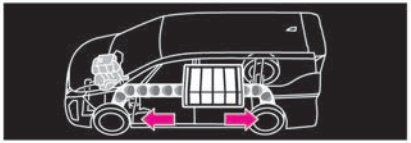
エンジン表示色

灰色：エンジンが燃料を消費していない状態
橙色：エンジンが燃料を消費している状態

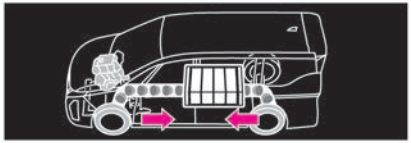
バッテリー表示色

青色：バッテリー残量が通常状態
・バッテリー残量を表示します。
黄色：バッテリー残量が低下状態
・バッテリー残量が低下すると、青色から黄色に表示色が変わります。（バッテリー残量が少ないときは、通常よりも駆動出力が低下することがあります。）

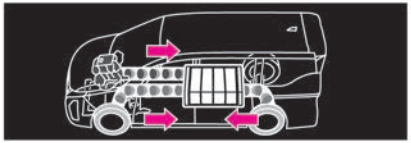
エネルギーモニター (e-4ORCE (4WD) 車)



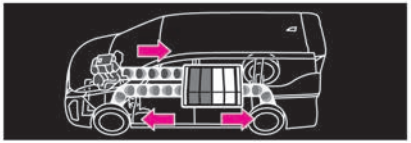
・リチウムイオンバッテリーに蓄えられたエネルギーを使って走行している状態
・2WD状態のときは、リア側のエネルギーの流れは表示されません。



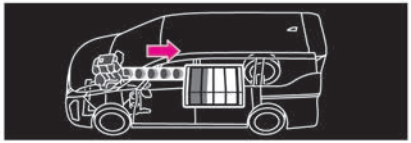
・回生ブレーキを使ってリチウムイオンバッテリーを充電している状態
・2WD状態のときは、リア側のエネルギーの流れは表示されません。



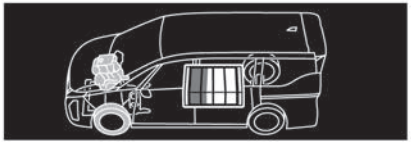
・エンジンと回生ブレーキ、両方のエネルギーで充電している状態
・2WD状態のときは、リア側のエネルギーの流れは表示されません。



・エンジンで発電したエネルギーで、走行と充電の両方をしている状態
・エンジンで発電したエネルギーとリチウムイオンバッテリーに蓄えられたエネルギー、両方を使って走行している状態
・エンジンで発電したエネルギーを使って走行している状態
・2WD状態のときは、リア側のエネルギーの流れは表示されません。



・エンジンで発電したエネルギーで、リチウムイオンバッテリーを充電している状態



・エネルギーの流れがない状態

エンジン表示色

灰色：エンジンが燃料を消費していない状態
橙色：エンジンが燃料を消費している状態

バッテリー表示色

青色：バッテリー残量が通常状態
・バッテリー残量を表示します。
黄色：バッテリー残量が低下状態
・バッテリー残量が低下すると、青色から黄色に表示色が変わります。(バッテリー残量が少ないときは、通常よりも駆動出力が低下することがあります。)

走行支援グループ（表示項目）

<パワースイッチ>がONのとき、ステアリングスイッチの<◀▶>スイッチで走行支援グループ［⑧］を選択し、<OK>スイッチを回すと項目が切り替わります。ステアリングスイッチの使いかたは（➔P.95）をお読みください。

アドバンスドドライブアシストディスプレイで設定［ ⚙ ］⇒［画面カスタマイズ］⇒［メインメニュー選択］で選択していると表示します。

画面表示	項目	概要	詳細説明
	運転支援	● 運転支援システムのON・OFF状態を表示します。 ● 運転支援システムで各機能の状態を表示します。詳細は➔運転支援ステータス画面（P.243）をお読みください。 ● この画面を表示中に、ステアリングスイッチの<OK>スイッチを押すと、走行支援システムのメニュー画面を表示し、各システムのON・OFFを設定できます。詳しくは運転支援（➔P.106）の中の該当項目をお読みください。	● 詳しくは、各走行支援システムの説明をお読みください。 — ➔インテリジェント エマージェンシーブレーキ（P.276） — ➔踏み間違い衝突防止アシスト（P.283） — ➔衝突回避ステアリングアシスト（P.282） — ➔BSW（後側方車両検知警報）／インテリジェント BSI（後側方衝突防止支援システム）（P.289） — ➔LDW（車線逸脱警報）／インテリジェント LI（車線逸脱防止支援システム）（P.298） — ➔インテリジェント FCW（前方衝突予測警報）（P.302）

アドバンスドドライブアシストディスプレイ（メータータイプ(B)）

画面表示	項目	概要	詳細説明
	クルーズ（CRUISE）	● プロパイロットの作動状態を表示します。ステアリングスイッチの<プロパイロットスイッチ>を押すと、運転支援画面を表示してから数秒後にクルーズ画面に切り替わります。 ● この画面を表示中に、ステアリングスイッチの<OK>スイッチを押すと、プロパイロットのメニュー画面を表示し、ハンドル支援のON・OFFを設定できます。	● プロパイロットについては、（➔P.229）をお読みください。 ● <ハンドル支援スイッチ>でもハンドル支援のON・OFFを切り替えることができます。 ➔プロパイロットに関連するスイッチ(P.235) ● ブレーキランプが点灯しているときは、メーター内のブレーキランプも点灯します。
	速度標識	● 最高速度標識／はみ出し通行禁止標識の検知状態を表示します。	● 最高速度標識検知／はみ出し通行禁止標識検知については、（➔P.309）をお読みください。

警告

警告について

●異常を検知するとマスターウォーニング［ ⚠ ］が点灯し、アドバンスドドライブアシストディスプレイに警告を表示します。
警告を一時的に消すときは、<OK>スイッチを押します。

●警告が表示されたときは、すみやかに適切な処置をしてください。放置すると故障や思わぬ事故につながるおそれがあります。

確認のしかた

異常を検知している場合は、<パワースイッチ>がONのときにステアリングスイッチの<◀▶>スイッチで警告［ ⚠ ］を選択すると、異常を検知している警告が確認できます。

警告メッセージの表示画面については、（➔P.418）をお読みください。

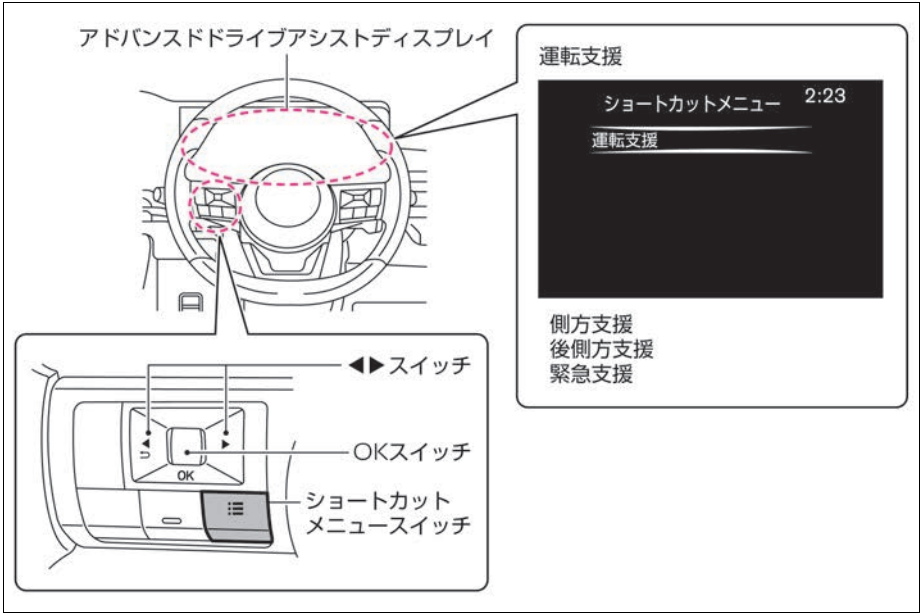
ステアリングスイッチの使いかたは（➔P.95）をお読みください。

アドバンスドドライブアシストディスプレイ（メータータイプ(B)）

アドバンスドドライブアシストディスプレイとは（ショートカットメニュー）

＜パワースイッチ＞がONのとき、ステアリングスイッチの＜ ☰ ＞スイッチを押すと、運転支援の設定画面をすばやく表示することができます。

画面の切り替えかた（ショートカットメニュー）



各種設定画面

運転支援システムのON・OFF設定をはじめ、時計の調整やアラームの設定などができます。

ステアリングスイッチの使いかたは（➔P.95）をお読みください。

設定（各種設定画面）

各種設定画面では、次の機能の設定ができます。ステアリングスイッチの<◀▶>スイッチで設定［ ⚙ ］を表示し、<OK>スイッチを押して設定画面を表示させ<OK>スイッチを回して選択します。<OK>スイッチを押して決定することができます。

➔設定例1（メインメニュー選択）（P.115）

➔設定例2（タイヤ）（P.116）

■ VDC設定

項目	機能
システム	● VDC機能のON・OFFを設定します。 ➔VDCのON・OFFのしかた（P.219）

■ 運転支援

項目 1	項目 2	機能
ハンドル支援		● ハンドル支援のON・OFFを設定します。 ➔車線維持機能（ハンドル支援）について（P.249）
側方支援	車線逸脱警報	● LDW（車線逸脱警報）のON・OFFを設定します。 ➔LDW（車線逸脱警報）／インテリジェントLI（車線逸脱防止支援システム）（P.298）
	車線逸脱防止支援	● インテリジェントLI（車線逸脱防止支援システム）のON・OFFを設定します。 ➔LDW（車線逸脱警報）／インテリジェントLI（車線逸脱防止支援システム）（P.298）

アドバンスドドライブアシストディスプレイ（メータータイプ(B)）

項目 1	項目 2	機能
後側方支援	後側方車両検知警報	● BSW（後側方車両検知警報）のON・OFFを設定します。 ➔ BSW（後側方車両検知警報）／インテリジェント BSI（後側方衝突防止支援システム）（P.289）
	後側方衝突防止支援	● インテリジェント BSI（後側方衝突防止支援システム）のON・OFFを設定します。 ➔ BSW（後側方車両検知警報）／インテリジェント BSI（後側方衝突防止支援システム）（P.289）
緊急支援	前方衝突防止支援	● インテリジェント エマージェンシーブレーキ、衝突回避ステアリングアシスト、インテリジェント FCW（前方衝突予測警報）のON・OFFを設定します。 ➔ インテリジェント エマージェンシーブレーキ（P.276） ➔ 衝突回避ステアリングアシスト（P.282） ➔ インテリジェント FCW（前方衝突予測警報）（P.302）
	踏み間違い衝突防止支援	● 踏み間違い衝突防止アシストのON・OFFを設定します。 ➔ 踏み間違い衝突防止アシスト（P.283）
先行車発進お知らせ		● 先行車発進お知らせの設定を、［OFF］、［遅め］、［標準］、［早め］から選択します。 ➔ 先行車発進お知らせ（P.315）
速度標識表示		● 最高速度標識検知／はみ出し通行禁止標識検知のON・OFFを設定します。 ➔ 標識検知機能（P.309）
標識検知支援		● 進入禁止標識検知／一時停止標識検知のON・OFFを設定します。 ➔ 標識検知機能（P.309）

☆／★：車両型式、オプションなどで異なる装備

アドバンスドドライブアシストディスプレイ（メータータイプ(B)）

項目 1	項目 2	機能
駐車支援	移動物検知★	● 移動物 検知のON・OFFを設定します。 移動物 検知機能について（➔P.323）
	ソナー自動表示	● 障害物に近づいたときの、割り込み表示のON・OFFを設定します。 ➔ソナー表示（P.116）
	前方ソナー	● フロントソナーのON・OFFを設定します。 ➔ソナー表示（P.116）
	後方ソナー★	● リヤソナーのON・OFFを設定します。 ➔ソナー表示（P.116）
	ソナー検知距離	● ソナー検知距離を［遠］、［中］、［近］から選択します。障害物までの最長距離が110%（［遠］）、100%（［中］）、90%（［近］）で変更できます。［中］を選択したときの障害物までの最長距離は、（➔P.324）をご参照ください。 ➔ソナー表示（P.116）
	ソナー音量	● ボリューム（警告音（ブザー））を、［大］、［中］、［小］から選択します。 ➔ソナー表示（P.116）
後退時車両検知警報		● RCTA（後退時車両検知警報）のON・OFFを設定します。 ➔RCTA（後退時車両検知警報）（P.305）
ふらつき警報		● インテリジェント DA（ふらつき警報）のON・OFFを設定します。 ➔インテリジェント DA（ふらつき警報）（P.308）

項目 1	項目 2	機能
走行時間	---分／---分	● 設定した時間まで連続走行したことをお知らせします。 ＜OK＞スイッチを回すと分が切り替わり、 ＜OK＞スイッチを押すと決定します。 — 最大360分まで設定できます — 設定時間は30分単位で切り替わります （＜◀＞スイッチを押すと設定前の画面に戻ります）
	リセット	● ［はい］を選択すると、走行した時間をリセットできます。
凍結注意		● 外気温が3℃以下になったときに表示する凍結注意表示のON・OFFを設定します。

■ エコ

走行中は操作できません。

項目 1	項目 2	機能
エコモード設定	クルーズコントロール	● ドライブモードがECOのとき、燃費を優先する機能に設定するかしないかを、項目ごとにON・OFF設定することができます。 ➔ ドライブモードについて（P.214）
	空調	
エコ情報設定	エコインジケータ	● エコインジケータのON・OFFを設定します。 OFFにすると、エコインジケータが表示されなくなります。 エコインジケータ（➔P.99）
	エコドライブレポート	● エコドライブレポートのON・OFFを設定します。 OFFにすると、エコドライブレポートが表示されなくなります。 エコドライブレポート（➔P.117）
燃費履歴リセット		● 燃費履歴画面を表示します。 ● リセットするときは、この画面を表示中にステアリングスイッチの＜OK＞スイッチを押します。リセット画面が表示されるので、［はい］を選択し、再度ステアリングスイッチの＜OK＞スイッチを押すとリセットされます。

■ 時計

走行中は操作できません。

項目	機能
表示	● 時計表示のON・OFFを設定します。 時計（➔P.49）
時計設定	● 時計を設定します。 ① <OK>スイッチを押すと「時」調整画面に切り替わります。 ② <OK>スイッチを回して「時」を調整します。 ③ <OK>スイッチを押すと「分」調整画面に切り替わります。 ④ <OK>スイッチを回して「分」を調整します。 ⑤ <OK>スイッチを押すと時刻が設定されます。 （<◀>スイッチを押すと前の調整画面に戻ります）
時間表示	● <OK>スイッチを押すと12時間表示、24時間表示を切り替えます。

■ 車両設定

走行中は操作できません。

項目 1	項目 2	機能
ライト/照明	ウエルカムヘッドライト	● ウェルカムライト機能のON・OFFを設定します。 ウェルカムライト機能（フェアウェル機能付）（➔P.204）
	オートライト感度調整	● インテリジェント オートライトシステム（フロントワイパー連動、薄暮れ感知「おもいやりライト」機能付）の点灯タイミングを、［より早い］、［早い］、［標準］、［遅い］から選択します。 ➔AUTO（自動点灯・消灯）の使いかた (P.198)
ロック	keyエントリー	● ドアにあるスイッチでの施錠・解錠機能のON・OFFを設定します。 ➔インテリジェントキー機能による施錠・解錠のしかた (P.132)
	オートドアアンロック	● 自動で解錠される機能のON・OFFを設定します。 ［シフト連動］：シフトポジションをPに切り替えると解錠されます。 ［パワーOFF連動］：＜パワースイッチ＞をOFFにすると解錠されます。 ［OFF］：オートドアアンロックをOFFにします。 オートドアアンロック（➔P.132）
	降車時オートロック	● 降車時オートロック機能のON・OFFを設定します。 降車時オートロック機能（➔P.128）
	接近時アンロック	● 接近時アンロック機能のON・OFFを設定します。 接近時アンロック機能（➔P.128）

アドバンスドドライブアシストディスプレイ（メータータイプ(B)）

項目 1	項目 2	機能
ワイパー	車速連動	● 車速連動機能のON・OFFを設定します。 ➔ フロントワイパーの使いかた (P.206)
	リバース連動	● リバース連動機能のON・OFFを設定します。 ➔ リヤワイパーの使いかた (P.208)
	ドリップ拭き取り	● ドリップ拭き取り機能のON・OFFを設定します。 ➔ ウォッシャーの使いかた (P.209)
ドアミラー	自動開閉OFF	● ドアロック連動格納機能がOFFになります。 ➔ ドアロック連動格納機能について (P.166)
	パワーON連動	● ドアロック連動格納機能がONになります。また、<パワースイッチ>をONにしたときにドアミラーが開く設定になります。 ➔ ドアロック連動格納機能について (P.166)
	ドアアンロック連動	● ドアロック連動格納機能がONになります。また、リモコンまたは、ドアにあるスイッチで解錠すると、ドアミラーが開く設定になります。 ➔ ドアロック連動格納機能について (P.166)
オートスライドドア★	閉作動中ブザー	● オート閉作動中のブザーのON・OFFを設定します。 ➔ オートスライドドアについて (P.137)

■ メンテナンス

走行中は操作できません。

項目	機能
オイルコントロールシステム	● 車両システムが自動で設定したエンジンオイル交換までの距離を表示します。 — エンジンオイル交換までの距離は、走行状況に応じてシステムにより自動で設定されます。手動で設定することはできません。 — エンジンオイル交換後は、必ず表示をリセットしてください。リセットするときは、この画面を表示中にステアリングスイッチの＜OK＞スイッチを押すとリセット画面が表示されます。［はい］を選択し、再度＜OK＞スイッチを押すと走行した距離をリセットできます。 アドバイス ● エンジンオイル交換時以外にリセットはしないでください。
オイル/オイルフィルター	● 次回メンテナンスを行うまでの距離を設定できます。設定値を超えるとメンテナンスする距離がきたことを表示で知らせます。（定期交換部品などの交換距離については、別冊のメンテナンスノートをお読みください） — ＜OK＞スイッチを回すと距離が切り替わり、＜OK＞スイッチを押すと決定します。（＜ ◀ ＞スイッチを押すと設定前の画面に戻ります） — 500km～30,000kmまでの範囲内で距離を設定できます。 — 設定距離は500km単位で切り替わります。 — ［リセット］を選択して＜OK＞スイッチを押すとリセット画面が表示されます。［はい］を選択し、再度＜OK＞スイッチを押すと走行した距離をリセットできます。 ● 機能を停止することができます。 — 停止する場合は、距離表示を［---］に合わせ＜OK＞スイッチを押し決定します。
タイヤ	
ユーザー	

■ 画面カスタマイズ

走行中は操作できません。

項目 1	項目 2	項目 3	機能
メインメニュー選択			● 車両情報画面で表示させたい項目を選択することができます。 ➔ 車両情報画面（P.96）

アドバンスドドライブアシストディスプレイ（メータータイプ(B)）

項目 1	項目 2	項目 3	機能
クルーズ画面切替			● クルーズ画面切替のON・OFFを設定します。ONにするとプロパイロットのシステムをONにしたとき、画面がクルーズ画面に切り替わります。 ➔ プロパイロット (P.229)
パワーメーター車両表示			● パワーメーター画面での車両の表示・非表示を設定します。
メーター演出	アニメーション		● ディスプレイ演出のON・OFFを設定します。OFFにすると、e-POWERシステム始動時のアニメーションがOFFになります。
	サウンド		● ディスプレイ演出のON・OFFを設定します。OFFにすると、e-POWERシステム始動時および停止時のサウンドがOFFになります。
オペレーションガイダンス	ライト		● ライトスイッチを回したとき、スイッチ位置をメーター内にポップアップで表示する機能のON・OFFを設定します。
	ワイパー	フロント	● ワイパースイッチを動かしてフロントワイパーを作動させたときに、スイッチ位置をメーター内にポップアップで表示する機能のON・OFFを設定します。
		リア	● ワイパースイッチを動かしてリヤワイパーを作動させたときに、スイッチ位置をメーター内にポップアップで表示する機能のON・OFFを設定します。
	ハイビームアシスト		● ライトスイッチが＜AUTO＞の位置以外でハイビームアシストのスイッチを押したときに、オペレーションガイダンスをメーター内にポップアップで表示する機能のON・OFFを設定します。 ➔ ハイビームアシスト★ (P.200)

■ 単位／言語

走行中は操作できません。

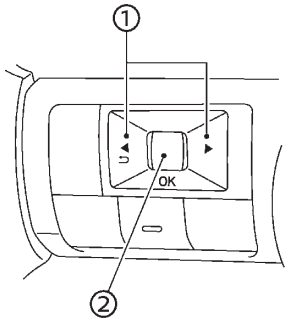
項目	機能
距離/燃費	● 距離と燃費の表示単位をkm, km/lまたはkm, l/100kmに切り替えます。
温度	● 温度の単位を ℃ または ℉ に切り替えます。
言語	● 表示言語を日本語またはEnglishに切り替えます。

■ 工場出荷設定

走行中は操作できません。

機能
工場出荷時の設定にリセットすることができます。 ● ［はい］を選択すると、各種設定が初期化されます。

設定例 1（メインメニュー選択）



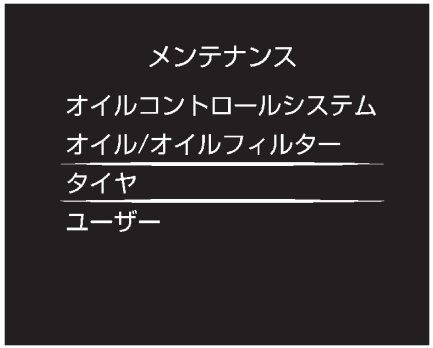
1. ステアリングスイッチの<◀▶>スイッチ①を数回押し、設定［ ⚙ ］画面を表示して<OK>スイッチ②を押します。
2. ステアリングスイッチの<OK>スイッチ②を回して、［画面カスタマイズ］を選択し、<OK>スイッチ②を押して決定します。

3. ステアリングスイッチの<OK>スイッチ②を回して、［メインメニュー選択］を選択し、<OK>スイッチ②を押して決定します。

4. 表示させたい項目を、ステアリングスイッチの＜OK＞スイッチ②を回して選択し、＜OK＞スイッチ②を押して選択すると表示できるようになります。

設定例 2（タイヤ）

1. ステアリングスイッチの＜◀▶＞スイッチ①を数回押し、設定［ ⚙ ］画面を表示して＜OK＞スイッチ②を押します。
2. ステアリングスイッチの＜OK＞スイッチ②を回して、［メンテナンス］を選択し、＜OK＞スイッチ②を押して決定します。

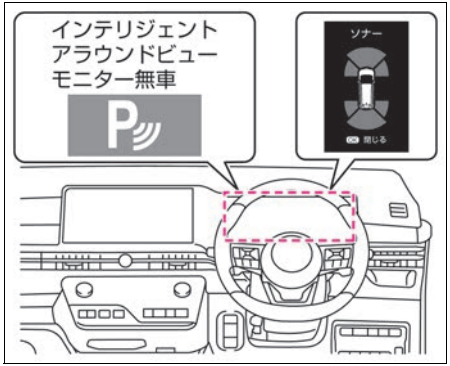


3. ステアリングスイッチの＜OK＞スイッチ②を回して、［タイヤ］を選択し、＜OK＞スイッチ②を押して決定します。
4. ［タイヤ］画面でステアリングスイッチの＜OK＞スイッチ②を押して、次回メンテナンスを行う距離の設定画面に進みます。（［---km/---km］の右側の表示）
※左側の表示は、設定後に走行した距離を表示します。
リセットを選択してステアリングスイッチの＜OK＞スイッチ②を押すと走行した距離をリセットできます。（［---km /---km］の左側の表示）
5. ステアリングスイッチの＜OK＞スイッチ②を回して距離を切り替え、＜OK＞スイッチ②を押して決定します。
設定距離は500km単位で切り替わります。

※機能を停止する場合は、距離表示を［---］に合わせ＜OK＞スイッチ②を押して決定します。

その他の表示機能

ソナー表示

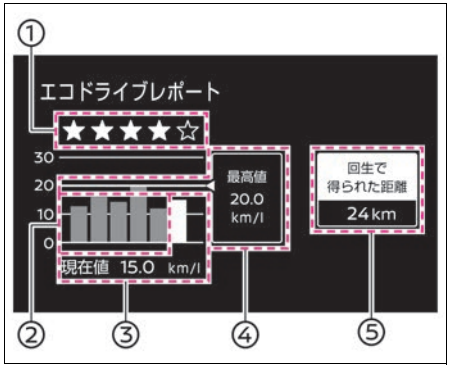


- 車両が障害物に近づくと、アドバンスドドライブアシストディスプレイのソナー表示色が緑→黄（オレンジ）→赤の順に切り替わり、警報音（ブザー）が鳴ります。
- インテリジェント アラウンドビューモニター無車は、同時にメーターのソナー検知表示灯も緑→黄（オレンジ）→赤の順に点滅します。

表示色	警報音
緑	ピッ、ピッ、ピッ・・・
黄（オレンジ）	ピピピピピ・・・
赤	ピー

- 次の場合にソナー機能が作動します。
  - シフトポジションをRにしたとき
  - シフトポジションがDまたはBで障害物を検知したとき（約10km/h以下）
- ソナー表示中にステアリングスイッチの＜OK＞スイッチ、＜◀▶＞スイッチを押す、または＜OK＞スイッチを回すと一時的に警報音（ブザー）を停止できます。
- ただし次の場合は、一時停止が解除されます。
  - シフトポジションをN、Pにしたとき
  - 約12km/h以上で走行したとき
- ソナーについては、（➔P.324）をお読みください。
- アドバンスドドライブアシストディスプレイで設定［ ⚙ ］⇒［運転支援］⇒［駐車支援］を選択すると、ソナー機能の各種設定が行えます。
  設定の詳細については、運転支援（➔P.106）をお読みください。
- ソナーが障害物を検知すると、ソナー画面が割り込み表示します。割り込み表示はOFFにすることができます。
  ➔ 運転支援（P.106）
- ソナーのお手入れについては、（➔P.476）をお読みください。
- 障害物の検知は前方4個、後方4個のソナーセンサーを使用して検知をします。

エコドライブレポートについて



＜パワースイッチ＞をOFFにすると、エコドライブレポート画面を表示します。
今回の評価の結果表示（★）は、ドライブモードをECOにして、約10分以上走行したときに表示します。

① **今回の評価**
エコドライブするほど★が増えます。

② **履歴**
過去5回分の平均燃費を表示します。

③ **現在値**
今回の平均燃費を表示します。

④ **最高値**
過去のベスト燃費を表示します。

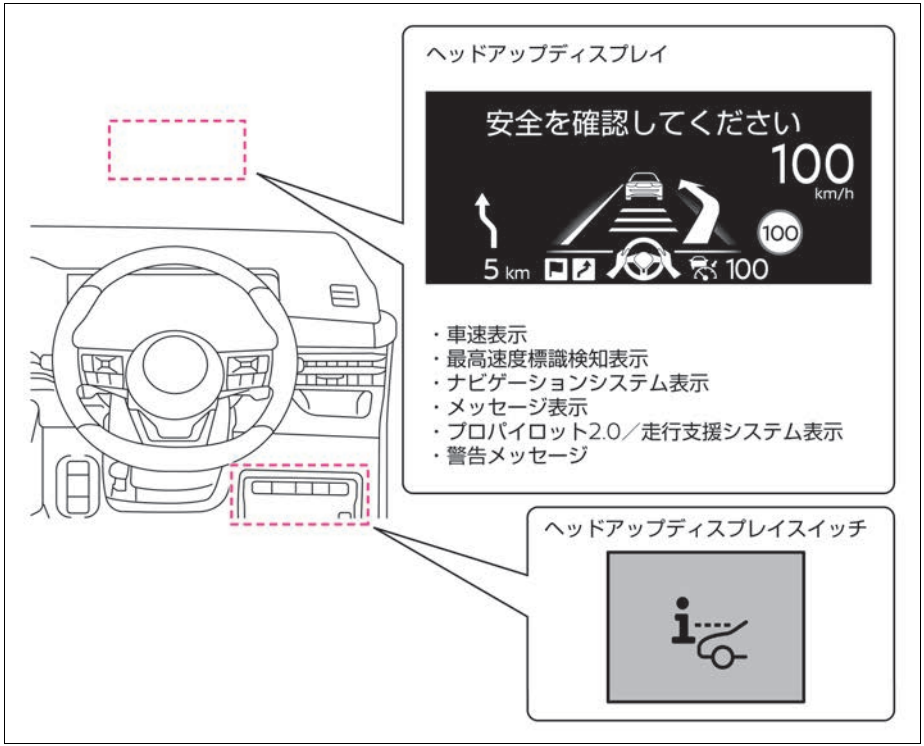
⑤ **回生で得られた距離**
今回の走行で回生した電力量を距離換算で表示します。

- アドバンスドドライブアシストディスプレイで設定［ ⚙ ］⇒［エコ］⇒［エコ情報設定］⇒［エコドライブレポート］を選択すると、エコドライブレポートの表示・非表示を切り替えることができます。
  設定の詳細については、エコ（➔P.109）をお読みください。

ヘッドアップディスプレイ★

ヘッドアップディスプレイとは

ヘッドアップディスプレイは車速、走行支援システム、ナビゲーションのルートガイドなど、様々な機能の作動状態をフロントガラスに投影することができます。



走行支援機能画面

車速表示

- 走行速度を表示します。
- <パワースイッチ>をONにしたときは、車速のみが表示されます。

ヘッドアップディスプレイ★

最高速度標識検知表示

- 検知した最高速度標識を表示します。
- アドバンスドドライブアシストディスプレイで次の操作をすると、表示・非表示の設定ができます。
  設定［ ⚙ ］⇒［ヘッドアップディスプレイ］⇒［表示項目］⇒［制限速度標識］
  詳しくは、（➔ヘッドアップディスプレイ★（P.84））をお読みください。

ナビゲーションシステム表示

- ナビゲーションシステムで目的地を設定していると、ナビゲーションシステムと連動し、次の右左折地点までの距離などを表示します。
- アドバンスドドライブアシストディスプレイで次の操作をすると、表示・非表示の設定ができます。
  設定［ ⚙ ］⇒［ヘッドアップディスプレイ］⇒［表示項目］⇒［ナビゲーション］
  詳しくは、（➔ヘッドアップディスプレイ★（P.84））をお読みください。

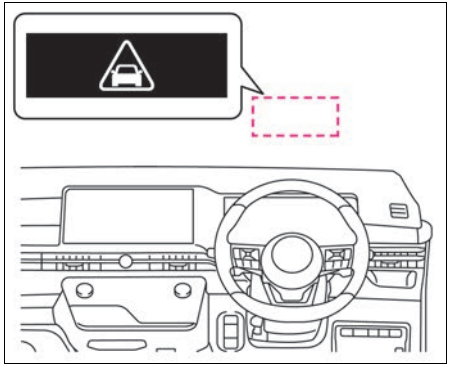
メッセージ表示

- プロパイロット2.0操作ガイドなどが表示されます。
- アドバンスドドライブアシストディスプレイで次の操作をすると、表示・非表示の設定ができます。
  設定［ ⚙ ］⇒［ヘッドアップディスプレイ］⇒［表示項目］⇒［運転支援］
  詳しくは、（➔ヘッドアップディスプレイ★（P.84））をお読みください。

プロパイロット 2.0 ／走行支援システム表示

- プロパイロット2.0の作動状態、先行車や車線の検知状態を表示します。
  詳しくは、プロパイロット2.0の説明をお読みください。
  プロパイロット2.0（➔P.229）
- アドバンスドドライブアシストディスプレイで次の操作をすると、表示・非表示の設定ができます。
  設定［ ⚙ ］⇒［ヘッドアップディスプレイ］⇒［表示項目］⇒［運転支援］
  詳しくは、（➔ヘッドアップディスプレイ★（P.84））をお読みください。

警告メッセージ



- 次のシステムが作動すると警告メッセージが表示されます。
  詳しくは、各走行支援機能の説明をお読みください。
  — プロパイロット2.0（➔P.229）
  — インテリジェント エマージェンシーブレーキ（➔P.276）
  — 踏み間違い衝突防止アシスト（➔P.283）
- 警告メッセージの表示画面については、（➔P.418）をお読みください。
- <ヘッドアップディスプレイスイッチ>がOFFの場合でも、警告メッセージは表示されます。

各種設定画面

ヘッドアップディスプレイの注意事項

⚠ 注意

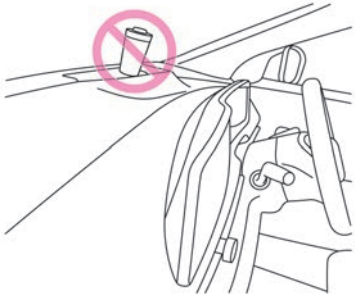
- **ヘッドアップディスプレイの明るさ、および表示位置を適正に調整する。**
  運転者の視界が妨げられ、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- **ヘッドアップディスプレイを見続けない。**
  車両、歩行者、障害物などが見えにくくなり、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- **ヘッドアップディスプレイの調整は、必ず走行前に行う。**
  走行中に調整すると、思わぬ事故につながるおそれがあります。

アドバイス

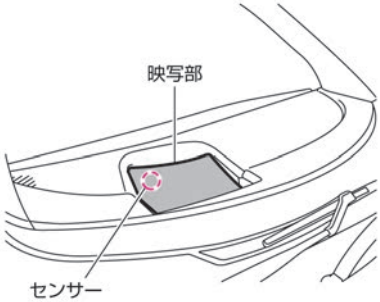
- ヘッドアップディスプレイの映写部に物を置いたり、シールなどを貼り付けたりしないでください。ヘッドアップディスプレイの表示の妨げとなります。

アドバイス

- ヘッドアップディスプレイ部には手を触れないでください。故障の原因となります。



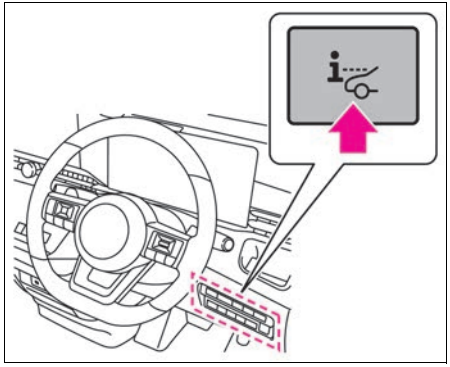
- ヘッドアップディスプレイ周辺には飲物を置かないでください。液体が映写部にかかると故障する原因になります。



- ヘッドアップディスプレイの映写部に強く触れたり、とがったものを押し付けたりすると故障する原因になります。
- ヘッドアップディスプレイには、映像の明るさをコントロールするためのセンサーが内蔵されています。センサーを物でふさいでしまうとディスプレイが暗くなってしまい、表示が見えにくくなります。
- ヘッドアップディスプレイのセンサーに強い光を当てないでください。故障する原因になります。
- ヘッドアップディスプレイの画像がゆがんで見える場合は、日産販売会社で点検を受けてください。
- ヘッドアップディスプレイの画像を鮮明に表示するため、専用のフロントガラスを使用しています。フロントガラスの交換が必要な場合は、日産販売会社にご相談ください。

- 偏光サングラスを着用すると表示が見えにくくなることがあります。
- 気象条件（雨、雪、太陽の光、温度など）によっては、表示が見えにくくなることがあります。
- 塵、ほこりなどの堆積物はほこり取りワイパーなどで除去してください。
- ベンジン、シンナーなどの有機溶剤や酸、アルカリ性の洗剤を使用しないでください。変色やしみができ、ヘッドアップディスプレイが正しく表示されなくなるおそれがあります。
- 飲物をこぼしたときは、クリーンクロスや眼鏡クリーナーなどの乾いた柔らかい布で軽くふいてください。ふいても除去しきれない場合は、水に浸した柔らかい布を固くしぼってからふき取り、そのあとに乾いた柔らかい布で水分をふき取ってください。
- 乾いた布やティッシュ、ウェットティッシュなどを使用しないでください。傷がつく原因になります。

ON・OFF のしかた



- ＜パワースイッチ＞がONのとき、＜ヘッドアップディスプレイスイッチ＞を押すと表示します。
- ＜ヘッドアップディスプレイスイッチ＞を押すごとに、ON・OFFを切り替えることができます。
- ＜ヘッドアップディスプレイスイッチ＞のON・OFF設定は、e-POWERシステムを停止しても再度設定を変更するまでその状態が維持されます。

●アドバンスドドライブアシストディスプレイで［運転支援］をONにしていると、プロパイロットの作動と連動して、<ヘッドアップディスプレイスイッチ>がOFFになっていても表示されます。
設定［ ⚙ ］⇒［ヘッドアップディスプレイ］⇒［表示項目］⇒［運転支援］
詳しくは、➲ヘッドアップディスプレイ★ (P.84)をお読みください。

●アドバンスドドライブアシストディスプレイで［運転支援］をONにしていると、［制限速度標識］をOFFにしていても、<プロパイロットスイッチ>と連動して、ヘッドアップディスプレイに最高速度標識が表示されます。
設定［ ⚙ ］⇒［ヘッドアップディスプレイ］⇒［表示項目］⇒［制限速度標識］
詳しくは、➲ヘッドアップディスプレイ★ (P.84)をお読みください。

●アドバンスドドライブアシストディスプレイで［運転支援］をONにしていると、［ナビゲーション］をOFFにしていても、<プロパイロットスイッチ>と連動して、ヘッドアップディスプレイにナビゲーションが表示されます。
設定［ ⚙ ］⇒［ヘッドアップディスプレイ］⇒［表示項目］⇒［ナビゲーション］
詳しくは、➲ヘッドアップディスプレイ★ (P.84)をお読みください。

●本製品には、以下のソフトウェアが含まれています。
①パナソニック株式会社（「パナソニック」）により、またはパナソニックのために開発されたソフトウェア
②パナソニックにライセンスされた第三者所有のソフトウェア
③オープンソースソフトウェア
上記③に分類されるソフトウェアには、以下のライセンス情報が適用される様々なソフトウェアを含むオープンソースソフトウェア（OSS）が含まれています。
また、次のwebサイトにもライセンス情報が記載されています。
http://car.panasonic.jp/oss/j03llnna

知識

音声操作機能について

● ボイスアシスタントを使用して、ヘッドアップディスプレイのON・OFFを操作することができます。

ボイスアシスタントについては、別冊のナビゲーションシステム取扱説明書をお読みください。

ヘッドアップディスプレイの調整のしかた

●ヘッドアップディスプレイの表示がOFFだとアドバンスドドライブアシストディスプレイの設定［ ⚙ ］⇒［ヘッドアップディスプレイ］が操作できません。
操作する場合は、<ヘッドアップディスプレイスイッチ>を押してヘッドアップディスプレイの表示をONにしてから行ってください。
➲ON・OFFのしかた (P.121)

●アドバンスドドライブアシストディスプレイで次の操作をすると、ヘッドアップディスプレイの表示の明るさ、高さ、傾きを調整することができます。
設定［ ⚙ ］⇒［ヘッドアップディスプレイ］⇒［明るさ］／［高さ］／［傾き］
詳しくは、➲ヘッドアップディスプレイ★ (P.84)をお読みください。

●ヘッドアップディスプレイは走行環境に合わせて、フロントガラスに投影する画像の明るさを自動で調整します。

ヘッドアップディスプレイ★

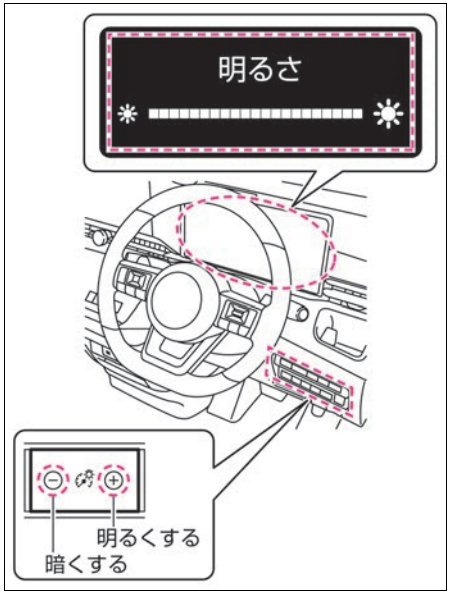
- アドバンスドドライブアシストディスプレイで次の操作をすると、ヘッドアップディスプレイの設定を初期化できます。
  設定［ ⚙ ］⇒［ヘッドアップディスプレイ］⇒［リセット］
  詳しくは、➔ヘッドアップディスプレイ★ (P.84)をお読みください。

メーターの明るさの調節

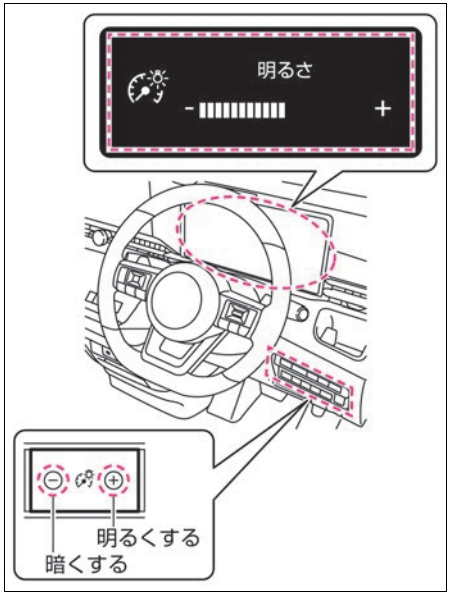
イルミネーションコントロール

メーターの明るさ調節のしかた

メータータイプ(A)



メータータイプ(B)



<パワースイッチ>がONのとき、メーター照明の明るさを調節できます。

- スイッチを押して調節します。
- 明るさのレベル表示は、アドバンスドドライブアシストディスプレイに表示されます。
- 明るさのレベルが最大または最小に達すると、音が鳴ります。

キー

インテリジェントキー P.126
インテリジェントキーに関する注意事項 P.129

ドアの施錠と解錠

ドア P.132
フロントドア P.133
スライドドア★ P.134
オートスライドドア★ P.137
デュアルバックドア P.145

シート・ハンドルの調節

フロントシート P.149
セカンドシート P.151
サードシート P.156
ハンドル P.159

ミラーの調節

ルームミラー★ P.161
インテリジェント ルームミラー★ P.162
ドアミラー P.165
サイドアンダーミラー★ P.166

窓ガラスの開閉

パワーウインドー P.168

燃料補給口の開閉

燃料補給口 P.171

エアコンの操作

フロントオートエアコン＋リヤオートエアコン★／リヤクーラー★ P.173
吹き出し口 P.181
オートエアコンシステムについて P.183
エアコンを使うときに注意すること P.183

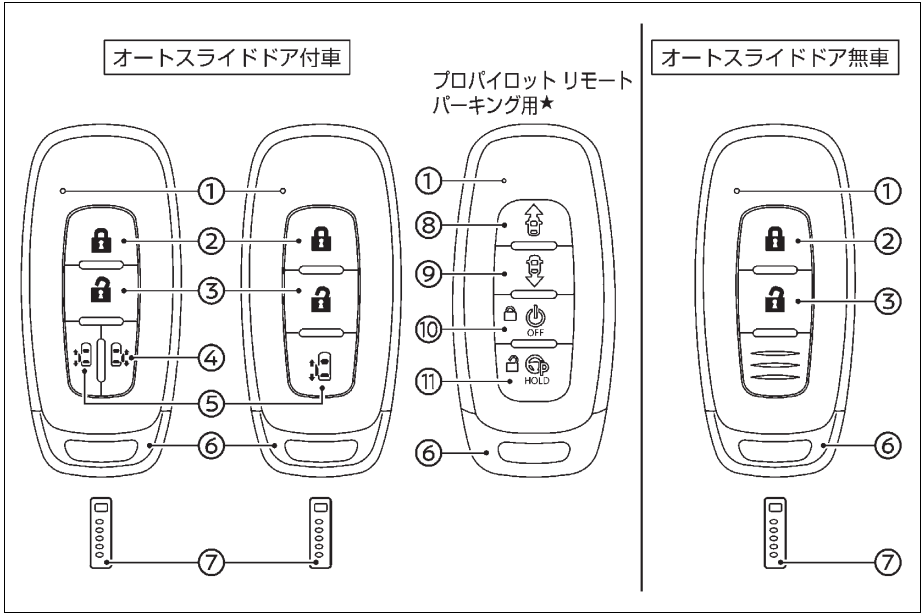
オーディオ★

オーディオの使いかた P.185
ステアリングスイッチ P.185

インテリジェントキー

キーを携帯するだけでドアの施錠・解錠、スライドドアの開閉★ およびe-POWERシステムの始動操作ができます。プロパイロット リモート パーキング付車は、プロパイロット リモート パーキングを使用できます。ドアの施錠・解錠のしかたは（➔P.132）、スライドドアの開閉のしかたは（➔P.137）、始動操作は（➔P.188）、プロパイロット リモート パーキングは（➔P.352）をお読みください。

各部名称と機能



① **作動表示灯**
②～⑤のいずれかのスイッチを押すと、赤く点滅します。

② **ドア施錠スイッチ**
スイッチを押すと、全ドアが施錠します。

③ **ドア解錠スイッチ**
スイッチを押すと、全ドアが解錠します。

④ **ワンタッチオートスライドドア開閉スイッチ（運転席側）★**
解錠後、スイッチを約1秒以上押すと、スライドドアが自動で開閉します。

⑤ **ワンタッチオートスライドドア開閉スイッチ（助手席側）★**
解錠後、スイッチを約1秒以上押すと、スライドドアが自動で開閉します。

⑥ **内蔵キー（メカニカルキー）**
キーの電池が切れたときや、12Vバッテリーがあがったときなどにドアの施錠・解錠ができます。

⑦ **キー番号タグ**
キーを紛失した場合、キー番号から日産販売会社でスペアキーを作成できますので、大切に保管してください。

⑧ **プロパイロット リモート パーキング前進スイッチ★**
プロパイロット リモート パーキングが作動時に、車両を前進するのに使用します。

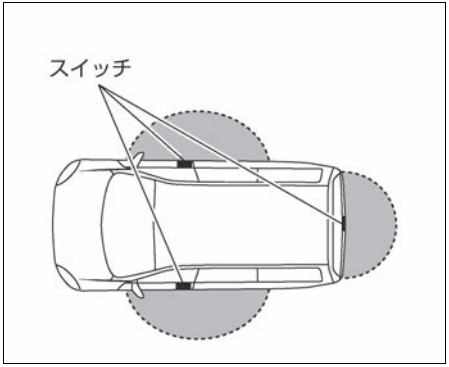
⑨ **プロパイロット リモート パーキング後退スイッチ★**
プロパイロット リモート パーキングが作動時に、車両を後退するのに使用します。

⑩ **プロパイロット リモート パーキングOFF/ドア施錠スイッチ★**
プロパイロット リモート パーキングが作動時、プロパイロット リモート パーキングを終了するのに使用します。
プロパイロット リモート パーキングが非作動時は、全ドアを施錠するのに使用します。

⑪ **プロパイロット リモート パーキングON/ドア解錠スイッチ★**
プロパイロット リモート パーキングが非作動時、短押しすることで全ドアを解錠するのに使用します。また長押しすることでプロパイロット リモート パーキングを起動させるのに使用します。
プロパイロット リモート パーキングが作動時、車両を前進・後退するのに使用します。

- キーは2個または3個（プロパイロット リモート パーキング付車）ついています。
- キーは同じ車両で最大4個まで使うことができます。ご購入やご使用開始方法については、日産販売会社にご相談ください。
- キーの電池が切れても、ドアの施錠・解錠やe-POWERシステムの始動を行うことができます。
➔ 内蔵キー（メカニカルキー）でのドアの開けかた（P.402）
➔ e-POWERシステムを始動できないときは（P.403）
- オートスライドドア★ がオート作動中に＜ワンタッチオートスライドドア開閉スイッチ＞を押すと、その位置でオート作動を停止します。再度、＜ワンタッチオートスライドドア開閉スイッチ＞を約1秒以上押すと、停止前の作動方向と反対の方向に動き、全開または全閉して停止します。

ドアの施錠・解錠の作動範囲



作動範囲は各ドアにあるスイッチから周囲約80cm以内です。作動範囲は球状になっているため、地面近くや高い場所では作動しないことがあります。

インテリジェントキーが作動範囲内にある場合は、キーを携帯している人以外でもドアにあるスイッチを押して施錠・解錠できます。

- ドアにあるスイッチを押してドアを施錠したあとは、作動確認のためブザーまたは非常点滅表示灯のアンサーバック機能で施錠されたことを確認してください。
- ドアにあるスイッチを押す前にドアハンドルを引かないでください。

インテリジェントキーに関する機能について

■ アンサーバック機能

- ドアの施錠・解錠時に、作動確認のためのブザーと非常点滅表示灯が作動します。（施錠時1回、解錠時2回）
アンサーバック機能のブザーを停止することができます。日産販売会社にご相談ください。

■ ウェルカムライト機能（フェアウェル機能付）

- ドアの施錠・解錠時に、車幅灯、尾灯、番号灯が点灯します。（施錠時約10秒、解錠時約30秒）
- アドバンスドドライブアシストディスプレイで設定［ ⚙ ］⇒［車両設定］⇒［ライト/照明］⇒［ウェルカムヘッドライト］を選択すると、ウェルカムライト機能（フェアウェル機能付）の設定を変更することができます。

設定の詳細については、車両設定（➔P.86または➔P.111）をお読みください。

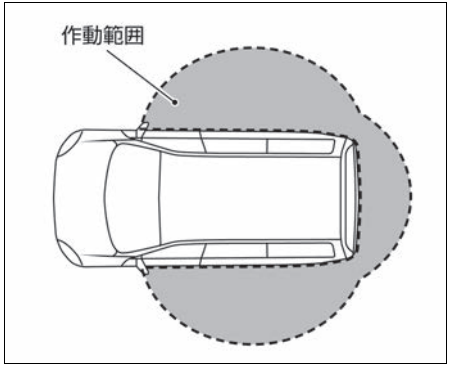
■ キー連動室内照明システム

● ドアを解錠すると、室内照明が約20秒間点灯します。
詳しくは、室内灯（➔P.360）をお読みください。

■ オートロック機能

● ＜ドア解錠スイッチ＞を押してから約30秒以内にいずれかのドアを開けなかったときは、盗難防止のため自動的に全ドアが施錠されます。
（施錠されるまでの間に、再度＜ドア解錠スイッチ＞を押すと、その時点から約30秒後に施錠されます）

■ 接近時アンロック機能

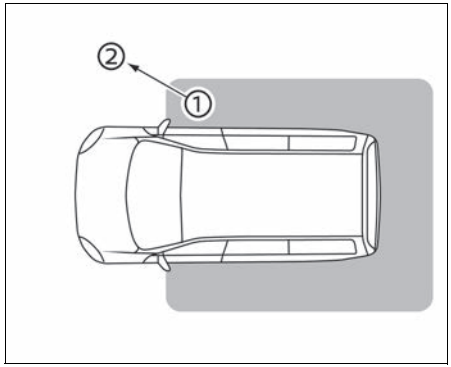


● インテリジェントキーを携帯して車に近づくと自動で車両が解錠されます。作動範囲はドアミラーから車両後方にかけて車両から約1mの範囲です。

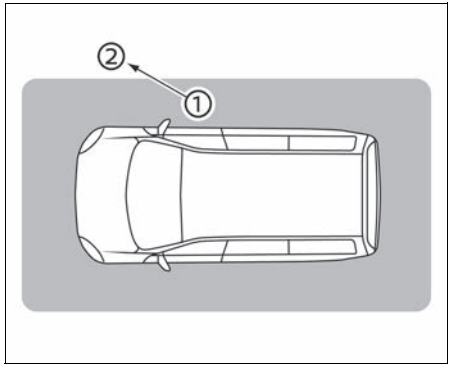
● アドバンスドドライブアシストディスプレイで次の操作をすると、接近時アンロック機能のON・OFFを切り替えることができます。（工場出荷時はOFFに設定されています）
設定［ ⚙ ］⇒［車両設定］⇒［ロック］⇒［接近時アンロック］設定の詳細については、車両設定（➔P.86または➔P.111）をお読みください。

● 次の場合は作動しません。
— キーを車室内に置き忘れているとき
— 一定時間、キーを車両周辺に置いたままのとき（ドアを解錠後、再度ドアを施錠すると、接近時アンロック機能が再度作動可能になります）
— 施錠してから8日間経過したとき
— 車室内の＜ドアロックスイッチ＞で施錠したとき

■ 降車時オートロック機能



プロパイロットリモートパーキング無車



プロパイロットリモートパーキング付車

● ＜パワースイッチ＞をOFFにしたあと、ドア開閉をしてからインテリジェントキーを携帯して車から離れると自動で車両が施錠されます。車両から約2mを境

界とし①の範囲から②の範囲へ移動すると作動します。

- オートスライドドア付車は、オート閉作動中に車から離れても、すべてのドアが閉まると自動で施錠されます。
- アドバンスドドライブアシストディスプレイで次の操作をすると、降車時オートロック機能のON・OFFを切り替えることができます。（工場出荷時はOFFに設定されています）
  設定［ ⚙ ］⇒［車両設定］⇒［ロック］⇒［降車時オートロック］
  設定の詳細については、車両設定（➔P.87または➔P.111）をお読みください。
- 次の場合は作動しません。
  — キーを車室内に置き忘れているとき
  — いずれかのドアが開いているとき
  — 一定時間、キーを車両周辺に置いたままのとき（ドアを開閉すると、降車時オートロック機能が再度作動可能になります）
  — 走行可能表示灯が点灯しているとき
  — キーのスイッチで解錠したとき
  — ドア開閉時にインテリジェントキーが車両から2m以内にないとき

■ スリープモード

ドアにあるスイッチでの施錠・解錠、およびe-POWERシステムの始動を一時的に停止するモードです。

- インテリジェントキーの＜ドア施錠スイッチ＞を押したまま＜ドア解錠スイッチ＞を2回押します。
  キーの作動表示灯が、一定時間点灯します。作動表示灯が点灯したらすぐに＜ドア施錠スイッチ＞を離して再度押すと、作動表示灯が2回点滅しスリープモードになります。
- スリープモードを解除するときは、キーのいずれかのスイッチを押してください。

パーソナルアシスタント機能★

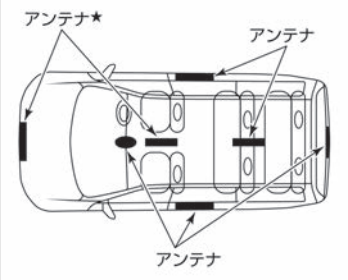
あらかじめユーザー情報を登録しておくと、インテリジェントキーを携帯して車両へ乗り込んだとき、 ユーザーを認識します。

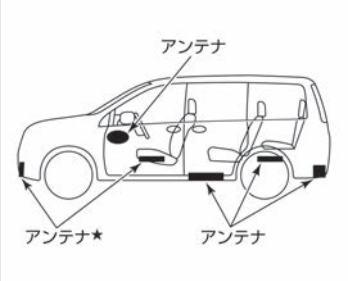
パーソナルアシスタント機能★の設定方法

ユーザー情報の登録、設定については、別冊のナビゲーションシステム取扱説明書をお読みください。

インテリジェントキーに関する注意事項

⚠ 警告





- **植込み型心臓ペースメーカーおよび植込み型除細動器（ICD）を使用されている方は、アンテナから約22cm以下の範囲に装着部位を近づけない。**

⚠ 警告

ドアおよびバックドア開閉時、ドアにあるスイッチ操作時、e-POWERシステム始動時などにキーの電波が植込み型心臓ペースメーカーおよび植込み型除細動器（ICD）の作動に影響を与えるおそれがあります。

- **植込み型心臓ペースメーカーおよび植込み型除細動器（ICD）以外の医療電気機器を使用されている方は、医療電気機器製造業者などへ影響を確認してから使用する。**

  キーの電波が医療電気機器の動作に影響を与える場合があります。

- **航空機内ではキーのスイッチを押さない。**

  万一スイッチが押されると電波が発信され、航空機の運航に支障をきたすおそれがあるため、バッグなどに収納するときは、荷物などでスイッチが押されないようにしてください。

アドバイス

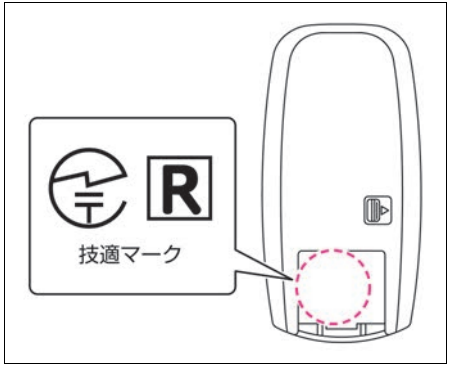
- キーは運転者が必ず携帯してください。
- キーは、必ず内蔵キー（メカニカルキー）を内蔵した状態で携帯してください。
- キーはドアポケットに入れないでください。ドアを閉めるときの衝撃により破損するおそれがあります。また、ドアポケット内に一緒に入れておいた物がドアを閉めた衝撃で当たるなどして勝手にスイッチが入り、キーを車室内に封じ込めるおそれがあります。
- インストルメントパネル上面、ドアポケット付近、グローブボックス内、フロア上では、キーが正常に作動しなかったり、車外から施錠されて、キーを車室内に封じ込めたりするおそれがあります。
- キーを紛失したときは、盗難などを防ぐため、ただちに日産販売会社にご相談ください。
- キーは微弱な電波を使用しています。次のような使用環境では機能に障害が起こるため、ドアにあるスイッチやキーのスイッチが正常に作動しない場合があります。
  - 近くにテレビ塔や発電所、放送局など強い電波やノイズを発生する設備があるとき
  - インテリジェントキーをワイヤレス充電器★ の充電エリア内に置いたとき
  - 無線機や携帯電話などの無線通信機器を一緒に携帯しているとき
  - キーが金属製の物に接したり、覆われていたりしているとき
  - 近くで電波式のリモコンスイッチを操作しているとき
  - キーをパソコンなどの電化製品の近くに置いたとき
  - コインパーキングに駐車したとき（車両検出用の電波の影響があるため）
  - 近くで電波式侵入警報装置を使用しているとき
  - 極端に気温が低いとき（電池の性能が低下するため）
- キーは電波法の認証に適合しています。次のことを必ずお守りください。
  - 電池を交換するとき以外は分解しない（分解、改造したものを使用することは法律で禁止されています）
  - 日本国内のみで使用する
- キーは車両との通信のために常時受信動作をしているため、常に電池を消耗しています。電池の寿命は使用状況によりますが約2年（プロパイロット リモート パーキング用インテリジェントキー★は約1年）です。電池が切れた場合、新しい電池と交換してください。

  ➲ インテリジェントキーの電池交換 (P.470)

- キーの電池が消耗しているときや、強い電波、ノイズのある場所では、作動範囲が狭くなったり、作動しなかったりすることがあります。

アドバイス

- キーは送信機を内蔵している精密機械です。故障を防止するため、次のことをお守りください。
  - 長時間高温になる場所に置かない
  - 分解しない
  - 無理に曲げたり、落としたり、強い衝撃を与えたりしない
  - 水に濡らさない
  - 超音波洗浄器などにかけない
  - 磁気を帯びたキーホルダーなどを付けない
  - テレビ、オーディオなど、磁気を帯びた機器の近くに置かない
- 車両盗難防止のために、インテリジェントキーは車両から2m以上離して保管してください。
- インテリジェントキーの操作をしなくても、車両周辺にキーがあると電池の消耗が早くなります。電池の寿命を長くするためにも、車両周辺にキーを持ったまま長時間滞在しないことをおすすめします。
- 降車時オートロック機能で車両を施錠した場合、施錠されたことをアンサーバック機能（➔P.127）で確認してください。アンサーバック機能が作動しない場合、正しく施錠できていません。



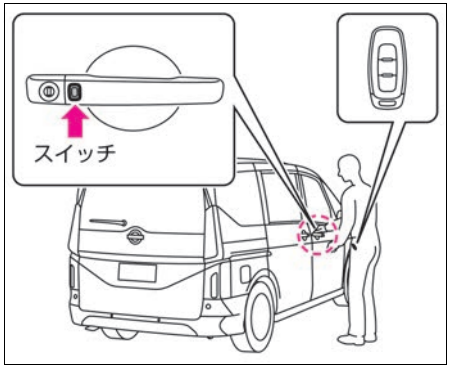
- キーの認証技適マークはキーの裏面で確認できます。
- キーのスイッチを押しても作動しないときは、電池の消耗または故障が考えられます。日産販売会社にご相談ください。
  ➔インテリジェントキーの電池交換 (P.470)
- キーの電池が切れ、施錠・解錠ができないときは、内蔵キー（メカニカルキー）で施錠・解錠ができます。
  ➔ドアが開かないときは (P.402)
- 次のような場合は、作動しません。
  - 走行可能表示灯が点灯しているとき
  - ドアが完全に閉まっていない（半ドア）とき
  - 車から離れすぎているとき
  - キーの電池が切れているとき

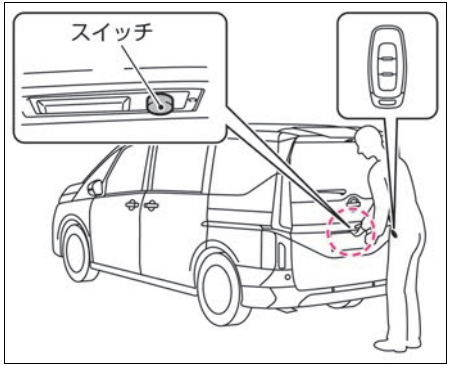
ドア

ドアにあるスイッチやインテリジェントキーのスイッチで施錠・解錠します。

ドアを施錠したあとは、作動確認のためブザーまたは非常点滅表示灯のアンサーバック機能で施錠されたことを確認してください。

インテリジェントキー機能による施錠・解錠のしかた





- キーを携帯し、運転席、助手席ドアハンドルまたはバックドアにあるスイッチを押すと、すべてのドアが施錠・解錠します。
- キーが各スイッチから周囲80cm以内にあるときに作動します。
- 施錠・解錠したときは、ブザーおよび非常点滅表示灯が次のように作動します。

	ブザー音	非常点滅表示灯
施錠	ピッ	1回点滅
解錠	ピピッ	2回点滅

- 車両に近づきすぎている場合などは作動しないことがあります。
- 急にドアハンドルを操作すると、ドアハンドルが引かれていることにより、施錠できないことがあります。
- アドバンスドドライブアシストディスプレイで設定［ ⚙ ］⇒［車両設定］⇒［ロック］⇒［keyエントリー］を選択すると、ドアにあるスイッチでの施錠・解錠機能のON・OFFを切り替えることができます。
  オートスライドドア付車は、keyエントリー機能をOFFにすると、スライドドアの<ワンタッチスイッチ>による解錠機能やハンズフリー機能もOFFになります。
  設定の詳細については、車両設定（➔P.86または➔P.111）をお読みください。
- 次のような場合は、作動しません。
  — 走行可能表示灯が点灯しているとき
  — ドアが完全に閉まっていない（半ドア）とき
  — キーが施錠・解錠の作動範囲内にないとき
  — キーの電池が切れているとき

■ オートロック機能

- 盗難防止のため、自動的に施錠する機能です。ドアにあるスイッチを押して解錠したあと、約30秒間ドアを開けないと再び全ドアが施錠されます。

■ オートドアアンロック

- <パワースイッチ>をOFFにしたとき、全ドアが解錠されます。（アドバンスドドライブアシストディスプレイで、シフトポジションをPにしたときに全ドアが解錠される設定に変更できます。）
- アドバンスドドライブアシストディスプレイで設定［ ⚙ ］⇒［車両設定］⇒［ロック］⇒［オートドアアンロッ

ク］を選択すると、オートアンロック機能の設定を変更することができます。設定の詳細については、車両設定（➔P.86または➔P.111）をお読みください。

■ 衝撃感知式ドアロック解除システム★

- ＜パワースイッチ＞がONのとき、車両が前後方向または側面から強い衝撃を受けるとシステムが作動し、約3秒後に全ドアが自動的に解錠されます。衝撃の強さなどによっては、作動しないことがあります。システム作動後にシステムを解除させる（ドアをロックする）には、一旦＜パワースイッチ＞をOFFにしてください。

■ 車速感応式オート集中ドアロック

- 車速が約25km/h以上になると、全ドアが自動的に施錠されます。ただしそのあと解錠すると、再度施錠はされません。再度作動させるには、いずれかのドアを開けるか、＜パワースイッチ＞をOFFにします。
- 車速感応式オート集中ドアロック機能の作動・非作動を切り替えることができます。（工場出荷時は「作動」に設定されています）
  次の手順で設定を切り替えます。
  ①全ドアを閉めます。
  ②＜パワースイッチ＞をONにします。
  ③＜パワースイッチ＞をONにしたあと、20秒以内に＜ドアロックスイッチ＞の施錠側 🔒 を5秒以上押し続け、作動と非作動を切り替えます。
  作動：非常点滅表示灯が2回点滅
  非作動：非常点滅表示灯が1回点滅

キーを使用しない施錠のしかた

■ 前席ドア

- ロックノブを押し込み、ドアハンドルを引きながらドアを閉めます。

■ スライドドア

- ロックノブを車両前方へ動かし、そのままドアを閉めます。

■ キー封じ込み防止機能

- インテリジェントキーを車室内に置き忘れたまま施錠することを防ぐ機能です。ドアを閉めたときや施錠しようとしたときに、キーが車室内に残っているとブザーでお知らせし、全ドアを自動的に解錠します。

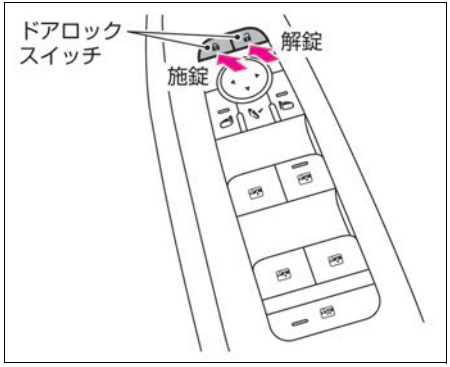
ドアに関する注意事項

⚠ 警告

- **ドアの開閉はお子さまにはさせない。**
  手、首、足などを挟んだりして、重大な傷害につながるおそれがあります。
- **ドアを開けるときは、周囲の安全を確認する。**
  後続車や通行人にぶつかるおそれがあります。風が強いときは特に注意して開けてください。
- **走行する前にドアを確実に閉める。**
  走行中に突然ドアが開き、思わぬ事故につながるおそれがあります。

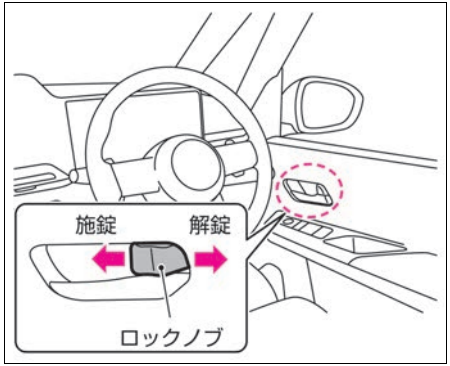
フロントドア

ドアロックスイッチでの施錠・解錠のしかた



- ＜ドアロックスイッチ＞を押すと、全ドアが施錠または解錠します。
- 施錠するときは、施錠側 🔒 の＜ドアロックスイッチ＞を押します。
- 解錠するときは、解錠側 🔓 の＜ドアロックスイッチ＞を押します。
- ドアが開いているときは、＜ドアロックスイッチ＞での施錠はできません。

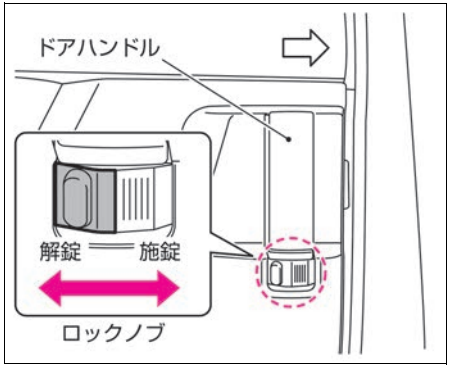
ロックノブでの施錠・解錠のしかた



- 運転席のロックノブで全ドアが施錠または解錠します。
- 運転席ドアは、施錠したままでもドアハンドルを引くとドアが開けられます。そのとき、全ドアが同時に解錠します。
- 施錠するときは、施錠するドアのロックノブを施錠側に押し込みます。
- 解錠するときは、解錠するドアのロックノブを解錠側に引きます。

スライドドア★

ロックノブでの施錠・解錠のしかた

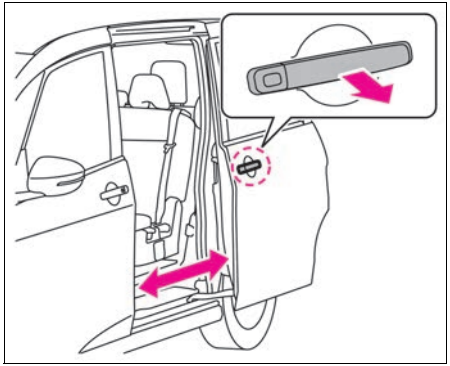


- 施錠するときは、ロックノブを車両前方に動かします。
- 解錠するときは、ロックノブを車両後方に動かします。

キーを使用しない施錠のしかた

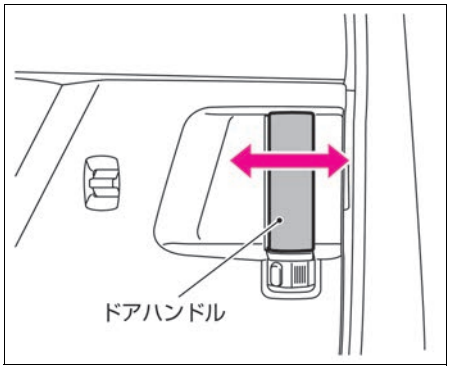
- スライドドアのロックノブを車両前方に動かし、そのままスライドドアを閉めます。
- キー封じ込み防止のため、キーを携帯していることを確認してから施錠してください。

スライドドアの開閉のしかた



車外から開閉するには

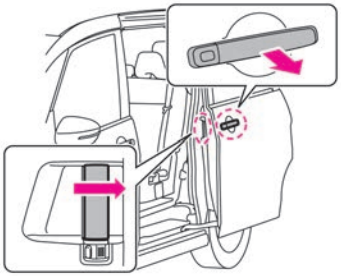
- ドアハンドルを引きながら、スライドドアを開閉します。



車室内から開閉するには

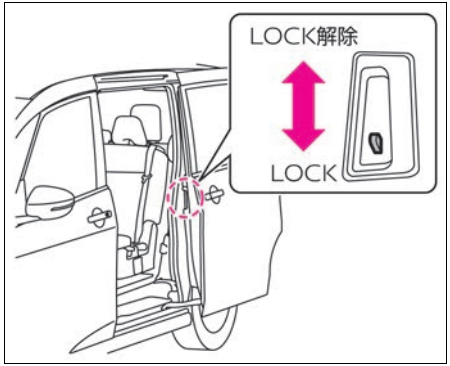
- 動かしたい方向にドアハンドルを操作して、スライドドアを開閉します。

知識



● スライドドアを全開すると全開位置でロックします。ロックしているときに、外側のドアハンドルを斜めに引いてもロックが外れず閉められません。ドアハンドルはスライドドアに対して垂直に引いてください。また、ロックは内側のドアハンドルを操作しても外れます。

チャイルドセーフティドアロック



後席に乗せたお子さまなどが、誤ってスライドドアを開けないようにロックできます。

■ ロックするには

●左右のスライドドアにあるロックレバーをLOCK位置にしてスライドドアを閉めます。

■ ドアを開けるには

●チャイルドセーフティドアロックがかかっているときは、車外のドアハンドルを引いて開けます。

●万一、車室内から開ける場合は、窓ガラスを下げ、手を外に出して車外のドアハンドルを引きます。

オートクロージャーについて

注意

● **スライドドアを閉めるときは、スライドドアや車体側に手を触れていたり、乗降用グリップを握ったりしない。また、スライドドアのふちやその周辺に手をかけない。**

手を挟まれてケガをするおそれがあります。スライドドアを閉めるときは、必ず外から閉めてください。

アドバイス

● ドアハンドルを開方向に引いたままスライドドアを閉めると、オートクロージャーは作動しません。

● 12Vバッテリーが弱っているとオートクロージャーが作動しないことがあります。その場合は、手で強く閉めるかe-POWERシステムを始動してから閉め直してください。

● オートクロージャーの故障によりスライドドアが閉まりきらないときは、スライドドアを一旦開け、再度手で閉めてください。

● オートクロージャーの故障によりスライドドアが開かなくなった場合は、すみやかに日産販売会社で点検を受けてください。

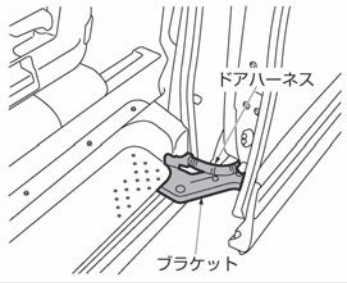
オートクロージャーは、自動的にスライドドアを全閉させる機能です。

閉めるとき、半ドア状態まで閉めると自動的に全閉します。

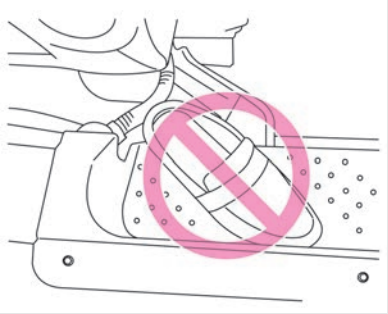
スライドドアに関する注意事項

⚠ 注意

- **スライドドアを開閉するときは、次のことを必ず守る。**
  - 必ずドアハンドルを持って開閉してください。
  - スライドドアを開けるときは、ロックするまで確実に開けてください。
  - スライドドアを強く開けないでください。



  - ドアハーネスやブラケットに手や足などをかけないでください。



  - スライドドアを閉めるときは、ステップの上に物がないことを確認してください。

アドバイス

- 運転席側のスライドドアが全開しているとき、燃料補給口を開けるとスライドドアと干渉するので開けないでください。

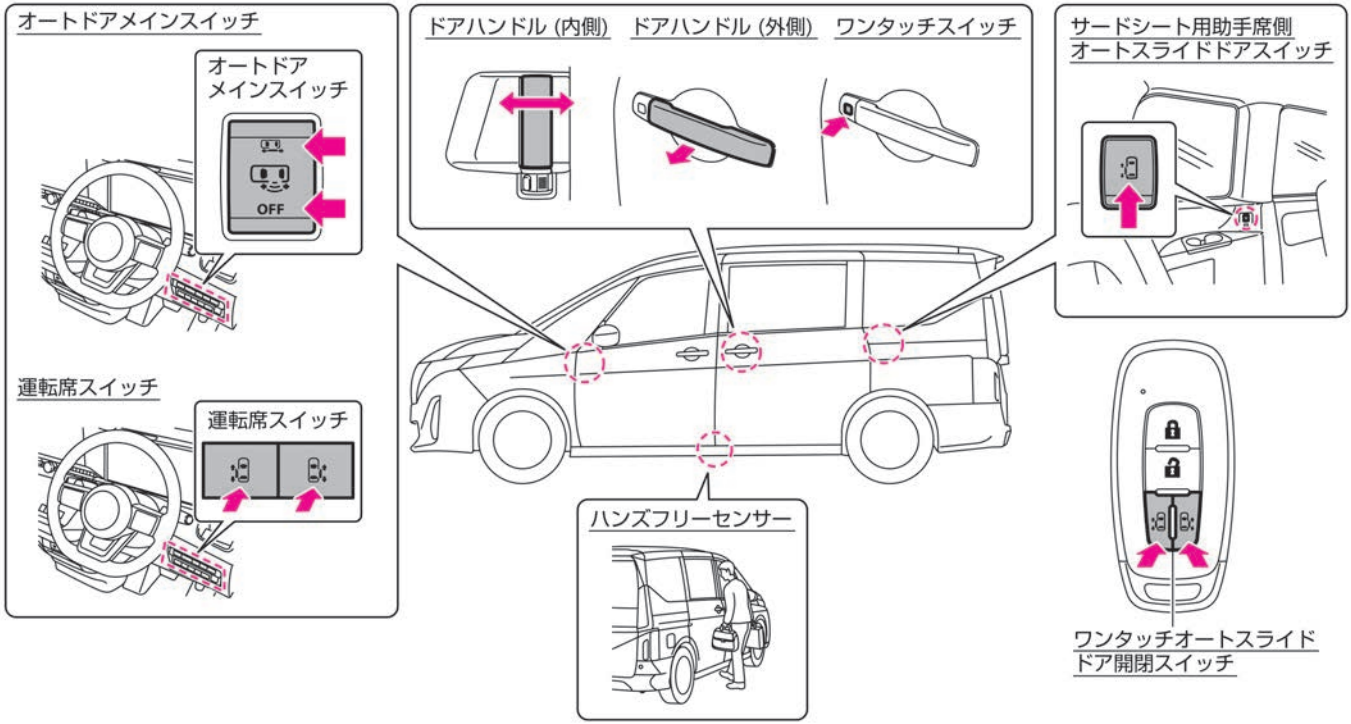
- 燃料補給口を開けているときに運転席側のスライドドアを開けると、リッドとの干渉を防ぐために約半分開いたところで止まります。

オートスライドドア★

オートスライドドアは、スライドドアを自動的に開閉することができます。

オートスライドドアについて

オートスライドドアは、<オートドアメインスイッチ>がOFF以外のとき、次の方法でスライドドアを自動的に開閉できます。



運転席スイッチ：

（➔P.141）

ドアハンドルによる開閉：

（➔P.140）

ワンタッチスイッチ：

（➔P.142）

サードシート用助手席側オートスライドドアスイッチ：

（➔P.142）

ワンタッチオートスライドドア開閉スイッチ：

（➔P.141）

ハンズフリーセンサーによる開閉：

（➔P.142）

- また、オートスライドドアには、次の機能があります。

挟み込み防止機構：

オート作動中に手を挟むなど、挟み込みや引っ掛かりを検知すると、安全のため反対方向に少し作動して停止します。

（➔P.144）

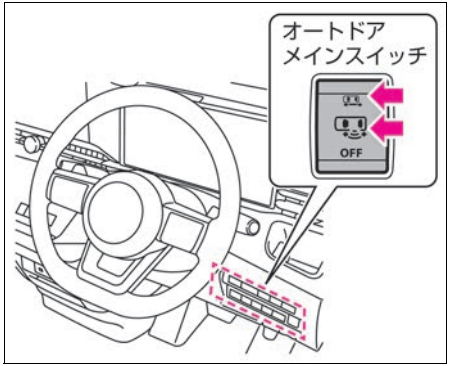
オートクロージャー：

スライドドアを半ドア状態まで閉めると、自動的に全閉します。（➔P.135）

知識

- ＜オートドアメインスイッチ＞がONのとき、スライドドアを開けたまま車を動かすとブザーが鳴ります。（停車またはスライドドアを閉めるとブザーは止まります）
- オート作動の開始時とオート閉作動中は、ブザーが鳴ります。
- アドバンスドドライブアシストディスプレイで設定［ ⚙ ］⇒［車両設定］⇒［オートスライドドア］⇒［閉作動中ブザー］を選択すると、オート閉作動中のブザーのON・OFFを切り替えることができます。設定の詳細については車両設定（➔P.86または➔P.111）をお読みください。
- 燃料補給口が開いているときは、リッドとの干渉を防ぐため運転席側スライドドアのオートスライド（自動開閉）機能★が作動しません。

オートスライドドアの作動について

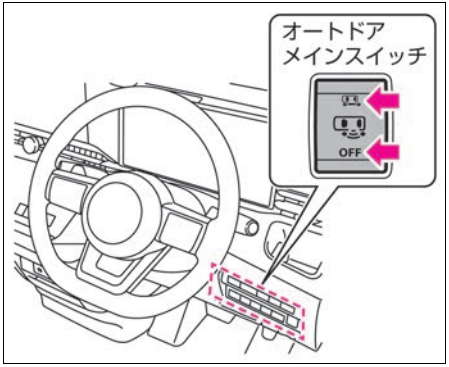


- ハンズフリー機能以外のオート作動は、＜オートドアメインスイッチ＞が＜⇔＞または＜⚙＞、車速が約3km/h以下のときに作動させることができます。
  ただし、＜パワースイッチ＞がONのときは、次の条件のうちいずれか1つ以上を満たす必要があります。
  - シフトポジションが P に入っている
  - フットブレーキを踏んでいる
  - パーキングブレーキをかけている
- ハンズフリー機能は、＜オートドアメインスイッチ＞が＜⚙＞で車両が停止しているとき、以下の条件を満たすと作動させることができます。
  - シフトポジションが P に入っている
  - スライドドアが全閉または全開している

– インテリジェントキーがスライドドアハンドルから周囲約80cmの作動範囲内にある

- オートブレーキホールド機能だけで停車しているときは作動しません。
  オートブレーキホールドについては、（➔P.193）をお読みください。
- オート作動中に作動可能条件が満たされなくなると、作動が停止しオート作動しなくなることがあります。その場合、作動可能条件を再度満たすとオート作動させることができます。
- ＜オートドアメインスイッチ＞をOFFにしてもオートクロージャーは作動します。
- 12Vバッテリーが弱っている（電圧が11V未満）ときは作動しません。

ハンズフリーオートスライドドアの使いかた



＜オートドアメインスイッチ＞でハンズフリー機能および自動開閉機能のON・OFFを切り替えることができます。

- スイッチの＜ ＞側を押すと、ハンズフリー機能がOFFになります。
  このとき、ハンズフリー機能以外の自動開閉機能はすべてONになります。
- スイッチを＜ ＞位置（中立位置）にすると、ハンズフリー機能を含めたすべての機能がONになります。
- スイッチのOFF側を押すと、ハンズフリー機能および自動開閉機能のすべての機能がOFFになります。
- ＜オートドアメインスイッチ＞をOFFにしてもオートクロージャーは作動します。
- オート作動中に＜オートドアメインスイッチ＞をOFFにすると、スライドドアが途中で止まります。

■ オートドアメインスイッチの作動

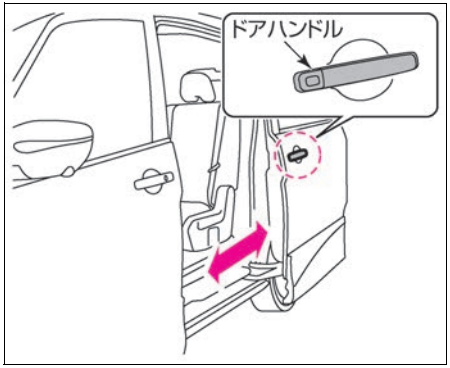
スイッチ位置	ドアハンドルによる開閉操作	運転席スイッチによる開閉操作	ワンタッチオートスライドドア開閉スイッチによる開閉操作	ワンタッチスイッチによる開閉操作	サードシート用助手席側オートスライドドアスイッチによる開閉操作	ハンズフリーセンサーによる開閉操作
＜ ＞	**作動**	**作動**	**作動** ※	**作動**	**作動**	非作動
＜ ＞	**作動**	**作動**	**作動** ※	**作動**	**作動**	**作動**
OFF	非作動	非作動	非作動	非作動	非作動	非作動

※：e-POWERシステムが始動しているときは作動しません。

ドアハンドルによる開閉のしかた

オートスライドドアは、通常のスライドドアと同様にドアハンドルを使用しても開閉できます。

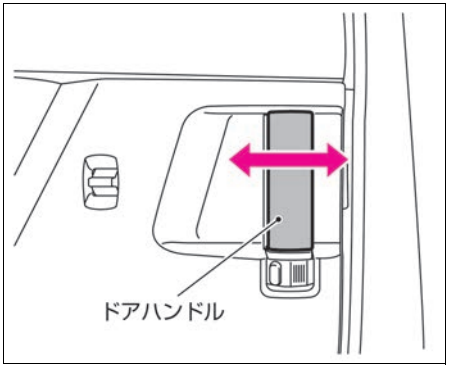
■ 車外のドアハンドル



スライドドアを解錠してから操作します。

- スライドドア全閉時にドアハンドルを引くと、自動的に開きます。
- スライドドア全開時にドアハンドルを引くと、自動的に閉まります。
- オート作動中にドアハンドルを引くと、その位置でオート作動を停止します。再度、ドアハンドルを引くと反対の方向に動き、全閉または全開して停止します。

■ 車室内のドアハンドル



スライドドアを解錠してから操作します。

- スライドドア全閉時にドアハンドルを車両後方側へ操作すると、自動的に開きます。
- スライドドア全開時にドアハンドルを車両前方側へ操作すると、自動的に閉まります。
- オート作動中にドアハンドルを開または閉方向に操作すると、その位置でオート作動を停止します。再度、ドアハンドルを任意に操作した方向に、全閉または全開して停止します。
- チャイルドセーフティドアロックをLOCK側にしているときは、車室内のドアハンドルでは開けることができません。

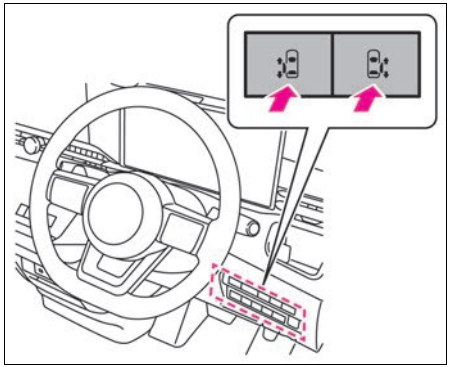
➲ チャイルドセーフティドアロック (P.135)

運転席スイッチによる開閉のしかた

⚠ 注意

- **開閉操作をするときは、スライドドア周囲の安全を確認してください。**

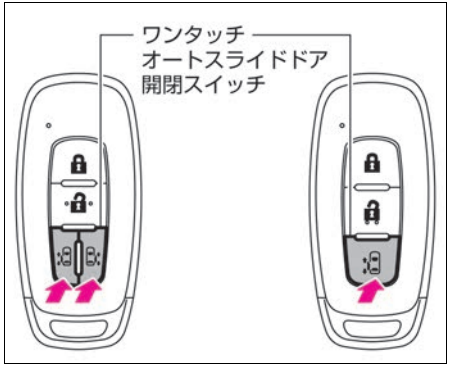
  挟まれたり、スライドドアに当たりケガをするおそれがあります。



スライドドアを解錠してから操作します。

- スライドドア全閉時にスイッチを約1秒間押すと、自動的に開きます。
- スライドドア全開時にスイッチを約1秒間押すと、自動的に閉まります。
- オート作動中にスイッチを押すと、その位置でオート作動を停止します。再度、スイッチを約1秒間押すと作動していた方向と反対の方向に動き、全閉または全開して停止します。

ワンタッチオートスライドドア開閉スイッチによる開閉のしかた



スライドドアを解錠してから操作します。

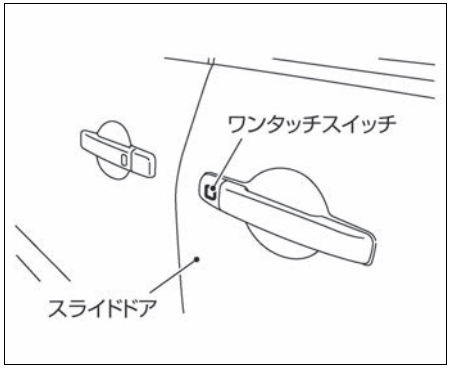
- スライドドア全閉時にスイッチを約1秒間押すと、自動的に開きます。
- スライドドア全開時にスイッチを約1秒間押すと、自動的に閉まります。
- オート作動中にスイッチを押すと、その位置でオート作動を停止します。再度、スイッチを約1秒間押すと作動していた方向と反対の方向に動き、全閉または全閉して停止します。
- e-POWERシステムが始動しているときは、<ワンタッチオートスライドドア開閉スイッチ>での開閉はできません。

ワンタッチスイッチによる開閉のしかた

アドバイス

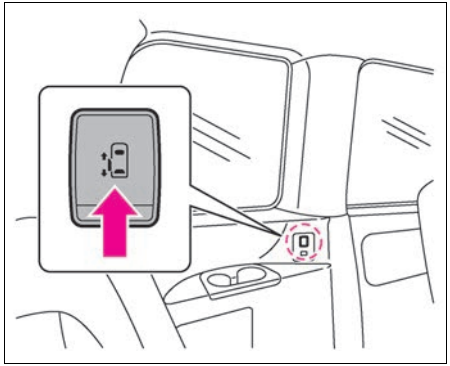
- ＜ワンタッチスイッチ＞でスライドドアを閉めただけでは、施錠状態になりません。

  車を離れるときは、必ず施錠してください。



- スイッチを押すだけで、スライドドアを開閉することができます。
- 施錠時でもインテリジェントキーを携帯していれば、スイッチを押すだけでスライドドアを開けることができます。このとき全ドアが同時に解錠されます。キーがスイッチから周囲80cm以内にあるときに作動します。
- オート作動中に＜ワンタッチスイッチ＞を押すと、その状態で停止します。再度、＜ワンタッチスイッチ＞を押すと作動していた方向と反対の方向に動き、全開または全閉して停止します。
- keyエントリー機能をOFFにすると、スライドドアの＜ワンタッチスイッチ＞による解錠機能やハンズフリー機能もOFFになります。
  車両設定（➔ P.86または➔ P.111）

サードシート用助手席側オートスライドドアスイッチ



開閉操作をするときは、スライドドア周囲の安全を確認してください。スライドドアを解錠してから操作します。

- スライドドア全閉時にスイッチを約1秒間押すと、自動的に開きます。
- スライドドア全開時にスイッチを約1秒間押すと、自動的に閉まります。
- オート作動中にスイッチを押すと、その位置でオート作動を停止します。再度、スイッチを約1秒間押すと作動していた方向と反対の方向に動き、停止します。
- チャイルドセーフティドアロックをLOCK側にしているときは、＜サードシート用助手席側オートスライドドアスイッチ＞で、オート開作動はしません。（オート閉作動は作動します）
  ➔ チャイルドセーフティドアロック(P.135)

全ドア連動ロック機能

- スライドドア全開状態で、スライドドアのロックノブを車両前方に動かすとスライドドア以外のドアが施錠されます。その後、スライドドアが閉まると、スライドドアも施錠されます。
- ＜パワースイッチ＞がONのときは、施錠されません。（施錠操作後、すぐに全ドアが解錠されます）
- 操作するスライドドア以外のドアがすべて閉まっていないと施錠されません。

ハンズフリー機能による開閉のしかた

⚠ 注意

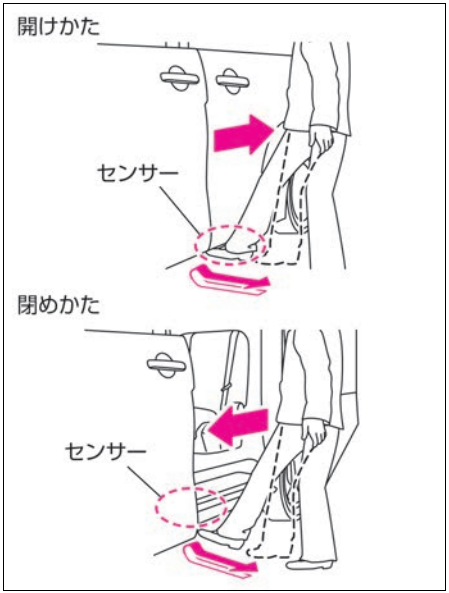
- **ハンズフリー機能を使用するときは、作動中のスライドドアに接触しないように注意する。**

  スライドドアに接触し、思わぬケガをするおそれがあります。作動範囲より外側に立ってください。

- ドア下側のフレームに設けられたセンサーによって足の動きを感知し、スライドドアの開閉を自動的に行います。

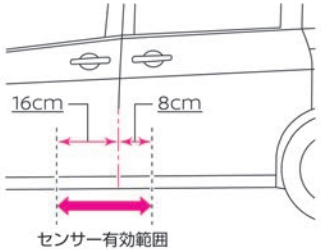
- 施錠時は全ドアが同時に解錠し、スライドドアが自動で全開します。
- オート作動中に、再度、足先を入れて引く動作を行ってもスライドドアは停止しません。また、オート作動中に任意で停止させた位置から、足先を入れて引く動作を行ってもオート作動はしません。

開けかた、閉めかた

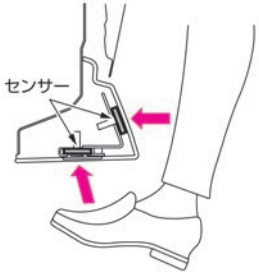


- インテリジェントキーを携帯してください。
- <オートドアメインスイッチ>のハンズフリー機能がONであることを確認してください。
- 前席ドア（操作するスライドドアと同じ側）が開いていると、ハンズフリー機能は作動しません。
- 前席ドアとスライドドアの境目の真下あたりをねらって、足を入れたら止めずにすぐに引いてください。
（ひざを曲げずに振り子のように足を振りあげると、センサーが反応しやすくなります）
- スライドドアが動き出すまで少し待つと、「ピッピッ」というブザー音が鳴りドアが開閉します。
- センサー周辺に水がかかると誤作動するおそれがあります。
- 縁石などにドア下側のフレームをぶつけると、ハンズフリーセンサーが故障するおそれがあります。正常に作動しないときは、日産販売会社で点検を受けてください。

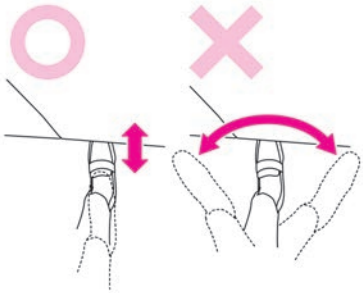
知識



- ハンズフリー機能を使用するときは、センサー有効範囲に足先を入れて使用してください。



- 足のつま先とすねの両方をセンサーに近づけてください。



- 足はセンサーに対して垂直方向に動かしてください。

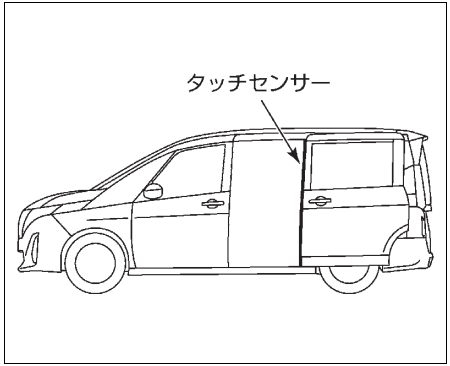
正常に作動しないとき

スライドドアがオートで動かないときは、次の内容で対処してください。

- 連続作動後に動かないときは、スライドドアを約5分間以上作動させずに放置したあと、作動させます。

- 12Vバッテリーが弱っている（電圧が11V未満）ときは、スライドドアがオート開閉できません。その場合は、e-POWERシステムを始動させてから作動させます。
- ＜ワンタッチスイッチ＞およびハンズフリー機能を使うときは、インテリジェントキーが＜ワンタッチスイッチ＞から80cm以内にあるか確認してください。
- スライドドアが全閉または全開になっていることを確認してください。
- ＜オートドアメインスイッチ＞がONになっていることを確認してください。
- ハンズフリー機能を使うときは、センサー位置および足の動かしかたが正しいか確認してください。
  ➔ ハンズフリー機能による開閉のしかた(P.142)
- ハンズフリー機能は、電波塔付近などの電波環境下では正常に作動しないことがあります。その場合はドアハンドルを引くか、＜ワンタッチオートスライドドア開閉スイッチ＞を押して開閉してください。
- ハンズフリー機能を使うときは、スライドドアに足が接触しないようにしてください。センサーが正しく機能しない場合があります。
- keyエントリー機能をOFFにすると、スライドドアの＜ワンタッチスイッチ＞による解錠機能やハンズフリー機能もOFFになります。
  ➔ ハンズフリー機能による開閉のしかた(P.142)

挟み込み防止機構



- スライドドアのオート作動中に物や人が挟み込まれたり、引っ掛かるような動きを感知すると、ドアが作動方向と反対の方向に少し動いたあとに停止します。
- スライドドアがオート作動中にスライドドアのタッチセンサーに触れると、ドアが作動方向と反対の方向に少し動いたあとに停止します。

オートスライドドアに関する注意事項

⚠ 注意

- **確実に停車している状態で開閉操作をする。**
- **開閉操作をするときは、スライドドア周囲の安全を十分確認する。**

周囲の人の身体がスライドドアや車体側に触れたままオート作動させると、手や腕などを挟まれたり、頭や腕を引き込まれて思わぬケガをするおそれがあります。

- **車が大きく傾いている状態ではオート作動をしない。**
- **オート作動中にスライドドアを押したり引いたりしない。**

  反転して挟まれたり、スライドドアに当たりケガをしたりするおそれがあります。
- **スライドドアレール部には手を入れない。**

  レール部のケーブルに触れると、スライドドアがオート作動するおそれがあります。

ハンズフリーセンサーについて

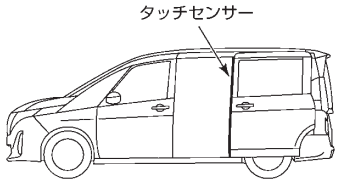
- **足以外でも、インテリジェントキーを携帯したままハンズフリーセンサーに物を近づけると、スライドドアが開閉することがあるので注意する。**

  ハンズフリーセンサーが反応してスライドドアが突然開閉し、思わぬケガをするおそれがあります。
- **洗車、ワックスがけ、整備を行うとき、ハンズフリーセンサー周りに水を掛けるときなどは、＜オートドアメインスイッチ＞をOFFにする。**

  ハンズフリーセンサーが反応してスライドドアが突然開閉し、思わぬケガをするおそれがあります。

アドバイス

- e-POWERシステム停止時に何回も作動させないでください。12Vバッテリーがあがりe-POWERシステムの始動ができなくなります。
- オート作動中にe-POWERシステムを始動させないでください。正常に作動しなくなることがあります。
- 車を発進させるときは、スライドドアが全閉していることを確認してください。
- 次の場合は、<オートドアメインスイッチ>をOFFにしてください。
  - スライドドアが故障したとき
  - スライドドアを長時間開いたままにするとき
  - 洗車（ワックスがけ）や整備を行うとき
  - 手動で使用するとき
- 全開時には、車外または車室内のドアハンドルに不用意に手を掛けたり、<ワンタッチスイッチ>に触れないでください。ドアハンドルまたはスイッチを操作すると自動でドアが閉まります。



- スライドドア前端部のタッチセンサーを傷つけないようにしてください。センサーが切断されると、オートスライド機能は作動しなくなります。
- 12Vバッテリーあがりや12Vバッテリーの脱着を行ったあと、スライドドアが開いている状態で再び12Vバッテリーをつないだときは、必ず一旦手動でドアを全閉してからオート作動を行ってください。全閉位置以外からは、オートスライドドア機能が働きません。
- 12Vバッテリーを外しているときは、勢いよくスライドドアを全開したり全閉したりしないでください。

デュアルバックドア

デュアルバックドアは、使用状況に合わせてバックドア（全体）／ハーフバックドア（上側）の2通りで開閉することができます。

デュアルバックドアに関する注意事項

⚠ 警告

- **デュアルバックドアの開閉はお子さまにはさせない。**

  手、首、足などを挟んだりして、重大な傷害につながるおそれがあります。
- **デュアルバックドアを開けるときは、周囲の安全を確認する。**

  後続車や通行人にぶつかるおそれがあります。風が強いときは特に注意して開けてください。
- **走行する前にデュアルバックドアを確実に閉める。**

  走行中に突然デュアルバックドアが開き、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- **ラゲッジルーム（荷室）に人を乗せて走行しない。**

  急ブレーキをかけたときなど、重大な傷害につながるおそれがあります。
- **走行前にデュアルバックドアが確実に閉まっていることを確認する。**

⚠ 警告

デュアルバックドアを開けたまま走行すると、車室内に排気ガスが侵入し、一酸化炭素中毒になるおそれがあります。一酸化炭素を吸い込むと、意識が薄れて事故につながるおそれがあるほか、死亡または重大な傷害につながるおそれがあります。

⚠ 注意

- **デュアルバックドアや車体側に手を触れたままデュアルバックドアを閉めない。**

  手を挟まれてケガをするおそれがあります。

- **デュアルバックドアを閉めるときは、デュアルバックドアのふちやその周辺に手をかけない。**

  手を挟まれてケガをするおそれがあります。必ず外から押して閉めてください。

- **デュアルバックドアを開ける前に、デュアルバックドアに付着した雪や氷、ゴミなどの重量物を取り除く。**

  重量物が付いたままデュアルバックドアを開けると、重みで突然閉まるおそれがあります。

- **デュアルバックドアを開けるときは、必ず全開にする。**

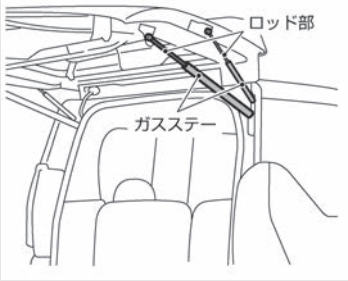
  途中で止めると突然閉まるおそれがあります。

- **風が強いときにデュアルバックドアを開ける場合は特に注意する。**

  風にあおられ、急に閉まることがあります。

- **デュアルバックドアを閉めるときは、手などを挟まないように注意する。**

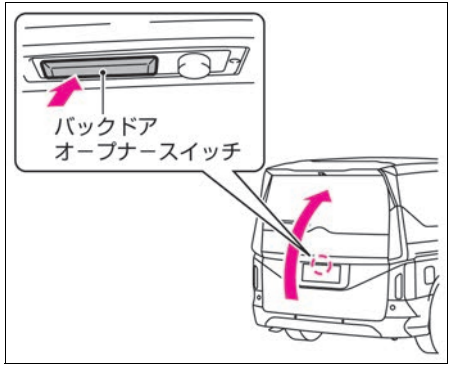
デュアルバックドアガスステーについて



- **デュアルバックドアのガスステーは、デュアルバックドアの重量を支えるために取り付けられています。ガスステーの損傷や作動不良を防ぐため、次のことを守る。**
  - ガスステーに手やひもなどをかけたり、横方向に力をかけたりしない
  - ビニール片、ステッカー、接着剤などの異物をガスステーに付着させない
- **ガスステーを持って、デュアルバックドアを閉めたり、ぶら下がったりしない。**

  手や腕を挟んだりして思わぬケガをするおそれがあります。

バックドアの開けかた

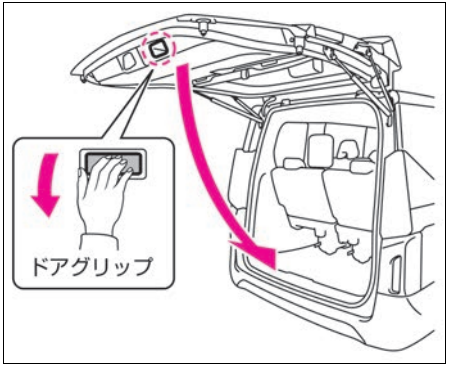


- 解錠されているときは、<バックドアオープナースイッチ>を押し、バックドアを持ち上げます。
- 施錠されているときは、キーを携帯して<バックドアオープナースイッチ>を押し、バックドアを持ち上げます。（ドアも同時に解錠します）
- ハーフバックドアを開けた状態でも、バックドアの開閉が行えます。

アドバイス

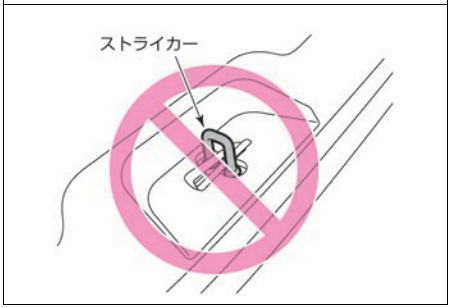
- <バックドアオープナースイッチ>を押したまま、リモコンキーでドアを施錠・解錠しないでください。故障の原因になります。
- 手を添えないと全開にならない場合は、ガスステーの保持力が低下しているおそれがあります。お近くの日産販売会社にて、早めに点検を受けてください。

バックドアの閉めかた



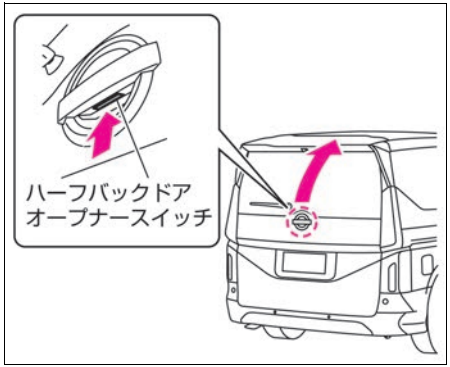
● ドアグリップに手を掛け、バックドアを降ろし確実にロックするまで押し付けます。

アドバイス



● バックドアを閉めるときは、ストライカーに異物を挟まないようにしてください。ストライカーやバックドアのロックが破損し、バックドアが閉まらなくなるおそれがあります。

ハーフバックドアの開けかた

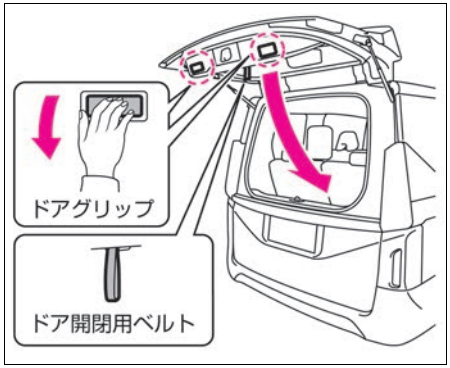


● 解錠されているときは、<ハーフバックドアオープナースイッチ>を押し、ハーフバックドアを持ち上げます。
● 施錠されているときは、インテリジェントキーを携帯して<ハーフバックドアオープナースイッチ>を押し、ハーフバックドアを持ち上げます。（全ドアも同時に解錠します）
● ハーフバックドアを開けた状態でも、バックドアの開閉が行えます。

アドバイス

● <ハーフバックドアオープナースイッチ>を押したまま、キーのスイッチでドアを施錠・解錠しないでください。故障の原因となります。
● 手を添えないと全開にならない場合は、ガスステーの保持力が低下しているおそれがあります。お近くの日産販売会社にて、早めに点検を受けてください。

ハーフバックドアの閉めかた



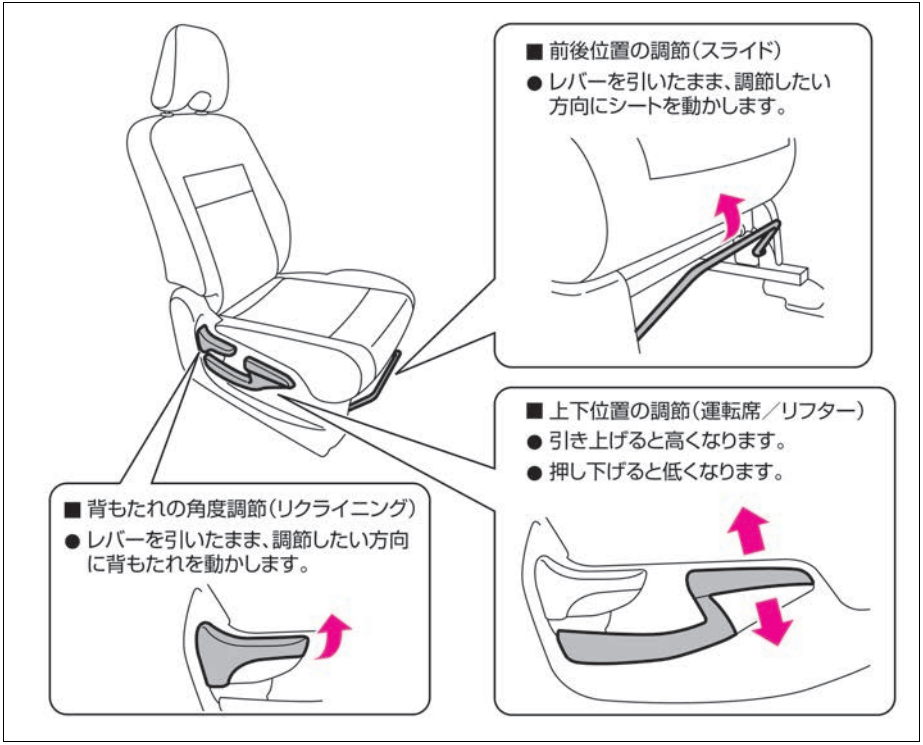
● ドアグリップまたはベルトに手を掛け、ハーフバックドアを降ろし確実にロックするまで押し付けます。

アドバイス

- ハーフバックドアを閉めるときは、ストライカーに異物を挟まないようにしてください。ストライカーやハーフバックドアのロックが破損し、ハーフバックドアが閉まらなくなるおそれがあります。

フロントシート

シートの調節のしかた



⚠ 警告

- **シートは必ず走行前に調節する。**
  走行中に調節すると、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- **シートを調節したあとは、確実に固定されたことを確認する。**
  固定されていないと突然運転姿勢が変わり、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- **背もたれを必要以上に倒したまま走行しない。**
  シートベルトが効果を十分に発揮せず、衝突時などに重大な傷害を受けるおそれがあります。
- **背もたれと背中の間にクッションなどを入れない。**
  運転姿勢が不安定になり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠ 注意

- **シートを調節するときは、動いている部分に手や足などを近づけない。**
  挟まれてケガをするおそれがあります。
- **背もたれの角度を調節するときは、背もたれを支えながら調節する。**
  顔や身体に当たり、思わぬケガをするおそれがあります。
- **シートの下に手を入れるときは注意する。**

⚠ 注意

車室内を清掃するときやシートの下に落としたものを拾うときなどは、シートレールやシートフレームに当たり、ケガをするおそれがあります。

アドバイス

- シートを操作するときは、USB電源ソケット★にUSB端子がささっていないことを確認してください。

  USB電源ソケットやモバイル機器が破損するおそれがあります。

  ➔ USB電源ソケットの使いかた (P.379)

- 助手席にお子さまや小柄な方を乗せたり、クッションなどを使用すると、シートベルトリマインダーが正常に作動しないおそれがあります。

  シートベルトリマインダー（➔ P.412）

ヘッドレストの調節のしかた

⚠ 警告

- **ヘッドレストを外したまま走行しない。**

  万一のとき、頭部への衝撃を防ぐことができなくなり、重大な傷害につながるおそれがあります。

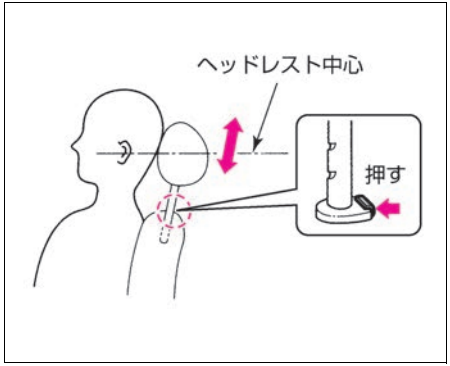
⚠ 注意

- **ヘッドレストを取り付けるときは、前後の向きを間違えない。**

  万一のとき、ヘッドレストが効果を十分に発揮せず、思わぬケガをするおそれがあります。

- **ヘッドレストを取り付けたあとは、ヘッドレストを持ち上げ、抜け出さないことを確認する。**

  万一のとき、ヘッドレストが効果を十分に発揮せず、思わぬケガをするおそれがあります。



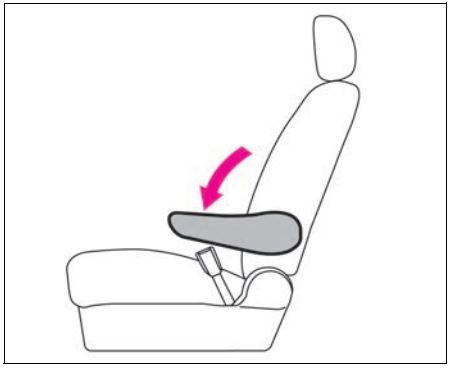
ヘッドレストの中心が、耳の高さになる位置に調節します。

- 高くするときは、ヘッドレストを引き上げます。
- 低くするときは、ボタンを押しながらヘッドレストを下げます。

■ ヘッドレストの外しかた、付けかた

- 取り外すときは、ボタンを押しながらヘッドレストを引き上げます。
- 取り付けるときは、ボタンを押しながらヘッドレストを差し込みます。

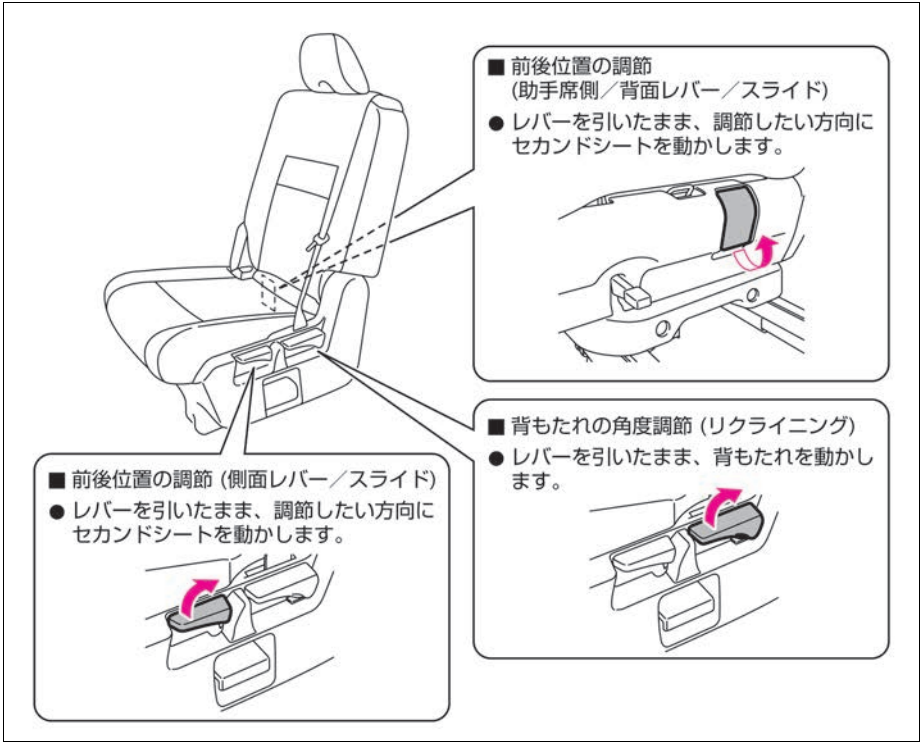
アームレスト★の使いかた（運転席・助手席）



- アームレストは運転席と助手席にあります。
- 使うときはアームレストを前に倒します。格納するときは引き上げます。

セカンドシート

シートの調節のしかた



⚠ 警告

- **シートは必ず走行前に調節する。**
  走行中に調節すると、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- **シートを調節したあとは、確実に固定されたことを確認する。**
  固定されていないと、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- **背もたれを必要以上に倒したまま走行しない。**
  シートベルトが効果を十分に発揮せず、衝突時などに重大な傷害を受けるおそれがあります。

⚠ 注意

- **シートを調節するときは、動いている部分に手や足などを近づけない。**
  挟まれてケガをするおそれがあります。
- **背もたれの角度を調節するときは、背もたれを支えながら調節する。**
  顔や身体に当たり、思わぬケガをするおそれがあります。
- **シートの下に手を入れるときは注意する。**
  車室内を清掃するときやシートの下に落としたものを拾うときなどは、シートレールやシートフレームに当たり、ケガをするおそれがあります。

アドバイス

- シートを操作するときは、USB電源ソケット★にUSB端子がささっていないことを確認してください。

  USB電源ソケットやモバイル機器が破損するおそれがあります。

  USB電源ソケットの使いかた (P.379)

サードシートへの乗り降り（ウォークイン機構）

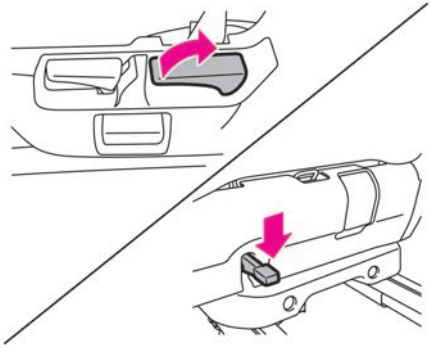
注意

- **ウォークイン機構を作動させるときは背もたれを手で押さえ、ゆっくり作動させる。**

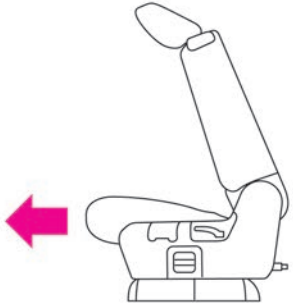
  急に背もたれが倒れたりシートがスライドすると、顔や身体などに当たったり、手や足を挟んだりして思わぬケガをするおそれがあります。

アドバイス

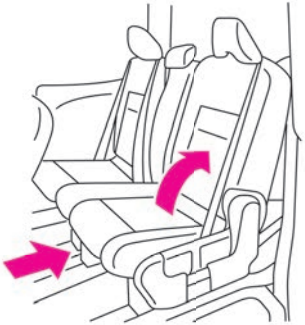
- シートを倒すときは十分に注意してください。物や飲物などを置いたままウォークイン機構を作動させないでください。物を壊したり車室内を汚すおそれがあります。



1. セカンドシートのリクライニングレバーまたはセカンドシート背面下部のペダルを踏んで、背もたれを前に倒します。



2. シートを前方にスライドさせます。



3. 戻すときは、シートを後方にスライドさせたあと、背もたれを起こして固定します。

ヘッドレストの使いかた

注意

- **ヘッドレストを取り付けるときは、前後の向きを間違えない。**

  万一のとき、ヘッドレストが効果を十分に発揮せず、思わぬケガをするおそれがあります。

- **ヘッドレストを取り付けたあとは、ヘッドレストを持ち上げ、抜け出さないことを確認する。**

  万一のとき、ヘッドレストが効果を十分に発揮せず、思わぬケガをするおそれがあります。

⚠ 注意

- **セカンドシート中央席のヘッドレスト★は、ロックする位置まで上げ、確実に固定されていることを確認する。**

  格納状態では機能が十分に発揮できません。

セカンドシート左右席

- ヘッドレストの中心が耳の高さになるように調節します。耳の高さにならない場合は、1段上のロックする位置まで上げて使います。
  - 高くするときは、ヘッドレストを引き上げます。
  - 低くするときは、ボタンを押しながらヘッドレストを下げます。

セカンドシート中央席★

- ヘッドレストは、格納位置からロックする位置まで上げた状態で使います。
  - 上げるときは、そのままヘッドレストを引き上げます。
  - 下げるときは、ボタンを押しながら下げます。

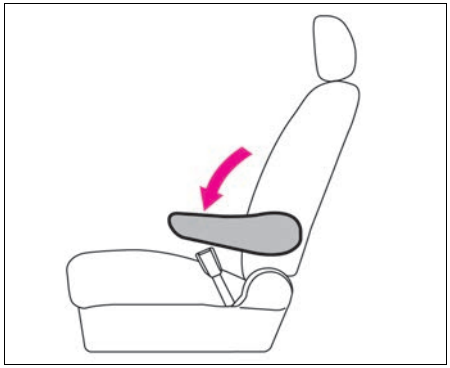
■ ヘッドレストの外しかた、付けかた

- 脱着のしかたは、フロントシートと同じです。

➲ ヘッドレストの調節のしかた (P.150)

アームレストの使いかた

スマートマルチセンターシート無車



- アームレストはセカンドシート左右席にあります。
- 使うときはアームレストを前に倒します。格納するときは引き上げます。

スマートマルチセンターシート付車

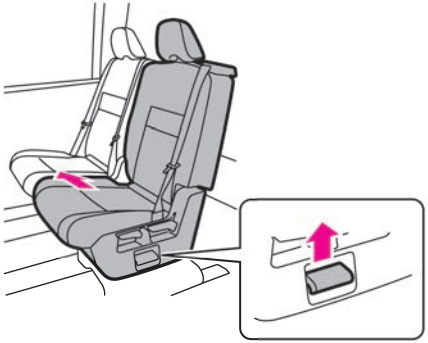
スマートマルチセンターシートの背もたれを倒すと、アームレストになります。

- スマートマルチセンターシートの前後位置を座っているシートの位置に合わせます。
- ストラップを引いて、スマートマルチセンターシートの背もたれを前に倒します。
- 元に戻すときは、背もたれを起こします。

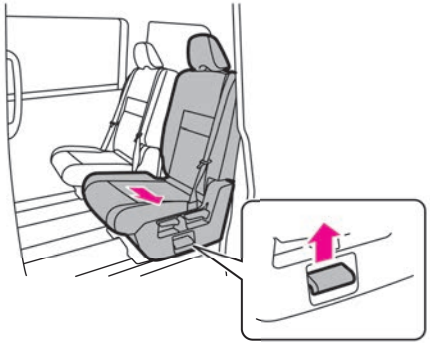
横スライド機構（運転席側／助手席側）

1. スマートマルチセンターシート★を前方にスライドします。

➲ スマートマルチセンターシート★（セカンドシート中央部） (P.154)



2. シート横側にある横スライドレバーを引いたまま、シートを車両中央側に動かし固定します。



3. 元に戻すときは、横スライドレバーを引いたまま、シートを元の位置に動かし固定します。

アドバイス

- 横スライドしたときは、3人掛けのシートとして使用しないでください。

  3人掛けをするときは、スマートマルチセンターシート★を合わせてご使用ください。

スマートマルチセンターシート★（セカンドシート中央部）

警告

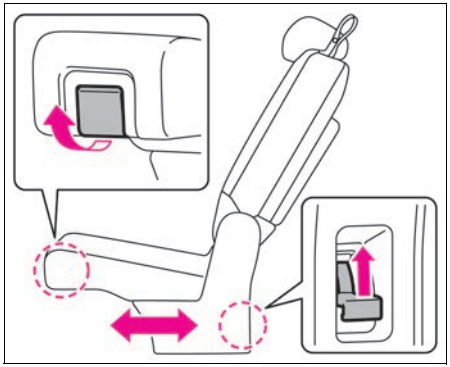
- **スマートマルチセンターシートに座るときは、必ず運転席側・助手席側セカンドシートの前後位置と背もたれの角度を合わせる。**

  シートベルトもセンターシート用のベルトを使用してください。位置がずれたままシートベルトを使用すると正しく着用ができず、万一の場合は、傷害を増大させることがあります。

- **運転席と助手席の間にスライドさせたときは、絶対にセンターシートに座らないでください。**

  シートとして使用することはできません。

■ 前後位置の調節



- シートの前または後ろにあるレバーを引き上げたまま、シートを前後に動かします。
- 適切な位置で止め、レバーから手を離し固定します。

知識

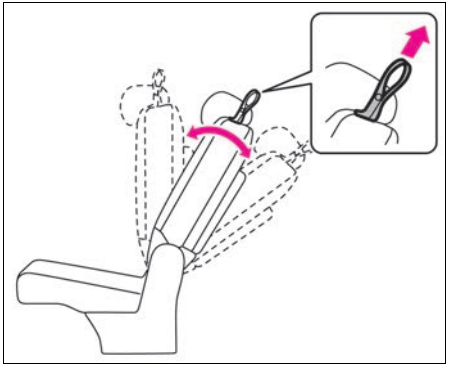
- スマートマルチセンターシートをフロントシート側にスライドさせると、セカンドシートとサードシート間をウォークスルーできます。

■ 背もたれの角度調節

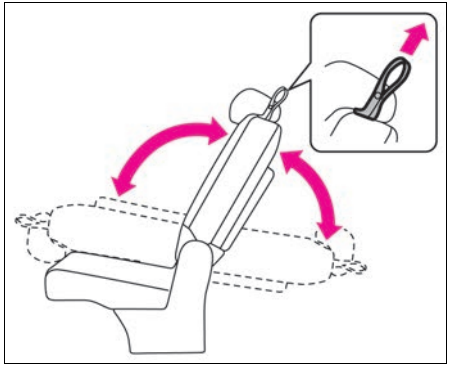
警告

- **シートを調節したあとは、確実に固定されたことを確認する。**

  固定されていないと、思わぬ事故につながるおそれがあります。



●ストラップを引いたまま、背もたれを傾けます。



シートの背もたれを前または後ろ側に倒すことができます。

●ストラップを引いたまま背もたれを前または後ろ側に倒します。

■ 背もたれの倒しかた

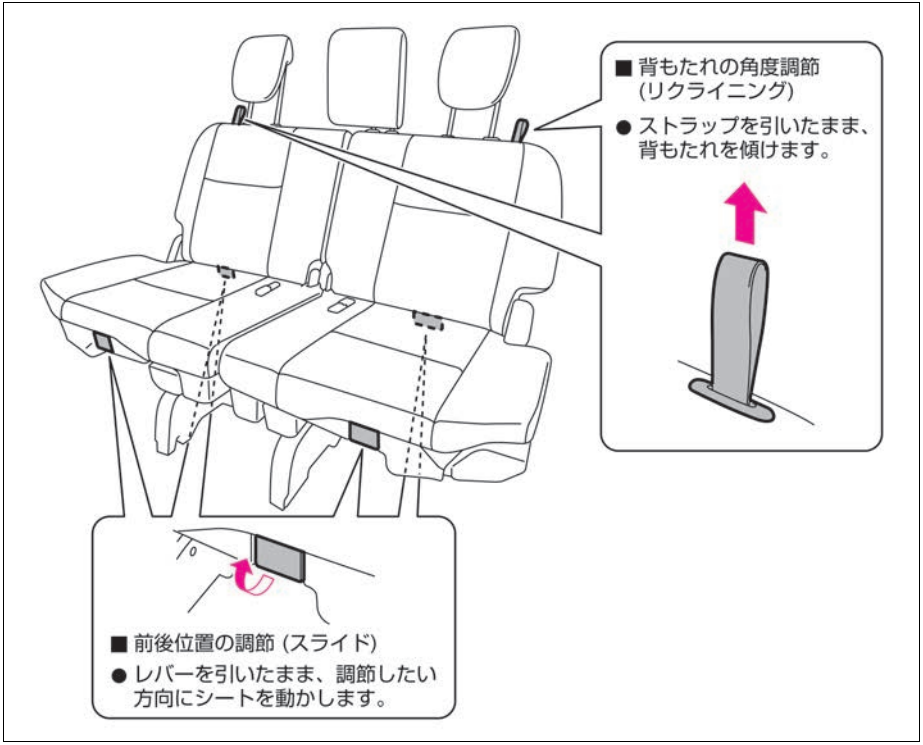
⚠ 注意

● **背もたれを倒したときは、上に乗らない。**

シートを損傷したり、転んだりして思わぬケガをするおそれがあります。

サードシート

シートの調節のしかた



⚠ 警告

- **シートは必ず走行前に調節する。**
  走行中に調節すると、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- **背もたれを必要以上に倒したまま走行しない。**
  シートベルトが効果を十分に発揮せず、衝突時などに重大な傷害を受けるおそれがあります。
- **シートを調節したあとは、確実に固定されたことを確認する。**
  固定されていないと、思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠ 注意

- **シートを調節するときは、動いている部分に手や足などを近づけない。**
  挟まれてケガをするおそれがあります。
- **背もたれの角度を調節するときは、背もたれを支えながら調節する。**
  顔や身体に当たり、思わぬケガをするおそれがあります。

アドバイス

- シートを戻すときは、必ずシート脚部（レッグ部）を起こしてから操作してください。

アドバイス

- シートを操作するとき、シートベルトを使用しないときは、左右のシートベルトのタングをシートベルトクリップで留めます。
- シートを操作するときは、USB電源ソケット★にUSB端子がささっていないことを確認してください。

  USB電源ソケットやモバイル機器が破損するおそれがあります。

  ➲ USB電源ソケットの使いかた (P.379)
- シートの背もたれを倒した状態で倒した背もたれの上に荷物を置かないでください。

シートの折りたたみかた

警告

- **シートを元の位置に戻したときは、確実に固定されたことを確認する。**

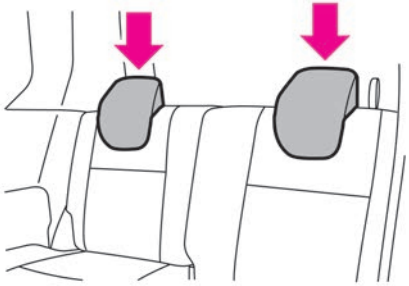
注意

- **シートを倒すときは十分に注意する。**

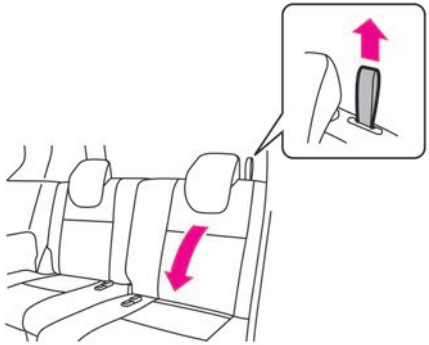
シートに人が乗っていたり、物や飲物などを置いたまま操作を行うと、ケガをしたり、物を壊したり、車室内を汚すおそれがあります。特にストラップで背もたれを倒すときは、シートで前方が見えにくいので注意してください。

1. 中央席にヘッドレストを装着しているときは、ラゲッジルーム内の格納場所にヘッドレストを格納してください。

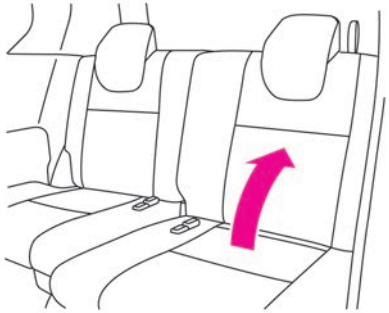
   ➲ ヘッドレストの使いかた (P.159)



2. 左右席のヘッドレストを一番下に下げます。



3. ストラップを引いたまま、背もたれを前に倒します。



4. 元に戻すときは、背もたれをロックする位置まで戻してから、ストラップを引いて背もたれの角度を調節します。
5. シートを元に戻したときは、中央席ヘッドレストを取り付けます。

格納のしかた

⚠ 警告

- **シートを元に戻したときは、シート脚部（レッグ部）のロックが確実に固定されていることを確認する。**

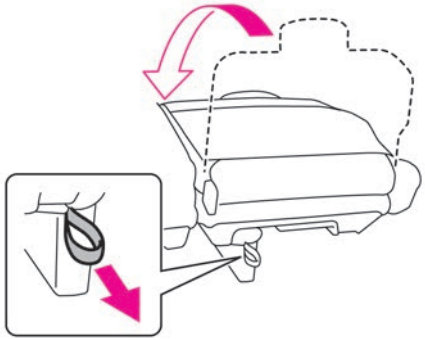
⚠ 注意

- **シートを倒すときは十分に注意する。**

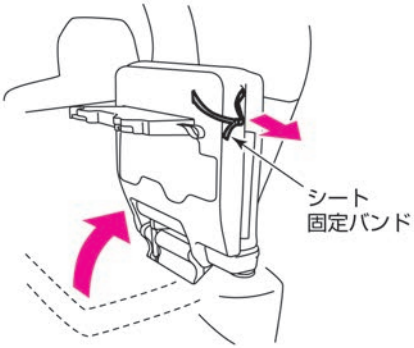
  シートに人が乗っていたり、物や飲物などを置いたまま操作を行うと、ケガをしたり、物を壊したり、車室内を汚すおそれがあります。特にストラップで背もたれを倒すときは、シートで前方が見えにくいので注意してください。

1. 中央席ヘッドレストを装着しているときは、ラゲッジルーム内の格納場所にヘッドレストを格納してください。

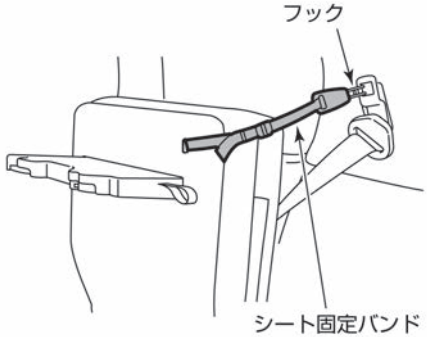
➔ ヘッドレストの使いかた (P.159)



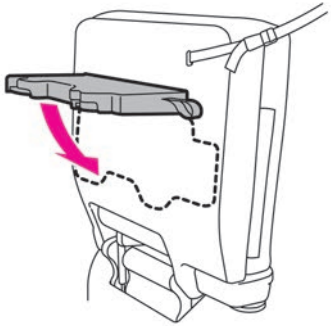
2. 青色のストラップを引いてシート脚部（レッグ部）のロックを解除します。（同時に背もたれが前に倒れます）



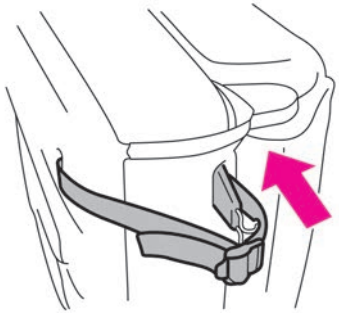
3. シートを窓側へ折りたたみ、シート固定バンドを引き出します。



4. シート固定バンドのフックを側面のフック掛けに確実に引っ掛けます。シート固定バンドの長さを調節して、シートをしっかりと固定します。



5. シート脚部（レッグ部）を折りたたみます。



6. 元に戻すときは、シート固定バンドをシートに格納してから、横に折りたたんだときと逆の手順で操作します。背もたれを戻すときは、ストラップは引かずに背もたれを起こします。

アドバイス

- シート固定バンドは確実にシートベルト上部のフックにねじれないように掛けてください。振動で外れたりすると危険です。
- シートを操作するときは、USB電源ソケット★にUSB端子がささっていないことを確認してください。

  USB電源ソケットやモバイル機器が破損するおそれがあります。

  ➔ USB電源ソケットの使いかた (P.379)

ヘッドレストの使いかた

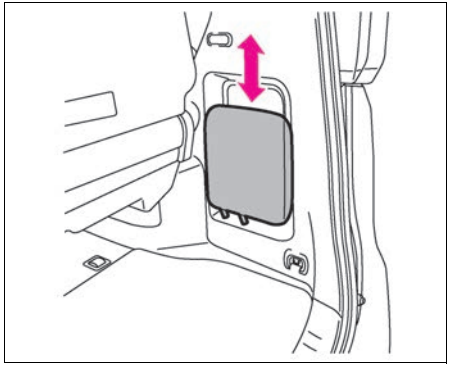
⚠ 注意

- **ヘッドレストはロックする位置まで上げ、確実に固定されていることを確認してから使用する。**

  格納状態では機能が十分に発揮できません。

- ヘッドレストは、格納位置からロックする位置まで上げた状態で使います。
  - 上げるときは、そのままヘッドレストを引き上げます。
  - 下げるときは、ボタンを押しながら下げます。
- サードシート中央席のヘッドレストは、差し込んでロックする位置で使います。

■ ヘッドレスト（中央）の取り出しかた、格納のしかた



- サードシート中央席のヘッドレストはラゲッジルーム内に格納されています。
- 上方向に引き抜きます。
- 格納するときは、向きに注意して差し込みます。

■ ヘッドレストの外しかた、付けかた

- ヘッドレストの脱着のしかたは、フロントシートと同じです。

  ➔ ヘッドレストの調節のしかた (P.150)

ハンドル

適切な運転姿勢で無理なくハンドルを握れるように、ハンドル位置を調節します。

ハンドル位置の調節のしかた

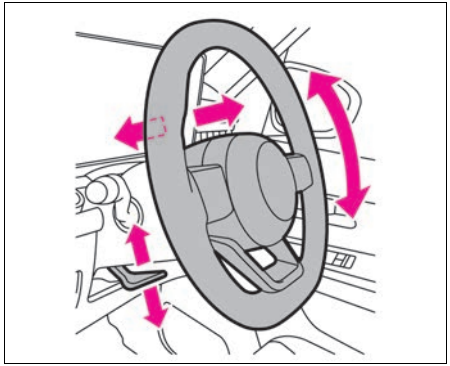
⚠ 警告

- **ハンドルの調節は、必ず走行前に行う。**

  走行中に調節すると、思わぬ事故につながるおそれがあります。

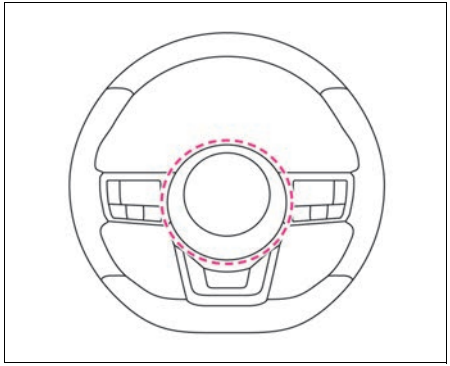
- **調節したあとは、確実に固定されたことを確認する。**

  ハンドル位置が固定されていないと突然運転姿勢が変わり、思わぬ事故につながるおそれがあります。



●ハンドル左下のレバーを押し下げ、ハンドルを前後・上下に動かします。
●適切な位置で止め、レバーを引き上げて固定します。

ホーンの鳴らしかた



ホーンを鳴らすには、ハンドル中央のパッド面を押します。

ミラーの調節

ルームミラー★

ルームミラーは、後方が十分確認できるように、正しい運転姿勢で座ってから調節します。

ルームミラーの調節のしかた

⚠ 警告

- **ミラーの調節は、必ず走行前に行う。また、防眩への切り替えは必要なときのみ行う。**

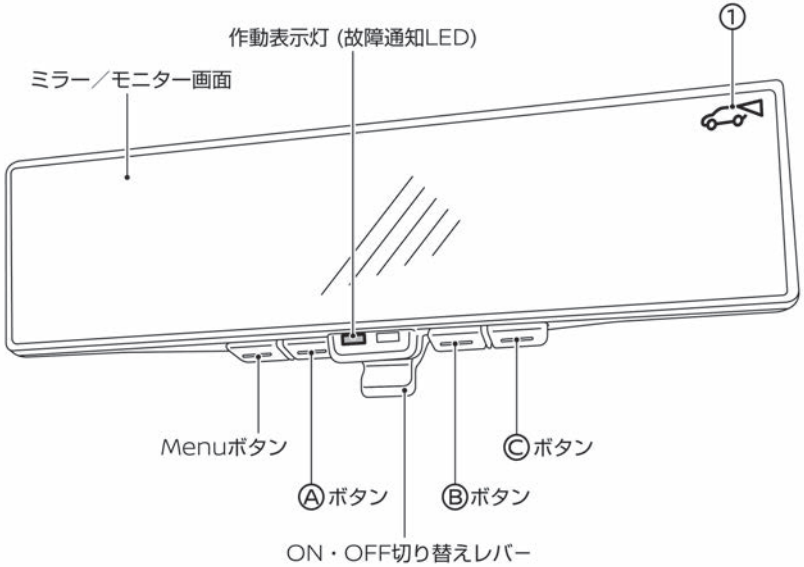
  走行中にミラーを調節したり、不必要に防眩へ切り替えたりしていると、前方不注意となり思わぬ事故につながるおそれがあります。

- ミラー本体を持ち、角度を調節して適切な位置に合わせます。
- 夜間など後続車のヘッドランプが眩しいときは、防眩切り替えレバーを手前に引くと反射が弱くなります。
- 昼間など通常走行時は、防眩切り替えレバーを元の位置に戻してお使いください。

インテリジェント ルームミラー★

乗員、ヘッドレスト、積載物などで遮られがちなルームミラーの後方視界をクリアに保ちます。車室内の状況に関わらず、車両後方にあるカメラの画像をルームミラーに映し出します。ON・OFF切り替えレバーでミラー状態とモニター表示状態を切り替えることができます。

インテリジェント ルームミラーの使いかた



<Menuボタン>：調節する項目を表示

<Ⓐボタン>・<Ⓑボタン>：項目選択および調節

<Ⓒボタン>：決定

■ ルームミラーモード

● ミラーとして使用します。

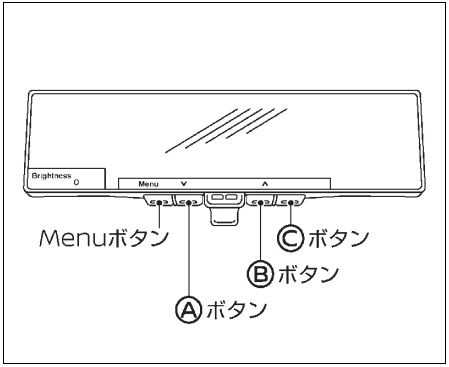
■ インテリジェント ルームミラーモード

● モニターとして使用します。
（インテリジェント ルームミラーモードのときは、①が表示されます）

1. <パワースイッチ>をONにします。
2. インテリジェント ルームミラーのON・OFF切り替えレバーを手前に引きます。（作動表示灯（故障通知LED）が点灯）
3. インテリジェント ルームミラーモードに切り替わり、モニターに車両後方の画像が表示されます。
   インテリジェント ルームミラーのON・OFF切り替えレバーを車両前方側へ倒すと、モニター画面がOFFになり、ルームミラーモードとして使用できます。

● 周囲の明るさにより見づらかったり、眩しく感じたりしたときはインテリジェント ルームミラーモードをOFFにし、ルームミラーモードでご使用ください。

インテリジェント ルームミラーの画質調節



インテリジェント ルームミラーモードのときに、モニター画像の各種調節ができます。

<Menuボタン>を押すと調節できる項目が表示されます。<Ⓐボタン>・<Ⓑボタン>で選択し、<Ⓒボタン>で調節する項目を決定します。

■ Brightness（明るさ）

モニター画像の明るさを調節します。
（周囲の明るさにより、画面の明るさが調節できなくなる場合があります。）

- <Ⓐボタン>を押すと、画面が暗くなります。
- <Ⓑボタン>を押すと、画面が明るくなります。
- 調節幅：-8（暗い）～+8（明るい）

■ Down/Up（下／上）

モニター画像の上下位置を調節します。

- <Ⓐボタン>を押すと、画像が下に移動します。
- <Ⓑボタン>を押すと、画像が上に移動します。
- 調節幅：-8（下方向）～+8（上方向）

■ Left/Right（左／右）

モニター画像の左右位置を調節します。

- <Ⓐボタン>を押すと、画像が左に移動します。
- <Ⓑボタン>を押すと、画像が右に移動します。
- 調節幅：-8（左）～+8（右）

■ Rotation（回転）

モニター画像位置の回転調節をします。

- <Ⓐボタン>を押すと、画像が左に回転します。
- <Ⓑボタン>を押すと、画像が右に回転します。
- 調節幅：-8（左回り）～+8（右回り）

■ Indication（インジケーター）

モニター文字表示の表示・非表示を設定します。

- <Ⓐボタン>を押すと、モニター文字表示が非表示になります。
- <Ⓑボタン>を押すと、モニター文字表示が表示されます。

■ Language（言語）

表示させる言語を切り替えます。

- <Ⓐボタン>・<Ⓑボタン>で選択し、<Ⓒボタン>で決定します。

■ Switch Backlight（スイッチ照明）

スイッチの照明のON・OFFを設定します。

- <Ⓐボタン>を押すと、スイッチの照明がOFFになります。
- <Ⓑボタン>を押すと、スイッチの照明がONになります。

■ License（ライセンス）

ライセンス情報が表示されます。

インテリジェント ルームミラー使用時の注意事項

本製品には、次のソフトウェアが含まれています。

① パナソニック オートモーティブシステムズ株式会社「パナソニック」）により、またはパナソニックのために開発されたソフトウェア

② パナソニックにライセンスされた第三者所有のソフトウェア

③ オープンソースソフトウェア上記③に分類されるソフトウェアには、下記WEBサイトに記載されているライセンス情報が適用される様々なソ

フトウェアを含むオープンソースソフトウェア（OSS）が含まれています。
http://car.panasonic.jp/oss/n03pkdl6

⚠ 警告

- **走行前に、ルームミラーの調節を必ず行う。**

  ルームミラーモード（ミラー状態）にして正しい姿勢で運転席に座り、後方がよく見える位置に調節してください。調節をしないで運転を始めると、インテリジェント ルームミラーモード（モニター表示状態）にしたときにミラーの反射でモニターが見えにくくなる場合があります。

- **インテリジェント ルームミラーモードのときに作動表示灯（故障通知LED）が消灯したら、すみやかにルームミラーモードに切り替える。**

  再度インテリジェント ルームミラーにしても点灯しない場合、システムの異常が考えられます。日産販売会社にご相談ください。

- **あらかじめ死角範囲を確認する。**

  インテリジェント ルームミラーには死角があります。システムを過信せず、安全運転を心がけてください。

- **ミラー本体やカメラ、配線を分解したり改造したりしない。**

  異臭がする、煙が出るなどした場合は、ただちに使用を中止し日産販売会社にご相談ください。

- **走行中に操作しない。**

  走行中に操作を行うと、前方不注意となり思わぬ事故につながるおそれがあります。

- **ミラー本体、カメラ、配線類にはタバコなどの火気を近づけない。**

  破損や車両火災の原因となります。

⚠ 注意

- **モニターを凝視しない。**
  - 前方不注意となり思わぬ事故につながるおそれがあります。
  - 同乗者が凝視すると、車酔いを起こすおそれがあります。

- **太陽や後方車両のヘッドランプなどの強い光源がカメラに入ると、インテリジェント ルームミラーのモニターに光のスジが入ったり、明るい光源がモニター上に広がったりする場合があります。その際には、必要に応じてルームミラーモードに戻してご使用ください。**

- 走行可能表示灯が消灯時に長時間使用すると、12Vバッテリーあがりのおそれがあります。
- 無線機のアンテナをインテリジェント ルームミラー近くに取り付けないでください。無線機の電波により、インテリジェント ルームミラーの映像に乱れが出ることがあります。
- ボタンを強く押しすぎたり、レバーを強く操作したりすると故障の原因となります。また、ミラー本体が落下するおそれがあります。
- ミラーを上下20度、左右30度以上回転させないでください。配線が断線するおそれがあります。
- ミラー本体に強い衝撃を与えないでください。故障の原因となります。
- 車両後方についているカメラやカメラカバーに無理な力をかけないでください。カメラが外れたり、故障したりするおそれがあります。
- 外部光による影響でモニターが見えにくいときは、ルームミラーモード（ミラー状態）にして使用してください。
- LED光源を使用した照明の一部が映った場合、画面がちらつく場合がありますが、故障ではありません。
- 外部環境の乱反射により、画面がちらつく場合がありますが、故障ではありません。
- すばやい動きにはモニター表示が追従できない場合がありますが、故障ではありません。
- ルームミラーとは後方の見えかたが異なります。インテリジェント ルームミラーの機能を過信せず、直接後方を確認するなど、責任のある運転を心がけてください。
- モニターの明るさを明るく調節しすぎると、運転中に目が疲れることがあります。明るさを適切に調節してください。

- 雨天時はリヤワイパーを併用してください。リヤワイパーを併用してもカメラ映像が不鮮明の場合、リヤワイパーゴムの劣化を確認してください。
- リヤワイパー使用中は、カメラ前をリヤワイパーが通過した際に、画面がちらつくように見える場合がありますが、故障ではありません。
- カメラ映像が不鮮明な場合は、インテリジェント ルームミラーカメラ前面のバックドアガラスを清掃してください。清掃してもカメラ映像が不鮮明な場合は、ガラス面に油膜が付いているおそれがあります。油膜取りを使用して清掃してください。
  ➔ インテリジェント ルームミラー★のお手入れ（P.478）
- バックドアガラスがくもった場合は、リヤデフォッガーを使用し、バックドアガラスのくもりを取ってください。くもりが完全に取れるまではルームミラーモードで使用してください。
- インテリジェント ルームミラーのモニターが熱を帯び、高温になることがありますが、故障ではありません。
- 遠いものや暗いときは色が認識しにくいことがありますが、故障ではありません。
- インテリジェント ルームミラーのお手入れについては（➔P.478）をお読みください。
- 体調などによりインテリジェント ルームミラーモードの映像に焦点が合うまでに時間を要する場合があります。
- インテリジェント ルームミラーの前方をふさがないでください。モニターの明るさ調整やカメラ映像の切り替えができないことがあります。
- インテリジェント ルームミラーモードのとき、インテリジェント ルームミラーが高温になると明るさが低下したり、映像が表示されなかったりする場合があります。
- インテリジェント ルームミラーモードのとき、インテリジェント ルームミラーが低温になるとカメラ映像が遅れることがあります。

ドアミラー

＜パワースイッチ＞がONまたはOFFでACC状態のときに操作できます。

ACC状態については、オートACC機能（➔P.190）をお読みください。

ドアミラーの注意事項

⚠ 警告

- **ミラーの調節は、必ず走行前に行う。**
  走行中にミラーを調節すると、前方不注意となり思わぬ事故につながるおそれがあります。

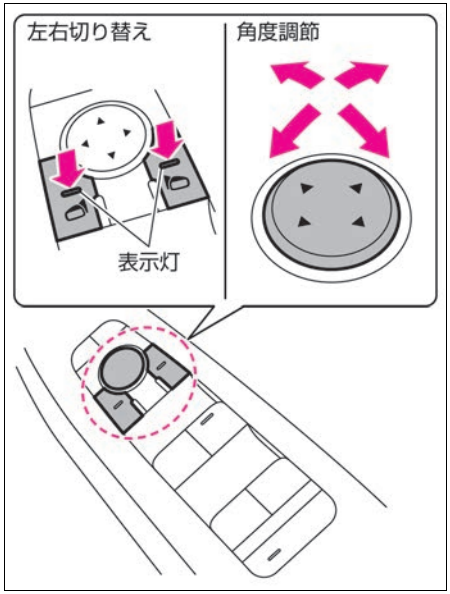
⚠ 注意

- **ミラーが動いているときは手を触れない。**
  手を挟む、またはミラーが故障するおそれがあります。
- **ミラーを格納したまま走行しない。**
  後方確認ができないため危険です。

アドバイス

- ミラーの映像は実際より遠くに見えるので注意してください。

ドアミラーの角度調節のしかた



●調節したいミラー側の<左右切り替えスイッチ>を押します。
（スイッチの表示灯が点灯）

●<角度調節スイッチ>を前後左右に押して、鏡面角度を調節します。

ドアミラーの格納のしかた

●<格納スイッチ>を押すと、左右のミラーが格納されます。

●<格納スイッチ>をもう一度押すと、元の位置に戻ります。

●スイッチ操作を連続して行うと、途中で停止することがありますが、故障ではありません。しばらくしてから作動させてください。

●手動で開閉すると<パワースイッチ>をONにしたとき、<格納スイッチ>の位置によりミラーが動き出すことがあります。

●手動でミラーを開閉しないでください。手動で開閉すると、走行中にミラーが規定位置より前方または後方に倒れ、後方確認ができなくなるおそれがあります。手動で開閉してしまったときは、走行前に<格納スイッチ>で開閉操作を行ってください。

ドアロック連動格納機能について

ドアの施錠に連動させ、ミラーを格納することができます。

●リモコンまたは、ドアにあるスイッチで施錠すると、左右のミラーが格納されます。

●リモコンまたは、ドアにあるスイッチで解錠すると、左右のミラーが開きます。
（アドバンスドドライブアシストディスプレイで、<パワースイッチ>をONにすると左右のミラーが開く設定に変更できます）

●アドバンスドドライブアシストディスプレイで設定［ ⚙ ］⇒［車両設定］⇒［ドアミラー］を選択すると、ドアロック連動格納機能の設定を変更することができます。
設定の詳細については、車両設定（➔P.86または➔P.111）をお読みください。

ドアミラーヒーター★の使いかた

走行可能表示灯が点灯しているとき、<リヤウインドーデフォッガースイッチ>（➔P.173）を押すと、ドアミラーに内蔵されたヒーターが作動し霜やくもりが取れます。

サイドアンダーミラー★

サイドアンダーミラーについて

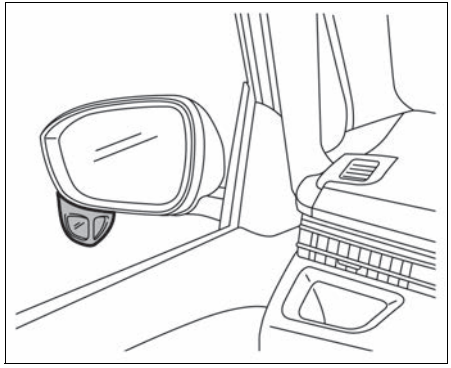
⚠ 注意

- **発進時や停車時にはサイドアンダーミラーだけでなく、直接目視で周囲の安全を確認する。**
- **走行中に後方を確認するときは、ルームミラーまたはドアミラーで確認する。**

サイドアンダーミラーは車の近くを確認するため、角度が下向きにセットされています。

アドバイス

- サイドアンダーミラーは固定式です。破損するおそれがあるため無理に動かさないでください。



ミラーの調節

● 発進時や停車時に、車両の左側すぐ下の状況を確認するために使います。※インテリジェントアラウンドビューモニター付車には付きません。

パワーウインドー

<パワースイッチ>がONのときに操作できます。

パワーウインドーの注意事項

⚠ 警告

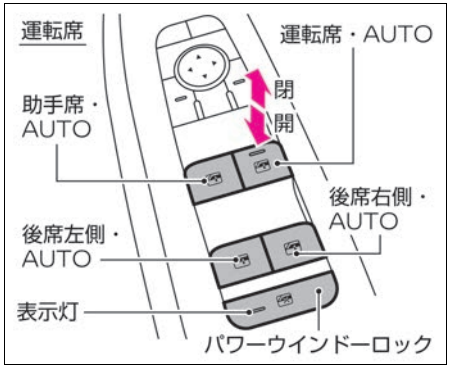
- **乗員の操作を含めすべての窓ガラス開閉操作は運転者に責任があるため、次のことを必ず守る。**
  - 走行中は顔や腕、物などを車外に出さないでください。車外の物に当たったり、急ブレーキ時に重大な傷害につながったりするおそれがあります。
  - 窓ガラスを開閉するときは、窓から手や顔などを出したり、故意に挟み込み防止機構を働かせたりしないでください。手や顔、腕などを窓ガラスに挟まれたり巻き込まれたりすると、重大な傷害につながるおそれがあります。
  - お子さまにはパワーウインドーを操作させないでください。重大な傷害につながるおそれがあるため、<パワーウインドーロックスイッチ>を押し込んでください。
  - 窓ガラスを開閉するときはお子さまに声をかけ、手や腕などが窓ガラス付近にないことを確認してから操作を行ってください。
  - 車から離れるときは<パワースイッチ>をOFFにし、キーとお子さまを車室内に残さないでください。いたずらなどの誤った操作によって思わぬ事故につながるおそれがあります。

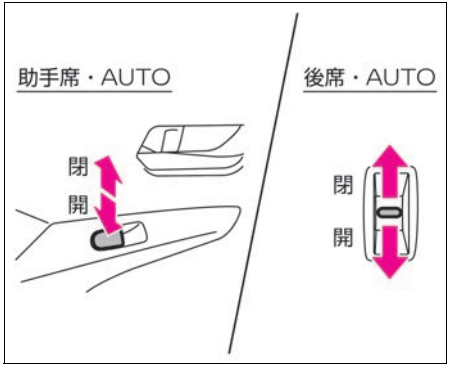
⚠ 注意

- **指などを挟まれないように注意する。**

  窓ガラスには挟み込み防止機構がありますが、窓ガラスを確実に閉めるため、閉め切る直前の部分では挟み込みを感知できない領域があります。

パワーウインドーの開けかた、閉めかた





運転席のスイッチで、各席の窓ガラスの開閉ができます。助手席のスイッチおよび後席のスイッチでは自席の窓ガラスの開閉ができます。

■ 開けるには

- スイッチを軽く押すと、押している間だけ開きます。

■ 閉めるには

- スイッチを軽く引き上げると、引き上げている間だけ閉まります。

■ 自動開閉するには

窓ガラスはワンタッチで自動開閉できます。

- スイッチを強く押すと全開します。
- スイッチを強く引き上げると全閉します。
- 途中で止めたいときは、スイッチを操作した反対側に軽く押すか引き上げます。

■ 開閉操作をロックするには

お子さまが誤って窓ガラスを開閉することを防止できます。

- ＜パワーウインドーロックスイッチ＞を押すと、運転席以外の窓ガラスの開閉ができなくなります。（スイッチの表示灯が点灯）
- スイッチをもう一度押すとロックが解除されます。（スイッチの表示灯が消灯）

■ キーOFF後作動機構

- 窓ガラスは、＜パワースイッチ＞をOFFにしたあとでも、約45秒間は開閉することができます。ただし、その約45秒間に運転席ドアまたは助手席ドアを開けると、窓ガラスの開閉はできなくなります。

知識

音声操作機能★について

- ボイスアシスタントを使用して、パワーウインドーを音声で操作することができます。

  ボイスアシスタントについては、別冊のナビゲーションシステム取扱説明書をお読みください。

- ボイスアシスタントでパワーウインドーの操作を指示したあと、音声で案内中にステアリングスイッチの＜ ◀ ＞スイッチを押す、もしくはナビゲーションシステムの［ ⮌ ］をタッチすると、操作をキャンセルできます。

- ボイスアシスタントによって窓ガラスが開閉しているときに作動を途中で止めたい場合は、通常のパワーウインドー操作同様、ドア上のスイッチを操作することで開閉を止めることができます。

挟み込み防止機構

⚠ 警告

- **窓ガラスを閉める前に乗員の手や顔などが窓から出ていないことを確認する。**

  挟み込み防止機構を解除すると、自動開作動と挟み込み防止機構が作動しません。確認せずに窓ガラスを閉めると重大な傷害につながるおそれがあります。

- 窓ガラスを閉めているとき、車体と窓ガラスの間に異物が挟まると、窓ガラスの上昇が停止し、自動で少し開きます。
- 環境や走行条件により、異物を挟んだときと同じような衝撃や荷重が窓ガラスに加わると挟み込み防止機構が作動することがあります。
- 故障などで挟み込み防止機構が作動してしまい、窓ガラスを閉めることができないときは、次の手順で挟み込み防止機構を解除して、窓ガラスを閉めてください。

① 挟み込み防止機構が作動するまでスイッチを引き上げます。
② ①の手順を2回繰り返します。
③ スイッチを引き続けて窓ガラスを閉めます。

- 挟み込み防止機構の解除は次の場合に終了し、通常の作動に戻ります。
  - 一定時間（約10秒）経過する
  - 窓ガラスを全閉する

正常に作動しないとき

- 初期設定を行うときは、ドアを閉めて操作してください。

窓ガラスのワンタッチ開閉、挟み込み防止機構、キーOFF後作動機構が正常に作動しないときは、次の操作を行い初期設定してください。

① e-POWERシステムを始動します。
② 運転席のスイッチを引き続けて運転席窓ガラスを全閉にしたあと、スイッチから手を離します。※1
③ 運転席のスイッチを5秒以上引き続けます。※2
④ 運転席のスイッチを押し続けて運転席窓ガラスを全開にしたあと、スイッチから手を離します。
⑤ 運転席のスイッチを5秒以上押し続けます。※2
⑥ 運転席窓ガラスが全閉するまで、運転席のスイッチを引き続けます。
⑦ 運転席窓ガラスを自動開閉させて、正常に作動することを確認します。

※1：全閉になる前に窓ガラスが停止した場合は、スイッチから手を離し、再度スイッチを引き続けて全閉にしてください。

※2：約5秒以上スイッチを引き続ける、または押し続けると再度運転席窓ガラスが動きます。

● 初期設定にしても正常に作動しない場合は早めに日産販売会社で点検を受けてください。

燃料補給口の開閉

燃料補給口

給油口にキャップがない燃料タンクです（キャップレス給油口）。リッドを開け、給油ノズルを直接差し込むだけで給油することができます。給油ノズルを引き抜くと、給油口が密閉します。給油口は運転席側の車両後方にあります。

燃料の補給

アドバイス

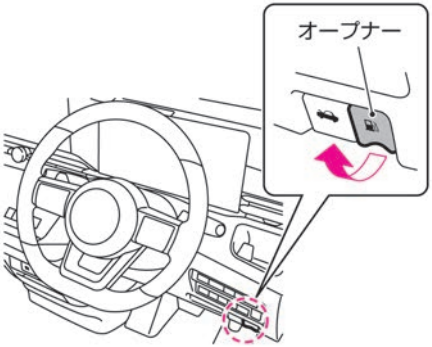
- 指定以外の燃料は補給しないでください。

- 燃料タンクの容量は約52ℓです。

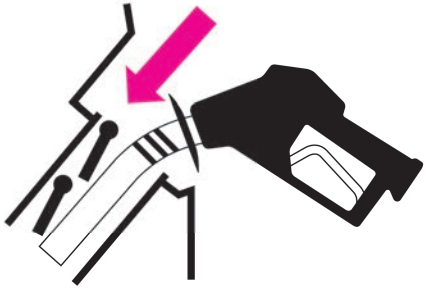
エンジン型式	指定燃料
HR14DDe	無鉛レギュラーガソリン

- 燃料が少なくなるとアドバンスドドライブアシストディスプレイに警告が表示されます。
  警告メッセージ（➔P.422）

燃料補給のしかた

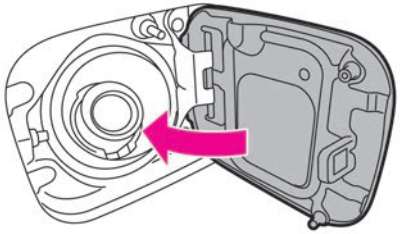


1. 運転席右下にあるオープナーを引きリッドを開けます。



2. 給油ノズルを給油口へまっすぐ向け、一気に奥まで差し込み、給油します。
   給油中はノズルを動かさないでください。

3. 給油ノズルが自動停止したら、給油ノズルに残っている燃料がこぼれないように、約5秒待ってから給油ノズルを引き抜きます。



4. リッドを閉めます。

燃料補給時の注意事項

警告

- **燃料補給時は、次のことを必ず守る。**
  - e-POWERシステムを停止する
  - 車のドアや窓を閉める
  - タバコなどの火気を近づけない

⚠ 警告

— 気化した燃料を吸わない

- **補給作業を行う前に、金属部分に触れて身体の静電気を除去する。**

  放電による火花でやけどをしたり、燃料に引火したりするおそれがあります。

- **補給作業はひとりで行う。**

  作業中に車室内に戻ったり、帯電している人や物に触れると再帯電するおそれがあります。

- **給油ノズルは確実に給油口へ挿入する。**

  給油ノズルの挿入が浅いと、給油の自動停止が遅れるため、燃料が吹きこぼれ火災につながるおそれがあります。

- **給油ノズルの自動停止後は、給油の継ぎ足しをしない。**

  継ぎ足しをすると、燃料があふれて火災につながるおそれがあります。

- **ガソリンスタンド内に掲示されている注意事項を守る。**

- **給油自動停止後、すぐに給油ノズルを引き抜かない。**

  給油ノズル内に残った燃料がこぼれ出るおそれがあります。

- **携行缶から給油する場合、給油ノズルを確実に奥まで差し込む。**

  給油口には2枚のフラップがあります。給油ノズルを2枚目のフラップの奥まで差し込まないと、給油できず燃料が吹きこぼれ火災につながるおそれがあります。

⚠ 注意

- **フラップを指などの給油ノズル以外のもので開く、またはのぞき込んだりしない。**

  フラップの故障やシール不良、損傷のおそれがあります。

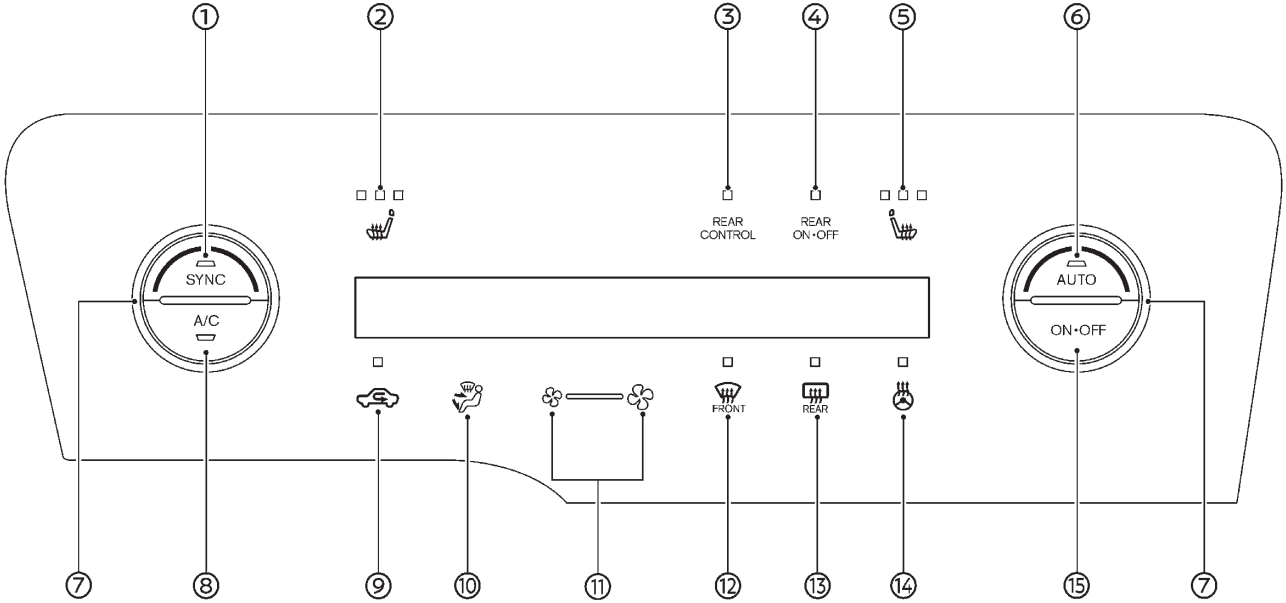
- **リッドが開いた状態で、高圧洗浄機で給油口付近を洗浄しない。**

  燃料タンク内に水が混入するおそれがあります。

フロントオートエアコン＋リヤオートエアコン★／リヤクーラー★

吹き出し口、風量、内気循環／外気導入を自動で制御し、設定した温度に保ちます。

各スイッチの名称と機能



☆／★：車両型式、オプションなどで異なる装備

① **SYNCスイッチ（➲P.176）**
スイッチを押すと、SYNCモードがONになります。

② **助手席ヒーターシートスイッチ★（➲P.377）**
スイッチをタッチするごとに、HI⇒MID⇒LO⇒OFF⇒HIの順に切り替わります。

③ **REAR CONTROLスイッチ★**
前席でリヤオートエアコンを操作できます。

④ **REAR ON・OFFスイッチ**
リヤオートエアコン★またはリヤクーラー★のON・OFFを切り替えます。

⑤ **運転席ヒーターシートスイッチ★（➲P.377）**
スイッチをタッチするごとに、HI⇒MID⇒LO⇒OFF⇒HIの順に切り替わります。

⑥ **AUTOスイッチ**
自動制御に切り替えます。吹き出し口、風量の切り替えを自動で制御して設定した温度に保ちます。

⑦ **温度調節ダイヤル**
ダイヤルを回して希望の設定温度を切り替えます。SYNCモードがONのときは、運転席側で温度を調節すると助手席側も同時に温度調節します。（18.0°C～32.0°C）

⑧ **A/Cスイッチ**
冷房・除湿機能のON・OFFを切り替えます。

⑨ **内外気切り替えスイッチ**
スイッチをタッチするごとに、内気循環、外気導入が切り替わります。（内気循環のとき、スイッチの表示灯が点灯します）

⑩ **吹き出し口切り替えスイッチ（➲P.181）**

⑪ **風量調節スイッチ**
風量を調節します。

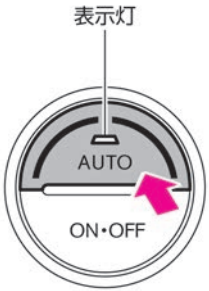
⑫ **デフロスタースイッチ（➲P.452）**
フロントガラスのくもりが取れます。

⑬ **リヤウインドーデフォッガースイッチ（➲P.452）**
バックドアガラスのくもりが取れます。また、ドアミラーヒーター付車はドアミラーに内蔵されたヒーターが作動して、霜やくもりが取れます。

⑭ **ステアリングヒータースイッチ★（➲P.377）**

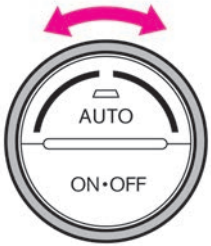
⑮ **ON・OFFスイッチ**
フロントオートエアコンのON・OFFを切り替えます。

前席エアコン操作部でのオートの使いかた（フロントオートエアコン）

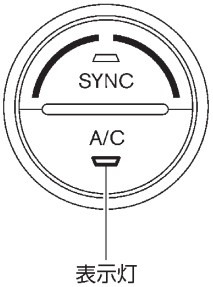


1. ＜AUTO＞スイッチを押します。
（スイッチの表示灯が点灯）

● オートで使用中に風量の調節または吹き出し口の切り替えを行うと＜AUTO＞スイッチの表示灯は消灯しますが、操作した機能以外については引き続き自動制御されます。
また、内気循環／外気導入が自動制御モード中に＜内外気切り替えスイッチ＞をタッチすると、マニュアルモードに切り替わります。（スイッチの表示灯が点灯の場合は内気循環、消灯の場合は外気導入の状態になります。）



2. 温度調節ダイヤルを回して、設定温度を調節します。
右回し： 設定温度を上げる
左回し： 設定温度を下げる



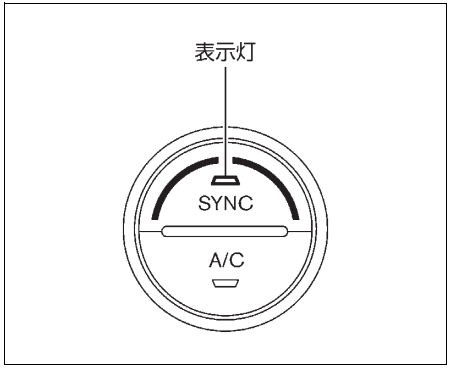
3. ＜A/C＞スイッチの表示灯が消灯しているときは、＜A/C＞スイッチを押します。（スイッチの表示灯が点灯）
＜A/C＞スイッチの表示灯点灯時：冷房・除湿機能ON

4. ＜内外気切り替えスイッチ＞を約2秒間タッチし続けます。
スイッチの表示灯が点滅し、自動制御モードに切り替わります。

● ＜パワースイッチ＞をOFFにし、再度＜パワースイッチ＞をONにすると、エアコンの条件によっては、内気循環／外気導入が自動制御モードになる場合があります。

SYNC モードの使いかた

運転席および助手席の温度を同時に調節するときに使います。



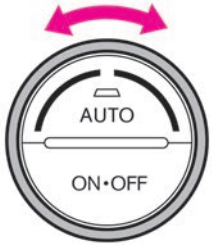
- ＜SYNC＞スイッチを押すとSYNCモードになります。（スイッチの表示灯が点灯）
- SYNCモードを解除するときは、助手席側の設定温度を調節します。
- SYNCモードを解除すると＜SYNC＞スイッチの表示灯が消灯します。

前席エアコン操作部でのオートの使いかた（リヤオートエアコン）

1. ＜ON・OFF＞スイッチを押します。

2. ＜REAR ON・OFF＞スイッチをタッチしてリヤオートエアコンをONにします。（スイッチの表示灯が点灯）

3. ＜REAR CONTROL＞スイッチの表示灯が消灯しているときは、＜REAR CONTROL＞スイッチをタッチします。（スイッチの表示灯が点灯）



4. 温度調節ダイヤルを回して、設定温度を調節します。
右回し： 設定温度を上げる
左回し： 設定温度を下げる

知識

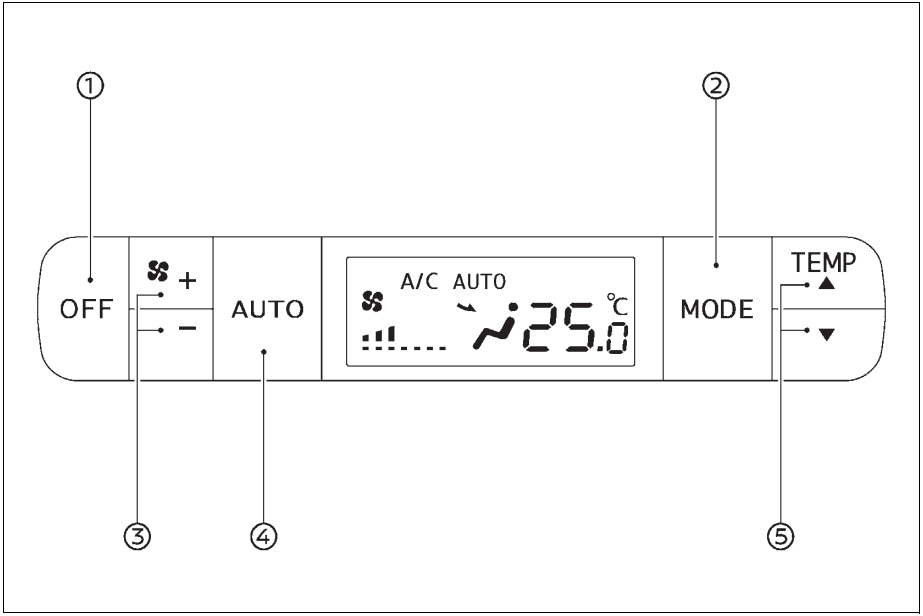
ヒーターとして使うとき

- 除湿を行わない自動調節のヒーターとして使えます。

① リヤオートエアコン作動中、＜REAR CONTROL＞スイッチをタッチしてリヤ操作画面に切り替えます。（スイッチの表示灯が点灯）
② ＜吹き出し口切り替えスイッチ＞をタッチして、後席の吹き出し口を足元にします。
③ 温度調節ダイヤルを回して希望温度にします。
④ ＜REAR CONTROL＞スイッチをタッチして、フロント操作画面に切り替えます。
⑤ ＜A/C＞スイッチを押して、スイッチの表示灯を消灯させます。

- ヒーターとして使うときは、天井の吹き出し口からは送風されません。また、車室内の温度は外気温度より低くなりません。外気温、湿度が低いときなどに使ってください。
- 除湿しながら暖房したいときは、＜A/C＞スイッチを押してエアコン（冷房・除湿機能）を作動させてください。

各スイッチの名称と機能（リヤオートエアコン）



- フロントオートエアコン作動時に使えます。
- 前席で＜REAR ON・OFF＞スイッチの表示灯が消灯している場合でも、＜AUTO＞スイッチを押すと使うことができます。
- リヤオートエアコン操作部は、セカンドシートの天井部中央にあります。

① **OFFスイッチ**
リヤオートエアコンがOFFになります。

② **吹き出し口切り替えスイッチ**
スイッチを押すごとに、吹き出し口が切り替わります。

③ **風量調節スイッチ**
風量を調節します。
＋…風量が多くなる
－…風量が少なくなる

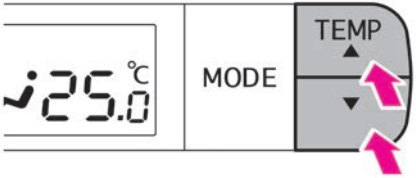
④ **AUTOスイッチ**
吹き出し口、風量の切り替えを自動で制御して設定した温度に保ちます。

⑤ **温度調節スイッチ**
設定温度が調節できます。
（18.0℃～32.0℃）
▲…温度を上げる
▼…温度を下げる

リヤオートエアコンの使いかた

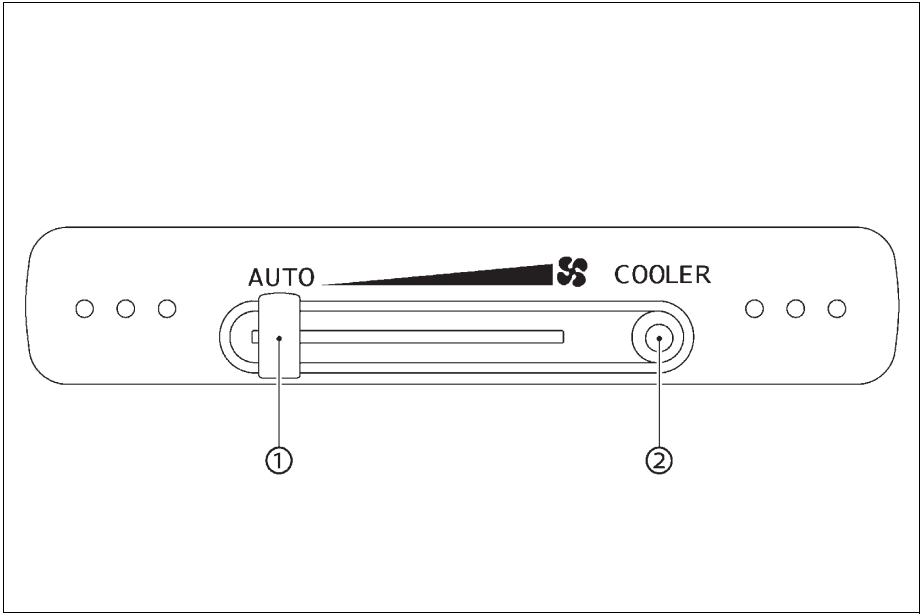
1. 前席エアコン操作部の＜ON・OFF＞スイッチを押してONにします。

2. リヤオートエアコン操作部の＜AUTO＞スイッチを押します。
（表示部にAUTOが表示）



3. リヤオートエアコン操作部の＜温度調節スイッチ＞を押して、設定温度を調節します。
▲： 設定温度を上げる
▼： 設定温度を下げる

各スイッチの名称と機能（リヤクーラー）



● フロントオートエアコン作動時に使えます。また、前席で＜REAR ON・OFF＞スイッチの表示灯が消灯している場合でも、＜クーラースイッチ＞を押すと使うことができます。

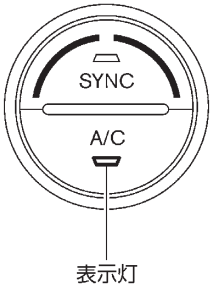
● リヤクーラー操作部は、セカンドシートの天井部中央にあります。

① **風量調節レバー**
レバーを動かし、風量を調節します。AUTO位置にあるときは、風量が自動調節されます。
左側：風量少ない
右側：風量多い

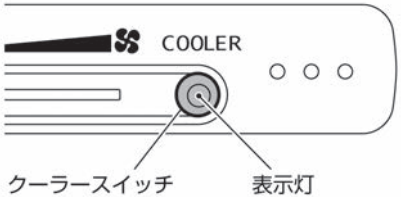
② **クーラースイッチ**
スイッチを押すごとに、リヤクーラーのON・OFFが切り替わります。

リヤクーラーの使いかた

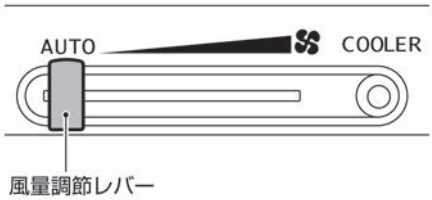
1. 前席エアコン操作部の＜ON・OFF＞スイッチを押してONにします。



2. ＜A/C＞スイッチの表示灯が消灯しているときは、＜A/C＞スイッチを押します。（スイッチの表示灯が点灯）



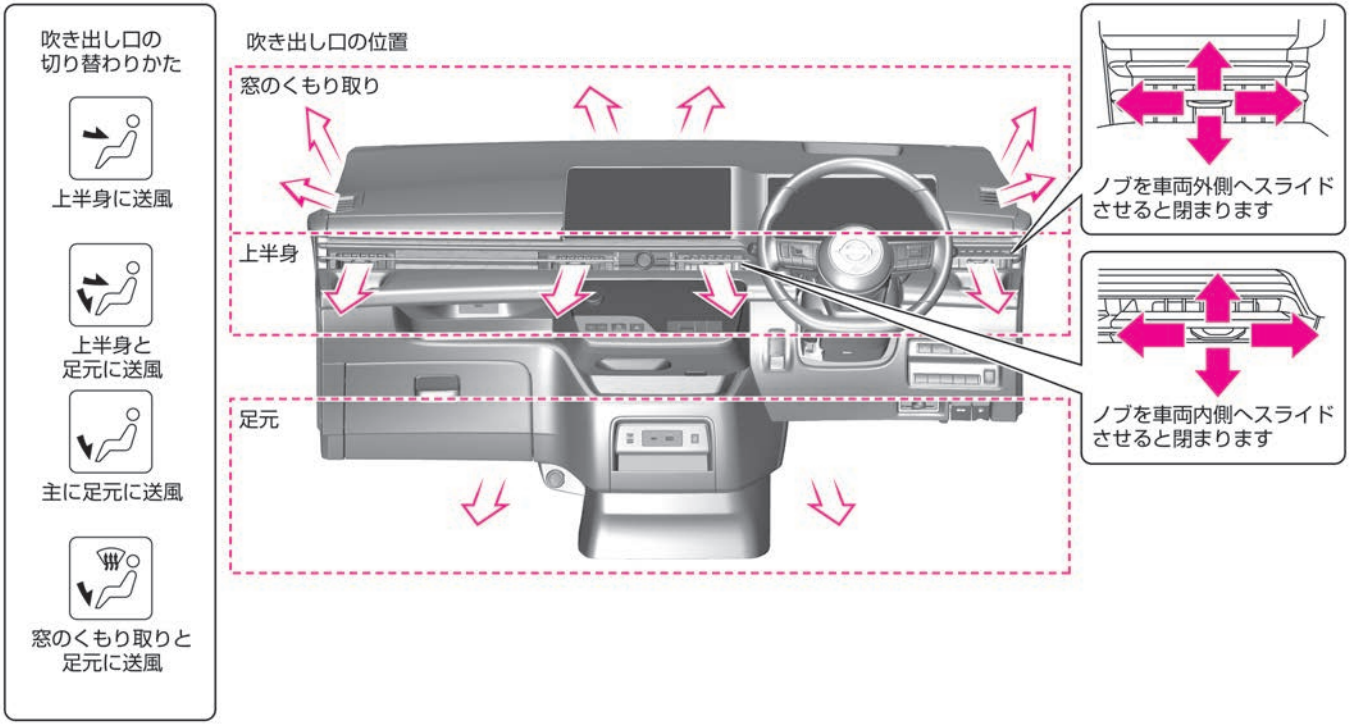
3. ＜クーラースイッチ＞を押します。（スイッチの表示灯が点灯）

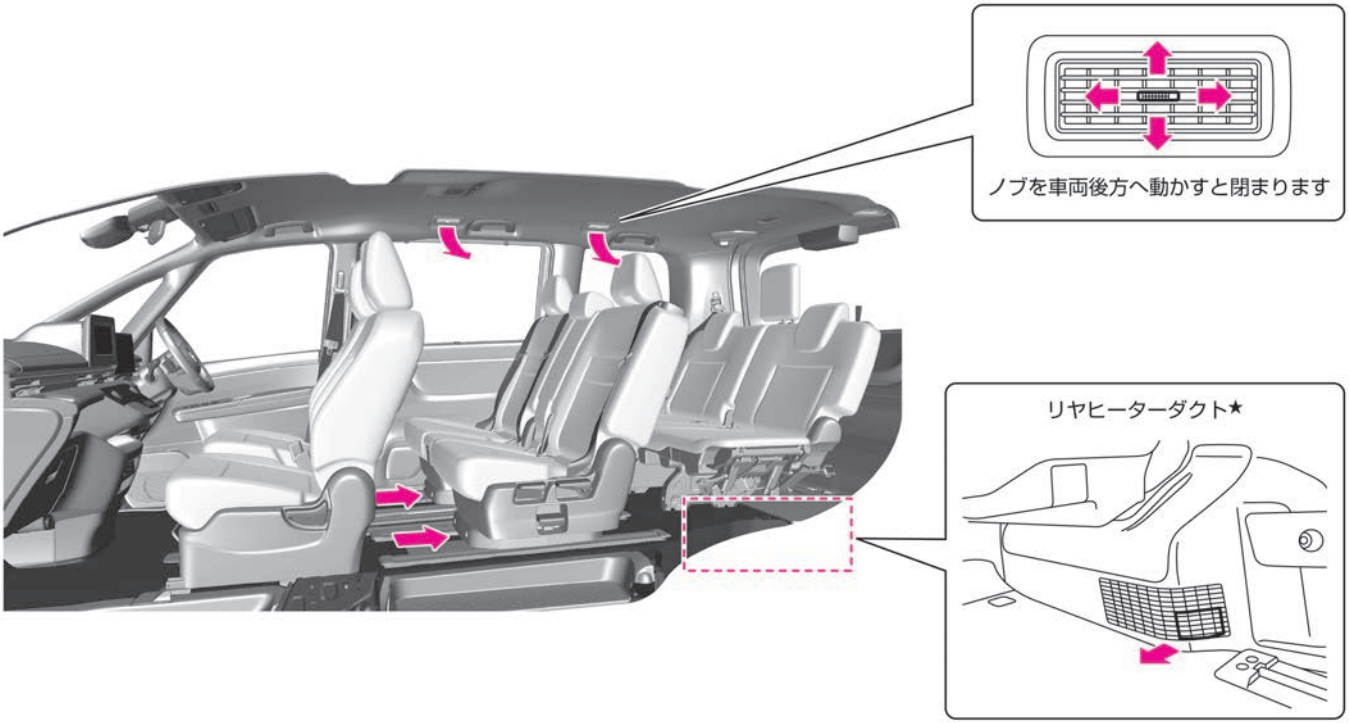


4. 風量調節レバーを動かし、風量を調節します。
AUTO位置にあるときは、風量が自動調節されます。
5. 止めるときは＜クーラースイッチ＞を押す、または前席エアコン操作部の＜REAR ON・OFF＞スイッチをタッチします。

吹き出し口

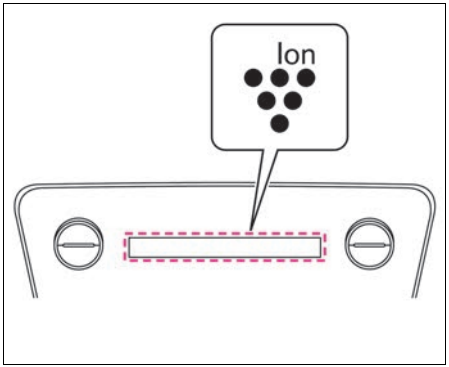
< >または<デフロスタースイッチ>をタッチして希望の吹き出し口に切り替えます。




ノブを車両後方へ動かすと閉まります
リヤヒーターダクト★

オートエアコンシステムについて

プラズマクラスター搭載フロントオートエアコン★



- 送風中は常時作動し、高濃度プラズマクラスターイオンをエアコンの吹き出し風に含ませ、除菌とともに内装に染みついたにおいを低減します。
  さらに肌の保湿効果をプラスしました。
- 本商品には、シャープ株式会社のプラズマクラスター技術を搭載しています。プラズマクラスターマークおよびプラズマクラスター、Plasmaclusterはシャープ株式会社の商標です。

エアコンを使うときに注意すること

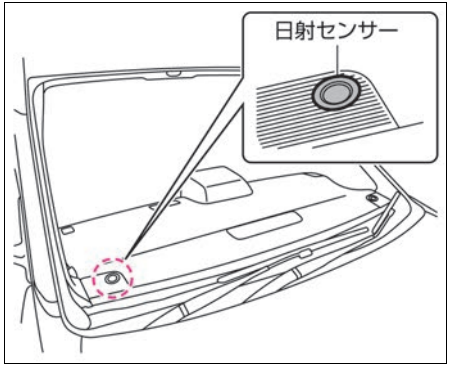
エアコンに関する注意事項

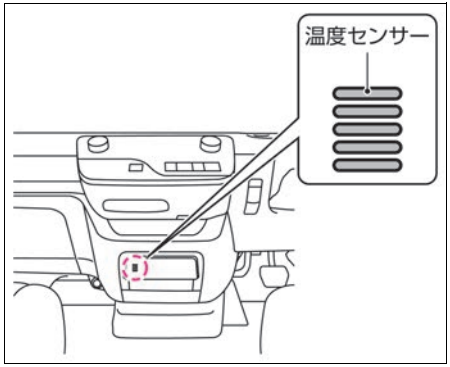
⚠ 警告

- **内気循環で長時間使用しない。**
  窓ガラスがくもりやすくなり、視界が損なわれ危険なため、一時的にご使用ください。

⚠ 注意

- **吹き出し風を長時間連続して身体に当てない。**
  特に皮膚の弱い方、乳幼児、病人、お年寄り、身体の不自由な方などには、吹き出し風が長時間当たらないように運転者が注意してください。低温やけどや思わぬ傷害を受けるおそれがあります。
- **＜デフロスタースイッチ＞をONにしているときに、エアコンの設定温度を低くしない。**
  フロントガラスの外側に露が付き、視界を妨げるおそれがあります。



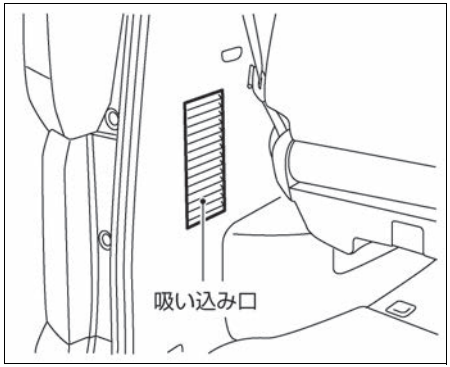


- オートエアコンの自動温度調節は、日射センサーと温度センサーで行っています。センサーをふさいだり、クリーナーなどを吹きかけないでください。センサーの感度が低下し、正常に作動しなくなります。
- ほこり、花粉、粉塵などを集じんするためのクリーンフィルターを装着しています。集じん性能を維持するため、ク

リーンフィルターは定期的に交換してください。

交換時期：1年ごとまたは12,000km走行ごと

- クリーンフィルターが交換時期に満たない場合でも、吹き出し風量が極端に減少したり、窓ガラスがくもりやすくなった場合は交換してください。なお、取り付け、交換などについては、日産販売会社にご相談ください。
- 外気導入に固定していると、夏場など外気温が高いときは、冷房の効きが悪くなる場合があります。その場合は、一時的に内気循環にしてください。
- エアコン装置のオイル循環を切らさないために、ときどき<A/C>スイッチをONにしてください。なお、外気温が0℃近くまで下がるとエアコン装置が作動しないことがあるため、暖かい日に行ってください。
- エアコンガスは必ず指定のものをご使用ください。エアコンガスの詳細については、ボンネットの裏にあるエアコンラベルをご確認ください。
- エアコンの修理、メンテナンスは日産販売会社にご相談ください。
- 冷房時、吹き出し口から霧が吹き出したように見えることがありますが、これは湿った空気が急に冷やされたときに発生するもので、異常ではありません。
- 外気温が0℃近くまで下がると、<A/C>スイッチが点灯していてもエアコンが作動しないことがあります。
- エアコンがONのとき、 またはOFFにした直後に、 "カチカチ"、 "シュー"、 "コツン" などの音が聞こえることがありますが、 異常ではありません。
- 始動直後で吹き出し風の温度が低いときは、足元への吹き出し風量が少なくなります。
- エアコンの運転中または運転後などに車両の下に水が垂れることがあります。
- 外気温が低いときは、外気温に応じてフロントデフロスターからの風量が多くなります。



- ラゲッジルームにある吸い込み口を荷物などでふさがないでください。吹き出し風量が減少するおそれがあります。

エアコンのにおいについて

- エアコン装置は、空気中のいろいろなにおいが混ざり合うため、吹き出し風からにおいを感じることがあります。
- エアコン作動時のにおいを抑えるため、駐車時などは外気導入にしておくことをおすすめします。

オーディオの使いかた

安全運転のために

⚠ 警告

- **走行中のオーディオ操作は、絶対にしない。**

  前方不注意となるおそれがあります。

- **音量を大きくしない。**

  大きすぎると車外の状況がわからないため、思わぬ事故の原因となります。

- 運転中は車外の音が聞こえる程度の音量でお聞きください。

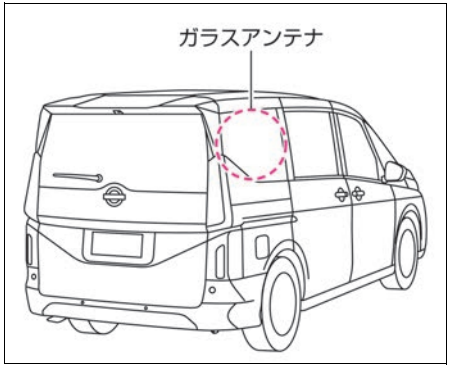
ラジオの受信について

- ラジオの受信は、車両の移動に伴う電波の変動、障害物や電車、信号機などの影響により、最良な受信状態を維持することができない場合があります。
- オーディオを聞いているとき、車室内または車の近くで携帯電話や無線機を使うと、ノイズ（雑音）が入ることがあります。

ガラスアンテナについて

アドバイス

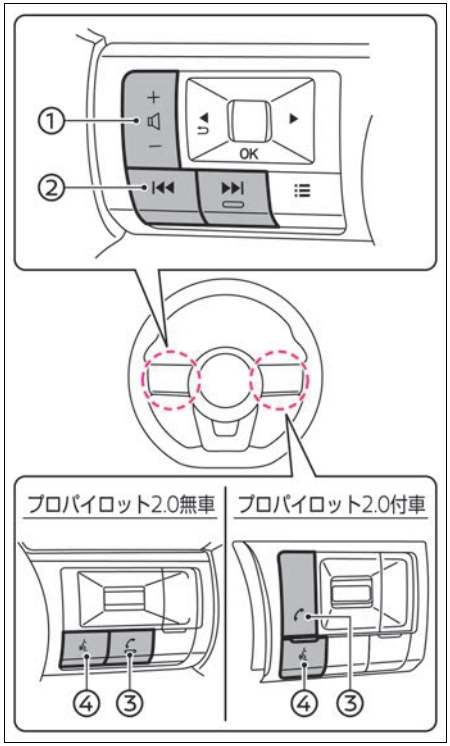
- リヤサイドガラスにミラータイプのフィルムや金属物（市販のアンテナなど）を貼り付けないでください。受信感度が低下し、ノイズ（雑音）などが入るおそれがあります。
- リヤサイドガラスの内側を清掃するときは、アンテナ線を切らないように、水を含ませた柔らかい布でアンテナ線にそって軽くふいてください。
- アンテナ線は、手荷物などで傷つけないようにしてください。



- アンテナ線は、リヤサイドガラスの内側にあります。

ステアリングスイッチ

メーカーオプションナビゲーションシステム、または日産オリジナルナビゲーションシステムを操作することができます。



① **音量スイッチ（＋／－）**
音量を調節できます。
＋：音量を上げる
－：音量を下げる
押したままにすると連続して音量の増減ができます。

② **選曲／選局スイッチ**
曲や放送局などの切り替えができます。

③ **通話開始／終了スイッチ**
着信中に押すと電話を受けます。通話中に押すと電話を切ります。

④ **音声操作スイッチ**
音声操作画面に切り替えます。

- 取り扱いについては、ナビゲーションシステム取扱説明書（別冊）も合わせてお読みください。
- 日産純正品以外のナビゲーションシステムでは作動の保証はいたしません。

運転のしかた

始動する

パワースイッチ P.188
オートACC機能 P.190

運転する

シフトスイッチ P.191
電動パーキングブレーキ P.192
オートブレーキホールド P.193
発進・走行 P.195
停車・駐車 P.197

ランプをつける、ワイパーを使う

ライトスイッチ P.198
フォグランプスイッチ★ P.204
ヘッドランプレベライザースイッチ★ P.205
ワイパー・ウォッシャースイッチ P.206

運転支援機能

e-Pedal Step P.211
ドライブモードセレクター P.213
チャージモード P.215
マナーモード P.216
e-4ORCE（4WD）車★の扱いかた P.216
エマージェンシーストップシグナル P.217
ABS（アンチロックブレーキシステム） P.217
VDC（ビークルダイナミクスコントロール） P.218
シャシー制御★ P.219
ヒルスタートアシスト P.220
車両接近通報装置 P.220
走行支援機能 P.222
プロパイロット P.229
インテリジェント エマージェンシーブレーキ P.276
衝突回避ステアリングアシスト P.282
踏み間違い衝突防止アシスト P.283
BSW（後側方車両検知警報）／インテリジェント BSI（後側方衝突防止支援システム） P.289
LDW（車線逸脱警報）／インテリジェント LI（車線逸脱防止支援システム） P.298
インテリジェント FCW（前方衝突予測警報） P.302
RCTA（後退時車両検知警報） P.305
インテリジェント DA（ふらつき警報） P.308
標識検知機能 P.309
ドライバーモニターシステム★ P.313
先行車発進お知らせ P.315

駐車支援システム

インテリジェント アラウンドビューモニター（移動物 検知機能付）★ P.317
インテリジェント アラウンドビューモニター★に関する注意事項 P.326
プロパイロット パーキング★ P.331
プロパイロット リモート パーキング★ P.352

パワースイッチ

⚠ 警告

- **e-POWERシステムを始動する前にペダルの位置を確認する。**

  ペダルの踏み間違いは思わぬ事故につながります。右足でアクセルペダルとブレーキペダルを交互に踏み、その位置を確実に覚えてください。

- **換気の悪い場所では、e-POWERシステムを長時間作動したままにしない。**

  排気ガスが車両周辺に滞留したり、車室内に侵入したりすることで、一酸化炭素中毒になるおそれがあります。一酸化炭素を吸い込むと、意識が薄れて事故につながるおそれがあるほか、死亡または重大な傷害につながるおそれがあります。

- **e-POWERシステムを始動するときは、必ず運転席に座る。**

  運転席以外から行うと、思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠ 注意

- **e-POWERシステムを始動したあとは、e-Pedal StepのON・OFF状態を確認してから走行する。**

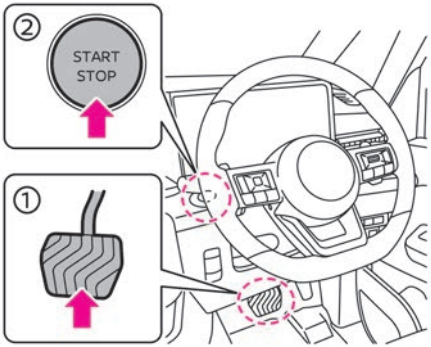
  e-Pedal StepがONのときとOFFのときでは、アクセルペダルの特性が大きく異なるため、走行前に確認してください。

アドバイス

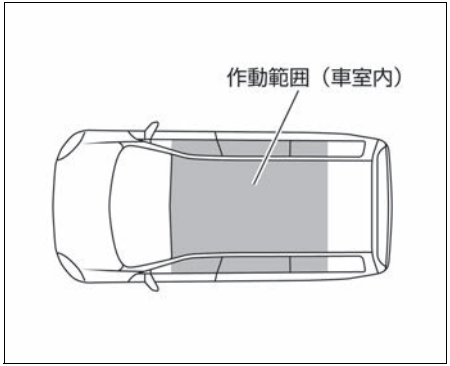
- 走行可能表示灯が点灯しているとき、ボンネットを開けたままにしないでください。12Vバッテリーへの充電が停止するため、12Vバッテリーあがりのおそれがあります。

e-POWER システムの始動のしかた

1. インテリジェントキーを携帯して車両に乗り込みます。
   アクセルペダルとブレーキペダルの位置を確認し、正しい運転姿勢（➔P.22）がとれるようにハンドル、シート、ミラーを調節します。



2. ブレーキペダル①をしっかりと踏み込みながら、<パワースイッチ>②を押します。
3. 走行可能表示灯が点灯し、走行できるようになります。



- キーが作動範囲（車室内）にあるときに、e-POWERシステムを始動することができます。
- 車両状態によっては<パワースイッチ>を押したあと、走行可能表示灯が点滅から点灯に変わるまでにエンジンが作動することがあります。
- リチウムイオンバッテリーの残量が低下している状態では<パワースイッチ>を押したあと、走行可能表示灯が点滅から点灯に変わるまでに数分かかることがあります。その間は、エネルギーモニターは表示されません。
- ブレーキペダルを踏んだり離したりしたとき、"カチッ" と音が聞こえることがありますが異常ではありません。
- システム始動前のペダル操作などにより、ブレーキペダルが硬くなっている場合があります。この場合、ペダルを軽く踏んだ状態ではペダル踏み込み操作が検知されず、走行可能表示灯が点灯しま

せんので、ブレーキペダルを通常よりも強く踏み込んでください。

- e-POWERシステムが始動できない場合には、一旦<パワースイッチ>をOFFにして、5秒以上待ってから再始動してください。
- e-POWERシステムを始動したとき、または<パワースイッチ>をOFFにしたときに、センターコンソール内から“コン”という音が聞こえることがあります。
  これはセンターコンソール内に搭載してあるプロパイロット2.0を使用するためのリチウムイオンバッテリーのON・OFFの作動音であり、異常ではありません。（プロパイロット2.0付車）

停止のしかた

⚠ 警告

- **<パワースイッチ>をOFFにするときは、パーキングブレーキを確実にかけ、シフトポジションがPであることを確認する。**
  車両が動き出し、思わぬ事故につながるおそれがあります。

1. ブレーキペダルを踏んで、車両を完全に停車させます。
2. ブレーキペダルを踏んだままパーキングブレーキをかけます。
   ➔ 電動パーキングブレーキのかけかた（P.192）
3. <シフトスイッチ>の<P>スイッチを押し、シフトポジションをPに切り替えます。
4. <パワースイッチ>を押します。
   走行可能表示灯が消灯していることを確認したら、ブレーキペダルからゆっくりと足を離します。

- インテリジェントキーの電池が切れている、または車室内にキーがない場合にe-POWERシステムを停止するときは、<パワースイッチ>を長押ししてください。

パワースイッチでのモードの切り替えかた

アドバイス

- 12Vバッテリーあがりを防止するため、電装品（メーカーオプションナビゲーションシステム★や電源ソケットなど）はe-POWERシステムを始動した状態でご使用ください。電装品を長時間使用することや同時に複数使用することは避けてください。
- 次の条件がそろった状態でしばらくすると自動的に<パワースイッチ>がOFFになります。
  - <パワースイッチ>がONの状態のとき
  - e-POWERシステムが停止しているとき
- <パワースイッチ>がOFFの位置でも、ACC状態のときはドアミラーなどの電装品を使うことができます。
  ACC状態については、オートACC機能（➔ P.190）をお読みください。

- インテリジェントキーを携帯しているときに、次の作動をします。
  - ブレーキペダルを踏まずに<パワースイッチ>を押すと、モードが切り替わります。
  - ブレーキペダルを踏みながら<パワースイッチ>を押すと、e-POWERシステムが始動します。
  - e-POWERシステムが始動中に<パワースイッチ>を押すと、e-POWERシステムが停止します。

モード	働き
OFF	● ドアミラーなどが使える位置（ACC状態のとき） ● e-POWERシステムを停止する位置
ON	● すべての電装品が使える位置

非常停止のしかた

⚠ 警告

- **非常停止を行うときは、可能な限り減速してから行う。**

⚠ 警告

非常停止後は、ブレーキの効きが悪くなり、ハンドルも重くなるため、車両のコントロールが難しくなります。

緊急時など、走行中に強制的にe-POWERシステムを停止（<パワースイッチ>OFF）させるときは、次の操作を行ってください。

- <パワースイッチ>を長押しする。
- <パワースイッチ>をすばやく3回押す。

オート ACC 機能

<パワースイッチ>がOFFのときでも、特定の条件で、メーカーオプションナビゲーションシステム★やドアミラーなどの電装品が使える状態（ACC状態）に自動で切り替わる機能です。e-POWERシステムの停止後や、<パワースイッチ>をONにする前でも、メーカーオプションナビゲーションシステム★やドアミラーなどの電装品が使用できます。

オート ACC 機能について

アドバイス

- 12Vバッテリーあがりを防止するため、電装品（メーカーオプションナビゲーションシステム★や電源ソケットなど）はe-POWERシステムを始動した状態でご使用ください。

- 次の場合、自動でACC状態に切り替わります。
  - リモコン（インテリジェントキー）機能でドアを施錠または解錠したとき
  - <パワースイッチ>をOFFにしたとき
  - ドアを開けたとき
  - ドアを閉めたとき
- 次の場合、ACC状態が完全に停止します。
  - ドアの開閉やドアロックなどの操作を行わず一定時間経過したとき
  - e-POWERシステム停止後、リモコン（インテリジェントキー）機能で施錠してから一定時間経過したとき
- 状況によりオートACC機能に制限がかかる場合があります。その場合、オートACC状態で作動するシステムが正常に作動しないことがあります。

メーカーオプションナビゲーションシステム装着車

- ナビゲーションシステムは、e-POWERシステム停止後も作動し続けます。
- e-POWERシステム停止後、一定時間経過するとナビゲーションシステムの画面が消灯し、作動が停止します。
- 運転席ドアを開くとナビゲーションシステムの画面が消灯し、作動が停止します。画面が消灯しても一定時間以内に< ⏻ >を押すと再度ナビゲーションシステムを使用することができます。

シフトスイッチ

⚠ 警告

- **<シフトスイッチ>の操作は必ず走行可能表示灯が点灯したことを確認してから行う。**

  走行可能表示灯が点灯する前に<シフトスイッチ>を操作すると、目的のシフトポジションに切り替わらず、思わぬ事故につながるおそれがあります。

- **植込み型心臓ペースメーカーおよび植込み型除細動器（ICD）、またはそれ以外の医療電気機器を使用されている方は、装着部位を<シフトスイッチ>に近づけない。**

  強力な磁石が内蔵されているため、医療電気機器の作動に影響を与えるおそれがあります。

⚠ 注意

- **<シフトスイッチ>に磁気カードや磁力のあるものを近づけない。**

  誤作動を引き起こし、事故につながるおそれがあります。

- **次のような操作を行わない。**

  アドバンスドドライブアシストディスプレイに警告が表示され、正常に作動しない場合があります。

  — ブレーキペダルを踏まずに<シフトスイッチ>を押す

  — アクセルペダルを踏みながら<シフトスイッチ>を押す

  — 前進中に<R>スイッチを押す

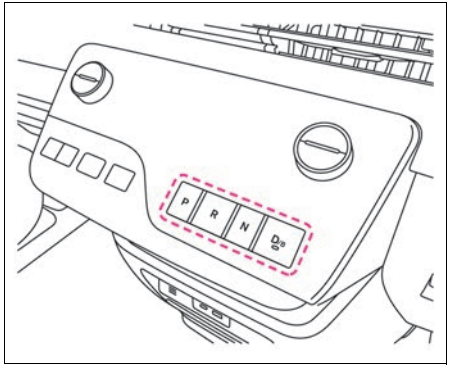
  — 後退中に<D／B>スイッチを押す

  — 走行中<P>スイッチを押す

  — 複数の<シフトスイッチ>を同時に押す

走行可能表示灯が点灯しているとき、すべてのシフトポジションに切り替えることができます。<シフトスイッチ>を操作したあとは、目的のシフトポジションに切り替わっていることを必ず確認してください。

シフトスイッチの操作



P	ブレーキペダルを踏みながら、<P>スイッチを押します。
R	ブレーキペダルを踏みながら、<R>スイッチを押します。
N	ブレーキペダルを踏みながら、<N>スイッチを押します。
D	ブレーキペダルを踏みながら、<D／B>スイッチを押します。
B	Dのときに<D／B>スイッチを押すとBに切り替わります。もう一度<D／B>スイッチを押すとDに戻ります。

- シフトポジションをRに切り替えるとブザーが鳴ります。
- 次の操作は無効とみなされ、ブザーが鳴るとともにシフトポジションはNに切り替わります。
  — シフトポジションがDまたはBのときに、ブレーキペダルを踏まずにシフトポジションをRに切り替える
- <パワースイッチ>がONでも走行可能表示灯が点灯していないときは、D・B・Rには切り替えられません。
- 次の条件が重なったとき、シフトポジションが自動でPに切り替わる場合があります。
  — 停車しているとき
  — ブレーキペダルを踏んでいないとき
  — 運転席のシートベルトを外したとき
  — 運転席ドアを開けたとき
- この車両にはオートP機能がありますが、電制シフトが故障した場合は、シフトポジションがP以外で<パワースイッチ>をOFFにしようとしても、ブ

ザーが鳴り、<パワースイッチ>をOFFに切り替えられません。<パワースイッチ>をOFFにできないときは、次の操作を行ってください。

— ①停車してパーキングブレーキをかけます。
— ②ブレーキペダルを踏み込みながら<パワースイッチ>を押して、<パワースイッチ>をONに切り替えます。
— ③<P>スイッチを押してPに切り替えます。
— ④<パワースイッチ>を押して、OFFに切り替えます。

各シフトポジションの機能

シフトポジション	役割
P	駐車およびe-POWERシステムを始動するとき
R	後退するとき
N	動力が伝わらない状態
D	通常走行するとき
B	下り坂などで、強い回生ブレーキが必要なとき

● シフトポジションがBのときは減速力を強くするため、Dのときよりエンジン作動頻度が多くなります。また、エンジン回転数が高くなる場合があります。

■ オートP機能

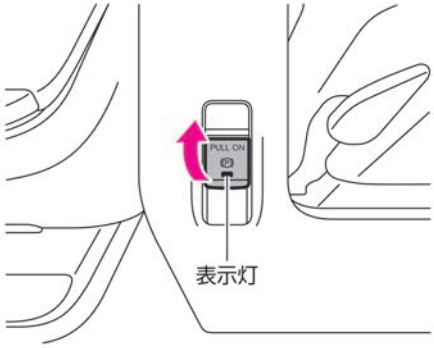
● シフトポジションをPに切り替えずに<パワースイッチ>をOFFにすると、自動的にシフトポジションがPに切り替わります。
ただし、自動的にシフトポジションがPに切り替わるのは補助的な機能のため、駐車後は必ず<P>スイッチを押してPに切り替えてください。

電動パーキングブレーキ

停車中や駐車時に使用するブレーキです。<電動パーキングブレーキスイッチ>を操作してパーキングブレーキをかけると、後輪が固定されます。

電動パーキングブレーキのかけかた

1. ブレーキペダルをしっかりと踏み込みます。



2. <電動パーキングブレーキスイッチ>を引きます。
スイッチを引くと、<電動パーキングブレーキスイッチ>の表示灯が点灯し、電動パーキングブレーキ警告灯［Ⓟ］が、約2秒後に点灯します。

● オートブレーキホールド（➔P.193）が作動しているときにシフトポジションをPにすると、パーキングブレーキがかかります。

電動パーキングブレーキの解除のしかた

1. ブレーキペダルをしっかりと踏み込みます。
2. <電動パーキングブレーキスイッチ>を押します。
スイッチを押すと、スイッチの表示灯が消灯し、電動パーキングブレーキが解除されると電動パーキングブレーキ警告灯［Ⓟ］が消灯します。

● 電動パーキングブレーキは、<パワースイッチ>がONのときのみ解除できます。

自動解除のしかた

<電動パーキングブレーキスイッチ>を操作しなくても、パーキングブレーキを解除することができます。

● 電動パーキングブレーキがかかっている状態でシフトポジションをD、Bまたは

Rにし、アクセルペダルをゆっくり踏んでください。
パーキングブレーキが解除され、電動パーキングブレーキ警告灯［Ⓟ］が消灯します。

●パーキングブレーキの自動解除は、次の条件を満たしている必要があります。
— 運転席ドアが閉まっている※
— 走行可能表示灯が点灯しているとき
— シフトポジションがP、N以外のとき
※：運転席ドアが開いた状態でもシフトポジションをP、N以外に入れて5秒以内に発進したときは、パーキングブレーキが自動解除される場合があります。走行するときは、必ずドアを閉めてください。

電動パーキングブレーキに関する注意事項

⚠ 警告

- **車両を離れるときは、電動パーキングブレーキをかけたあと、シフトポジションをPに切り替える。**
- **非常時以外は、電動パーキングブレーキを作動させたまま走行しない。**
  ブレーキに不具合が生じ、事故につながるおそれがあります。
- **電動パーキングブレーキをかけたり、解除したりの操作を短時間に繰り返さない。**
  システムの過熱を防ぐために電動パーキングブレーキが作動しなくなる場合があります。作動しなくなった場合は、約1分間経過してから再度操作してください。

アドバイス

- 寒冷時に駐車するときは、電動パーキングブレーキをかけずにシフトポジションをPに入れ、電動パーキングブレーキを解除したまま車輪の前後に適切な輪留めをしてください。寒冷時に電動パーキングブレーキをかけると、パーキングブレーキが凍結し、解除できなくなるおそれがあります。
- 電動パーキングブレーキが12Vバッテリーあがりや故障などで解除できなくなったときは、日産販売会社またはJAFなどのロードサービスにご連絡ください。

●電動パーキングブレーキをかけたり解除したりすると、車両の後方部から作動音が聞こえることがありますが、これは異常ではありません。

●走行中、非常事態で電動パーキングブレーキをかける必要が生じたときは、<電動パーキングブレーキスイッチ>を引き続けてください。ブレーキがかかるとともにブザーが鳴り、電動パーキングブレーキ警告灯［Ⓟ］が点灯し、電動パーキングブレーキ戻し忘れ警告（➔P.420）が表示されます。スイッチから手を離すと、電動パーキングブレーキは解除されます。

●<パワースイッチ>がOFFまたはACC状態のときに、<電動パーキングブレーキスイッチ>を引き上げると、スイッチの表示灯がしばらく点灯状態になることがあります。
ACC状態については、オートACC機能（➔P.190）をお読みください。

オートブレーキホールド

オートブレーキホールド機能は、信号待ちなどの停車中にブレーキペダルを踏み続けなくても、ブレーキ力を保持する機能です。

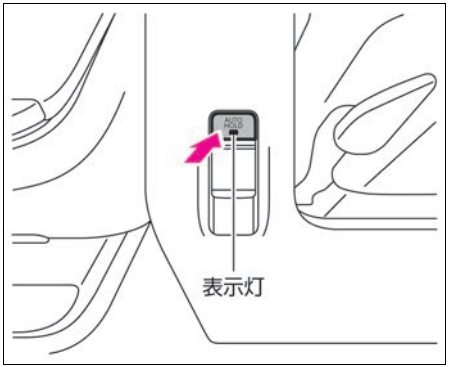
オートブレーキホールド機能について

●オートブレーキホールド機能は、運転者のブレーキ操作によって停車した際に、ブレーキ力を保持する機能です。
ブレーキ力が保持されているときにアクセルペダルを踏むと、ブレーキが解除され、発進することができます。

オートブレーキホールド機能の作動について

●オートブレーキホールド機能のON・OFF設定は、再度設定を変更するまで、<パワースイッチ>をOFFにしても、その設定が維持されます。

オートブレーキホールド機能をONにする



- ＜パワースイッチ＞をONにし＜オートブレーキホールドスイッチ＞を押すと、スイッチの表示灯が点灯します。
- オートブレーキホールド機能は、次の条件が満たされたときのみ、オートブレーキホールド表示灯［ Ⓐ HOLD ］（白色）が点灯し、待機状態になります。（➔ P.62）
  - 運転席のシートベルトを着用している
  - 電動パーキングブレーキが解除されている
  - シフトポジションがP以外にある
  - 急な坂道の途中に停車していない

オートブレーキホールド機能をOFFにする

オートブレーキホールド機能がONのとき、＜オートブレーキホールドスイッチ＞を押すと、オートブレーキホールドスイッチ表示灯が消灯しオートブレーキホールド機能がOFFになります。

また、ブレーキ力が保持されている状態で、オートブレーキホールド機能をOFFにするときは、必ずブレーキペダルを踏みながら＜オートブレーキホールドスイッチ＞を押します。

オートブレーキホールド機能の使いかた

■ ブレーキ力を保持させる

オートブレーキホールド機能が待機状態（オートブレーキホールド表示灯［ Ⓐ HOLD ］が白色に点灯）のとき、ブレーキペダルを踏んで車両を停止させると、オートブレーキホールド機能によってブレーキ力が保持されます。

ブレーキ力が保持されているときは、オートブレーキホールド表示灯［ Ⓐ HOLD ］が緑色に点灯します。（➔ P.62）

■ 発進する

シフトポジションがPまたはN以外にあり、ブレーキ力が保持されている状態でアクセルペダルを踏むと、保持されているブレーキ力が解除されて発進します。

ブレーキ力の保持が解除されると、オートブレーキホールド表示灯［ Ⓐ HOLD ］が白色に点灯し、待機状態に戻ります。

坂道では、オートブレーキホールド機能が作動開始するまでブレーキペダルを強く踏み込む必要があります。

オートブレーキホールド機能使用時の注意事項

⚠ 警告

- **急な坂道や滑りやすい路面で使用しない。**

  オートブレーキホールド機能が作動していても、車両が動き出すおそれがあります。

  急な坂道などでオートブレーキホールド機能を作動させたとき、運転者にブレーキペダルを踏むよう警告メッセージが表示されることがあります。

- **オートブレーキホールド機能が作動していても停止状態を維持できないときは、ブレーキを使用して車両を停車させる。**

  ブレーキ力保持状態のときに外的要因で車両が動くと、警告音が鳴り、警告メッセージが表示されることがあります。

  警告メッセージ（➔ P.421）

- **次の場合はオートブレーキホールド機能をOFFにする。**
  - 洗車機を使用するとき
  - 車両のけん引時
  - 過積載のとき

- **次の場合はシフトポジションをPにしてパーキングブレーキが確実にかかっているか確認する。**

⚠ 警告

車両が不意に動き出し重大な傷害や事故を起こすおそれがあります。

— 駐車するとき

— 人が乗降するとき

— 荷物の積み下ろしをするとき

- **VDC警告灯［ ］（➔P.412）、ブレーキシステム警告灯（黄色）［ ］（➔P.411）、電動パーキングブレーキ警告灯［ ］（➔P.410）、またはマスターウォーニング［ ］（➔P.417）が点灯し、シャシー制御表示の警告メッセージ（➔P.422）が表示されたときは、オートブレーキホールド機能は作動しません。**
- **オートブレーキホールド機能をOFFにする際は、ブレーキペダルを踏みながら<オートブレーキホールドスイッチ>を押す。**

  急な坂道では、オートブレーキホールド機能での停止状態からアクセルペダルを踏んでもオートブレーキホールド機能が解除できない場合があります。
- **ブレーキペダルから足を離す前に、オートブレーキホールド表示灯［ ］（緑色）が点灯していることを確認する。**

⚠ 注意

- **オートブレーキホールド機能によってブレーキ力が保持されているときに、オートブレーキホールド機能をOFFにするときは、ブレーキペダルをしっかりと踏む。**

  ブレーキが解除され車両が動き出し、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- **車両が停止してもブレーキ保持が開始されないときは、オートブレーキホールド表示灯［ ］（緑色）が点灯するまでブレーキペダルを踏み込む。**

  ブレーキペダルが十分な力で踏まれていない、もしくは、車両停止後にブレーキペダルを離すのが早すぎると、オートブレーキホールド表示灯［ ］（緑色）は点灯しません。

アドバイス

- 次の場合は、システムに異常が発生しているおそれがあります。ただちに日産販売会社で点検を受けてください。

  — 警告メッセージが表示されたとき

  — <オートブレーキホールドスイッチ>を押してもスイッチの表示灯が点灯しないとき

- オートブレーキホールド機能がONでブレーキ力が保持されているときに、次の状態になるとパーキングブレーキがかかり、ブレーキ力が解除されます。（オートブレーキホールド表示灯が消灯）

  — オートブレーキホールド機能によるブレーキ力の保持が3分以上継続されたとき

  — シフトポジションをPにしたとき

  — <電動パーキングブレーキスイッチ>を引いたとき

  — 運転席のシートベルトを外したとき

  — 運転席ドアを開けたとき

  — <パワースイッチ>をOFFにしたとき

  — オートブレーキホールド機能に不具合が生じたとき
- ブレーキ力を保持しているときは、車両の停止状態を維持するため、作動音が発生する場合がありますが、異常ではありません。

発進・走行

発進するときの注意事項

⚠ 警告

- **発進するときは、アクセルペダルを踏んだまま <シフトスイッチ>を操作しない。**

  急発進し、重大な事故につながるおそれがあります。
- **停車中、シフトポジションがP、N以外に入っているときは、ブレーキペダルをしっかりと踏む。**

⚠ 警告

クリープ現象により車が動き出し、事故につながるおそれがあります。

アドバイス

- 電動パーキングブレーキをかけ、運転席ドアが開いた状態でアクセルペダルを踏むと、電動パーキングブレーキが解除されず、電動パーキングブレーキが故障するおそれがあります。

発進のしかた

1. ブレーキペダルを踏んだまま<パワースイッチ>を押して、メーター内の走行可能表示灯が点灯していることを確認します。
2. ブレーキペダルを右足でしっかりと踏んだまま、<シフトスイッチ>の<D／B>スイッチを押して、シフトポジションをDに切り替えます。

   ➔ シフトスイッチの操作（P.191）
3. ブレーキペダルを右足でしっかりと踏んだまま、パーキングブレーキを解除します。

   ➔ 電動パーキングブレーキの解除のしかた（P.192）
4. ブレーキペダルを徐々に緩め、アクセルペダルをゆっくり踏み発進します。

- 急な上り坂で発進するときは、ヒルスタートアシスト（➔P.220）が作動します。

走行するときの注意事項

⚠ 警告

- **走行中はシフトポジションをNに切り替えない。**

  回生ブレーキが作動しないため、事故につながるおそれがあります。
- **e-Pedal StepがOFFのときは、下り坂ではフットブレーキと回生ブレーキを併用する。**

  ブレーキペダルを踏み続けると、ブレーキが過熱して効きが悪くなり危険です。坂の勾配に応じて回生ブレーキを併用してください。

  ➔ e-Pedal Step（P.211）
- **e-Pedal StepがOFFのときに、回生ブレーキの効きが弱くなった場合は、ブレーキペダルを踏んで減速する。**
- **e-Pedal StepをONにすると、回生ブレーキの効きが強くなり、アクセルペダルの操作のみで速度調整することができるようになります。アクセルペダルを離しても減速度が足りないときは、ブレーキペダルを踏んでください。**

アドバイス

- 上り坂では、クリープ現象を利用した停車や、アクセルペダルを踏みながら停車状態を保つような停車はしないでください。車両故障のおそれがあります。
- 上り坂でシフトポジションをDまたはBのまま故意に車両を後退させたり、下り坂でRのまま故意に車両を前進させたりしないでください。車両故障のおそれがあります。
- 冠水路など深い水たまりは無理に走行しないでください。エンジン破損や車両故障につながるおそれがあります。
- 浸水・冠水被害に遭われた場合は、車両故障につながるおそれがあるため、すみやかに日産販売会社で点検を受けてください。

走行のしかた

- シフトポジションをDにしたまま走行します。アクセルペダルとブレーキペダルの操作で、加速、減速を行います。
- 下り坂では、回生ブレーキ（➔P.14）を併用して走行します。シフトポジションがDのときよりBの方が、回生ブレーキの効きが強くなります。速度が出すぎるときは、必要に応じてブレーキペダルを踏んで減速してください。
- 回生ブレーキは、長い下り坂でリチウムイオンバッテリーが満充電になった場合や低温時、滑りやすい路面ではブレーキの効きが弱くなることがあります。
- リチウムイオンバッテリーが満充電になった場合は、回生で発電した電力を、発電用モーターでエンジンを作動させることで消費させます。その際にエンジン音が大きくなる場合がありますが、異常ではありません。

●走行中に<シフトスイッチ>の<P>スイッチを押した場合は、操作が無効となります。（ブザーが鳴り、操作前のシフトポジションが維持されます）

停車・駐車

停車・駐車の注意事項

⚠ 警告

● **駐車するときは、ガスライターなどに注意する。**

操作部が露出しているガスライターをグローブボックスなどの小物入れに入れておいたり、床やシートのすき間に落としたままにしたりしないでください。荷物を押し込んだときやシートを動かしたときに、ガスが噴出して火災につながるおそれがあります。また、ライターを使用したあと、すぐに収納すると火災を起こすおそれがあります。

● **停車中の空ぶかしはしない。**

万一、シフトポジションがP、N以外に入っていると急発進し、思わぬ事故につながるおそれがあります。

停車後に再発進するときは、シフトポジションの位置を目で確認してください。

● **換気の悪い場所では、e-POWERシステムを作動したままにしない。**

排気ガスが車両周辺に滞留したり、車室内に侵入したりすることで、一酸化炭素中毒になるおそれがあります。一酸化炭素を吸い込むと、意識が薄れて事故につながるおそれがあるほか、死亡または重大な傷害につながるおそれがあります。

● **車から離れるときは、必ずシフトポジションをPにして、e-POWERシステムを停止する。**

e-POWERシステムが作動したままで、シフトポジションがP、N以外だと、クリープ現象で車が動き出したり、誤ってアクセルペダルを踏み込むと急発進し、思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠ 注意

● **枯れ草、紙、木材、油など燃えやすい物の上や近くには駐停車しない。**

排気管や排気ガスは高温になるため着火するおそれがあり危険です。

● **長期間車両を駐車していると、小動物が巣を作り、思わぬ火災につながる可能性があるので注意する。**

アドバイス

● 炎天下で駐車するときは、車室内にライターや炭酸飲料の缶、サングラス、カメラなどを置いたままにしないでください。車室内が高温になり、爆発したり変形したりするおそれがあります。

停車・駐車のしかた

1. 停車するときは、シフトポジションはDまたはBのまま、ブレーキペダルをしっかりと踏みます。
2. そのまま駐車するときは、ブレーキペダルを踏んだままパーキングブレーキをかけます。
   ➔ 電動パーキングブレーキのかけかた（P.192）
3. ブレーキペダルを踏んだまま<シフトスイッチ>の<P>スイッチを押し、シフトポジションをPに切り替えます。
4. <パワースイッチ>を押します。
   メーター内の走行可能表示灯が消灯していることを確認してから、ブレーキペダルからゆっくりと足を離します。

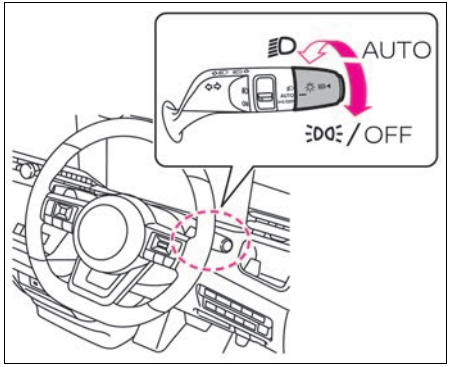
ライトスイッチ

ライトスイッチの注意事項

アドバイス

- 走行可能表示灯が消灯時に長時間点灯させないでください。12Vバッテリーあがりのおそれがあります。

ライトスイッチの使いかた



スイッチを回すと、次のように点灯、消灯します。

スイッチ位置	点灯するランプ
＜ ＞	ヘッドランプ、車幅灯、尾灯、番号灯が点灯します。
＜AUTO＞	ヘッドランプ、車幅灯、尾灯、番号灯が自動点灯・消灯します。
＜ /OFF＞（＜ /OFF＞の位置にしても手を離すと自動で＜AUTO＞の位置に戻ります）	停車時に＜ /OFF＞の位置に回すと車幅灯、尾灯、番号灯のみが点灯します。 停車時に＜ /OFF＞の位置に回して1秒以上保持すると、全ランプが消灯します。 走行を開始すると周囲の明るさに応じて、ランプが自動点灯・消灯します。

- 車幅灯、尾灯、番号灯が点灯しているときはテールランプ表示灯［ ］が点灯します。
- ロービームが点灯しているときはヘッドランプ下向き表示灯［ ］が点灯します。（メータータイプ(A)）
- アドバンスドドライブアシストディスプレイで設定［ ］⇒［画面カスタマイズ］⇒［オペレーションガイダンス］⇒［ライト］を選択すると、ライトスイッチを動かしたときにメーターに表示する機能のON・OFFを切り替えることができます。
  設定の詳細については、画面カスタマイズ（➔P.89または➔P.113）をお読みください。
- 通常時は＜AUTO＞の位置で使用してください。

バッテリーセーバー

- ランプを点灯したまま＜パワースイッチ＞をOFFにすると、12Vバッテリーあがりを防止するためランプが消灯します。次回、次の操作を行うとランプが再点灯します。
  - ＜パワースイッチ＞をONにする
  - ライトスイッチを操作する（約5分後にランプは再度消灯します）

オートレベライザー★

- ヘッドランプが下向き点灯時に乗車人員や荷物量の違いにより車両姿勢が変化すると、自動的に照射方向を調整するシステムです。

ヘッドランプ消し忘れ警報

- ＜パワースイッチ＞がON以外の位置で運転席ドアを開けたとき、次の場合にブザーが鳴る場合があります。
  - ライトスイッチが＜ ＞の位置にあるとき
  - ライトスイッチを＜ /OFF＞の位置に回して、テールランプ表示灯［ ］が点灯しているとき

＜ ＞の使いかた

- ライトスイッチを＜ ＞の位置に合わせるとヘッドランプ、車幅灯、尾灯、番号灯が点灯します。

AUTO（自動点灯・消灯）の使いかた

- ＜パワースイッチ＞がOFFのときは消灯します。
- ＜パワースイッチ＞がONのときは次のように作動します。

周囲が明るいとき

- 停車中、走行中ともにヘッドランプ、車幅灯、尾灯、番号灯が消灯します。

周囲が暗いとき

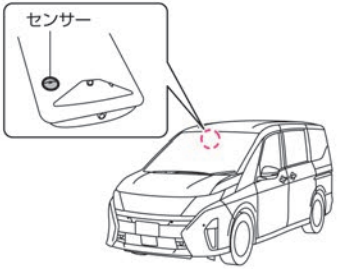
- 停車中、走行中ともにヘッドランプ、車幅灯、尾灯、番号灯が自動点灯します。

■ フロントワイパー連動、薄暮れ感知「おもいやりライト」機能

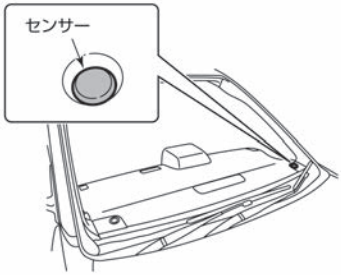
- 歩行者事故が多く発生している夕暮れ時や雨天でのワイパー使用時にもランプを自動点灯します。
- 雨滴感知式ワイパー無車は、アドバンスドドライブアシストディスプレイで設定［ ⚙ ］⇒［車両設定］⇒［ライト/照明］⇒［オートライト感度調整］を選択すると、インテリジェント オートライトシステム（フロントワイパー連動、薄暮れ感知「おもいやりライト」機能付）の感度調整ができます。
設定の詳細については、車両設定（➔P.86または➔P.111）をお読みください。

アドバイス

雨滴感知式ワイパー付車



雨滴感知式ワイパー無車



- センサーの上に物を置いたり、ガラスクリーナーなどを吹きかけないでください。センサーの感度が低下し、正常に作動しなくなります。

＜≡DC/OFF＞の使いかた

- ライトスイッチは＜≡DC/OFF＞の位置に回しても手を離すと自動で＜AUTO＞の位置に戻ります。
- ライトの点灯状態は次のとおりです。

ライトスイッチを＜≡DC/OFF＞の位置に回したとき

- 停車時にライトスイッチを＜≡DC/OFF＞の位置に回すと車幅灯、尾灯、番号灯のみが点灯します。
- 停車時にライトスイッチを＜≡DC/OFF＞の位置に回しても、走行すると周囲の明るさ、ワイパー作動に応じてヘッドランプが自動点灯します。
- 走行中にライトスイッチを＜≡DC/OFF＞の位置に回すと、周囲が明るいときは車幅灯、尾灯、番号灯のみが点灯します。
周囲が暗いとき、またはワイパーが作動してヘッドランプが点灯しているときは、ライトスイッチを＜≡DC/OFF＞の位置に回しても、点灯しているヘッドランプを消灯できません。（ヘッドランプは停車時のみ消灯可能です）

ライトスイッチを＜≡DC/OFF＞の位置に回して1秒以上保持したとき

- 停車時にライトスイッチを＜≡DC/OFF＞の位置に回して1秒以上保持すると、全ランプが消灯します。
- 停車時にライトスイッチを＜≡DC/OFF＞の位置に回して1秒以上保持しても、走行すると周囲が暗いとき、またはワイパーが作動しているときは、ヘッドランプ、車幅灯、尾灯、番号灯が点灯します。
- 走行中にライトスイッチを＜≡DC/OFF＞の位置に回して1秒以上保持しても、点灯しているランプを消灯できません。

次の操作をすると、AUTO（自動点灯・消灯）に戻ります。

●再度ライトスイッチを＜ﾗﾝﾌﾟ/OFF＞の位置に回す

●＜ ≣D ＞の位置にしてから＜AUTO＞の位置にする

自動点灯ランプの消灯のしかた（車両停車時）

●自動点灯したヘッドランプは走行中に消灯できない仕様となっています。

ヘッドランプの消灯方法

●ライトスイッチを＜ﾗﾝﾌﾟ/OFF＞の位置に回すと、ヘッドランプが消灯します。

すべてのランプの消灯方法

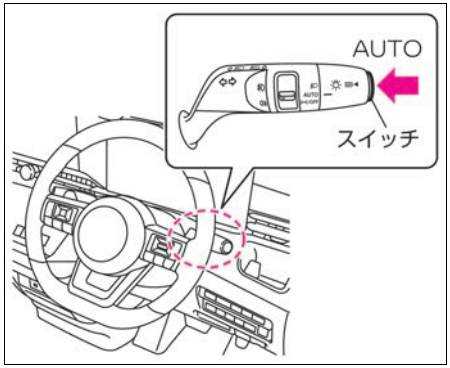
●ライトスイッチを＜ﾗﾝﾌﾟ/OFF＞の位置に回して1秒以上保持すると、全ランプが消灯します。

ハイビームアシスト★

先行車または対向車や周囲の明るさなどに応じ、ハイビーム（上向き）とロービーム（下向き）が切り替わります。

約25km/h以上で走行中、ヘッドランプが点灯しているときに切り替えを行い、約15km/h以下になるとロービーム（下向き）に切り替わります。

ハイビームアシストの操作方法



●ライトスイッチが＜AUTO＞の位置でヘッドランプが点灯しているときにスイッチを押すと、ハイビームアシストがONになります。（ハイビームアシスト表示灯［≣Ⓐ］が点灯）

●ライトスイッチが＜AUTO＞の位置でもう一度スイッチを押すと、ハイビームアシストがOFFになります。

●アドバンスドドライブアシストディスプレイで設定［ ⚙ ］⇒［画面カスタマイズ］⇒［オペレーションガイダンス］⇒［ハイビームアシスト］を選択すると、ライトスイッチが＜AUTO＞の位置以外でハイビームアシストのスイッチを押したときに、ガイダンスをメーター内にポップアップで表示する機能のON・OFFを切り替えることができます。
設定の詳細については、画面カスタマイズ（➔P.113）をお読みください。

アドバイス

● ハイビームアシストが正しく作動しなかったり、作動中にメーターにハイビームアシスト表示灯［≣Ⓐ］が点灯しなかったりしたときは、ハイビームアシストが故障しているおそれがあります。日産販売会社で点検を受けてください。

ハイビームアシスト表示灯
（➔P.62）

知識

● 次のいずれかの操作をしても、ハイビームアシストがOFFになります。

ハイビームのとき

— ライトスイッチを＜ ≣D ＞の位置にする

— ライトスイッチを車両前方に押す（ハイビームに切り替わります）

— ライトスイッチを車両後方に引く（ロービームに切り替わります）

ロービームのとき

— ライトスイッチを＜ ≣D ＞の位置にする

— ライトスイッチを車両前方に押す（ハイビームに切り替わります）

■ ハイビームとロービームの切り替え制御

- 次のような原因で、ハイビームとロービームの切り替わるタイミングが変化することがあります。
  - 対向車または先行車のランプの明るさ
  - 対向車または先行車の向きや動き
  - 対向車または先行車のランプが片側のみ点灯している
  - 対向車または先行車が二輪車
  - 道路状況（カーブや勾配、路面状況など）
  - 乗車している人数や荷物の量
- ハイビームアシストがONでハイビームのとき、ヘッドランプ上向き表示灯［⊜］が点灯します。
  ヘッドランプ上向き表示灯（➔P.61）

■ マルチセンシングフロントカメラについて

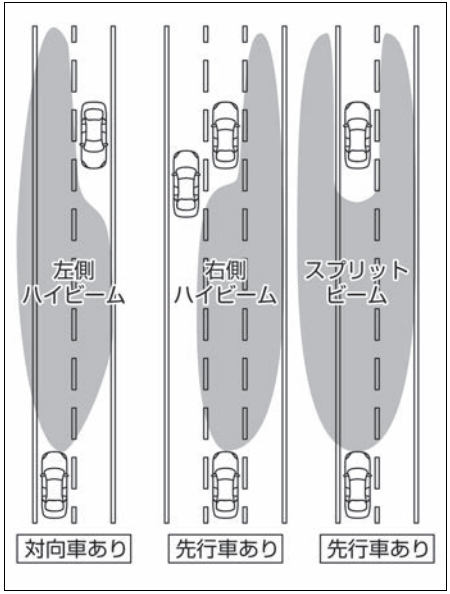
- フロントガラス上部に、ハイビームアシストの制御に必要な周囲の状況を感知するためのカメラがあります。
- ハイビームアシストを正しく作動させるため、次のことをお守りください。
  - フロントガラスが汚れたら清掃してください。
  - カメラの周辺にアクセサリーやステッカーなどを取り付けないでください。
  - カメラのレンズには触れないでください。
  - カメラおよびその周囲に強い衝撃を与えないでください。
    ➔マルチセンシングフロントカメラの取り扱い（P.475）

ハイビームアシスト★の注意事項

⚠ 警告

- **システムを過信しない。**
  常に周囲の状況を確認し、必要に応じて上向きと下向きを手動で切り替えてください。
- **次のようなときは、ハイビームアシストが正しく作動しない場合があるため、必要に応じて上向きと下向きを手動で切り替える。**
  - 悪天候のとき（雨、霧、雪など）
  - 薄暗い早朝や夕暮れなどの暗さが不十分なとき
  - カメラ前方のフロントガラスがくもっていたり、汚れなどが付着したりしているとき
  - カメラの向きがずれているとき
  - 周囲にヘッドランプや尾灯に似た光源があるとき
  - 対向車または先行車が無灯火のとき
  - 対向車のヘッドランプが破損または汚れていたり、光軸がずれているとき
  - 自転車やバイクなど、ライトの明るさや大きさが十分でないとき
  - 歩行者など光を発しないもののとき
  - 明るさの急激な変化が連続しているとき
  - 段差や起伏のある道路を走行しているとき
  - カーブが多い道路を走行しているとき
  - ミラーや標識など反射の強いものが前方にあるとき
  - トレーラーやコンテナなど先行車の後部の反射が強いとき
  - パンクやけん引などで車両が傾いているとき

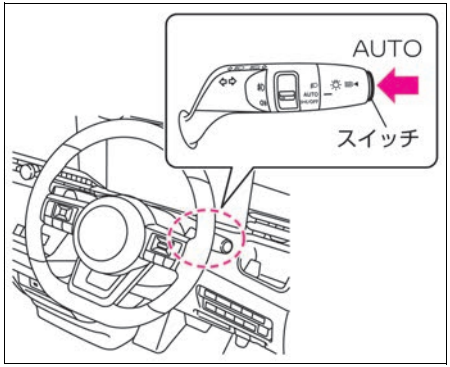
アダプティブ LED ヘッドライトシステム★



先行車や対向車に照射しないよう、自動的にハイビーム（上向き）の照射範囲を切り替えます。

約25km/h以上で走行中、ヘッドランプが点灯しているときに切り替えを行い、約15km/h以下になるとロービーム（下向き）に切り替わります。

■ アダプティブLEDヘッドライトシステムの操作方法



- ライトスイッチが<AUTO>の位置でヘッドランプが点灯しているときにスイッチを押すと、アダプティブLEDヘッドライトシステムがONになります。（アダプティブLEDヘッドライト表示灯［ⒶⒶ］が点灯）
- ライトスイッチが<AUTO>の位置でもう一度スイッチを押すと、アダプティブLEDヘッドライトシステムがOFFになります。
- アドバンスドドライブアシストディスプレイで設定［ ⚙ ］⇒［画面カスタマイズ］⇒［オペレーションガイダンス］⇒［アダプティブヘッドライト］を選択すると、ライトスイッチが<AUTO>の位置以外でアダプティブLEDヘッドライトシステムのスイッチを押したときに、オペレーションガイダンスをメーター内にポップアップで表示する機能のON・OFFを切り替えることができます。
設定の詳細については、画面カスタマイズ（➔P.89）をお読みください。

知識

- 次のいずれかの操作をしても、アダプティブLEDヘッドライトシステムがOFFになります。

  アダプティブLEDヘッドライトシステムが制御中のとき

  — ライトスイッチを< ≡D >の位置にする

  — ライトスイッチを車両前方に押す（ハイビームに切り替わります）

  — ライトスイッチを車両後方に引く（ロービームに切り替わります）

  アダプティブLEDヘッドライトシステムが制御していないとき

  — ライトスイッチを< ≡D >の位置にする

  — ライトスイッチを車両前方に押す（ハイビームに切り替わります）

アダプティブ LED ヘッドライトシステム★の注意事項

⚠ 警告

- **システムを過信しない。**
  常に周囲の状況を確認し、必要に応じて上向きと下向きを手動で切り替えてください。

警告

- **次のようなときは、アダプティブLEDヘッドライトシステムが正しく作動しない場合があるため、必要に応じて上向きと下向きを手動で切り替える。**
  - 悪天候のとき（雨、霧、雪など）
  - 薄暗い早朝や夕暮れなどの暗さが不十分なとき
  - カメラ前方のフロントガラスがくもっていたり、汚れなどが付着したりしているとき
  - カメラの向きがずれているとき
  - 周囲にヘッドランプや尾灯に似た光源があるとき
  - 対向車または先行車が無灯火のとき
  - 対向車のヘッドランプが破損または汚れていたり、光軸がずれているとき
  - 自転車やバイクなど、ライトの明るさや大きさが十分でないとき
  - 歩行者など光を発しないもののとき
  - 明るさの急激な変化が連続しているとき
  - 段差や起伏のある道路を走行しているとき
  - カーブが多い道路を走行しているとき
  - ミラーや標識など反射の強いものが前方にあるとき
  - トレーラーやコンテナなど先行車の後部の反射が強いとき
  - パンクやけん引などで車両が傾いているとき

アドバイス

- アダプティブLEDヘッドライトシステムが正しく作動しなかったり、作動中にメーター内にアダプティブLEDヘッドライト表示灯［Ⓐ］が点灯しなかったりしたときは、アダプティブLEDヘッドライトシステムが故障しているおそれがあります。日産販売会社で点検を受けてください。

  アダプティブLEDヘッドライト表示灯（➔P.62）
- システムを正しく作動させるためにカメラ前方のフロントガラスはいつもきれいにしておいてください。マルチセンシングフロントカメラの取り扱いについては、（➔P.475）をお読みください。

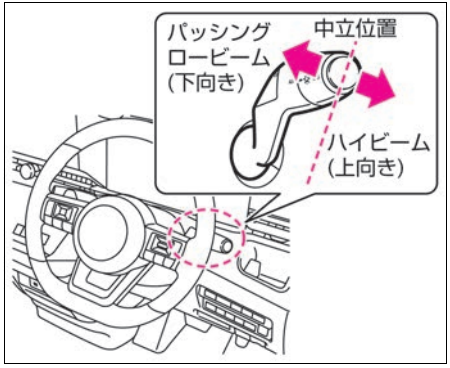
照射範囲切り替え制御★

- 次のような原因で、照射範囲の切り替わるタイミングが変化することがあります。
  - 対向車または先行車のランプの明るさ
  - 対向車または先行車の向きや動き
  - 対向車または先行車のランプが片側のみ点灯している
  - 対向車または先行車が二輪車
  - 道路状況（カーブや勾配、路面状況など）
  - 乗車している人数や荷物の量
- 対向車または先行車を検知し、照射範囲を切り替えているときにも、ヘッドランプ上向き表示灯［⊜］が点灯することがあります。（ハイビームの一部が点灯しているため）
  ヘッドランプ上向き表示灯（➔P.61）

ハイビーム（上向き）への切り替えかた

アドバイス

- 対向車があるときや市街地走行などでは下向きにしてください。



ライトスイッチが＜ ＞の位置のとき

- ライトスイッチを車両前方に押すと、ハイビームに切り替わります。ロービームに戻したいときは、ライトスイッチを車両前方、または後方に動かします。
- パッシングするときは、ライトスイッチを車両後方に引きます。ハイビームの状態からパッシングしたいときは、ライトスイッチを2回車両後方に引きます。

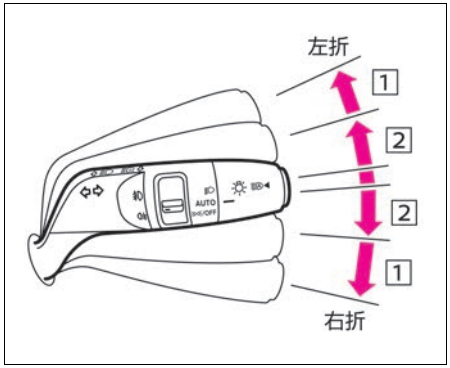
ライトスイッチが＜AUTO＞の位置のとき

- ヘッドランプが点灯しているとき、ライトスイッチを車両前方に押すとハイビームに切り替わります。
- ロービームに戻したいときは、ライトスイッチを車両前方、または後方に動かします。
- パッシングするときは、ライトスイッチを車両後方に引きます。ハイビームの状態からパッシングしたいときは、ライトスイッチを2回車両後方に引きます。
- ハイビームに切り替えているときは、ヘッドランプ上向き表示灯［ ］が点灯します。
- ハイビームアシスト★またはアダプティブLEDヘッドライトシステム★ がONのとき、ライトスイッチを車両前方に押すと、ハイビームに切り替わります。
- ライトスイッチは車両前方に押しても車両後方に引いても、手を離すと自動で中立位置に戻ります。

方向指示器の使いかた

アドバイス

- 方向指示器のランプと方向指示表示灯の点滅が速くなったときは、日産販売会社で点検を受けてください。



- ＜パワースイッチ＞がONのとき使えます。
- 方向指示器はスイッチ操作後、手を離すと自動で中立位置に戻ります。（プロパイロット2.0付車）
- 右折または左折するときは、ライトスイッチを1の位置まで動かします。
- 車線変更などのときは、ライトスイッチを2の位置まで動かし軽く押さえます。スイッチを押さえている間、方向指示器が点滅します。
  また、スイッチ2の位置まで上または下に押さえたあと、すぐに手を離したときは3回点滅し消灯します。（コンフォートフラッシャー機能）

方向指示表示灯をOFFにする方法（プロパイロット2.0付車）

- 方向指示表示灯が点滅している方向とは逆側の2の位置に動かします。

その他の機能について

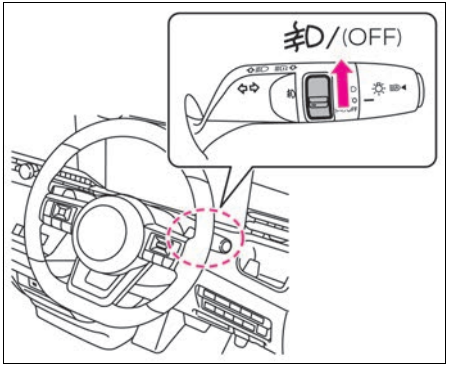
■ ウェルカムライト機能（フェアウェル機能付）

- ドアの施錠・解錠時に、車幅灯、尾灯、番号灯が点灯します。（施錠時約10秒、解錠時約30秒）
- ドアが施錠された状態でキー（インテリジェントキー）を携帯して車両に近づいたり、離れたりしたときも車幅灯、尾灯、番号灯が点灯します。（ドアを解錠せず、複数回近づいたり離れたりした場合、誤作動防止のため点灯しない場合があります。）
- アドバンスドドライブアシストディスプレイで設定［ ］⇒［車両設定］⇒［ライト/照明］⇒［ウェルカムヘッドライト］を選択すると、ウェルカムライト機能（フェアウェル機能付）の設定を変更することができます。
  設定の詳細については、車両設定（➔P.86または➔P.111）をお読みください。

フォグランプスイッチ★

雨、霧、雪などで視界が悪いとき、ヘッドランプや尾灯の補助として使用します。

フォグランプの使いかた

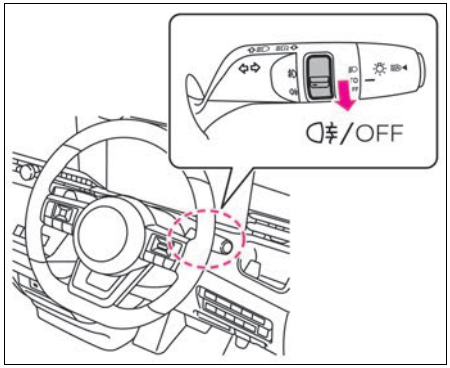


- ヘッドランプまたは車幅灯が点灯しているときに使用できます。
- スイッチを< >の位置に合わせます。
  （リヤフォグランプ付車は、スイッチから手を離すと自動的に中立位置に戻ります）
- 消灯するときは、スイッチを元の位置に戻します。
  （リヤフォグランプ付車は、再度操作します）
- フォグランプが点灯しているときは、フォグランプ表示灯［ ］が点灯します。

リヤフォグランプ★の使いかた

アドバイス

- 降雪時には雪が積もる場合があるため、こまめにリヤフォグランプの雪を取り除いてください。



- ヘッドランプまたはフォグランプが点灯しているときに使用できます。
- スイッチを< >の位置に合わせます。
  （スイッチから手を離すと自動的に中立位置に戻ります）
- 消灯するときは、スイッチを再度操作します。
- リヤフォグランプが点灯しているときは、リヤフォグランプ表示灯［ ］が点灯します。

リヤフォグランプ★の注意事項

警告

- **晴天時は使用しない。**
  後続車の視界を悪くするおそれがあります。

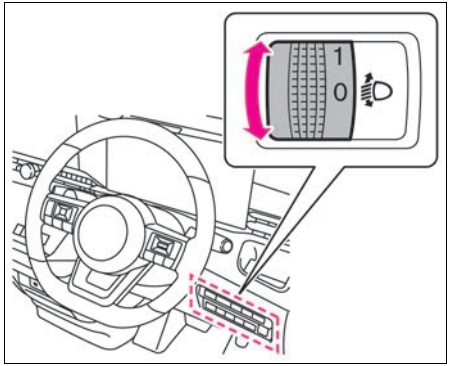
ヘッドランプレベライザースイッチ★

ヘッドランプの照らす方向（光軸）を調節します。乗員の人数や荷物の重さなどに応じ、調節してください。

ヘッドランプレベライザースイッチの使いかた

アドバイス

- 乗車人員や荷物量の違いにより、ヘッドランプが上側を照らすときや、アップダウンの多い山道などで、前を走行する車のミラーや対向車のフロントガラスを照らすようなときは、照らす向きを下側に調節してください。



ヘッドランプが下向きのとき、ダイヤルを回して調節します。

- 通常は、ダイヤルが0の位置で使います。
- ダイヤルを大きな数字の方へ回すほど、照らす方向は下向きになります。

■ ダイヤル位置の目安

次の表を目安に、乗員の人数や荷物の量に応じてダイヤル位置を選択してください。

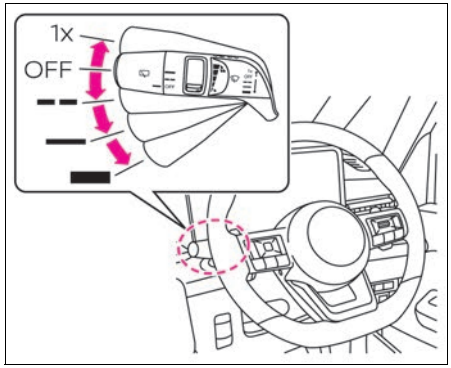
乗員	ラゲッジルームの積載状況	スイッチ位置
運転席のみ	積載なし	0
フロントシート2名		0
フロントシート2名+サードシート3名		1
8名（2WD車） 7名（e-4ORCE（4WD）車）		1
	満載	2
運転席のみ		3

ワイパー・ウォッシャースイッチ

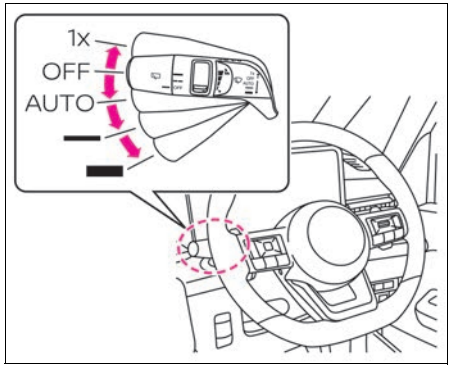
<パワースイッチ>がONのとき使用できます。

フロントワイパーの使いかた

雨滴感知式ワイパー無車



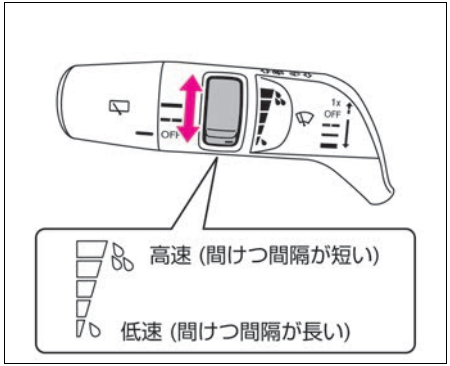
雨滴感知式ワイパー付車



- スイッチを動かすと、次のように作動します。

スイッチ位置	作動
＜1x＞	スイッチを上げている間作動します。 手を離すと自動的にOFFに戻ります。
＜OFF＞	停止します。
＜--＞	**雨滴感知式ワイパー無車** 間けつで作動します。 スイッチを回し、ワイパーの間けつ時間を調節します。
＜AUTO＞	**雨滴感知式ワイパー付車** 自動制御します。
＜—＞	低速で連続して作動します。
＜▬＞	高速で連続して作動します。

● スイッチを操作するとメーターにスイッチ位置が表示されます。

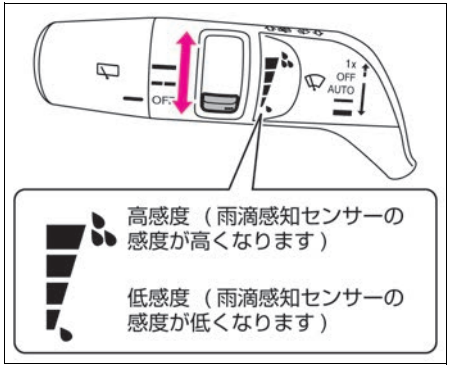


● 間けつ作動の間隔は、車速が速くなると短くなる車速感知式です。（雨滴感知式ワイパー無車）

● インテリジェント オートライトシステム（フロントワイパー連動、薄暮れ感知「おもいやりライト」機能付）は、ライトスイッチが＜AUTO＞の位置のときにワイパーが数回作動すると、車外の明るさに関係なくヘッドランプが点灯します。
➔AUTO（自動点灯・消灯）の使いかた（P.198）

● アドバンスドドライブアシストディスプレイで設定［ ⚙ ］⇒［画面カスタマイズ］⇒［オペレーションガイダンス］⇒［ワイパー］⇒［フロント］を選択すると、ワイパースイッチを動かしたときにメーターに表示する機能のON・OFFを切り替えることができます。
設定の詳細については、画面カスタマイズ（➔P.89または➔P.113）をお読みください。

■ 雨滴感知式ワイパー★の使いかた



スイッチ位置が＜AUTO＞のとき、ルームミラー部にある雨滴感知センサーによって降雨を感知し、降雨量と車速に応じて作動（低速および高速）の調節を自動で行います。

センサー感度

● センサーの感度を調節するときは、スイッチを回します。
高感度：雨滴感知センサーの感度が高くなります。
低感度：雨滴感知センサーの感度が低くなります。

アドバイス

- 降雨時でも雨滴が雨滴感知センサーに当たらないと、雨滴感知センサーが降雨を検知しないためワイパーが作動しない場合があります。
- 雨滴感知センサーに泥、指紋、油膜、虫などが付着したり、排気ガスをあびたりするとワイパーが作動することがあります。また、夜間などは目視しづらいわずかな水滴も検知し、ワイパーが作動することがあります。

  降雨時以外はなるべくスイッチ位置を＜OFF＞にしてください。
- フロントガラスに撥水処理を施している場合は、施工していないときに比べ、雨滴が流れやすくなるため、雨滴感知センサーが多いと感知してワイパーの作動回数が多くなる場合があります。
- ワイパーブレードの長さや形状が異なると、正常に作動しないことがあります。サイズにあった日産純正品をおすすめします。

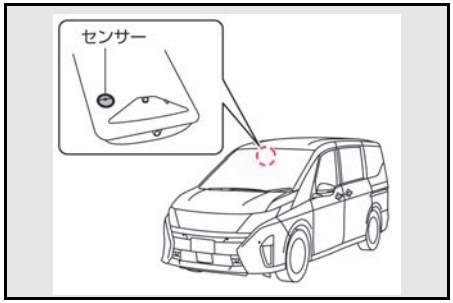
- ＜パワースイッチ＞がONのとき、スイッチ位置を＜AUTO＞にすると、1回ワイパーが作動し、その後は雨滴量に応じてワイパーが作動します。
- スイッチ位置を＜AUTO＞にしているとき、＜パワースイッチ＞をONにすると、雨滴感知センサーが雨滴を検知した場合のみワイパーが作動します。
- 自動制御のときは、降雨量と車速に応じてワイパー作動の調節を自動で行います。
  アドバンスドドライブアシストディスプレイで次の操作をすると、車速連動機能および雨滴感知機能のON・OFFを切り替えることができます。
  設定［ ⚙ ］⇒［車両設定］⇒［ワイパー］⇒［雨滴感知］
  設定の詳細については、車両設定（➔P.86）をお読みください。

雨滴感知式ワイパー★の注意事項

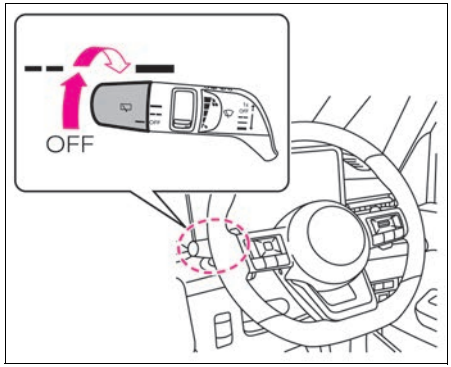
⚠ 注意

- **＜パワースイッチ＞がONでスイッチ位置を＜AUTO＞にしているとき、雨滴感知センサー上部のフロントガラスに手で触れたり、水分を含んだ布などを近づけたりしない。**

  ワイパーが作動しケガやワイパーの破損につながるおそれがありますので、注意してください。また、洗車時にはスイッチ位置を必ず＜OFF＞にしてください。



リヤワイパーの使いかた



スイッチを回すと、次のように作動します。

スイッチ位置	作動
＜OFF＞	停止します。
＜ ▬▬ ＞	間けつで作動します。
＜ ▬ ＞	低速で連続して作動します。

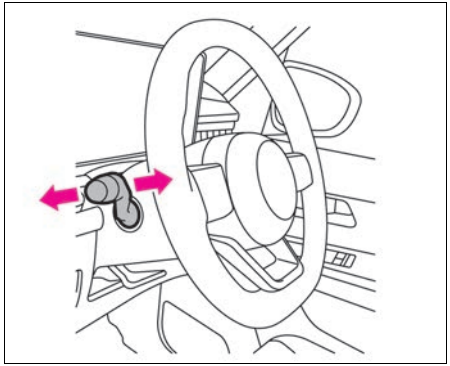
●アドバンスドドライブアシストディスプレイで設定［ ⚙ ］⇒［画面カスタマイズ］⇒［オペレーションガイダンス］⇒［ワイパー］⇒［リア］を選択すると、ワイパースイッチを動かしたときにメーターに表示する機能のON・OFFを切り替えることができます。
設定の詳細については、画面カスタマイズ（➔P.89または➔P.113）をお読みください。

■ リバース連動機能

●フロントワイパー作動中にシフトポジションをRに切り替えると、リヤワイパーが作動します。

●アドバンスドドライブアシストディスプレイで設定［ ⚙ ］⇒［車両設定］⇒［ワイパー］⇒［リバース連動］を選択すると、リバース連動機能のON・OFFを切り替えることができます。
設定の詳細については、車両設定（➔P.86または➔P.111）をお読みください。

ウォッシャーの使いかた



■ フロントウォッシャー

●スイッチを手前に引くと、ウォッシャー液が噴射します。

●スイッチを引いている間はウォッシャー液の噴射とワイパーの作動が続き、レバーを離すとワイパーが数回作動してから停止します。

■ リヤウォッシャー

●スイッチを車両前方に押すと、ウォッシャー液が噴射します。

●スイッチを押している間はウォッシャー液の噴射とワイパーの作動が続き、レバーを離すとワイパーが数回作動してから停止します。

■ ドリップ拭き取り機能

●ウォッシャースイッチを操作したあと、ガラスに残ったウォッシャー液をふき取るため、約3秒後に一度ワイパーが作動します。

●アドバンスドドライブアシストディスプレイで設定［ ⚙ ］⇒［車両設定］⇒［ワイパー］⇒［ドリップ拭き取り］を選択すると、ドリップ拭き取り機能のON・OFFを切り替えることができます。
設定の詳細については、車両設定（➔P.86または➔P.111）をお読みください。

ワイパー・ウォッシャーを使うときの注意事項

⚠ 警告

● **寒冷時は、ウォッシャー液を噴射する前に、ヒーターでガラスを温める。また、ウォッシャー液は外気温に合わせた希釈割合にする。**

寒冷時は、ガラスに吹きつけられたウォッシャー液が凍結し、視界を妨げ、思わぬ事故につながるおそれがあります。

アドバイス

● 雪が降りそうなときや降雪時にはワイパーアームを起こしておいてください。ワイパーに雪が積もり、破損するおそれがあります。

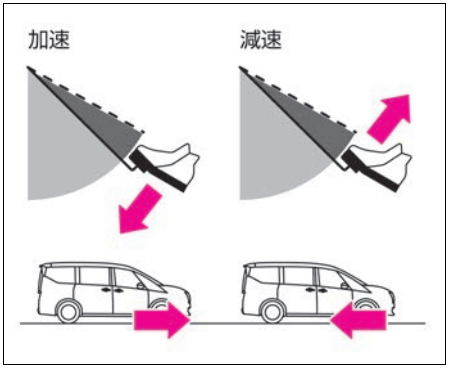
アドバイス

- ワイパー作動中、雪などの障害物によりワイパーが作動できなくなると、モーター保護のためにワイパーの作動が停止することがあります。その場合は、スイッチを＜OFF＞にして障害物を取り除いたあと、モーターが冷えるまで（約1分間）待ってから、再度スイッチを操作してください。ワイパーが作動を開始します。
- 凍結などでワイパーゴムがガラスに張り付いているときは、ワイパーを作動させないでください。ワイパーが損傷したり、モーターが故障したりするおそれがあります。
- 窓ガラスが乾いているときは、ウォッシャー液を噴射してからワイパーをご使用ください。ガラスが乾いた状態でワイパーを使用すると、ガラスやブレード（ゴム部）を傷つけるおそれがあります。
- ウォッシャー液が出ないときは、連続して30秒以上作動させないでください。モーターが故障する原因となります。
- ウォッシャー液を補給しても液が出ないときは、日産販売会社にご相談ください。

e-Pedal Step

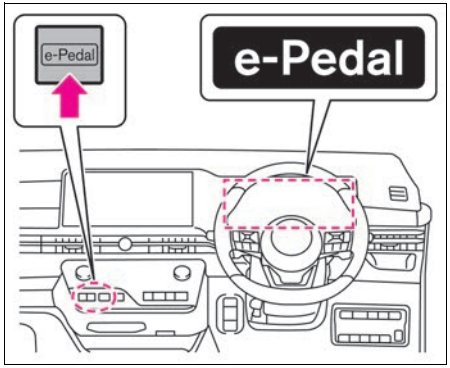
アクセルペダルの操作のみで加減速を行い、ブレーキペダルへ踏み替える頻度を大幅に減らすことができます。

e-Pedal Step について



- e-Pedal StepをONにすると、回生ブレーキの効きが強くなり、アクセルペダルの操作のみで速度調整することができるようになります。

e-Pedal Step の使いかた



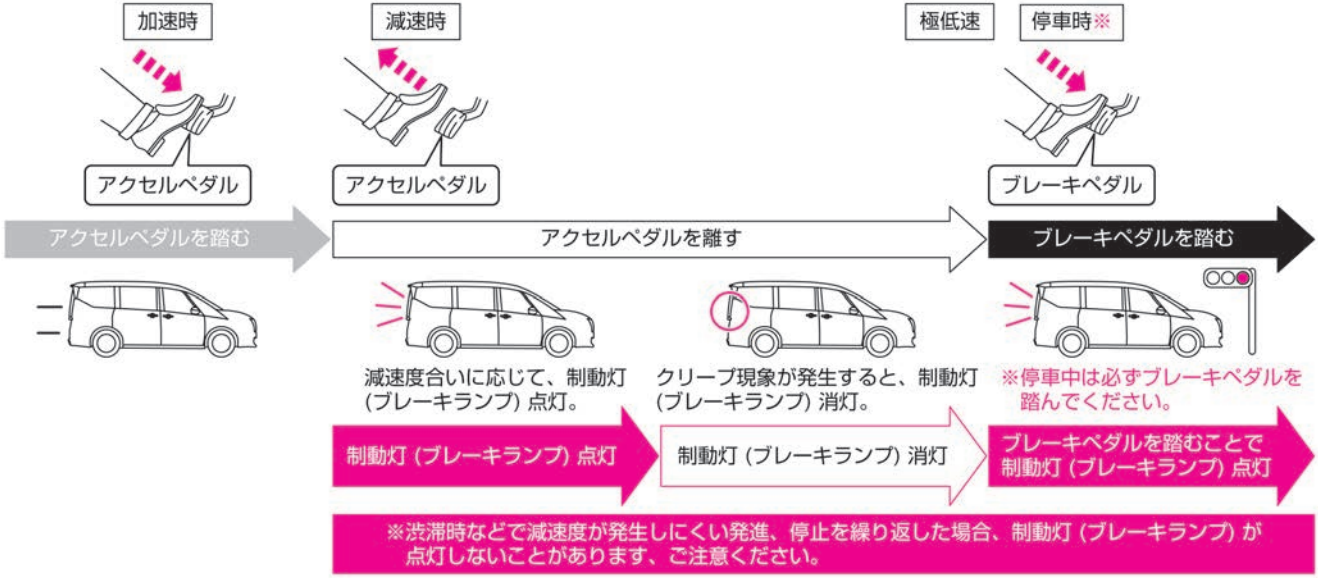
- ＜パワースイッチ＞がONのとき、＜e-Pedal＞スイッチを操作するごとにON・OFFが切り替わります。（メーター内のe-Pedalインジケーターに状態を表示します。）
  ➔ e-Pedalインジケーター（P.53）
- 一度＜パワースイッチ＞をOFFにしてからe-POWERシステムを再始動すると、e-Pedal StepはOFFになります。

e-Pedal Step の作動について

- アクセルペダルを離したときの減速度がガソリン車より強いため、アクセルペダルを完全に離さずゆっくりと緩めることで、なめらかに減速することができます。
- アクセルペダルを離しても減速度が足りないときは、ブレーキペダルを踏んでください。
- アクセルペダルを離したときの減速度およびブレーキペダルの操作状態に応じて、制動灯が点灯します。
- 車速によって最大減速度が変わります。極低速は回生ブレーキを作動させずクリープ現象が発生します。停車するときは、ブレーキペダルを踏んでください。
- e-Pedal StepがONのときも、ブレーキペダルを使用することができます。
- 後退時はe-Pedal Step OFFと同じ特性になります。

アクセル OFF 時の制動灯（ブレーキランプ）について

アクセルペダルを離した際、発生する減速度合いに応じて制動灯（ブレーキランプ）を点灯させて、極低速でクリープ現象が発生すると消灯します。停車するときはブレーキペダルを踏むことで、制動灯（ブレーキランプ）が点灯します。



e-Pedal Step に関する注意事項

⚠ 警告

- **機能には限界があるため、過信せず安全運転を心がける。**

  走行・道路状況に応じてブレーキペダルを踏んでください。

- **メーターに ［e-Pedalシステム異常 減速、 停車する際はブレーキを踏んでください］ または ［現在e-Pedal システムは使用できません 減速する際はブレーキを踏んでください］ と警告メッセージ （➔P.429） が表示されたときは、 e-Pedal Stepの機能が一時的に使用できない状態になっているため、 安全な場所に停車し、 一度パワースイッチをOFFにしてから再始動する。 再始動後もメッセージが表示されるときは、 システムの異常が考えられるため、 日産販売会社で点検を受ける。**

- **極低速は回生ブレーキを作動させずe-Pedal Step OFF同様のクリープ現象が発生します。**

  停車するときは、ブレーキペダルを踏んでください。

- **減速中の減速度合いが足りない場合は、ただちにブレーキペダルを踏む。**

  車両が動き出したり、止まりきらなかったりして、思わぬケガや事故につながるおそれがあります。

- **過積載、急勾配、氷結路などの制動力が低下する条件では、減速度が十分でない場合があるため、必要に応じてブレーキペダルを使用する。**

- **長い下り坂ではe-Pedal StepをOFFにして、シフトポジションをDまたはBに切り替える。**

  e-Pedal StepをONにしたままで、下り坂を走行し続けると、ブレーキの過熱を防ぐため、e-Pedal Stepが自動的にOFFに切り替わることがあります。

- **けん引中は、e-Pedal StepをOFFにする。**

- e-Pedal StepがONのときとOFFのときでは、アクセルペダルの特性が大きく異なります。e-Pedal StepのON・OFFをメーターで確認してください。
- e-Pedal StepがONのとき、シフトポジションをDからBまたは、BからDに切り替えてもe-Pedal Stepの特性は変わりません。
- シフトポジションがP、Nのときは、e-Pedal Stepは作動しません。
- 運転支援機能が作動しているときは、運転支援機能が優先されます。
- 減速によってブレーキペダルが動いたりe-Pedal Stepが作動しているときに作動音が発生したりする場合がありますが、異常ではありません。

ドライブモードセレクター

複数のドライブモードがあります。目的に応じて使い分けてください。

ドライブモードセレクターの注意事項

⚠ 注意

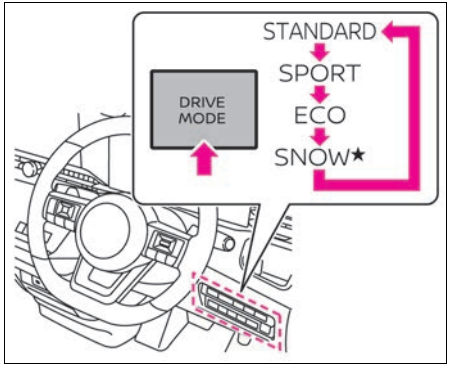
- **走行中に＜ドライブモードセレクター＞や画面を注視しない。**

  前方不注意となり思わぬ事故につながるおそれがあります。

モードの切り替えかた

アドバイス

- ＜ドライブモードセレクター＞を操作してもモードが切り替わらない場合は、システムの異常が考えられます。日産販売会社で点検を受けてください。



- ＜パワースイッチ＞がONのとき、＜ドライブモードセレクター＞を押すごとに次の順でモードが切り替わり、現在選択しているモードがアドバンスドドライブアシストディスプレイに表示されます。
  STANDARD→SPORT→ECO→SNOW★→STANDARD
- モードの設定は、＜パワースイッチ＞をOFFにしても、再度設定を変更するまで、その状態が維持されます。

ドライブモードについて

ドライブモード	特徴
STANDARD	**EV車のようなスムーズな加速性能と燃費を両立する通常走行に最適なモード** ● モーター駆動特有のレスポンスが良くスムーズな加速 ● アクセルをOFFにしたときは、ガソリンエンジン車に近い減速を発生
SPORT	**より力強いスポーティな走行に適するモード** ● STANDARDよりもアクセル操作に対する駆動レスポンスが良く、高い加速性能を実現（モーター駆動の特徴を際立たせた特性） ● 回生ブレーキを強め、アクセル操作による加減速コントロール性を高めている
ECO	**燃費の向上を重視するモード** ● STANDARDよりもアクセル操作に対する駆動レスポンスを緩やかにすることで、必要以上の加減速を抑制し、省エネルギーを実現 ● 回生ブレーキを強め、アクセルペダルによる加減速コントロール性を高めている
SNOW★	**モーターのきめ細やかな制御と前後駆動力配分により、雪道や凍結路面での発進や走行を容易にするモード** ● モーターのきめ細やかな制御により、滑りやすい路面でもスリップを抑えて、気を使うことなく発進できる ● 前後モーターの力強い加速でスタックを防ぎ、深雪でも走破できる ● 最適な前後駆動配分により、滑りやすい路面でも思い通りの走行ラインをトレースできる

エコモード設定

- エコモード設定は、インテリジェントクルーズコントロール、またはエアコン

機能を燃費重視の設定に切り替える機能です。

- アドバンスドドライブアシストディスプレイで設定［ ⚙ ］⇒［エコ］⇒［エコモード設定］を選択すると、ドライブモードをECOにしたときの燃費重視機能のON・OFFを切り替えることができます。

設定の詳細については、エコ（➔P.85または➔P.109）をお読みください。

知識

- エコモード設定で［クルーズコントロール］をON（燃費優先）にすると、インテリジェント クルーズコントロールの加速度がOFF時に比べて穏やかになり、燃費向上を図ります。
- エコモード設定で［空調］をON（燃費優先）にすると、OFF時に比べて冷房／暖房の効きが弱まり、燃費向上を図ります。
- エコモード設定は、e-POWERシステムを停止しても再度設定を変更するまでその状態が維持されます。
- 次のような場合、エコモード設定で［空調］をON（燃費優先）にしていても、エアコン機能が優先となります。
  - エアコンの温度設定を18℃または32℃にしたとき（18.5℃～31.5℃に設定すると燃費優先になります）
  - ＜デフロスタースイッチ＞（➔P.173）をONにしたとき

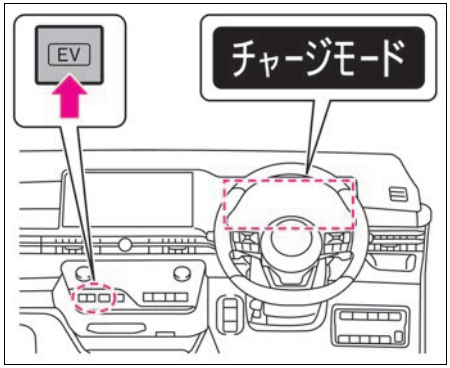
チャージモード

＜EVモードスイッチ＞を押し続けると強制的にエンジンを始動し、リチウムイオンバッテリーの充電を行います。マナーモードによる走行距離を長くしたいとき、あらかじめリチウムイオンバッテリーを充電するモードです。

チャージモードの使いかた

アドバイス

- システムに異常が発生したときは、自動的にチャージモードが解除されます。



- 走行可能表示灯が点灯しているとき、＜EVモードスイッチ＞を押し続けるたびにチャージモードのON・OFFが切り替わります。
- マナーモード中に＜EVモードスイッチ＞を押し続けると、チャージモードに切り替わります。
- ONにするとメーター内に［チャージモード］インジケーターが点灯します。
- チャージモードを使用すると、エンジンで発電するため燃費が悪化します。
- チャージモードでは、リチウムイオンバッテリー残量が満充電近くまで充電されます。またチャージモード作動中でも、エンジンが始動しないこともあります。
- チャージモード中でも、急加速、上り坂など走行負荷が高いときは、充電ができない場合があります。
- システムの状態によっては、充電時間が長くなることがあります。
- 外気温が低いときは、充電時間が長くなることがあります。
- 駐停車中にチャージモードを使用しエンジンが始動した場合、アイドリングストップに関する条例違反により罰則の対象となるおそれがあります。アイドリングストップの詳しい条例については、関係する自治体に確認してください。

チャージモードを使用できない、または解除されるとき

- チャージモード中でも、リチウムイオンバッテリーを保護するために一時的に発電を停止することがあります。
- シフトポジションがPのときにアクセルペダルを操作すると、チャージモードを解除します。

- 外気温が低いときは、チャージモードを使用できないことがあります。
- 走行可能表示灯が点灯しているときにボンネットを開けると、チャージモードを使用できない、またはチャージモードを解除します。

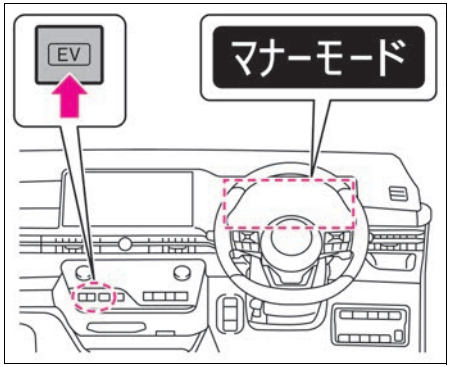
マナーモード

＜EVモードスイッチ＞を押すと、エンジンの始動を極力抑えて走行することができます。リチウムイオンバッテリーの電力だけで走行するので、早朝や深夜の住宅街など、静かに走行したいときに使用するモードです。

マナーモードの使いかた

アドバイス

- システムに異常が発生したときは、自動的にマナーモードが解除されます。



- 走行可能表示灯が点灯しているとき、＜EVモードスイッチ＞を押すたびにマナーモードのON・OFFが切り替わります。
- チャージモード中に＜EVモードスイッチ＞を押すと、マナーモードに切り替わります。
- ONにするとメーター内に［マナーモード］インジケーターが点灯します。
- チャージモードをONにしてリチウムイオンバッテリー残量を増やしておくと、バッテリー電力だけで走行できる距離が長くなります。
- 外気温が低いときはエンジンが始動することがありますが、エンジンが始動する前にマナーモードをONにすると、エンジンの始動が抑えられてバッテリー電力だけでの走行が可能です。

マナーモードを使用できない、または解除されるとき

- 急加速や上り坂などでアクセルペダルを強く踏み込んだ場合、エンジンを始動し、マナーモードが解除されます。
- 長い下り坂での回生ブレーキによりリチウムイオンバッテリー残量の上限まで充電されると、リチウムイオンバッテリー保護のためマナーモードが解除されます。
- シフトポジションがPのときにアクセルペダルを操作すると、エンジンが始動しマナーモードが解除されます。
- リチウムイオンバッテリー残量が少ないときはマナーモードを使用できない、またはマナーモードが解除されます。
- システムが強制充電を必要と判断した場合、マナーモードを解除しエンジンを始動します。
- システムが暖機が必要と判断した場合、エンジンを始動し、マナーモードが解除されます。
- フロントガラスの＜デフロスタースイッチ＞（➔P.452）を押すと、マナーモードを使用できない、またはマナーモードが解除されます。
- 外気温が低いときは、マナーモードを使用できないことがあります。
- 走行可能表示灯が点灯しているときにボンネットを開けると、強制的にエンジンが始動しマナーモードを使用できない、またはマナーモードが解除されます。

e-4ORCE（4WD）車★の扱いかた

e-4ORCEは、前後2つのモーターと4輪のブレーキを瞬間的に統合制御するシステムです。

e-4ORCE（4WD）車は、滑りやすい路面などで優れた走行性能を発揮しますが、万能ではありません。e-4ORCE（4WD）車特有の取り扱いかたを十分理解し、正しい運転をしてください。

⚠ 警告

- **e-4ORCE（4WD）車は万能ではないため、走行するときは次のことを必ず守る。**
  - 渡河などの水中走行はしない

⚠ 警告

— 砂地、ぬかるみなど、車輪が空転しやすいところでの連続走行はしない

— 脱輪などにより車輪が宙に浮いているときは、むやみに空転させない

走行するとき

- オフロード（不整地）走行やラリー走行用ではありません。
- 運転操作は一般車と同様です。ハンドル、アクセルおよびブレーキペダルなどの操作は慎重に行い、安全運転を心がけてください。
- e-4ORCE（4WD）車は、2WD車に対し、制動距離が短くなるわけではありません。

タイヤについて

- タイヤの交換は4輪とも同時に行い必ず指定サイズで同一の銘柄、パターン（溝模様）のタイヤを装着してください。
- 摩耗差が大きいものやサイズが異なるタイヤを装着すると車の性能を十分に発揮できなくなる場合があります。冬用タイヤも必ず4輪同じものを装着してください。タイヤ交換は日産販売会社にご相談ください。

走行のしかた

⚠ 注意

- **急加速や急ハンドル、急ブレーキなどはしない。**

  タイヤがスリップしたり、横滑りや尻振りなどをおこし、思わぬ事故につながるおそれがあります。

■ 雪道など舗装路以外を走行するとき

- ドライブモードセレクターをSNOWに切り替えます。（e-4ORCE（4WD）車）
- 路面の状態に合わせ慎重に走行します。

エマージェンシーストップシグナル

エマージェンシーストップシグナルは、急ブレーキを踏んだとき、後続車に追突される可能性を低減させるため、制動灯を点滅させて後方へ急ブレーキを知らせます。

エマージェンシーストップシグナルについて

- 50km/h以上の速度で走行中、急ブレーキを踏むと作動します。
- 次の場合は作動が停止します。
  - — ブレーキペダルから足を離したとき
  - — ブレーキペダルを踏んでいても急ブレーキではなくなったとき
- ABS警告灯［(ABS)］（➔P.410）が点灯しているときは、エマージェンシーストップシグナルが作動しない場合があります。

ABS（アンチロックブレーキシステム）

ABSとは、急ブレーキ時や滑りやすい路面でのブレーキ時に、タイヤのロックを防止して、車両の安定性を向上させるとともにハンドル操作による障害物回避をしやすくするシステムです。

ABS に関する注意事項

⚠ 警告

- **カーブの手前では十分に減速する。**

  ABSはあくまでも運転者のブレーキ操作を補助するシステムです。ABSの付いていない車両と同様に、カーブの手前では十分な減速が必要です。早めの操作で安全運転を心がけてください。

- **でこぼこ道、砂利道、積雪路などでは、特に速度を控え、車間距離を十分にとる。**

  ABSはブレーキ時の車両の安定性、操舵性を確保しようとするための装置で、制動距離が短くなるとは限りません。でこぼこ道、砂利道、積雪路などでは、ABSの付いていない車より制動距離が長くなることがあります。このような道を走行するときは、特に速度を抑え、車間距離を十分にとって運転してください。

⚠ 警告

- **タイヤ交換時は、必ず指定サイズのタイヤを4輪に装着する。**

  ABSは各車輪の回転速度をセンサーで検出しています。指定サイズ以外ではABSが正常に作動しなくなり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

ABS について

急ブレーキを踏まなければいけないような状況に陥らないよう、安全運転を心がけることが大切です。万一の危険な状況では次のようにしてください。

- 危険だと感じたら、ためらわず思い切りブレーキペダルを踏み込んでください。
- ABSが作動すると、ブレーキペダルに振動が伝わったり、作動音が聞こえたりします。これはABSの正常な作動によるものです。そのままブレーキペダルを踏み続けてください。
- 障害物回避の際には、ブレーキペダルを踏みながらハンドル操作をしてください。
- <パワースイッチ>をONにしたときや、e-POWERシステム始動後最初の発進時に、エンジンルーム内から音が聞こえることがありますが、これはシステムの作動をチェックしている音で異常ではありません。

なお、車両を確実に停車させるため、ABSは低速では作動しません。路面の状況により異なりますが約10km/h以下では作動しません。

VDC（ビークルダイナミクスコントロール）

VDCは、横滑りや駆動輪の空転を抑えて走行時の車両安定性を向上させるシステムです。

VDC の機能について

- VDCのシステムには次の機能があります。
  - VDC機能：走行中の横滑り状態をセンサーで判別し、走行時の車両安定性を向上させる機能です。
  - トラクションコントロール機能（TCS）：滑りやすい路面などで駆動輪が空転した場合、走行用モーターの出力を抑えることにより、駆動力およびハンドルの操作性を向上させる機能です。
  - ブレーキLSD機能：滑りやすい路面などで駆動輪が空転した場合、空転している駆動輪にブレーキをかけることにより、もう一輪の駆動力を確保する機能です。
  - ABS機能：ABS（➔P.217）
- VDC作動時は、ブレーキの作動により音や振動を発生する場合がありますが異常ではありません。

VDC の作動について

- VDCの作動と警告灯
  - VDCが作動しているときは、VDC警告灯［ ］が点滅します。
  - トラクションコントロール機能のみが作動しているときもVDC警告灯［ ］が点滅します。VDC警告灯が点滅したときは、車両が滑りやすい状態になっていますので特に慎重に運転してください。
- 次の場合、VDC警告灯［ ］が点灯することがあります。一度<パワースイッチ>をOFFにし、再度ONにするとVDC警告灯は消灯します。
  - 駐車場の入り口などにあるターンテーブルや動く物の上に車があるとき
  - 極端に傾いた特殊な路面（サーキット路に見られるバンクなど）を走行したとき

VDC に関する注意事項

⚠ 警告

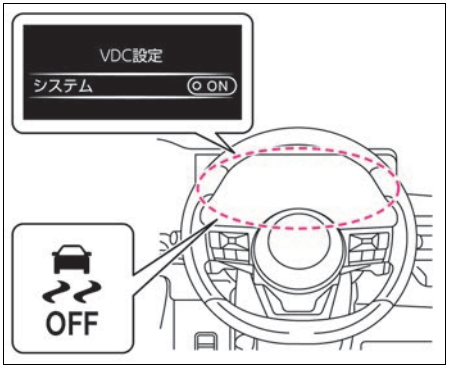
- **滑りやすい路面やカーブの手前では速度を落とす。**

  この装置は車両の走行安定性を向上させるもので事故を防止するものではありません。VDCの作動にも限界があるため、滑りやすい路面やカーブの手前では、特に速度を落とし安全運転を心がけてください。

⚠ 警告

- **次の場合、VDC警告灯［ ］が点灯し正常に作動しないことがあるので注意する。**
  - サスペンション、タイヤ、ブレーキなどを純正品以外に交換したり、改造したとき
  - サスペンション、タイヤ、ブレーキなどの関係部品が著しく摩耗および劣化した状態で走行したとき
- **VDC付車でも雪道などでは冬用タイヤやタイヤチェーンを装着する。**

VDCのON・OFFのしかた



- アドバンスドドライブアシストディスプレイで設定［ ］⇒［VDC設定］⇒［システム］を選択すると、VDC機能のON・OFFを切り替えることができます。
  設定の詳細については、VDC設定（P.79または P.106）をお読みください。
- VDC機能をOFFに切り替えると、VDCが停止し、VDC OFF表示灯［ ］が点灯します。
- 再度、VDCを使用（ON）するときは、もう一度アドバンスドドライブアシストディスプレイでVDC機能をONに切り替えます。VDC OFF表示灯［ ］が消灯し、VDCがON になります。
- VDCが作動しているときは、ぬかるみや雪道から脱出するときに、スリップ状態を検知するため、アクセルペダルを踏み込んでもタイヤの回転数が上がらないことがあります。タイヤの回転数を上げたいときはアドバンスドドライブアシストディスプレイでVDCを停止してください。
- VDC機能をOFFにすると、VDCのすべての機能と、次の機能が停止します。（ABS機能およびブレーキLSD機能を除く）
  - プロパイロット（P.229）
  - インテリジェント エマージェンシーブレーキ（P.276）
  - 衝突回避ステアリングアシスト（P.282）
  - 踏み間違い衝突防止アシスト（P.283）
  - インテリジェント LI（車線逸脱防止支援システム）（P.298）
  - インテリジェント BSI（後側方衝突防止支援システム）（P.289）
  - プロパイロット パーキング★（P.331）
- ＜パワースイッチ＞をONにするたびに、VDCは自動的にONになります。
- VDCが作動すると発進時や加速時に車体およびペダルにわずかな振動と作動音が発生しますが異常ではありません。
- ＜パワースイッチ＞をONにしたときや、e-POWERシステム始動後最初の発進時に、エンジンルーム内から音が聞こえることがありますが、これはシステムの作動をチェックしている音で異常ではありません。

シャシー制御★

シャシー制御には、インテリジェントトレースコントロール（コーナリング安定性向上システム）があります。

⚠ 注意

- **インテリジェントトレースコントロール（コーナリング安定性向上システム）の機能を過信しない。**
  インテリジェントトレースコントロール（コーナリング安定性向上システム）は、すべての走行環境において効果があるわけではないため、機能を過信せず安全運転を心がけてください。

アドバイス

- アドバンスドドライブアシストディスプレイに［シャシー制御システム故障］と警告が表示されたときは、故障により機能が正しく作動しないことがあります。警告が表示されたときは、日産販売会社で点検を受けてください。

  警告メッセージ（➔ シャシー制御表示（P.422））

インテリジェントトレースコントロール（コーナリング安定性向上システム）について

運転者のハンドル、アクセル、ブレーキ操作を検知し、それらの情報から各輪のブレーキ、駆動トルク、前後駆動力配分を制御して、車両の挙動を滑らかにすると同時に、応答性を高めるなどして安定感のあるコーナリングを実現します。

- VDCをOFFにすると、インテリジェントトレースコントロール（コーナリング安定性向上システム）もOFFになります。ぬかるみや雪道から脱出するためにVDCをOFFにした場合でも、トラクションを確保するため前後駆動力配分制御はOFFになりません。
- システムが作動すると、ブレーキペダルに振動を感じたり、音が聞こえたりする場合がありますが、システムの作動音で異常ではありません。また、減速感を感じることがありますが、異常ではありません。
- ＜ドライブモードセレクター＞のモード位置により、インテリジェントトレースコントロール（コーナリング安定性向上システム）は影響を受けます。
  ドライブモードセレクター
  （➔ P.213）

ヒルスタートアシスト

ヒルスタートアシストは、上り坂での発進を補助するシステムです。

⚠ 警告

- **ヒルスタートアシストの機能を過信しない。**

  凍結している路面や泥状の坂道では、車両がスリップして後退することがあります。特に安全運転を心がけてください。

  緩やかな坂道ではヒルスタートアシストが作動せず後退する場合があります。その際はブレーキペダルを踏むか、パーキングブレーキをかけてください。

- **停車するときは、思わぬ事故につながるおそれがあるため、ブレーキペダルを踏み続ける。**

  この装置は、ブレーキペダルから足を離すと約2秒間ブレーキ力を保持しますが、その後ブレーキ力が解除されます。駐車するときは確実にシフトポジションをPに入れ、パーキングブレーキをかけてください。

ヒルスタートアシストについて

- 上り坂で発進するとき、ブレーキペダルからアクセルペダルへ踏み替える間に発生する車両の後退を防ぎます。
- シフトポジションがP、N以外のとき、ブレーキペダルから足を離すと、約2秒間ブレーキ力を保持します。
- ＜シフトスイッチ＞を操作した直後はブレーキペダルを踏んだ状態で約1秒間待ってから発進してください。シフトポジションをPからDまたはNからDに操作した直後は、ヒルスタートアシストが作動しないことがあります。
- VDC警告灯［ ］（➔ P.412）が点灯したときは作動しません。
- ヒルスタートアシストが作動しているとき、ブレーキペダルの踏みごたえが変化したり、音や振動が発生したりすることがありますが、異常ではありません。

車両接近通報装置

⚠ 警告

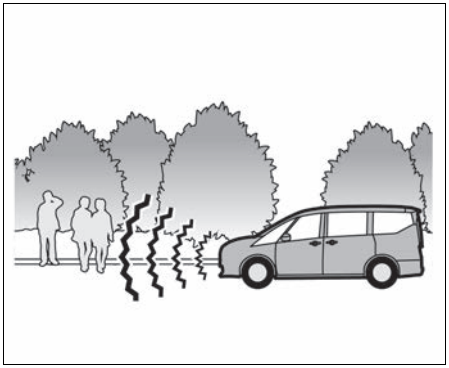
- **車両接近通報装置の音が聞こえないときは、日産販売会社で点検する。**

  車両接近通報装置の音が聞こえないときは、安全で静かな場所に停車し、音が聞こえるか確認してください。ブレーキペダルを確実に踏みながら、シフトポジションをRにし、窓を開けて音が聞こえるか確認します。車両前方から音が聞こえないときは、日産販売会社で点検を受けてください。

車両接近通報装置について

車両接近通報装置は、走行可能表示灯が点灯中にエンジンが停止していると、次の場合に作動します。

- 発進時、車速が30km/h以下のとき
- 減速時、車速が25km/h以下になったとき
- シフトポジションがRのとき

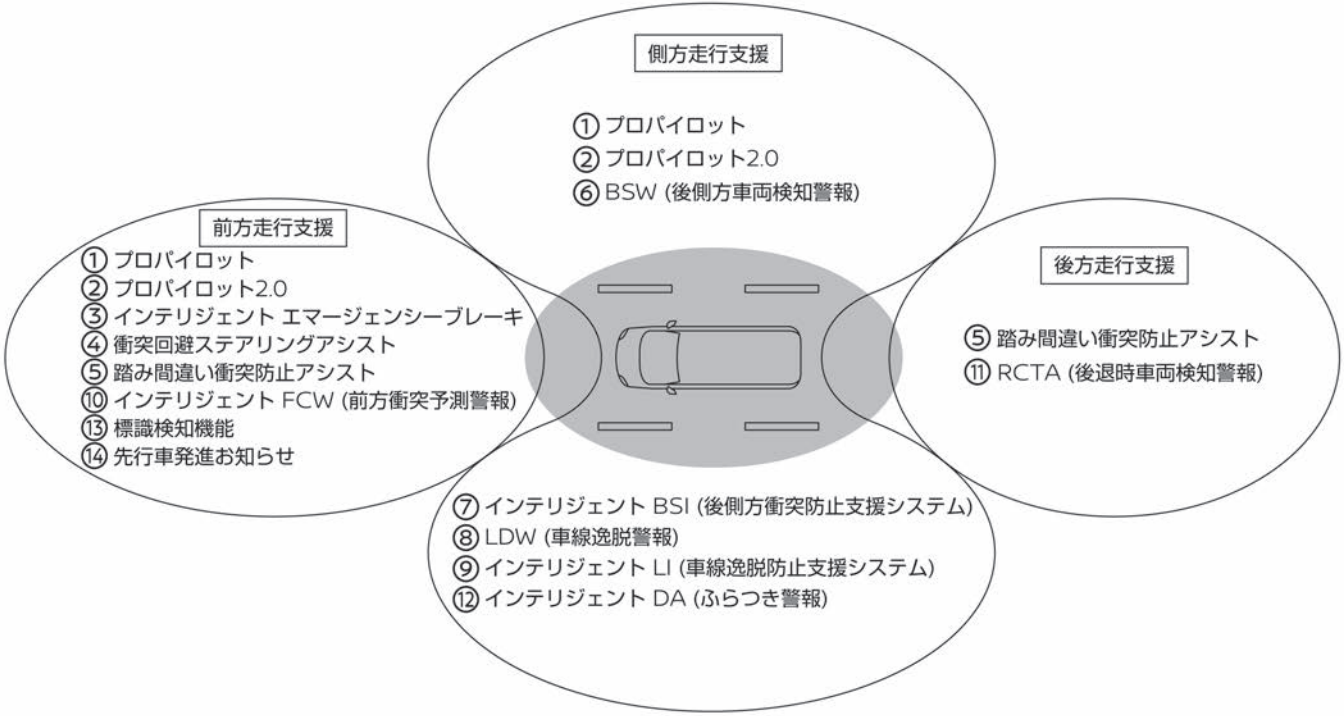


車両接近通報装置の故障について

- システムに異常があると、車両接近通報システム警告灯［ OFF ］が点灯します。
  車両接近通報システム警告灯
  （➔P.417）
- 次の条件がそろうと<パワースイッチ>をOFFにし忘れることを防止するため、車両接近通報装置が作動します。
  - シフトポジションがPのとき
  - 走行可能表示灯が点灯しているとき
  - 運転席のシートベルトが非装着のとき
  - 運転席ドア、助手席ドアまたは後席ドアを開けたとき（ドアを閉めても鳴り続けます）

走行支援機能

走行支援機能について



範囲		機能名	機能説明	支援内容	使用するセンサー※1			
					レーダー	カメラ（フロント）	ソナー	カメラ（アラウンドビューモニター）★
前方側方	①	プロパイロット★	前方車両との車間距離を制御し、前方車両停車時は停車してその状態を保持します。また、走行車線内を走行するようにハンドルを自動制御することで運転操作の負担を減らします。（➔P.229）	支援	○	○	○	–
	②	プロパイロット2.0★						○
前方	③	インテリジェントエマージェンシーブレーキ	前方の車両や歩行者、自転車と衝突のおそれがあるとき、警報とブレーキにより、運転者の衝突回避操作を支援します。（➔P.276）	支援	○	○	–	–
	④	衝突回避ステアリングアシスト	前方の障害物に対するステアリングによる回避操作を検出した場合、運転者のハンドル操作を支援します。（➔P.282）		○	○	–	–
前方後方	⑤	踏み間違い衝突防止アシスト	ブレーキペダルとアクセルペダルの踏み間違えや、ブレーキ操作遅れが起きたときに警報音と表示で警告し、さらに過度な加速の防止や障害物への衝突防止を支援します。（➔P.283）	支援	–	○※2	○	○※3
前方	⑩	インテリジェントFCW（前方衝突予測警報）	前方を走行する2台前の車両を検知し、急な減速などにより、自車の回避操作が必要と判断した場合に警報します。（➔P.302）	情報提供警報	○	–	–	–
	⑬	標識検知機能	運転者に最高速度標識／はみ出し通行禁止標識／車両進入禁止標識／一時停止標識があることを知らせます。（➔P.309）		–	○	–	–
	⑭	先行車発進お知らせ	先行車が発進しても自車が停止し続けた場合に、音と表示でお知らせする機能です。（➔P.315）		○	○	–	–

☆／★：車両型式、オプションなどで異なる装備

範囲		機能名	機能説明	支援内容	使用するセンサー ※1			
					レーダー	カメラ（フロント）	ソナー	カメラ（アラウンドビューモニター）★
側方	⑦	インテリジェントBSI（後側方衝突防止支援システム）	隣車線に車両がいるときに車線変更を開始した場合、警報とともに車両を元の車線内に戻すよう支援します。（➔P.289）	支援	○	○	–	–
	⑨	インテリジェントLI（車線逸脱防止支援システム）	運転者が意図せず走行車線から逸脱しそうなとき、車線内に戻す操作を支援します。（➔P.298）		–	○	–	–
	⑥	BSW（後側方車両検知警報）	車線変更時、隣車線に車両がいる場合に警報します。（➔P.289）	警報	○	–	–	–
	⑧	LDW（車線逸脱警報）	運転者が意図せず走行車線から逸脱しそうなとき、警報します。（➔P.298）		–	○	–	–
	⑫	インテリジェントDA（ふらつき警報）	ハンドル操作から運転者の注意力が低下していると判断したとき、警報音と表示により運転者に休憩を促します。（➔P.308）		–	–	–	–
後方	⑪	RCTA（後退時車両検知警報）	後退時、後方を横切ろうとする車両があるとき、警報します。（➔P.305）	警報	○	–	–	–

※1：レーダーセンサー／カメラ類の取り扱い注意に従って、お手入れをお願いします。適切なお手入れを行わないと、システムが正常に作動しないおそれがあります。（➔レーダーセンサーの取り扱い（P.475））、（➔マルチセンシングフロントカメラの取り扱い（P.475））、（➔ソナーの取り扱い（P.476））、（➔フロントビューカメラ★／サイドビューカメラ★の取り扱い（P.476））、（➔リヤビューカメラ★の取り扱い（P.476））

※2：後方への支援には使用されません。

※3： 後方への支援時にリヤビューカメラ★が使用されます。

走行支援機能

⚠ 警告

- **走行支援機能は、自動で運転する装置ではありません。運転者は交通法規を遵守し、常に周囲に注意し、道路・交通・自車の状況に応じハンドル、ブレーキ、アクセルを確実に操作し、安全な運転を行う責任があります。性能には限界があるため、システムだけに頼った運転はせず、常に安全運転を心がけてください。**
- **レーダー、カメラ、ソナーの性能には限界があります。詳細については、各検知条件と制限をお読みください。**

➲ レーダーセンサーの検知条件と制限（P.226）

➲ マルチセンシングフロントカメラの検知条件と制限（P.227）

➲ ソナーの検知条件と制限（P.228）

フロントガラスに装備されたマルチセンシングフロントカメラ、フロントグリルとフロントバンパー、およびリヤバンパーに装備されたレーダーセンサー、フロントバンパーおよびリヤバンパーに装備されたソナーセンサーで構成された、走行を支援するシステムです。

■ 作動させるためにプロパイロットスイッチ操作が不要な機能（メーターでのON・OFF設定が可能）

- インテリジェント エマージェンシーブレーキ
- 衝突回避ステアリングアシスト
- 踏み間違い衝突防止アシスト
- インテリジェント FCW（前方衝突予測警報）
- BSW（後側方車両検知警報）
- LDW（車線逸脱警報）
- RCTA（後退時車両検知警報）
- インテリジェント DA（ふらつき警報）
- 標識検知機能
- 先行車発進お知らせ

■ 作動させるためにプロパイロットスイッチ操作が必要な機能

- プロパイロット★
- プロパイロット2.0★
- インテリジェント BSI（後側方衝突防止支援システム）
- インテリジェント LI（車線逸脱防止支援システム）

走行支援機能の設定

●アドバンスドドライブアシストディスプレイで設定［ ⚙ ］ ⇒［運転支援］⇒必要な機能を選択すると、設定を切り替えることができます。

機能名	設定できる機能
インテリジェントクルーズ★	ルート減速支援、制限速度支援、制限速度支援設定
車線維持支援（ハンドル支援）	ハンドル支援、ハンズオフモード★
車線変更支援★	ルート走行支援、ルート走行支援モード、方向指示器スイッチ連動、追い越し支援、追い越し支援判断
側方支援	LDW（車線逸脱警報）、インテリジェント LI（車線逸脱防止支援システム）
後側方支援	BSW（後側方車両検知警報）、インテリジェント BSI（後側方衝突防止支援システム）
緊急支援	インテリジェント エマージェンシーブレーキ、衝突回避ステアリングアシスト、インテリジェント FCW（前方衝突予測警報）、踏み間違い衝突防止アシスト
先行車発進お知らせ	先行車発進お知らせ
標識検知支援	最高速度標識検知★ 、はみ出し通行禁止標識検知、進入禁止標識検知、一時停止標識検知
駐車支援	RCTA（後退時車両検知警報）★、移動物 検知機能★、ソナー機能など
ドライバーモニター★	インテリジェント DA（ふらつき警報）、ドライバーモニターカメラ★
運転支援サウンド設定★	音声案内、警報音設定
速度標識表示★	最高速度標識検知／はみ出し通行禁止標識検知
後退時車両検知警報★	RCTA（後退時車両検知警報）
ふらつき警報★	インテリジェント DA（ふらつき警報）

レーダーセンサーの検知条件と制限

●レーダーセンサーは次のような物体は検知できないことがあります。
- 歩行者、自転車、動物など
- 対向車
- 前方の車両がオートバイのような幅の狭い車両

●RCTA（後退時車両検知警報）のレーダーセンサーは、次のような物体は検知できないことがあります。
- 約30km/h以上の速度で通過する車両
- 約8km/h以下の速度で通過する車両

●次のような場合は、前方の車両を検知できないことがあります。
- 悪天候（雨、雪、霧など）で視界が悪いとき
- 前方の車両や対向車などにより水、雪、砂などの巻き上げが発生しているとき
- 雪や氷、泥などがレーダーセンサー周辺に付着しているとき
- 放送局など周辺の電波源により影響を受けているとき
- トンネル内を走行しているとき
- 前方の車両がけん引を行っているとき
- 前方の車両との距離が極端に近いとき
- 急なカーブや、勾配の変化があるところを走行しているとき

●次のような状況では、レーダーセンサーが接近する車両を検知できず、RCTA（後退時車両検知警報）が警報を出さない場合があります。

— 隣に駐車している車両などが、レーダーセンサーの検出エリアを妨げているとき
— 駐車枠線が斜めに引かれた駐車場に駐車しているとき
— 回り込むようにして自車両後方へ車両が接近してきたとき
— 接近してきた車両の向きが、自車両の向きと同じまたはそれに近いとき

●次のような状況では、隣の車線の車両を検知できないことがあります。
— 車線の幅が極端に広い道路を運転しているとき
— 悪天候（雨、雪、霧など）で視界が悪いとき
— 水、雪、砂などの巻き上げが発生しているとき
— 雪や氷、泥などがレーダーセンサー周辺に付着しているとき

●次のような車両は、正確に検知できない場合があります。
— 背の低い車両や、オートバイなどの幅の狭い車両
— 停車状態から検知範囲に居続ける車両
— 後方から速い速度で接近してくる車両
— 自車両が速い速度で追い越した車両
— 合流や車線変更で自車両の横にほぼ同じ速度で移動してきた車両

マルチセンシングフロントカメラの検知条件と制限

●マルチセンシングフロントカメラは次のような障害物を検知できないことがあります。
— 子供などの背の低い人、動物、自転車
— 対向車両
— 道路構造物（ガードレール、ポールなど車両と歩行者以外の障害物）

●マルチセンシングフロントカメラは車両の後端を認識するため、次のような車両を検知しないもしくは検知できない場合があります。
— バンパー形状などにより、タイヤが見えにくい車両
— 幌がはみ出し、後端形状がはっきりしない車両
— 前方を横切って通過する車両
— 斜めもしくは前向きに止まっている車両

●マルチセンシングフロントカメラは次のような場合、前方の車両、歩行者を検知できないことがあります。
— 悪天候（雨、雪、霧、風塵、砂塵、吹雪など）で視界が悪いとき
— 前方の車両や対向車などにより水、雪、砂などの巻き上げが発生しているとき
— カメラ前方のフロントガラスのくもりや、汚れ、油膜、虫汚れ、水滴、氷、雪、泥などが付着しているとき
— 前方から強い光（太陽光や対向車両のハイビームなど）を受けているとき
— 前方の強い光により前方車両のタイヤの部分が影になり見えにくいとき
— 夜間やトンネル内などでヘッドランプを点灯していない、あるいはヘッドランプのレンズが極端に汚れている、または光軸調整が適切に行われていないとき
— 夜間やトンネル内などで前方の車両のテールランプが点灯していないとき
— トンネルの出入り口や日陰など、急に明るさの変化が起こったとき
— カーブを走行しているとき
— 勾配の変化があるところを走行しているとき
— 未舗装路など凹凸のある路面を走行しているとき
— 歩行者が大きな荷物を持っている、背景と同じ色の服を着ているなど人特有の輪郭が認識できないとき
— 前方車両からの太陽光などを強く反射されたとき
— 対象物の位置や動きが大きく変化した場合（自車の車線変更・右左折、前方車両の右左折・急ハンドル・急加速・急減速など）
— 始動してから約15秒間
— カメラの向きがずれているとき

●マルチセンシングフロントカメラは次の例のような周辺状況では対象物の形状を正しく検出できずシステムが作動しない場合があります。
— 対象物が背景と似た色合いで区別ができない場合
— 対象物が道路標示（道路上の横断歩道、制限速度などの標示）の近くにある場合
— 対象物が路面の水たまりの付近にある場合（周りの風景が水たまりに映り込むなど）

- 対象物が建物や街路樹などの影と重なっているとき
- 対象物と自車の間に水蒸気や煙などがあるとき
- 夜間やトンネル内など暗い場所にいる歩行者
- 車高の低い車両または最低地上高（地面から車体までの高さ）が極端に低いもしくは極端に高い車両
- 特殊な形状の車両（タンクローリー、サイドカーなど）
- 前方の至近距離に割り込んだ車両
- 前方の至近距離に飛び出してきた歩行者
- 自車の正面から横にずれた位置に存在する車両や歩行者、人が乗車している自転車
- 後端面積が小さい車両（空荷のトラックなど）
- リヤタイヤから車両後端までが長い車両
- 四輪車以外の車両（二輪車など）
- 荷台から荷物や幌がはみ出している車両

● マルチセンシングフロントカメラは次の例のような場合、衝突するおそれがある対象を正しく検出できない場合があります。
- 複数の対象物同士が近接している場合
- 衝突するおそれのある対象の二輪車または車高の低い車両の前方近くに車両がいる場合
- 自車の正面から横にずれた位置に存在する車両や歩行者

ソナーの検知条件と制限

● 次のような場合、ソナーは正しく検出できないことがあります。
- 人、動物などの動いているもの、特に人は衣服の種類によっても検出できない場合があります。
- 背の低い障害物
- 溝や穴など地面より低い場所
- ポールなどの幅の狭い障害物
- 針金、ロープ、チェーンなどの細い障害物
- 金網、フェンス、ショッピングカートなどのすき間が多い障害物
- 鋭角的な形の障害物
- 壁などに配置されている配管などの障害物
- 地面から高い位置に存在する障害物
- 柱などで構成されている平面ではない障害物
- スポンジ状のものや雪などの表面が柔らかく音波を吸収しやすい障害物
- バンパーに非常に近い障害物
- 急に進行方向に現れた障害物
- 急にソナーの検出範囲に飛び込んできた障害物
- 急に近づいてきた障害物
- 車両側方にある障害物
- 障害物の面が車両の前面、または後面に対して斜めのとき
- ソナーセンサー部が凍結したり、雨、雪、氷、汚れなどがソナーセンサーに付着したりしているとき
- 車両姿勢が大きく傾いているとき
- 炎天下や寒冷時でセンサー周辺が著しく高温または低温のとき
- でこぼこ道、坂道、砂利道、草むらを走行しているとき
- 他車のホーン、オートバイの排気音や工事など、付近で大きな音がしたとき
- 車両感応センサーや他車のソナーなど、超音波を発するものが付近にあるとき

● 次のような場合、ソナーは検知することがあります。
- 周囲に草が生い茂っているとき
- 車両側面の近くに壁があるとき
- 高さのあるゲート、狭いトンネル、料金所のバーなど
- マンホールやスピードバンプなど路面上に段差や突起物があるとき
- 垂れ下がった旗、ビニールカーテンなどをくぐって走行するとき
- 車両周辺に雪のかたまりがあるとき
- 勾配路
- 車両感応センサーや他車のソナーなど、超音波を発するものが付近にあるとき
- 他車のホーン、オートバイの排気音や工事など、付近で大きな音がしたとき
- 背が高く上部が張り出しているものがあるとき
- 雨、雪、氷、汚れなどがソナーセンサーに付着しているとき
- 凸形状または凹形状の構造物の近くを通過しているとき

— 車両側方の近くに構造物（壁、料金所設備、駐車場のゲート設備など）があるとき

プロパイロット

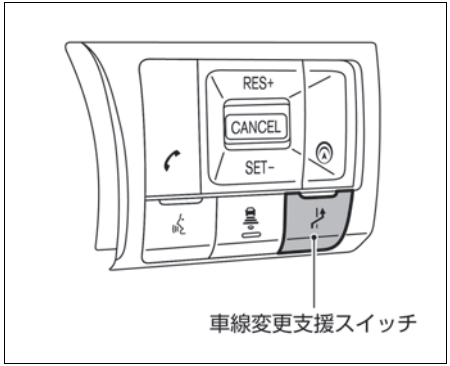
プロパイロットは、高速道路や自動車専用道路を運転者が設定した車速を上限に、先行車と車速に応じた車間距離を保ちながら、車線中央付近を走行するための運転操作を支援します。

プロパイロット2.0では上記に加え、運転者が常に前方に注意して道路・交通・自車両の状況に応じただちにハンドルを確実に操作できる状態にある限りにおいて、同一車線内でハンドルから手を離すことが可能となります。

また、ナビゲーションシステムで目的地を設定することで、ルート上にある高速道路の出口に向かうための運転操作を支援します。

システムの見分けかた

ステアリングスイッチの形状とルーフのシャークフィンアンテナの有無で、システムを見分けることができます。



● ＜車線変更支援スイッチ＞
プロパイロット：無し
プロパイロット2.0：有り

● シャークフィンアンテナ
プロパイロット：無し
プロパイロット2.0：有り

プロパイロットに関する注意事項

● **プロパイロットは自動で運転する装置ではありません。また、脇見運転やぼんやり運転などの前方不注意での運転操作を補助するものではありません。**
運転者はシステムを過信せず、常に周囲に注意し、道路・交通・自車両の状況に応じて確実にハンドル、アクセルペダル、ブレーキペダルを操作して、安全な運転を行う責任があります。

● **プロパイロットは高速道路や自動車専用道路の直線や緩やかなカーブでの使用を想定して設計されています。**
一般道での使用は思わぬ事故につながるおそれがあるため使用しないでください。

● **プロパイロットは同一方向に走行する車両を検出し、車間距離を保つようアクセル、ブレーキを制御します。**
対向車両、前方を横切る車両、車線外（路肩など）にいる車両、歩行者、自転車、工事用のパイロン、落下物などの車両以外のものに反応しません。

● **プロパイロットは車線中央付近を走行するようにステアリングを制御します。側方から車両が近づいてきても反応しません。**
交通法規を遵守する責任は運転者にあります。走行している地域や道路の交通法規を遵守し、安全な走行を行ってください。

● **プロパイロットの性能には限界があるため、システムだけに頼った運転はせず、常に安全運転を心がけてください。**
自車の前への急な割り込みや先行車が急ブレーキをかけたとき、急なカーブを走行するとき、悪天候などでは、適切な減速や操舵制御が行えず先行車に接近したり、レーンマーカーに近づいたりすることがあります。先行車との車間距離、自車の車線内の位置、周囲の状況に応じて自らアクセルペダル、ブレーキペダル、ハンドルを操作し、常に安全運転を心がけてください。
レーンマーカーとは、走行車線の右側もしくは、左側に引かれた線のことを示します。

- **プロパイロットを解除せずに降車しないでください。**
  車両を停止し続ける能力をもっていません。降車する場合は<プロパイロットスイッチ>を押してシステムをOFFにし、シフトポジションをPに切り替え、電動パーキングブレーキを作動させてください。
- **次のような状況では適切な制御ができず、思わぬ事故につながるおそれがあるため使用しないでください。**
  - 凍結路や積雪路など滑りやすい路面を走行しているとき
  - 悪天候（雨、雪、霧など）のとき
  - 急カーブや曲がりくねった道を走行しているとき
  - 急な上り坂、下り坂を走行しているとき
  - 頻繁な加減速により、車間距離が保ちにくい交通状況のとき
  - 料金所を通るとき
  - タイヤの空気圧が適正ではないとき
  - 摩耗しているタイヤ、日産純正品もしくは日産販売会社で購入したタイヤ以外を使用しているときや、タイヤチェーンを装着しているとき
  - 純正品以外のブレーキ部品やサスペンション部品を使用しているとき
  - レーダー部に雪、氷、泥などの付着物があるとき
  - マルチセンシングフロントカメラおよびその前方のフロントガラスに汚れ、油膜、水滴、氷、雪、泥などの付着物があるとき
  - マルチセンシングフロントカメラおよび、その前方のフロントガラスにくもりや結露があるとき
  - レーダー、カメラ、ソナー、GPSアンテナ★の機能を妨げるものを取り付けたとき
  - 極端に重い荷物を積んでいるとき
  - けん引されているとき
- メーカーオプションナビゲーションシステム★の地図が古い場合は、プロパイロットの機能が正しく作動しない場合があります。
  プロパイロットを使用するときはあらかじめ地図の更新をするなど常に最新の地図を使用してください。
  メーカーオプションナビゲーションシステムの地図更新についてはナビゲーションシステム取扱説明書をお読みください。

プロパイロットの機能

プロパイロットには次の機能があります。プロパイロットとプロパイロット2.0の識別については、システムの見分けかた（➔P.229）をお読みください。

機能名	概要説明	参照先
車速・車間制御機能	● 先行車を検出していないときは、運転者が設定した車速を維持するように制御します。 ● 先行車を検出しているときは、運転者が設定した車速を上限に、車速に応じた車間距離を保つように制御します。	➔P.245
ルート減速支援機能★	● 地図データを利用して、カーブ・出口などの道路形状に合わせて車速を調節します。	➔P.247
制限速度支援機能★	● 標識検知機能により検出した速度を、自動または手動で設定車速に反映することができます。	➔P.248
車線維持機能（ハンドル支援）	● 車線中央付近を走行するようにステアリングを制御し、運転者のハンドル操作を支援します。 ● 運転者が常に前方に注意し、道路・交通・自車の状況に応じ、ただちにハンドルを確実に操作できる状態にある限りにおいて、ハンドルから手を離すことが可能となります。（プロパイロット2.0付車）	➔P.249 ➔P.251
車線変更支援機能	● 運転者が方向指示器を作動させると、ステアリングと方向指示器を制御し、車線変更に必要なハンドル操作を支援します。（プロパイロット2.0付車）	➔P.257
追い越し支援機能	● 設定車速よりも遅い車両を前方に検出すると、運転者に追い越しを提案します。運転者が＜車線変更支援スイッチ＞を押すと、ステアリングと方向指示器を制御し、追い越し操作を支援します。（プロパイロット2.0付車）	➔P.260
ルート走行支援機能	● 運転者がナビゲーションシステムで目的地を設定している場合、ナビゲーションのルートに従って走行するために必要な車線変更地点に到達すると、運転者に車線変更を提案します。運転者が＜車線変更支援スイッチ＞を押すと、ステアリングと方向指示器を制御し、車線変更操作を支援します。（プロパイロット2.0付車）	➔P.264

プロパイロット2.0特有機能は3D高精度地図データを使用しています。機能をご利用になるには、別途契約が必要です。

➔3D高精度地図データについて（プロパイロット2.0付車）（P.272）

システム構成

⚠ 警告

- **プロパイロットは次のような障害物には反応しません。**
  - 歩行者、動物など
  - 落下物
  - 工事などで設置されるパイロンなど
  - 特殊な形状をした車両
- **次のような状況では先行車の検出が遅れる、または検出ができないことがあります。運転者は常に前方の状況に注意し、必要に応じてブレーキペダルやハンドルを操作してください。**
  - 前方に急な割り込みがあったとき
  - 停止車両など自車速よりも極端に遅い車両がいたとき
  - 見通しの悪いカーブを走行しているとき
  - 前方に車線の端を走行する二輪車がいるとき
  - 先行車や他車線の車両が路上の水や雪などを巻き上げて走行しているとき
  - 急な上り坂、下り坂が繰り返される道を走行しているとき
  - 後席やラゲッジルームに極端に重い荷物を積んだとき
  - 悪天候のとき（雨、霧、雪など）
- **次のような状況では正しくレーンマーカーの検出ができず車線変更支援機能（ハンドル支援）、車線維持機能が使用できないことがあります。**
  - レーンマーカーが消えかかっている、汚れているなど不明瞭なとき
  - レーンマーカーが路面の色と似ており見えにくいとき
  - レーンマーカーが多重に描かれているとき
  - 消されたレーンマーカーが、まだ薄く残っているとき
  - 工事などによる車線規制や仮設のレーンマーカーがあるとき
  - 料金所や交差点手前などでレーンマーカーが大きく変化しているとき
  - 車線幅が極端に狭いときや広いとき、または変化しているとき
  - 停止禁止部分、または立ち入り禁止部分がある道を走行しているとき
  - 出口路、分岐路など車線数が増えるとき
  - 濡れているまたは水たまりのある路面を走行しているとき
  - 道路構造物、街路樹、建物などの影が差している路面を走行しているとき
  - 悪天候（雨、雪、霧、風塵、砂塵、吹雪など）で視界が悪いとき
  - 先行車や他車線の車両が路上の水や雪などを巻き上げて走行しているとき
  - 前方から強い光（太陽光や対向車両のハイビームなど）を受けているとき
  - 夜間やトンネル内などでヘッドランプを点灯していない、あるいはヘッドランプのレンズが極端に汚れているとき
  - トンネルの出入り口や日陰など急に明るさの変化が起こったとき
  - 急な上り坂、下り坂が繰り返される道を走行しているとき
  - 後席やラゲッジルームに極端に重い荷物を積んでいるとき
- **次のような状況では隣の車線の車両の検出が遅れる、または検出ができないことがあります。運転者は常に周囲の状況に注意し、必要に応じてハンドルを操作してください。**
  - 背の低い車両や、オートバイなどの幅の狭い車両が走行しているとき
  - 後方から速い速度で接近してくる車両が走行しているとき
  - 後方から近づいてくる車両が車線変更などにより隣の車線に移動したとき

警告

- 自車や周囲の車両が路上の水や雪などを巻き上げて走行しているとき
- 急な上り坂、下り坂が繰り返される道を走行しているとき
- 後席やラゲッジルームに極端に重い荷物を積んだとき
- 悪天候のとき（雨、霧、雪など）

● **次のような場合、ドライバーモニターシステム★が運転者を適切に検出できないことがあります。**

- 車室内へ太陽光が入り込み、ドライバーモニターカメラまたは、運転者が照らされているとき
- 太陽光の入り込みと影になることが繰り返すとき
- サングラス、マスク、眼帯、帽子、マフラーなどを着用している場合など目、鼻、口や顔の輪郭が隠れているとき
- 顔とシステムとの間に遮る物があるとき
- ドライバーモニターカメラに触れ、汚れや指紋が付着したとき
- 助手席や後席シートの方が運転席付近に身を乗り出したときなど、運転席付近に2つ以上の顔が存在するとき
- 前方からの太陽光の眩しさなどで目を細めたり、運転姿勢をくずしていたりしているとき

● **フロントレーダー、サイドレーダーの汚れを自動的に判定する機能を備えておりますが万全ではありません。**

状況によってはレーダーが汚れていても判定できない場合があります。また雪、氷などが付着したときも判定できない場合があります。

このような状況では適切な作動ができなくなるおそれがあるため、常に周囲に注意して走行してください。またフロントレーダー、サイドレーダーおよびその周辺はいつもきれいにしておいてください。

➔ レーダーセンサーの取り扱い (P.475)

● **フロントカメラの汚れを自動的に判定する機能を備えておりますが万全ではありません。**

状況によってはフロントカメラが汚れていても判定できない場合があります。また雪、氷などが付着したときも判定できない場合があります。

このような状況では適切な作動ができなくなるおそれがあるため、常に前方に注意して走行してください。またフロントカメラおよびその周辺はいつもきれいにしておいてください。

➔ マルチセンシングフロントカメラの取り扱い (P.475)

● **ドライバーモニターカメラ★の汚れを自動的に判定する機能を備えておりますが万全ではありません。**

状況によってはドライバーモニターカメラが汚れていても判定できない場合があります。またドライバーモニターカメラに触れ、汚れや指紋が付着したときも判定できない場合があります。このような状況では適切な作動ができなくなるおそれがありますので、常に前方に注意して走行してください。またドライバーモニターカメラおよびその周辺はいつもきれいにしておいてください。

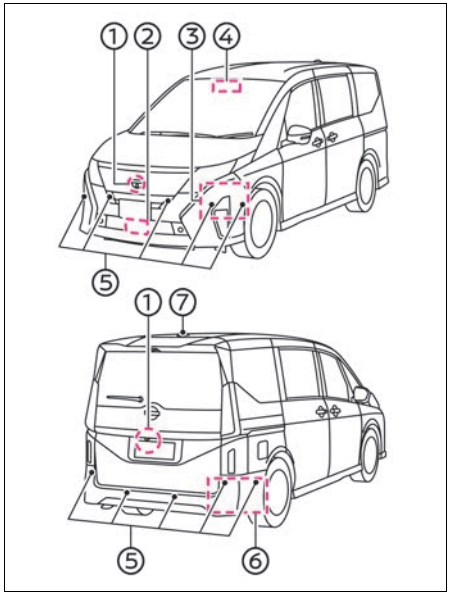
➔ ドライバーモニターカメラの取り扱い (P.314)

アドバイス

● プロパイロットを正しく作動させるために、カメラ前方のフロントガラス、レーダーセンサーおよびソナーセンサー周辺のお手入れを行ってください。

➔ 外装のお手入れ (P.473)

プロパイロットは次のような部品で構成されています。



① **インテリジェント アラウンドビューモニターカメラ★**
隣車線の自動二輪車を検知（サイドレーダーセンサーを補助）

② **フロントレーダーセンサー**
前方の車両を検知し、インテリジェント クルーズコントロールに使用

③ **サイドレーダーセンサー（フロント）（プロパイロット2.0付車）**
隣車線の他車両の有無を検知

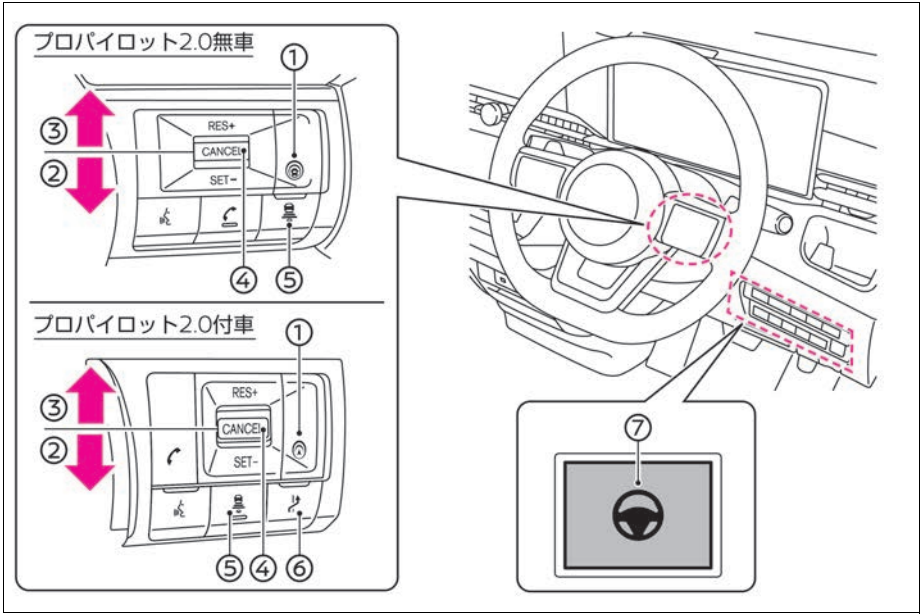
④ **マルチセンシングフロントカメラ**
隣車線の他車両の有無、および車線のレーンマーカーを検知し、ステアリングアシストに使用

⑤ **ソナーセンサー**
側面と後部の車両を検知

⑥ **サイドレーダーセンサー（リヤ）**
隣車線の後方から接近してくる他車両を検知（例：死角）

⑦ **シャークフィンアンテナ（プロパイロット2.0付車）**
衛星システムからの測位情報を受信

プロパイロットに関連するスイッチ



① **プロパイロットスイッチ**
プロパイロットのON・OFFができます。

② **SET-操作（下押し）**
＜SET-＞方向に押したときの車速でプロパイロットを開始できます。
設定車速を下げることができます。

③ **RES+操作（上押し）**
設定車速を上げることができます。
プロパイロットを解除後、解除前の設定車速で再び開始することができます。

④ **CANCELスイッチ**
プロパイロットの解除ができます。

⑤ **車間設定スイッチ**
車間距離を「長」「中」「短」の3段階に切り替えることができます。

⑥ **車線変更支援スイッチ（プロパイロット2.0付車）**
プロパイロット2.0が車線変更を運転者に提案したとき、車線変更の支援を開始できます。

⑦ **ハンドル支援スイッチ**
車線維持機能（ハンドル支援）のON・OFFができます。

- ＜プロパイロットスイッチ＞を押すと、インテリジェントBSI（後側方衝突防止支援システム）、インテリジェントLI（車線逸脱防止支援システム）のON・OFFも連動します。

プロパイロットの使いかた

1. ＜プロパイロットスイッチ＞を押します。（1.5秒未満）

- プロパイロットがONになります。
- アドバンスドドライブアシストディスプレイにプロパイロットの状態が表示されます。（➔P.238または➔P.241）

知識

- ＜プロパイロットスイッチ＞を1.5秒以上押し続けると定速制御機能に切り替わり、車線維持機能（ハンドル支援）を行いません。

☆／★：車両型式、オプションなどで異なる装備

2. ＜SET-＞方向に押したときの車速でプロパイロットを開始します。

● 先行車を検出していない場合、運転者が設定した車速を維持するように制御します。または、制限速度支援機能★（➔P.248）やルート減速支援機能★（➔P.247）により車速が制御されます。

■ 車間距離設定のしかた

⚠ 警告

● **プロパイロットは脇見運転やぼんやり運転などの前方不注意での運転操作を補助するものではありません。**

先行車との車間距離、車線内の位置、周囲の状況に応じてアクセルペダル、ブレーキペダル、ハンドルを操作するなどして、常に安全運転を心がけてください。

＜車間設定スイッチ＞を押すと、車間距離を設定できます。車両アイコン下のバーの本数で設定を表示します。

アイコン下のバーの本数	車間距離
3本	長
2本	中
1本	短

● 車間設定は、e-POWERシステムを停止しても再度設定を変更するまでその状態が維持されます。

■ 設定車速の変更のしかた

加速したいとき：

● 設定車速を上げたいときは、＜RES+＞方向に押します。

減速したいとき：

● 設定車速を下げたいときは、＜SET-＞方向に押します。

設定車速は5km/hきざみで変更できます。スイッチを押し続けると設定車速が5km/hずつ連続して変わります。希望の速度でスイッチを離してください。

■ 一時的に加速、減速をしたいとき

⚠ 警告

● **アクセルペダルを操作して加速しているときは、ブレーキ制御、接近警報を行いません。**

通常、車間制御中は先行車の速度に合わせて自動的に加速、減速を行います。車線変更などで加速が必要なときや、先行車が急減速したり、他車が割り込むなどして先行車に接近しそうになったときなどはアクセルペダル、またはブレーキペダルを踏んで周囲の状況に応じた適切な加速、減速を行ってください。

● ハンドルを持ってアクセルペダルを踏むと加速します。

● アクセルペダルを踏んで加速したときなど、設定車速より実際の車速が高くなった場合は、設定車速表示が点滅します。

● アクセルペダルを離すと再び車速車間制御を行います。

● ブレーキペダルを踏むと減速します。（プロパイロットは解除されます）

● 解除前の設定車速で再び開始したいときは、＜RES+＞方向に押します。

■ 車線維持機能（ハンドル支援）のON・OFFのしかた

スイッチでのON・OFFのしかた

● ＜ハンドル支援スイッチ＞を押すごとに車線維持機能（ハンドル支援）のON・OFFを切り替えることができます。

メーターでのON・OFFの設定

● アドバンスドドライブアシストディスプレイで設定［ ⚙ ］⇒［運転支援］⇒［車線維持支援］⇒［ハンドル支援］（メータータイプ(A)）または設定［ ⚙ ］⇒［運転支援］⇒［ハンドル支援］（メータータイプ(B)）を選択すると、車線維持機能（ハンドル支援）のON・OFFを切り替えることができます。

● 車線維持機能（ハンドル支援）のON・OFF設定はe-POWERシステムを停止しても再度設定が変更されるまで、その状態を維持します。

■ プロパイロットの解除のしかた

⚠ 警告

● **プロパイロットをOFFにせずに降車しないでください。**

⚠ 警告

降車する場合は＜プロパイロットスイッチ＞を押してシステムをOFFにし、電動パーキングブレーキを作動させ、シフトポジションをPにしてください。

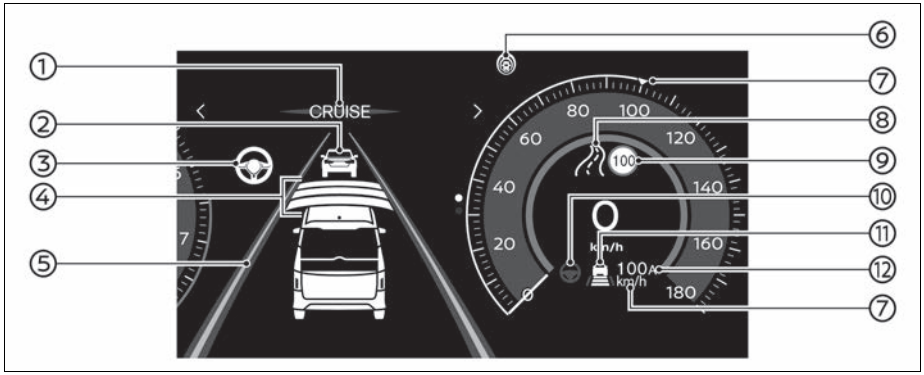
次のいずれかの操作でプロパイロットが解除されます。

- ＜CANCEL＞スイッチを押す
- ブレーキペダルを踏む（車速・車間制御機能により、自車が停止しているときを除く）
  解除前の設定車速で再び開始したいときは、＜RES＋＞方向に押します。
  車速・車間制御機能により自車が停止しているとき、システムを解除すると電動パーキングブレーキが作動します。

アドバンスドドライブアシストディスプレイ表示（メーカーオプションナビゲーションシステム装着車）

プロパイロットが作動すると、画面が自動的にプロパイロット画面に切り替わります。この機能を停止するには、アドバンスドドライブアシストディスプレイで次の操作をし、設定をOFFにしてください。設定［ ⚙ ］ ⇒［画面カスタマイズ］⇒［クルーズ画面切替］

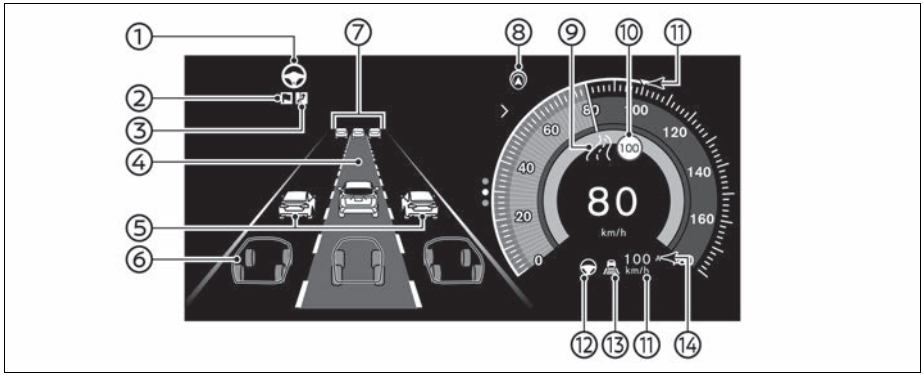
プロパイロット（ナビリンク機能付車）



メーター表示項目		表示内容	
①	プロパイロット作動状態	プロパイロット作動中は青色に点灯	
②	先行車検出の有無	車両アイコン非表示⇒先行車検出無し	車両アイコン表示⇒先行車検出有り
③⑤	ハンドル支援の作動状態	灰色⇒ハンドル支援待機中	緑色⇒ハンドル支援中
④	車間設定表示	車間設定状態を表示	
⑥	プロパイロットの作動状態	白色⇒プロパイロットON	青色⇒プロパイロット作動開始
⑦	設定車速表示	設定車速を表示	
⑧	ルート減速支援表示	ルート減速作動時に表示	
⑨	標識検知表示	標識検知機能で検出した最高速度標識を表示	

メーター表示項目		表示内容	
⑩	ハンドル支援作動灯／警告灯	灰色⇒ハンドル支援待機中	黄色⇒車線維持機能（ハンドル支援）が故障状態
		赤色⇒ハンドルを離している状態（手放し警報のみ）	緑色⇒ハンドル支援中
⑪	車速・車間制御作動状態	車両アイコン非表示⇒先行車検出無し（定速制御中）	車両アイコン表示⇒先行車検出有り（定車間制御中）
		車間距離の設定状況を表示	
		レーンマーカーアイコン灰色⇒ハンドル支援待機中	レーンマーカーアイコン緑色⇒ハンドル支援中
⑫	制限速度支援表示	A：オートモード（自動）の作動状態 ↑：マニュアルモード時、検出した最高速度標識が設定速度より高い ↓：マニュアルモード時、検出した最高速度標識が設定速度より低い	

プロパイロット2.0



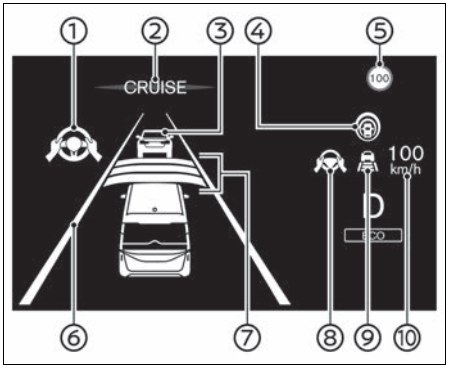
メーター表示項目		表示内容		
①⑫	ハンドル支援作動灯	白色⇒ハンドル支援待機中	緑色⇒ハンドル支援中	青色⇒ハンドル支援中 （ハンズオフモード）
②	ルート走行支援作動灯	灰色⇒ルート走行支援待機中	緑色⇒ルート走行支援中	青色⇒ルート走行支援可能状態
③	車線変更支援作動灯	灰色⇒車線変更支援待機中	緑色⇒車線変更支援中	青色⇒車線変更支援可能状態
④	ルート走行支援作動表示	緑色⇒ルート走行支援中	青色⇒ルート走行支援可能状態	
⑤	側方注意表示	自車側方の車両を注意喚起		
⑥	周辺車両検出表示	検出した周辺車両を表示		
⑦	先行車検出表示	検出した先行車両を表示		
⑧	プロパイロット作動灯	プロパイロットONのときに表示 （ハンドル支援の状態に応じて、白色、緑色、青色に切り替わります）		
⑨	ルート減速支援表示	ルート減速作動時に表示		
⑩	標識検知表示	標識検知機能で検出した最高速度標識を表示		
⑪	設定車速表示	設定車速を表示		

メーター表示項目		表示内容	
⑬	車速・車間制御作動灯	車両アイコン非表示⇒定速制御中	車両アイコン表示⇒定車間制御中
		車間距離の設定状況を表示	
⑭	制限速度支援表示	A：オートモード（自動）の作動状態 ↑：検出した最高速度標識が現在走行している速度よりも高い場合に表示 ↓：検出した最高速度標識が現在走行している速度よりも低い場合に表示	

プロパイロット2.0表示は、ヘッドアップディスプレイにも表示されます。（プロパイロット2.0付車）（➔P.120）

アドバンスドドライブアシストディスプレイ表示（メーカーオプションナビゲーションシステム非装着車）

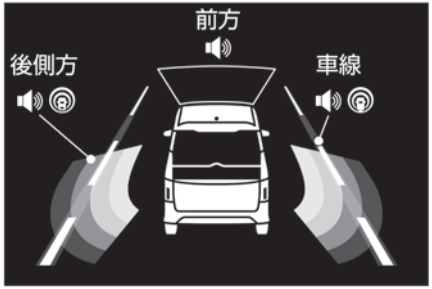
プロパイロット（ナビリンク機能無車）



メーター表示項目		表示内容	
①⑥	ハンドル支援の作動状態	灰色⇒ハンドル支援待機中	緑色⇒ハンドル支援中
②	プロパイロット作動状態	プロパイロット作動中は青色に点灯	
③	先行車検出の有無	車両アイコン非表示⇒先行車検出無し	車両アイコン表示⇒先行車検出有り

メーター表示項目		表示内容	
④	プロパイロットの作動状態	白色⇒プロパイロットON	青色⇒プロパイロット作動開始
⑤	標識検知表示	標識検知機能で検出した最高速度標識を表示	
⑦	車間設定表示	車間設定状態を表示	
⑧	ハンドル支援作動灯／警告灯	灰色⇒ハンドル支援待機中	黄色⇒車線維持機能（ハンドル支援）が故障状態
		赤色⇒ハンドルを離している状態（手放し警報のみ）	緑色⇒ハンドル支援中
⑨	車速・車間制御作動状態	車両アイコン非表示⇒先行車検出無し（定速制御中）	車両アイコン表示⇒先行車検出有り（定車間制御中）
		車間距離の設定状況を表示	
		レーンマーカーアイコン灰色⇒ハンドル支援待機中	レーンマーカーアイコン緑色⇒ハンドル支援中
⑩	設定車速表示	設定車速を表示	

運転支援ステータス画面



プロパイロットを起動したあと、車速を設定する前に運転支援ステータス画面が表示されます。画面は、後側方、前方運転支援、および側方運転支援のステータスを表示します。運転支援設定で選択されている場合、＜プロパイロットスイッチ＞を押すと、システムも作動状態になります。

- 運転支援ステータスを変更するには、アドバンスドドライブアシストディスプレイで次のようにメニューを選択し、設定を変更してください。（➔P.226）
  設定［ ⚙ ］ ⇒［運転支援］

運転支援機能をONに設定している場合の表示

範囲	運転支援機能名称	機能	表示
前方	インテリジェント エマージェンシーブレーキ	支援	[🔊]
	衝突回避ステアリングアシスト		
	インテリジェント FCW（前方衝突予測警報）	警報	
車線	LDW（車線逸脱警報）	警報	[🔊]
	インテリジェント LI（車線逸脱防止支援システム）	支援	[◎]
後側方	BSW（後側方車両検知警報）	警報	[🔊]
	インテリジェント BSI（後側方衝突防止支援システム）	支援	[◎]

［🔊］：警報機能がONになっている場合に表示

［◎］：支援機能がONになっている場合に表示

［OFF］：どの機能もONになっていない場合に表示

プロパイロット 2.0 ★モード

プロパイロット2.0は作動状態を表示色とハンドル支援作動表示で表示します。
条件が満たされると、システムは自動的に利用可能なモードに移行します。
次の表に使用可能なシステムモードと必要な条件を示します。

モード	作動状態と条件
表示無し	● システムは作動していないため、起動する必要があります。 ● 運転者が車両を操作します。
灰色 – 待機状態	● システムは作動していないため、作動させる必要があります。 ● 運転者が車両を操作します。
白色	● 車速・車間制御機能が作動します。 ● 運転者がハンドルを操作します。
緑色	● 車速・車間制御機能、車線維持機能（ハンドル支援）が作動します。 ● 両側のレーンマーカーが検知されています。 ● 運転者は必ずハンドルを持ち、安全運転を心がけてください。
青色 （ハンズオフモード）	● 車速・車間制御機能、車線維持機能（ハンドル支援）が作動します。 ● 運転者が常に前方に注意し、道路・交通・自車の状況に応じ、ただちにハンドルを確実に操作できる状態にある限りにおいて、ハンドルから手を離すことが可能となります。 ● 高速道路や自動車専用道路を走行していることを3D高精度地図データで確認しています。

● 3D高精度地図のデータ処理には、オープンソースを使用したソフトウェア（OSS）および、アルゴリズムが含まれています。
次のwebサイトにライセンス情報が記載されています。
http://www.embedded-carmultimedia.jp/RTOS/License/oss/HDL_0101/
http://www.embedded-carmultimedia.jp/RTOS/License/oss/HDL_0102/
http://www.embedded-carmultimedia.jp/RTOS/License/oss/HDL_0111/

● 3D高精度地図データのライセンス情報は次のwebサイトに記載されています。
http://www.embedded-carmultimedia.jp/RTOS/License/map/HDL_0111/

車速・車間制御機能（インテリジェント クルーズコントロール）

インテリジェント クルーズコントロールは、プロパイロットの機能の一部です。このシステムを使用する前に、システムの操作方法（➔P.235）やディスプレイの理解（➔P.238または➔P.241）を含め、プロパイロット全体（➔P.229）をお読みください。

インテリジェント クルーズコントロールは、フロントレーダーセンサーを使用して制御します。

- 先行車を検出していない場合は運転者が設定した車速で定速走行します。
- 先行車を検出しているときは、運転者がセットした車速（約30km/h以上）を上限に、車速に応じた車間距離を保つように車間制御を行い走行します。先行車が停止したときは、先行車に続いて自車も停止します。一度停止すると、インテリジェント クルーズコントロールは停止した状態を保持します。
- 先行車がいなくなると設定車速まで加速します。
- 設定車速は設定車速表示を確認しながら変更してください。
- インテリジェント クルーズコントロールの制御によりブレーキが作動した場合は、自車の制動灯が点灯します。

インテリジェント クルーズコントロールは、車両ブレーキ力の最大40%しか適用しないため、車速を一定に保ちやすい交通状況で使用してください。

アクセルペダルを操作して加速しているときは、ブレーキ制御、接近警報を行いません。

車速・車間制御の自動解除

次の場合は、警告音とともに車速・車間制御機能が自動的に解除されます。

- 先行車を検出していないときに、車速が約25km/hを下回ったとき
- 高速道路や自動車専用道路など限定された道路を走行しているときは、停止保持中に先行車を検出しなくなったとき（メーカーオプションナビゲーションシステム装着車）
- 運転席、助手席、後席のいずれかのドアを開けたとき
- 運転席のシートベルトを外したとき
- 車速・車間制御機能により自車が停止後、約3分が経過したとき
- シフトポジションをDまたはB以外にしたとき
- ドライブモードをSNOWにしたとき（e-4ORCE（4WD）車）
- 電動パーキングブレーキをかけたとき
- VDCをOFFにしたとき
- VDCが作動したとき
- タイヤが空転したとき
- 周辺の電波源の影響を受けているとき
- 周辺の電波源や環境による反射などにより、一時的に電波を受信できなかったとき
- レーダーセンサーが汚れているとき

次の場合は、プロパイロットの制御を開始することができません。（設定車速表示が約2秒間点滅します）

- 運転席、助手席、後席、またはバックドアのいずれかのドアが開いているとき
- 運転席のシートベルトを着用していないとき
- 車速が約30km/hを下回っていて、先行車を検出していないとき
- シフトポジションがDまたはB以外のとき
- ドライブモードをSNOWにしたとき（e-4ORCE（4WD）車）
- 電動パーキングブレーキが作動しているとき
- ブレーキペダルを踏んでいるとき
- VDCをOFFにしたとき
- VDC／TCSが作動したとき
- タイヤが空転したとき

システム作動

⚠ 警告

- **運転者は周囲の状況に注意し、必要に応じてブレーキペダルを操作してください。**

  車速・車間制御機能で停止したあと、前方に車両が割り込んできた場合、位置や車両の向きによっては検出することができず、先行車が発進すると自車も動き出し割り込んできた車両に接近するおそれがあります。

インテリジェント クルーズコントロールは、次の2つのモードのいずれかに設定できます。

- 定速制御機能（➔P.276）
- 車速・車間制御機能（➔P.245）
- 車線維持機能（ハンドル支援）は定速制御機能では使用できません。ハンドル支援なしで車速・車間制御機能を使用するには、<ハンドル支援スイッチ>または設定メニューで車線維持機能（ハンドル支援）をOFFにします。詳細については、➔車線維持機能（ハンドル支援）のON・OFFのしかた（P.250）を参照してください。

知識

- インテリジェント クルーズコントロールで自車が停止したとき、停止した状態を保持するまでは周囲に注意してください。

■ 先行車を検出していないとき

先行車がいないときは、運転者が設定した車速を維持するように制御します。

先行車がいなくなると先行車検出表示と車速制御作動灯が消灯し、運転者が設定した車速まで加速します。

知識

- 設定車速までは機能の制御によって加速しますが、すばやく加速したいときはアクセルペダルを踏んで加速してください。
- 先行車を検出していない場合、車速が約25km/h以下になると、インテリジェント クルーズコントロールは解除されます。
- 高速道路や自動車専用道路など限定された道路を走行している場合は、停止保持中に先行車を検出しなくなると、インテリジェント クルーズコントロールは解除されます。（メーカーオプションナビゲーションシステム装着車）

■ 先行車を検出しているとき

先行車検出表示と車速制御作動灯が点灯し、運転者が設定した車速を上限に、車速に応じた車間距離を保つように制御します。

■ 先行車が停止したとき（メーカーオプションナビゲーションシステム装着車）

- インテリジェント クルーズコントロールで走行中に先行車が停止したときは、先行車に続いて自車も停止します。一度停止すると、インテリジェント クルーズコントロールは停止した状態を保持します。
（停止した状態を保持しているときは、［前の車に続いて発進します］と表示され、先行車検出表示と車速制御作動灯が点滅します）
高速道路や自動車専用道路など限定された道路を走行中に先行車が停止したときは、先行車に続いて自車も停止します。その後、先行車が約30秒の間に発進すると追従走行を再開します。
- 約30秒を超えて停止した場合、［RES+で発進します］とメッセージが表示され、停止した状態を保持します。

■ 先行車が停止したとき（メーカーオプションナビゲーションシステム非装着車）

- インテリジェント クルーズコントロールで走行中に先行車が停止したときは、先行車に続いて自車も停止します。一度停止すると、インテリジェント クルーズコントロールは停止した状態を保持します。（停止した状態を保持しているときは、［RES+で発進します］と表示されます）

■ 先行車が発進したとき

- インテリジェント クルーズコントロールで停止状態を保持しているときに先行車が発進したときは、<RES+>方向に押すか、アクセルペダルを踏むと停止状態は解除され、再びインテリジェント クルーズコントロールによる追従走行を開始します。
- 車両停止保持状態のときに、<RES+>方向に押すと、約3秒間は発進待機状態になります。

割り込み検知

自車に近い位置に他車が割り込んできたときは、"ポーン" という音とともに先行車検出表示が点滅し、運転者にお知らせします。

接近警報

- 車間制御中に先行車の減速度合いが大きい場合や他車の割り込みなどによって、十分な減速ができない状態で先行車に接近したときは、ブザーとアドバンスドドライブアシストディスプレイの表示によって運転者に注意を促します。この場合は、ブレーキペダルを踏んで減速し、適切な車間距離を確保してください。
- 先行車に接近し、車間距離が十分でないと判断されるときはブザーが“ピッ、ピッ、ピッ、ピッ…”と鳴り、アドバンスドドライブアシストディスプレイの先行車検出表示および接近警報表示が点滅します。
- 短い車間距離でも、次の場合には接近警報が作動しないことがあります。
  - 先行車とほぼ同じ速度で走っているとき
  - 先行車の方が自車より速いとき（車間距離が次第に離れていくとき）
  - 他車が至近距離に割り込んできたとき

追い越し時加速機能

- 設定車速が70km/h以上で車速・車間制御中、先行車が設定車速以下のとき、方向指示器を右折側に操作すると、車両が加速し先行車を追い越す準備を始めます。
- 運転者がハンドルを操作し、追い越すために車線を変更したときに先行車を検出した場合は、運転者が設定した車速に応じた車間距離を保つように車間制御を行い走行します。先行車を検出しなかった場合は運転者が設定した車速で定速走行します。
- 方向指示器を右折側に操作し、車両が加速しているときに先行車との距離が近づきすぎると加速は停止し、設定してある車間距離に戻ります。
- 次の場合は追い越し時加速機能が解除されます。
  - ブレーキペダルを踏んだとき
  - ＜CANCEL＞スイッチを押したとき

ルート減速支援機能★

ルート減速支援機能は、メーカーオプションナビゲーションシステム装着車のプロパイロットの機能です。このシステムを使用する前に、プロパイロット全体（➔P.229）と標識検知機能（➔P.309）をお読みください。

⚠ 警告

- **ルート減速支援機能の性能には限界があります。**

  ルート減速支援機能は、すべての走行状況、交通環境、天候、路面状況で作動するわけではありません。運転者は周囲の状況に応じて自らアクセルペダル、ブレーキペダル、ハンドルを操作し、常に安全運転を心がけてください。

- **ルート減速支援機能は、車両のブレーキにより走行を止める機能ではありません。**

  減速が必要なときは必ず運転者が自ら適切なブレーキ操作を行ってください。

- **運転者は走行している道路の制限速度を確認し、設定車速を適切に設定し、安全運転を心がけてください。**
- **次のような状況では、ルート減速支援機能が適切に作動しない場合があります。**

  路面状況や交通環境に応じてアクセルペダル、またはブレーキペダルを踏んで周囲の状況に応じた適切な加速、減速を行ってください。

  - ナビゲーションシステムの地図データが最新ではない、または利用できないとき
  - ナビゲーションシステムが推奨するルートを走行していないとき
  - ナビゲーションシステムが新しいルートを探索しているとき
  - ナビゲーションシステムの位置検出が正しく行えないとき
  - ナビゲーションシステムの地図にない道路を走行しているとき
  - 工事中の道路や車線規制がある道路を走行しているとき
  - 車線の分岐・合流のある道路、または交差点付近を走行しているとき
  - 悪天候のとき（雨、霧、雪、強風など）や、道路状況の悪い場所を走行しているとき

- アクセルペダルを踏み込んでいる場合、ルート減速支援機能を行いません。プロパイロットの車速・車間制御機能の設定や、先行車の検出状態によっては、システムが作動しない場合があります。
- 高速道路や自動車専用道路など限定された道路を走行中にナビゲーションシステムの地図データを利用して、カーブ・出口などの道路形状に合わせて車速を調節します。
- すべてのカーブまたは出口の速度を常に低下させるとは限らないため、必要に応じて運転者はいつでも適切なブレーキ操作を行ってください。
- 車両がカーブを通過すると、車両は再び設定速度まで加速します。高速道路出口で、運転者はブレーキをかける必要があります。
- ルート減速支援機能が作動しているとき、次のどちらかのアイコンが表示されます。

	カーブ
	出口

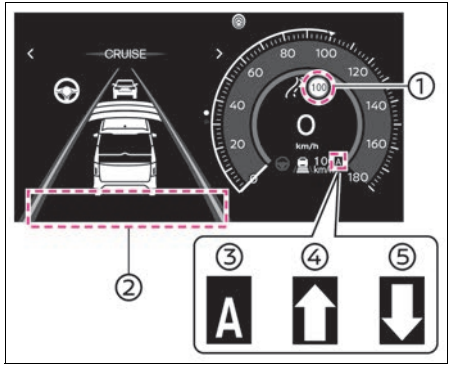
■ ルート減速支援機能のON・OFFのしかた

- アドバンスドドライブアシストディスプレイで設定［ ⚙ ］⇒［運転支援］⇒［インテリジェントクルーズ］⇒［ルート減速支援］を選択すると、ルート減速支援機能のON・OFFを切り替えることができます。
- ルート減速支援機能のON・OFF設定はe-POWERシステムを停止しても再度設定が変更されるまで、その状態を維持します。

制限速度支援機能★について

制限速度支援機能は、メーカーオプションナビゲーションシステム装着車のプロパイロットの機能です。このシステムを使用する前に、プロパイロット全体（➔P.229）と標識検知機能（➔P.309）をお読みください。

- 標識検知機能により、新しく最高速度標識を検出した場合、新しい速度を自動または、手動で設定車速に反映することができます。次の場合は作動を開始します。
  - 検出した制限速度が30km/h以上のとき
  - アドバンスドドライブアシストディスプレイで制限速度支援機能が［手動］、または［自動］に設定されているとき
- ＜RES+＞方向に押して、標識検知機能が検知している速度よりも高い速度に設定したあとは、より高い最高速度標識を検出しても最高速度標識が設定車速を超えない場合は反映しません。
- 標識検知機能により新しい最高速度標識を検出すると、最高速度標識検知表示が点灯します。



① 検知された新しい最高速度標識
② 制限速度支援ガイダンス
③ オートモード（自動）の作動状態
④ マニュアルモード時、検出した最高速度標識が設定速度より高い
⑤ マニュアルモード時、検出した最高速度標識が設定速度より低い

制限速度支援機能★の作動

⚠ 警告

- **次のような場合は、標識検知機能が最高速度標識を検出しても、設定車速に反映されない場合があります。**
  - 標識検知機能が適切に作動していないとき
  - システムをOFFに設定しているとき
  - ナビゲーションシステムの位置検出が正しく行えないとき

⚠ 警告

— ナビゲーションシステムの地図にない道路を走行しているとき

— 高速道路、または自動車専用道路の出口に近づいたとき

— 自車の路線と並行する路線があるとき（インターチェンジ、サービスエリア、パーキングエリアなど本線から出る路線）

— 自車の路線と並行する側道の両車線に最高速度標識が表示され、それぞれが異なる制限速度を検出しているとき

— 工事中の道路や車線規制がある道路を走行するとき

— ナビゲーションシステムとフロントカメラにより、ナビゲーションの道路種別と走行している道路の種別が一致しないと判定したとき

オートモード（自動）選択時

● 高速道路や自動車専用道路など限定された道路を走行しているときに、新しい最高速度標識を検出した場合、速度標識検知表示が点灯するとともに［設定車速を変更しました］と制限速度支援ガイダンスが表示され、新しい速度を設定車速に反映します。

マニュアルモード（手動）選択時

● 新しく最高速度標識が検出されると、［RES+で設定車速を変更します］、または［SET-で設定車速を変更します］と制限速度支援ガイダンスが表示されます。

● 反映させるには＜RES+＞、または＜SET-＞方向に押します。

● ＜RES+＞、または＜SET-＞方向に押さない場合、速度標識検知表示（［↑ ↓］）は約10秒後に消灯します。
（表示している矢印とは反対の＜RES+＞／＜SET-＞方向に押すと、速度標識検知表示（［↑ ↓］）はすぐに消灯します）

● 制限速度支援機能は、最高速度標識が検出されていない場合は作動しません。

■ モード設定のしかた

● アドバンスドドライブアシストディスプレイで設定［ ⚙ ］⇒［運転支援］⇒［インテリジェントクルーズ］⇒［制限速度支援］を選択すると、モードを設定できます。

設定	制限速度
自動	検出速度を自動的に反映
手動	検出速度の反映を選択
OFF	機能停止

● 標識検知機能で検出した速度を、プロパイロットの設定車速に反映させるときのオフセット速度を選択します。

— -10km/h～+10km/hまでの範囲内で速度を設定できます。

● 制限速度支援機能の設定はe-POWERシステムを停止しても再度設定が変更されるまで、その状態を維持します。

車線維持機能（ハンドル支援）について

⚠ 警告

● **車線中央付近を走行するようにステアリングを制御します。側方の車両が近づいてきても反応しません。**

● **手放し運転はしない。**

プロパイロット2.0★ で手を離して走行できるときを除き、必ずハンドルを持ち、安全運転を心がけてください。

車線維持機能（ハンドル支援）は、プロパイロットの機能の一部です。このシステムを使用する前に、システムの操作方法（➔P.235）やディスプレイの理解（➔P.238または➔P.241）を含め、プロパイロット全体（➔P.229）をお読みください。

● 車線維持機能（ハンドル支援）は、マルチセンシングフロントカメラを使用して、左右のレーンマーカーを検出し、車線中央付近を走行するようにステアリングを制御し、運転者のハンドル操作を支援します。

● レーンマーカーとは、走行車線の右側もしくは左側に引かれた線のことを示します。車線維持機能（ハンドル支援）は、車速・車間制御機能と組み合わせた場合にのみ利用できます。

● 次の条件を満たすとハンドル支援作動表示が緑色で点灯し、作動を開始します。

— 車速・車間制御機能が作動しているとき

— 両側のレーンマーカーを検出しているとき
— 車速が約50km/h以上のとき
— 車速が約50km/h以下で、先行車を検出しているとき
— 運転者がハンドルを持っているとき
— 車線の中央付近を走行しているとき
— 方向指示器が作動していないとき
— ワイパーが高速で作動していないとき
— 車線維持機能（ハンドル支援）がONのとき

●カーブまたは強い横風により、ハンドル支援中に走行車線の右側、もしくは左側のレーンマーカーに近づいたと判断すると、警報音とともにインテリジェントLI（車線逸脱防止支援システム）表示がオレンジ色に点滅します。
インテリジェントLI（車線逸脱防止支援システム）（➔P.298）

■ 車線維持機能（ハンドル支援）のON・OFFのしかた

●＜ハンドル支援スイッチ＞を押すごとにハンドル支援のON・OFFを切り替えることができます。

●アドバンスドドライブアシストディスプレイで設定［ ⚙ ］⇒［運転支援］⇒［車線維持支援］⇒［ハンドル支援］（メータータイプ(A)）または設定［ ⚙ ］⇒［運転支援］⇒［ハンドル支援］（メータータイプ(B)）を選択すると、車線維持機能（ハンドル支援）のON・OFFが切り替えられます。

●車線維持機能（ハンドル支援）のON・OFF設定はe-POWERシステムを停止しても再度設定が変更されるまで、その状態を維持します。

■ 車線維持機能（ハンドル支援）の解除

●次の場合は、音とともにハンドル支援作動表示が灰色になり、車線維持機能（ハンドル支援）が一時待機状態になります。（再び作動条件を満たすと作動を再開します）
— レーンマーカーを検出しなくなったとき
— 方向指示器を作動させたとき
— 前方から強い光を受けたとき
— カメラおよびカメラ周辺の温度が高いとき
— 運転者がハンドル操作をしたとき
— 車速が50km/h以下で、先行車を検知していないとき

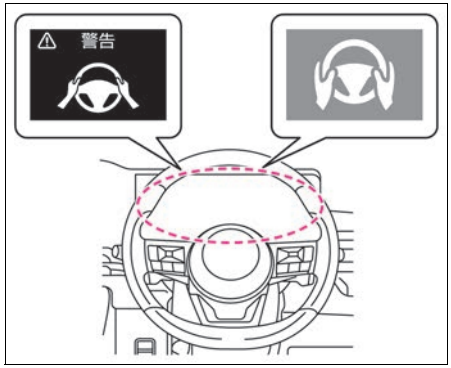
●次の場合は、音とともにハンドル支援作動表示が消灯し、車線維持機能（ハンドル支援）が解除されます。
— 車速・車間制御機能が解除されたとき
— ワイパーが高速で作動しているとき
— 雨、雪、霧または、カメラ前方のフロントガラスの凍結、汚れなどで、カメラの視界が確保できなくなったとき
— 料金所、出口、合流、交差点、車線数が減少する地点付近になったとき（プロパイロット2.0付車で、3D高精度地図データがある道路を走行しているとき）

●ワイパーの高速作動が不要になったら高速作動を解除し、その後、プロパイロットを再度セット、もしくは＜ハンドル支援スイッチ＞を押してください。

●高速道路や自動車専用道路など限定された道路を走行中、車速が約50km/h以下で先行車を検出しなくなった場合、両側の白線を検出しているときはハンドル支援を継続する場合があります。（メーカーオプションナビゲーションシステム装着車）

■ 手放し警告について

運転者がハンドルを持っていない、または操作していない場合、アドバンスドドライブアシストディスプレイに手放し警告が表示されます。



	概要および対処
一次警報	● ハンドルを持っていない、またはハンドルを操作していないときに表示します。 ● 運転者のハンドル操作を検出すると警告は消灯します。
二次警報	● 表示による警告後、運転者がハンドルを操作しないときに表示します。 — 音、表示（赤点滅）、および短時間のブレーキ制御で段階的に警告します。 ● 運転者のハンドル操作を検出すると警告は消灯します。
緊急停止	● 警告後、運転者のハンドル操作がない状態が継続したときに表示します。 — 緊急警報音が鳴るとともに車両を減速、緊急停止します。 ● 緊急警報音が作動し、自車が減速したとき、車速が約65km/hを下回ると非常点滅表示灯が自動で作動します。ハンドル操作をすると、非常点滅表示灯は自動で消灯します。 ● 車両を緊急停止させたあと、SOSコールサービスのオペレーターに接続し、オペレーターから公共機関（警察・消防・医療機関）に救援要請を行います。（SOSコールのシステムを利用するにはNissanConnect サービスの契約が必要です）

知識

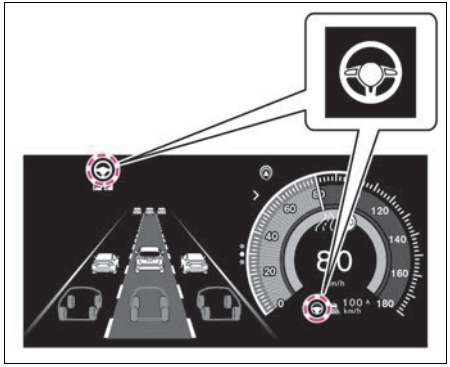
● 次のような状況ではハンドルを持っていることを正しく検出できず、ハンドルを持っていても警告が表示されることがあります。
— 運転者が手袋を着用しているとき
— ハンドルにカバーが取り付けられているとき
— 革の繋ぎ目やスポーク部などを握っているとき
— ハンドルに手を軽く添えて運転をしているとき

車線維持機能（ハンドル支援）（プロパイロット 2.0 付車）

アドバイス

● アドバンスドドライブアシストディスプレイに［一部のハンドル支援機能が作動できません］と表示された場合、ハンドル支援作動表示、プロパイロット2.0の表示は青色になりません。

➔ プロパイロット／プロパイロット2.0警告メッセージ（P.436）



3D高精度地図データのある高速道路、または自動車専用道路を走行しているとき、プロパイロット2.0の表示が青色になり、運転者が常に前方に注意し、道路・交通・自車の状況に応じ、ただちにハンドルを確実に操作できる状態にある限りにおいて、ハンドルから手を離すことが可能となります。

ただし、次の場合は青色で点灯しません。

● 標識検知機能が検出している速度を超えて走行しているとき
● GPS信号を受信していないとき
● 対向車線と分離されていない道路を走行するとき
● ワイパーが低速または高速で作動しているとき
● 運転者がハンドルを持っていない、または操作していないと判断しているとき
● 運転者が前方を向いていないとき
● アクセルペダルを踏んで加速しているとき

- 接近警報が作動しているとき
- 車線逸脱警報が作動しているとき
- カーブ減速機能が作動しているとき
- 近くに急カーブ、料金所、出口、合流、交差点、車線数が減少する地点があるとき
- トンネル内を走行しているとき
- 車線幅の狭い道路を走行しているとき
- 工事区など交通規制のある区間を検出したとき

知識

- 運転者のハンドル操作はいつでも優先されます。

車線維持機能（ハンドル支援）の解除（プロパイロット 2.0 付車）

次の場合は、音とともにプロパイロット2.0の表示が青色から緑色になり、［ハンドルを持ってください］と表示されます。

- 走行している道路が高速道路、または自動車専用道路ではなくなったとき
- 3D高精度地図データがない区間に近づいたとき
- 標識検知機能により検出された速度を超えたとき
- 急カーブ、料金所、出口、合流、交差点、車線数が減少する地点に近づいたとき
- 料金所のない高速道路、または自動車専用道路の出口に近づいたとき
- 対面通行区間に近づいたとき
- トンネル内を走行しているとき
- GPS信号が受信できなくなったとき
- 分合流が続く区間を走行しているとき
- 車線幅の狭い道路を走行しているとき
- 工事区間など交通規制のある区間を検出したとき
- 運転者を検出できなくなったとき
- 運転者が前方を向いていない状態が継続したとき
- ワイパーが低速で作動しているとき
- 接近警報が作動したとき

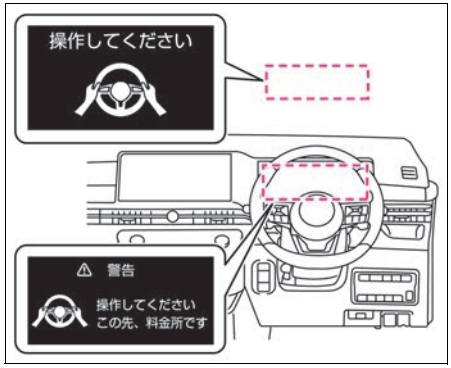
次の場合は、音とともにプロパイロット2.0の表示が青色から緑色になり、ハンドル操作を要求する画面（赤）が表示されます。

- 3D高精度地図データと実際の道路が異なっていると判断したとき
- 車線逸脱警報が作動したとき
- 左右いずれかのレーンマーカーに接近したとき
- 車線幅が通常よりも広い区間に近づいたとき

ハンドルを持ってアクセルペダルを踏むと、プロパイロット2.0の表示が青色から緑色になります。

アクセルを踏んで加速するときは、ハンドルを持ってください。

料金所、合流、交差点などに近づいたとき



- プロパイロット2.0の表示が青色で走行しているとき、料金所、合流、交差点などに近づくとプロパイロット2.0の表示が緑色になります。
- プロパイロット2.0の表示が緑色になったあと、さらに近づくと、音とともにハンドル操作を要求する画面（赤）が表示されます。
- 運転者がハンドルを操作すると、車線維持機能（ハンドル支援）は解除されます。

アドバイス

- 運転者のハンドル操作が検出されない場合、緊急警報音が鳴るとともにヘッドアップディスプレイ、およびアドバンスドドライブアシストディスプレイに［減速します］と表示され、自車を減速、緊急停止させます。

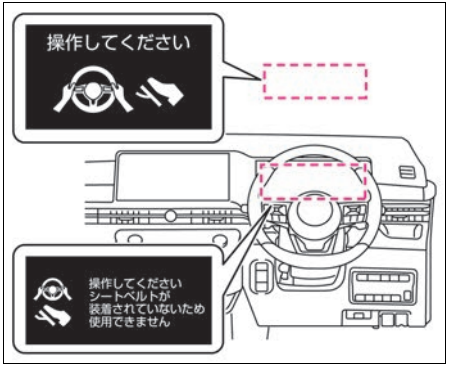
アドバイス

- 車両を緊急停止させたあと、SOSコールサービスのオペレーターに接続し、オペレーターから公共機関（警察・消防・医療機関）に救援要請を行います。
- 緊急警報音が作動し、自車が減速したとき、車速が約65km/hを下回ると非常点滅表示灯が自動で作動します。ハンドル操作をすると、非常点滅表示灯は自動で消灯します。

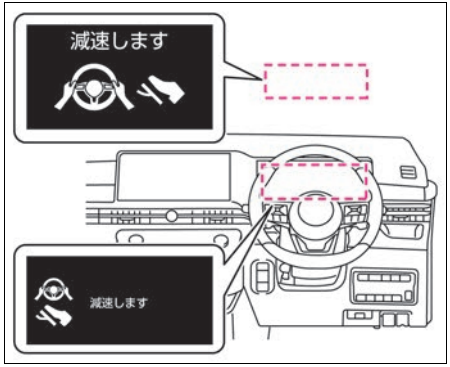
プロパイロット2.0の表示が青色の場合に、システムが解除されたとき

警告

- **警告画面が表示されたときは、すみやかにハンドルを操作してください。**



- プロパイロット2.0が解除されると警告音とともにハンドル操作を要求する警告画面（赤）が表示されます。



- 運転者がハンドルを操作すると、車速・車間制御機能、車線維持機能（ハンドル支援）は解除されます。

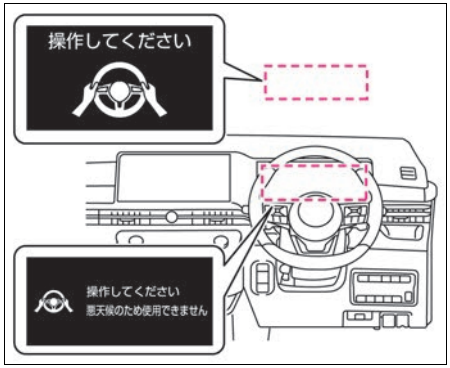
アドバイス

- 運転者のハンドル操作が検出されない場合、緊急警報音が鳴るとともにヘッドアップディスプレイ、およびアドバンスドドライブアシストディスプレイに［減速します］と表示され、自車を減速、緊急停止させます。
- 車両を緊急停止させたあと、SOSコールサービスのオペレーターに接続し、オペレーターから公共機関（警察・消防・医療機関）に救援要請を行います。
- 緊急警報音が作動し、自車が減速したとき、車速が約65km/hを下回ると非常点滅表示灯が自動で作動します。ハンドル操作をすると、非常点滅表示灯は自動で消灯します。

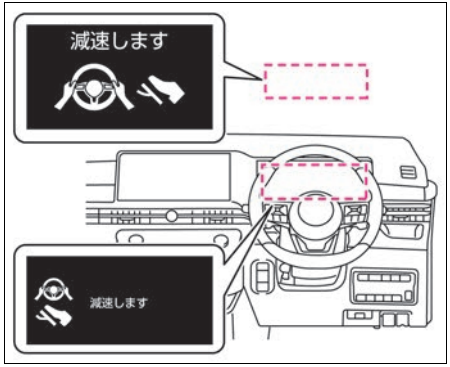
プロパイロット2.0の表示が青色の場合に、車線維持機能（ハンドル支援）が解除されたとき

警告

- **警告画面が表示されたときは、すみやかにハンドルを操作してください。**



- 車線維持機能（ハンドル支援）が解除されると警告音とともにハンドル操作を要求する警告画面（赤）が表示されます。



●運転者がハンドルを操作すると、車線維持機能（ハンドル支援）は解除されます。

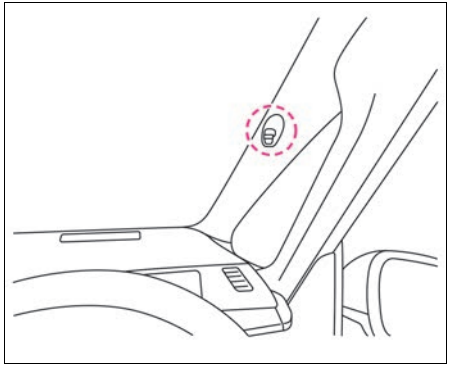
アドバイス

- 運転者のハンドル操作が検出されない場合、緊急警報音が鳴るとともにヘッドアップディスプレイ、およびアドバンスドドライブアシストディスプレイに［減速します］と表示され、自車を減速、緊急停止させます。
- 車両を緊急停止させたあと、SOSコールサービスのオペレーターに接続し、オペレーターから公共機関（警察・消防・医療機関）に救援要請を行います。
- 緊急警報音が作動し、自車が減速したとき、車速が約65km/hを下回ると非常点滅表示灯が自動で作動します。ハンドル操作をすると、非常点滅表示灯は自動で消灯します。

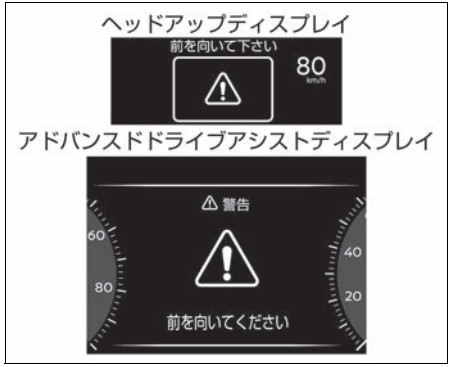
運転者が前方の状況に注意していないと判断したとき（プロパイロット2.0付車）

⚠ 警告

- 運転者は常に前方に注意し、運転してください。



●ドライバーモニターカメラで運転者の顔の向きや眼の開閉状態をモニターしています。



●プロパイロット2.0の表示が青色のとき、運転者が前方の状況に注意していないと判断した場合、前方の状況に注意するよう音、表示により警告をします。
●前方の状況に注意していない状態が継続した場合、運転者にハンドルを操作するよう音、表示および短時間のブレーキ制御により段階的に警告します。
●警告後、運転者のハンドル操作が検出されない場合、緊急警報音が鳴るとともにヘッドアップディスプレイ、およびアドバンスドドライブアシストディスプレイに［減速します］と表示され、車両を減速、緊急停止させます。
●車両を緊急停止させたあと、SOSコールサービスのオペレーターに接続し、オペレーターから公共機関（警察・消防・医療機関）に救援要請を行います。
●警告表示の内容については、プロパイロット警告メッセージ（➔P.436）をお読みください。

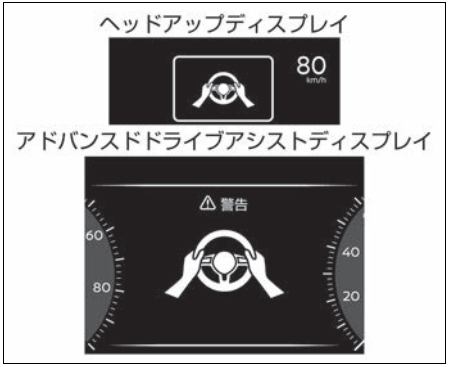
アドバイス

- サングラス、マスク、眼帯、帽子、マフラーなどを着用している場合など目、鼻、口や顔の輪郭が隠れている場合、ドライバーモニターカメラは運転者を検知できないことがあります。
- 緊急警報音が作動し車両が減速したとき、車速が約65km/hを下回ると非常点滅表示灯が自動で作動します。ハンドル操作をすると、非常点滅表示灯は自動で消灯します。

運転者がハンドルを持っていないと判断したとき

警告

- **プロパイロット2.0★の表示が緑色のときは、必ずハンドルを持って運転してください。**



- 車線維持機能（ハンドル支援）が作動しているとき、運転者がハンドルを持っているまたは操作しているかをモニターしています。
- プロパイロット2.0の表示が緑色の場合に、運転者がハンドルを持っていない、または操作していないと判断すると、運転者にハンドルを操作するよう表示により警告をします。
- 運転者がハンドルを操作しない場合には音、表示および短時間のブレーキ制御により段階的に警告します。
- 警告後、運転者のハンドル操作がない状態が継続すると、緊急警報音が鳴るとともにヘッドアップディスプレイ★、およびアドバンスドドライブアシストディスプレイに［減速します］と表示され、車両を減速、緊急停止させます。
- 車両を緊急停止させたあと、SOSコールサービスのオペレーターに接続し、オペレーターから公共機関（警察・消防・医療機関）に救援要請を行います。
- 警告表示の内容については、プロパイロット警告メッセージ（➔P.436）をお読みください。

知識

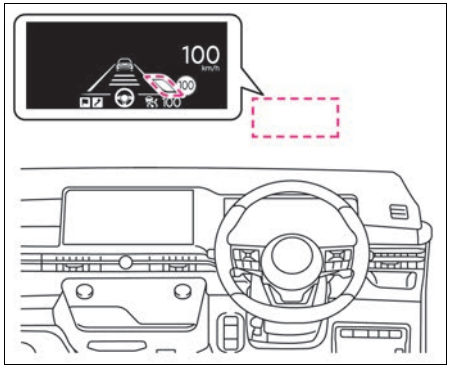
- 次のような状況ではハンドルを持っていることを正しく検出できず、ハンドルを持っていても警告が表示されることがあります。
  - 運転者が手袋を着用しているとき
  - ハンドルにカバーが取り付けられているとき
  - 革の繋ぎ目やスポーク部などを握っているとき
- 緊急警報音が作動し車両が減速したとき、車速が約65km/hを下回ると非常点滅表示灯が自動で作動します。ハンドル操作をすると、非常点滅表示灯は自動で消灯します。

側方注意検知

警告

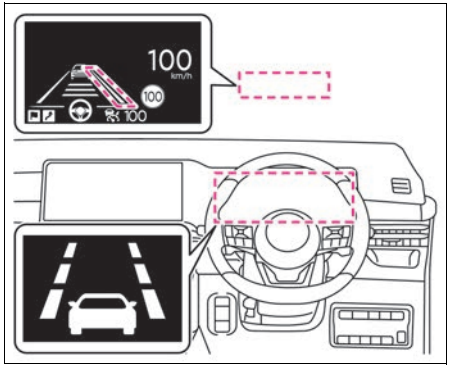
- **側方の車両が近づいてきても反応しません。**

  合流部、カーブを走行するとき、また大型車両が隣の車線を走行しているときは特に周辺車両に注意し、必要に応じてハンドル操作をしてください。



● プロパイロット2.0の表示が青色のとき、自車の側方に車両がいる場合、表示により注意喚起します。

車線逸脱警報



● 車線維持機能（ハンドル支援）が作動しているとき、走行車線の右側もしくは左側のレーンマーカーに近づいたと判断すると、警報音とともにアドバンスドドライブアシストディスプレイのLDW（車線逸脱警報）／インテリジェントLI（車線逸脱防止支援システム）表示と車線検出表示がオレンジ色に点滅し、運転者に注意を促します。

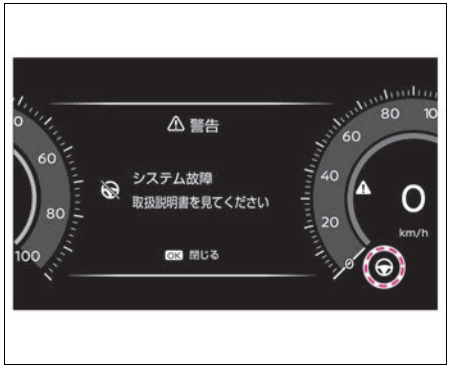
● プロパイロット2.0の表示が青色のときに、車線逸脱警報が作動した場合はさらに運転者にハンドルを操作するよう表示で警告します。

車線維持機能（ハンドル支援）に異常があるとき

アドバイス

● 異常により警告灯が点灯したときや、プロパイロット2.0特有機能の異常によりメッセージが表示されたときは、安全な場所に停車し、e-POWERシステムを一旦停止して再始動してください。

上記の操作をしても、警告灯が点灯し続ける場合、通常走行には支障はありませんが、日産販売会社で点検を受けてください。

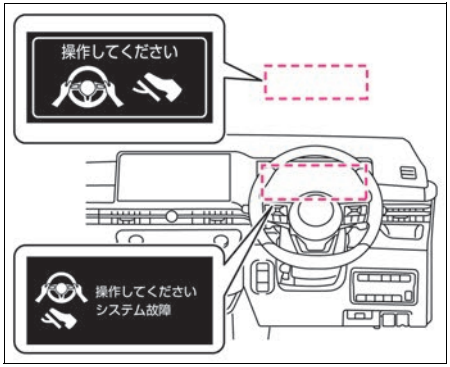


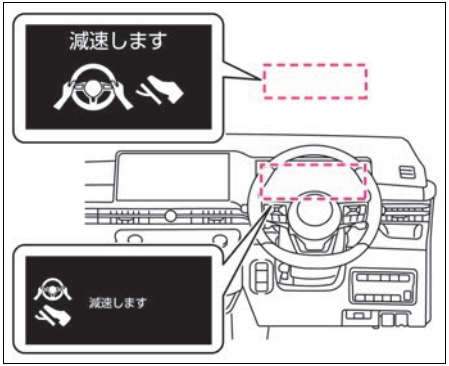
● 車線維持機能（ハンドル支援）に異常があると、警告音とともにハンドル支援警告灯（オレンジ）が点灯し、車線維持機能（ハンドル支援）は自動的に停止します。

● プロパイロット2.0特有機能に異常があると、アドバンスドドライブアシストディスプレイに［一部のハンドル支援機能が作動できません（システム故障）］と表示されます。
この場合は、表示が青色にならず、ハンドルから手を離すことが可能な状態になりません。

➔ プロパイロット／プロパイロット2.0警告メッセージ (P.436)

プロパイロット2.0の表示が青色の場合に、システムに異常を検出したとき





- プロパイロット2.0に異常があると緊急警報音が鳴るとともにヘッドアップディスプレイ、およびアドバンスドドライブアシストディスプレイに［操作してください］［減速します］と表示され、自車を減速、緊急停止させます。
- 車両を緊急停止させたあと、SOSコールサービスのオペレーターに接続し、オペレーターから公共機関（警察・消防・医療機関）に救援要請を行います。

知識

- 緊急警報音が作動し自車が減速したとき、車速が約65km/hを下回ると非常点滅表示灯が自動で作動します。ハンドル操作をすると、非常点滅表示灯は自動で消灯します。

車線変更支援機能について（プロパイロット 2.0 付車）

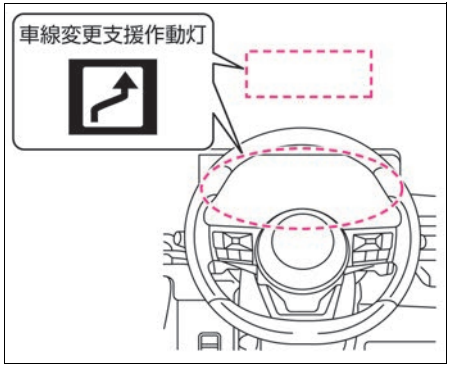
警告

- **運転者は道路、交通、自車の状況に応じて、安全に車線変更を行う責任があります。**

  車線変更をするときは、必ず周囲の状況を確認し、安全に目的の車線に移動してください。

- **車線変更支援機能には、衝突を回避するためにステアリング制御する機能はありません。**

  車線変更をするときは、必ずハンドルを持ち、安全に目的の車線に移動してください。



車線変更支援作動灯［ ］が青色で点灯しているとき、運転者がハンドルを持ち目的の車線の方向へ方向指示器を作動させると、車線変更の支援を開始します。

次の条件を満たすとき、車線変更支援作動灯［ ］が青色で点灯します。

- プロパイロット2.0の表示が青色のとき
- 車速が約60km/h以上で走行しているとき
- 2車線以上の道路を走行しているとき
- 左右いずれかあるいは両方のレーンマーカーが白の破線であるとき
- 直線または緩やかなカーブを走行しているとき
- 制限速度が70km/h以上の道路を走行しているとき

知識

- 新しい分岐や出口などができ、3D高精度地図データがまだ整備されていない区間を走行する場合は、［車線変更支援 中止（高精度地図メンテナンス区間）］と表示され、車線変更支援機能は作動しません。
- アドバンスドドライブアシストディスプレイで次の設定がOFFの場合、車線変更支援作動灯［ ］が青色で点灯していても、方向指示器の操作による車線変更支援機能は作動しません。

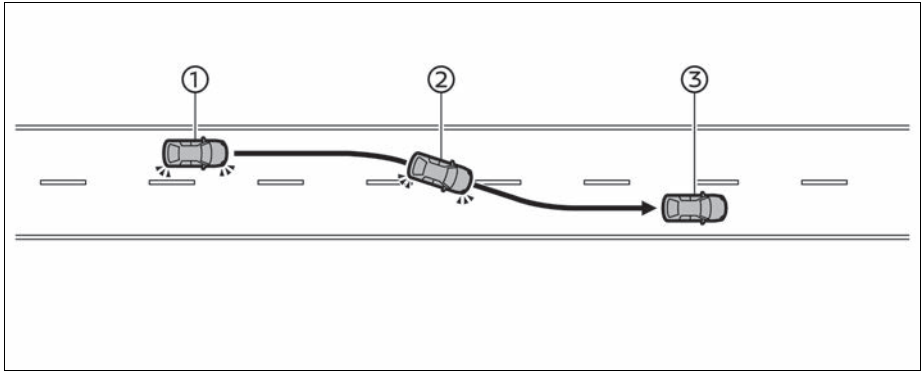
  設定［ ］⇒［運転支援］⇒［車線変更支援］⇒［方向指示器スイッチ連動］

知識

- アドバンスドドライブアシストディスプレイで車線変更支援のいずれかの設定がONのとき、車線変更支援作動灯［ ］が青色で点灯します。

  設定［ ］⇒［運転支援］⇒［車線変更支援］⇒［ルート走行支援］/［方向指示器スイッチ連動］/［追い越し支援］

車線変更支援機能の作動（プロパイロット 2.0 付車）



① 目視により目的の車線の安全を確認し、ハンドルを持って方向指示器を操作し、目的の車線の方向指示器を作動させます。

② 車線変更支援作動表示が緑色で点滅し、その後ステアリング制御により目的の車線への移動を支援します。

③ 目的の車線へ移動が完了すると、方向指示表示灯は自動で消灯し、再び車線維持機能（ハンドル支援）が作動します。

● 運転者のハンドル操作はいつでも優先されます。

知識

● 車線変更の支援を開始すると、ヘッドアップディスプレイの車線変更支援作動表示が緑色で点滅します。

車線変更支援機能の中止（プロパイロット 2.0 付車）

次のいずれかの操作で、車線変更の支援を中止します。
（車線変更支援作動表示が消灯します）

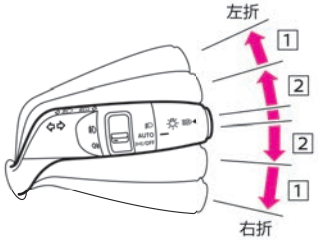
- 方向指示器を目的の方向とは反対方向の位置に操作したとき
- ハンドル操作をしたとき

次のような状況では、音とともに車線変更支援作動表示が消灯し、車線変更の支援を中止します。

- 目的の車線に車両を検出したとき
- レーンマーカーが検出できなくなったとき
- 車速が約60km/hを下回ったとき
- 運転者がハンドルを持っていないことを検出したとき
- 車速・車間制御機能が解除されたとき（➔P.245）
- 両車線のレーンマーカーが白の破線でないとき
- 目的の車線の方向のレーンマーカー付近に遮蔽物を発見したとき

知識

● 車線変更の支援を開始した車線内で中止したときは、開始した車線の中央付近に戻る方向にステアリングを制御します。



● 方向指示器の1の位置の操作で車線変更の支援を開始したときは、中止しても方向指示表示灯は消灯しません。

2の位置の操作で開始し、方向指示器が3回以上点灯したあとで作動が中止したときは、作動の中止とともに方向指示表示灯は消灯します。

運転者がハンドルを持っていないと判断したとき（プロパイロット 2.0 付車）

警告

● **車線変更を行うときは、必ずハンドルを持って運転してください。**

アドバイス

● 次のような状況ではハンドルを持っていることを正しく検出できず、ハンドルを持っていても警告が表示されることがあります。
  - 運転者が手袋を着用しているとき
  - ハンドルにカバーが取り付けられているとき
  - 革の繋ぎ目やスポーク部などを握っているとき

ヘッドアップディスプレイ

アドバンスドドライブアシストディスプレイ

- 運転者がハンドルを持っている、または操作しているかモニターしています。
- 車線変更の支援をしているとき、運転者がハンドルを持っていない、または操作していないと判断すると、運転者にハンドルを操作するよう表示により警告をします。
- 表示による警告後、運転者がハンドルを操作しない場合には音、表示および短時間のブレーキ制御により段階的に警告します。
- 運転者のハンドル操作がない状態が継続すると、緊急警報音が鳴るとともにヘッドアップディスプレイ、およびアドバンスドドライブアシストディスプレイに［減速します］と表示され、自車を減速、緊急停止させます。

追い越し支援機能について（プロパイロット 2.0 付車）

警告

- **運転者は道路、交通、自車の状況に応じて、安全に車線変更を行う責任があります。**

  車線変更をするときは、必ず周囲の状況を確認し、安全に目的の車線に移動してください。

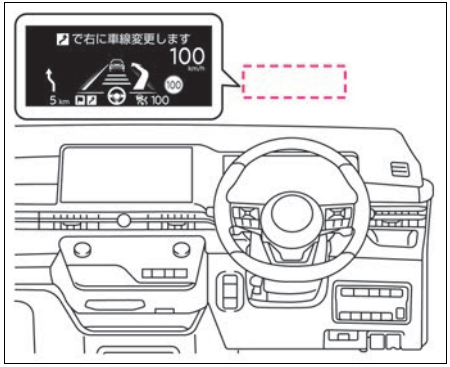
- **追い越し支援機能には、衝突を回避するためにステアリング制御する機能はありません。**

  車線変更をするときは必ずハンドルを持ち、安全に目的の車線に移動してください。

知識

- アドバンスドドライブアシストディスプレイで次の設定がOFFの場合、追い越し支援機能は車線変更の提案をしません。

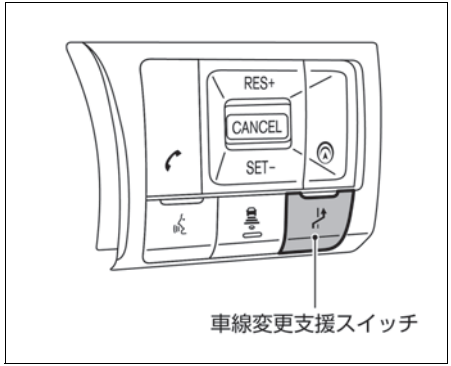
  設定［ ⚙ ］⇒［運転支援］⇒［車線変更支援］⇒［追い越し支援］



設定車速よりも遅い車両を前方に検出すると、表示により運転者に追い越しを提案します。運転者が＜車線変更支援スイッチ＞を押した場合、ステアリングを制御し追い越し操作を支援します。

次の条件を満たすと、運転者に追い越しを提案します。

- 車線変更支援作動灯［ ］が青色のとき
- 設定車速よりも遅い車両を前方に検出したとき
- 右側の車線に車両がいないとき



運転者がハンドルを持ち＜車線変更支援スイッチ＞を押すと、ステアリングを制御し右側の車線への移動を支援します。

次の条件を満たすと、運転者に左側の車線に移動を提案します。

- 車線変更支援作動灯［ ］が青色のとき
- 左側の車線に車両がいないとき

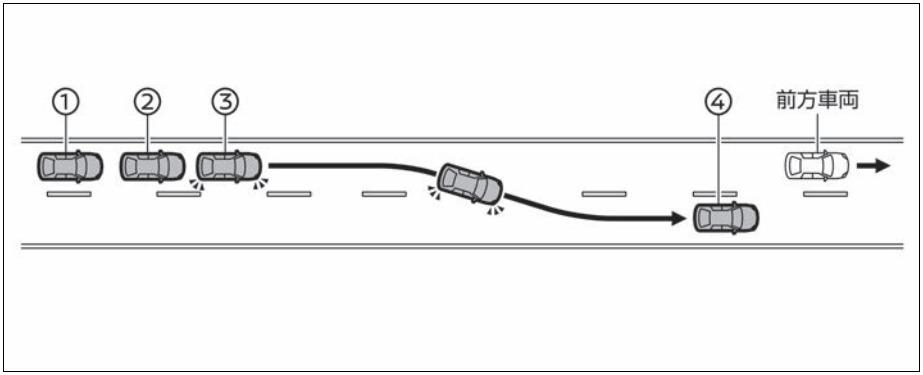
運転者がハンドルを持ち＜車線変更支援スイッチ＞を押すと、追い越し支援機能により左側への車線変更支援を開始します。

知識

- 追い越し支援機能は周辺に車両がいない場合、左側の車線を走行するよう提案します。

追い越し支援機能の作動（プロパイロット 2.0 付車）

前方に遅い車両を検出したとき



① 前方に遅い車両を検出すると、ヘッドアップディスプレイに車線変更支援作動表示が白色で点灯し、［ で右に車線変更します］と表示されます。

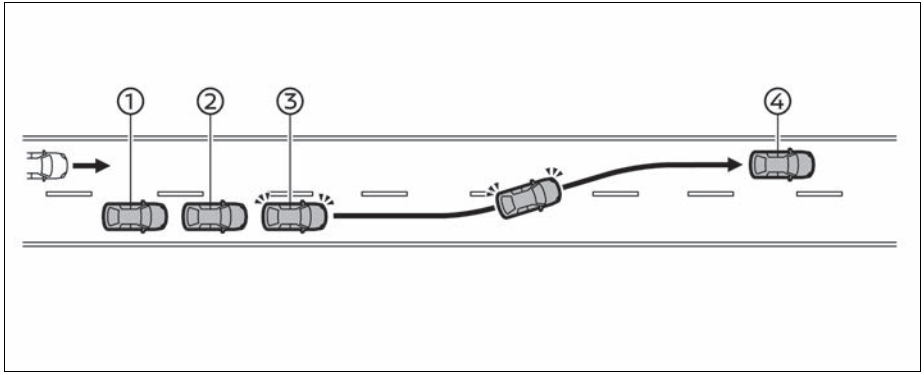
② 目視により右側の車線の安全を確認し、ハンドルを持って＜車線変更支援スイッチ＞を押します。

③ 車線変更支援作動表示が緑色で点滅するとともに方向指示器が作動し、その後ステアリング制御により右側の車線への移動を支援します。

④ 右側の車線へ移動が完了すると方向指示表示灯は消灯し、再び車線維持機能（ハンドル支援）が作動します。

● 運転者のハンドル操作はいつでも優先されます。

追い越し支援機能により、遅い車両を追い抜いたとき



① 左側に車両がいないことを検出すると、ヘッドアップディスプレイに車線変更支援作動表示が白色で点灯し、［ で左に車線変更します］と表示されます。

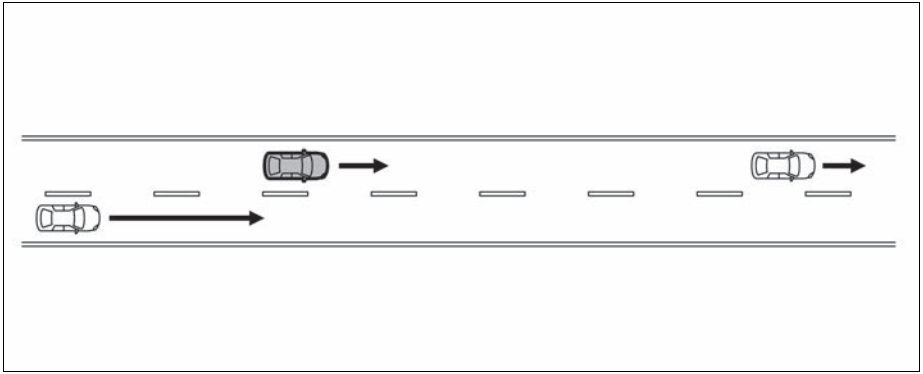
② 目視により左側の車線の安全を確認し、ハンドルを持って＜車線変更支援スイッチ＞を押します。

③ 車線変更支援作動表示が緑色で点滅するとともに方向指示器が作動し、その後ステアリング制御により左側の車線への移動を支援します。

④ 左側の車線へ移動が完了すると方向指示表示灯は消灯し、再び車線維持機能（ハンドル支援）が作動します。

●運転者のハンドル操作はいつでも優先されます。

目的の車線に車両を検出している場合に、＜車線変更支援スイッチ＞を押したとき



- 目的の車線に車両を検出している場合、＜車線変更支援スイッチ＞を押すと、車線変更支援作動表示が白色でアニメーション表示され、最大約10秒間、目的の車線の車線変更スペースの検出を行います。
- 目的の車線に車線変更のスペースを検出すると、車線変更支援作動表示が緑色で点滅するとともに方向指示器が作動し、その後ステアリング制御により目的の車線への移動を支援します。
- 運転者のハンドル操作はいつでも優先されます。

知識

- 目的の車線に車両を検出しているときに＜車線変更支援スイッチ＞を押すと、車線変更支援作動表示が白色でアニメーション表示されます。
- ＜車線変更支援スイッチ＞を押したあと、約10秒以内に車線変更スペースが検出できなかった場合、車線変更の支援を中止します。

追い越し支援機能の中止（プロパイロット 2.0 付車）

次のいずれかの操作で、追い越し支援機能による車線変更の支援を中止します。

- ＜車線変更支援スイッチ＞を押したとき（長押し）
- 方向指示器を目的の方向とは反対方向の位置に操作したとき
- ハンドル操作をしたとき

追い越し支援機能が中止されると、車線変更支援作動表示が消灯します。

次のような状況では、音とともに車線変更支援作動灯［ ］が消灯し、追い越し支援機能による車線変更の支援を中止します。

- ＜車線変更支援スイッチ＞を押したあと、約10秒以内に車線変更できるスペースを検出できなかったとき
- 方向指示器が作動したあと、目的の車線に車両を検出したとき
- レーンマーカーが検出できなくなったとき
- 車速が約60km/hを下回ったとき
- 運転者がハンドルを持っていないことを検出したとき
- 車速・車間制御機能が解除されたとき（➔P.245）
- 追い越しをする対象の車が加速あるいは車線変更したとき
- ナビゲーションのルートに従って走行するために必要な車線変更地点に到達したとき
- 方向指示器が作動したあと、目的の車線の方向のレーンマーカー付近に遮蔽物を発見したとき

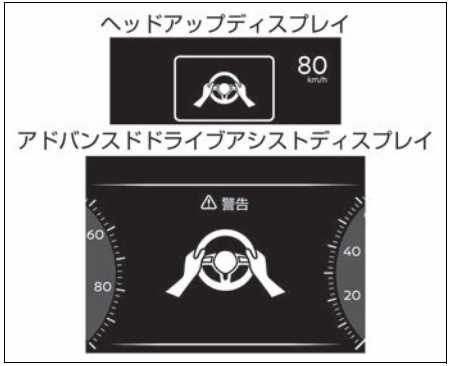
知識

- 車線変更の支援を開始した車線内で中止したときは、開始した車線の中央付近に戻る方向にステアリングを制御します。
- 追い越し支援機能による車線変更の支援が中止されたとき、方向指示表示灯は自動で消灯します。

運転者がハンドルを持っていないと判断したとき

⚠ 警告

- **車線変更を行うときは、必ずハンドルを持って運転してください。**



- 運転者がハンドルを持っている、または操作しているかモニターしています。
- 車線変更の支援をしているとき、運転者がハンドルを持っていない、または操作していないと判断すると、運転者にハンドルを操作するよう表示により警告をします。
- 表示による警告後、運転者がハンドルを操作しない場合には音、表示および短時間のブレーキ制御により段階的に警告します。
- 運転者のハンドル操作がない状態が継続すると、緊急警報音が鳴るとともにヘッドアップディスプレイ、およびアドバンスドドライブアシストディスプレイに［減速します］と表示され、自車を減速、緊急停止させます。

アドバイス

- 次のような状況ではハンドルを持っていることを正しく検出できず、ハンドルを持っていても警告が表示されることがあります。
  - 運転者が手袋を着用しているとき
  - ハンドルにカバーが取り付けられているとき
  - 革の繋ぎ目やスポーク部などを握っているとき

ルート走行支援機能について（プロパイロット 2.0 付車）

⚠ 警告

- **運転者は道路、交通、自車の状況に応じて、安全に車線変更を行う責任があります。**

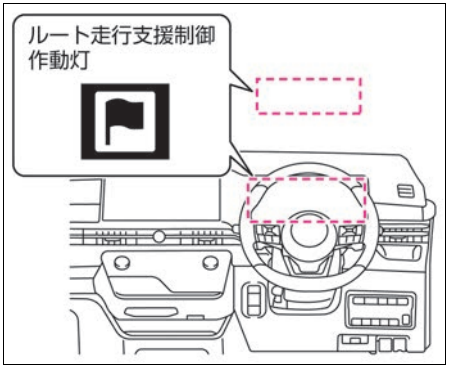
  車線変更をするときは、必ず周囲の状況を確認し、安全に目的の車線に移動してください。
- **ルート走行支援機能には、衝突を回避するためにステアリング制御する機能はありません。**

  車線変更をするときは必ずハンドルを持ち、安全に目的の車線に移動してください。

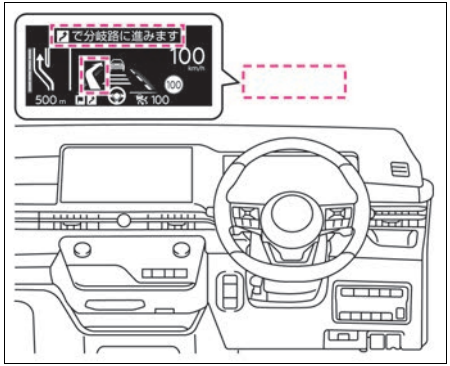
運転者がナビゲーションシステムで目的地を設定している場合、ナビゲーションのルートに従って走行するために必要な車線

変更地点に到達すると、表示により運転者に車線変更を提案します。

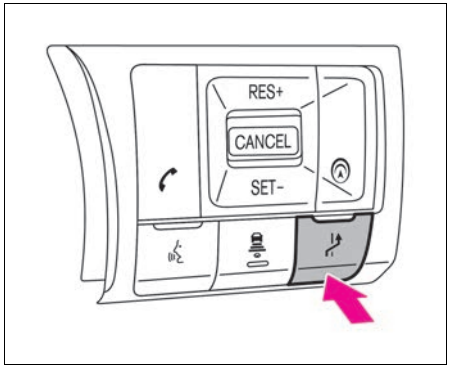
運転者が＜車線変更支援スイッチ＞を押した場合、ステアリングを制御し車線変更の操作を支援します。



- ナビゲーションシステムで目的地を設定し、自動車専用道路本線をプロパイロット2.0で走行すると、ルート走行支援制御作動灯［ ］が点灯します。
- ルート走行支援ができないときは灰色で表示します。
- ルート走行支援制御作動灯［ ］が点灯しているときは、アドバンスドドライブアシストディスプレイの路面に帯が表示されます。



- 車線変更支援作動灯［ ］が青色であるとき、出口・分岐路または、車線数が減少する地点に近づくと、表示により運転者に車線変更を提案します。



- 運転者がハンドルを持ち、＜車線変更支援スイッチ＞を押すと、ルート走行支援機能による車線変更支援を開始します。

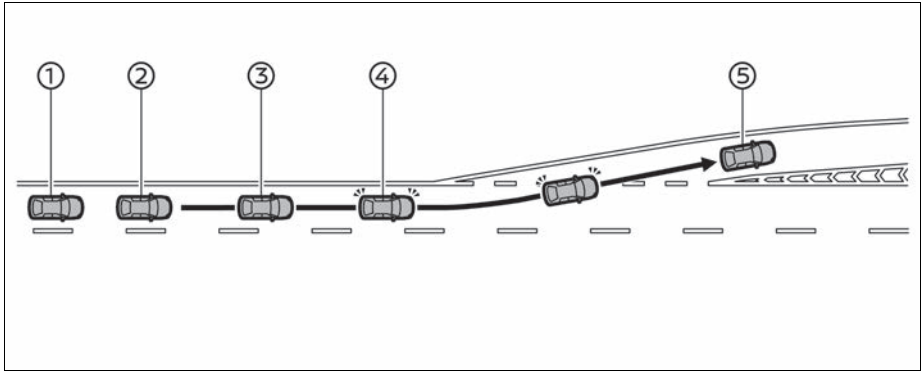
知識

- ルート走行支援制御作動灯［ ］が青色で点灯している場合でも、車線変更支援作動灯［ ］が青色で点灯していないときは、ルート走行支援機能による車線変更の提案をしません。
- アドバンスドドライブアシストディスプレイで次の設定がOFFの場合、ルート走行支援機能は車線変更の提案をしません。

  設定［ ］⇒［運転支援］⇒［車線変更支援］⇒［ルート走行支援］

ルート走行支援機能の作動（プロパイロット 2.0 付車）

第1走行車線を走行し、左側の出口・分岐路に進むとき



① ナビゲーションのルート上にある出口・分岐路に近づくと、音とともにヘッドアップディスプレイに車線変更支援作動表示が白色で点灯し、［まもなく、分岐を左方向です 安全を確認してください で分岐路に進みます］と表示されます。

② 目視により左側の車線の安全を確認し、ハンドルを持って＜車線変更支援スイッチ＞を押します。

③ 車線変更支援作動表示が白色のアニメーション表示になります。

④ 出口・分岐路手前で、車線変更支援作動表示が緑色で点滅するとともに方向指示器が作動し、その後ステアリング制御により出口・分岐路への移動を支援します。

⑤ 出口・分岐路への移動が完了すると方向指示表示灯は自動で消灯し、再び車線維持機能（ハンドル支援）が作動します。

● 運転者のハンドル操作はいつでも優先されます。

⚠ 警告

● **出口・分岐路に停止車両がいる場合など、ルート走行支援機能による出口・分岐路への移動を支援できないことがあります。**

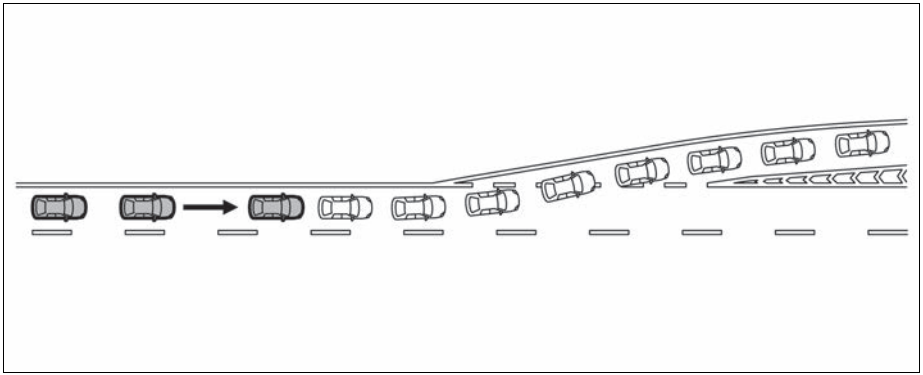
運転者は常に周囲の状況を確認し、状況に応じて自らハンドルを操作し、出口・分岐路に進んでください。

知識

● 出口・分岐路に進まず通過する場合は、＜車線変更支援スイッチ＞を押さないでください。

出口・分岐路手前で車線変更支援作動表示が消灯し、ルート走行支援機能が解除されます。ナビゲーションにより新しいルートが設定され、再び作動条件が成立するとルート走行支援機能の作動を再開します。

第1走行車線を走行し、 出口 ・ 分岐路に進むとき （出口 ・ 分岐路が渋滞している場合）

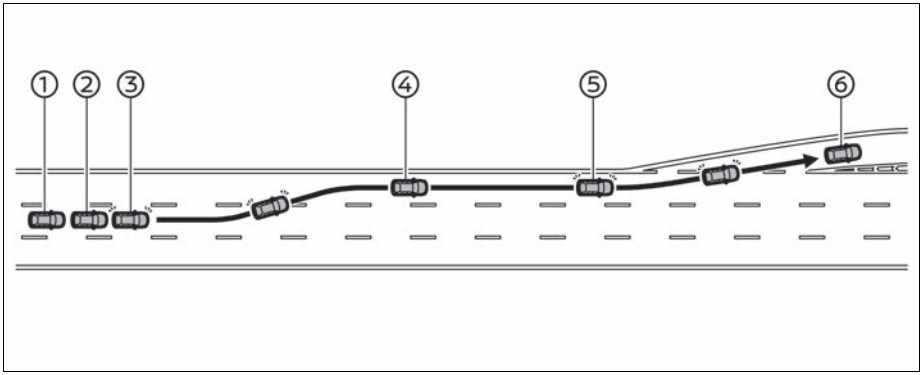


● ＜車線変更支援スイッチ＞を押して、ルート走行支援機能の作動が開始したあと、車速が約60km/hを下回ると、音とともに車線変更支援作動表示が消灯し、アドバンスドドライブアシストディスプレイに［車線変更支援を中止しました 車速が低すぎます］と表示され、出口・分岐路への移動の支援を中止します。

知識

● 出口・分岐路への移動の支援が中止されたあと、再び条件が成立すると、運転者にルートに従って走行するために車線変更を提案します。

第2走行車線を走行し、左側の出口・分岐路に進むとき



① ナビゲーションのルート上にある出口・分岐路に近づくと、音とともにヘッドアップディスプレイに車線変更支援作動表示が白色で点灯し、［この先、分岐を左方向です 安全を確認してください で分岐に向かいます］と表示されます。

② 目視により左側の車線の安全を確認し、ハンドルを持って＜車線変更支援スイッチ＞を押します。

③ 車線変更支援作動表示が緑色で点滅するとともに方向指示器が作動し、その後ステアリング制御により第1走行車線への移動を支援します。

④ 第1走行車線への移動が完了すると、自動で方向指示表示灯は消灯し、車線変更支援作動表示が白色のアニメーション表示になります。

⑤ 出口・分岐路手前で車線変更支援作動表示が緑色で点滅するとともに方向指示器が作動し、その後ステアリング制御により出口・分岐路への移動を支援します。

⑥ 出口・分岐路への移動が完了すると方向指示表示灯は自動で消灯し、再び車線維持機能（ハンドル支援）が作動します。

●運転者のハンドル操作はいつでも優先されます。

警告

● **出口・分岐路に停止車両がいる場合など、ルート走行支援機能による出口・分岐路への移動を支援できないことがあります。**

運転者は常に周囲の状況を確認し、状況に応じて自らハンドルを操作し、出口・分岐路に進んでください。

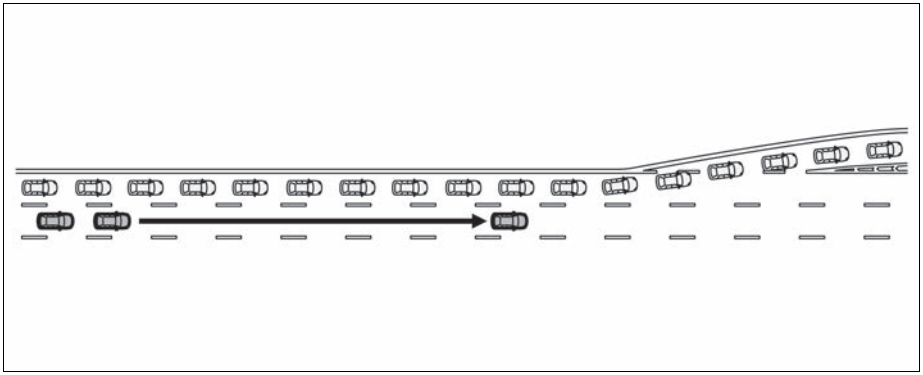
知識

● ルート走行支援機能により第1走行車線に移動し、出口・分岐路までの距離がある場合、条件が成立するとプロパイロット2.0の表示が青色になることがあります。

● アドバンスドドライブアシストディスプレイの設定で連続した車線変更操作の支援をせず、1車線ごとの車線変更操作の支援にすることができます。

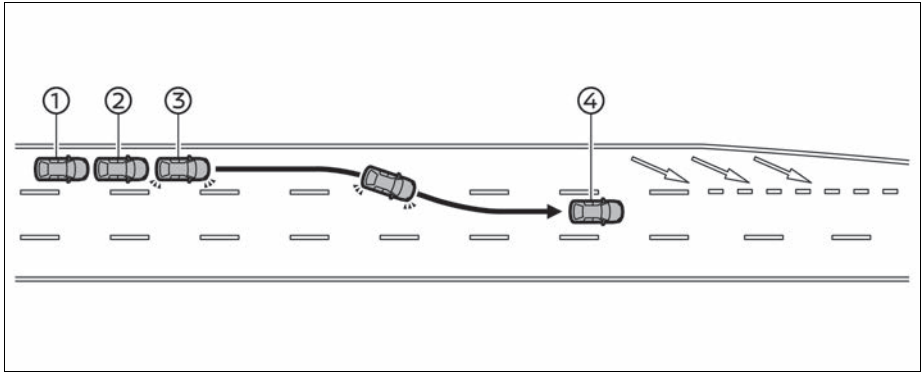
設定［ ］ ⇒［運転支援］ ⇒［車線変更支援］ ⇒［ルート走行支援モード］

第2走行車線を走行し、出口・分岐路に進むとき（第1走行車線が渋滞している場合）



● 出口・分岐路の方向の車線変更に必要なスペースを検出できずに出口・分岐路に近づいてしまった場合、音とともに車線変更支援作動表示が消灯し、［車線変更支援できません 分岐まで近すぎます］と表示され、出口・分岐路への移動の支援を中止します。運転者は周囲の交通状況に応じて進路を決め、自ら方向指示器とハンドルを操作してください。

走行している車線がなくなるとき



① ナビゲーションのルート上を走行し、走行している車線がなくなるとき、音とともにヘッドアップディスプレイに車線変更支援作動表示が白色で点灯し、［この先、車線減少 安全を確認してください で右に車線変更します］と表示されます。

② 目視により右側の車線の安全を確認し、ハンドルを持って＜車線変更支援スイッチ＞を押します。

③ 車線変更支援作動表示が緑色で点滅するとともに方向指示器が作動し、その後ステアリング制御により右側の車線への移動を支援します。

④ 右側の車線への移動が完了すると方向指示表示灯は自動で消灯し、再び車線維持機能（ハンドル支援）が作動します。

● 運転者のハンドル操作はいつでも優先されます。

ルート走行支援機能の中止（プロパイロット 2.0 付車）

次のいずれかの操作で、ルート走行支援機能による車線変更の支援を中止します。

- ＜車線変更支援スイッチ＞を押したとき（長押し）
- 方向指示器を目的の方向とは反対方向の位置に操作したとき
- ハンドル操作をしたとき

ルート走行支援機能が中止されると、車線変更支援作動表示が消灯します。

次のような状況では、音とともに車線変更支援作動灯［ ］が消灯し、ルート走行支援機能の作動を中止します。

- ＜車線変更支援スイッチ＞を押したあと、車線変更できるスペースを検出できずに出口・分岐路、または車線数が減少する地点に近づいてしまったとき
- 方向指示器が作動したあと、目的の車線に車両を検出したとき
- 車速が約60km/hを下回ったとき
- レーンマーカーが検出できなくなったとき
- 運転者がハンドルを持っていないことを検出したとき
- 車速・車間制御機能が解除されたとき（➔P.245）
- ナビゲーションが新しいルートを提示し、それによりルートに従って車線変更する必要がなくなったとき

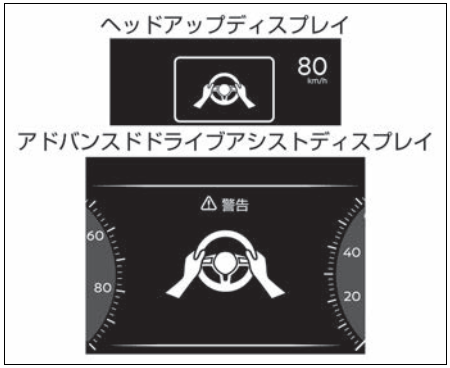
知識

- 車線変更の支援を開始した車線内で中止したときは、開始した車線の中央付近に戻る方向にステアリングを制御します。
- ルート走行支援機能による車線変更の支援が中止されたとき、方向指示表示灯は自動で消灯します。

運転者がハンドルを持っていないと判断したとき（プロパイロット 2.0 付車）

警告

- **車線変更を行うときは、必ずハンドルを持って運転してください。**



- 運転者がハンドルを持っている、または操作しているかモニターしています。
- 車線変更の支援をしているとき、運転者がハンドルを持っていない、または操作していないと判断すると、運転者にハンドルを操作するよう表示により警告をします。
- 表示による警告後、運転者がハンドルを操作しない場合には音、表示および短時間のブレーキ制御により段階的に警告します。
- 運転者のハンドル操作がない状態が継続すると、緊急警報音が鳴るとともにヘッドアップディスプレイ、およびアドバンスドドライブアシストディスプレイに［減速します］と表示され、自車を減速、緊急停止させます。

アドバイス

- 次のような状況ではハンドルを持っていることを正しく検出できず、ハンドルを持っていても警告が表示されることがあります。
  - 運転者が手袋を着用しているとき
  - ハンドルにカバーが取り付けられているとき
  - 革の繋ぎ目やスポーク部などを握っているとき

車線変更支援機能に異常があるとき（プロパイロット 2.0 付車）

- 車線変更支援機能に異常があると、アドバンスドドライブアシストディスプレイに［一部のハンドル支援機能が作動できません（システム故障）］と表示されます。

➔ プロパイロット／プロパイロット2.0 警告メッセージ（P.436）

アドバイス

- 車線維持機能（ハンドル支援）が作動していないときは、車線維持機能（ハンドル支援）の異常によるメッセージは表示されません。
- 異常によりメッセージが表示されたときは、安全な場所に停車し、e-POWERシステムを一旦停止して再始動したあとでプロパイロット2.0の作動を開始してください。

  上記の操作をしても、メッセージが表示されるときは、通常走行には支障はありませんが、日産販売会社で点検を受けてください。

3D 高精度地図データについて（プロパイロット 2.0 付車）

プロパイロット2.0は3D高精度地図データを使用しており、利用するためには別途ご契約が必要です。契約内容や契約のしかた、契約の解除のしかた、3D高精度地図データの整備状況については日産販売会社にお問い合わせください。

ご契約がされている場合、e-POWERシステムをONにすると3D高精度地図データの新しいデータがあれば自動で更新が行われます。

ご契約をしていない、または解除した場合、3D高精度地図データを利用している機能が制限され次の状態になります。

- 車線維持支援機能が作動しているとき、プロパイロット2.0の表示が青色にならず、ハンドルから手を離すことが可能な状態になりません。
- 車線変更支援機能が作動しません。
- 追い越し支援機能が作動しません。
- ルート走行支援機能が作動しません。

知識

- 3D高精度地図データを利用するための契約がされていない場合にプロパイロット2.0のシステムを使用すると、［一部のハンドル支援機能が制限されています（高精度地図ライセンス切れ）］と表示されます。

車両データの記録・蓄積について（プロパイロット 2.0 付車）

プロパイロット2.0は次の車両データを車両内のコントローラー、およびデータ記録用のサーバーに記録・蓄積する機能を備えています。

- アクセルペダル、ブレーキペダル、ハンドルなどの操作状況
- 運転者の顔の向き、眼の開閉状態などの検知状況
- プロパイロット2.0の作動状況
- 先行車や周囲車両、レーンマーカー、道路構造の情報
- 車速、GPSなどの車両情報
- カメラの画像情報（SRSエアバッグ、インテリジェント エマージェンシーブレーキ作動時）

知識

- 会話などの音声やドライバーモニターカメラの画像情報は記録しません。

データの扱いについて

- 日産自動車および日産自動車が委託した第三者は、記録・蓄積されたデータを日産自動車の車両の向上を目的として、取得・利用することがあります。
  なお、日産自動車および日産自動車が委託した第三者は、取得したデータを次の場合を除き、第三者へ開示・提供することはありません。
  - 車両の使用者の同意がある場合
  - 裁判所命令など、法的強制力のある要請に基づく場合
  - 統計的な処理を行うなど、使用者や車両が特定できないように加工したデータを研究機関などに提供する場合

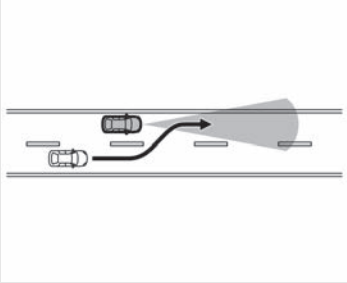
プロパイロット 2.0 に関する注意事項

警告

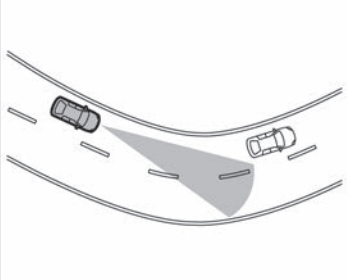
- **プロパイロット2.0は次のような障害物に反応しません。**
  - 歩行者、動物など
  - 落下物
  - 工事などで設置されるパイロンなど

⚠ 警告

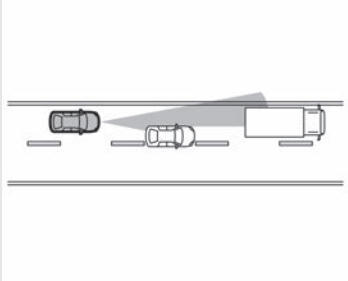
- **次のような状況では先行車の検出が遅れる、または検出ができないことがあります。運転者は常に前方の状況に注意し、必要に応じてブレーキやハンドルを操作してください。**



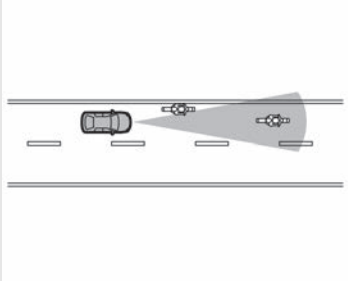
— 前方に急な割り込みがあったとき



— 見通しの悪いカーブを走行しているとき



— 前方の車両が車線変更したあとで、さらに前方に停止中の車両や自車速よりも極端に遅い車両がいたとき



— 前方に車線の端を走行する二輪車がいるとき

— フロントレーダー部に雪、氷、泥などの付着物があるとき

— 先行車や他車線の車両が路上の水や雪などを巻き上げて走行しているとき

— 急な上り坂、下り坂が繰り返される道を走行しているとき

— 後席シートやラゲッジルームに極端に重い荷物を積んだとき

- **カーブを走行しているときや車線変更を行っているときなど、道路形状や自車の状況によっては、隣の車線の車両や周辺のものを検出して減速したり、警報が作動したりする場合があります。**
- **高速道路などで、インターチェンジ、サービスエリア、パーキングエリアなどに進入する（本線から出る）とき本線上で車速・車間制御機能により設定車速よりも遅い車速で走行する先行車に追従走行している場合には、自車または先行車の車線変更などで、自車線上に先行車を検出しなくなることにより設定車速まで自動的に加速するため、思わぬ事故につながるおそれがあります。**
- **次のような状況では正しくレーンマーカーの検出ができず車線維持機能（ハンドル支援）、車線変更支援機能が使用できないことがあります。**

— レーンマーカーが消えかかっている、汚れているなど不明瞭なとき

— レーンマーカーが路面の色と似ており見えにくいとき

— レーンマーカーが多重に描かれているとき

— 消されたレーンマーカーが、まだ薄く残っているとき

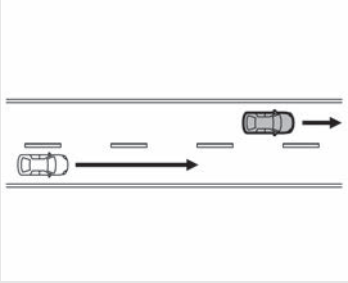
— 工事などによる車線規制や仮設のレーンマーカーがあるとき

⚠ 警告

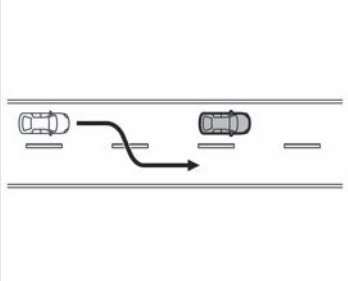
— 料金所や交差点手前などでレーンマーカーが大きく変化しているとき
— 車線幅が極端に狭いときや広いとき、または変化しているとき
— 停止禁止部分、または立ち入り禁止部分がある道を走行しているとき
— 出口路、分岐路など車線数が増えるとき
— 濡れているまたは水たまりのある路面を走行しているとき
— 道路構造物、街路樹、建物などの影が差している路面を走行しているとき
— 悪天候（雨、雪、霧、風塵、砂塵、吹雪など）で視界が悪いとき
— 先行車や他車線の車両が路上の水や雪などを巻き上げて走行しているとき
— カメラ前方のフロントガラスに汚れ、油膜、水滴、氷、雪などが付着しているとき
— カメラ前方のフロントガラスがくもっているとき
— 前方から強い光（太陽光や対向車両のハイビームなど）を受けているとき
— 夜間やトンネル内などでヘッドランプを点灯していない、あるいはヘッドランプのレンズが極端に汚れているとき
— トンネルの出入り口や日陰など急に明るさの変化が起こったとき
— 急な上り坂、下り坂が繰り返される道を走行しているとき
— 後席シートやラゲッジルームに極端に重い荷物を積んでいるとき

● **次のような状況では隣の車線の車両の検出が遅れる、または検出ができないことがあります。運転者は常に周囲の状況に注意し、必要に応じてハンドルを操作してください。**

— 背の低い車両や、オートバイなどの幅の狭い車両が走行しているとき



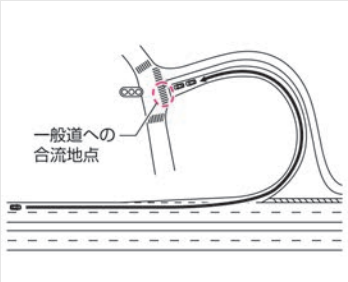
— 後方から速い速度で接近してくる車両が走行しているとき



— 後方から近づいてくる車両が車線変更などにより隣の車線に移動したとき
— サイドレーダー部に雪、氷、泥などの付着物があるとき
— 自車や周囲の車両が路上の水や雪などを巻き上げて走行しているとき
— 急な上り坂、下り坂が繰り返される道を走行しているとき
— 後席シートやラゲッジルームに極端に重い荷物を積んだとき

● **次のような場合はルート走行支援機能は適切に作動できません。**

⚠ 警告



— 出口・分岐路の距離が極端に短いとき

— 出口・分岐路付近で複数回、車線変更が必要な道路を走行するとき

— ナビゲーションの地図データが最新ではない、または利用できないとき

⚠ 注意

- **次のような場合、ドライバーモニターシステムが運転者を適切に検出できないことがあります。**

  — 車室内へ太陽光が入り込み、ドライバーモニターカメラまたは、運転者が照らされているとき

  — 太陽光の入り込みと影になることが繰り返すとき

  — サングラス、マスク、眼帯、帽子、マフラーなどを着用している場合など目、鼻、口や顔の輪郭が隠れているとき

  — 顔とシステムとの間に遮る物があるとき

  — ドライバーモニターカメラに触れ、汚れや指紋が付着したとき

  — 助手席や後席シートの方が運転席付近に身を乗り出したときなど、運転席付近に2つ以上の顔が存在するとき

  — 前方からの太陽光の眩しさなどで目を細めたり、運転姿勢をくずしていたりしているとき

- **フロントレーダー、サイドレーダーの汚れを自動的に判定する機能を備えておりますが万全ではありません。**

  状況によってはレーダーが汚れていても判定できない場合があります。また雪、氷などが付着したときも判定できない場合があります。

  このような状況では適切な作動ができなくなるおそれがありますので、常に周囲に注意して走行してください。またフロントレーダー、サイドレーダーおよびその周辺はいつもきれいにしておいてください。

  ➔ レーダーセンサーの取り扱い (P.475)

- **フロントバンパー、リヤバンパーのレーダーセンサー周辺の塗装修理はできません。誤った塗装修理を行うと、本来の機能を発揮できなくなる可能性があります。**

  適切な修理を行うため、日産販売会社にご相談ください。

  ➔ レーダーセンサーの取り扱い (P.475)

- **フロントカメラの汚れを自動的に判定する機能を備えておりますが万全ではありません。**

  状況によってはフロントカメラが汚れていても判定できない場合があります。また雪、氷などが付着したときも判定できない場合があります。

  このような状況では適切な作動ができなくなるおそれがありますので、常に前方に注意して走行してください。またフロントカメラおよびその周辺はいつもきれいにしておいてください。

  ➔ マルチセンシングフロントカメラの取り扱い (P.475)

- **状況によっては外部の騒音などにより、警報音（ブザー）が聞こえない場合があります。**

プロパイロット警告メッセージ

警告メッセージが表示されたときは、プロパイロット警告メッセージ（➔P.436）「説明・対処方法」に従ってください。

表示は、グレード、オプションなどにより異なります。

定速制御機能について

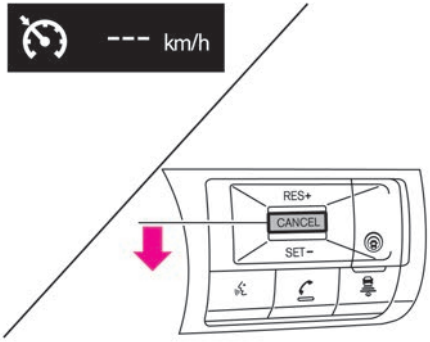
⚠ 警告

- **定速制御中は車間制御を行わないため、ブレーキ操作も警報も行いません。**

  先行車との車間距離、周囲の状況に応じてブレーキペダルを踏んで減速するなどして車間距離を確保し、安全運転を心がけてください。

＜プロパイロットスイッチ＞をONにすると点灯し、システムの作動状態を色で表示します。セットすると設定した速度を表示します。

1. ＜プロパイロットスイッチ＞を1.5秒以上押し、システムがONになると表示します。



プロパイロット

- 白色：システムがONになると表示
- 緑色：車速を設定すると表示
- オレンジ色（警告灯）：システム故障

プロパイロット2.0

- 灰色：システムがONになると表示
- 白色：車速を設定すると表示
- オレンジ色（警告灯）：システム故障

2. ＜SET-＞方向に押したときの車速で定速制御機能をセットします。

- 定速走行中、一時的に加速したいときはアクセルペダルを踏みます。加速後にアクセルペダルを離すと、徐々に設定車速に戻ります。

■ 設定車速の変更のしかた

速度を上げる

- 定速走行中に＜RES+＞方向に押し続けると加速します。設定したい速度で手を離します。

速度を下げる

- 定速走行中に＜SET-＞方向に押し続けると減速します。設定したい速度で手を離します。

■ 定速走行の解除のしかた

次の操作をすると、定速走行が解除されます。

- ＜CANCEL＞スイッチを押す
- ＜プロパイロットスイッチ＞を押す
- ブレーキペダルを踏む
- 次の場合は、“ピー” という音とともに制御が解除されます。
  - 速度が約25km/h以下になったとき
  - VDCをOFFにしたとき
  - VDC／TCSが作動したとき
  - タイヤが空転したとき
  - シフトポジションを、DまたはB以外にしたとき
  - システムに異常があるとき

インテリジェント エマージェンシーブレーキ

インテリジェント エマージェンシーブレーキは、前方の車両や歩行者、人が乗車している自転車と衝突のおそれがあるとき、警報とブレーキにより、運転者の衝突回避操作を支援します。

システムに関連する表示

⚠ 警告

- **機能には限界があるため、過信せず安全運転を心がける。**

  インテリジェント エマージェンシーブレーキは、前方の車両や歩行者、人が乗車している自転車との衝突回避操作を支援、または衝突時の被害や傷害の軽減を目的としています。あらゆる状況で効果があるわけではありません。

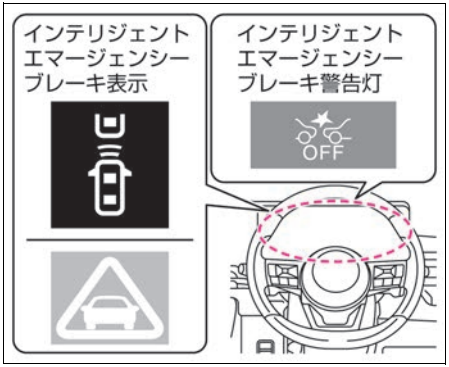
  必ず周囲の安全確認を行い、前方車両との車間距離を十分に維持して安全運転を心がけて走行してください。

⚠ 警告

- **レーダーやマルチセンシングフロントカメラの性能には限界があるため、システムだけに頼った運転はせず、常に安全運転を心がけてください。詳細については、各検知条件と制限をお読みください。**

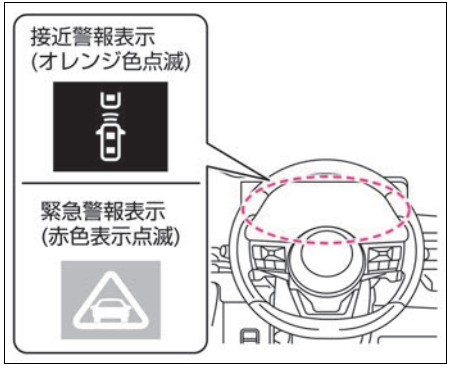
➲ レーダーセンサーの検知条件と制限（P.226）

➲ マルチセンシングフロントカメラの検知条件と制限（P.227）



- プロパイロット2.0付車はインテリジェント エマージェンシーブレーキが作動すると、ヘッドアップディスプレイにも警告表示が表示されます。

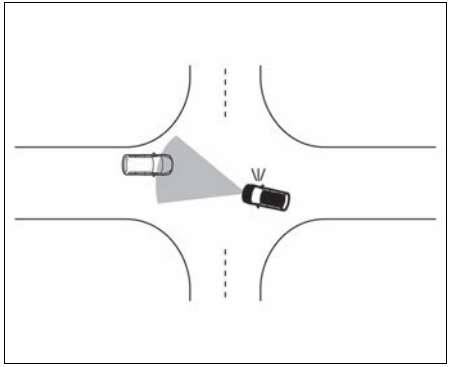
インテリジェント エマージェンシーブレーキについて

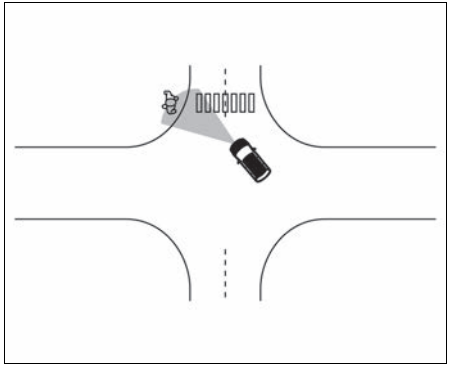


- フロントガラス上部のマルチセンシングフロントカメラおよび車両前部のレーダーセンサーにより前方の車両や歩行者、人が乗車している自転車を検知します。
- 車速約5km/hから作動します。
  歩行者・人が乗車している自転車には約10km/h~80km/hの範囲で作動します。
  （車速約100km/h以上では停止車両に対しては作動しません）
- 衝突するおそれがあると判断すると、警報音（ブザー）とともにアドバンスドドライブアシストディスプレイのインテリジェント エマージェンシーブレーキ表示（接近警報表示）がオレンジ色に点滅します。
- 運転者の衝突回避操作が不十分で、衝突の危険性が高まったときには、アドバンスドドライブアシストディスプレイのインテリジェント エマージェンシーブレーキ表示が赤色の緊急警報表示になり、警報音（ブザー）とともに軽いブレーキがかかります。
- さらに衝突の危険性が高まったときには、衝突の直前に強いブレーキがかかります。
- 次の場合、システムによるブレーキの作動が解除されます。
  - アクセルペダルを強く踏み込んだとき
  - ハンドルを大きく、またはすばやく切ったとき
  - 前方の車両や歩行者、人が乗車している自転車との衝突の危険がなくなったと判断したとき
- システムによるブレーキで車両が停止したときは、車両が停止してから約2秒後にブレーキが解除されます。
- 運転者がハンドルやアクセルペダル、ブレーキペダルを操作している場合は、インテリジェント エマージェンシーブレーキの作動が遅れる、または作動しない場合があります。
- 前方車両と自車の速度の差が小さいときは作動しません。
- システムによるブレーキが作動しているときは、制動灯が点灯します。
- システムによるブレーキ作動中にブレーキペダルを踏んだとき、ブレーキペダルの踏みごたえが変化したり、音や振動が発生したりすることがありますが異常ではありません。また踏力を加えることで、ブレーキ力を増すことができます。

●アドバンスドドライブアシストディスプレイを運転支援またはクルーズ（CRUISE）に切り替えると、インテリジェント エマージェンシーブレーキの作動状態をアドバンスドドライブアシストディスプレイ内で確認することができます。
詳しくは、アドバンスドドライブアシストディスプレイとは（メインメニュー）（➔P.64または➔P.95）をお読みください。

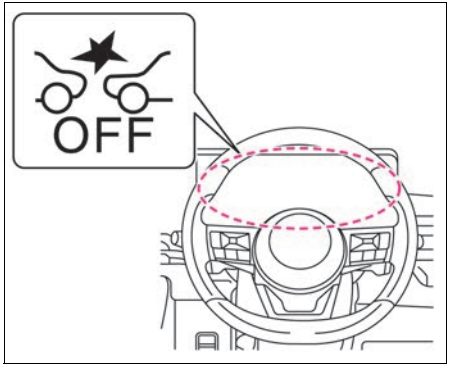
右左折時支援





●次の場合に、衝突するおそれがあるとシステムが判断するとインテリジェント エマージェンシーブレーキが作動します。
— 右折して対向車の進路を横切るとき
— 右折または左折時、前方の歩行者が自車の進路に入ってきたとき
●車速約10km/h～25km/hの範囲で作動します。
●対向車に対しては、方向指示器を作動させているときのみ作動します。

インテリジェント エマージェンシーブレーキの停止のしかた



●アドバンスドドライブアシストディスプレイで設定［ ⚙ ］⇒［運転支援］⇒［緊急支援］⇒［前方衝突防止支援］を選択すると、インテリジェント エマージェンシーブレーキのON・OFFを切り替えることができます。
設定の詳細については、運転支援（➔P.80または➔P.106）をお読みください。
— 走行中はインテリジェント エマージェンシーブレーキのON・OFFを切り替えることができません。
●機能をOFFにすると、システムが停止します。（インテリジェント エマージェンシーブレーキ警告灯が点灯）
●e-POWERシステムを再始動するとONになります。

- インテリジェント エマージェンシーブレーキをOFFにすると、衝突回避ステアリングアシスト、インテリジェントFCW（前方衝突予測警報）も連動してOFFになります。
  ➲ 衝突回避ステアリングアシスト（P.282）
  ➲ インテリジェント FCW（前方衝突予測警報）（P.302）

インテリジェント エマージェンシーブレーキに関する注意事項

- 次のような障害物は検知しません。
  - 子供などの背の低い人、動物
  - 対向車両
  - 道路構造物（ガードレール、ポールなど車両と歩行者、人が乗車している自転車以外の障害物）
- システムは車両の後端を認識するため、次の例のような車両を検知しないもしくは検知できない場合があります。
  - バンパー形状などにより、タイヤが見えにくい車両
  - 幌がはみ出し、後端形状がはっきりしない車両
  - 前方を横切って通過する車両
  - 斜めもしくは前向きに止まっている車両
- 次のような場合は、前方の車両、歩行者、人が乗車している自転車を検知できないことがあります。
  - 悪天候（雨、雪、霧、風塵、砂塵、吹雪など）で視界が悪いとき
  - 前方の車両や対向車などにより水、雪、砂などの巻き上げが発生しているとき
  - カメラ前方のフロントガラスに汚れ、油膜、水滴、氷、雪などの付着やワイパーの拭き残しがあるとき
  - カメラ前方のフロントガラスがくもっているとき
  - 前方から強い光（太陽光や対向車両のハイビームなど）を受けているとき
  - 前方の強い光により前方車両のタイヤの部分が影になり見えにくいとき
  - 夜間やトンネル内などでヘッドランプを点灯していない、あるいはヘッドランプのレンズが極端に汚れているとき
  - 夜間やトンネル内などで前方の車両のテールランプが点灯していないとき
  - トンネルの出入り口や日陰など、急に明るさの変化が起こったとき
  - カーブを走行しているとき
  - 勾配の変化があるところを走行しているとき
  - 未舗装路など凹凸のある路面を走行しているとき
  - 歩行者が大きな荷物を持っている、背景と同じ色の服を着ているなど人特有の輪郭が認識できないとき
  - 前方車両からの太陽光などを強く反射されたとき
  - 対象物の位置や動きが大きく変化した場合（自車の車線変更・右左折、前方車両の右左折・急ハンドル・急加速・急減速など）
  - e-POWERシステムを始動してから約15秒間
  - e-POWERシステム始動後、走行してからインテリジェント エマージェンシーブレーキシステムが1回も障害物を検知していないとき
  - カメラの視界が遮られているとき（フロントガラスの汚れ、油膜、虫汚れ、ワイパーブレード）
  - カメラの向きがずれているとき
  - 雪や氷、泥などがレーダーセンサー周辺に付着しているとき
  - 放送局など周辺の電波源により影響を受けているとき
  - オートバイのような幅が狭い車両が前方を走行しているとき
  - 子供用の自転車、大きい荷物を載せた自転車、2人以上乗車している自転車、または特殊な形状の自転車（チャイルドシート装着車・タンデム自転車など）
- 次の例のような周辺状況では対象物の形状を正しく検出できずシステムが作動しない場合があります。
  - 対象物が背景と似た色合いで区別ができない場合
  - 対象物が道路標示（道路上の横断歩道、制限速度などの標示）の近くにある場合
  - 対象物が路面の水たまりの付近にある場合（周りの風景が水たまりに映り込むなど）
  - 対象物が建物や街路樹などの影と重なっているとき

- 対象物と自車の間に水蒸気や煙などがあるとき

●次の対象物にはシステムが作動しない場合があります。
- 歩行者、人が乗車している自転車の移動速度が速いとき
- 対向して接近する歩行者、自転車
- 歩行者の姿勢や手足の状態（手を上げているなど）により、歩行していると特定できないとき
- 夜間やトンネル内など暗い場所にいる歩行者
- 車高の低い車両または最低地上高（地面から車体までの高さ）が極端に低いもしくは極端に高い車両
- 特殊な形状の車両（タンクローリー、サイドカーなど）
- 前方の至近距離に割り込んだ車両
- 前方の至近距離に飛び出してきた歩行者、自転車
- 自車の正面から横にずれた位置に存在する車両や歩行者、人が乗車している自転車
- 後端面積が小さい車両（空荷のトラックなど）
- リヤタイヤから車両後端までが長い車両
- 四輪車以外の車両（二輪車など）
- 荷台から荷物や幌がはみ出している車両
- ショッピングカート、ベビーカー、自転車などを押しているとき

●次の例のような場合、衝突するおそれがある対象を正しく検出できない場合があります。
- 複数の対象物同士が近接している場合
- 衝突するおそれのある対象の二輪車または車高の低い車両の前方近くに車両がいる場合

●外部の騒音などにより、警報音（ブザー）が聞こえない場合があります。

●次のような場合は、システムが機能を十分に発揮できないことがあります。
- 滑りやすい路面を走行しているとき
- 勾配のある路面を走行しているとき
- 外気温が低いときや走行開始直後などでブレーキが冷えているとき
- 下り坂などでブレーキが過熱してブレーキの効きが悪くなっているとき
- 水たまり走行後や洗車後などブレーキが濡れてブレーキの効きが悪くなっているとき
- 長期間駐車などで、ブレーキの性能が十分に発揮できないとき
- 摩耗しているタイヤ、空気圧不足のタイヤ、スペアタイヤのような非常用タイヤ、日産純正品もしくは日産販売会社で購入したタイヤ以外を使用しているときや、タイヤチェーンを装着しているとき
- 純正品以外のブレーキ部品、サスペンション部品を使用しているとき
- 車両が傾いているとき（後席やラゲッジルームに極端に重い荷物を積んでいるとき）

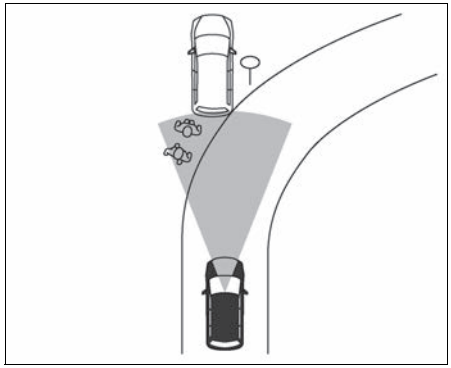
●路面または壁面の影や模様・ペイント（かすれた道路標示や漢字で構成される特殊な道路標示、濡れた路面に映り込んだ模様、わだちなどや光の反射を含む）、前方の道路構造物（トンネル、高架橋、交通標識、車両脇に設置された反射器（リフレクター）、反射シート、ガードレール、カーブミラー、電柱や電線、看板）などで構成される形状が、車両や歩行者、自転車の輪郭の特徴や車両のテールランプの大きさ・位置などと似通っている場合、システムが作動する場合があります。

●右左折中の前の車両にシステムが作動を継続する場合があります。

●前の車両に接近し追い越す場合、システムが作動する場合があります。

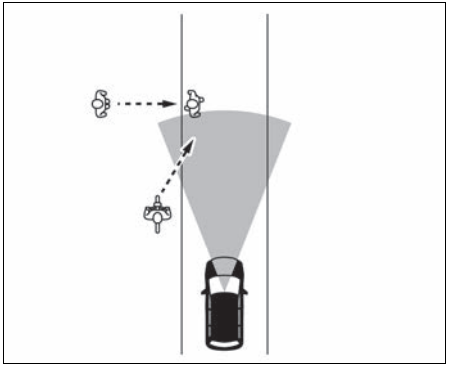
●道路形状（カーブ、カーブの出入り口、ワインディング、車線規制や工事中など）によっては、一時的に自車正面の対向車にシステムが作動する場合があります。

●次のような物に反応し、システムが作動する場合があります。



- 道路脇にある物（道路標識、ガードレール、歩行者、自転車、人が乗車している自転車、車両など）

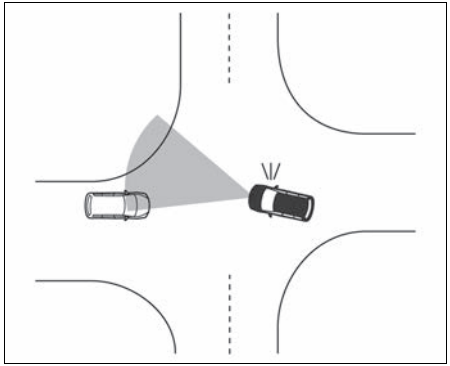
— 道幅が狭い路地などを走行する際の歩行者・人が乗車している自転車



— 路肩の障害物を避けるため、一時的に自車前方の走行レーンにはみ出したり、近づいたりする歩行者や人が乗車している自転車
— 路面上にある物（線路、格子、鉄板など）
— 駐車場内にある物（梁など）
— 走行車線または隣接する車線の歩行者、車両など
— 走行車線または隣接する車線に近づいてくる歩行者、車両など
— 対向して接近する歩行者
— 走行路にある物（近接する樹木など）

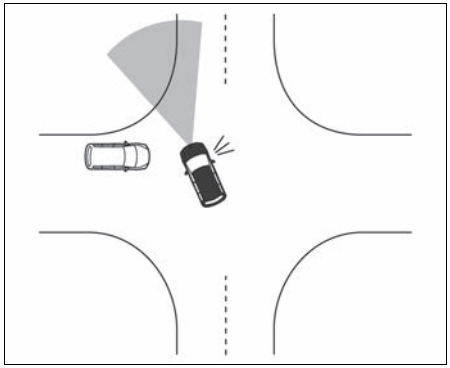
右左折時支援について

● 右左折時支援は次のような障害物を検知しません。

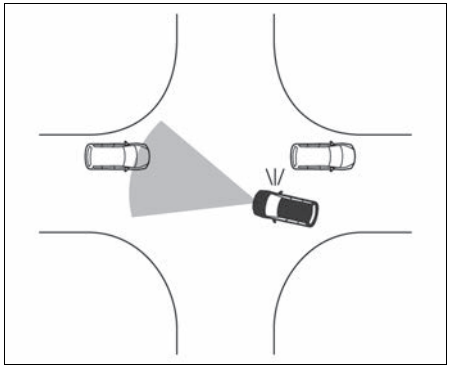


— 自車正面の対向車両

● 次の場合、右左折時支援が正しく作動しないか、衝突するおそれがある対象を正しく検出できない場合があります。
— 対向車から2車線以上離れた車線を走行しているとき
— 対向車が自車の正面から大きく外れているとき



— 対向車線を横断しているときに、対向車が接近してきたとき
— 急カーブを曲がるとき
— 中央線を認識していないとき



— 対向車が連続しているとき
— 車線幅が極端に広いもしくは狭いとき
— 中央線が道路標示の近くにあるとき

● 次の場合、衝突のおそれがあるとシステムが判断し、右左折時支援が作動する場合があります。
— 対向車または横断歩行者が前方を通過したとき
— 対向車または横断歩行者の手前を通過しようとしたとき
— 対向車または横断歩行者が自車の進路に入る手前で停止したとき
— 対向車が自車の前方で右折または左折したとき

● 次のようなものに反応し、右左折時支援が作動する場合があります。

— 急ハンドルや急減速などで、動きが予測できない対向車

インテリジェント エマージェンシーブレーキの作動が停止するとき

- 次の場合、インテリジェント エマージェンシーブレーキ警告灯［ ］が点灯し、作動が停止します。
  - — インテリジェント エマージェンシーブレーキの設定をOFFにしたとき
- 次の場合、インテリジェント エマージェンシーブレーキ警告灯［ ］が点灯するとともに、アドバンスドドライブアシストディスプレイに警告を表示し、システムが一時的に作動しなくなります。
  - — VDCをOFFにしたとき
  - — フロントガラスの汚れなどにより、カメラの前方視界が遮蔽されていると判断したとき
  - — 前方からの強い光により、カメラが前方を認識できなくなったとき
  - — 炎天下に駐車したときなど、カメラが高温になったとき
    （車室内の温度が下がると、作動を復帰します）
  - — 悪天候（雨、雪、霧、風塵、砂塵、吹雪など）で視界が悪いとき
  - — フロントガラスの結露やくもりなどにより、マルチセンシングフロントカメラが前方を認識できなくなったとき
  - — 周辺の電波源の影響を受けているときシステムが停止したときの状態が改善されると、自動的に作動を再開します。
  - — 車両前部に取り付けられたレーダーセンサー周辺に雪や氷、泥などが付着しているとき
    上記警告が表示されたときは、安全な場所に停車し、一度e-POWERシステムを停止してからレーダーセンサーおよびその周辺の汚れを取り除き、e-POWERシステムを再始動してください。
  - — 道路形状や周辺の建造物（長い橋、雪原、長い壁の横など）により、レーダーセンサーが先行車を正確に検知できないとき
    上記の状況から離れるとシステムは自動的に作動を再開します。
  - — 夜間やトンネル内などでヘッドランプを点灯せず、真っ暗な状態が継続したとき
  - — インテリジェント エマージェンシーブレーキのシステムチェックが正常に終了しなかったとき
  - — けん引されているとき
- システムに異常があると、警告音が鳴るとともにインテリジェント エマージェンシーブレーキ警告灯［ ］が点灯し、アドバンスドドライブアシストディスプレイ内に警告が表示され、システムが停止します。
  警告灯（➔P.415）
  警告メッセージ（➔P.433）
- e-POWERシステムが始動してから約15秒間はシステムチェックのためインテリジェント エマージェンシーブレーキシステムは作動しません。
  （システムチェックが完了しなかった場合、アドバンスドドライブアシストディスプレイ内に［現在一部の運転支援を制限しています］という警告が表示されます）

アドバイス

- システムを正しく作動させるためにカメラ前方のフロントガラスはいつもきれいにしておいてください。マルチセンシングフロントカメラの取り扱いについては、（➔P.475）をお読みください。
- インテリジェント エマージェンシーブレーキ警告灯［ ］が点灯したときは、安全な場所に停車し、一度e-POWERシステムを停止してから再始動してください。

  上記の操作をしても、警告灯が点灯し続けるときはシステムの異常が考えられます。通常走行には支障はありませんが、日産販売会社で点検を受けてください。

  警告灯（➔P.415）

- VDCをOFFにしたときは、接近警報のみ作動します。

衝突回避ステアリングアシスト

衝突回避ステアリングアシストは、前方の障害物に対するステアリングによる回避操作を

検出した場合、運転者のハンドル操作を支援します。

システムに関連する表示

⚠ 警告

- **機能には限界があるため、過信せず安全運転を心がける。**

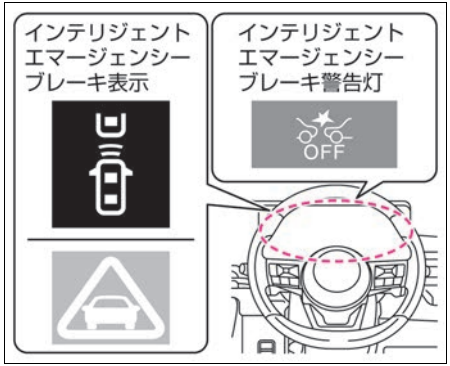
  衝突回避ステアリングアシストは、前方の車両や歩行者、人が乗車している自転車との衝突回避操作を支援することを目的としています。あらゆる状況で効果があるわけではありません。

  必ず周囲の安全確認を行い、前方車両との車間距離を十分に維持して安全運転を心がけて走行してください。

- **レーダーやマルチセンシングフロントカメラの性能には限界があるため、システムだけに頼った運転はせず、常に安全運転を心がけてください。詳細については、各検知条件と制限をお読みください。**

  ➔ レーダーセンサーの検知条件と制限 (P.226)

  ➔ マルチセンシングフロントカメラの検知条件と制限 (P.227)



- プロパイロット2.0付車は衝突回避ステアリングアシストが作動すると、ヘッドアップディスプレイにも警告表示が表示されます。

衝突回避ステアリングアシストについて

- 車速約30km/h～100km/hの範囲で作動します。
- 次の物体を対象に作動します。
  - 車両
  - 歩行者
  - 人が乗車している自転車

衝突回避ステアリングアシストの停止のしかた

➔ インテリジェント エマージェンシーブレーキの停止のしかた (P.278)をお読みください。

衝突回避ステアリングアシストに関する注意事項

➔ インテリジェント エマージェンシーブレーキに関する注意事項 (P.279)をお読みください。

衝突回避ステアリングアシストの作動が停止するとき

➔ インテリジェント エマージェンシーブレーキの作動が停止するとき (P.282)をお読みください。

踏み間違い衝突防止アシスト

踏み間違い衝突防止アシストは、マルチセンシングフロントカメラ、インテリジェント アラウンドビューモニターカメラ（リヤビューカメラ）★とソナーで進行方向に壁などの障害物、車両や歩行者を検知し、駐車操作時など低速のときにブレーキペダルと間違えてアクセルペダルを踏み込む、あるいはブレーキ操作が遅れたときに運転者に音と表示で警告します。

さらにe-POWERシステムやブレーキを制御することで、過度な加速の防止や障害物への衝突防止を支援します。

システムに関連する表示

⚠ 警告

- **機能には限界があるため、過信せず安全運転を心がける。**

⚠ 警告

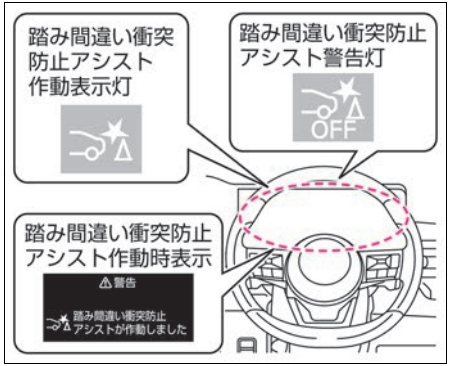
踏み間違い衝突防止アシストは、アクセルペダルとブレーキペダルの踏み間違えにより引き起こされる暴走や衝突事故の軽減を目的とした補助機能です。あらゆる状況で効果があるわけではありません。運転者は周囲の安全確認を行い、常に注意深い運転操作を心がけて走行してください。

- **ソナーやマルチセンシングフロントカメラ、インテリジェント アラウンドビューモニターカメラ（リヤビューカメラ）★の性能には限界があるため、システムだけに頼った運転はせず、常に安全運転を心がけてください。詳細については、各検知条件と制限をお読みください。**

➲ マルチセンシングフロントカメラの検知条件と制限（P.227）

➲ ソナーの検知条件と制限（P.228）

➲ インテリジェント アラウンドビューモニターカメラの検知条件と制限（P.330）



- 踏み間違い衝突防止アシストが作動すると、警告音（ブザー）が鳴るとともに作動時表示と作動表示灯が表示されます。インテリジェント アラウンドビューモニター付車は、インテリジェント アラウンドビューモニター画面に赤枠が表示されます。
- プロパイロット2.0付車はヘッドアップディスプレイにも警告表示が表示されます。

踏み間違い衝突防止アシストの作動

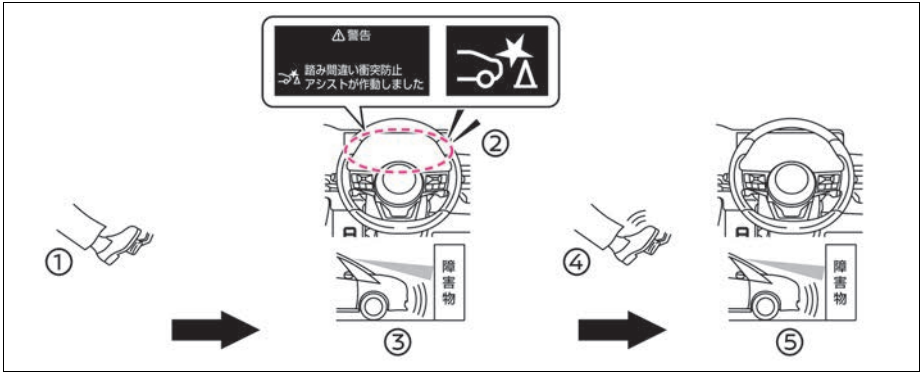
前進時

- フロントガラス上部のマルチセンシングフロントカメラにより前方の車両や歩行者を検知し、フロントバンパーに取り付けられたソナーにより、前方の障害物を検知します。

後退時

- リヤナンバープレート上部のインテリジェント アラウンドビューモニターカメラ（リヤビューカメラ）★とリヤバンパーに取り付けられたソナーにより、後方の障害物を検知します。
- 踏み間違い衝突防止アシストには、2つの機能があります。
  - 低速加速抑制機能
  - 低速衝突軽減ブレーキ機能

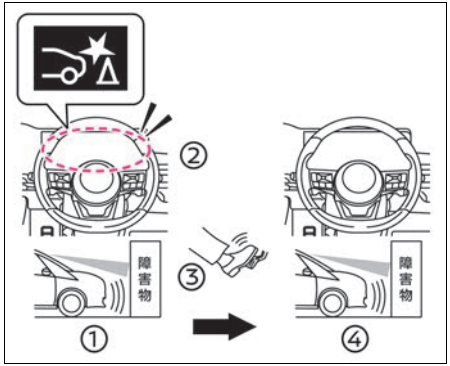
低速加速抑制機能



① アクセル誤踏み込み
② 警報音と作動表示
③ 低速加速抑制
④ ブレーキ
⑤ 停車、作動停止

- 前進または後退時（停車時含む）、進行方向に車両や歩行者（前進時）、壁などの障害物を検出している場合に、アクセルペダルが必要以上に踏み込まれたとシステムが判断すると、約6秒間加速を抑制したり、弱いブレーキをかけたりすることで車速が上がることを抑えます。
- 次の車速範囲で作動します。
  - 車両、歩行者に対しては、車速約0～25km/h
  - 壁などの障害物に対しては、車速約0～15km/h
- 低速加速抑制機能が作動しているときは、警報音（ブザー）と踏み間違い衝突防止アシスト作動表示灯が表示します。また、アドバンスドドライブアシストディスプレイの表示によって運転者に警告します。
  警告メッセージ（➔P.423）

低速衝突軽減ブレーキ機能



① 低速衝突軽減ブレーキ
② 警報音と作動表示
③ ブレーキ
④ 停車、作動停止

- 前進、または後退時、進行方向に車両や壁などの障害物を検知し、衝突するおそれがあるとシステムが判断すると、e-POWERシステムの出力の制御、およびブレーキをかけて衝突を回避、または被害の軽減をします。
- インテリジェント アラウンドビューモニター付車は、後退時、進行方向に歩行者を検知し、衝突するおそれがあるとシステムが判断すると、e-POWERシステムの出力の制御、およびブレーキをかけて衝突を回避、または被害の軽減をします。
- 低速衝突軽減ブレーキ機能は、車速約15km/h以下のとき作動します。

- 低速衝突軽減ブレーキ機能が作動すると、警報音（ブザー）と踏み間違い衝突防止アシスト作動表示灯の表示によって運転者に警告します。
- 低速衝突軽減ブレーキ機能が作動したときは、制動灯が点灯します。
- 低速衝突軽減ブレーキ機能が作動しているときは、作動音が聞こえることがありますが異常ではありません。

低速衝突軽減ブレーキが作動するとき・しないとき

車止めのない駐車場などで、壁などに衝突しそうになったとき

万一、運転者のブレーキ操作が遅れ、壁などに衝突するおそれがあるとシステムが判断すると、警報音（ブザー）と踏み間違い衝突防止アシスト作動表示灯が表示し、ブレーキをかけて衝突を回避または被害を軽減します。

- ブレーキ制御が作動したあと、再び同じ障害物に近づいたときは作動しません。
- アクセルペダルまたはブレーキペダルを踏んで前進・後退する状況などでは作動が遅れ十分に機能しない場合があります。

縦列駐車をするとき

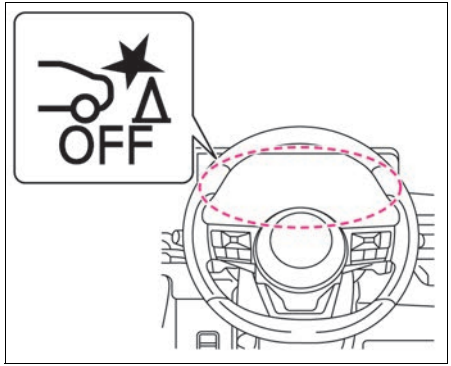
シフトポジションをDからR、またはRからDに切り替えたときは、<シフトスイッチ>の操作を繰り返すたびに進行方向の障害物を検知してブレーキ制御が作動します。

- ブレーキ制御が作動したあと、シフトポジションを切り替えずにさらに同じ障害物に向かって前進、または後退をした場合は、ブレーキ制御は作動しません。
- アクセルペダルを踏んでいるときは作動が遅れることがあります。
- シフトポジションがRのときは、前方の障害物に対しては作動しません。同様に、シフトポジションがDまたはBのときは後方の障害物に対して作動しません。
- 障害物に対し斜めに接近すると作動しないことがあります。
- 幅の狭い障害物に対しては作動しないことがあります。
- 他の車両が自車両に対して横にずれた位置にあるときは、作動しないまたは作動が遅れることがあります。

並列駐車をするとき

- 狭いスペースに進入するときに作動することがあります。
- 他の車両の角部に向かって接近したときは作動しません。
- 他の車両が自車両に対して横にずれた位置にあるときは、作動しないまたは作動が遅れることがあります。
- シフトポジションがRのときは、前方の障害物に対しては作動しません。同様に、シフトポジションがDまたはBのときは後方の障害物に対して作動しません。
- 壁から突き出している柱や配管などの障害物に対しては作動しません。
- 低い障害物に対しては作動しません

踏み間違い衝突防止アシストの停止のしかた



- アドバンスドドライブアシストディスプレイで設定［ ⚙ ］⇒［運転支援］⇒［緊急支援］⇒［踏み間違い衝突防止支援］を選択すると、踏み間違い衝突防止アシストのON・OFFを切り替えることができます。
  設定の詳細については、運転支援（➔P.80または➔P.106）をお読みください。
- 機能をOFFにすると、踏み間違い衝突防止アシスト警告灯が点灯し、システムが停止します。
- シフトポジションをRにしてソナー表示中にステアリングスイッチの<OK>スイッチを押すと、一時的に後方の低速加速抑制機能、低速衝突軽減ブレーキ機能を停止できます。
- e-POWERシステムを再始動するとONになります。

踏み間違い衝突防止アシストに関する注意事項

⚠ 警告

- **故意にアクセルペダルを踏み込まない。**

  車両が急に動き出し思わぬ事故につながるおそれがあります。また、低速加速抑制機能は、アクセルペダルをゆっくりと深く踏み込んだときには作動しません。

- **次の場合は、予期せずシステムが作動し、思わぬ事故につながるおそれがあるため、踏み間違い衝突防止アシストをOFFにする。**
  - けん引するとき
  - トレーラーなどに積載するとき
  - 点検などでシャシーダイナモを使用するとき
  - 純正品以外のサスペンション部品を使用しているとき（車高や車両の傾きが変わると正しく障害物を検知できないことがあります）
  - センサーを妨げるようなバイクラックなどを装着しているとき
- **外部の騒音などにより、警報音（ブザー）が聞こえない場合があります。**

低速衝突軽減ブレーキ機能について

- **ブレーキ制御は短時間しか作動しません。必ず運転者がブレーキペダルを踏んでください。**

低速加速抑制機能が作動したあとに低速衝突軽減ブレーキ機能が作動したときは、車両が停止してから約2秒後にブレーキが解除され、車両が動き出します。

⚠ 注意

低速衝突軽減ブレーキ機能について

- **システムの作動を待たず、すみやかにブレーキ操作を行う。**

  車両の状態、走行状況、交通環境、天候、路面状況などにより作動しない場合や、本来の性能を発揮できないことがあります。

- **アクセルペダルを踏んだ状態で障害物に接近したときは、作動が遅れることがあります。**

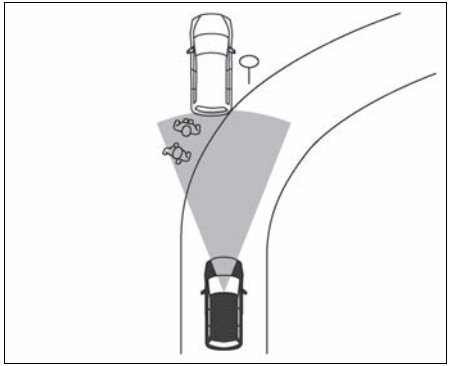
アドバイス

- 次の場合は、システムが正常に作動しない、または機能を十分に発揮できないことがあります。
  - 悪天候（雨、霧、雪など）のとき
  - 勾配が急な坂道を走行しているとき
  - 段差などをまたいでいるときなど車両姿勢が変化しているとき
  - 滑りやすい路面を走行しているとき
  - ハンドルを大きく切って旋回しているとき
  - 外気温が低いときや走行開始直後などでブレーキが冷えているとき
  - 下り坂などでブレーキが過熱、または水たまり走行後や洗車後などでブレーキが濡れてブレーキの効きが悪くなっているとき
  - 長期間駐車などで、ブレーキの性能が十分に発揮できないとき
  - 摩耗しているタイヤ、空気圧不足のタイヤ、スペアタイヤのような非常用タイヤ、日産純正品もしくは日産販売会社で購入したタイヤ以外を使用しているときや、タイヤチェーンを装着しているとき
  - 車両が傾いているとき（後席やラゲッジルームに極端に重い荷物を積んでいるとき）
- 動いている物体に対しては踏み間違い衝突防止アシストは作動しません。（前方の車両、歩行者を除く）

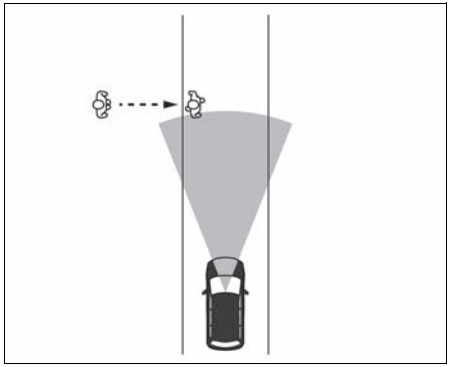
低速加速抑制機能について

- ソナーで検出した壁や車両などの大きな障害物に対して作動します。車両の幅以下の障害物は検知しません。
- マルチセンシングフロントカメラで検出した衝突のおそれのある前方の車両や歩行者に対して作動します。
- 低速加速抑制機能は、運転者がアクセルペダルを戻すと解除されます。
- 渋滞中などで前方にいる車両を追い越すときなどに低速加速抑制機能が一時的に作動することがあります。

- 信号待ちや右折待ちなどで、車間距離の短い状態から前の車に続いて発進する際、アクセルペダルをすばやく深く踏み込むと低速加速抑制機能が一時的に作動することがあります。
- 次の場合は作動しません。
  - アクセルペダルをゆっくりと踏み込んだとき
  - ブレーキペダルを踏んでいるとき
  - シフトポジションが D、B、R 以外のとき
  - トラクションコントロール機能（TCS）が作動しているとき
  - タイヤが空転しているとき
- 路面または壁面の模様・ペイント（かすれた道路標示や漢字で構成される特殊な道路標示を含む）、前方の道路構造物（トンネル、高架橋、交通標識、車両脇に設置された反射器（リフレクター）、反射シート、ガードレール）などで構成される形状が、車両や歩行者の輪郭の特徴や車両のテールランプの大きさ・位置などと似通っている場合、マルチセンシングフロントカメラが対象物の形状を正しく検出できずシステムが作動する場合があります。
- 自転車で走行している人を歩行者と検知し、システムが作動する場合があります。
- 次のような物に反応し、システムが作動する場合があります。



  - 道路脇にある物（道路標識、ガードレール、歩行者、車両など）



  - 歩行者が自車前方の走行レーンに近づいた場合
  - 道路上方にある物（低い橋、道路標識など）
  - 路面上にある物（線路、格子、鉄板など）
  - 駐車場内にある物（梁など）
  - 走行車線または隣接する車線の歩行者、車両など
  - 走行車線または隣接する車線に近づいてくる歩行者、車両など
  - 対向して接近する歩行者
  - 走行路にある物（近接する樹木など）

低速衝突軽減ブレーキ機能について

- ブレーキ制御が作動したあと、再び同じ障害物に近づいても作動しません。
- 次の場合は作動しません。
  - シフトポジションが D、B、R 以外のとき
- シフトポジションがRのときは、前方の障害物に対しては作動しません。同様に、シフトポジションがDまたはBのときは後方の障害物に対して作動しません。

踏み間違い衝突防止アシストの作動が停止するとき

アドバイス

- システムを正しく作動させるためにソナー、マルチセンシングフロントカメラ、インテリジェント アラウンドビューモニターカメラ（リヤビューカメラ）★はいつもきれいにしておいてください。各センサー、カメラ類の取り扱いについては（➔P.475）、（➔P.476）、（➔P.476）をお読みください。

アドバイス

- 踏み間違い衝突防止アシスト警告灯［ ］が点灯したときは、安全な場所に停車し、一度e-POWERシステムを停止してから再始動してください。

  上記の操作をしても、警告灯が点灯し続けるときはシステムの異常が考えられます。通常走行には支障はありませんが、日産販売会社で点検を受けてください。

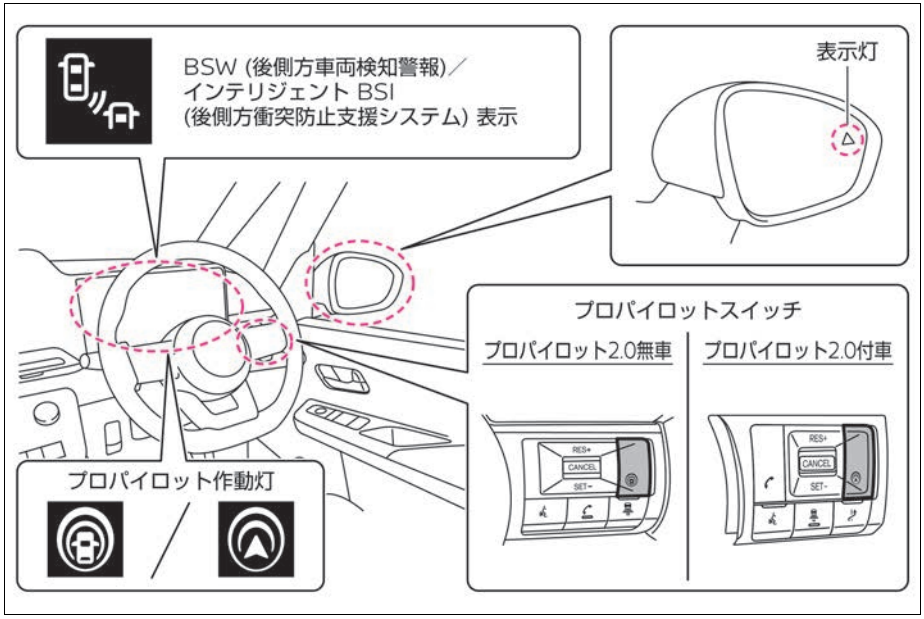
  警告灯（➔P.416）

- 次の場合、踏み間違い衝突防止アシスト警告灯［ ］が点灯し、作動が停止します。
  - 踏み間違い衝突防止アシストの設定をOFFにしたとき
  - VDCをOFFにしたとき
- 踏み間違い衝突防止アシストが一時的に作動できなくなったときは、踏み間違い衝突防止アシスト警告灯［ ］がゆっくり点滅します。
- システムに異常があると、警告音が鳴るとともに踏み間違い衝突防止アシスト警告灯［ ］が点灯し、アドバンスドドライブアシストディスプレイ内に警告が表示され、システムが停止します。
  警告灯（➔P.416）
  警告メッセージ（➔P.424）

BSW（後側方車両検知警報）／インテリジェントBSI（後側方衝突防止支援システム）

BSW（後側方車両検知警報）は、車線変更をするとき、隣車線に車両がいる場合に警報によって運転者に注意を促します。インテリジェントBSI（後側方衝突防止支援システム）は、隣車線に車両がいるときに運転者が車線変更を開始した場合、警報とともに車両を元の車線内に戻す方向に力を発生させ、隣接車両との接触を回避するよう支援します。

システムに関連する表示とスイッチ



⚠ 警告

- **機能には限界があるため、過信せず安全運転を心がける。**

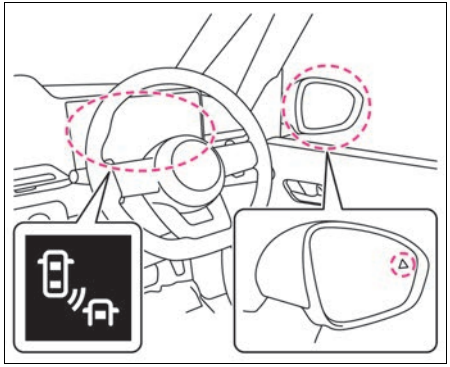
  BSW（後側方車両検知警報）およびインテリジェントBSI（後側方衝突防止支援システム）は、ドアミラーによる周囲の検知を代わりに行ったり、車両や障害物との接触を防いだりする機能ではありません。車線変更を行うときは、機能に頼った確認をせず、必ずドアミラーおよびルームミラーで側方および後方の安全を確認してください。

- **レーダーやマルチセンシングフロントカメラの性能には限界があるため、システムだけに頼った運転はせず、常に安全運転を心がけてください。詳細については、各検知条件と制限をお読みください。**

  ➲ レーダーセンサーの検知条件と制限（P.226）

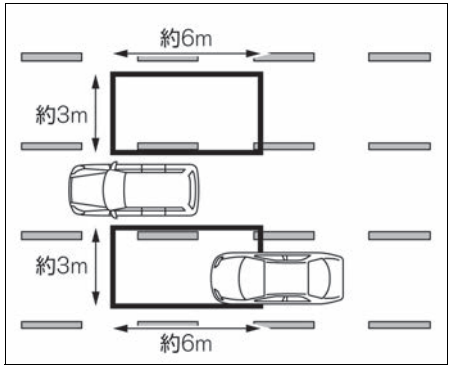
  ➲ マルチセンシングフロントカメラの検知条件と制限（P.227）

BSW（後側方車両検知警報）について



- 車両後部のレーダーセンサーにより隣車線の車両を検知します。
- 車速約30km/h以上で作動します。
- レーダーセンサーにより隣車線の車両を検知すると、検知した側のドアミラー鏡面の表示灯が点灯します。
- 隣車線の車両を検知しているときに、検知している側に方向指示器を作動させると、警報音（ブザー）とともにアドバンスドドライブアシストディスプレイのBSW（後側方車両検知警報）表示と、ドアミラー鏡面の表示灯が点滅します。

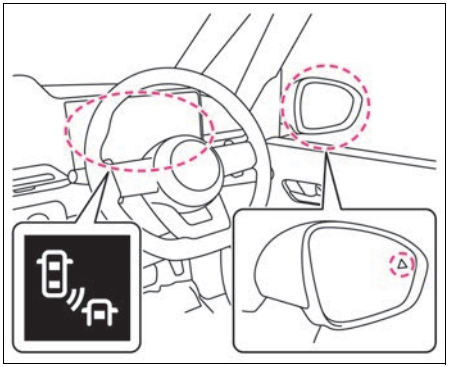
検知範囲について



- レーダーセンサーは、自車両の左右にある検知範囲内にいる車両を検知します。
- 検知範囲は、自車両のドアミラーから後方に約6m、車両の側面から横方向に約3mです。
- ドアミラー鏡面の表示灯は＜パワースイッチ＞をONにすると点灯し、数秒後に消灯します。
- ドアミラー鏡面の表示灯の明るさは車両周囲の明るさによって切り替わります。
- 方向指示器が作動しているときに、レーダーセンサーにより隣車線の車両を検知した場合には、表示灯は点滅しますが警報音（ブザー）は鳴りません。
- アドバンスドドライブアシストディスプレイを運転支援に切り替えると、BSW（後側方車両検知警報）の設定状態をアドバンスドドライブアシストディスプレイ内で確認することができます。
  詳しくは、アドバンスドドライブアシストディスプレイとは（メインメニュー）

（➔P.64または➔P.95）をお読みください。

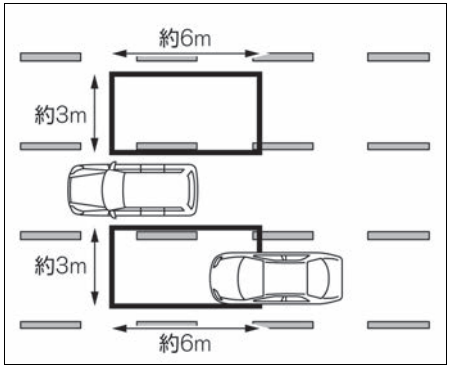
インテリジェントBSI（後側方衝突防止支援システム）について



- 車両後部のレーダーセンサーにより隣車線の車両を検知します。また、ルームミラー上方に取り付けられたカメラを使用し、走行している車線のレーンマーカーを検知します。
- 約60km/h以上で走行中に隣車線の車両を検知しているとき、検知している側のレーンマーカーに自車両が接近すると、警報音（ブザー）とともにアドバンスドドライブアシストディスプレイのインテリジェントBSI（後側方衝突防止支援システム）表示と、ドアミラー鏡面の表示灯が点滅します。同時にステアリングを制御し、車両を車線内に戻す操作を支援します。

レーンマーカーとは、車線の右側もしくは左側に引かれた線のことを示します。

検知範囲について



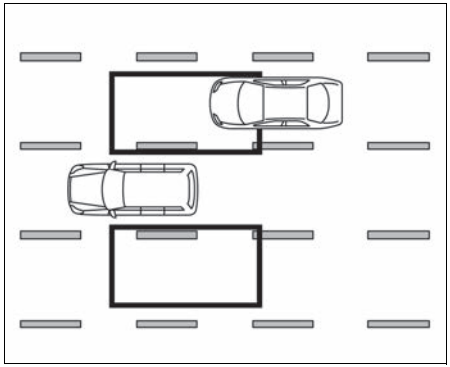
- レーダーセンサーは、自車両の左右にある検知範囲内にいる車両を検知します。
- 検知範囲は、自車両のドアミラーから後方に約6m、車両の側面から横方向に約3mです。
- あらかじめ表示灯が点灯した状態で自車両がレーンマーカーに接近すると、警報とステアリング制御の両方が作動します。
  ただし、自車両がレーンマーカーと交差してから検知範囲に車両が入ってきたときは、警報とステアリング制御は作動しません。
- インテリジェントBSI（後側方衝突防止支援システム）は、インテリジェントLI（車線逸脱防止支援システム）よりも先に作動します。
- アドバンスドドライブアシストディスプレイを運転支援に切り替えると、インテリジェントBSI（後側方衝突防止支援システム）の作動状態をアドバンスドドライブアシストディスプレイ内で確認することができます。
  詳しくは、アドバンスドドライブアシストディスプレイとは（メインメニュー）（➔P.64または➔P.95）をお読みください。

作動するとき・しないとき

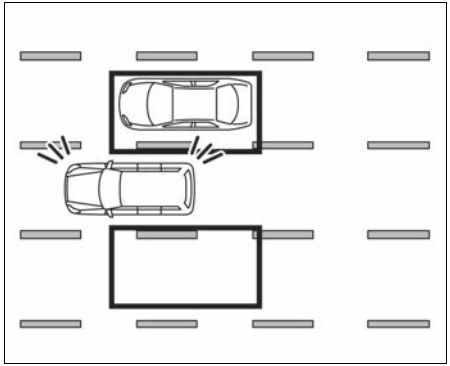
⚠ 注意

- **車線変更を行うときは、必ずドアミラーおよびルームミラーを使用して周囲の安全を確認する。**
  自車両より極端に速い速度で接近してくる車両は検知できないことがあります。

後方から車両が接近してくるとき



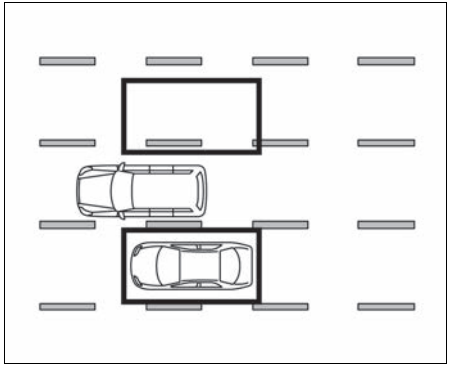
- 後方から車両が接近してくる場合、その車両が検知範囲内に入るとドアミラー鏡面の表示灯が点灯します。



●車両を検知しているときに、検知している側に方向指示器を作動させると警報音（ブザー）が鳴るとともに、BSW（後側方車両検知警報）／インテリジェントBSI（後側方衝突防止支援システム）表示とドアミラー鏡面の表示灯が点滅します。

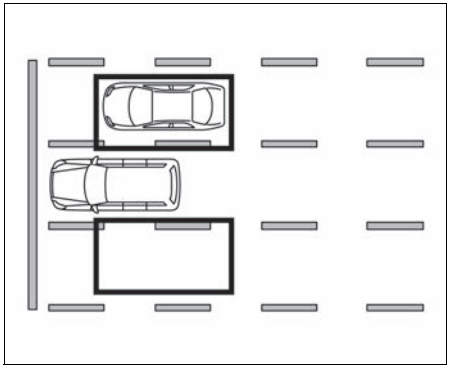
●方向指示器を作動したあとに、検知範囲に車両が入ってきたときは、BSW（後側方車両検知警報）／インテリジェントBSI（後側方衝突防止支援システム）表示とドアミラー鏡面の表示灯は点滅しますが警報音（ブザー）は鳴りません。

●自車両がレーンマーカーと交差してから検知範囲に車両が入ってきたときは、警報とステアリング制御は作動しません。



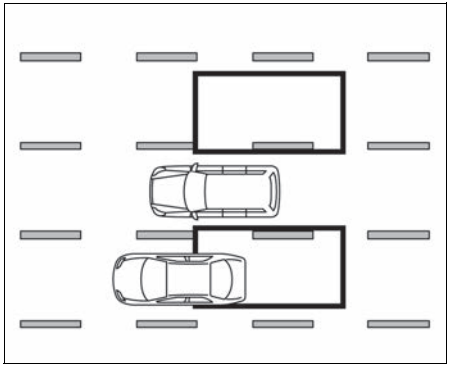
●車両を検知しているときに、検知している側のレーンマーカーに接近すると、警報音（ブザー）が鳴るとともにBSW（後側方車両検知警報）／インテリジェントBSI（後側方衝突防止支援システム）表示とドアミラー鏡面の表示灯が点滅します。同時にステアリングを制御し、車両を車線内に戻す操作を支援します。

発進するとき

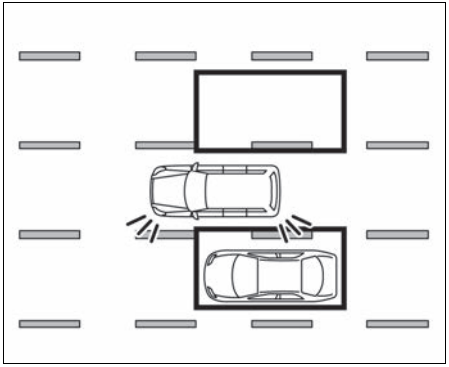


●停車状態から検知範囲に居続ける車両は検知できないことがあります。

他の車両を追い越すとき

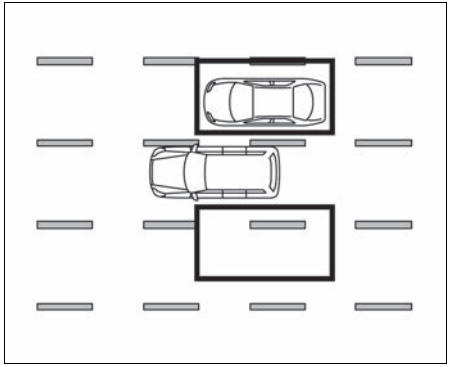


●他の車両を追い越すとき、追い越される車両が検知範囲内に2秒以上とどまるとドアミラー鏡面の表示灯が点灯します。



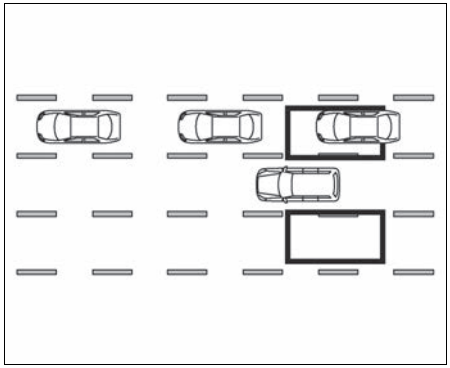
● 車両を検知し表示灯が点灯しているときに、検知している側に方向指示器を作動させると警報音（ブザー）が鳴るとともに、BSW（後側方車両検知警報）／インテリジェント BSI（後側方衝突防止支援システム）表示とドアミラー鏡面の表示灯が点滅します。

● 速度の遅い車両をすばやく追い越したときはシステムが検知しません。



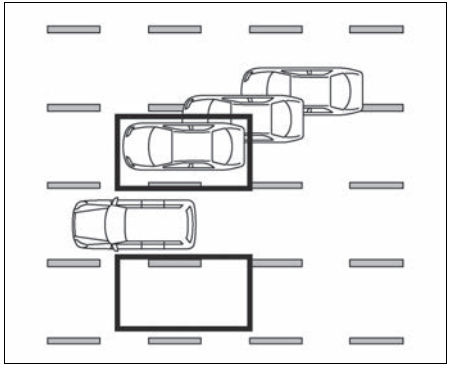
● 車両を検知しているときに、検知している側のレーンマーカーに接近すると、警報音（ブザー）が鳴るとともにBSW（後側方車両検知警報）／インテリジェント BSI（後側方衝突防止支援システム）表示とドアミラー鏡面の表示灯が点滅します。
同時にステアリングを制御し、車両を車線内に戻す操作を支援します。

他の車両に追い越されるとき

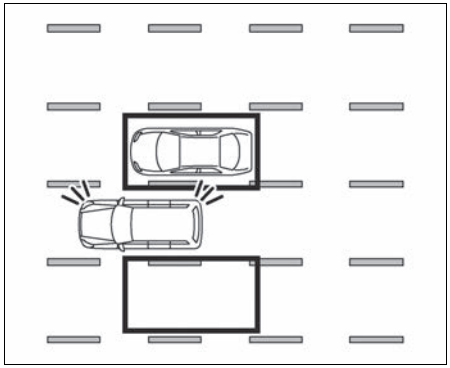


● 複数の車両に連続して追い越されるとき、追い越す車両の車間距離が短い場合は、2台目以降が検出されないことがあります。

他の車線から車両が接近してきたとき



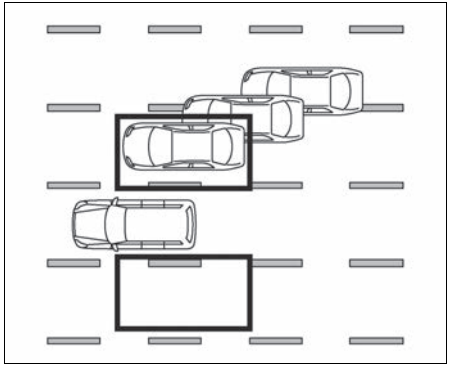
●車線変更などで車両が接近してきたときは、検知範囲内に入るとドアミラー鏡面の表示灯が点灯します。



●車両を検知しているときに、検知している側に方向指示器を作動させると警報音（ブザー）が鳴るとともに、BSW（後側方車両検知警報）／インテリジェントBSI（後側方衝突防止支援システム）表示とドアミラー鏡面の表示灯が点滅します。

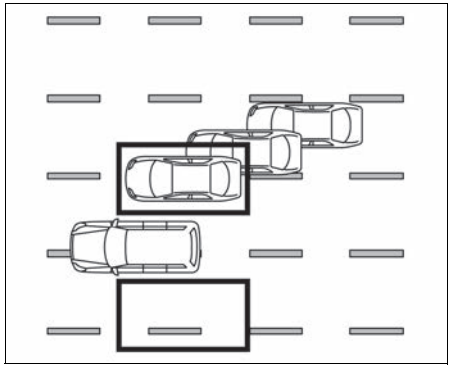
●自車両とほぼ同じ速度で走行する車両が車線変更してきた場合、検出できないことがあります。

●方向指示器を作動させたあとに、検知範囲に車両が入ってきたときは、BSW（後側方車両検知警報）／インテリジェントBSI（後側方衝突防止支援システム）表示とドアミラー鏡面の表示灯は点滅しますが警報音（ブザー）は鳴りません。



●車両を検知しているときに、検知している側のレーンマーカーに接近すると、警報音（ブザー）が鳴るとともにBSW（後側方車両検知警報）／インテリジェントBSI（後側方衝突防止支援システム）表示とドアミラー鏡面の表示灯が点滅します。
同時にステアリングを制御し、車両を車線内に戻す操作を支援します。

自車両がレーンマーカーの上を走行しているとき



●検知範囲に車両が入ってもインテリジェントBSI（後側方衝突防止支援システム）は作動しません。
この場合、BSW（後側方車両検知警報）のみが作動します。

BSW（後側方車両検知警報）／インテリジェントBSI（後側方衝突防止支援システム）の使いかた

BSW（後側方車両検知警報）

●アドバンスドドライブアシストディスプレイで設定［ ⚙ ］⇒［運転支援］⇒［後側方支援］⇒［後側方車両検知警報］を選択すると、BSW（後側方車両検知警報）機能のON・OFFを切り替えることができます。
設定の詳細については、運転支援（➔P.80または➔P.106）をお読みください。

インテリジェントBSI（後側方衝突防止支援システム）

- アドバンスドドライブアシストディスプレイで設定［ ⚙ ］⇒［運転支援］⇒［後側方支援］⇒［後側方衝突防止支援］をONにしているとき、<プロパイロットスイッチ>を押すとシステムがONになります。（プロパイロット作動灯［ ］／［ ］が点灯）
  インテリジェントBSI（後側方衝突防止支援システム）をONにするには、BSW（後側方車両検知警報）をONにしている必要があります。
  設定の詳細については、運転支援（➔P.80または➔P.106）をお読みください。
- <プロパイロットスイッチ>を押すと、インテリジェントLI（車線逸脱防止支援システム）のON・OFFを同時に切り替えることができます。
- アドバンスドドライブアシストディスプレイで設定［ ⚙ ］⇒［運転支援］⇒［後側方支援］⇒［後側方衝突防止支援］でOFFにすると、インテリジェントBSI（後側方衝突防止支援システム）だけをOFFにできます。
- e-POWERシステムを停止するとインテリジェントBSI（後側方衝突防止支援システム）はOFFになります。
- アドバンスドドライブアシストディスプレイのON・OFF設定は、e-POWERシステムを停止しても再度設定を変更するまでその状態が維持されます。

BSW（後側方車両検知警報）／インテリジェントBSI（後側方衝突防止支援システム）に関する注意事項

⚠ 警告

- **次のような状況では、思わぬ事故につながるおそれがあるためインテリジェントBSI（後側方衝突防止支援システム）を使用しないでください。**
  - 悪天候（雨、雪、霧など）のとき
  - 凍結路や積雪路など滑りやすい路面を走行するとき
  - 急なカーブ、急な上り坂・下り坂が繰り返されるとき
  - 工事中の道路や車線規制がある道路を走行するとき
  - 車線の幅が狭い道路を走行するとき
  - 摩耗しているタイヤ、空気圧不足のタイヤ、スペアタイヤ、タイヤチェーンを装着しているときや、日産純正品もしくは日産販売会社で購入したタイヤ以外のタイヤを使用しているとき
  - 純正部品以外のステアリング部品、ブレーキ部品、サスペンション部品を使用しているとき
- **次のような車両は、正確に検知できず、システムが正しく作動しないおそれがあります。**
  - 背の低い車両や、オートバイなどの幅の狭い車両
  - 停車状態から検知範囲に居続ける車両
  - 後方から速い速度で接近してくる車両
  - 自車両が速い速度で追い越した車両
  - 合流や車線変更で自車両の横にほぼ同じ速度で移動してきた車両
- **次のような状況では、隣の車線の車両を検知できないことがあります。**
  - 車線の幅が極端に広い道路を運転しているとき
  - 悪天候（雨、雪、霧など）で視界が悪いとき
  - 水、雪、砂などの巻き上げが発生しているとき
  - 雪や氷、泥などがレーダーセンサー周辺に付着しているとき
- **次のような状況では、レーンマーカーを正確に検出できず、適切な作動ができない場合があります。**
  - 検出しにくいレーンマーカー（不明瞭なレーンマーカー、黄色のレーンマーカー、一般的でないレーンマーカー、水たまり・汚れ・雪などで隠れているレーンマーカー）がある道路を走行するとき
  - 急なカーブのある道路を走行するとき

⚠ 警告

- 消されたレーンマーカーがまだ見えている道路を走行するとき
- 道路上に影、雪、水たまり、わだち、道路のつなぎ目、線状の補修痕などがあるとき（これらのものをレーンマーカーとして検出して警報したり、制御したりする場合があります）
- 車線の分岐・合流のある道路を走行したとき
- 自車がレーンマーカーに対してまっすぐに走行していないとき
- 先行車との車間距離が短く、マルチセンシングフロントカメラの検出範囲が遮られるとき
- 雨、雪、汚れなどがフロントガラスに付着しているとき
- 汚れなどでヘッドランプの明るさが不十分なときやヘッドランプの光軸調整が適切に行われていないとき
- 前方から強い光（太陽光など）を受けているとき
- 急な明るさの変化が起こったとき（トンネルの出入り口など）

● **レーダーセンサー周辺へのステッカー（透明なものを含む）の貼り付け、アクセサリー類の取り付け、追加の塗装をしないでください。**

車両を検知する性能が低下するおそれがあります。

⚠ 注意

● **レーダーセンサーは次のような障害物は検知しません。**

- 歩行者、自転車、動物など
- 対向車

アドバイス

● 外部の騒音などにより、警報音（ブザー）が聞こえない場合があります。

● 車線の幅が極端に広い道路を運転する場合、隣車線の車両を検知できないことがあります。また、車線の幅が極端に狭い道路を運転する場合、2つ隣の車線にいる車両を検知することがあります。

● レーダーセンサーは静止している障害物を検知しないよう設計されていますが状況によっては、ガードレール、壁、植物、駐車された車両などを検知してしまうことがあります。

● 次の場合はステアリング制御を行いません。

- 大きな減速が車にかかったとき
- すばやいハンドル操作を行ったとき
- インテリジェント クルーズコントロールの接近警報が鳴っているとき
- インテリジェント エマージェンシーブレーキが作動しているとき
- 非常点滅表示灯を作動させているとき
- カーブでスピードを出して走行しているとき

● ステアリング制御しているとき、運転者がアクセルペダルを踏み増すとステアリング制御を中止します。

BSW（後側方車両検知警報）の作動が停止するとき

アドバイス

● レーダーセンサーの周辺が汚れているときは安全な場所に停車し、レーダーセンサー周辺の汚れなどを取り除いてからe-POWERシステムを再始動してください。レーダーセンサーの取り扱いについては、（➔P.475）をお読みください。

● アドバンスドドライブアシストディスプレイに警告が表示されたときは、安全な場所に停車し、一度e-POWERシステムを停止してから再始動してください。

e-POWERシステム再始動後も表示され続けるときは、システムの異常が考えられます。通常走行には支障はありませんが、日産販売会社で点検を受けてください。

● 次の場合はアドバンスドドライブアシストディスプレイに［サイドレーダー及びその周辺が汚れています 拭いてください］と警告が表示され、一時的にシステムが停止します。

- レーダーセンサーが汚れているとき
- レーダーセンサーに雨、雪、氷などが付着しているとき

● システムに異常があると、アドバンスドドライブアシストディスプレイに警告が表示され、システムが停止します。
警告メッセージ（➔P.424）

インテリジェント BSI（後側方衝突防止支援システム）の作動が停止するとき

● 次の場合は "ポー" というブザー音とともにアドバンスドドライブアシストディスプレイに［作動範囲外のため 現在使用できません］と警告が表示され、作動を解除します。
— VDCをOFFにしたとき
— ドライブモードをSNOWにしたとき（e-4ORCE（4WD）車）

● 次の場合は "ポー" というブザー音とともにアドバンスドドライブアシストディスプレイに［滑りやすい路面のため 現在使用できません］と警告が表示され、作動を解除します。
— ABSまたはVDC（トラクションコントロール機能（TCS）は含まない）が作動したとき

システムを再び作動させる場合は、解除されたときの状態が改善されてから一度<プロパイロットスイッチ>をOFFにし、再度インテリジェント BSI（後側方衝突防止支援システム）をONにしてください。

● 炎天下に駐車したときなど、マルチセンシングフロントカメラが高温になったときは、"ポー" というブザー音とともにアドバンスドドライブアシストディスプレイに警告が表示され、作動を解除します。システムを再び作動させる場合は、車室内の温度が下がってから再度システムをONにしてください。

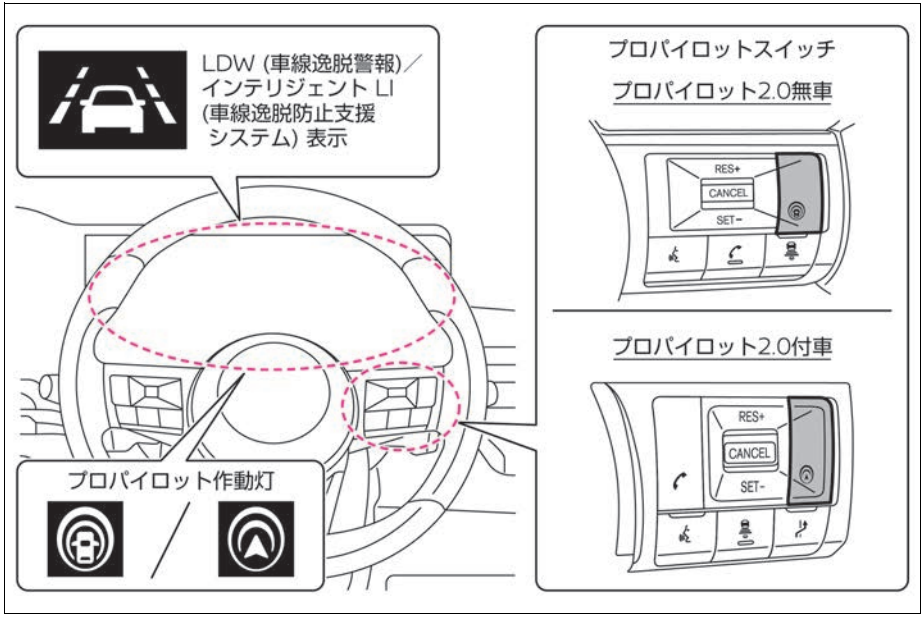
● 次の場合は "ポー" というブザー音とともにアドバンスドドライブアシストディスプレイに［サイドレーダー及びその周辺が汚れています 拭いてください］と警告が表示され、システムが停止します。
— サイドレーダー周辺が汚れているとき
— サイドレーダー周辺に雨、雪、氷などが付着しているとき

● システムに異常があると、警告音が鳴るとともにアドバンスドドライブアシストディスプレイに［システム故障 取扱説明書を見てください］および、インテリジェント BSI（後側方衝突防止支援システム）表示がオレンジ色に点灯し、作動が停止します。

LDW（車線逸脱警報）／インテリジェント LI（車線逸脱防止支援システム）

LDW（車線逸脱警報）は、運転者が意図せず走行車線から逸脱しそうなとき、警報によって注意を促します。
インテリジェント LI（車線逸脱防止支援システム）は、運転者が意図せず走行車線から逸脱しそうなとき、運転者が車線内に戻す操作を支援します。

システムに関連する表示とスイッチ



⚠ 警告

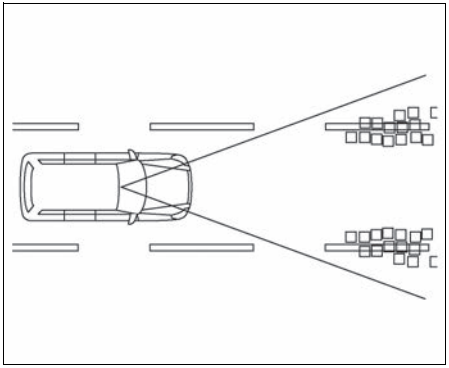
- **機能には限界があるため、過信せず安全運転を心がける。**

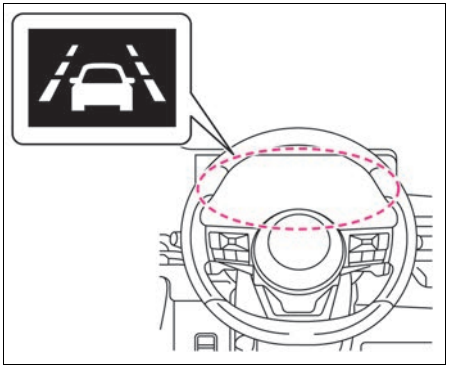
  LDW（車線逸脱警報）／インテリジェント LI（車線逸脱防止支援システム）は、脇見運転やぼんやり運転などの前方不注意および雨、霧などの視界不良による危険を回避するものではありません。周囲の状況に応じてハンドル操作を行い、常に安全運転を心がけてください。

- **マルチセンシングフロントカメラの性能には限界があるため、システムだけに頼った運転はせず、常に安全運転を心がけてください。詳細については、検知条件と制限をお読みください。**

  ➔マルチセンシングフロントカメラの検知条件と制限 (P.227)

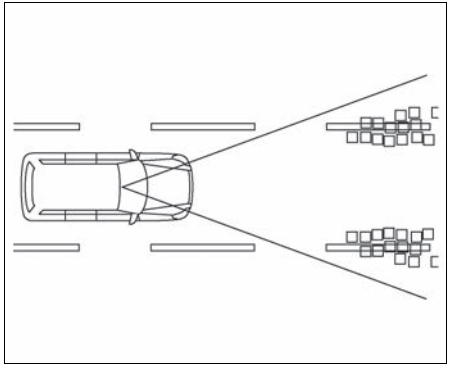
LDW（車線逸脱警報）について

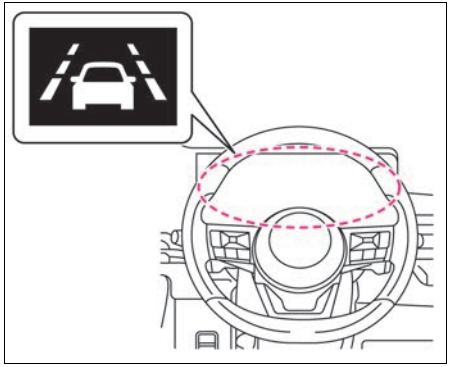




- フロントガラス上部のマルチセンシングフロントカメラにより走行車線のレーンマーカーを検知します。
- 車速約60km/h以上で作動します。
- 走行車線の右側もしくは、左側のレーンマーカーに近づいたと判断すると、警報音（ブザー）とともにLDW（車線逸脱警報）表示がオレンジ色に点滅します。
  レーンマーカーとは、走行車線の右側もしくは左側に引かれた線のことをいいます。
- 車両の移動する方向に方向指示器を作動させている場合は警報を行いません。
  （方向指示器を解除したあと、約2秒間は警報を行いません）
- アドバンスドドライブアシストディスプレイを運転支援またはクルーズ（CRUISE）に切り替えると、LDW（車線逸脱警報）の設定状態をアドバンスドドライブアシストディスプレイ内で確認することができます。
  詳しくは、アドバンスドドライブアシストディスプレイとは（メインメニュー）（➔P.64または➔P.95）をお読みください。

インテリジェントLI（車線逸脱防止支援システム）について





- フロントガラス上部のマルチセンシングフロントカメラにより走行車線のレーンマーカーを検知します。
- 車速が約60km/h以上で作動します。

●走行車線の右側もしくは、左側のレーンマーカーに近づいたと判断すると、警報音（ブザー）とともにインテリジェントLI（車線逸脱防止支援システム）表示がオレンジ色に点滅します。
同時にステアリングを制御し、車両を車線内に戻す操作を支援します。
レーンマーカーとは、走行車線の右側もしくは、左側に引かれた線のことをいいます。

●車両の移動する方向に方向指示器を使用している場合は、警報もステアリング制御も行いません。（方向指示器を解除したあと、約2秒間は作動しません。）

●アドバンスドドライブアシストディスプレイを運転支援またはクルーズ（CRUISE）に切り替えると、インテリジェントLI（車線逸脱防止支援システム）の作動状態をアドバンスドドライブアシストディスプレイ内で確認することができます。
詳しくは、アドバンスドドライブアシストディスプレイとは（メインメニュー）（➔P.64または➔P.95）をお読みください。

●インテリジェントLI（車線逸脱防止支援システム）によるステアリング制御中に、ハンドル操作をしなかったり、ハンドルをしっかり握っていない状態だとシステムが判断したとき、作動回数が増えるごとに警報ブザーの継続時間が長くなります。ハンドルを操作したとシステムが判断しても一定時間警報ブザーが鳴り続けます。

ON・OFFのしかた

■ LDW（車線逸脱警報）

●アドバンスドドライブアシストディスプレイで設定［ ⚙ ］⇒［運転支援］⇒［側方支援］⇒［車線逸脱警報］を選択すると、LDW（車線逸脱警報）機能のON・OFFを切り替えることができます。
設定の詳細については、運転支援（➔P.80または➔P.106）をお読みください。

■ インテリジェントLI（車線逸脱防止支援システム）

●アドバンスドドライブアシストディスプレイで設定［ ⚙ ］⇒［運転支援］⇒［側方支援］⇒［車線逸脱防止支援］をONにしているとき、<プロパイロットスイッチ>を押すとシステムがONになります。（プロパイロット作動灯［ ］／［ ］が点灯）
設定の詳細については、運転支援（➔P.80または➔P.106）をお読みください。

●<プロパイロットスイッチ>を押すとインテリジェントBSI（後側方衝突防止支援システム）のON・OFFを同時に切り替えることができます。

●e-POWERシステムを停止するとインテリジェントLI（車線逸脱防止支援システム）はOFFになります。

●アドバンスドドライブアシストディスプレイのON・OFF設定は、e-POWERシステムを停止しても再度設定を変更するまでその状態が維持されます。

LDW（車線逸脱警報）／インテリジェントLI（車線逸脱防止支援システム）に関する注意事項

⚠ 警告

● **次のような状況では、思わぬ事故につながるおそれがあるため、インテリジェントLI（車線逸脱防止支援システム）を使用しないでください。**

— 悪天候（雨、雪、霧など）のとき

— 凍結路や積雪路など滑りやすい路面を走行するとき

— 急なカーブ、急な上り坂･下り坂が繰り返されるとき

— 工事中の道路や車線規制がある道路を走行するとき

— 車線の幅が狭い道路を走行するとき

— 摩耗しているタイヤ、空気圧不足のタイヤ、スペアタイヤ、タイヤチェーンを装着しているときや、日産純正品もしくは日産販売会社で購入したタイヤ以外のタイヤを使用しているとき

警告

- 純正品以外のステアリング部品、ブレーキ部品、サスペンション部品を使用しているとき

● **次のような状況では、レーンマーカーを正確に検出できず、適切な作動ができない場合があります。**

- 検出しにくいレーンマーカー（不明瞭なレーンマーカー、黄色のレーンマーカー、一般的でないレーンマーカー、水たまり・汚れ・雪などで隠れているレーンマーカー）がある道路を走行するとき
- 急なカーブのある道路を走行するとき
- 消されたレーンマーカーがまだ見えている道路を走行するとき
- 道路上に影、雪、水たまり、わだち、道路のつなぎ目、線状の補修痕などがあるとき（これらのものをレーンマーカーとして検出して警報する場合があります）
- 車線の分岐・合流のある道路を走行したとき
- 自車がレーンマーカーに対してまっすぐに走行していないとき
- 先行車との車間距離が短く、カメラの検出範囲が遮られるとき
- 雨、雪、汚れなどがフロントガラスに付着しているとき
- 汚れなどでヘッドランプの明るさが不十分なときやヘッドランプの光軸調整が適切に行われていないとき
- 前方から強い光（太陽光など）を受けているとき
- 急な明るさの変化が起こったとき（トンネルの出入り口など）

アドバイス

● 外部の騒音などにより、警報音（ブザー）が聞こえない場合があります。

● 次の場合はステアリング制御を行いません。
- 大きな減速が車にかかったとき
- すばやいハンドル操作を行ったとき
- インテリジェント クルーズコントロールの接近警報が鳴っているとき
- インテリジェント エマージェンシーブレーキが作動しているとき
- 非常点滅表示灯を作動させているとき
- カーブでスピードを出して走行しているとき

● ステアリング制御中に、運転者がアクセルペダルを踏み増すとステアリング制御を中止します。

作動が停止するとき

アドバイス

● システムを正しく作動させるためにカメラ前方のフロントガラスはいつもきれいにしておいてください。マルチセンシングフロントカメラの取り扱いについては、（➔P.475）をお読みください。

● アドバンスドドライブアシストディスプレイに警告が表示されたときは、安全な場所に停車し、一度e-POWERシステムを停止してから再始動してください。

e-POWERシステム再始動後も警告が表示され続けるときは、システムの異常が考えられます。通常走行には支障はありませんが、日産販売会社で点検を受けてください。

LDW（車線逸脱警報）

● 炎天下に駐車したときなど、カメラが高温になったときは、アドバンスドドライブアシストディスプレイに［カメラが高温のため現在使用できません］（メータータイプ(A)）、または［車線認識カメラ・その周辺が高温のため使用できません］（メーター(B)）と警告が表示され、一時的にシステムが停止します。（車室内の温度が下がると、作動を復帰します）

● システムに異常があると、アドバンスドドライブアシストディスプレイに警告が表示され、システムが停止します。
警告（➔P.424）

インテリジェント LI（車線逸脱防止支援システム）

- 次の場合は、"ポー" というブザー音とともにアドバンスドドライブアシストディスプレイに［作動範囲外のため 現在使用できません］と警告が表示され、作動を解除します。
  - VDCをOFFにしたとき
  - ドライブモードをSNOWにしたとき（e-4ORCE（4WD）車）
- 次の場合は、"ポー" というブザー音とともにアドバンスドドライブアシストディスプレイに［滑りやすい路面のため現在使用できません］と警告が表示され、作動を解除します。
  - ABSまたはVDC（トラクションコントロール機能（TCS）は含まない）が作動したとき

システムを再び作動させる場合は、解除されたときの状態が改善されてから一度<プロパイロットスイッチ>をOFFにし、再度インテリジェント LI（車線逸脱防止支援システム）をONにしてください。

- 炎天下に駐車したときなど、マルチセンシングフロントカメラが高温になったときは、"ポー" というブザー音とともにアドバンスドドライブアシストディスプレイに警告が表示され、作動を解除します。 システムを再び作動させる場合は、車室内の温度が下がってから再度システムをONにしてください。
- システムに異常があると、警告音が鳴るとともにアドバンスドドライブアシストディスプレイに［システム故障 取扱説明書を見てください］および、インテリジェント LI（車線逸脱防止支援システム）表示がオレンジ色に点灯し、作動が停止します。

インテリジェント FCW（前方衝突予測警報）

前方を走行する2台前の車両を検知し、急な減速などにより、自車の回避操作が必要と判断した場合には、警報によって運転者に注意を促します。

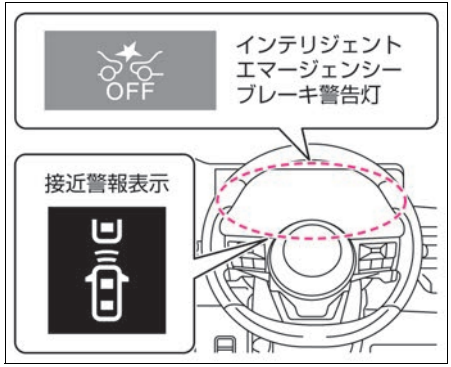
システムに関する表示

⚠ 警告

- **インテリジェント FCW（前方衝突予測警報）は前方を走行する2台前の車両の急な減速などを検知したとき運転者に警報を行いますが、衝突を回避する機能はありません。**
- **インテリジェント FCW（前方衝突予測警報）は脇見運転やぼんやり運転などの前方不注意および雨、霧などの視界不良による危険を回避するものではありません。**

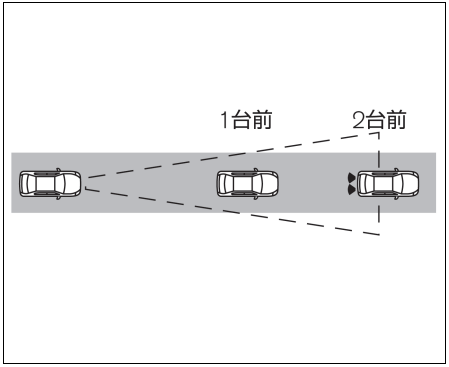
  前方の車両との車間距離、周囲の状態に応じてブレーキペダルを踏んで減速するなどして車間距離を確保し、安全運転を心がけてください。
- **レーダーの性能には限界があるため、システムだけに頼った運転はせず、常に安全運転を心がけてください。詳細については、検知条件と制限をお読みください。**

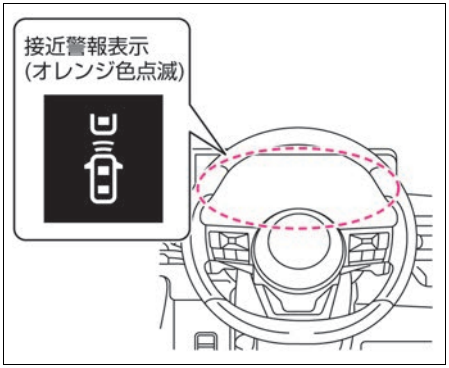
➲ レーダーセンサーの検知条件と制限（P.226）



- プロパイロット2.0付車はインテリジェント FCW（前方衝突予測警報）が作動すると、ヘッドアップディスプレイにも警告表示が表示されます。

インテリジェント FCW（前方衝突予測警報）について





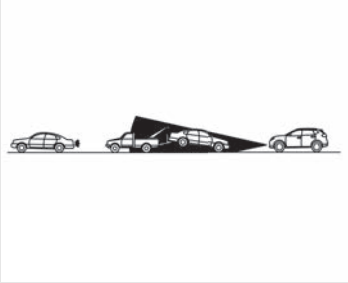
- インテリジェント FCW（前方衝突予測警報）は車速が約5km/h以上で作動します。
- 車両前部に取り付けられたレーダーセンサーにより前方の2台前の車両との距離を計測します。
- 自車の回避操作が必要と判断すると、アドバンスドドライブアシストディスプレイの接近警報表示がオレンジ色に点滅するとともに警報音（ブザー）を鳴らして、運転者に注意を促します。
- インテリジェント エマージェンシーブレーキのON・OFFを切り替えると、インテリジェント FCW（前方衝突予測警報）も連動してON・OFFされます。

➔ インテリジェント エマージェンシーブレーキ（P.276）

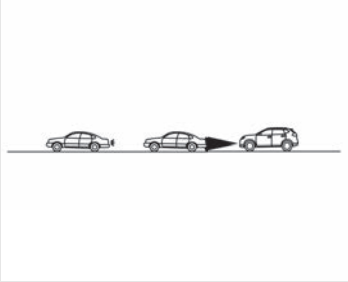
インテリジェント FCW（前方衝突予測警報）に関する注意事項

⚠ 警告

- **次のような障害物は検知しません。**
  - 歩行者、自転車、動物、道路上に落ちている障害物
  - 対向車両
  - 前方を横切って通過する車両
- **次のような場合は、前方の2台前の車両を検知できないことがあります。**
  - 悪天候（雨、雪、霧など）で視界が悪いとき
  - 前方の車両や対向車などにより水、雪、砂などの巻き上げが発生しているとき
  - 雪や氷、泥などがレーダーセンサー周辺に付着しているとき
  - 放送局など周辺の電波源により影響を受けているとき
  - トンネル内を走行しているとき

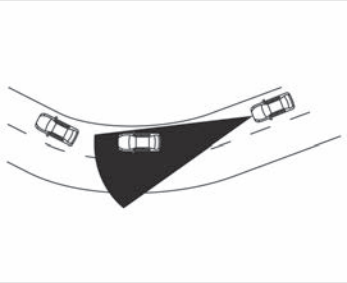


  - 前方の車両がけん引を行っているとき

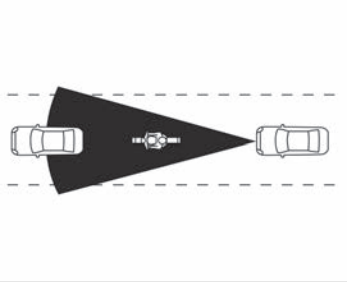


  - 前方の車両との距離が極端に近いとき

⚠ 警告



— 急なカーブや、勾配の変化があるところを走行しているとき



- **前方の車両がオートバイのような幅の狭い車両のときは、前方の車両を検知できず、インテリジェント FCW（前方衝突予測警報）は警報を行わないことがあります。**
- **外部の騒音などにより、警報音（ブザー）が聞こえない場合があります。**

インテリジェント FCW（前方衝突予測警報）の作動が停止するとき

アドバイス

- インテリジェント エマージェンシーブレーキをONにできない、または警告灯が点灯したときは、安全な場所に停車し、一度e-POWERシステムを停止してから再始動してください。上記の操作をしても、警告灯が点灯し続けるときはシステムの異常が考えられます。通常走行には支障はありませんが、日産販売会社で点検を受けてください。

  警告灯（➔P.415）
- レーダーセンサーの周辺が汚れているときは安全な場所に停車し、レーダーセンサー周辺の汚れなどを取り除いてからe-POWERシステムを再始動してください。レーダーセンサーの取り扱いについては、（➔P.475）をお読みください。

- 次の場合、インテリジェント エマージェンシーブレーキ警告灯［ OFF ］が点灯し、作動が停止します。
  - — インテリジェント エマージェンシーブレーキの設定をOFFにしたとき
  - — インテリジェント エマージェンシーブレーキが異常により作動を停止したとき
- 次の場合、インテリジェント エマージェンシーブレーキ警告灯［ OFF ］が点灯するとともに、アドバンスドドライブアシストディスプレイに警告を表示し、システムが一時的に作動しなくなります。
  - — フロントガラスの汚れなどにより、カメラの前方視界が遮蔽されていると判断したとき
  - — 前方からの強い光により、カメラが前方を認識できなくなったとき
  - — 炎天下に駐車したときなど、カメラが高温になったとき（車室内の温度が下がると、作動を復帰します）
  - — 悪天候（雨、雪、霧、風塵、砂塵、吹雪など）で視界が悪いとき
    システムが停止したときの状態が改善されると、自動的に作動を再開します。
  - — 周辺の電波源の影響を受けているとき
  - — 車両前部に取り付けられたレーダーセンサー周辺に雪や氷、泥などが付着しているとき
    上記警告が表示されたときは、安全な場所に停車し、一度e-POWERシステムを停止してからレーダーセンサーおよびその周辺の汚れを取り除き、e-POWERシステムを再始動してください。
  - — 道路形状や周辺の建造物により、レーダーセンサーが先行車を正確に検知できないとき（例：長い橋、雪原、長い壁の横など）
    上記の状況から離れるとシステムは自動的に作動を再開します。
  - — 夜間やトンネル内などでヘッドランプを点灯せず、真っ暗な状態が継続したとき

● システムに異常があると、警告音が鳴るとともにインテリジェント エマージェンシーブレーキ警告灯［ ］が点灯し、アドバンスドドライブアシストディスプレイ内に警告が表示され、システムが停止します。

上記警告が表示されたときは、安全な場所に停車し、一度e-POWERシステムを停止してから再始動してください。

RCTA（後退時車両検知警報）

RCTA（後退時車両検知警報）は、後退時に後方を横切ろうと接近する車両を検知した場合、警報によって運転者に注意を促します。

システムに関連する表示

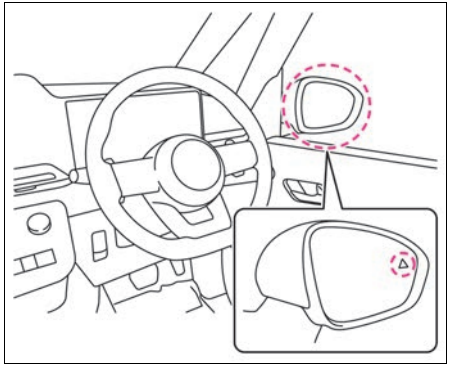
⚠ 警告

- **機能には限界があるため、過信せず安全運転を心がける。**

  RCTA（後退時車両検知警報）は、運転者の代わりに周囲を確認したり、車両と障害物との接触を防いだりする機能ではありません。駐車スペースから後退するときは、機能に頼らず、必ず運転者自身で周囲の安全を確認してください。

- **レーダーの性能には限界があるため、システムだけに頼った運転はせず、常に安全運転を心がけてください。詳細については、検知条件と制限をお読みください。**

➲ レーダーセンサーの検知条件と制限（P.226）



RCTA（後退時車両検知警報）について

● 車両後部のレーダーセンサーにより後方を横切ろうとする車両を検知します。

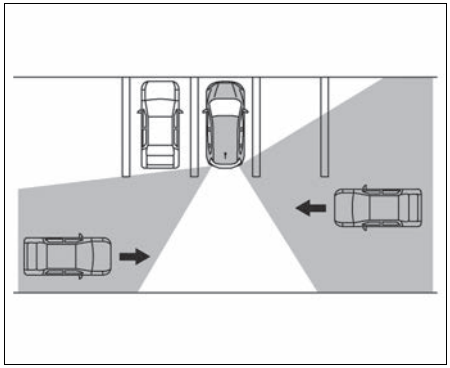
● シフトポジションがRで、車速約8km/h以下のとき作動します。

● レーダーセンサーにより後方を横切ろうとする車両を検知すると、警報音（ブザー）とともに検知した側のドアミラー鏡面の表示灯が点滅します。

● RCTA（後退時車両検知警報）の設定をOFFにしているときにシフトポジションをRにすると、アドバンスドドライブアシストディスプレイに［システムOFF］と表示されます。

● RCTA（後退時車両検知警報）が作動しているときは、インテリジェント アラウンドビューモニター画面★に黄色枠が表示されます。

検知範囲について



● レーダーセンサーは、約20m先から近づいてくる車両を検知します。

● ドアミラー鏡面の表示灯は＜パワースイッチ＞をONにすると点灯し、数秒後に消灯します。

● ドアミラー鏡面の表示灯の明るさは車両周囲の明るさによって切り替わります。

RCTA（後退時車両検知警報）の使いかた

● アドバンスドドライブアシストディスプレイで設定［ ］⇒［運転支援］⇒［駐車支援］⇒［後退時車両検知警報］（メータータイプ(A)）または設定［ ］⇒［運転支援］⇒［後退時車両検知警報］（メータータイプ(B)）を選択すると、RCTA（後退時車両検知

警報）機能のON・OFFを切り替えることができます。
設定の詳細については、運転支援（➔P.80または➔P.106）をお読みください。

● 設定は、e-POWERシステムを再始動しても維持されます。

RCTA（後退時車両検知警報）に関する注意事項

⚠ 警告

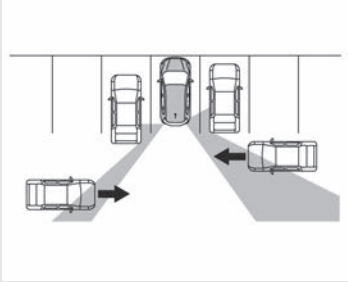
● **後退する前に、必ず目視で周囲の状況を確認してください。レーダーセンサーは接近している（動いている）車両を検知します。次のようなものは検知できないことがあります。**

— 歩行者、自転車、動物、児童用の玩具の車など

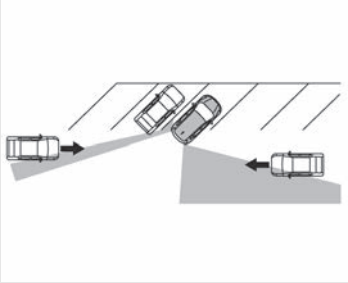
— 約30km/h以上の速度で通過する車両

— 約8km/h以下の速度で通過する車両

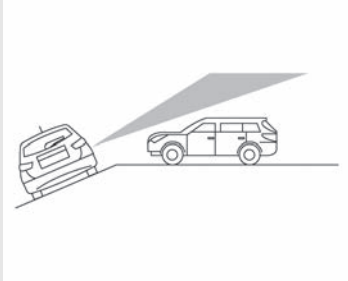
● **次のような状況では、レーダーセンサーが接近する車両を検知できないことがあります。**



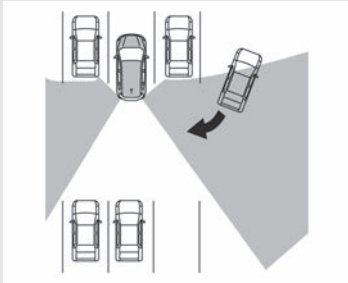
— 隣に駐車している車両などが、レーダーセンサーの検出エリアを妨げているとき



— 駐車枠線が斜めに引かれた駐車場に駐車しているとき

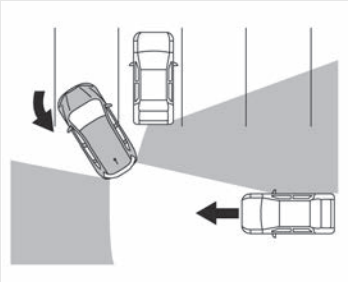


— 傾斜した地面に駐車しているとき



— 回り込むようにして自車両後方へ車両が接近してきたとき

警告

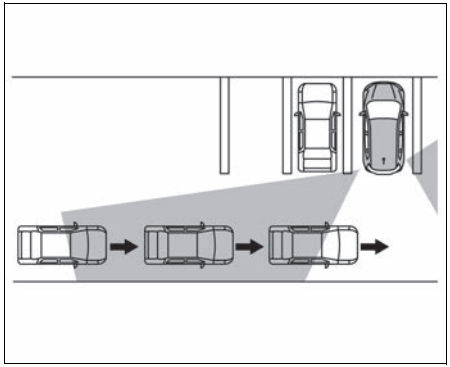


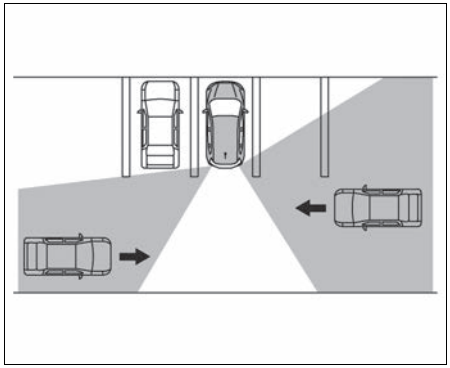
— 接近してきた車両の向きが、自車両の向きと同じまたはそれに近いとき

- **次のような場合は、思わぬ事故につながるおそれがあるため、システムを使用しないでください。**
  - — 悪天候（雨、雪、霧など）で視界が悪いとき
  - — 水、雪、砂などの巻き上げが発生しているとき
  - — 雪や氷、泥などがレーダーセンサー付近に付着しているとき
- **レーダーセンサーは静止している障害物を検知しないように設計されていますが状況によっては、ガードレール、壁、駐車された車両などを検知してしまうことがあります。**
- **外部の騒音などにより、警報音（ブザー）が聞こえない場合があります。**

- **レーダーセンサー周辺へのステッカー（透明なものを含む）の貼り付け、アクセサリー類の取り付け、追加の塗装をしないでください。**

  車両を検知する性能が低下するおそれがあります。





- 複数の車両が連続して後方を通過する場合や、最初に検知した車両と逆方向から車両が接近してきた場合、2台目以降に対して警報が作動しない場合があります。

RCTA（後退時車両検知警報）の作動が停止するとき

アドバイス

- レーダーセンサー周辺が汚れているときは安全な場所に停車し、レーダーセンサー周辺の汚れなどを取り除いてからe-POWERシステムを再始動してください。レーダーセンサーの取り扱いについては、（➔P.475）をお読みください。
- アドバンスドドライブアシストディスプレイに警告が表示されたときは、安全な場所に停車し、一度e-POWERシステムを停止してから再始動してください。

  e-POWERシステム再始動後も表示され続けるときは、システムの異常が考えられます。通常走行には支障はありませんが、日産販売会社で点検を受けてください。

- 次の場合はアドバンスドドライブアシストディスプレイに［サイドレーダー及びその周辺が汚れています 拭いてください］と警告が表示され、一時的にシステムが停止します。
  - — レーダーセンサーが汚れているとき

— レーダーセンサーに雨、雪、氷などが付着しているとき

● システムに異常があると、アドバンスドドライブアシストディスプレイに警告が表示され、システムが停止します。
警告メッセージ（➔P.424）

インテリジェントDA（ふらつき警報）

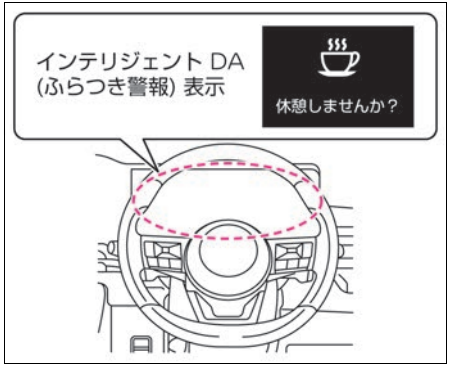
インテリジェントDA（ふらつき警報）は、ハンドル操作から運転者の注意力が低下していると判断したときに、アドバンスドドライブアシストディスプレイの表示と音により運転者に休憩を促します。

システムに関連する表示

⚠ 警告

● **機能には限界があるため、過信せず安全運転を心がける。**

このシステムは疲労時の運転を補助するものではありません。疲労時の運転は重大な事故にいたる危険があるため、運転前に十分に休憩をとり、安全運転を心がけてください。



インテリジェントDA（ふらつき警報）について

● 車速約60km/h以上で走行中、運転者のハンドル操作から注意力が低下していると判断したときに、警報音（ブザー）とともにアドバンスドドライブアシストディスプレイに［休憩しませんか？］と警告メッセージを表示します。
警告メッセージ（➔P.425）

インテリジェントDA（ふらつき警報）の停止のしかた

● アドバンスドドライブアシストディスプレイで設定［ ⚙ ］⇒［運転支援］⇒［ドライバーモニター］⇒［ふらつき警報］（メータータイプ(A)）または設定［ ⚙ ］⇒［運転支援］⇒［ふらつき警報］（メータータイプ(B)）を選択すると、インテリジェントDA（ふらつき警報）機能のON・OFFを切り替えることができます。
設定の詳細については、運転支援（➔P.80または➔P.106）をお読みください。

● 設定は、e-POWERシステムを再始動するとONになります。

● プロパイロットのハンドル支援中は、インテリジェントDA（ふらつき警報）のシステムはOFFになります。
➔プロパイロット (P.229)

インテリジェントDA（ふらつき警報）の作動が停止するとき

アドバイス

● 安全な場所に停車し、一度e-POWERシステムを停止してから再始動してください。

● 再始動後もメッセージを表示するときは、システムの異常が考えられます。

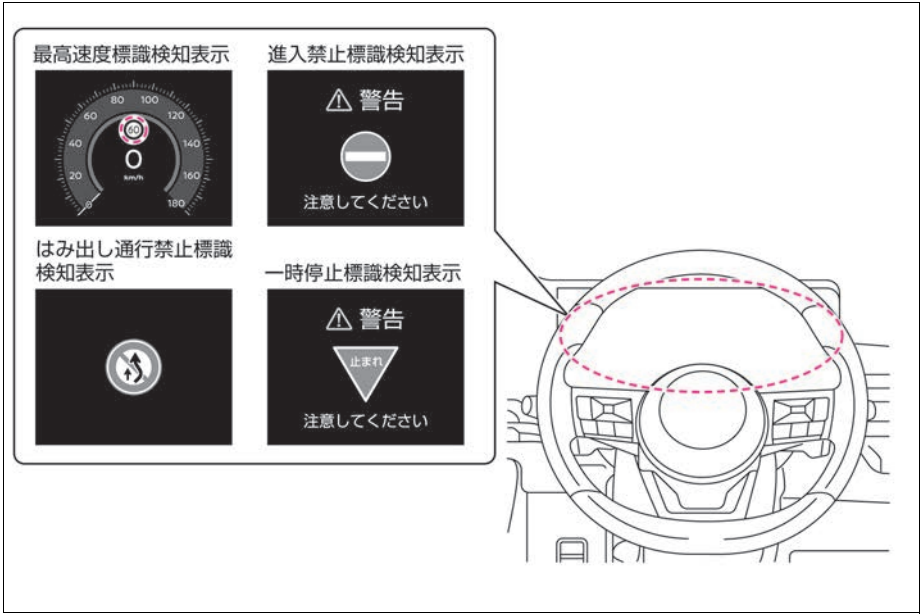
通常走行に支障はありませんが、日産販売会社で点検を受けてください。

● システムに異常があると、アドバンスドドライブアシストディスプレイに警告が表示され、作動が停止します。
警告メッセージ（➔P.425）

標識検知機能

フロントガラス上部にあるマルチセンシングフロントカメラにより標識を検知し、アドバンスドドライブアシストディスプレイに表示します。

システムに関連する表示



⚠ 警告

- **走行中は運転者の責任で実際の標識を確認する。**

  標識検知機能は、運転者の安全運転をサポートする機能です。

  標識検知機能には限界があり、状況によっては標識を検知できなかったり、実際とは異なる標識を表示したりする場合があります。

  運転の際は、必ず運転者の責任で実際の標識を確認してください。

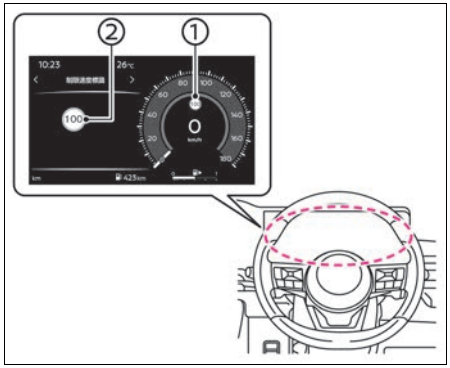
- **マルチセンシングフロントカメラの性能には限界があるため、システムだけに頼った運転はせず、常に安全運転を心がけてください。詳細については、検知条件と制限をお読みください。**

  ➔ マルチセンシングフロントカメラの検知条件と制限（P.227）

標識検知機能について

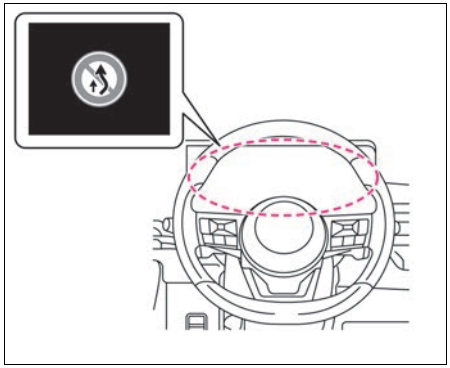
- 標識検知機能には次の機能があります。

最高速度標識検知



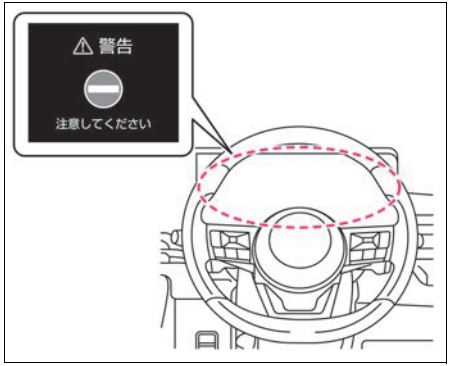
- 前方の最高速度標識を検知した場合には、アドバンスドドライブアシストディスプレイ①、および走行支援グループ②に表示されます。
  アドバンスドドライブアシストディスプレイとは（メインメニュー）（➔P.64 または➔P.95）
- 次の場合は、最高速度標識の表示を終了します。
  - 最高速度標識を検知し、車両がその標識を通過してから一定の距離を走行したとき
  - 右左折などで走行している路線が変わったとシステムが判断したとき

はみ出し通行禁止標識検知



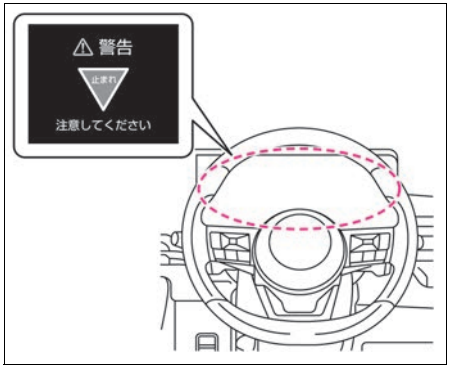
- 前方のはみ出し通行禁止標識を検知した場合には、アドバンスドドライブアシストディスプレイに表示します。

進入禁止標識検知



- 前方の車両進入禁止標識を検知し、一方通行路へ進入する可能性がある場合にはアドバンスドドライブアシストディスプレイに警告表示します。
- 万一、車両進入禁止標識を通過した場合には警告音が鳴ります。

一時停止標識検知



- 前方の一時停止標識を検知した場合には、アドバンスドドライブアシストディスプレイに表示します。

進入禁止標識／一時停止標識検知の停止のしかた

- アドバンスドドライブアシストディスプレイで設定［ ⚙ ］⇒［運転支援］⇒［標識検知支援］⇒［道路標識］（メータータイプ(A)）または設定［ ⚙ ］⇒［運転支援］⇒［標識検知支援］（メータータイプ(B)）を選択すると、進入禁止標識／一時停止標識検知機能のON・OFFを切り替えることができます。

設定の詳細については、運転支援（➔P.80または➔P.106）をお読みください。

- いずれの設定も、e-POWERシステムを再始動しても維持されます。

最高速度標識検知／はみ出し通行禁止標識検知の停止のしかた

- アドバンスドドライブアシストディスプレイで設定［ ⚙ ］⇒［運転支援］⇒［標識検知支援］⇒［制限速度標識］（メータータイプ(A)）または設定［ ⚙ ］⇒［運転支援］⇒［速度標識表示］（メータータイプ(B)）を選択すると、最高速度標識検知機能／はみ出し通行禁止標識検知機能のON・OFFを切り替えることができます。
  設定の詳細については、運転支援（➔P.80または➔P.106）をお読みください。
- いずれの設定も、e-POWERシステムを再始動しても維持されます。

標識検知機能に関する注意事項

⚠ 警告

- **次のような場合は、標識の検知が遅れたり、検知できなかったりすることがあります。**
  - 夜間やトンネル内などでヘッドランプを点灯していない、あるいはヘッドランプのレンズが極端に汚れているとき
  - カメラ前方のフロントガラスに汚れ、油膜、水滴、氷、雪、虫汚れなどが付着しカメラの視界が遮られているとき
  - カメラ前方のフロントガラスがくもっているとき
  - 前方から強い光（太陽光や対向車両のハイビームなど）を受けているとき
  - 前方車両から反射した強い光（太陽光など）を受けているとき
  - トンネルの出入り口や日陰など、急に明るさの変化が起こったとき
  - 悪天候（雨、雪、霧、風塵、砂塵、吹雪など）で視界が悪いとき
  - 前方の車両や対向車などにより水、雪、砂などの巻き上げが発生しているとき
  - 勾配の変化があるところを走行しているとき
  - 未舗装路など凹凸のある路面を走行しているとき
  - 隣車線の車両で視界が遮られているとき
  - 標識が曲がり角やカーブの先にあるとき
  - 標識の周辺が煩雑で標識を認識しにくいとき
  - 標識が自車から遠く離れた位置にあるとき
  - 夜間で標識に自車のヘッドランプの光が届きにくい位置にあるとき
  - 標識が色あせたり、折れ曲がったりしているとき
  - 標識が破損しているなど形状が変わってしまっているとき
  - 標識が泥、雪、または霜などで覆われているとき
  - 標識の一部が樹木や汚れなどによって隠れて不明瞭なとき
  - 標識に光（街灯など）や影が映り込んでいるとき
  - 標識が大きすぎたり、小さすぎたりするとき
  - 標識が低すぎたり、高すぎたりするとき
  - 標識が明るすぎたり、暗すぎたりしたとき
  - カメラの向きがずれているとき
  - 始動してから約15秒間は標識を検知しません
- **次のような場合は、標識の検知が適正に行えず、実際の規制内容とは異なるものを表示したり、実際には対象となる標識がないのに表示したりすることがあります。（最高速度標識においては、実際の最高速度よりも高い数字や、低い数字を表示したりすることがあります）**
  - 数字が認識しにくい標識（数字が消えかかっているなど）

⚠ 警告

- 検知対象となる標識の色、形に似たものが周辺にある場合（類似の標識、電光掲示板、看板、のぼり旗、構造物、案内標識上の数字など）

- 自車の路線に対しての標識ではないが、自車の路線付近にあり、その標識が自車の路線に向いている場合（本線から分岐する側道の一時停止標識や最高速度標識など）
- コントラストが低い電光標識
- 数字が認識しにくい電光標識（遠く離れた位置にある標識、3桁の標識など）
- 標識の近傍に補助標識（区間の始まり、終わり、曜日、時間など）があるとき
- 工事などの通行規制区間に標識があるとき
- メーカーオプションナビゲーションシステム★の地図データが最新ではない、または利用できないとき
- メーカーオプションナビゲーションシステム★が推奨するルートを走行していないとき
- メーカーオプションナビゲーションシステム★が新しいルートを検索しているとき
- メーカーオプションナビゲーションシステム★の位置検出が正しく行えないとき
- メーカーオプションナビゲーションシステム★の地図にない道路を走行しているとき

⚠ 注意

- **標識検知機能は、運転者の安全運転をサポートする機能です。**

  標識検知機能には限界があり、状況によっては標識を検知できなかったり、実際とは異なる表示をしたりする場合があります。

  運転の際は、必ず運転者の責任で実際の標識を確認してください。

- **標識の近傍にある補助標識は検知しないため、実際の規制内容と異なる表示をする場合があります。必ず運転者の責任で実際の標識を確認してください。**

アドバイス

- システムを正しく作動させるためにカメラ前方のフロントガラスはいつもきれいにしておいてください。マルチセンシングフロントカメラの取り扱いについては、（➔P.475）をお読みください。

- 外部の騒音などにより、警報音（ブザー）が聞こえない場合があります。

ドライバーモニターシステム★

ドライバーモニターシステムについて

⚠ 注意

- **ドライバーモニターシステムの機能には限界があるため、過信せず安全運転を心がけてください。**
- **ドライバーモニターシステムは疲労時の運転を補助するものではありません。**

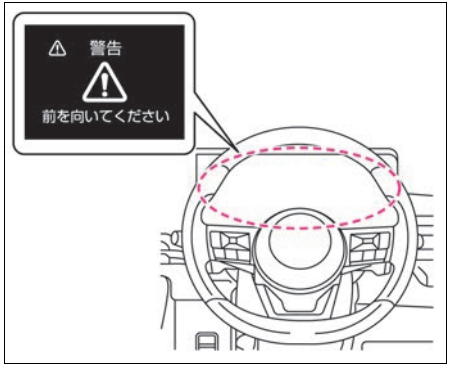
  疲労時の運転は重大な事故にいたる危険がありますので、運転前に十分に休憩をとり、安全運転に努めてください。
- **ドライバーモニターシステムは、脇見運転などの前方不注意での運転を補助するものではありません。**

  脇見運転は重大な事故にいたる危険がありますので、常に進行方向の交通状況、道路状況を確認し、安全運転に努めてください。

アドバイス

- ドライバーモニターシステムは運転席ピラー部にあるカメラにより運転者の目、鼻、口、顔や頭の形などの特徴を認識しています。目、鼻、口、顔や頭の形などの特徴が認識できないときは正しく機能しない場合があります。正しい運転姿勢をとれるよう、シート、ハンドルの位置を調節してください。

（➔正しい運転姿勢について（P.22））



- 走行中に運転者が一定時間以上、眼を閉じたり顔の向きを前方から大きく外したりするなどして、居眠りや脇見などをしているとシステムが判断した場合、音と表示で警告します。

ドライバーモニターシステムの停止のしかた

- アドバンスドドライブアシストディスプレイで次の操作をすると、ドライバーモニターシステムのON・OFFを切り替えることができます。
  設定［ ⚙ ］⇒［運転支援］⇒［ドライバーモニター］⇒［ドライバーモニターカメラ］
  設定の詳細については、運転支援（➔P.80）をお読みください。
- ドライバーモニターの設定は、e-POWERシステムを再始動しても維持されます。
- アドバンスドドライブアシストディスプレイでOFFにしている場合でも、プロパイロット2.0が作動しているときは警告をすることがあります。

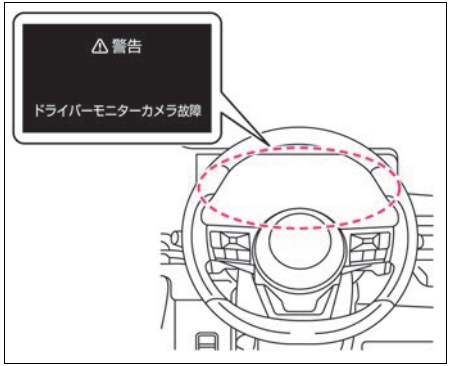
ドライバーモニターシステムに異常があるとき

アドバイス

- ドライバーモニターカメラ部の汚れにより警告が表示されたときは安全な場所に停車し、カメラ部の汚れを取り除いてからe-POWERシステムを一旦停止して再始動してください。

  上記の操作をしても、警告が表示されるときは通常走行には支障はありませんが、日産販売会社で点検を受けてください。

  ➔ドライバーモニターカメラの取り扱い（P.314）



● ドライバーモニターシステムに異常があると、アドバンスドドライブアシストディスプレイに［ドライバーモニターカメラ故障］と警告が表示され、システムが自動的に停止します。

ドライバーモニターシステムに関する注意事項

⚠ 注意

● **次のような場合、ドライバーモニターシステムが運転者を適切に検出できないことがあります。**

— 車室内へ太陽光が入り込み、ドライバーモニターカメラまたは、運転者が照らされているとき

— 太陽光の入り込みと影になることが繰り返すとき

— 眼鏡やサングラス、帽子、マスク、眼帯などを着用している場合など目、鼻、口のいずれかが隠れていたり、顔や頭の形を変える衣服を着用したりしているとき

— ハンドルや運転者の手、その他の障害物などで目、鼻、口、顔や頭の形が隠れているとき

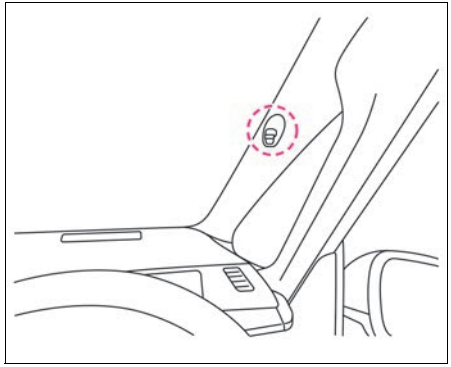
— ドライバーモニターカメラに触れ、汚れや指紋が付着したとき

— 助手席や後席シートの方が運転席付近に身を乗り出したときなど、運転席付近に2つ以上の顔が存在するとき

— 前方からの太陽光の眩しさなどで目を細めたり、運転姿勢をくずしたりしているとき

● **状況によっては外部の騒音などにより、警報音（ブザー）が聞こえない場合があります。**

ドライバーモニターカメラの取り扱い



システムを正しく作動させるために次のことをお守りください。

● ドライバーモニターカメラ周辺部はいつもきれいにしておいてください。塵、ほこりを取り除き、柔らかい布を真水に浸して、固くしぼってから軽くふき取ります。

● 硬いブラシや布、ティッシュでこすると、傷がつくことがあります。

● ドライバーモニターカメラ周辺にものを置いたり、ステッカー（透明な物を含む）を貼ったり、アクセサリーなどを取り付けたりしないでください。誤作動の原因になります。

● ドライバーモニターカメラ周辺に強い衝撃を与えないでください。またカメラを取り外さないでください。故障、誤作動の原因になります。

● 事故などでドライバーモニターカメラ周辺部が変形した場合は、日産販売会社にご相談ください。

ライセンスについて

● ドライバーモニターシステムには、オープンソースを使用したソフトウェア（OSS）が含まれています。次のwebサイトにライセンス情報が記載されています。
http://www.embedded-carmultimedia.jp/RTOS/License/oss/DMS_0401/

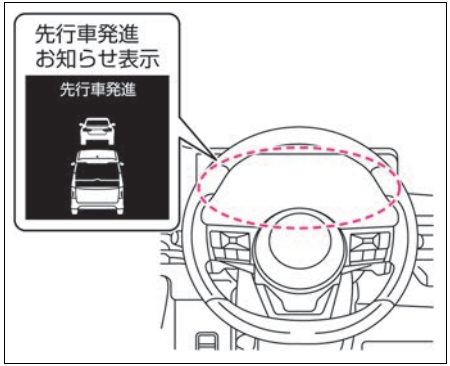
先行車発進お知らせ

先行車が発進しても自車が停止し続けた場合に、音と表示でお知らせする機能です。

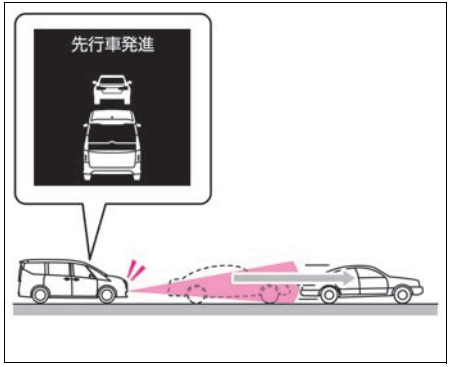
システムに関連する表示

⚠ 注意

● **先行車との車間距離や周囲の状況を目視で直接確認し、常に安全運転を心がけてください。**



先行車発進お知らせについて



● 自車と先行車が停止したあと、先行車が発進しても自車が停止し続けた場合に、ブザー音とアドバンスドドライブアシストディスプレイの表示でお知らせします。

● 次のいずれかの条件を満たしているときに作動します。
- シフトポジションがP、R以外でブレーキペダルを踏んで停止している
- シフトポジションがP、R以外でオートブレーキホールド機能が作動している
- シフトポジションがNで停止している
- インテリジェント クルーズコントロールで停止状態を保持している

先行車発進お知らせの設定のしかた

● アドバンスドドライブアシストディスプレイで設定［ ⚙ ］⇒［運転支援］⇒［先行車発進お知らせ］を選択すると、先行車発進お知らせの設定（OFF／遅め／標準／早め）を切り替えることができます。
設定の詳細については、運転支援（➔P.80または➔P.106）をお読みください。

先行車発進お知らせに関する注意事項

● 次の場合は作動しません。
- インテリジェント エマージェンシーブレーキのシステム異常などにより、インテリジェント エマージェンシーブレーキ警告灯が点灯しているとき（インテリジェント エマージェンシーブレーキやVDCをOFFにしているときを除く）
- 先行車との車間距離が長いとき

- システムを正しく作動させるために車両前部に取り付けられたレーダーセンサーとその周辺、およびマルチセンシングフロントカメラ前方のフロントガラスのお手入れを行ってください。
  ➔ レーダーセンサーの取り扱い (P.475)
  ➔ マルチセンシングフロントカメラの取り扱い (P.475)
- 次のような場合は、作動が遅れたり、作動しないことがあります。
  - 自車と先行車との間に別の車両や歩行者、自転車などが割り込んだり横切ったとき
  - 先行車がオートバイのような幅の狭い車両のとき
  - 先行車との車間距離が極端に短いとき
  - 先行車が自車に対して左右にずれているとき
  - 先行車が右左折、車線変更、急旋回をしたとき
  - 先行車が極端に遅い速度で移動しているとき
  - 急勾配の坂道、急カーブで停止しているとき
  - 未舗装路など凹凸のある路面で停止しているとき
  - 車両が傾いているとき（後席シートやラゲッジルームに極端に重い荷物を積んでいるとき）
  - ハンドルが大きく切れているとき
  - 悪天候（雨、雪、霧、風塵、砂塵、吹雪など）のとき
  - 前方の車両や対向車などにより水、雪、砂などの巻き上げが発生しているとき
  - 雪や氷、泥などがレーダーセンサー周辺に付着しているとき
  - カメラの視界が遮られているとき（フロントガラスの汚れ、油膜、虫汚れ、ワイパーブレード）
  - カメラ前方のフロントガラスがくもっているとき
  - アドバンスドドライブアシストディスプレイにソナー表示されているとき
- 道路状況や交通状況などにより不必要な作動をすることがあります。周囲の状況を目視で直接確認してください。

インテリジェント アラウンドビューモニター（移動物 検知機能付）★

インテリジェント アラウンドビューモニターは、自車位置を映し出すことにより、駐車スペースへの駐車時や縦列駐車時に運転者を補助します。

インテリジェント アラウンドビューモニターについて

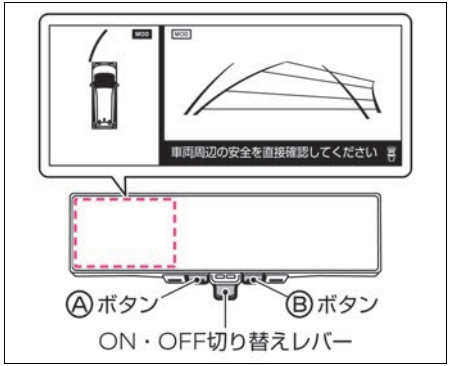
⚠ 警告

- **インテリジェント アラウンドビューモニターの機能を過信しない。**

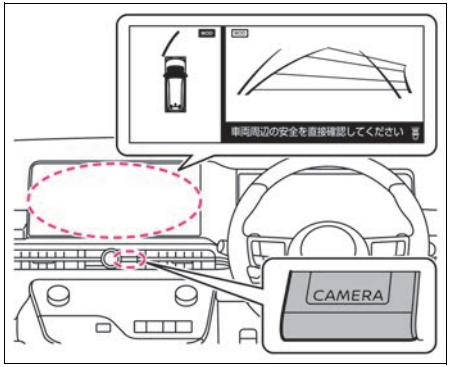
  インテリジェント アラウンドビューモニターは障害物などの確認を補助するシステムです。車両の操作をするときは、周囲の安全をミラーや目視で直接確認してください。特に車両の四隅は、トップビュー、フロントビュー、リヤビューに障害物が映らない死角になります。必ず窓から目視し、安全を確認してから車両を操作してください。常に低速で車両を移動させてください。

- **実際の距離感を間違えないように注意する。**

  インテリジェント アラウンドビューモニターに映し出される障害物までの距離は、実際とは異なることがあります。



- メーカーオプションナビゲーションシステム非装着車は、<パワースイッチ>がONのときに、インテリジェント ルームミラーのON・OFF切り替えレバーを手前に引き、<Ⓐボタン>を押すか、シフトポジションをRにするとインテリジェント ルームミラーに表示します。



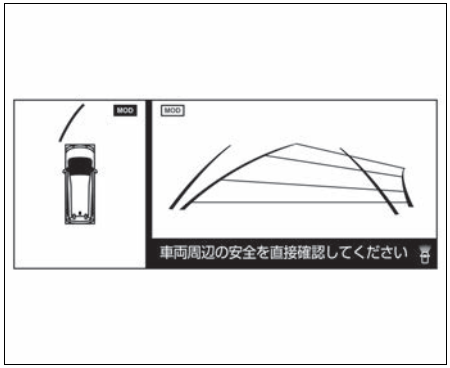
- メーカーオプションナビゲーションシステム装着車は、<パワースイッチ>がONのときに、<CAMERA>スイッチを押すか、シフトポジションをRにするとナビゲーションシステムに表示します。

インテリジェント アラウンドビューモニターの使いかた

⚠ 警告

- **ドアミラーを格納した状態で使用しない。**

  ドアミラーを格納すると、一部の表示が欠けるなど正確に表示できません。周辺を直接確認し十分注意して使用してください。使用するときは、バックドアが確実に閉まっているか確認してください。



- メーカーオプションナビゲーションシステム非装着車は、インテリジェント

ルームミラーがインテリジェント ルームミラーモードのときに使用できます。
（➔P.162）

- シフトポジションをRにするとインテリジェント アラウンドビューモニターがONになり、トップビュー（左側画面）／リヤビュー（右側画面）を表示します。シフトポジションをR以外にすると、インテリジェント アラウンドビューモニターがOFFになります。
- シフトポジションがDまたはBのときに、ソナーが障害物を検知したときはインテリジェント アラウンドビューモニターがONになり、トップビュー（左側画面）／フロントビュー（右側画面）を表示します。障害物の検知がなくなると、インテリジェント アラウンドビューモニターはOFFになります。
- インテリジェント アラウンドビューモニターがONのときにドアミラーを格納すると、シフトポジションがDのときはサイドブラインドビュー（ドアミラー連動）（左側画面）/フロントビュー（右側画面）を表示し、シフトポジションがRのときはサイドブラインドビュー（ドアミラー連動）（左側画面）/リヤビュー（右側画面）に自動で切り替わります。
  ただし、フロントワイドビュー（全画面）またはリヤワイドビュー（全画面）を表示しているときは、自動で画面は切り替わりません。
- インテリジェント ルームミラーの<Ⓐボタン>（メーカーオプションナビゲーションシステム非装着車）または<CAMERA>スイッチ（メーカーオプションナビゲーションシステム装着車）を押すとインテリジェント アラウンドビューモニターがONになり、トップビュー（左側画面）／フロントビュー（右側画面）を表示します。

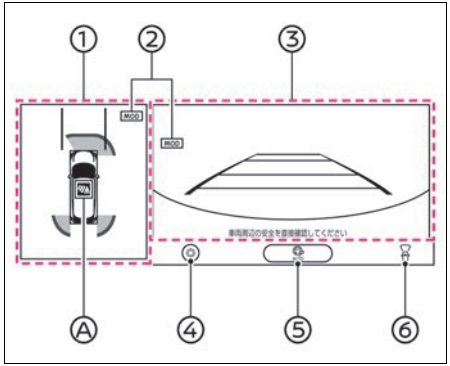
知識

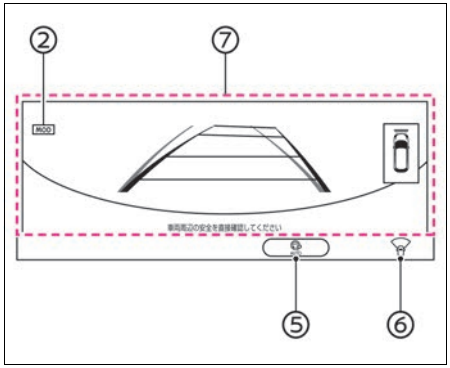
- インテリジェント ルームミラーの<Ⓑボタン>（メーカーオプションナビゲーションシステム非装着車）または<CAMERA>スイッチ（メーカーオプションナビゲーションシステム装着車）を押すと、次のとおりに画面を切り替えることができます。
  - シフトポジションがRのとき
    トップビュー（左側画面）/リヤビュー（右側画面）
    →サイドブラインドビュー（左側画面）/リヤビュー（右側画面）
    →リヤワイドビュー（全画面）
    →トップビュー（左側画面）/リヤビュー（右側画面）
  - シフトポジションがR以外のとき
    トップビュー（左側画面）/フロントビュー（右側画面）
    →サイドブラインドビュー（左側画面）/フロントビュー（右側画面）
    →フロントワイドビュー（全画面）
    →インテリジェント アラウンドビューモニターOFF
  - シフトポジションがRでドアミラーを格納しているとき
    サイドブラインドビュー（ドアミラー連動）（左側画面）/リヤビュー（右側画面）→トップビュー（左側画面）/リヤビュー（右側画面）→リヤワイドビュー（全画面）→サイドブラインドビュー（ドアミラー連動）（左側画面）/リヤビュー（右側画面）
  - シフトポジションがR以外でドアミラーを格納しているとき
    サイドブラインドビュー（ドアミラー連動）（左側画面）/フロントビュー（右側画面）→トップビュー（左側画面）/フロントビュー（右側画面）→フロントワイドビュー（全画面）→サイドブラインドビュー（ドアミラー連動）（左側画面）/フロントビュー（右側画面）
- 右側画面にフロントビューが表示されているときにシフトポジションをRにすると、リヤビューに切り替わります。シフトポジションをR以外にすると、再度、フロントビューに切り替わります。

知識

- **3分タイマー機能**
  インテリジェント ルームミラーの<Ⓐボタン>（メーカーオプションナビゲーションシステム非装着車）または<CAMERA>スイッチ（メーカーオプションナビゲーションシステム装着車）を押してから約3分後にインテリジェント アラウンドビューモニター表示が消える機能です。シフトポジションがR以外のときに作動します。ただし、タイマー作動中にインテリジェント ルームミラーの<Ⓑボタン>（メーカーオプションナビゲーションシステム非装着車）または<CAMERA>スイッチ（メーカーオプションナビゲーションシステム装着車）を押したり、ソナーまたは移動物 検知機能が作動したりするとタイマーがリセットされます。

画面の見かた





①左側画面

- トップビューまたはサイドブラインドビューを表示します。
- <パワースイッチ>をONにしてから初めてインテリジェント アラウンドビューモニターを表示したときに、アイコンⒶの色と点滅（約3秒間）で、ソナーの作動状況を表します。
  - 赤色に点滅：ソナーON
  - 灰色に点滅：ソナーOFF（ソナーをOFFにした直後も点滅します）

②移動物 検知機能作動状態アイコン

- どちらのビューで移動物 検知機能が作動するかを表します。
  - MOD（緑色）：移動物 検知機能が作動します
  - MOD（灰色）：移動物 検知機能が作動しません
- 表示しているビューで映している範囲でのみ移動物 検知機能が作動します。例えば、リヤビューで移動物 検知機能を作動させている場合には、車両前方の移動物は検知しません。

③右側画面

- シフトポジションがRのときはリヤビューを、R以外のときはフロントビューを表示します。

④設定アイコン★

- タッチするとプロパイロット パーキングの設定を変更できます。
  ➔ プロパイロット パーキングの設定 (P.347)

⑤プロパイロット パーキング開始アイコン★

- タッチするとプロパイロット パーキングを開始します。

⑥方向指示アイコン

● 画面の映している方向を表します。

— ：リヤビュー表示

— ：フロントビュー表示

— ：ワイドリヤビュー表示

— ：ワイドフロントビュー表示

⑦全画面ワイドビュー画面

● フロントまたはリヤワイドビューを表示します。

※：本表示はメーカーオプションナビゲーションシステム装着車の表示になります。グレード、オプションなどにより表示は異なります。

画面表示に関する注意事項

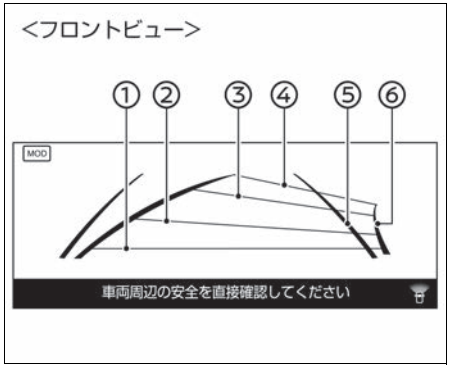
⚠ 警告

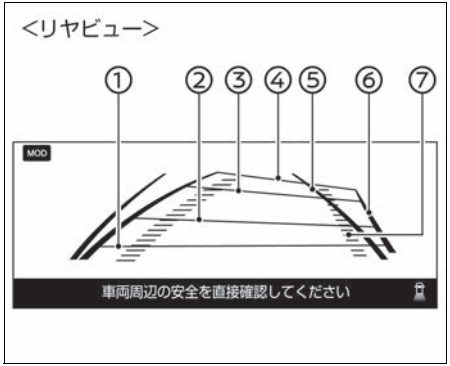
- **リヤビューに表示される障害物までの距離は、実際とは異なることがあります。**
- **ドアミラー、車両前方、車両後方に装着されているカメラからの映像を組み合わせて処理した疑似的な映像のため、トップビューは、障害物を実際より遠く映します。**
- **囲いや車両といった高さのある障害物は、映像の継ぎ目で位置がずれたり、表示されなかったりすることがあります。**
- **カメラの高さよりも上にある障害物は表示されません。**
- **トップビューの映像は、カメラの位置が変化するとずれることがあります。**
- **路上の線は映像の継ぎ目でずれたり、曲がって見えたりすることがあります。ずれは、車両から遠ざかるにつれて大きくなります。**

画面表示の種類について

■ フロントビュー／リヤビュー

● 車両の前方／後方の映像をインテリジェント アラウンドビューモニター右側画面に表示します。





距離目安ライン

● 車体からの距離の目安を表示します。

— ①赤色：約0.5m

— ②水色：約1m

— ③水色：約2m

— ④水色：約3m

⑤車幅目安ライン

● 車幅の目安を表示します。

⑥予想進路線

● 運転操作時に予想進路を表示します。ハンドルを切った角度に応じて移動します。

● フロントビューは、車速が約10km/hを超えると表示されなくなります。

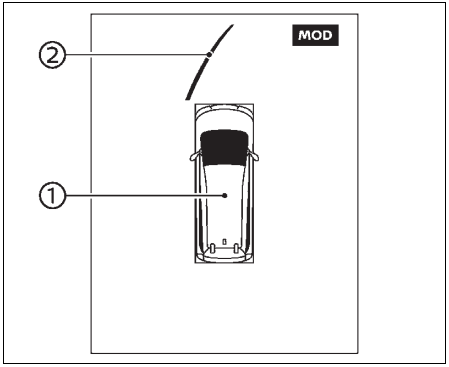
⑦タイヤ予想進路線

● タイヤの予想進路を表示します。ハンドルを切った角度に応じて移動します。

アドバイス

- フロントビューが表示されているときに、中立位置から約90度の範囲内でハンドルを切ると、予想進路線が左右に表示されます。約90度以上ハンドルを切ると、予想進路線はハンドルを切った方向とは逆方向にのみ表示されます。
- リヤビューモニターの映像は、ルームミラーやドアミラーで見るのと同様に左右反転させた映像です。
- 雪道や滑りやすい路面では、予想進路線と実際の進路が異なることがあります。

■ トップビュー

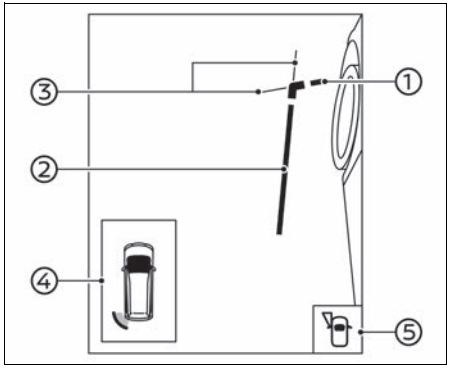


①自車

②予想進路線

- 自車位置や駐車スペースへの進入コースがわかりやすい、車両を上から見たような映像をインテリジェント アラウンドビューモニター左側画面に表示します。
- 車両アイコン①は、自車位置を示しています。トップビューに表示される障害物までの距離は、実際とは異なることがあります。
- 予想進路線②はハンドルを切った角度のまま進んだときの予想進路を表示します。

■ サイドブラインドビュー



①前端目安ライン

②側方目安ライン

③前端目安ラインと側方目安ラインの延長線

④ソナー表示

⑤方向指示アイコン

- 車両の左側前輪付近から前方を、インテリジェント アラウンドビューモニター左側画面に表示します。道路端への幅寄せ駐車などに便利です。

目安ライン

- モニターには車幅と車両の前端を示す目安ラインが表示されます。
  - ①前端目安ラインは、車両前部の位置の目安を示します。
  - ②側方目安ラインは、ドアミラーを含めた車幅の目安を示します。
  - ③前端目安ラインと側方目安ラインの延長線は、水色で表示します。

ソナー表示

- ④ソナー表示は、ソナーが障害物を検知すると、表示されます。

アドバイス

- 方向指示器の光が側方目安ラインと重なる場合がありますが、異常ではありません。
- サイドブラインドビュー表示中に、約10km/h以上になると画面の一部がグレーとなりますが、異常ではありません。

■ サイドブラインドビュー（ドアミラー連動）（プロパイロット パーキング付車）

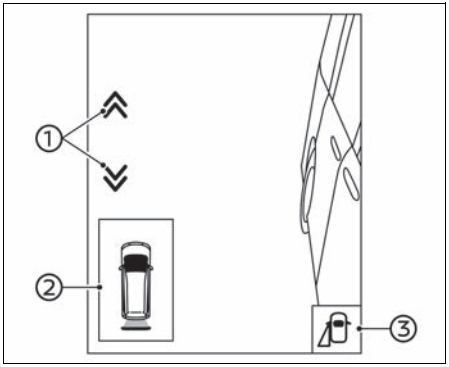
- サイドビューカメラにより、車両後方の映像を表示する視界補助機能です。

警告

- **ドアミラーの代わりとしては使用できません。**
- **ドアミラー位置や、車両前方の方向を表示するものではありません。**

⚠ 警告

- **停車時にお使いください。**



①スワイプガイド表示

②ソナー表示

③方向指示アイコン

- ドアミラーの格納に連動して、インテリジェント アラウンドビューモニターの左側画面に表示します。
- 画面をタッチした状態で指を上側に移動（スワイプ）させると、下向きの映像表示になります。
（元の位置に戻したい場合は、反対方向に移動させます）

ソナー表示

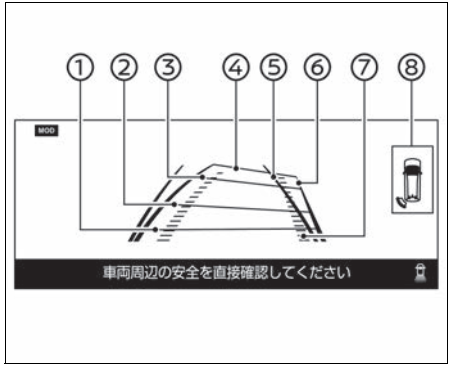
- ②ソナー表示は、ソナーが障害物を検知すると、表示されます。

アドバイス

- サイドブラインドビュー（ドアミラー連動）の映像は、ドアミラーで見るのと同様に左右反転させた映像です。
- ドアミラーを格納すると自動的にサイドブラインドビュー（ドアミラー連動）を表示しますが、<CAMERA>スイッチを押すと他のビューに切り替えることができます。ただし、ワイドビュー表示中は自動的にビューは切り替わりません。
- 画面に表示される映像は、実際の大きさと異なっているように見えます。
- 表示方向をスワイプ操作で上下に変更できます。（e-POWERシステムを停止すると、表示方向は初期に戻ります）

■ 全画面フロントワイドビュー／全画面リヤワイドビュー

- 車両の前方／後方の映像を画面幅いっぱいに表示します。



距離目安ライン

- 車体からの距離の目安を表示します。
  - ①赤色：約0.5m
  - ②水色：約1m
  - ③水色：約2m
  - ④水色：約3m

⑤車幅目安ライン

- 車幅の目安を示します。

⑥予想進路線

- 運転操作時に予想進路を示します。ハンドルを切った角度に応じて移動します。

⑦タイヤ予想進路線（全画面リヤワイドビューのみ）

- タイヤの予想進路を表示します。ハンドルを切った角度に応じて移動します。

⑧ソナー表示

- ソナーが障害物を検知すると表示します。

アドバイス

- リヤビューモニターの映像は、ルームミラーやドアミラーで見るのと同様に左右反転させた映像です。
- 雪道や滑りやすい路面では、予想進路線と実際の進路が異なることがあります。

画質調整のしかた（メーカーオプションナビゲーションシステム装着車）

ナビゲーションシステムで次の操作をすると、インテリジェント アラウンドビューモニター画面の画質を調整することができます。

［⌂］⇒［⚙］⇒［カメラ］

ナビゲーションシステムの操作方法は、別冊のナビゲーションシステム取扱説明書をお読みください。

項目 1	項目 2	機能
画質調整	明るさ	●［+］、［-］をタッチして明るさを調整します。
	コントラスト	●［+］、［-］をタッチしてコントラストを調整します。
	色合い	●［+］、［-］をタッチして色合いを調整します。
	色の濃さ	●［+］、［-］をタッチして色の濃さを調整します。
	黒レベル	●［+］、［-］をタッチして黒レベルを調整します。

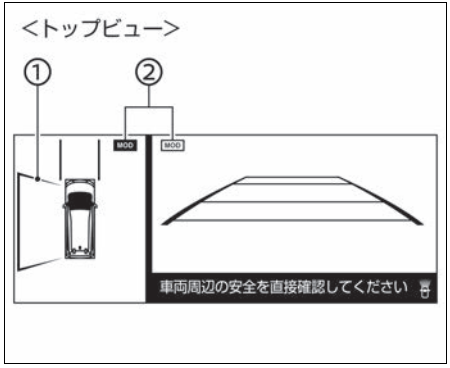
移動物 検知機能について

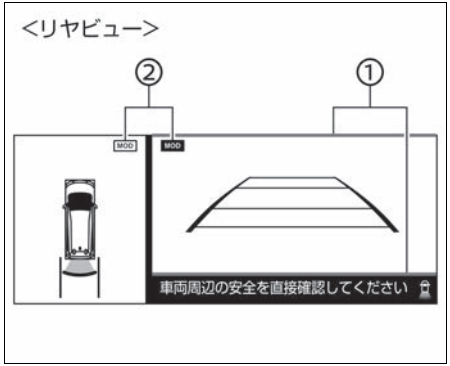
⚠ 注意

- **車両の操作をするときは、周囲の安全をミラーや目視で直接確認してください。**

- 車庫入れや駐車場からの発進時などに自車周辺の移動物を運転者にお知らせすることで、安全確認をサポートする機能です。
- 車両周辺に移動物があるときに、音と黄枠を表示してお知らせします。
- トップビューに MOD（緑色）表示がある場合には移動物を検知したエリア（前後左右）に黄枠を表示します。
- 移動物 検知機能は次の条件のとき、MOD（緑色）が表示されている画面で作動します。
  - シフトポジションがPまたはNで停車しているときに、トップビュー側で作動します。
  - シフトポジションがDまたはBで車速約8km/h以下のときに、フロントビューで作動します。
  - シフトポジションがRで車速約8km/h以下のときに、リヤビューで作動します。
- ソナーブザーが鳴っている場合は移動物検知機能ブザーは鳴りません。
- サイドブラインドビューには移動物 検知機能がないため、移動物 検知機能作動状態アイコンを表示しません。

画面の見かた





①移動物 検知表示

- 移動物 検知機能で移動物を検知したときに、黄枠でお知らせします。

②移動物 検知機能作動状態アイコン

- 移動物 検知機能を作動させる側の画面のアイコンを緑色で表示します。
  - MOD（緑色）：移動物 検知機能が作動します
  - MOD（灰色）：移動物 検知機能が作動しません
- 次の場合には移動物 検知機能は作動しません。
  - 車速やシフトポジションが移動物 検知機能の作動条件から外れている場合
  - トップビューによる移動物 検知機能作動中でいずれかのドアが開いている場合
  - リヤビューによる移動物 検知機能作動中でバックドアが開いている場合
- トップビューによる移動物 検知機能作動中で電動格納式ミラーの開閉作動中は、誤検知する場合があります。

ソナー機能について

⚠ 警告

- **バンパーにへこみなどがあると正確な距離が測定できず、正常に作動できない場合があります。**
- **適正なタイヤの空気圧を維持してください。誤作動の原因になります。**
- **純正以外のバンパーを取り付けたとき、正常に作動できない場合があります。**
- **ソナーの性能には限界があるため、システムだけに頼らず、常に安全を心がけてください。詳細については、検知条件と制限をお読みください。**

➔ ソナーの検知条件と制限 (P.228)

⚠ 注意

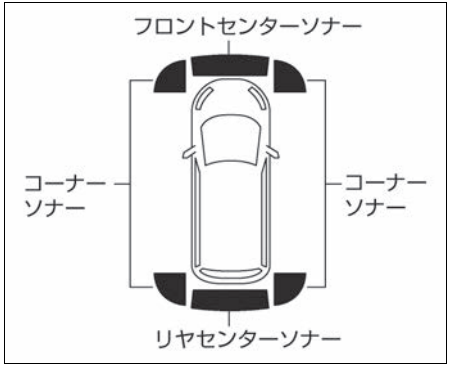
- **気温や天候、路面状態などの周囲の状況や、障害物の大きさ、形状によってはソナーが検知できないことがあります。また、音波を吸収しやすいものにも、ソナーが検知できないことがあります。必ず周囲を確認して運転をしてください。**
- **次のような障害物には作動しません。**
  - 背の低い障害物
  - 幅の狭い障害物
  - 針金、金網、ロープなどの細い障害物
  - ソナーに非常に近い障害物
  - 急に進行方向に現れた障害物
- **次のような障害物は検知しないことや作動が遅れることがあります。**
  - 地面から高い位置に存在する障害物
  - スポンジ状のものや雪など表面が柔らかく音波を吸収しやすい障害物
- **ソナーは次のような場合は検知しない、もしくは正しく検知できない場合があります。**
  - 雨、雪、氷、汚れなどがソナーに付着しているとき
  - 障害物の面が車両の前面、または後面に対して斜めのとき
  - 周囲に草が生い茂っているとき
  - 車両側面の近くに壁があるとき
  - 路面上に段差や突起物があるとき
  - 垂れ下がった旗、ビニールカーテンなどをくぐって走行するとき
  - 車両周辺に雪のかたまりがあるとき
  - 周囲で大きな音が鳴っているとき

⚠ 注意

- 車両感応センサーやホーン、他車のソナー、オートバイの排気音など超音波を発生するものが付近に存在するとき
- 炎天下や寒冷時
- 表面が一様でない障害物（複数の障害物が積載されて凹凸な形状の場合）

- **外部の騒音などにより、警報音（ブザー）が聞こえない場合があります。**
- **ソナー部が凍結したときは異常表示が出たり、壁などの障害物があったりしてもソナーが検知しないことがあります。**

  （氷が解ければ、正常に復帰します）
- **ソナーは前後バンパーについています。バンパーには、ステッカーを貼ったりアクセサリーなどを取り付けたりしないでください。**
- **適正なタイヤの空気圧を維持してください。誤警報や誤操作の原因になります。**



- メーカーオプションナビゲーションシステム非装着車は、インテリジェントルームミラーがインテリジェント ルームミラーモードのときにソナー表示が使用できます。
- インテリジェント アラウンドビューモニター（移動物 検知機能付）を表示させて、走行中にソナーが静止した障害物を検知した場合は、ソナー表示とブザーでお知らせします。
- ソナー表示はトップビュー、サイドブラインドビューまたは全画面ワイドビュー画面に表示されます。
- 障害物を検知してから、ソナー表示とブザーが出るまでに多少時間がかかります。

アドバイス

- システムを正しく作動させるためにソナーはいつもきれいにしておいてください。ソナーの取り扱いについては、（➔P.476）をお読みください。

■ コーナーソナー

障害物までの距離（目安）	60 ～ 50cm	50 ～ 30cm	30cm 以下
表示色	緑	黄（オレンジ）	赤
表示点滅速度	遅い	速い	点灯
ブザー音	ピッ、ピッ、ピッ…	ピピピピピ…	ピー

■ フロントセンターソナー

障害物までの距離（目安）	100 ～ 70cm	70 ～ 50cm	50 ～ 30cm	30cm 以下
表示色	緑	緑	黄（オレンジ）	赤
表示点滅速度	遅い	遅い	速い	点灯
ブザー音	無し	ピッ、ピッ、ピッ…	ピピピピピ…	ピー

■ リヤセンターソナー

障害物までの距離（目安）	150 ～ 70cm	70 ～ 30cm	30cm 以下
表示色	緑	黄（オレンジ）	赤
表示点滅速度	遅い	速い	点灯
ブザー音	ピッ、ピッ、ピッ…	ピピピピピ…	ピー

■ ソナー表示色

●ソナー表示の色は、障害物に近づくに従って、緑、黄（オレンジ）、赤と変化します。ソナーの表示の色と距離目安線とでは障害物までの距離は異なります。

■ ブザー音

●障害物との距離が近づくに従って、断続音の間隔が短くなります。表示が赤の場合は連続音になります。

●障害物との距離が広がった場合は断続音が消え、ソナー表示のみとなります。

●フロントソナーが検知したときは低音、リヤソナーが検知したときは高音でお知らせします。

■ ソナー機能OFF

●アドバンスドドライブアシストディスプレイで設定［ ⚙ ］⇒［運転支援］⇒［駐車支援］を選択すると、各ソナー機能のON・OFFを設定できます。

■ ソナーによるカメラ画面の自動表示機能

●シフトポジションがDかつ車速約10km/h以下でカメラ画面が表示されていない場合に、車両前方の障害物を検知した場合はインテリジェント アラウンドビューモニター画面を自動で表示します。

●障害物がなくなると、自動的にインテリジェント アラウンドビューモニターはOFFになります。

■ ソナーシステムの作動が停止するとき

●システムに異常があると、アドバンスドドライブアシストディスプレイ内に警告が表示され、システムが停止します。
ソナーシステム異常警告（➲P.425）

インテリジェント アラウンドビューモニター★に関する注意事項

⚠ 警告

● カメラはフロントグリル中央部、ドアミラー、リヤナンバープレート上部に装着されています。作動を妨げるような物をカメラ部分に取り付けないでください。字光式ナンバープレートやナンバープレートリムを装着すると、フロントビューおよびリヤビューモニターの映像が一部映らなくなることがあります。

● 距離目安ラインと車幅目安ラインは、舗装された平坦な路面上での目安として使用してください。画面に表示される距離は目安であり、自車と映し出されている障害物までの距離は、実際とは異なることがあります。

● 目安ラインや予想進路線は、乗車人数や燃料の容量などの影響により実際の距離と異なることがあります。目安としてお使いください。

● サイズが異なるタイヤと交換すると、予想進路線とトップビューが不適切に表示されることがあります。

● 上り坂では、モニターに表示される障害物は実際よりも遠くにあるように見えます。下り坂では、モニターに表示される障害物は実際よりも近くにあるように見えます。ミラーを併用するか、目視によって正確な距離を判断してください。

● フロントビューおよびリヤビューの表示線は、路面の状況により障害物への距離が実際と異なって見えることがあります。特徴をよく理解してください。

アドバイス

● カメラに汚れ、雨、雪が付着すると、映像の映りが悪くなることがあります。カメラを清掃してください。

➲フロントビューカメラ★／サイドビューカメラ★の取り扱い（P.476）

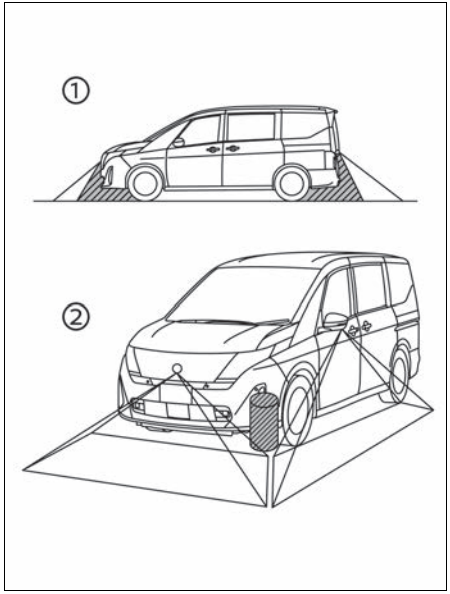
アドバイス

➔ リヤビューカメラ★の取り扱い (P.476)

- アルコール、ベンジン、シンナーなどを使用してカメラを清掃しないでください。変色する原因となります。中性洗剤を薄めて柔らかい布に含ませてふき取ったあと、乾いた柔らかい布でふいてください。
- モニター映像に悪影響が生じるため、カメラに傷をつけないよう注意してください。
- カメラにはワックスを使用しないでください。中性洗剤を薄めて含ませた清潔な布でワックスをふき取ってください。

- カメラレンズの特性により、画面上の距離と実際の距離が異なって見えたり、対象物が変形して見えたりすることがあります。車幅目安ラインと予想進路線は、実際の車幅と進路よりも広くなっています。
- シフトポジションがR以外のとき、インテリジェント ルームミラーの<Ⓐボタン>（メーカーオプションナビゲーションシステム非装着車）または<CAMERA>スイッチ（メーカーオプションナビゲーションシステム装着車）を押してインテリジェント アラウンドビューモニターを表示させたあと、ソナーまたは移動物 検知機能が作動しない状態で約3分間操作を行わないでいると、インテリジェント アラウンドビューモニター表示が消えます。（3分タイマー機能）
- 画面の切り替わり後は、映像の表示が遅れることがあります。インテリジェント アラウンドビューモニターが完全に表示されるまでは、映像が一時的にゆがむことがあります。
- 外気温が極端に高いか、低いときは、映像の映りが悪くなることがありますが、異常ではありません。
- カメラに直接強い光を当てると、映像の映りが悪くなることがありますが、異常ではありません。
- 蛍光灯照明が当たると、映像にちらつきが出ることがありますが、異常ではありません。
- インテリジェント アラウンドビューモニター映像の色味は、実際とはわずかに異なって見えることがあります。
- 暗いところや夜間時には映りが悪くなり、色味が異なって見えることがありますが、異常ではありません。
- トップビューの各カメラの映像に鮮明さの違いが生じることがあります。
- トップビューの画像は、4つのカメラからの映像を加工処理して表示するため、次のように表示される場合があります。
  - 立体物が倒れ込んで見える
  - 路面よりも高い位置にある車両などが実際より遠くに見える
  - 高さのあるものが画像の継ぎ目でずれて表示される
  - 各カメラ画像の明るさが違う

映し出す範囲



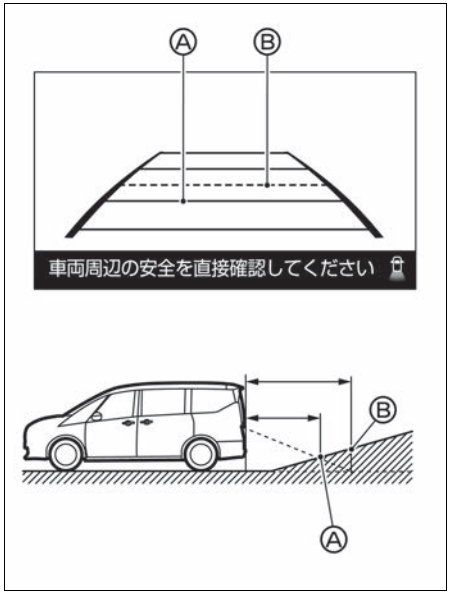
- 特定の領域は、カメラに映し出されません。フロントビューまたはリヤビューでは、バンパー下側または地上面の部分は表示されないことがあります①。トップビューではカメラの映し出す範囲の境目付近にあるもの、路面より高さのあるものは表示されないことがあります②。

映像と実際の路面との誤差

- フロントビューとリヤビューに表示される距離目安ラインと車幅目安ラインは、舗装された平坦な路面上での目安として

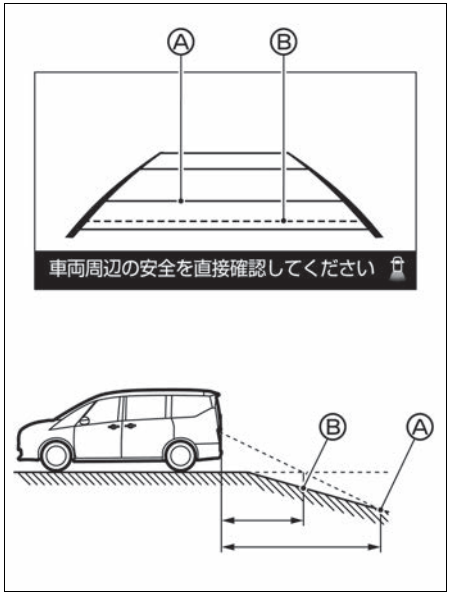
使用してください。画面に表示される距離はあくまでも目安であり、自車と映し出されている障害物までの距離は、実際とは異なることがあります。

急な上り坂が後方にあるとき



● 距離目安ライン、車幅目安ラインは実際の距離よりも手前に表示されます。例えば、位置Ⓐまでの距離が1mと表示されていても、実際に1mの距離にあるのは、位置Ⓑです。上り坂に障害物があるときは、障害物は実際よりも遠くにあるように見えます。

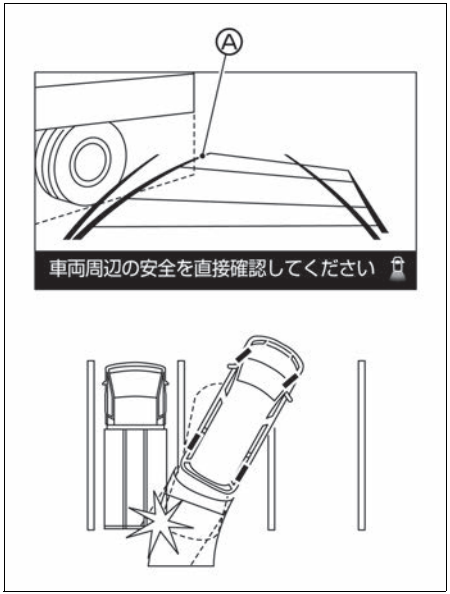
急な下り坂が後方にあるとき



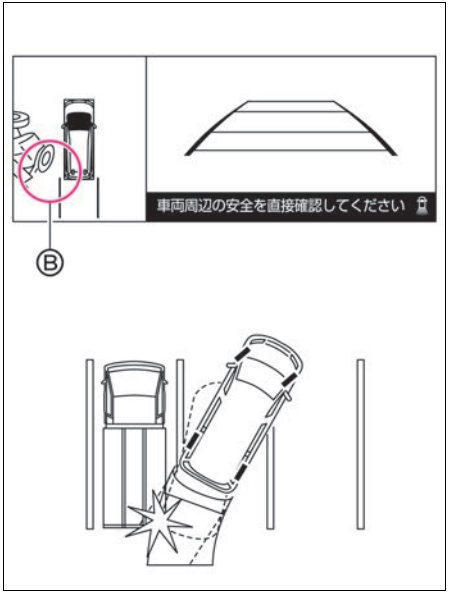
● 距離目安ラインと車幅目安ラインは実際の距離よりも後ろに表示されます。例えば、位置Ⓐまでの距離が1mと表示されていても、実際に1mの距離にあるのは、位置Ⓑです。下り坂に障害物があるときは、障害物は実際よりも近くにあるように見えます。

立体物が近くにあるとき

● 立体物が近くにある場合には実際の距離と異なって表示される場合があります。

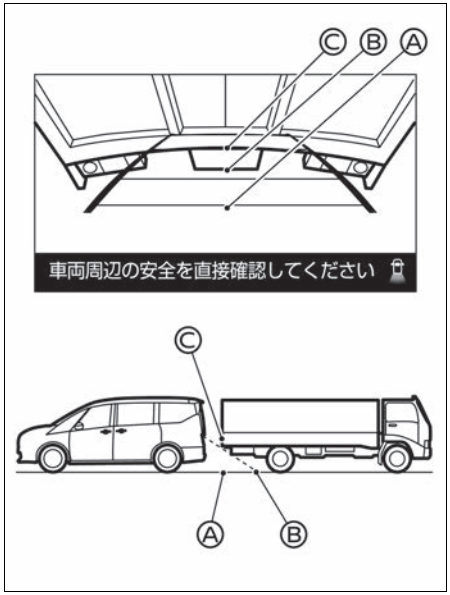


● 例1：予想進路線Ⓐは表示されているトラックの車体に触れていません。しかし、トラックの車体が実際の進路上に張り出している場合は、ぶつかることがあります。



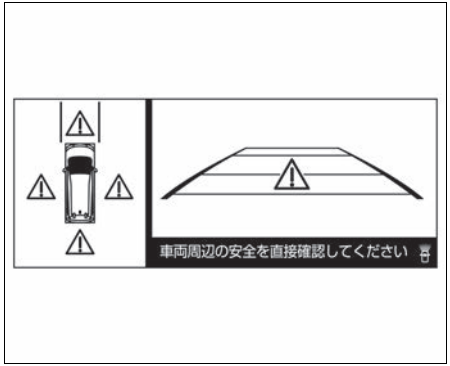
● 例2：表示されているトップビューⒷでは、自車とトラックの車体との間にはわずかな距離があるように見えます。しかし、実際の距離は表示されているよりも短く、トラックの車体にぶつかることがあります。

立体物に接近するとき

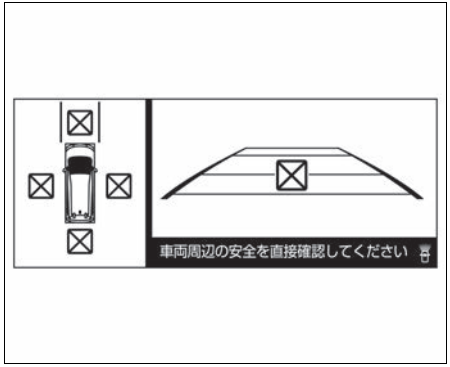


● Ⓒの位置はⒷの位置よりも遠くにあるように見えますが、実際はⒶの位置と同じ距離です。トラックの車体が実際の進路上に張り出している場合は、Ⓐの位置まで下がるとぶつかることがあります。

画面のエラー表示について



⚠ アイコンが画面内に表示された場合は、インテリジェント アラウンドビューモニター（移動物 検知機能付）の異常が考えられます。通常走行には支障はありませんが、日産販売会社で点検を受けてください。



⊠ アイコンが画面内に表示された場合は、カメラ映像が一時的に周囲の電子機器の影響を受けている可能性があります。頻繁に表示される場合は日産販売会社で点検を受けてください。

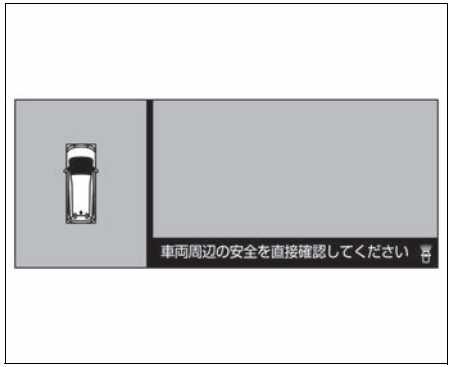
インテリジェント アラウンドビューモニターカメラの検知条件と制限

- インテリジェント アラウンドビューモニターカメラは次のような場合、障害物や区画線などを検知できないことがあります。
  - 雨や水しぶきがかかったとき
  - 夜間、地下、立体駐車場など周囲が暗いとき
  - 悪天候（雨、雪、霧、粉塵、砂塵、吹雪など）などで視界が悪いとき
  - カメラにお湯や水をかけたときなど、レンズがくもっているとき
  - 太陽や電灯の光が路面に映っているとき
  - 太陽や電灯の強い光が路面に当たっているとき
  - 降雨時や雨上がりなど、路面が濡れて光っていたり、水たまりがあったりするとき
  - 朝日や夕日など、太陽の光がカメラに入るとき
  - カメラのレンズのくもりや、汚れ、油膜、虫汚れ、水滴、氷、雪、泥などが付着しているとき
  - カメラの視界を妨げるようなものを取り付けたとき
  - カメラのレンズに強い光（太陽光や対向車両のハイビームなど）を受けているとき
  - 急ブレーキや積載によって車両姿勢が大きく傾いたとき
  - トンネルの出入り口や日陰など、急に明るさの変化が起こったとき
  - 勾配の変化があるところを走行しているとき
  - バックドアが開いているとき
  - シフトポジションがR以外のとき
  - 至近距離に歩行者が飛び出してきたとき
  - 子供などの背の低い人や動物、自転車
  - 前屈や後屈など直立・歩行以外の姿勢の人
  - 乗り物に乗っている人
  - ショッピングカートやベビーカーなどを押している人
  - 合羽やワンピースなど輪郭が曖昧になる服装の人
  - 傘や大きなカバンを所持していて身体の一部が隠れている人
  - 歩行者が大きな荷物を持っている、背景と同じ色の服を着ているなど人特有の輪郭が認識できないとき

カメラ映像が表示されない場合

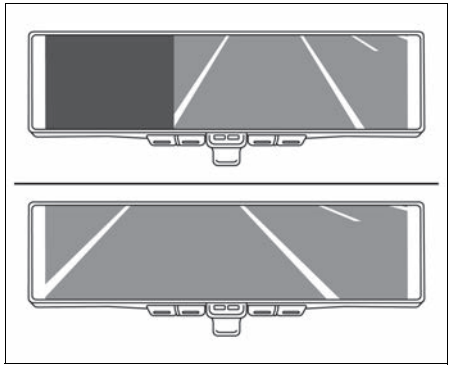
インテリジェント アラウンドビューモニター作動中に、次のような画面表示が続く場合は、カメラシステムの異常が考えられます。通常走行には支障はありませんが、日産販売会社で点検を受けてください。

メーカーオプションナビゲーションシステム画面★



- 画面が黒色または灰色に表示されたとき

インテリジェント ルームミラー画面★



- インテリジェント アラウンドビューモニター画面が黒色に表示されたとき
- インテリジェント アラウンドビューモニター画面が表示されなくなったとき

プロパイロット パーキング★

プロパイロット パーキングは、車庫入れや縦列駐車時の運転操作を支援するシステムです。プロパイロット パーキングには2つの機能があります。

駐車枠線検出機能（➔P.332）

車線枠がある駐車位置、もしくは縦列駐車スペースへの駐車操作を支援します。

メモリー機能（➔P.341）

事前に登録した駐車位置への後退駐車の操作を支援します。車線枠がない場所でも使用することができます。

プロパイロット パーキングについて

⚠ 警告

- **プロパイロット パーキングは標準的な駐車場所における運転操作を支援する機能であり、前方不注意状態での運転操作を補助するものではありません。**

  安全運転を行う責任は運転者にありますので、通常の運転操作と同様に、周りの状況をミラーや目視で直接確認し、周囲の車両や障害物、人などに接触しそうな場合や、走行できる路面を越えそうな場合などは、ブレーキペダルを踏んですみやかに車両を停止してください。

- **プロパイロット パーキングはソナーで障害物を検出し駐車位置や切り返し位置を調整する機能がありますが、適切に機能しない場合があります。**

  詳細については、ソナー/インテリジェント アラウンドビューモニターカメラの検知条件と制限をお読みください。（➔P.228、➔P.330）

- **プロパイロット パーキングは標準的な駐車方法で移動方向、切り返し位置、駐車位置を調整して車両を移動します。**

  移動方向に障害物や走行できない路面に近づいた場合は、ブレーキペダルを踏んで停車し、駐車制御の進行方向をシフトポジションを切り替えるなどして、適切な対応をしてください。

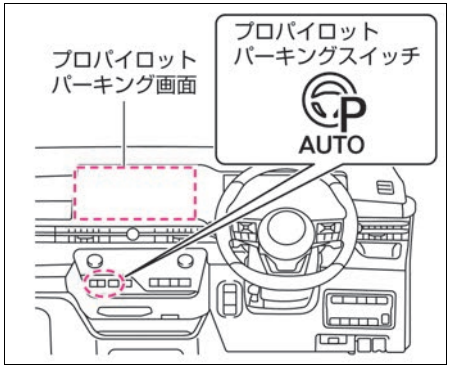
- **プロパイロット パーキングはハンドルを自動で制御するため、ハンドルに巻き込まれないように注意する必要があります。**

  手や指がスポーク部に巻き込まれ、ケガをするおそれがあります。また、ネクタイ、スカーフなども巻き込まれないように十分注意してください。思わぬ事故につながるおそれがあります。

システム構成

- インテリジェント アラウンドビューモニターカメラとソナーで、駐車枠線や縦列駐車スペースを検出します。
- メモリー機能はさらにGPS位置情報を使い、事前に登録した駐車位置を、自動で検出してお知らせします。
- システムはアクセル、ブレーキ、ステアリング、シフトポジションを切り替えて、駐車制御します。
- 駐車制御時にソナー機能を自動でONにします。（駐車制御が終了すると、元の設定状態に戻ります）

プロパイロット パーキングの表示機能と操作スイッチ



プロパイロット パーキングスイッチ

駐車支援システムが起動します。

※：インテリジェント アラウンドビューモニター画面表示中は、画面の［ AUTO ］をタッチして起動することができます。

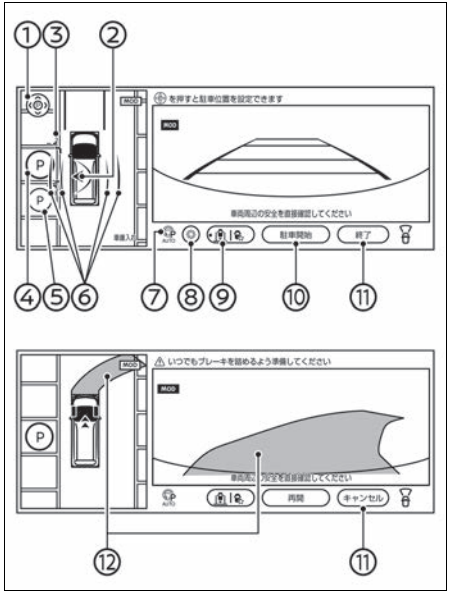
プロパイロット パーキング画面

検出した駐車位置や駐車制御中の移動方向の表示、駐車開始・終了などの操作スイッチを表示します。

※：制御中はシステムの状態を表示するため、画面の切り替え操作はできません。

プロパイロット パーキング（駐車枠線検出機能）

車線枠がある駐車位置に車庫入れ、縦列駐車、前向き駐車を支援する機能です。カメラとソナーにより駐車位置を検出し、アクセル、ブレーキ、ステアリング、シフトポジション操作を制御することにより駐車操作を支援します。



① **駐車目安枠調整アイコン［ ］**
駐車枠線検出機能中に［ ］をタッチすると、駐車目安枠の位置調整画面が起動します。

② **駐車位置検出アイコン**
駐車位置検出中に、左右どちらの駐車位置が検出されているか表示します。
［▶］：右側の駐車位置が検出されているとき
［◀］：左側の駐車位置が検出されているとき

③ **障害物目安線（赤色）**
駐車制御中に車両が通過する目安範囲を表示します。

④ **Ⓟ（青色）**
これから駐車する位置を表示します。

⑤ **Ⓟ（白色）**
選択された駐車位置以外に、選択可能な駐車位置を表示します。タッチするとⓅに切り替わります。

⑥ **駐車位置検出目安線（水色）**
駐車位置を検出する目安範囲を表示します。

⑦ **プロパイロット パーキング制御アイコン［ ］**
プロパイロット パーキングの制御状態を色で表示します。
緑色：制御中
灰色：非制御中

⑧ **設定アイコン［ ］**
プロパイロット パーキングの設定を変更できます。

⑨ **駐車枠線検出機能アイコン［ ］**
現在選択されている駐車方法を表示します。
駐車枠線検出機能中はオレンジ色のインジケーターが点灯します。
メモリー機能を起動中にタッチすると、駐車枠線検出機能に切り替えることができます。

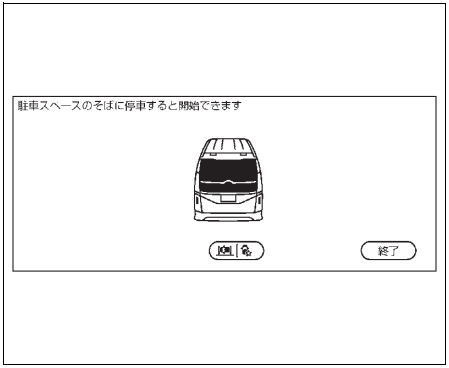
⑩ **［駐車開始］/［再開］**
駐車制御を開始します。

⑪ ［終了］/［キャンセル］
プロパイロット パーキングを終了します。

⑫ **駐車経路表示**
駐車制御の移動方向を表示します。

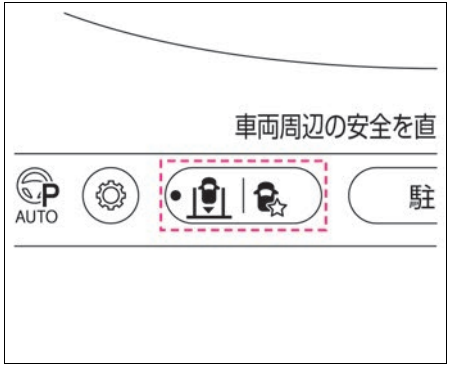
● ワイパー作動中やカメラレンズに付着した水滴などを検出すると［ ］が表示されます。［ ］表示中は、検出できる駐車位置が制限されます。

■ 車速が約10km/h以上になった場合



駐車位置検出中に車速が約10km/h以上になると、画面が切り替わります。
車速が約10km/h以下になると、プロパイロット パーキング画面に戻ります。

駐車モードを切り替える



駐車枠線検出機能とメモリー機能を切り替えることができます。

● ［ ］をタッチすると、駐車枠線検出機能に切り替えることができます。
● ［ ］をタッチすると、メモリー機能に切り替えることができます。
➔ プロパイロット パーキング（メモリー機能）（P.341）

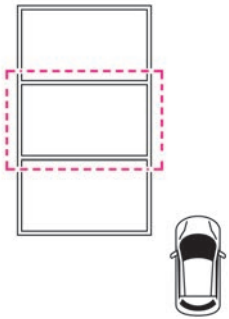
駐車方法の選択（駐車枠線検出機能）

［駐車開始］をタッチする前に、駐車枠線検出機能アイコンで駐車方法を変更できます。アイコンをタッチするごとに駐車方法が切り替わります。

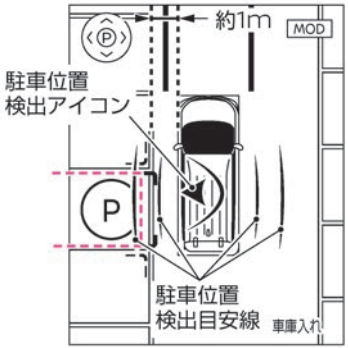
表示	駐車方法
車庫入れ	並列駐車場所に後退して駐車
縦列駐車	縦列駐車場所に後退して駐車
前向き駐車	並列駐車場所に前進して駐車

プロパイロット パーキングを使って駐車する（駐車枠線検出機能）

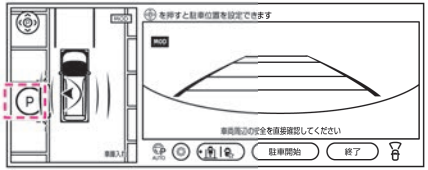
操作例：車庫入れ（左側）



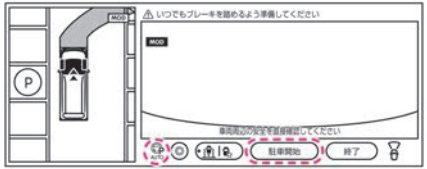
1. 駐車したい場所の手前で停車します。
2. ＜プロパイロット パーキングスイッチ＞を押すと、プロパイロット パーキングが起動します。



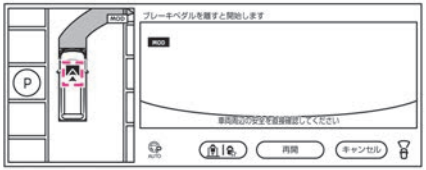
3. ゆっくりと前進し、駐車したい場所の真横（約1m）でブレーキペダルを踏んで停車する。
   駐車位置検出アイコン［ ◀ ］が駐車したい場所の中央付近を示すように車両を停止します。
   2本の駐車位置検出目安線（水色）の範囲内に駐車区画線が入るように車を移動すると、駐車位置を検出しやすくなります。



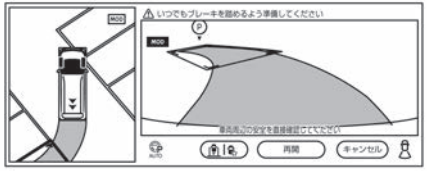
4. 停車状態で、駐車したい場所にⓅが表示されていることを確認してください。
   Ⓟが表示されている駐車場所内や周辺に近接した障害物がないこと、車両が駐車できる十分な広さがあり、駐車可能な場所であることを確認してください。

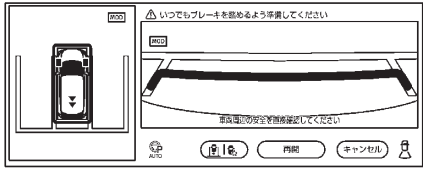


5. ブレーキペダルを踏んだまま画面上の［駐車開始］をタッチするとプロパイロット パーキング制御アイコン［ AUTO ］が緑色になり、自動でブレーキをかけて停車状態を保持します。
   ソナー、カメラで検出した障害物により駐車位置まで移動できないと判断した場合は、駐車制御が開始されません。その場合は通常走行で駐車を行ってください。



6. ブレーキペダルを離すと、駐車経路表示の方向に車両が移動します。周辺状況に応じてブレーキペダルを踏んで車速を調整してください。
   駐車制御を開始した位置を起点に、駐車位置の方向に方向指示器が作動します。



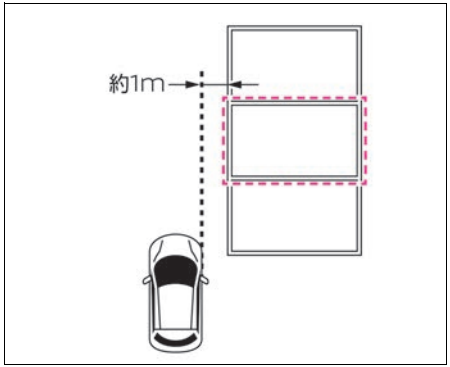


7. 切り返し位置（駐車経路表示の終点）に到達するとシフトポジションが自動で切り替わり、車両が後退します。
障害物などがあり切り返し位置に到達できない場合は、ブレーキペダルを踏んで障害物の手前で車両を停止させ、<シフトスイッチ>を操作して進行方向を切り替えてください。
➔ 駐車制御の進行方向を切り替える (P.340)

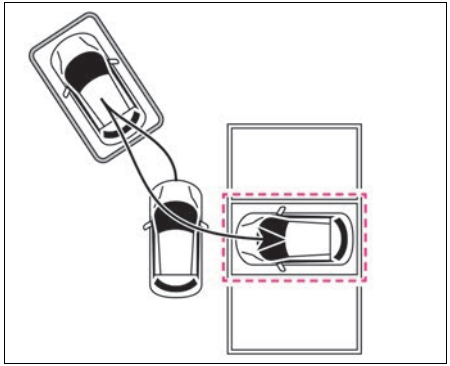
8. 駐車目安枠（青色）に到達すると車両が停止し、駐車制御が終了します。
駐車制御が終了すると、音と表示でお知らせします。
そのとき、シフトポジションがPに切り替わり、電動パーキングブレーキが作動します。
駐車目安枠（水色）に到達する前に駐車制御が自動で終了することがあります。
➔ 駐車制御中（車両移動時）の自動終了について (P.339)
障害物などがあり駐車目安枠に到達できない場合は、ブレーキペダルを踏んで車両を停止させ、画面上の［キャンセル］をタッチしてプロパイロット パーキングを終了させてください。

プロパイロット パーキングの駐車方法について（車線枠線検出機能）

■ 車庫入れ



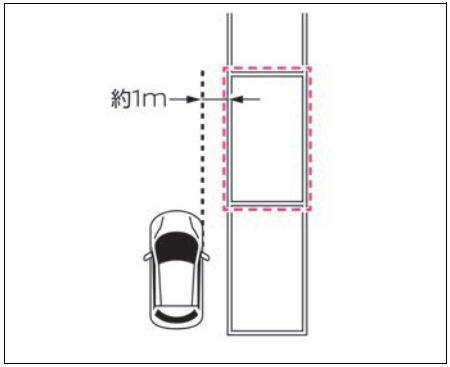
駐車したい場所の横、約1mの間隔で駐車位置に近づいてください。
駐車位置との間隔が広すぎると、障害物が検出できない場合や、区画線を検出できない場合があります。
➔ 駐車位置検出機能について（駐車枠線検出機能） (P.337)
ゆっくりと前進し、駐車位置に垂直になるようにブレーキペダルを踏んで車両を停止させてください。
自車の運転席ドア付近が駐車したい場所の中央付近になるように車両を停止させてください。



図のような経路で駐車制御を行います。

駐車経路、切り返し回数は駐車位置、周辺の障害物の位置により異なります。

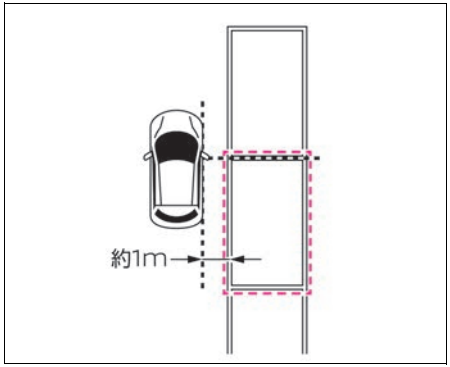
■ 縦列駐車



駐車したい場所の横、約1mの間隔で駐車位置に近づいてください。

駐車位置との間隔が広すぎると、障害物が検出できない場合や、区画線を検出できない場合があります。

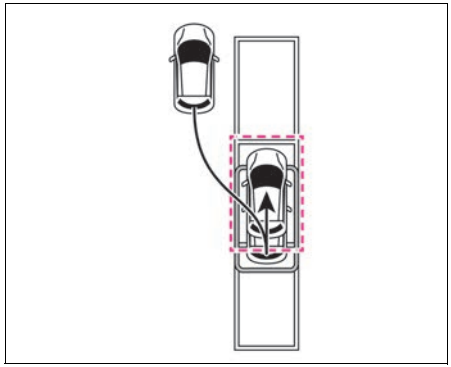
➔ 駐車位置検出機能について（駐車枠線検出機能）（P.337）



ゆっくりと前進し、駐車位置に平行になるようにブレーキペダルを踏んで車両を停止させてください。

自車の運転席ドア付近が駐車したい場所の先端になるように車両を停止させてください。

（例）後退から開始する場合の経路

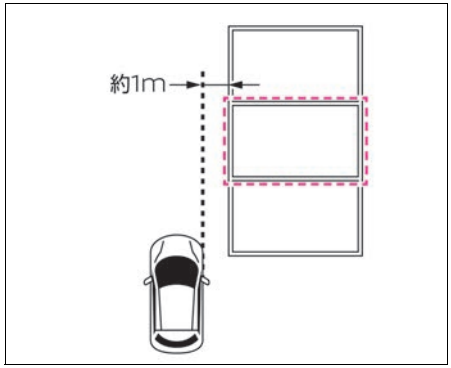


図のような経路で駐車制御を行います。

障害物や駐車位置によっては後退から開始する場合があります。

駐車経路、切り返し回数は駐車位置、周辺の障害物の位置により異なります。

■ 前向き駐車



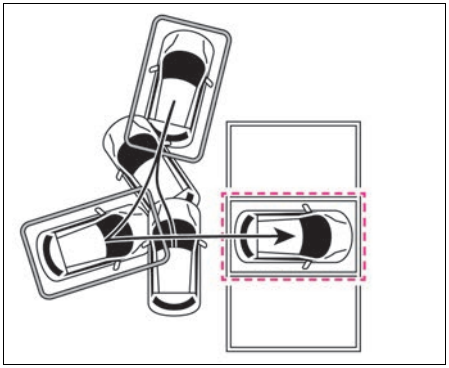
駐車したい場所の横、約1mの間隔で駐車位置に近づいてください。

駐車位置との間隔が広すぎると、障害物が検出できない場合や、区画線を検出できない場合があります。

➔駐車位置検出機能について（駐車枠線検出機能）（P.337）

ゆっくりと前進し、駐車位置に垂直になるようにブレーキペダルを踏んで車両を停止させてください。

自車の運転席ドア付近が駐車したい場所の中央付近になるように車両を停止させてください。

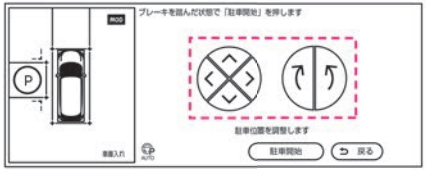


図のような経路で駐車制御を行います。

駐車経路、切り返し回数は駐車位置、周辺の障害物の位置により異なります。

駐車目安枠の調整（駐車枠線検出機能）

駐車目安枠を手動で調整することができます。



1. ブレーキペダルを踏んで車両を停止し、画面上の駐車目安枠調整アイコン［ Ⓟ ］をタッチします。

   Ⓟが表示されているときは、Ⓟのあった位置に駐車目安枠が表示されます。

   駐車位置が検出されていないときは、デフォルトの位置に駐車目安枠が表示されます。

2. 矢印をタッチして微調整します。

- 表示される障害物目安線は、駐車位置に移動する際に車両の一部がはみ出す可能性がある範囲の目安を示します。車両やポールなどの障害物が障害物目安線より外側にあるときに、円滑な駐車を行うことができます。
- 左側画面を直接タッチすることで、駐車目安枠を移動することができます。
- 方向指示器を使って駐車目安枠の方向を切り替えることができます。

駐車位置検出機能について（駐車枠線検出機能）

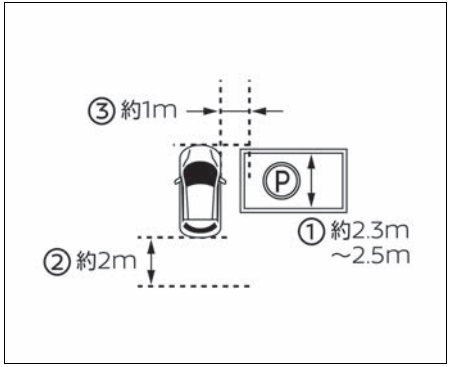
カメラとソナーを使って駐車位置を検出します。複数の駐車位置を検出できます。

カメラを使い、駐車区画線を認識して駐車位置を表示します。

ソナーにより、検出した駐車区画内に障害物を検知した場合は駐車位置を表示しません。

- フロントビュー、サイドビュー、リヤビューカメラのいずれかのカメラのレンズに汚れ、水滴などが付着しているときは検出できる駐車位置に制限がかかる場合があります。

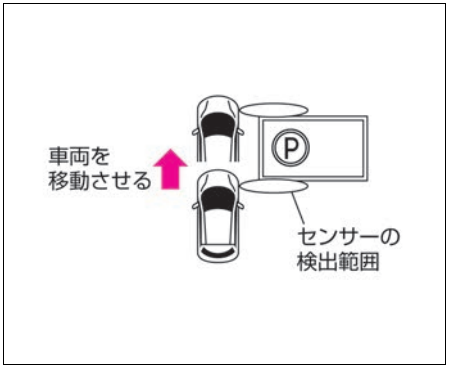
■ 車庫入れ、前向き駐車が選択されている場合



次の条件で駐車位置を検出します。

- 幅約2.3m～2.5m①の駐車区画を基本として認識します。

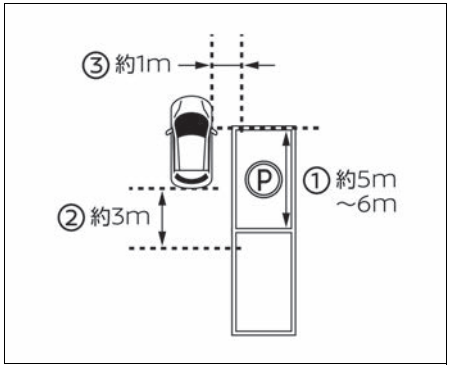
- 単線またはU字の区画線を基本として認識します。
- 区画線の太さは約15cmを基本として認識します。
- 自車の前端から自車の後端約2m②以内に区画線があるときに認識します。
- 駐車区画が自車から約1m③にあるときに認識します。
- ＜左右の自動選択＞がONの場合は車両の両側の駐車位置が検出されます。
➔ プロパイロット パーキングの設定 (P.347)



フロントのソナーセンサーの検出範囲がカメラにより検出された駐車区画上を通過し、障害物を検知した場合は駐車位置を表示しません。

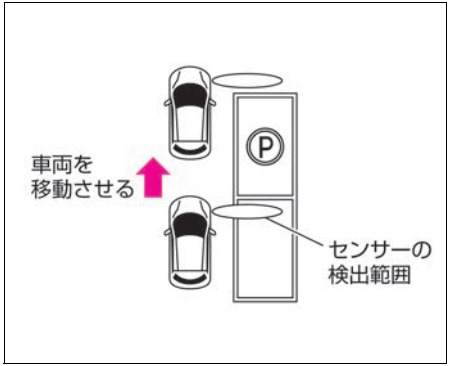
ソナーセンサーの検出範囲より遠くにある駐車区画内の障害物は検出できません。

■ 縦列駐車が選択されている場合



次の条件で駐車位置を検出します。

- 長さ約5m～6m①の駐車区画を基本として認識します。
- 区画線は単線を基本として認識します。
- 区画線の太さは約15cmを基本として認識します。
- 自車の運転席ドア付近から自車の後端約3m②以内に区画線があるときに認識します。
- 駐車区画が自車から約1m③にあるときに認識します。
- ＜左右の自動選択＞がONの場合は車両の両側の駐車区画が検出されます。
➔ プロパイロット パーキングの設定 (P.347)



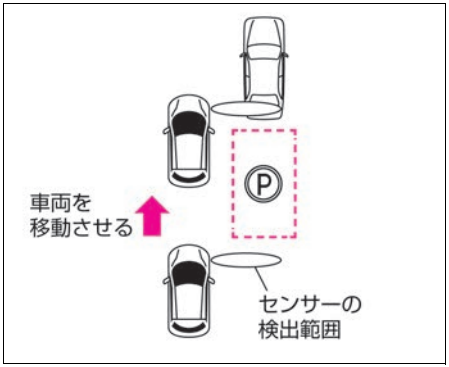
フロントのソナーセンサーの検出範囲がカメラにより検出された駐車区画上を通過し、障害物を検知した場合は駐車位置を表示しません。

ソナーセンサーの検出範囲より遠くにある駐車区画内の障害物は検出できません。

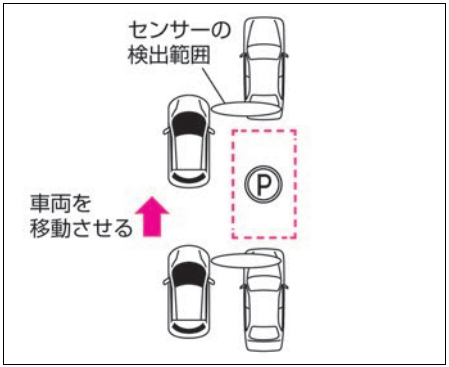
駐車区画線が認識されない場合は、ソナーセンサーを使って周囲の障害物から駐車場所を検出します。

周囲の障害物の位置や角度によっては駐車目安枠は大きくずれる場合があります。

● 障害物の手前にスペースがある場合



● 障害物間に駐車可能なスペースがある場合



プロパイロット パーキング（駐車枠線検出機能）の一時停止について

駐車制御の自動停止

次の場合は自動的にブレーキがかかり車両が停止します。

- 進行方向に障害物を検出したとき
- 運転席のシートベルトを外したとき
- 駐車制御を再開すると、自動でシフトポジションがDまたはRに切り替わります。
- 障害物を検出して停止した場合、駐車制御を再開すると進行方向を変えて、切り返しにより駐車制御を継続します。
- ソナー、カメラで検出した障害物により駐車位置まで移動ができないと判断した場合、駐車制御を再開できません。
- シートベルトを着用しないと駐車制御を再開できません。

状況が改善されたことを確認し、ブレーキペダルを踏みながら画面上の［再開］をタッチすると駐車制御を再開できます。

プロパイロット パーキング（駐車枠線検出機能）の終了のしかた

画面上の［終了］または［キャンセル］をタッチすると、プロパイロット パーキングが終了します。

駐車制御中にプロパイロット パーキングを終了すると、自動的にブレーキがかかり車両が停止し、電動パーキングブレーキが作動します。このとき、シフトポジションはPに切り替わります。

■ 駐車位置検出中の自動終了について

⚠ 警告

- **駐車位置検出中の自動終了時はブレーキペダルを踏む。**

  自動でブレーキがかからないため、思わぬ事故につながるおそれがあります。

次の場合は、プロパイロット パーキングが自動的に終了します。

- 運転席、助手席、後席、またはバックドアのいずれかのドアを開けたとき
- プロパイロット パーキング起動後約500m以上走行したとき
- 車速が約30km/hを超えたとき
- ドアミラーを閉じたとき
- ［△］や<CAMERA>スイッチなどで画面を切り替えたとき
- システムに異常が検出されたとき

■ 駐車制御中（車両移動時）の自動終了について

次の場合は、プロパイロット パーキングが自動的に終了します。

駐車制御中に自動終了すると、自動的にブレーキがかかり車両が停止し、電動パーキングブレーキが作動します。このとき、シフトポジションはPに切り替わります。

- ハンドルを操作したとき
- アクセルペダルを操作したとき
- 運転席、助手席、後席、またはバックドアのいずれかのドアを開けたとき

- 電動パーキングブレーキを作動させたとき
- シフトポジションを切り替えたとき
- ＜CAMERA＞スイッチを押したとき
- ドアミラーを閉じたとき
- ＜プロパイロット パーキングスイッチ＞を押したとき
- 障害物などにより駐車位置まで移動ができないと判断したとき
- 駐車制御による駐車位置が大きくずれたと判断したとき
- VDCをOFFにしたとき
- VDC/TCS/ABSが作動したとき
- 車速が約8km/hを超えたとき
- システムに異常が検出されたとき
- 駐車位置に近い場所で次の状況になったとき
  - 駐車経路上に障害物を検出したとき
  - 運転席のシートベルトを外したとき

■ 駐車制御中（一時停止時）の自動終了について

次の場合は音と表示でお知らせし、プロパイロット パーキングが自動的に終了します。

このとき、電動パーキングブレーキが作動し、シフトポジションがPに切り替わります。

- 運転席、助手席、後席、またはバックドアのいずれかのドアを開けたとき
- アクセルペダルを踏んだとき
- 電動パーキングブレーキを作動させたとき
- シフトポジションをPまたはNに切り替えたとき
- 一時停止状態が約1分以上経過したとき
- ＜CAMERA＞スイッチを押したとき
- ドアミラーを閉じたとき
- VDCをOFFにしたとき
- VDC/TCS/ABSが作動したとき
- システムに異常が検出されたとき
- ＜プロパイロット パーキングスイッチ＞を押したとき

駐車制御の進行方向を切り替える

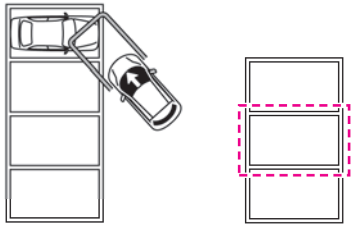
車両の進行方向に障害物（ポールなど）がある、または溝や崖など地面より低い場所があるときには、ブレーキペダルを踏んで車両を停止させてください。

➔ プロパイロット パーキングの注意事項 (P.349)

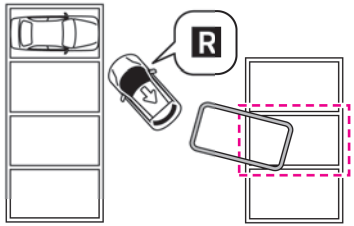
その後、＜シフトスイッチ＞を操作して進行方向を切り替え、駐車制御を再開します。

- ソナーで検出した障害物により駐車位置まで移動ができないと判断した場合、駐車制御を再開できません。

（例）駐車車両がある場合



1. ブレーキペダルを踏んで車両を停止させます。



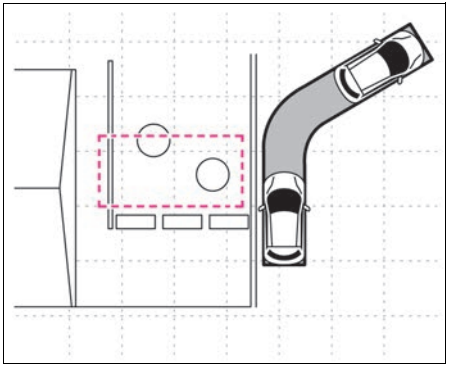
2. ＜シフトスイッチ＞を操作して進行方向を切り替えます。
   ［再開］をタッチすると駐車制御を再開します。

プロパイロット パーキング（メモリー機能）

⚠ 注意

- **メモリー機能は運転操作（アクセル、ブレーキ、ステアリング、シフトポジション操作）、もしくは走行状態（移動方向、切り返し位置など）を登録し、制御により再生する機能ではありません。**

  標準的な駐車方法で移動方向、切り返し位置、駐車位置を調整して、目的の駐車位置まで車両を移動します。



- カメラにより駐車位置と周辺の路面模様を事前に登録することで、駐車枠線のない駐車位置を検出する機能です。
- 検出した駐車位置へ後退駐車するための運転操作（アクセル、ブレーキ、ステアリング、シフトポジション）を支援します。

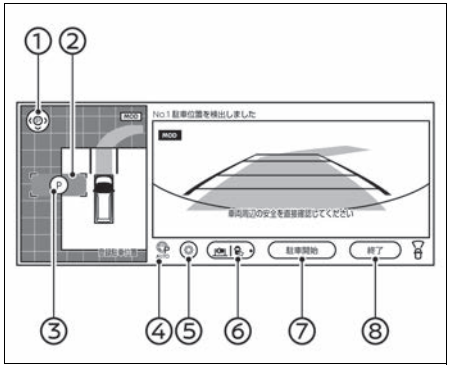
プロパイロット パーキング（メモリー機能）画面

駐車位置検出中の表示

プロパイロット パーキング画面の左側に検出した、登録駐車位置の目安となる枠を表示します。

登録駐車位置が現在のカメラ映像範囲外の場合、映像を縮小して位置関係を表示します。

（カメラ映像検出範囲外：黒色格子線）



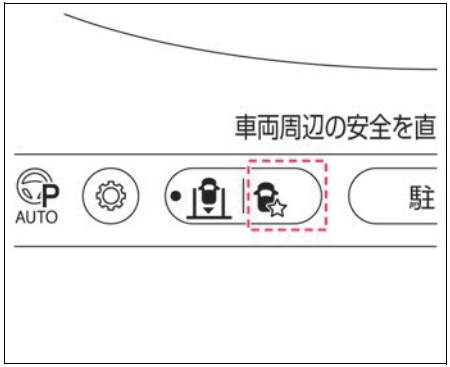
① **駐車目安枠調整アイコン［ ］**
メモリー機能を選択中に［ ］をタッチすると、登録駐車位置の一覧を表示します。
➔ プロパイロット パーキング（メモリー機能）のマニュアル設定について（P.345）

② **駐車目安枠（水色）**
駐車終了時の目安となる位置を表示します。

③ **Ⓟ（青色）**
選択中の駐車位置を表示します。

④ **プロパイロット パーキング制御アイコン［ ］**
プロパイロット パーキングの制御状態を色で表示します。
緑色：制御中
灰色：非制御中

⑤ **設定アイコン［ ］**
プロパイロット パーキングの設定画面に切り替えます。
➔ プロパイロットパーキングの設定（P.347）

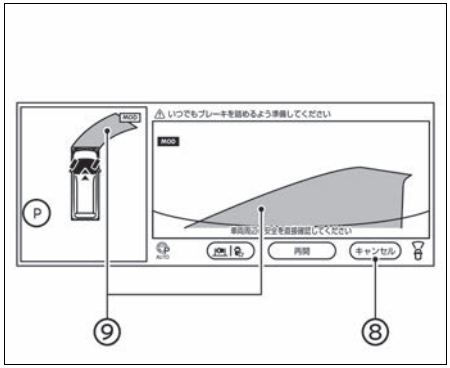


⑥ **メモリー機能アイコン ［ ］**
メモリー機能を選択します。選択時はオレンジ色のインジケーターを表示します。
※使用前に駐車位置を登録する必要があります。
➲ プロパイロット パーキング（メモリー機能）で駐車位置を登録する（P.342）

表示	駐車方法
	登録駐車位置を検出していない状態を示します。
1	アイコンの右下に車両周辺で検出した登録駐車位置の数を表示します。（例：1か所を検出）
2	複数検出した場合は、タッチ操作により駐車位置を切り替えることができます。（例：2か所を検出）

⑦ **［駐車開始］/［再開］**
駐車制御を開始します。
※駐車制御が一時停止した場合は［再開］を表示します。
➲ プロパイロット パーキング（メモリー機能）の一時停止機能について（P.344）

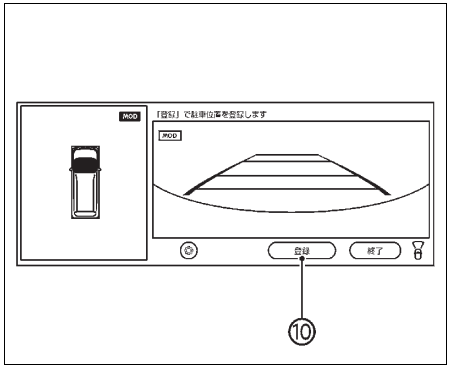
駐車制御中の表示



⑧ **［終了］/［キャンセル］**
プロパイロット パーキングを終了します。

⑨ **駐車経路表示**
駐車制御の移動方向を表示します。

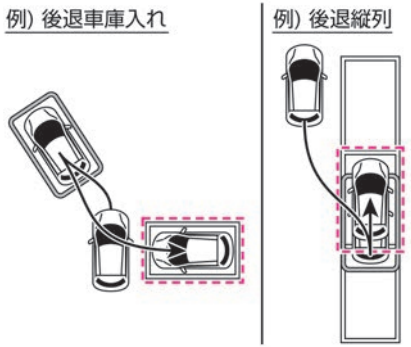
登録時の表示（登録ガイダンス画面）



⑩ **［登録］/［ヒント］**
シフトポジションをPに切り替えると［登録］を表示します。
➲ プロパイロット パーキングの設定（P.347）
駐車位置の登録条件を満足していない場合、［ヒント］を表示します。
➲ プロパイロット パーキング（メモリー機能）使用時のヒントについて（P.345）

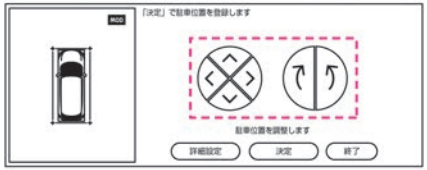
プロパイロット パーキング（メモリー機能）で駐車位置を登録する

自身の運転操作で駐車した後に、プロパイロット パーキング画面で駐車位置を事前に登録します。



1. 図のように自身の運転操作で後退駐車をします。

2. シフトポジションをPに切り替えると、プロパイロット パーキング画面に切り替わります。画面下の［登録］をタッチすることで、登録設定画面に切り替えます。
登録できない条件（➔ P.352）



3. 登録画面で駐車位置を確認して、［決定］をタッチします。

■ 登録駐車位置の調整について

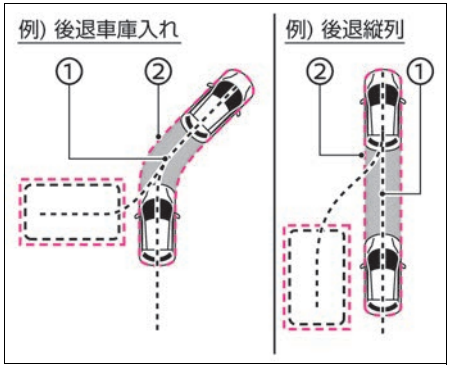
［決定］をタッチする前に、画面上の矢印で駐車位置を調整することができます。周辺の障害物などに注意して使用してください。

非常に近くに障害物がある（特にソナー表示が赤色を示す）駐車環境では、登録した駐車位置への駐車制御を開始できないことがあります。

➔ ソナー機能について（P.324）

プロパイロット パーキング（メモリー機能）を使って駐車する

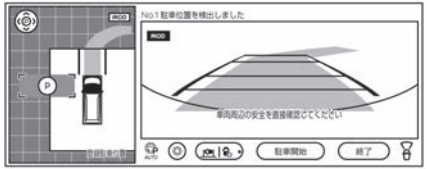
登録した駐車位置の前で停車して、プロパイロット パーキングを起動し、駐車制御を開始します。



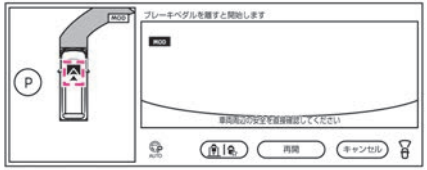
①登録したときの移動方向

②自動検出できる停車範囲

1. 登録時の移動方向に沿って、駐車位置の前でブレーキペダルを踏んで停車します。
登録駐車位置が検出されると、カメラ画面に自動で切り替わり、駐車位置Ⓟを表示します。

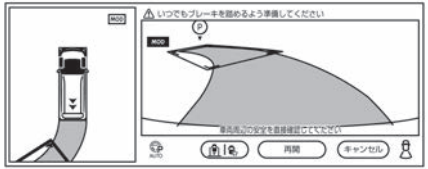


2. 障害物がないことを確認し、ブレーキペダルを踏んだ状態で［駐車開始］をタッチします。
3. 周囲の安全を確認した上でブレーキペダルを離し、駐車制御を開始します。

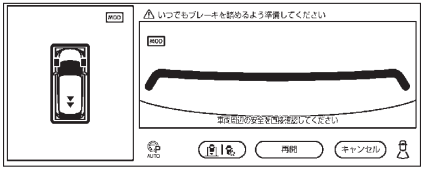


4. ブレーキペダルを離すと、表示の方向に車両が移動します。周囲の状況

に応じてブレーキペダルを踏んで車速を調整してください。



5. 切り返し位置（駐車経路表示の終点）に到達するとシフトポジションが自動で切り替わり、車両が後退（後退時は前進）します。
手動で駐車制御の進行方向を切り替えることもできます。
➔ 駐車制御の進行方向を切り替える (P.340)



6. 駐車目安枠（青色）に到達すると車両が停止し、駐車制御の自動終了処理を行います。

知識

- 画面上の［キャンセル］で車両を停止して、駐車制御の自動終了処理を行うことができます。障害物があるなど駐車目安枠に到達できない場合などに使用してください。
- ソナーで障害物を検出している場合は、目安枠の手前で駐車制御の自動終了処理を行う場合があります。
- 所定の条件を検出した場合、駐車制御の自動終了処理を行います。
  ➔ プロパイロット パーキング（メモリー機能）の注意事項 (P.352)
- ソナーで障害物を検出するなどの条件で、駐車制御が一時停止する場合があります。
  ➔ プロパイロット パーキング（メモリー機能）の一時停止機能について (P.344)

自動終了処理について

- 電動パーキングブレーキを作動しシフトポジションをPに切り替えて、音と表示で駐車制御が終了したことをお知らせします。

プロパイロット パーキング（メモリー機能）の一時停止機能について

- 次の条件では、自動的にブレーキがかかり車両が停止し、駐車制御が一時停止します。
  状況が改善されたことを確認し、ブレーキペダルを踏みながら画面上の［再開］をタッチすると駐車制御を再開することができます。
  — 進行方向に障害物を検出したとき
  — 運転席のシートベルトを外したとき
- 駐車制御を再開すると、自動でシフトポジションがDまたはRに切り替わります。
- 障害物を検出して停止した場合、駐車制御を再開すると進行方向を変えて、切り返しにより駐車制御を継続します。
- ソナー、カメラで検出した障害物により駐車位置まで移動ができないと判断した場合、駐車制御を再開できません。
- シートベルトを着用しないと駐車制御を再開できません。

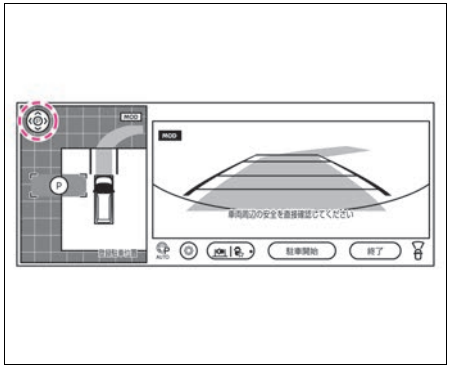
プロパイロット パーキング（メモリー機能）の自動解除機能について

- 次の条件ではメモリー機能が解除されるため、駐車位置を登録したり、登録した駐車位置を検出することができません。
  - ドアミラーを閉じたとき
  - ドアを開けたとき
  - 約30km/h以上の速度で走行したとき
  - ＜パワースイッチ＞をOFFにしたとき
  - 自動駐車終了した直後
  - ワイパーが作動しているとき（作動判定中は［ ］が表示されます）
  - VDC/TCS/ABSが作動したとき
  - システム異常が検出されたとき

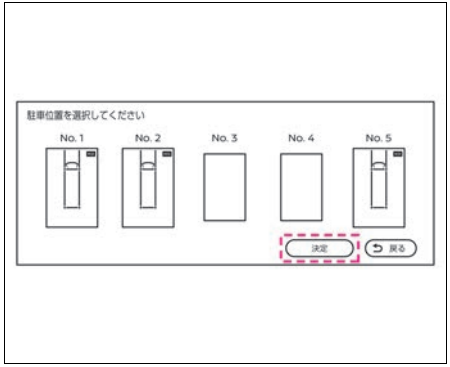
  条件解除後約20m以上走行すると、使用できるようになります。
- 駐車制御中の機能解除条件については、駐車制御中（車両移動時）の自動終了について（➲P.339）を参照してください。
  また、一時停止機能中の機能解除条件については、駐車制御中（一時停止時）の自動終了について（➲P.340）を参照してください。
- 使用する駐車環境によっては、正しく機能しない場合があります。
  ➲ プロパイロットパーキングの注意事項 (P.349)
  ➲ プロパイロット パーキング（メモリー機能）の注意事項 (P.352)
  自動解除機能は作動しないため注意して使用してください。

プロパイロット パーキング（メモリー機能）のマニュアル設定について

- メモリー機能アイコン［ ］をタッチしてメモリー機能を選択します。
  （メモリー機能を選択中はオレンジ色のインジケーターが点灯します）



- 画面左上の駐車目安枠調整アイコン［ ］をタッチすると、選択画面が表示されます。登録時の映像が表示されている番号から選択したい駐車位置をタッチし、［決定］をタッチします。



- 駐車位置を検出すると、プロパイロット パーキング画面に駐車位置が表示されます。
  ➲ プロパイロット パーキング（メモリー機能）画面 (P.341)
  （登録駐車位置の自動提案がOFFになっている場合は、メモリー機能アイコン［ ］をタッチすると選択画面が表示されます）

プロパイロット パーキング（メモリー機能）使用時のヒントについて

駐車位置を検出しない／検出しにくい場合

次の手順で確認をしてください。

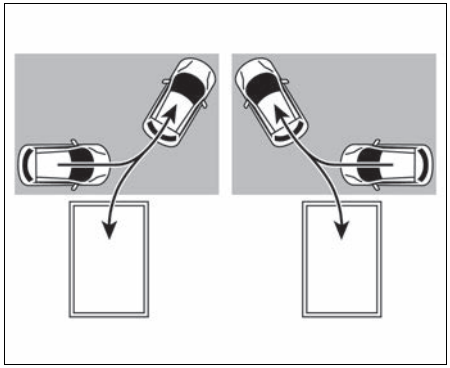
- 登録駐車位置の近くに停止していることを確認します。
  ➲ プロパイロット パーキング（メモリー機能）を使って駐車する (P.343)

●ナビゲーション画面上にⓅアイコンが表示されていることを確認します。
➔ プロパイロット パーキング（メモリー機能）画面（P.341）

●プロパイロット パーキング画面に切り替え、メモリー機能アイコン［ ］にオレンジ色のインジケータが点灯していることを確認してください。
（点灯していない場合はメモリー機能アイコンをタッチします）

●タッチ後も検出しない場合、正しく機能しない条件（➔ P.352）を参照し、必要に応じて状況を改善してください。

追加登録すると検出しやすくなる



●登録時と異なる移動方向から駐車した場合、駐車位置を追加登録することにより、検出しやすくなります。

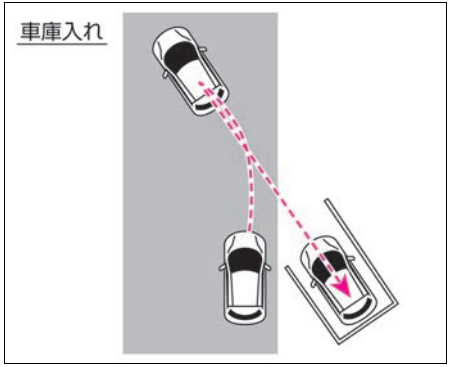
●登録時の光環境と異なる状況で使用した場合、カメラ映像で取得できる路面模様などが異なるため、駐車位置を検出できない場合があります。その際、駐車位置を追加登録することにより、検出しやすくなります。

●駐車位置を自動検出しない場合、手動でシステムを起動することができます。GPSの受信状況が悪い場所などでお使いください。
➔ プロパイロット パーキング（メモリー機能）のマニュアル設定について（P.345）

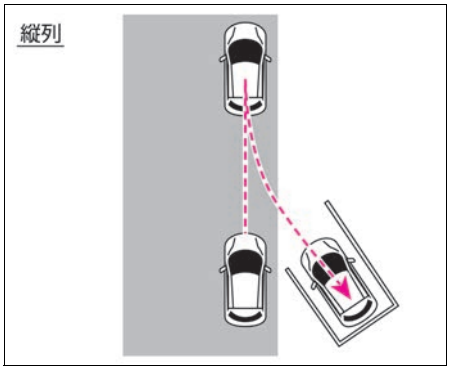
駐車制御が使用環境にあっていない場合

●登録した駐車位置ごとに駐車制御の設定を変えることができます。
➔ プロパイロット パーキングの設定（P.347）

（例）駐車方法の設定で［車庫入れ］を選択した場合



（例）駐車方法の設定で［縦列］を選択した場合

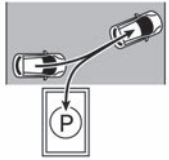
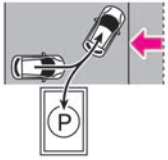
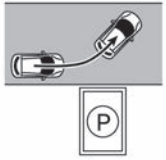
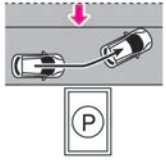


プロパイロット パーキングの設定

登録した駐車位置ごとに駐車制御の設定を変えることができます。（登録時の駐車操作によりシステムが自動で初期設定します）

1. ナビゲーションシステム画面の［ ］ ⇒［ ］ をタッチします。
2. ［プロパイロットパーキング］をタッチし、設定項目を選びます。

項目 1	項目 2	項目 3	機能
登録駐車位置の自動提案 ※			**ON（初期設定）** ● 登録した駐車位置に近づくとカメラ映像により自動で駐車位置を検索します。 **OFF** ● 自動で検索しません。マニュアル操作で検索します。（P.345） ※：設定値は登録した全駐車位置に反映
シフトP連動登録画面表示 ※			**ON（初期設定）** ● シフトポジションをPに切り替えると、登録ガイダンス画面（P.341）を自動で表示します。 ※：設定値は登録した全駐車位置に反映

項目 1	項目 2	項目 3	機能
登録駐車位置の確認・編集	駐車位置を選択してください	駐車方法	● 選択された駐車方法を［車庫入れ］／［斜め］／［縦列］から選択できます。
		ハンドル制御	● 選択されたハンドル制御設定（［標準］/［コンパクト］）を表示します。 ［コンパクト］に設定すると、図の矢印のように前方向の移動量を小さくします。左（右）方向のスペースが必要です。 標準  コンパクト 
		通路幅	● 選択された通路幅設定（［標準］/［狭め］）を表示します。 ［狭め］に設定すると、図の矢印のように左右方向の移動量を小さくします。前方向のスペースが必要です。 標準  狭め 
		自動検出	**ON（初期設定）** ● 登録駐車位置ごとに選択された［登録駐車位置の自動提案］を表示します。
		駐車位置の削除	● タッチにより登録した駐車位置を削除します。

項目 1	項目 2	項目 3	機能
駐車枠線検出機能の設定	前回駐車方法を選択		● ONにすると前回の駐車方法が選択されます。 OFFにすると車庫入れが選択されます。
	左右の自動選択		● ONにすると車両の両側の駐車位置が検出されます。 OFFにすると前回プロパイロット パーキングを使用した側の駐車位置のみ検出されます。 その際、方向指示器を作動させると、作動方向の駐車位置を検出します。
	駐車方法の設定	車庫入れ 縦列駐車 前向き駐車	● プロパイロット パーキング画面で選択できる駐車方法を設定できます。 ● ONになっている駐車方法が駐車方法変更アイコン［ ］をタッチするごとに選択されます。 OFFになっている駐車方法は駐車方法変更アイコン［ ］をタッチしても選択されません。 ➔ 駐車方法の選択（駐車枠線検出機能） (P.333)
ヘルプ			● 詳細設定の項目について、補足説明が記載されています。

ソナーの検知条件と制限

⚠ 警告

- **ソナーの性能には限界があります。**
  詳細についてはソナーの検知条件と制限をお読みください。
  ➔ ソナーの検知条件と制限 (P.228)

インテリジェント アラウンドビューモニターカメラの検知条件と制限

⚠ 警告

- **インテリジェント アラウンドビューモニターカメラの性能には限界があります。**
  詳細についてはインテリジェント アラウンドビューモニターカメラの検知条件と制限をお読みください。
  ➔ インテリジェント アラウンドビューモニターカメラの検知条件と制限 (P.330)

プロパイロット パーキングの異常について

システムに異常があると、ナビゲーション画面に警告メッセージが表示され、プロパイロット パーキング制御アイコン［ ］の色がオレンジ色に変わり、プロパイロット パーキングが自動的に解除されます。
使用中に警告が表示されたときは、安全な場所に停車して<パワースイッチ>をOFFにしてから再度ONにしてください。

上記の操作を行ってもプロパイロット パーキングが起動できないときは、システムの異常が考えられます。通常走行には支障はありませんが、日産販売会社で点検を受けてください。

プロパイロット パーキングの注意事項

⚠ 警告

- **画面だけを見ながら走行することは絶対にしないでください。**
  障害物に接触したり、思わぬ事故につながったりするおそれがあります。
- **周囲の車両や人の動きに十分注意してください。**

⚠ 警告

検出された通路幅を有効に使って駐車支援を行っています。対向車や後続車、歩行者の動きに十分注意して駐車制御の操作を行ってください。

- **プロパイロット パーキングによる駐車支援が必要なくなったときは、プロパイロット パーキングを終了してください。**

  プロパイロット パーキングが作動状態のままだと思わぬ事故につながるおそれがあります。

- **車を降りる前に、電動パーキングブレーキが作動していること、およびシフトポジションがPであることを確認してください。**
- **縁石や車止めは検出できません。**

  縁石にホイールが接触しそうな場合や車両が車止めを越えそうな場合にはブレーキペダルを踏み車両を停止させてください。車両が損傷することがあります。

- **プロパイロット パーキングを使用する前に、車両周辺に切り返しなどの駐車操作ができるスペースが十分あることを直接確認してください。**
- **状況によっては車両内外の騒音などにより、警報音が聞こえない場合があります。**
- **駐車制御中は周囲へ車両の進む方向を知らせるために方向指示器を作動させてください。**
- **次のような状況ではプロパイロット パーキングを使用しないでください。**
  - 人や車両などの通行量が多い場所
  - 停車および駐車が禁止されている場所
  - 車両が入らないほど狭い場所
  - 穴や溝などがあるような駐車できない場所
  - 通路幅が狭い場所
  - 急な勾配のある場所
  - 砂地や砂利地などの整備されていない路面
  - 雪や凍結などでスリップしやすい路面
  - 傾斜地や段差、縁石、わだちなどのある平坦ではない路面
  - 道幅と駐車位置に十分なスペースがないとき
  - 真夏の炎天下でアスファルトが溶けているような路面
  - 駐車場にロードヒーター（路面凍結防止用のヒーター）が設置されている場所
  - 機械式駐車場や自動ロック装置のある駐車場、駐車場所に障害物などがある場所
  - 過積載のとき
  - 摩耗しているタイヤ、スペアタイヤのような非常用タイヤ、タイヤチェーンを装着しているとき
  - タイヤの空気圧が適正ではないとき
  - けん引フックなどを取り付けているとき
  - カメラの視界を妨げるようなものを取り付けたとき
  - カメラが汚れや西日、影などで見にくいとき
  - ドアミラーが開き切っていないとき
  - カメラが正常に取り付けられていないとき
  - バンパーにソナーセンサーの性能を妨げるようなものを取り付けたとき
  - バンパーにへこみなどがあるとき
  - ソナーセンサー周辺に雨や雪、泥などが付着しているとき
  - 極端に重い荷物を積んだり、車両の片側にだけ荷物などを積んでいたりして車両が傾いているとき

- 次のような状況ではブレーキがかかるなど、適切に駐車制御できない場合があります。
  - 雨、雪、氷、汚れなどがソナーセンサーに付着しているとき
  - 周囲で大きな音が鳴っているとき
  - 周囲に超音波（ソナーを搭載した車両を含む）を発するものがあるとき
  - 周囲に草が生い茂っているとき
  - 凸形状または凹形状の構造物の近くを通過しているとき

— 車両側方の近くに構造物（壁、料金所設備、駐車場のゲート設備など）があるとき
— 路面上に段差や突起物、排水溝のふたがあるとき
— 垂れ下がった旗、ビニールカーテンなどをくぐって通過するとき
— 車両周辺に雪のかたまりがあるとき

●次のような状況では駐車位置を検出できない、または検出しにくい場合があります。
— 自車が駐車区画に近すぎるとき
— 駐車区画がロープ、ブロックなどで作られている区画線のない駐車場
— 区画線がかすれや汚れによってはっきり見えないとき
— 路面と区画線のコントラストが低いとき
— 路面の区画線が黄色などの白線以外の色のとき
— 駐車区画が極端に狭い、もしくは広いとき
— 区画線が極端に短いとき
— 区画線が極端に細い、もしくは太いとき
— 駐車エリアが傾斜しているなどカメラ映像上で平行な区画線に見えないとき
— 区画線が斜め線などと接続されているとき
— 区画線に車両の影や木陰などがかかっているとき
— 隣の車両や障害物などが区画線上にあるとき
— 駐車区画内に障害物があるとき
— 夜間、地下、立体駐車場など周囲が暗いとき
— 悪天候（雨、雪、霧、粉塵、砂塵、吹雪など）などで区画線がはっきりと映っていないとき
— カメラにお湯や水をかけたときなど、レンズがくもっているとき
— 太陽や電灯の光が路面に映っているとき
— 太陽や電灯の強い光が路面に当たっているとき
— 降雨時や雨上がりなど、路面が濡れて光っていたり、水たまりがあったりするとき
— 朝日や夕日など、太陽の光がカメラに入るとき
— カメラのレンズが汚れていたり、水滴が付着していたりしているとき
— カメラの視界を妨げるようなものを取り付けたとき
— 段差、側溝、路面ペイント、引き直し線などがあるとき
— 積雪や融雪剤があるとき
— 石畳や緑化駐車場のとき
— 画面上で駐車区画内にノイズ状の模様があるように表示されているとき
— 駐車区画内に文字などが描かれているとき
— 路面の色や明るさが一様でないとき
— 駐車区画と自車が傾いて止まっているとき
— 通路幅が狭いとき
— 前方に障害物があるとき
— 雨、雪、氷、汚れなどがソナーセンサーに付着しているとき
— 周囲で大きな音が鳴っているとき
— 周囲に超音波（ソナーを搭載した車両を含む）を発するものがあるとき
— 周囲に草が生い茂っているとき
— 路面上に段差や突起物、排水溝のふたがあるとき
— 車両周辺に雪のかたまりがあるとき

●次のような状況では、適切な位置に駐車位置が検出されない場合があります。
— 区画線に見えるような光、建物などの映り込み、段差、側溝、路面ペイント、引き直し線などがあるとき
— 路面補修痕、路面表示などやポールなどの障害物があるとき
— 降雨時や雨上がりなど、路面が濡れて光っていたり、水たまりがあったりするとき
— 路面の色や明るさが一様でないとき
— 勾配がついている駐車場
— 区画線に駐車車両のサイドステップや、影が差しかかっているとき
— 区画線がかすれや汚れによってはっきり見えないとき
— 自車の影や木陰などの影響を受けてしまったとき

●次のような状況ではシステムが機能を十分に発揮できない場合があります。
— 純正品以外のタイヤを使用しているとき

●純正品以外のタイヤを使用しているときには、設定した位置に正しく駐車制御できない場合があります。冬用タイヤなど

へ交換をした際は、日産販売会社にご相談ください。

- 次のような状況では設定した位置に正しく駐車制御できない場合があります。必要に応じて適切な位置に車両を移動してください。
  - 路面が平坦ではないとき
  - 極端に重い荷物を積んだり、車両の片側にだけ荷物などを積んでいたりして車両が傾いているとき

プロパイロット パーキング（メモリー機能）の注意事項

- 次のような状況では自車のいる位置が正しく検出されず、登録した駐車位置で自動起動しなかったり異なった場所で起動するなど、正しく機能しない場合があります。
  - GPSの受信状況が悪いとき
  - 高架橋下や高層ビル群地帯にいるなど、GPS信号が正しく受信できないとき
  - トンネルの中やビルの駐車場などでGPSの受信状態が悪化したとき
  - 悪天候（雨、雪、霧など）でGPSの信号が弱いとき
  - <パワースイッチ>をONにした直後など、GPS信号の受信に時間がかかっているとき
  - GPSアンテナ周辺へのステッカー（透明なものを含む）を貼り付けたとき
  - GPSアンテナ周辺に汚れなどが付着しているとき
  - 急発進、急停車、急ハンドルなどの運転操作をしたとき
  - 路面が平坦ではないとき
- 次のような状況では駐車位置を登録できない、登録した駐車位置を検出しないことや駐車位置がずれるなど、正しく機能しない場合があります。
  - 駐車場所に路面模様が少ないとき
  - 光や影の差し込みにより、路面模様が検出されないとき
  - 夜間、地下、立体駐車場など周囲が暗いとき
  - 登録した駐車位置の入り口よりも手前で停車したとき
  - 急発進、急停車、急ハンドルなど大きな車両挙動を伴ったり、VDCが作動したとき
- 次のような状況などにより、登録時の駐車位置周辺の路面模様と大きく異なってしまった場合、登録した駐車位置を検出しないことや駐車位置がずれるなど、正しく機能しない場合があります。
  - 工事などによる路面状態の変化
  - タイヤ痕（轍、水痕を含む）
  - 路面模様のかすれや汚れがあるとき
  - 車両、バイク、自転車、玩具などが置かれる、または移動される
  - 光の差し込み
  - 駐車位置周辺の芝生、花壇、生垣などの植生が、季節によって変化または消失したとき
  - 極端に光環境が異なるとき
  - 光や影がさしかかっている
  - ゴミや枯れ葉が多い
- 次のような路面模様の位置が得られにくい駐車環境では、登録した駐車位置を検出しない、誤った駐車位置を検出する、駐車位置がずれるなど、正しく機能しない場合があります。
  - 砂利や芝生などが周辺に多いとき
  - 連続した駐車枠などがあり、駐車位置が特定できないとき
  - 複数の近接した類似模様（二重線など）がある駐車位置のとき
- 次のような状況などでは、登録時の駐車位置を検出されないことや、制御中に終了することがあります。
  - 駐車制御中の移動方向に障害物（駐車車両、電柱、ポールなど）が差し掛かっていると判断した場合
  - 駐車制御中に障害物の非常に近くを通ると判断した場合

プロパイロット リモート パーキング★

車外からプロパイロット リモート パーキング用インテリジェントキーを用いて、車両の前進および後退を行い、駐車操作を支援します。

プロパイロット リモート パーキングについて

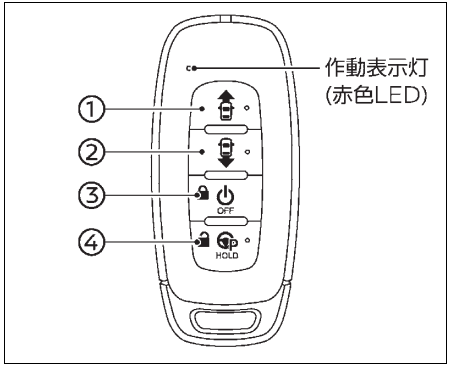
- 車両のアクセル、ブレーキ、ステアリング、シフト、電動パーキングブレーキを制御します。

⚠ 警告

- **プロパイロット リモート パーキングの操作は運転行為の一部です。必ず有効な運転免許証を保持した運転者が操作してください。特に小さなお子さまが誤って操作することがないようにしてください。**
- **プロパイロット リモート パーキングの性能には限界があります。**

  周囲の安全を確認し、事故を防ぐために必要な操作を行う責任は運転者にあります。システムを過信せず、通常の運転操作と同様に、周りの状況を目視で直接確認し、周囲の車両や障害物、人などに接触しそうな場合はプロパイロット リモート パーキング用インテリジェントキーのスイッチを離して車両を停止させてください。

プロパイロット リモート パーキング用インテリジェントキー



作動表示灯

- 消灯：プロパイロット リモート パーキング非作動
- 点灯：プロパイロット リモート パーキング作動準備完了
- 点滅（早）：プロパイロット リモート パーキングが作動し前進または後退を行っている
- 点滅（遅）：プロパイロット リモート パーキング作動準備中、または終了中

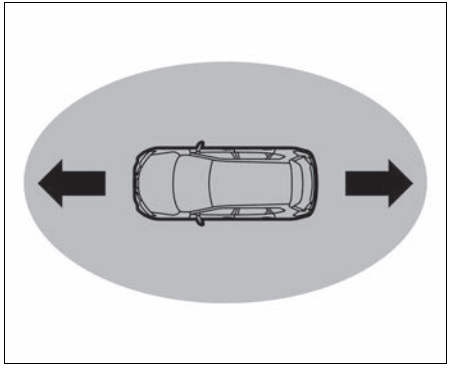
① **プロパイロット リモート パーキング前進スイッチ**
プロパイロット リモート パーキングが作動時に、車両を前進するのに使用します。

② **プロパイロット リモート パーキング後退スイッチ**
プロパイロット リモート パーキングが作動時に、車両を後退するのに使用します。

③ **プロパイロット リモート パーキングOFF/ドア施錠スイッチ**
プロパイロット リモート パーキングが作動時、プロパイロット リモート パーキングを終了するのに使用します。
プロパイロット リモート パーキングが非作動時は、全ドアを施錠するのに使用します。

④ **プロパイロット リモート パーキングON/ドア解錠スイッチ**
プロパイロット リモート パーキングが非作動時、短押しすることで全ドアを解錠するのに使用します。また長押しすることでプロパイロット リモート パーキングを起動させるのに使用します。そのあとe-POWERシステムが立ち上がると、プロパイロット リモート パーキングは作動中になります。
プロパイロット リモート パーキングが作動時、車両を前進・後退するのに使用します。

プロパイロット リモート パーキングの作動範囲



作動範囲は車両端から約3.5m以内です。

プロパイロット リモート パーキングに使用するソナーセンサーについて

⚠ 警告

- **車両のソナーセンサーが進行方向に障害物を検知し衝突のおそれがあると判断したときは、自動的にブレーキをかけますが機能には限界があります。**

  障害物を検知できない場合には衝突するおそれがあります。過信せず周囲の安全確認を心がけてください。自動ブレーキをかけたあと、プロパイロット リモート パーキングは終了します。再開は状況が改善されたことを確認してから行ってください。

ソナーセンサー

前後左右の12個のソナーセンサーを使用しています。

取り扱いについては、（➔P.476）をお読みください。

プロパイロット リモート パーキングを使って駐車する

⚠ 警告

- **プロパイロット リモート パーキングを使用する際は、車室内に人やペットが残らないようにしてください。**

  ハンドルやアクセルペダル、ブレーキペダルなどの操作が行われると、車両は停止しプロパイロット リモート パーキングは自動的に終了します。

- **安全な場所でプロパイロット リモート パーキングの操作を行ってください。**

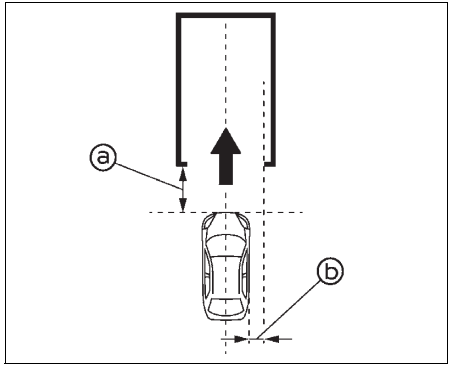
  プロパイロット リモート パーキングの操作をするときは、周囲の車両や人の動きに注意し安全を確保してください。

- **プロパイロット リモート パーキングの操作をするときは自車の進路上にいないでください。**

- **プロパイロット リモート パーキング用インテリジェントキーだけを見ながら操作することは絶対にしないでください。**

- **運転者が停車位置を定め、停車位置でプロパイロット リモート パーキング用インテリジェントキーのスイッチを離して車両を停止させてください。**

  停車する場所や周囲の障害物などの位置を考慮して自動で停車するシステムではありません。



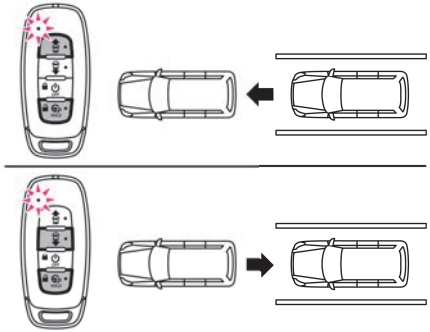
車両を駐車したい位置に合わせて停車します。e-POWERシステムを停止させてから降車してください。

ⓐ推奨位置：間口から約1.5m

ⓑ進行可能なスペース：左右の車両側面からそれぞれ約40cm以上

1. プロパイロット リモート パーキング用インテリジェントキーの<プロパイロット リモート パーキング ON/ドア解錠スイッチ>④でドアを解錠します。

2. ＜プロパイロット リモート パーキング ON/ドア解錠スイッチ＞④を長押しします。e-POWERシステムが始動し、プロパイロット リモート パーキングが起動します。



3. ＜プロパイロット リモート パーキング ON/ドア解錠スイッチ＞④を押しながら、＜プロパイロット リモート パーキング前進スイッチ＞①を押すと前進します。
＜プロパイロット リモート パーキング ON/ドア解錠スイッチ＞④を押しながら、＜プロパイロット リモート パーキング後退スイッチ＞②を押すと後退します。
4. 目標位置到着後、各スイッチを離し、＜プロパイロット リモート パーキング OFF/ドア施錠スイッチ＞③を押します。プロパイロット リモート パーキングが終了し、そのあとにe-POWERシステムが停止します。
e-POWERシステム停止後にドアを施錠する場合は、再度＜プロパイロット リモート パーキング OFF/ドア施錠スイッチ＞③を押してください。

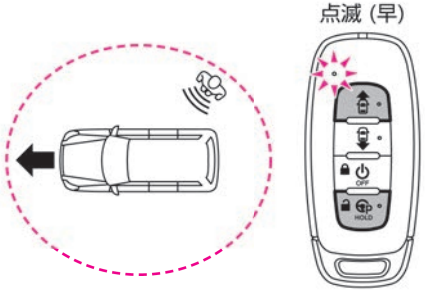
● プロパイロット リモート パーキングが終了するとき電動パーキングブレーキがかかり、シフトポジションはPに切り替わります。その後e-POWERシステムが停止します。
● 直進で駐車できる位置からプロパイロット リモート パーキングの操作を開始してください。側方の壁などとの距離に応じてステアリングの制御を行い、車両の向きを修正する場合があります。

プロパイロット リモート パーキングの一時停止について

次の場合は一時停止します。
● プロパイロット リモート パーキング用インテリジェントキーのスイッチを離したとき
● 作動範囲から外れたとき
このとき車両は自動的にブレーキがかかり停止します。シフトポジションはNに切り替わります。
プロパイロット リモート パーキング用インテリジェントキーの作動表示灯は点滅（遅）に切り替わります。

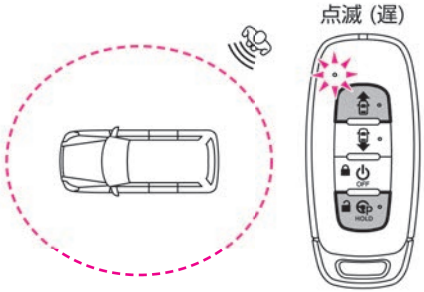
■ 一時停止（作動範囲から外れたとき）からの再開例

1. 前進中



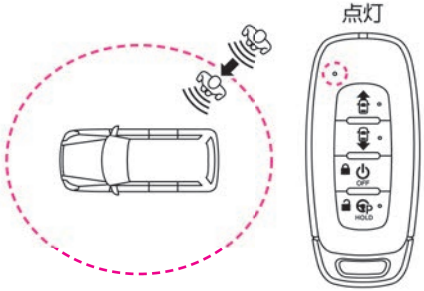
＜プロパイロット リモート パーキング前進スイッチ＞①と＜プロパイロット リモート パーキング ON/ドア解錠スイッチ＞④を同時に押し続けることで前進します。

2. 作動範囲から外れたとき



作動範囲から外れたとき、車両は停止します。プロパイロット リモート パーキング用インテリジェントキーの作動表示灯は点滅（遅）に切り替わります。

3. 再開したいとき



プロパイロット リモート パーキング用インテリジェントキーのスイッチを離してください。作動表示灯が点灯に切り替わるまで車両へ近づいてください。作動表示灯が点灯に切り替わったことを確認し、1の操作を行うと再開します。

プロパイロット リモート パーキングの自動終了について

次の場合は自動終了します。

運転者の操作検出

- ハンドル、アクセルペダル、ブレーキペダル、シフトポジション、電動パーキングブレーキを操作したとき
- 運転席、助手席、後席、またはバックドアのいずれかのドアを開けたとき
- VDCをOFFにしたとき
- e-POWERシステムを始動したあとに約1分以上操作がなかったとき
- e-POWERシステム始動に使用したプロパイロット リモート パーキング用インテリジェントキーとは別のキーによる操作が検出されたとき

センサーまたは車両状態

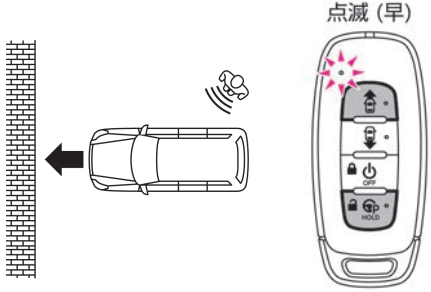
- 進行方向の障害物を検出したとき
- VDC/TCS/ABSが作動したとき
- 車速が約8km/hを超えたとき
- システムに異常が検出されたとき
- 移動先の駐車場所が自車の側方の物体との距離が狭い、または空いていないとシステムが判断したとき

このとき自動的にブレーキがかかり車両が停止し、電動パーキングブレーキがかかります。シフトポジションはPに切り替わります。その後e-POWERシステムが停止します。

プロパイロット リモート パーキング用インテリジェントキーの作動表示灯は消灯に切り替わります。

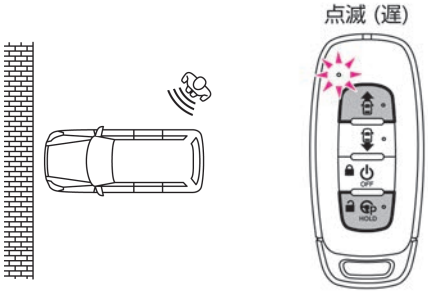
■ 自動終了（進行方向に障害物を検出）の例

1. 前進中



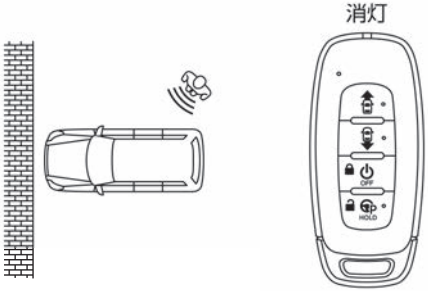
＜プロパイロット リモート パーキング前進スイッチ＞①と＜プロパイロット リモート パーキング ON/ドア解錠スイッチ＞④を同時に押し続けることで前進します。

2. 進行方向の障害物を検出したとき



進行方向の障害物を検出したとき、車両は停止し電動パーキングブレーキがかかりシフトポジションがPに切り替わります。プロパイロット リモート パーキング用インテリジェントキーの作動表示灯は点滅（遅）に切り替わります。

3. システムの停止



e-POWERシステムが停止します。プロパイロット リモート パーキング用インテリジェントキーの作動表示灯は消灯に切り替わります。

プロパイロット リモート パーキングの注意事項

⚠ 警告

- **周囲の車両や人の動きに十分注意してください。**

  対向車や後続車、歩行者の動きに十分注意してプロパイロット リモート パーキングの操作を行ってください。

- **プロパイロット リモート パーキングによる駐車支援が必要なくなったときは、プロパイロット リモート パーキングを終了してください。**

  プロパイロット リモート パーキングが作動状態のままだと思わぬ事故につながるおそれがあります。

- **以下のような状況ではプロパイロット リモート パーキングを使用しないでください。**

  — 人や車両などの通行量が多い場所
  — 停車および駐車が禁止されている場所
  — 車両が入らないほど狭い場所
  — 穴や溝などがあるような駐車できない場所
  — 急な勾配のある場所
  — 砂地や砂利地などの整備されていない路面
  — 雪や凍結などでスリップしやすい路面
  — 傾斜地や段差、縁石、わだちなどのある平坦ではない路面
  — 真夏の炎天下でアスファルトが溶けているような路面
  — 駐車場にロードヒーター（路面凍結防止用のヒーター）が設置されている場所
  — 機械式駐車場や自動ロック装置のある駐車場、駐車場所に障害物などがある場所
  — 過積載のとき
  — 摩耗しているタイヤ、スペアタイヤのような非常用タイヤ、タイヤチェーンを装着しているとき
  — タイヤの空気圧が適正ではないとき
  — けん引フックなどを取り付けているとき
  — バンパーにソナーセンサーの性能を妨げるようなものを取り付けたとき
  — バンパーにへこみなどがあるとき
  — ソナーセンサー周辺に雨や雪、泥などが付着しているとき
  — 極端に重い荷物を積んだり、車両の片側にだけ荷物などを積んでいたりして車両が傾いているとき

アドバイス

- 縁石や車止め、区画線は検出できません。

  縁石にホイールが接触しそうな場合や車両が車止めや区画線を越えそうな場合にはプロパイロット リモート パーキング用インテリジェントキーのスイッチを離し車両を停止させてください。車両が損傷することがあります。
- インテリジェントキーが車室内にある場合、プロパイロット リモート パーキングは作動できません。
- プロパイロット リモート パーキング作動中のドアは解錠状態となります。
- 車から離れる前に、車室内の状態や窓ガラスの開閉状態を確認してください。ドアの施錠が必要かご確認ください。
- プロパイロット リモート パーキング用インテリジェントキーは微弱な電波を使用しています。周囲の環境によっては通信が行えず、車両が停止することがあります。詳しい取り扱いについては（➔P.129）をお読みください。
- プロパイロット リモート パーキング用インテリジェントキーの電池の寿命は使用状況によりますが約1年です。電池が切れた場合、新しい電池と交換してください。

室内装備

室内灯

マップランプ／ルームランプ／ラゲッジランプ P.360
アンビエントライト★ P.361

収納装備

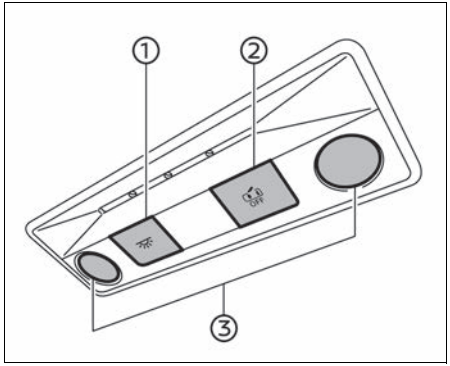
ティッシュボックス収納★ P.362
グローブボックス P.362
センターコンソールボックス★ P.362
フロントセンタートレイ★ P.363
コンソールポケット★ P.363
助手席アッパーボックス P.363
カップホルダー／ボトルホルダー P.363
前席シートバックポケット（アッパー）★ P.365

その他の室内装備

先進事故自動通報システム★ P.366
ドライブレコーダー（メーカーオプション ナビゲーションシステム装着車） P.369
ステアリングヒーター★ P.377
ヒーターシート★ P.377
電源ソケット P.378
USB電源ソケット P.378
100V AC電源（1500W）★ P.380
ワイヤレス充電器★ P.384
ロールサンシェード★ P.386
パーソナルテーブル★ P.386
コンビニフック P.387
フロアカーペット P.388
サンバイザー／バニティミラー P.389
チケットホルダー P.389
ラゲッジアンダーボックス P.389
アシストグリップ P.390
ラゲッジフック P.390

マップランプ／ルームランプ／ラゲッジランプ

マップランプの使いかた



- マップランプは、フロントシート天井部の中央にあります。
- 次のように点灯・消灯します。

スイッチ	点灯・消灯のしかた
①< >	スイッチを押すと、マップランプ、ルームランプおよびラゲッジランプが点灯します。もう一度押すと消灯します。
②< >	スイッチが押し込まれていないとき、ドアを開けるとマップランプ、ルームランプ、ラゲッジランプが点灯し、閉めると消灯します。スイッチが押し込まれているとき、消灯します。
③	ランプを押すごとに点灯・消灯します。

- <パワースイッチ>がOFFのときは、マップランプを長時間点灯させないでください。12Vバッテリーあがりのおそれがあります。

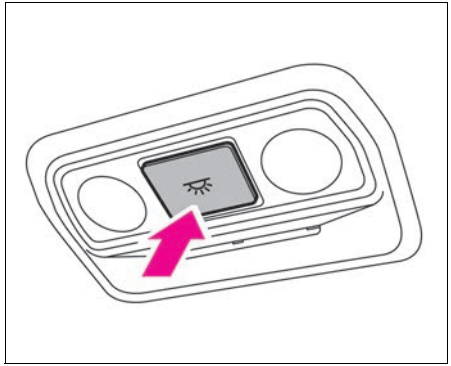
キー連動室内照明システム

- < >スイッチが押し込まれていないとき、次の条件で点灯します。
  - <パワースイッチ>をOFFにしてから約20秒間
  - <パワースイッチ>がOFFのとき、ドアを解錠してから約20秒間
  - <パワースイッチ>がOFFのとき、ドアを閉めてから約20秒間
  - ドアが開いているとき

バッテリーセーバー

- 12Vバッテリーあがりを防止するため、マップランプは10分以上点灯し続けると、自動的に消灯します。

ルームランプの使いかた



- ルームランプは、セカンドシート天井部の中央にあります。
- < >スイッチを押すと点灯し、もう一度押すと消灯します。

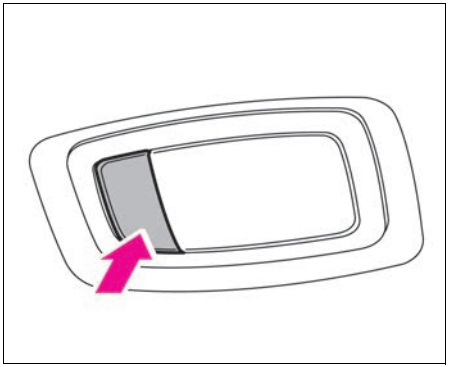
キー連動室内照明システム

- マップランプの< >スイッチが押し込まれていないとき、次の条件で点灯します。
  - <パワースイッチ>をOFFにしてから約20秒間
  - <パワースイッチ>がOFFのとき、ドアを解錠してから約20秒間
  - <パワースイッチ>がOFFのとき、ドアを閉めてから約20秒間
  - ドアが開いているとき

バッテリーセーバー

● 12Vバッテリーあがりを防止するため、ルームランプは10分以上点灯し続けると、自動的に消灯します。

ラゲッジランプの使いかた



● ラゲッジランプはラゲッジルーム天井部にあります。

● スイッチを押すと点灯し、もう一度押すと消灯します。

キー連動室内照明システム

● マップランプの< OFF >スイッチが押し込まれていないとき、次の条件で点灯します。

— <パワースイッチ>をOFFにしてから約20秒間

— <パワースイッチ>がOFFのとき、ドアを解錠してから約20秒間

— <パワースイッチ>がOFFのとき、ドアを閉めてから約20秒間

— ドアが開いているとき

バッテリーセーバー

● 12Vバッテリーあがりを防止するため、ラゲッジランプは10分以上点灯し続けると、自動的に消灯します。

アンビエントライト★

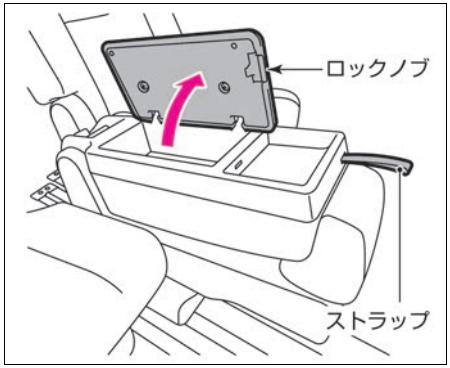
● アンビエントライトは、スライドドア内側にある間接照明です。アドバンスドドライブアシストディスプレイで次の操作をすると、明るさ調整およびOFFができます。
設定 ［ ⚙ ］ ⇒ ［車両設定］ ⇒ ［ライト/照明］ ⇒ ［室内間接照明］
設定の詳細については、車両設定（➔ P.86）をお読みください。

ティッシュボックス収納★

ティッシュボックス収納の使いかた

⚠ 注意

- **ふたを開けたまま走行しない。**
  収納した物が飛び出したりして、思わぬケガをしたり、事故につながるおそれがあります。
- **ふたを開けたまま手を掛けるなど、ふたに無理な力を掛けない。**
  破損して思わぬケガをするおそれがあります。



●スマートマルチセンターシートにあります。

① ストラップを引いてスマートマルチセンターシートの背もたれを前に倒します。

② ロックノブを引きながらふたを開けます。

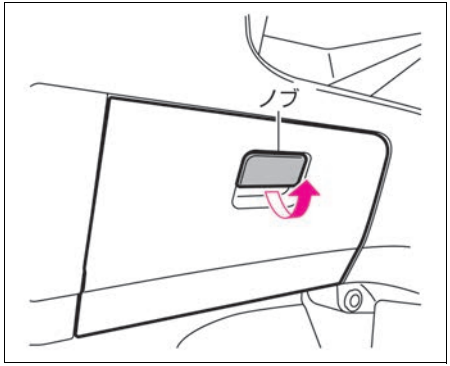
※ふたを閉めるときは、ふたを上から押してロックさせます。

グローブボックス

グローブボックスの使いかた

⚠ 注意

- **グローブボックスを開けたまま走行しない。**
  ブレーキをかけたとき収納した物が飛び出したり、ふたに当たったりするなどして、思わぬケガをするおそれがあります。
- **ふたを開けるときは、ゆっくり開ける。**
  ふたを全開にしたとき身体に当たるおそれがあります。



●ノブを引くと、ふたが開きます。

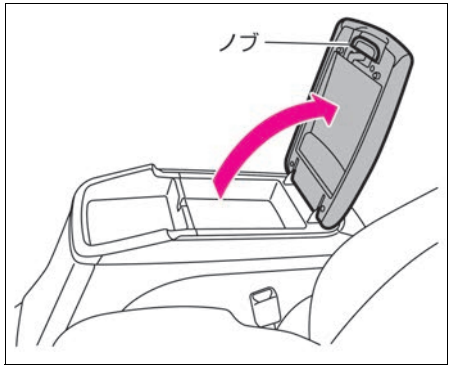
●閉めるときは、ロックするまでふたを押します。

センターコンソールボックス★

センターコンソールボックスの使いかた

⚠ 注意

- **センターコンソールボックスを開けたままにしない。**
  開けたふたで思わぬケガをするおそれがあります。



●開けるときは、ノブを引きながらふたを引き上げます。

●閉めるときは、ロックするまでふたを押します。

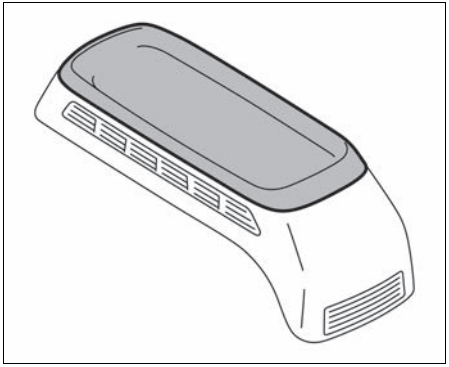
フロントセンタートレイ★

フロントセンタートレイについて

⚠ 注意

- **フロントセンタートレイに飛び出すおそれがあるものを置かない。**

  急ブレーキ時や衝突時に物が飛び出し、思わぬケガをするおそれがあります。



- フロントセンタートレイは、フロントシート脇にあります。

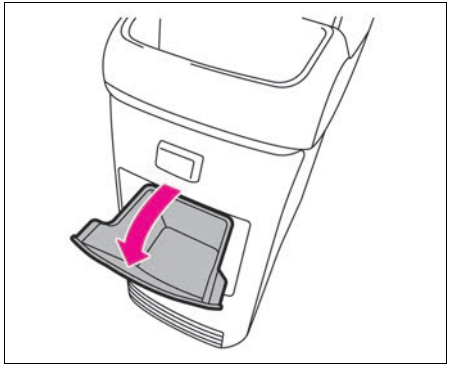
コンソールポケット★

コンソールポケットについて

⚠ 注意

- **コンソールポケットに飛び出すおそれがあるものを入れない。**

  急ブレーキ時や衝突時に物が飛び出し、思わぬケガをするおそれがあります。



- コンソールポケットは、センターコンソールボックスの後部にあります。
- 開けるときは、手前に引きます。
- 閉めるときは、押し戻します。

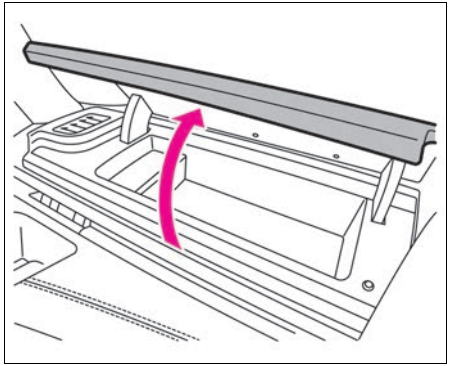
助手席アッパーボックス

助手席アッパーボックスの使いかた

⚠ 注意

- **ふたを開けたまま走行しない。**

  収納した物が飛び出したりして、思わぬケガをしたり、事故につながるおそれがあります。



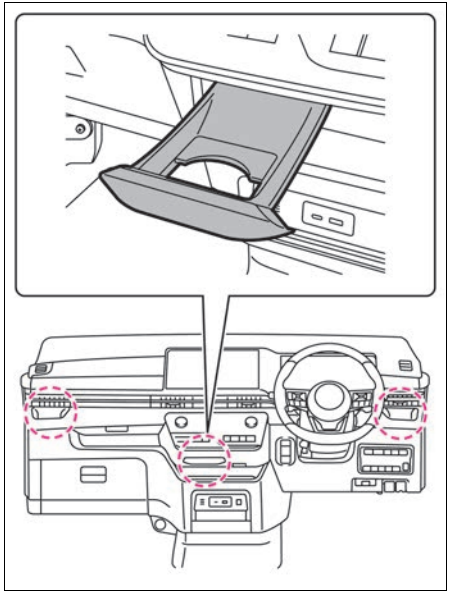
- 開けるときは、ふたを持ち上げます。
- 閉めるときは、押し戻します。

カップホルダー／ボトルホルダー

フロントシート用カップホルダーについて

アドバイス

- 中央のカップホルダーは、物を入れたまま格納しないでください。入れた物やカップホルダーが破損します。
- フロントシートからセカンドシートに移動するときや、スマートマルチセンターシート★をフロントシート側に移動させるときは、中央のカップホルダーを格納してください。



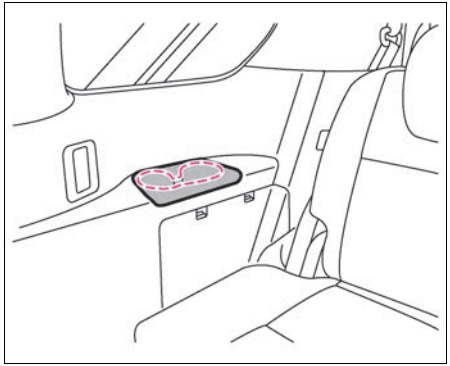
●インストルメントパネル部に3箇所あります。

中央のカップホルダーについて

●手前に引き出して使用します。

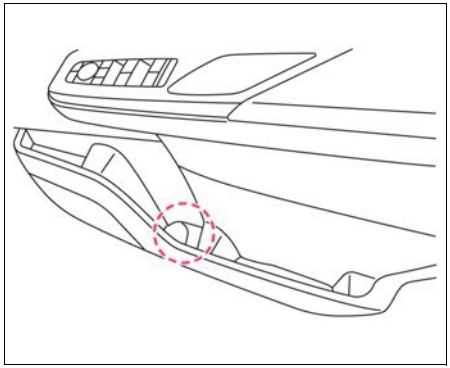
●格納するときは、押し戻します。

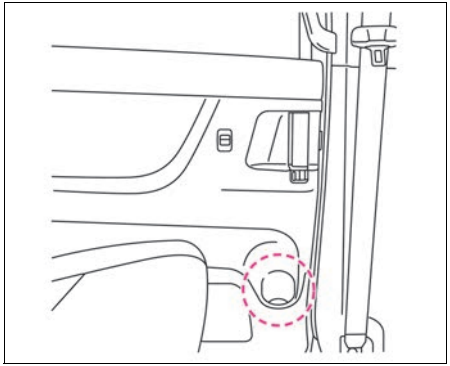
サードシート用カップホルダーについて



●サードシート用カップホルダーは、サードシートの横にあります。

ボトルホルダーについて





●ボトルホルダーは、フロントドアおよびスライドドアのドアポケットにあります。

カップホルダー／ボトルホルダーに関する注意事項

⚠ 警告

● **運転中に飲物を出し入れしない。**

運転中に飲物を出し入れすると前方不注意となり、思わぬ事故につながるおそれがあります。運転中は信号待ちなどの停車中に飲物を出し入れしてください。

● **ビンなどの硬いものは入れない。**

側面衝突などの事故のとき、重大な傷害につながるおそれがあります。

⚠ 注意

● **熱い飲物を置かない。**

⚠ 注意

熱い飲物をカップホルダーに置くと、走行中にこぼれたり、飛び散ったりして、乗員がやけどを負うおそれがあります。

- **飲物をこぼさないように注意する。**

  飲物の容器の形によっては、確実に固定されないおそれがあります。

- **車室内のスイッチや画面などに飲物をこぼさないようにする。**

  故障や火災のおそれがあります。

アドバイス

- 飲物や液体がいっぱいに満たされた容器をカップホルダーに置くと、走行中にこぼれたり、漏れ出したりして、車両の電子機器などに損傷を与えるおそれがあります。

前席シートバックポケット（アッパー）★

フロントシート左右背もたれの裏側にシートバックポケット（アッパー）があります。

前席シートバックポケット（アッパー）について

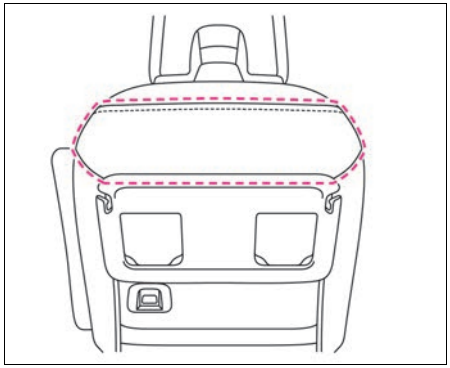
⚠ 注意

- **ポケットをつかんで乗り降りをしない。**

  思わぬケガをしたり、ポケットが破損したりするおそれがあります。

アドバイス

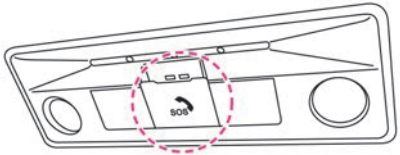
- ポケットにものを掛けないでください。ポケットが変形したり、破損したりするおそれがあります。



先進事故自動通報システム★

＜SOSコールスイッチ＞を押すことでSOSコールを開始できます。また、エアバッグやプリテンショナーシートベルトが作動するレベルの事故では、自動でSOSコールを開始します。

先進事故自動通報システムについて



- ＜パワースイッチ＞がONのとき、＜SOSコールスイッチ＞を押すと、SOSコールを開始できます。
- ＜SOSコールスイッチ＞は、マップランプ中央にあります。
- プロパイロット緊急停止支援システム（SOSコール機能付）により緊急停止したときには自動でSOSコールを開始します。
- SOSコールとは、急病・犯罪・事故などの緊急時に警察・消防・医療機関への連絡を補助するサービスです。
- SOSコールのサービス提供は、（株）日本緊急通報サービスからのものです。
- 日産販売会社でサービスのお申し込みと、車両側での初期設定が完了していないと、SOSコールを利用することができません。
- エアバッグ展開を伴う自動通報（SOSコール）後は、自動通報機能が使用できなくなります。リセット作業が必要ですので、日産販売会社へお問い合わせください。

先進事故自動通報システムの使いかた

⚠ 警告

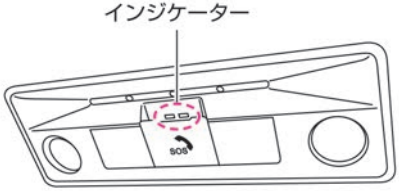
- **＜SOSコールスイッチ＞ を押すときは、安全な場所に停車してから行う。**

  走行中に運転者がスイッチを押そうとすると、思わぬ事故につながるおそれがあります。

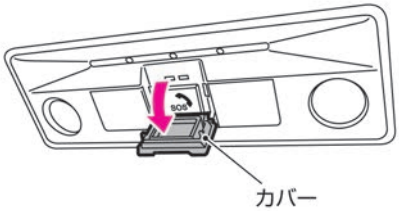
- **SOSコールは無線通信機能を利用しています。心臓ペースメーカーなどの医療用電気機器を使用している場合は、当該の医療用電気機器メーカー、もしくは販売業者に電波の影響について必ず確認してください。**

アドバイス

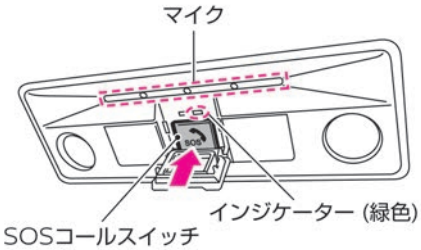
- 次の場合は、すみやかに日産販売会社で点検を受けてください。
  - ＜パワースイッチ＞をONにしても、インジケーターが赤色・緑色ともに点灯状態にならないとき
  - インジケーターが赤色・緑色ともに点灯してから約5秒後、赤色のインジケーターのみ点灯しているとき
- インジケーターが赤色・緑色ともに消灯している場合は、電波環境の良い場所まで車を移動させてください。



1. ＜パワースイッチ＞をONにします。
   ＜SOSコールスイッチ＞のインジケーターが赤色・緑色ともに点灯し、約5秒後に緑色のみ点灯を続けます。



2. ＜SOSコールスイッチ＞のカバーを開きます。



3. ＜SOSコールスイッチ＞を約1秒間押します。
緑色のインジケーターが点滅し、オペレーターに繋がります。

4. SOSコールサービスのオペレーターと通話します。
状況に応じてオペレーターからの折り返し、もしくは公共機関（警察・消防・医療機関）からの通話着信があります。着信時は自動で音声接続します。
通話が終了したら、カバーを戻し、ロックするまで押します。

● SOSコールサービスのオペレーターや公共機関との通話中は、車両側から通話を終了させることはできません。

SOS コールスイッチのインジケーターについて

● <SOSコールスイッチ>には、システムの状態を表すインジケーターがあります。

インジケーターの点灯パターン		システム状態	説明・対処方法
赤色	緑色		
(消灯)	(消灯)	システムOFF サービスエリア外	● システムがOFFの状態です。 ● <パワースイッチ>をONにすると電源が入ります。<パワースイッチ>をONにしても、インジケーターが赤色・緑色ともに点灯状態にならないときは日産販売会社で点検を受けてください。 ● 電波環境が悪く、SOSコールを開始できない状態です。車を電波環境の良い場所へ移動させてください。
(点灯)	(点灯)	システムON通知	● システムがONになったことを知らせます。 ● システムがONになると、約5秒間点灯します。 ● 初期設定が完了していないと点灯を続けます。
(消灯)	(点灯)	SOSコール開始可能	● SOSコールを開始できる状態です。
(消灯)	(点滅)	SOSコール利用中	● オペレーターセンターと通信中、またはオペレーターと通話中の状態です。
(点灯)	(消灯)	システム異常 SOSコールサービス契約なし 先進事故自動通報システム使用不可	● システム異常またはSOSコールサービス契約がなく、サービスを正常に提供できない状態です。すみやかにサービスの利用契約期限をご確認いただき、日産販売会社で点検を受けてください。

先進事故自動通報システムに関する注意事項

アドバイス

- <SOSコールスイッチ>の赤色のインジケーターのみ点灯する場合は、システムに異常があるか、サービスの契約期限が切れています。契約期限をご確認いただき、すみやかに日産販売会社で点検を受けてください。
- 12Vバッテリーあがりにつながるため、SOSコール利用中は安全を確認したうえでe-POWERシステムを停止せずにご使用ください。
- 通話中は、マップランプにあるマイクに向かって話してください。
- 先進事故自動通報システムは、携帯電話と同様のデータ網を使用しています。圏外エリア（トンネル内、地下駐車場など）や電波の届きにくい場所（山間部）では利用できない場合があります。
- 救急車両は車両位置／車種／車体色／登録ナンバーをもとに現場の通報車両を特定します。元の車体色がわからなくなるほど塗り替えをしてしまっていると、救急車両の到着が遅れる場合があります。
- システムを利用する前に車側で初期設定が必要です。サービス契約後は日産販売会社で初期設定を完了してください。
- 車の登録ナンバーを変更したときは、NissanConnect お客さまセンターへ必ずご連絡ください。SOSコール利用時、会員登録上の車のナンバーと実際の車のナンバーが一致しない場合、救急隊員の到着が遅れることがあります。
- SOSコールサービス契約中に車を手放す場合は、NissanConnect お客さまセンターに必ずご連絡いただき、解約を行ってください。

NissanConnect お客さまセンター：

0120-981-523

受付時間 9:00～17:00（年末年始を除く）

- 先進事故自動通報システムは、国内でのみ利用できます。
- 先進事故自動通報システムは、NissanConnect サービスを申し込みいただくことで利用できます。
- <SOSコールスイッチ>の赤色のインジケーターが点灯していても、SOSコールを開始することができます。ただし、発生している異常によっては、音声通話や救急車両の案内を正常に行えないことがあります。すみやかに日産販売会社で点検を受けてください。
- SOSコール開始後は通話のキャンセルはできません。いたずらや機能確認など、緊急の場合以外で<SOSコールスイッチ>を押さないでください。
- SOSコールは車載された通信機を使用するため、お客さまの携帯電話がなくても利用できます。
- 通話中の音声は、ボリュームを変更することができません。
- SOSコールサービスの契約期限後、継続利用を希望しない場合、日産販売会社にて退会手続きを行ってください。
- 本システムは、オープンソースを使用したソフトウェアを実装しています。ライセンスについて、次のwebサイトを参照してください。
https://www.oss-valeo.com/nissan/default.html

ドライブレコーダー（メーカーオプションナビゲーションシステム装着車）

車両前方および後方の映像を動画や写真で保存し、メーカーオプションナビゲーションシステムやスマートフォンで確認することができます。

設定については、（➔ ドライブレコーダーの設定（P.375））をお読みください。

ドライブレコーダーについて

- ドライブレコーダーの録画機能には、一定時間ごとに連続で録画する常時録画と、手動操作や車両への衝撃で録画を開始する緊急録画があります。
- 常時録画のデータは、microSDカードの録画領域を超えると古いデータから自動的に上書き保存されます。定期的にバックアップをとることをおすすめします。

●緊急録画や写真データは上書きされません。microSDカードの録画領域を超えるとデータを保存できなくなり、ドライブレコーダー画面にメッセージが表示されます。
日頃から不要なデータはこまめに削除することをおすすめします。

ドライブレコーダーの注意事項

●<パワースイッチ>をONにした直後は、ドライブレコーダーが起動していないため、録画することができません。ドライブレコーダーが起動するまでお待ちください。

●microSDカードを挿入した直後は、microSDカードを読み込むため、録画することができません。microSDカードの読み込みが完了するまでお待ちください。

●車室内が高温または低温の場合、部品保護のため、録画機能やWi-Fi通信機能が停止する場合があります。エアコンなどを使用して、車室内を適切な温度に調整してください。

●録画ファイルの時刻情報は、フロントカメラとリヤカメラで差異が生じる場合があります。

●次の場合、予期せず録画が開始される可能性があります。
— 車体に強い衝撃を加えた場合
— ドアを強く開閉した場合

●衝突が発生しても、衝撃が軽微だと録画されない場合があります。

●車室内の音や、周囲の騒音で正しく録音できない場合があります。

●周囲の明るさや距離によって、映像が見えにくくなる場合があります。

●LED式信号機などを録画すると、点滅して見えたり、色を識別できない場合があります。

●録画した映像は、事故などの証拠としての効力を保証するものではありません。

●すべての状況において映像／音声の品質や記録を保証するものではありません。

●火災や地震、第三者による行為、その他の事故、お客さまの故意または過失、誤使用、異常な条件下での使用により故障および損害が生じた場合、補償はできません。

●ドライブレコーダーの使用や使用不能から生じる付随的な損害（事業利益の損失、記憶内容の変化・消失など）に関しては、補償できません。

●機能を使用したことによる車の12Vバッテリーあがりについては補償できません。

●次の場合も、補償はできません。
— 誤使用や、静電気などの電気的なノイズを受けたことにより本機が正常に動作しなくなった場合
— 誤使用や、静電気などの電気的なノイズを受けたとき、または故障・修理のときなどにmicroSDカードに記録されていたファイルが変化・消失した場合

知識

● 走行中はカメラ画面や、保存した動画、静止画を表示することはできません。

● microSDカードを挿入した状態で、本機を譲渡または処分するときは、プライバシー保護のため、保存された記録データをすべて削除してください。

● 本製品には、次のソフトウェアが含まれています。

① パナソニック オートモーティブシステムズ株式会社（「パナソニック」）により、またはパナソニックのために開発されたソフトウェア
② パナソニックにライセンスされた第三者所有のソフトウェア
③ オープンソースソフトウェア

● 上記③に分類されるソフトウェアには、次のwebサイトに記載されているライセンス情報が適用される様々なソフトウェアを含むオープンソースソフトウェア（OSS）が含まれています。
http://car.panasonic.jp/oss/l01yvn7c

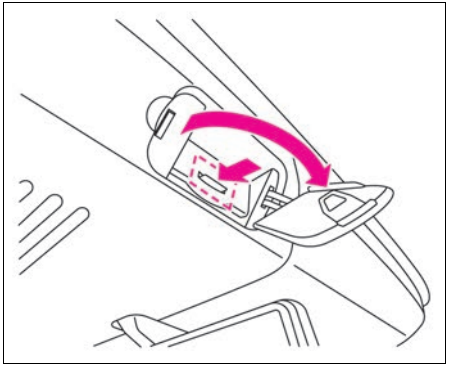
microSD カードについて

警告

● **microSDカードはお子さまに触れさせない。**
誤って飲み込むと、のどなどにつまらせ重大な傷害につながります。また最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

アドバイス

- 録画および再生中にmicroSDカードを取り出すと、データが破損するおそれがあります。



- ドライブレコーダーで保存した動画や静止画は、マルチセンシングフロントカメラ側面に挿入されているmicroSDカードに保管されています。
- 次の場合、正しくデータを保存できない可能性があります。
  - 本機以外で初期化をした場合
  - 本機以外で作成したファイルが混在している場合
  - microSDカード内に記録されたファイル名を変更した場合
  - 本機付属のmicroSDカード以外を使用した場合
  - microSDカードが正しく挿入されていない場合

著作権について

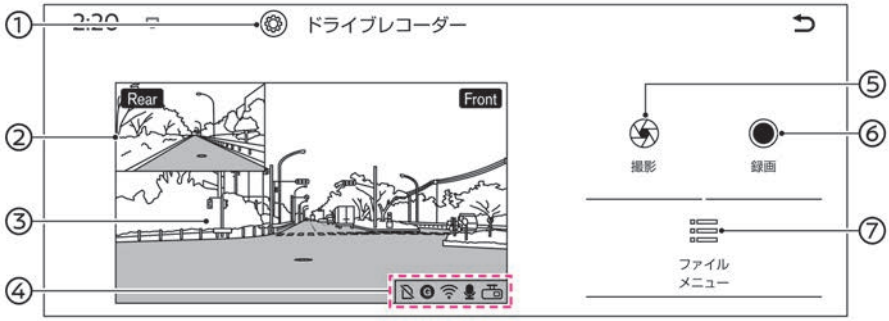
- 著作物を無断で複製、放送、公開演奏、レンタルすることは法律により禁じられています。
- 撮影した映像や画像は、個人で使用する以外は、権利者に無断で使用できません。個人使用目的でも撮影が制限されている場合があります。
- 本機を利用して、本人の同意なしに他人の肖像を撮影したり不特定多数に公開することは、肖像権を侵害するおそれがあるためお控えください。
- お客さまが本機を利用して公衆に著しく迷惑をかける不良行為などを行う場合、法律・条例（迷惑防止条例など）に従い処罰されることがあります。

ドライブレコーダー画面を表示する

ナビゲーションシステムで次の操作をすると、ドライブレコーダー画面を表示することができます。

［ ］ ⇒［ドライブレコーダー］

ナビゲーションシステムの操作方法は、別冊のナビゲーションシステム取扱説明書をお読みください。



① ［ ］
ドライブレコーダー設定画面を表示します。

② **カメラ画面（副）**
リヤカメラの映像が表示されます。タッチすると、カメラ画面（主）と表示を入れ替えることができます。

③ **カメラ画面（主）**
フロントカメラの映像が表示されます。

④ **情報表示**
ドライブレコーダーの作動状況を示すアイコンが表示されます。

⑤ **撮影**
カメラ画面（主）に映っている映像を静止画で保存することができます。

⑥ **録画**
緊急時などに手動で録画を開始することができます。

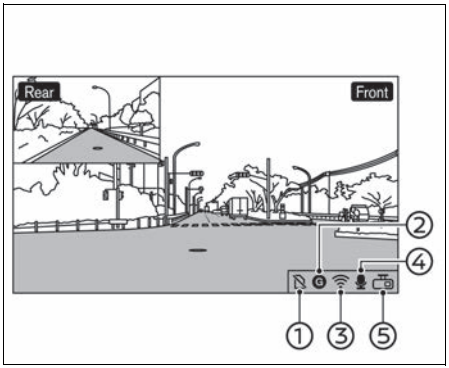
⑦ **ファイルメニュー**
撮影した写真、録画ファイルの閲覧や削除をすることができます。

知識

- カメラ画面（主）／（副）の映像は、実際よりも遅れて表示されることがあります。
- 走行中にカメラ画面は表示されませんが、［撮影］と［録画］は使用できます。

情報表示

ドライブレコーダー画面には、ドライブレコーダーの作動状態を示すアイコンが表示されます。



位置	アイコン	状態
①	無し	microSDカード認識中
		microSDカード未挿入
②	G（赤色）	衝突録画機能ON
		衝突録画機能OFF
③	（白色）	Wi-Fi接続ON
	無し	Wi-Fi接続OFF
④		録音設定ON
		録音設定OFF
⑤		緊急・手動・常時録画中
		録画停止中

アドバイス

- 表示場所①にアイコンが表示されていない状態で、撮影や録画したデータが保存されない場合は、microSDカードの空き容量が不足している可能性があるため、不要なデータを削除してください。
- が表示された場合は、microSDカードが故障している可能性があります。microSDカードを初期化しても消えない場合は、新しいmicroSDカードに差し替えてください。

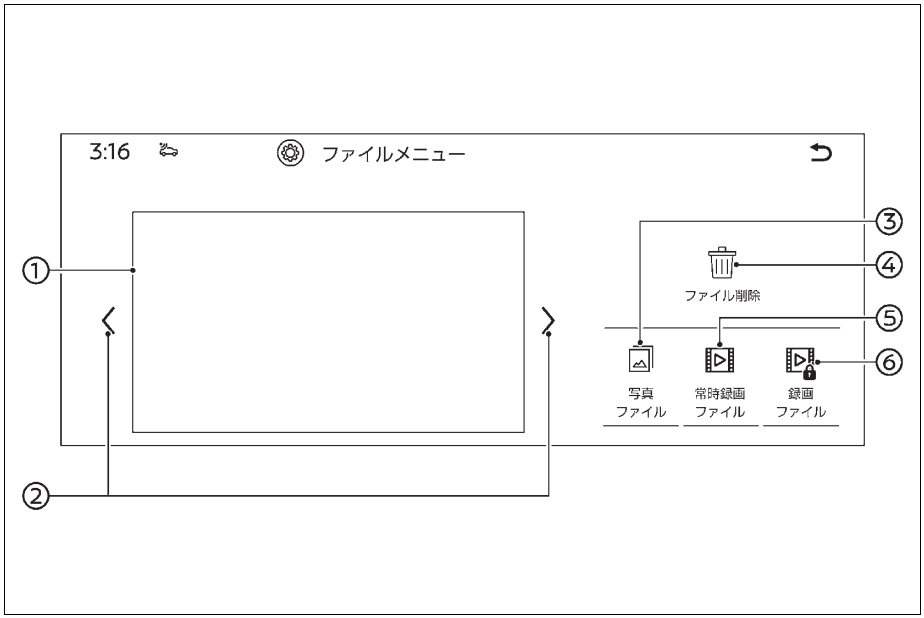
- 、G（灰色）または（灰色）が表示された場合は、車両またはドライブレコーダーが故障している可能性があるため、日産販売会社で点検を受けてください。

ファイルメニュー

ナビゲーションシステムで次の操作をすると、撮影した写真、録画ファイルの閲覧や削除をすることができます。

⇒［ドライブレコーダー］⇒［ファイルメニュー］

ナビゲーションシステムの操作方法は、別冊のナビゲーションシステム取扱説明書をお読みください。



① **ファイル一覧**
ファイルの一覧が表示されます。
一覧からファイルを選択すると、動画の再生や写真の表示ができます。
動画や写真を削除することもできます。

② **<／>**
ページを切り替えることができます。

③ **写真ファイル**
ファイル一覧で写真を選択して表示することができます。

④ **ファイル削除**
撮影した写真や動画を選択して削除することができます。

⑤ **常時録画ファイル**
ファイル一覧で常時録画ファイルを選択して再生することができます。

⑥ **録画ファイル**
ファイル一覧で録画ファイルを選択して再生することができます。

知識

- 走行中にファイル一覧の表示やファイルの閲覧はできません。
- ファイル一覧が表示されているときや動画を再生しているときなどは、録画機能を使用することができません。

ドライブレコーダーの設定

ナビゲーションシステムで次の操作をすると、ドライブレコーダー設定画面を表示します。

⇒［ドライブレコーダー］⇒［ ］

スマートフォンの専用アプリを使って、ドライブレコーダーにスマートフォンをWi-Fi接続すると、スマートフォンでドライブレコーダーに保存されているファイルの確認やダウンロードができます。
ナビゲーションシステムの操作方法は、別冊のナビゲーションシステム取扱説明書をお読みください。

項目 1	項目 2	機能
録画		常時録画のON・OFFを設定します。
録音		録音のON・OFFを設定します。
駐車録画モード		駐車時に車両が衝撃を受けた際に自動で録画を開始する機能のON・OFFを設定します。
衝撃による緊急録画		走行中または停車中に車両が衝撃を受けた際に自動で録画を開始する機能のON・OFFを設定します。
録画時間		常時録画の1ファイルの録画時間を［1分］、［3分］、［5分］から選択します。
画質		画質を［高画質］、［標準］、［長時間モード］から選択します。
車両情報表示		車両情報アイコンの表示・非表示を設定します。 ONにすると、録画ファイルに車両情報アイコンが表示されます。
衝撃感度		衝撃による緊急録画や駐車録画モードを開始する衝撃の感度を［低］、［中］、［高］から選択します。

項目 1	項目 2	機能
デバイスをWi-Fiで接続する		ドライブレコーダーのWi-FiのON・OFFを設定します。 ONのときに、スマートフォンの専用アプリを使って、ドライブレコーダーにスマートフォンをWi-Fi接続すると、ドライブレコーダーに保存されているファイルの確認やダウンロードができます。 専用アプリは次の項目よりダウンロードできます。 **アプリ名称：Nissan Drive Recorder** **Androidの場合：Google Play** **iOSの場合：App Store** 初期Wi-Fi名称：dvr_ssid 初期Wi-Fiパスワード：dvr_pass Wi-Fi名称とWi-Fiパスワードを忘れた場合は、［ドライブレコーダ初期化］で初期に戻すことができます。
カメラ角度調整		カメラの角度を調整します。
システム	ソフトウェアバージョン	ドライブレコーダーのソフトウェアバージョン情報を表示します。
	SDカードのフォーマット	microSDカードを初期化します。
	ドライブレコーダ初期化	ドライブレコーダーを初期化します。

知識

- 初めてドライブレコーダーをご使用になるときに録画設定がOFFになっていた場合は、ドライブレコーダーの初期化を行ってください。
- microSDカードを初期化するとすべてのデータが消去されます。あらかじめバックアップをとることをおすすめします。

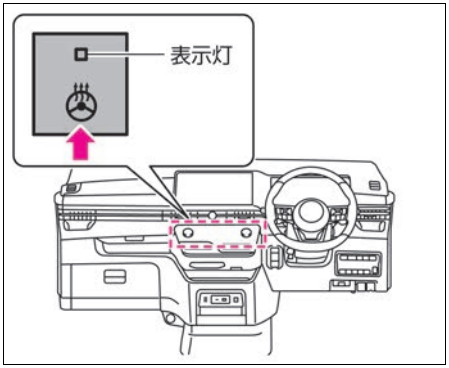
ステアリングヒーター★

ハンドルを温めます。

ステアリングヒーターの使いかた

アドバイス

- 12Vバッテリーあがりを防止するため、走行可能表示灯が点灯しているときに使用してください。



- スイッチをタッチすると約30分間作動します。（スイッチの表示灯が点灯）
- 作動中にスイッチをタッチすると作動が停止します。（スイッチの表示灯が消灯）
- ハンドルの表面温度が一定温度以上のときは、スイッチをタッチしてもステアリングヒーターは作動しません。

ヒーターシート★

フロントシートまたはセカンドシート（左右席）を温めます。

⚠ 注意

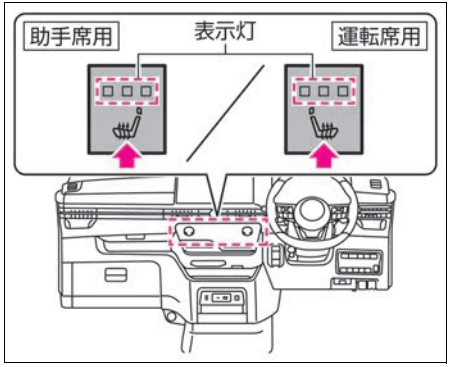
- **長時間の連続使用はしない。**
  低温やけどの原因になります。特に皮膚の弱い方、乳幼児、病人、お年寄り、身体の不自由な方、眠気をもよおす薬を服用された方、深酒や疲労の激しい方は注意してください。
- **硬くて重い物や突起がある物をシートに載せたり、ピンや針などの鋭い物でシートを突き刺したりしない。**

アドバイス

- 過熱するおそれがあるため、シートに毛皮や座布団を載せたり、シートカバーを使用したりしないでください。
- シートを清掃するときは、シンナー、ベンジン、アルコールなどの有機溶剤を使用しないでください。
- 水などをこぼしたときは、乾いた布ですぐにふき取ってください。
- 12Vバッテリーあがりを防止するため、走行可能表示灯が点灯しているときに使用してください。

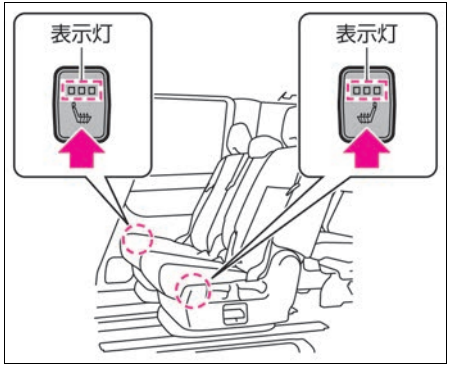
モード	表示灯	働き
HI	3つ点灯	強
MID	2つ点灯	中
LO	1つ点灯	弱
OFF	消灯	停止

前席ヒーターシートの使いかた



- スイッチをタッチすると作動します。（スイッチの表示灯が点灯）
- スイッチをタッチするごとにHI⇒MID⇒LO⇒OFF⇒HIの順に切り替わります。
- e-POWERシステムを再始動すると助手席側はOFFになります。

ヒーターシート（セカンドシート（左右））の使いかた



- スイッチを押すと作動します。（スイッチの表示灯が点灯）
- スイッチを押すごとにHI⇒MID⇒LO⇒OFF⇒HIの順に切り替わります。
- e-POWERシステムを再始動するとOFFになります。

電源ソケット

カーアクセサリーの電源をとるときに使います。

電源ソケットの使いかた

警告

- 電源ソケットを使うときは、次のことを守る。

電源ソケットの不適切な使用は、車両のヒューズが切れるだけでなく、最悪の場合、車両火災ややけどのおそれがあります。

— 複数の電源ソケットを持つアダプターを使用して、一度にたくさんの機器を接続しないでください。

— 消費電力120W以下のものを使ってください。

— 相手プラグをソケットの奥まできちんと挿入してください。

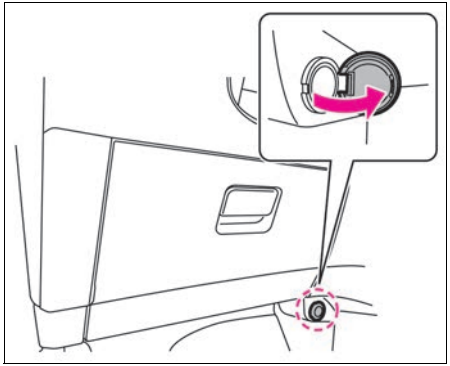
— 使用中や使用後はソケットやプラグの取り扱いに十分注意してください。

— シガーライターをソケットに差し込まないでください。

— ソケットに水をかけたり、指や金属などを入れたりしないでください。

アドバイス

- 12Vバッテリーあがりを防止するため、走行可能表示灯が点灯しているときに使用してください。



- 電源ソケットはグローブボックスの右下にあります。
- ふたを開けて使います。
- 使用しないときは、ふたを閉めます。
- 容量は、12V（ボルト）、10A（アンペア）、120W（ワット）です。
- プラグを挿入したり抜いたりするときは、使用機器側の電源をOFFにするか、<パワースイッチ>をOFFにしてください。

USB 電源ソケット

USB電源ソケットでモバイル機器などを充電できます。メーカーオプションナビゲーションシステム装着車は、インストルメントパネルのUSB電源ソケットで通信も可能です。

USB 電源ソケットの使いかた

⚠ 警告

- **SRSエアバッグの作動を妨げるような場所に、モバイル機器や接続用のケーブルを設置しない。**

  SRSエアバッグが正常に作動しなくなったり、SRSエアバッグの作動時にモバイル機器が飛ばされたりして、死亡または重大な傷害につながるおそれがあります。

- **USB電源ソケットを使用するときは、次のことを守る。**

  USB電源ソケットの不適切な使用は、車両のヒューズが切れるだけでなく、最悪の場合、車両火災ややけどにつながるおそれがあります。

  — 複数のUSB電源ソケットを持つアダプターを使用して、一度にたくさんのモバイル機器を充電しない

  — 消費電力12W以下のものを使用する

  — ケーブルはしっかり奥まで挿入する

  — ソケットに水をかけたり、指や金属などを入れたりしない

  — ソケットの向きに注意し、無理な接続や取り外しをしない

⚠ 注意

- **モバイル機器または接続用のケーブルは、運転の邪魔にならない場所に固定する。**

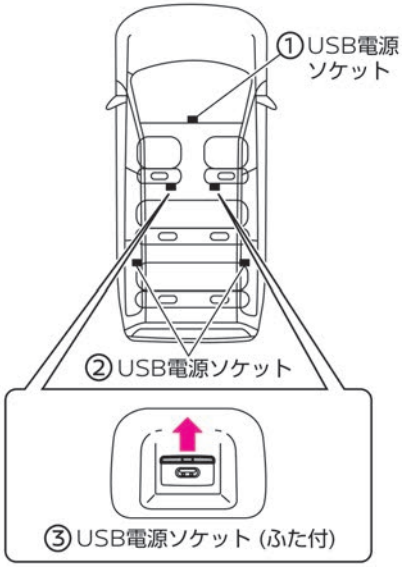
  運転に支障をきたし、思わぬ事故につながるおそれがあります。

アドバイス

リバーシブルタイプUSBコネクター
（接点基板が中央にある）

- 両面挿し（リバーシブル）対応のUSBケーブルは、USB電源ソケットの内部端子を破損するおそれがあるので使用しないでください。
- 12Vバッテリーあがりを防止するため、走行可能表示灯が点灯しているときに使用してください。
- サードシート左右のUSB電源ソケット★使用時は、ラジオ・テレビにノイズ（雑音）が入ることがあります。

- シートを操作するときは、USB電源ソケットにUSB端子がささっていないことを確認してください。
  USB電源ソケットやモバイル機器が破損するおそれがあります。



モバイル機器を充電するのに便利なUSB電源ソケットが用意されています。

- USB電源ソケットは次の場所にあります。
  — ①インストルメントパネル
  — ②サードシート左右のカップホルダーの横★

— ③運転席シートと助手席シートの背もたれの裏側★

- 運転席シートと助手席シート背もたれの裏側にあるUSB電源ソケットは、ふたを開けて使います。
- 使用しないときは、ふたを閉めます。
- USB Type-Aの容量は、5V（ボルト）、2.4A（アンペア）、12W（ワット）です。
- USB Type-Cの容量は、5V（ボルト）、3A（アンペア）、15W（ワット）です。
- メーカーオプションナビゲーションシステム装着車のインストルメントパネルのUSB電源ソケットについては、別冊のナビゲーションシステム取扱説明書をお読みください。

100V AC 電源（1500W）★

電気製品の電源をとるときに使います。

100V AC 電源（1500W）について

⚠ 警告

- **換気の悪い場所では、100V AC電源（1500W）を使用しない。**

  排気ガスが車両周辺に滞留したり、車室内に侵入したりすることで、一酸化炭素中毒になるおそれがあります。一酸化炭素を吸い込むと、意識が薄れて事故につながるおそれがあるほか、死亡または重大な傷害につながるおそれがあります。

- **駐停車中に100V AC電源（1500W）を使用するときは、シフトポジションを確実にPに切り替え、パーキングブレーキをかける。**

  万一シフトポジションがP以外だと、急発進し、思わぬ事故につながるおそれがあります。

- **お客さまが接続される電気製品の取扱説明書や製品に記載の警告・注意事項を守って使用する。**

  火災、感電、ケガ、やけどのおそれがあります。

- **故障した電気製品や破損した電源プラグ、水没や浸水した、またはそのおそれのある電気製品は使用しない。**

  火災、感電、ケガ、やけどのおそれがあります。

- **電気製品は確実に固定する。また、調理機器などは、内容物を入れたまま走行しない。**

  振動・急停止などにより電気製品が転倒・落下したり、内容物が飛び出したりするおそれがあります。

- **アース線のある電気製品を使用するときは、アース端子を備えたコンセントにプラグを差し込み、アース線をアース端子に接続して使用する。**
- **使用する電気製品のプラグ形状と車両側のコンセント形状が一致しない場合は、市販の変換アダプターを使用してアース線を接続する。**

⚠ 注意

- **お子さまだけで100V AC電源（1500W）のコンセントを触らせない。**
- **車室内で蒸気が出る電気製品を使用しない。**

  窓ガラスがくもり、運転する際に視界を妨げるおそれがあります。

- **運転席シートの下部にある吹き出し口に足を乗せない。**

  低温やけどをするおそれがあります。

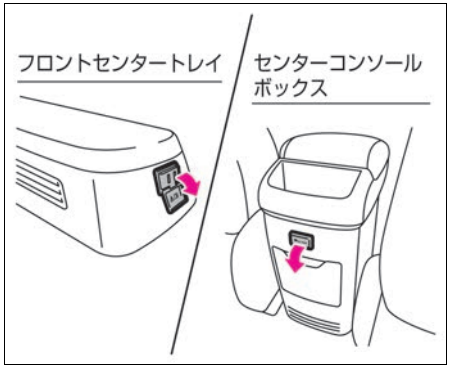
アドバイス

- 車室内が高温のときは、100V AC電源（1500W）が使用できない場合があります。車室内の温度が下がるまで風通しの良い日陰などに駐車し、窓やドアなどを開けて換気してください。
- 長い延長コードやコードリールを使用したとき、正常に電気製品が作動しないことがあります。

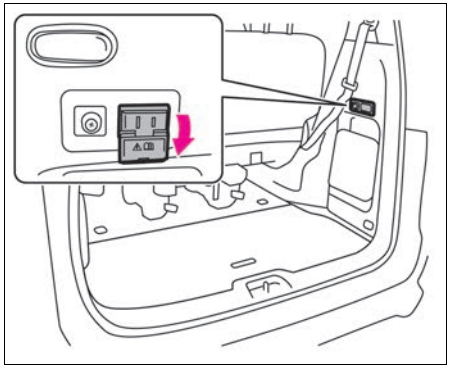
アドバイス

- 100V AC電源（1500W）を使用しているときは、運転席シートの下部にある吹き出し口をふさがないでください。
- 電源周波数は50Hzに設定されています。周波数を切り替えたい場合は、日産販売会社にお問い合わせください。
- 車両の状態によっては、一時的に給電が停止することがあります。
- 災害などに起因する停電時に、他に安定した電源が確保できない場合には、電動車活用社会推進協議会が発行している「災害時における電動車から医療機器への給電活用マニュアル」を参照してください。
- 測定機器は使用しないでください。誤作動するおそれがあります。

フロントセンタートレイ★（8人乗り車）／センターコンソールボックス★（7人乗り車）



ラゲッジルーム（アース端子付）



- 100V AC電源（1500W）はフロントセンタートレイ／センターコンソールボックス、ラゲッジルームにあります。
- AC100V（ボルト）最大負荷1500W（ワット）の電源としてお使いください。
- 最大負荷1500W以下の電気製品を使用してください。1500Wを超える電気製品を使用すると、100V AC電源（1500W）の保護機能が作動し、コンセントが使用できなくなる場合があります。
- 最大負荷が1500W以下でも、次のような電気製品は正常に作動しないことがあります。
  - 一時的に大きな電流が発生する電気製品
  - データ測定をする電気製品
  - 安定した電力供給を必要とする電気製品
  - タイマー設定する機器など、コンセントの出力が連続して必要な電気製品
- 100V AC電源（1500W）を使用しているとき、コンセントにひざなどが当たらないように注意してください。破損するおそれがあります。
- フロントセンタートレイ／センターコンソールボックスとラゲッジルームにあるコンセントを同時に使用するときは、最大負荷の合計が1500Wを超えないようにしてください。
- 最大負荷1500Wで連続使用したとき、作動しない場合があります。
- 接続する電気製品によって、ラジオ★やTV★が聞こえなくなることがあります。

- 100V AC電源（1500W）を使用しているとき、冷却ファンの音がする場合がありますが、異常ではありません。
- 100V AC電源（1500W）を使用しているとき、運転席シートの下部にある吹き出し口が熱くなる場合がありますが、異常ではありません。

100V AC 電源（1500W）の使いかた

⚠ 警告

- **濡れた手で電源プラグを抜き差ししない。**

  感電するおそれがあります。
- **コンセントに水がかからないようにする。**

  感電するおそれがあります。
- **コンセントに金属製の鋭利なもの（ピン・針金など）を差し込まない。**

  感電するおそれがあります。
- **100V AC電源（1500W）の分解・修理・改造をしない。**

  感電するおそれがあります。
- **車外で電気製品を使用しているときに、雷が鳴ったらすぐに電気製品の使用を中止してコンセントから抜く。**

  感電、火災のおそれがあります。
- **100V AC電源（1500W）を家屋内のコンセントや配電盤などに接続し、電気を供給する電源として使用しない。**

⚠ 注意

- **100V AC電源（1500W）を使用するときは、車両から離れない。**
- **e-POWERシステム警告灯が点灯しているときは100V AC電源（1500W）を使用しない。**
- **100V AC電源（1500W）をONにするときは、接続する電気製品の電源がOFFになっていることを確認する。**

  電源がONになっていると、電気製品が突然作動するおそれがあります。

  電気製品の電源スイッチがないものについては、先に100V AC電源（1500W）をONにしてからコンセントに接続してください。
- **車室内で電気製品を使用するときは、落下や転倒などしないように安定した場所で使用する。**

  ケガをするおそれがあります。
- **100V AC電源（1500W）のコンセントを使用して、電気自動車やプラグインハイブリッド車などへの充電はしない。**
- **接続する電気製品のプラグを、確実にコンセントの根元まで挿入して使用する。**
- **100V AC電源（1500W）を使用して、車外で電気製品を使用する場合は、ドアや窓にコードを挟まない。**
- **100V AC電源（1500W）を使用しない場合は、コンセントのふたを閉める。**

  コンセントにゴミ、ほこりがたまるとショートするおそれがあります。
- **コンセントに電気製品のプラグを差し込んだときに、緩いと感じた場合は日産販売会社に問い合わせる。**
- **タコ足配線をしない。**
- **ACアダプター付プラグを直接コンセントに取り付けない。**

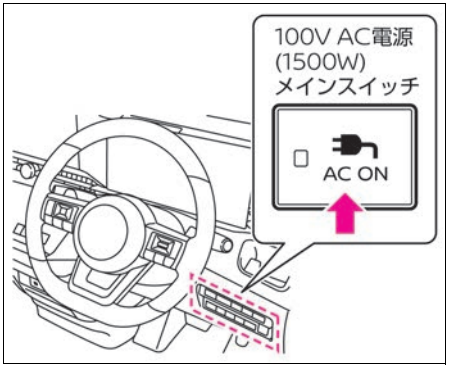
  ACアダプターの重さにより、プラグが抜けかかり、場合によっては発熱のおそれがあります。

アドバイス

- 定格消費電力が大きな電気製品（ホットプレートなど）の中には、コンセントを単独で使うことを必須としているものがあります。その場合、他の電気製品と併用しないでください。
- 複数の電気製品を使用した場合、電気製品の組み合わせにより正常に作動しないことがあります。

アドバイス

- 100V AC電源（1500W）を使用しない場合は、＜100V AC電源（1500W）メインスイッチ＞をOFFにすることを推奨します。（100V AC電源（1500W）システムの待機電力分の節約のため）
- 走行中の振動や炎天下時などの車室内温度によっては電気製品が故障するおそれがあるので車室内で使用しないでください。
- 水平設置が必要な電気製品は正常に動作しない可能性あるため、車室内で使用しないでください。
- 粉塵の多い場所、直射日光の当たる場所、防水仕様の電気製品を除き、雨や水のかかる場所では使用しないでください。



- ブレーキペダルを踏んだまま＜パワースイッチ＞を押して、走行可能表示灯が点灯していることを確認します。＜100V AC電源（1500W）メインスイッチ＞を押すと、100V AC電源（1500W）を使用できます。（スイッチの表示灯が点灯）
- 使用するときは100V AC電源（1500W）のふたを開けます。
- プラグをコンセントに差し込み、電気製品の電源を入れて使用してください。
- アース線のある電気製品を使用するときは、電気製品の電源を入れる前にアース線を接続してください。
- 100V AC電源（1500W）をOFFにするときは、再度＜100V AC電源（1500W）メインスイッチ＞を押します。
- 使用後は、100V AC電源（1500W）のふたを閉めてください。
- 100V AC電源（1500W）使用中に、＜パワースイッチ＞をOFFにすると、100V AC電源（1500W）もOFFになります。再始動しても、100V AC電源（1500W）は自動的にONになりません。
- 駐停車中に100V AC電源（1500W）を使用しエンジンが始動した場合、アイドリングストップに関する条例違反により罰則の対象となるおそれがあります。アイドリングストップの詳しい条例については、関係する自治体に確認してください。
- キャンプ場や災害のときなど、100V AC電源（1500W）で電化製品を使用する場合、次の操作を行うと、車両接近通報装置の音が一時的に作動しなくなります。
  - ＜100V AC電源（1500W）メインスイッチ＞を、1.5秒以上押し続ける

➔ 車両接近通報装置（P.220）

100V AC 電源（1500W）で困ったときは

100V AC電源（1500W）が使用できず困ったときは、次のことをご確認ください。
これらを確認しても問題が解決できないときは、車両または100V AC電源（1500W）の故障のおそれがあるため、日産販売会社にご連絡ください。

症状	原因	対処方法
100V AC電源（1500W）がONにならない	車室内が高温になっている	車室内の温度が下がるまで風通しの良い日陰などで、窓やドアなどを開けて換気してください。
	走行可能状態になっていない	走行可能状態にして使用してください。
接続する電気製品が使用できない	接続する電気製品の最大負荷が1500Wを超えている	最大負荷1500W以下の電気製品を使用してください。
	接続する電気製品が一時的に大きな電流を流している	一時的に大きな電流が流れない電気製品を使用してください。
	接続する電気製品にあった周波数（50Hz／60Hz）になっていない	電気製品の周波数を変更してください。または、お近くの日産販売会社で電源周波数を変更してください。
	接続する電気製品のプラグ形状が、曲がっている	プラグ形状が曲がった電気製品を使用しないでください。
	接続する電気製品が、故障している	故障した電気製品を使用しないでください。

ワイヤレス充電器★

ワイヤレス充電器はQi対応スマートフォンの充電専用です。

ワイヤレス充電器の使いかた

⚠ 警告

- **充電エリアとスマートフォンの間にコインなどの金属物を置かない。**

  車両火災ややけどにつながるおそれがあります。

- **植込み型心臓ペースメーカーおよび植込み型除細動器（ICD）、またはそれ以外の医療電気機器を使用されている方は、医療電気機器製造業者などへ影響を確認してから使用する。**

  ワイヤレス充電器の電波が医療電気機器の動作に影響を与える場合があります。

- **充電中はスマートフォンに布などをかぶせない。**

  車両火災ややけどにつながるおそれがあります。

- **スマートフォンが濡れた状態で充電しない。**

  故障、火災または感電のおそれがあります。

- **充電中は金属物やインテリジェントキー、メモリードライブなどを充電エリア内に置かない。**

⚠ 警告

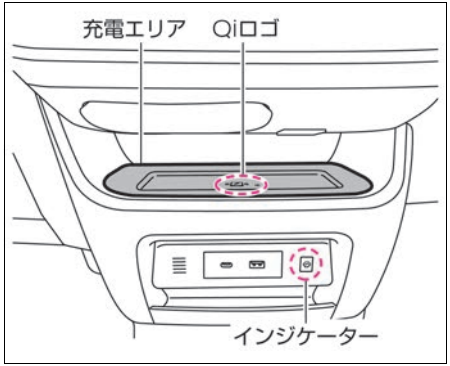
- **充電エリアに水や飲物などの液体をこぼさないように注意する。**
  故障、火災または感電のおそれがあります。

⚠ 注意

- **充電エリアにほこりや汚れが付着した状態で使用しない。**
- **充電エリアの表面を叩かない。**
- **充電エリアの清掃にはグリース、オイル、アルコールを使用しない。**

アドバイス

- トレイに置くことができないサイズのスマートフォンは、充電することはできません。
- 132×65mm以下のサイズのスマートフォンは、充電できない場合があります。
- 12Vバッテリーあがりを防止するため、走行可能表示灯が点灯しているときに使用してください。
- 充電エリアとスマートフォンの間に磁気カード、および充電エリアの近くにクレジットカード・ETCカードや磁気記録メディアなどを置かないでください。データが破損する可能性があります。
- スマートフォンのケースやアクセサリーによっては充電に影響をおよぼす可能性があるため、充電を行う前に取り外してください。
- 充電する前にスマートフォンのバイブレーション機能をOFFにしてください。
- アプリ起動中、またはアプリ使用直後に充電を行うとスマートフォンやワイヤレス充電器の温度が上がり、スマートフォンやワイヤレス充電器の保護機能により充電が停止する場合がありますが、故障ではありません。スマートフォンやワイヤレス充電器が冷えてから充電を再開してください。
- Qi対応スマートフォンを置かなければ充電は開始しませんので、トレイを小物置きとしてご使用できます。
- 走行時の振動や急旋回などにより、スマートフォンが充電エリアからずれた場合は、Qiロゴの上に置き直してください。



- ワイヤレス充電器はインストルメントパネルにあります。
- スマートフォンを充電エリア内に置くと充電が始まります。
  （インジケーターがオレンジ色に点灯）
- スマートフォンを置くときは、スマートフォンの受電部分がQiロゴの上にくるように置いてください。
- 充電が完了するとインジケーターが緑色に点灯します。（すべての機種について作動の保証はいたしません）
- 誤作動が発生したり、充電が停止したりすると、インジケーターがオレンジ色で8秒間点滅後消灯します。
- 充電位置はスマートフォンによって異なる場合があります。
- 充電中に電波障害が発生した場合は充電が停止します。充電が停止したときは、スマートフォンの受電部分がQiロゴの上にくるように置き直してください。

- インテリジェントキーと車両が通信をしているときは充電を停止することがあります。
- スマートフォンにUSBケーブルが接続されていると、インジケーターがオレンジ色に点灯、または点滅する場合がありますが、充電は開始されません。
- スマートフォンの種類によっては、充電が完了してもインジケーターがオレンジ色に点灯したままになる場合があります。
- スマートフォンの機種によっては、うまく動作しない場合があります。スマートフォンに付属の取扱説明書をお読みください。
- 金属物やキー（インテリジェントキー/リモートコントロールエントリーシステム）だけをトレイに置いたとき、数秒間インジケーターが点滅することがありますが、充電は開始しておりません。

ロールサンシェード★

セカンドシートの左右にあります。

ロールサンシェードの使いかた

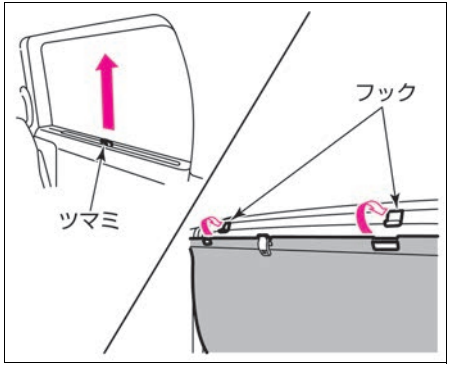
⚠ 注意

- **ロールサンシェードを使用しているときは、窓ガラスを開けた状態で走行しない。**

  風にあおられてロールサンシェードがフックから外れてケガをしたり、シェード部分にしわができたりするおそれがあります。

アドバイス

- ロールサンシェードを上方向以外に引っ張らないでください。破損の原因になります。
- ロールサンシェードを格納するときは、傾けた状態で格納しないでください。しわになる場合があります。
- スライドドアの開閉時はロールサンシェードを操作しないでください。ロールサンシェードが破損するおそれがあります。



- ツマミを持って上方向に引き出し、フックに引っ掛けます。
- 格納するときは、フックから外して元の位置に格納します。

パーソナルテーブル★

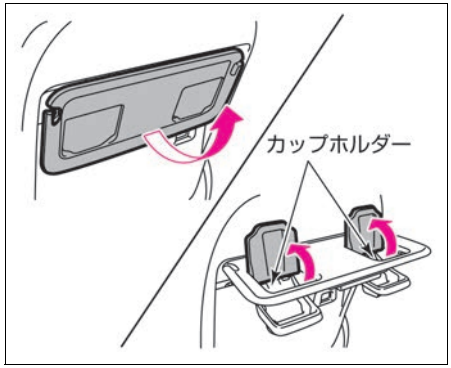
フロントシート、セカンドシート左右の背もたれの裏側に折りたたみ式テーブルがあります。

⚠ 注意

- **走行中はテーブルを格納し、使用しない。**
- **テーブルを使うときは、確実に固定されていることを確認する。**
- **パーソナルテーブルとコンビニフックを同時に使用するときは、合計が3kgを超えないようにする。**

  破損、またはテーブルが格納することで物が落ち、思わぬケガをするおそれがあります。

パーソナルテーブル（セカンドシート用）の使いかた



- 手前に引き上げて使用します。
- カップホルダーはふたを開けて使用します。
- 格納するときは、テーブル先端の中央部を持ち、押し下げます。

パーソナルテーブル（サードシート用）の使いかた

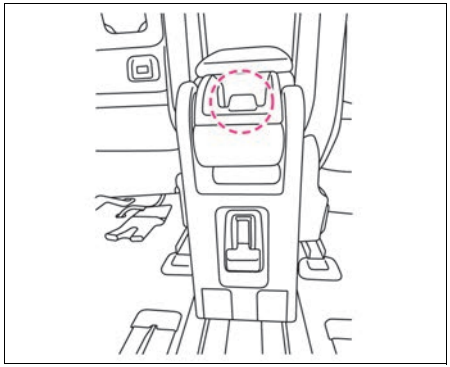
- 手前に引き上げて使用します。
- 格納するときは、テーブル先端の中央部を持ち、押し下げます。

コンビニフック

コンビニフックの使いかた

- 買い物袋などを引っ掛けるときに使います。
- コンビニフックは、次の場所にあります。
  - スマートマルチセンターシート部★
  - パーソナルテーブル部★
  - フロントシートバック部★

■ スマートマルチセンターシート部



- 背もたれを前に倒しているときのみ使用できます。

■ パーソナルテーブル部

⚠ 注意

- **パーソナルテーブルとコンビニフックを同時に使用するときは、合計が3kgを超えないようにする。**

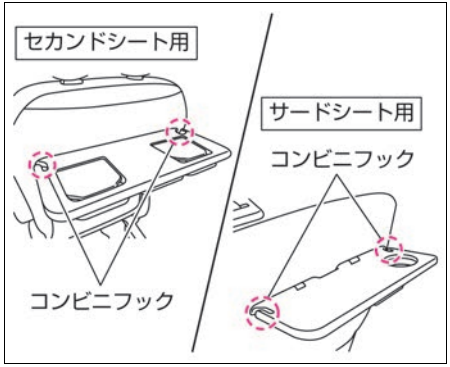
  破損、またはテーブルが格納することで物が落ち、思わぬケガをするおそれがあります。

アドバイス

- コンビニフックに1kg以上の物を掛けないでください。パーソナルテーブルが変形したり、破損したりするおそれがあります。
- コンビニフックを使用中は、パーソナルテーブルを格納しないでください。コンビニフックが破損するおそれがあります。

➔ パーソナルテーブル（セカンドシート用）の使いかた（P.386）

- 車室内が高温になる環境下で、コンビニフックに物を掛けたまま放置しないでください。パーソナルテーブルが変形または破損するおそれがあります。



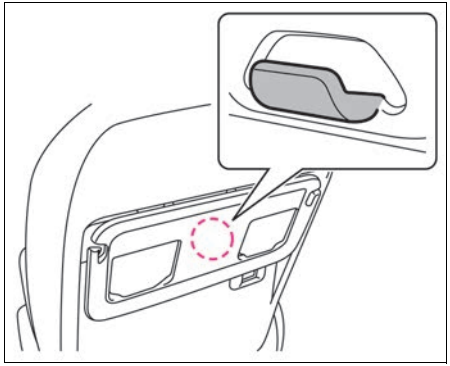
■ フロントシートバック部

⚠ 注意

- **走行中はパーソナルテーブルを格納し、使用しないでください。**

アドバイス

- フックには大きな力がかからないようにしてください。破損するおそれがあります。
- 3kg以上の物を掛けないでください。フックが破損するおそれがあります。



- パーソナルテーブルを手前に引き上げて使用します。

フロアカーペット

この車（年式）専用のフロアカーペットが設定されています。

固定のしかた

警告

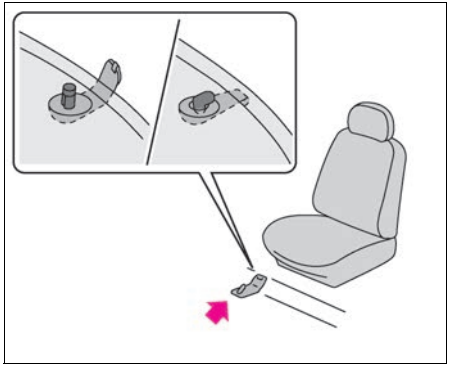
- **この車（年式）専用のフロアカーペットを、床の上にしっかりと固定して正しく使用する。**

フロアカーペットがずれて各ペダルと干渉し、思わぬスピードが出たりブレーキが効きづらくなったりするなど、重大な傷害につながるおそれがあります。

- **運転席にフロアカーペットを敷くときは、次のことを守る。**
  - 日産純正品であっても、他車種および異なる年式のフロアカーペットは使用しない。
  - フロアカーペットでペダルを覆わない。
  - フロアカーペットを重ねて敷かない。
  - 運転席専用のフロアカーペットを使用する。
  - フロアカーペットを前後さかさまにしたり、裏返しにしたりして使用しない。
- **運転する前にフロアカーペットが正しく固定されていることを定期的に確認し、洗車後は必ず確認する。**
- **運転に支障がないことを確認する。**

  運転する前、<パワースイッチ>がOFFの状態で各ペダルをいっぱいに踏み込み、フロアカーペットと干渉しないことを確認してください。
- **タバコの火種をフロアカーペットなどに落とさない。**

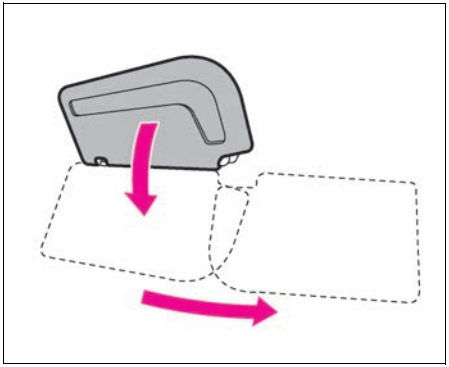
  火災につながるおそれがあります。



- 床面には日産純正フロアカーペット用の固定クリップが付いています。
- フロアカーペットを床の形状に合わせて敷き、取り付け穴に固定クリップのピンを通して確実に固定します。
- 車種により、固定クリップ・ピンの形状や、各シートごとに設定されている数量は異なります。詳しい固定方法は、日産販売会社にお問い合わせください。

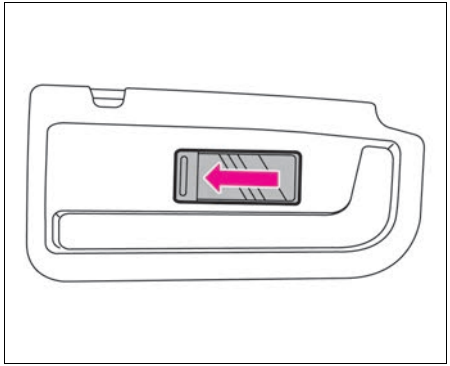
サンバイザー／バニティミラー

サンバイザー



- 前方からの日差しを防ぐときは、下に下げて使います。
- 横からの日差しを防ぐときは、下に下げてフックから外し、横にして使います。

バニティミラーの使いかた



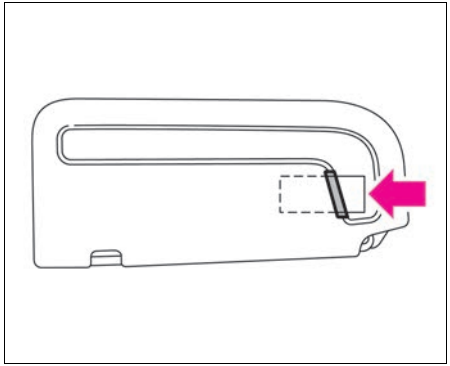
- サンバイザー裏側にバニティミラー（鏡）が付いています。
- サンバイザーを下に下げて、カバーを横にスライドさせて使います。

チケットホルダー

チケットホルダーの使いかた

アドバイス

- 炎天下での駐車は車室内が大変高温になりますので、カードを入れたままにしないでください。カードが変形するおそれがあります。
- 厚さ1mm以上のカードを無理に入れないでください。カードが変形、破損またはサンバイザーに傷がつくおそれがあります。



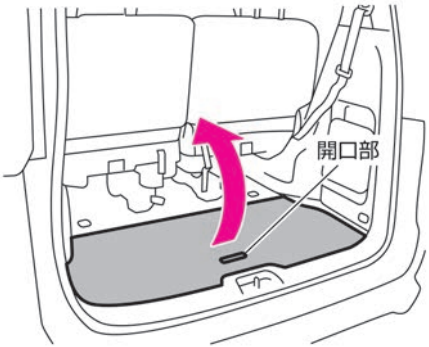
- 挟み込んで使います。
- パーキングチケットなど約1mm以下のカードを3枚程度入れることができます。

ラゲッジアンダーボックス

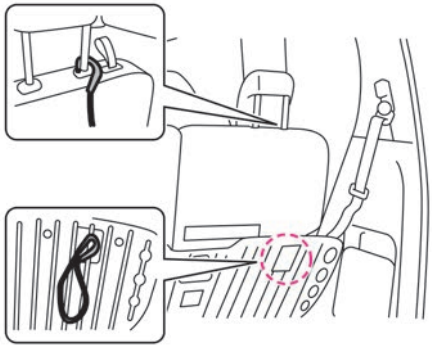
収納スペースとしてお使いください。

ラゲッジアンダーボックスの使いかた

1. バックドアを開けます。
   ➔ バックドアの開けかた (P.146)



2. 開口部に手を入れて、ラゲッジボードを持ち上げます。



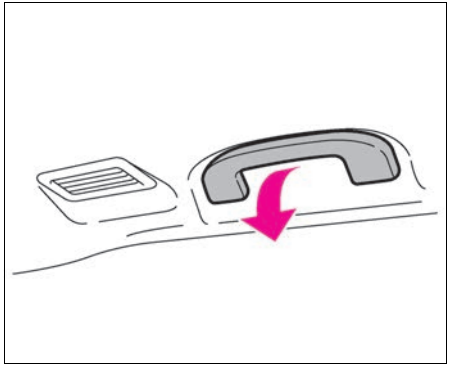
3. ラゲッジボード裏側にあるフックをサードシートのヘッドレストステーに引っ掛け、ラゲッジボードを固定します。

知識

- ラゲッジボードを開けたままサードシートを移動させたり、走行したりしないでください。荷物やラゲッジボードを損傷させるおそれがあります。
- サードシートの位置によっては、ラゲッジボード裏側にあるフックがサードシートのヘッドレストステーに引っ掛けにくいときがあります。

アシストグリップ

アシストグリップの使いかた



- アシストグリップは、フロントシート左右、セカンドシート左右およびサードシート左右にあります。

注意

- **アシストグリップに手をかけて乗り降りしない。**

  アシストグリップは、走行中などシートに座った状態で身体を支えるために使用してください。乗降用ではないため、手をかけて乗り降りしないでください。万一、アシストグリップが外れた場合は、思わぬケガをするおそれがあります。

ラゲッジフック

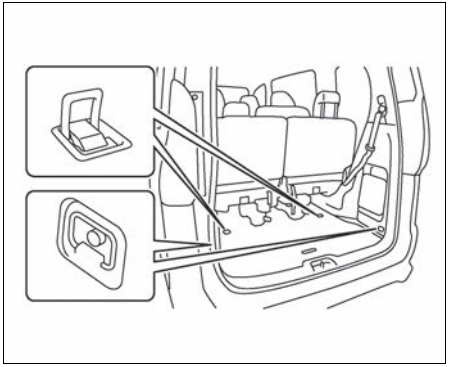
荷物の固定用としてロープなどを掛けるときに使います。

ラゲッジフックの使いかた

■ ラゲッジフロア（4箇所）

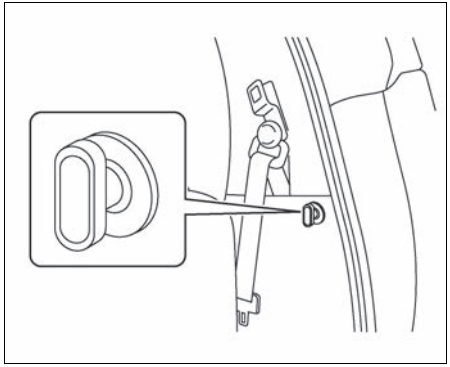
アドバイス

- フックには大きな力がかからないようにしてください。フックが破損するおそれがあります。
- フックに30kg以上の物を掛けないでください。フックが破損するおそれがあります。



● 使わないときは、格納しておきます。

■ ラゲッジルームピラー部（2箇所）



● ラゲッジルームの左右に1箇所ずつあります。

アドバイス

- フックには大きな力がかからないようにしてください。フックが破損するおそれがあります。
- フックに3kg以上の物を掛けないでください。フックが破損するおそれがあります。

MEMO

トラブルがおきたときは

まずはじめに

故障したときは	P.394
発炎筒	P.395
けん引について	P.396

緊急時の対処法

パンクしたときは	P.398
ドアが開かないときは	P.402
e-POWERシステムを始動できないときは	P.403
12Vバッテリーがあがったときは	P.403
出力制限表示灯が点灯したときは	P.407
警告灯がついたときは	P.409
警告メッセージが表示されたときは	P.418
ブザー（警報音）が鳴ったときは	P.451
窓ガラスがくもったときは	P.452
オーバーヒートしたときは	P.452
雪道やぬかるみにはまったときは	P.454
水没したときは	P.454
外装ランプが点灯しないときは	P.455
ヒューズが切れたときは	P.455

故障したときは

車両が故障したときは、次の手順で対処してください。

故障したときの対処のしかた

警告

- **発炎筒はトンネル内では使用しない。**

  煙で視界が悪くなり、他車の走行の妨げとなり、事故につながるおそれがあります。非常点滅表示灯を使ってください。

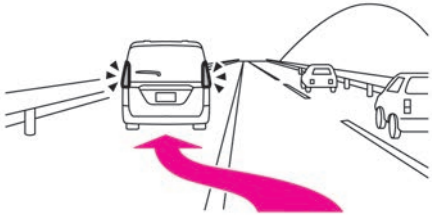
注意

- **走行中にメーター内の走行可能表示灯が消灯したときは、慎重に運転する。**

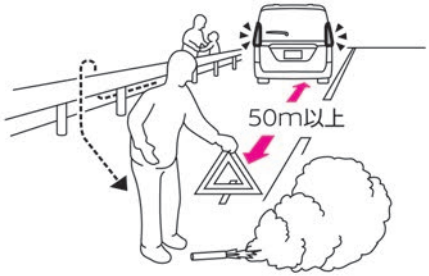
  故障により走行可能表示灯が消灯すると、ブレーキやパワーステアリングが正しく機能せず、極度にブレーキの効きが悪くなったり、ハンドルの操作力が重くなったりすることがあります。すみやかに安全な場所に停車してください。

アドバイス

- 高速道路や自動車専用道路では、停止表示板（停止表示灯）の表示が法律で義務付けられています。
- 高速道路上では1kmごとに非常電話が設置されています。



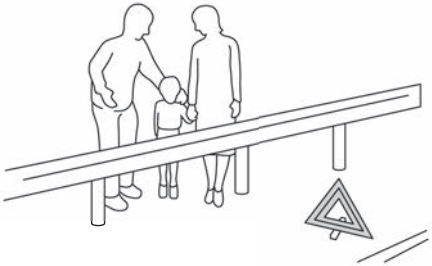
1. 非常点滅表示灯で後続車に危険を知らせながら、できるだけ路肩に寄せて停車します。
   路肩がない場所では、可能な限り広いところまで自走します。



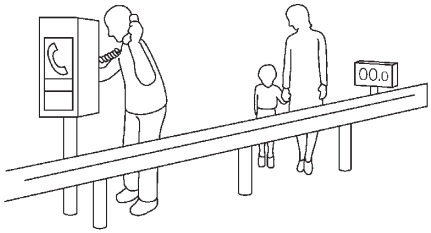
2. 同乗者をガードレールの外側などに避難させ、車両の50m以上後方に発炎筒と停止表示板（停止表示灯）を置きます。

➔ 発炎筒（P.395）

避難するときは、停止車両への追突事故が発生したときに巻き込まれないよう注意してください。



3. 運転者もガードレールの外側などに避難します。



4. 非常電話や携帯電話などで救援依頼をします。

発炎筒

高速道路や踏み切りなどで故障・事故により緊急停車したとき、周囲に危険を知らせるために使います。
発炎時間は約5分です。非常点滅表示灯と併用してください。

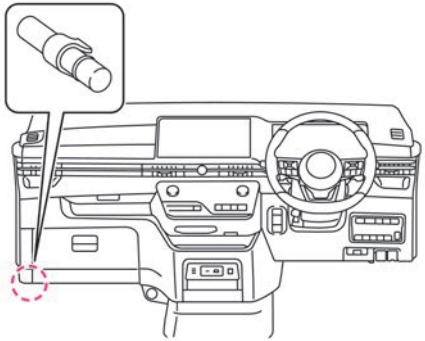
発炎筒の使いかた

⚠ 警告

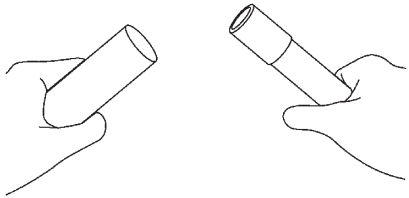
- **お子さまには触らせない。**
  いたずらなどで発火するおそれがあり危険です。
- **可燃物の近くで使用しない。**
  引火するおそれがあります。
- **点火は必ず車外で行い、点火後は顔や身体に近づけない。**
  やけどをするおそれがあります。

アドバイス

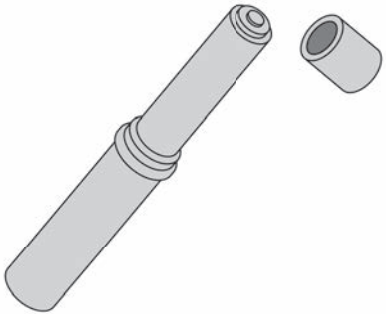
- 発炎筒に記載してある使用方法、注意をあらかじめ確認しておいてください。
- 発炎筒には有効期限があります。期限が切れる前に日産販売会社でお買い求めください。



1. 助手席足元部のホルダーから発炎筒を外します。



2. 本体を回しながらケースから引き抜き、本体を逆さにして差し込みます。



3. 先端のふたを取り、ケースのすり薬で発炎筒の先端をこすって着火します。

けん引について

けん引が必要なときは、日産販売会社またはJAFなどのロードサービスに依頼してください。

やむをえずけん引されるときは、できる限り短距離の移動のみとしてください。

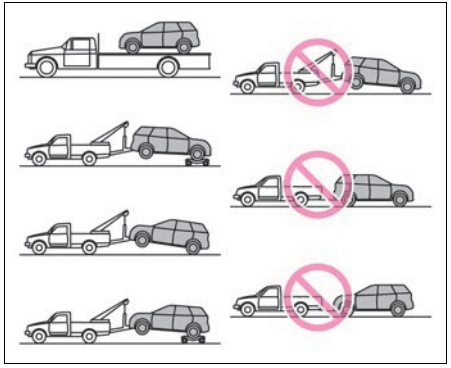
この車両で他車をけん引することはできません。

けん引時の注意事項

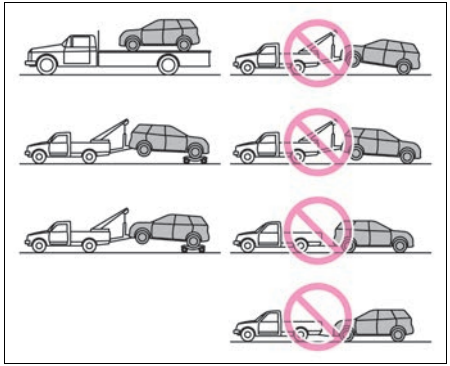
⚠ 注意

- **前輪を持ち上げてけん引するときは、＜パワースイッチ＞をOFFにする。**

  VDCが作動し、ブレーキがかかることがあります。



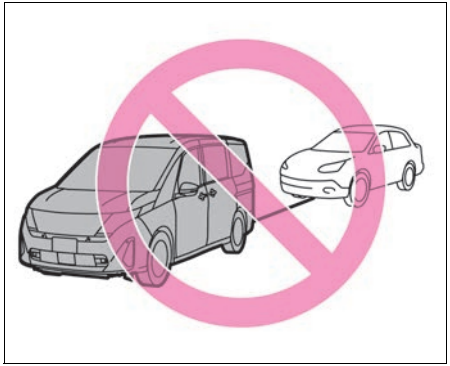
2WD 車

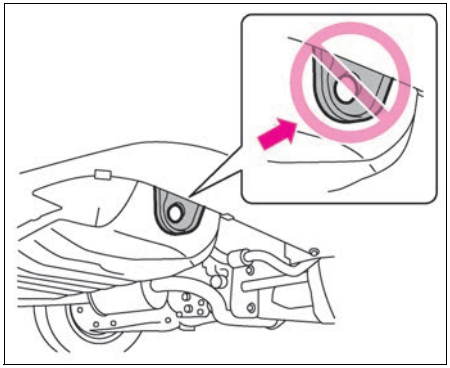


e-4ORCE（4WD）車

- 車両が動かなかったり、異常な音がしたりするときは、けん引せずに日産販売会社へご連絡ください。
- 車両を運搬するときは、2WD車は前輪または4輪を、e-4ORCE（4WD）車は4輪を持ち上げてけん引してください。
- けん引中は、e-Pedal StepをOFFしてください。
- けん引フックは他車をけん引するために使用しないでください。

リヤフックについて





- 後ろ側についているフック（リヤフック）は船舶輸送時の固定専用です。
  けん引やトレーラー輸送時などの固定には絶対使用しないでください。
- リヤフックにグロメットが付いている場合は、取り外さないでください。

アドバイス

- けん引用として使うと、車両を損傷するおそれがあります。

やむをえず 4 輪接地でけん引されるときは

警告

- **4輪接地でけん引されるときは、＜パワースイッチ＞ をOFFにしない。**

  この車両はオートP機能（➔ P.192）により、＜パワースイッチ＞がOFFのときはシフトポジションをPからNに切り替えることができません。また、けん引中は＜パワースイッチ＞をOFFにしないでください。ハンドル操作ができなくなり危険です。

注意

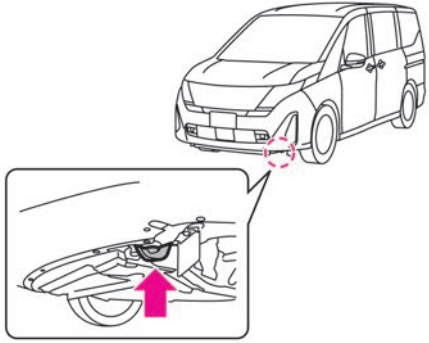
- **e-POWERシステムが停止していると、ブレーキやパワーステアリングの倍力装置が働かなくなるため、極度にブレーキの効きが悪くなったり、ハンドル操作力が重くなったりすることがあるので注意する。**
- **長い下り坂ではけん引しない。**

  ブレーキが過熱して効かなくなり、事故につながるおそれがあります。このような場所でけん引するときは、レッカー車で引いてもらってください。

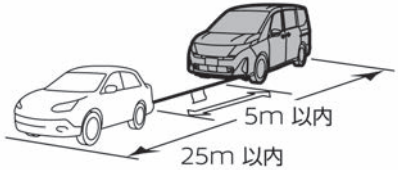
アドバイス

- けん引中はロープをたるませないように、前の車の制動灯に注意してください。

- やむをえず4輪接地の状態でけん引されるときは、シフトポジションをNに入れて行ってください。
- 4輪接地でけん引してもらうときは、速度30km/h以下でできる限り短距離の移動のみとしてください。
- けん引ロープはできるだけソフトロープを使い、バンパーに傷をつけないように注意してください。



1. 自車および他車のけん引フックにロープを掛けます。



2. ロープ中央に30cm×30cm 以上の白い布を取り付けます。
   ロープを掛けるときは、できるだけ同じ側で水平になるように掛けてください。
3. e-POWERシステムを始動しシフトポジションをNにして、パーキングブレーキを解除します。
4. e-POWERシステムが始動できないときは＜パワースイッチ＞をONにし、シフトポジションをNにしてください。

パンクしたときは

この車両には、スペアタイヤおよびジャッキが標準で搭載されていません。

タイヤがパンクしたときは、タイヤ応急修理キットで応急修理ができます。

応急修理する前に

アドバイス

- タイヤに釘やネジが刺さっている場合は、抜いてしまうとパンク穴が大きくなり空気が漏れやすくなるため、抜かずにタイヤ応急修理キットで応急修理してください。

- タイヤ応急修理キットの修理剤を使用したタイヤは、新しいタイヤに交換されることをおすすめします。タイヤの交換については日産販売会社または専門の修理業者と相談し、損傷が激しい場合は交換、修理可能と判断された場合は修理を実施してください。
- ホイールは付着した修理剤をふき取れば再使用できますが、タイヤのバルブは新しいものと取り替えてください。
- 修理剤とホースは再使用できません。使用後は新しい修理剤とホースをお求めください。詳しくは日産販売会社にご相談ください。

応急修理を行うときは、次の準備をしてください。

- 地面が固く平らな場所に車両を移動する。
- パーキングブレーキをかける。
- シフトポジションをPにする。
- <パワースイッチ>をOFFにする。
- 非常点滅表示灯を点滅させる。
- 次の場合はタイヤ応急修理キットでは応急修理ができません。日産販売会社またはJAFなどにご連絡ください。
  - 約4mm以上の切り傷や刺し傷があるとき
  - タイヤサイド部が損傷を受けたとき
  - ほとんど空気の抜けた状態で走行したとき
  - タイヤがホイールから外れているとき
  - ホイールが破損しているとき
  - タイヤが2本以上パンクしているとき
  - 修理剤の有効期限が切れているとき

タイヤ応急修理キットについて

※：車種により、タイヤ応急修理キットの内容や部品形状が異なります。

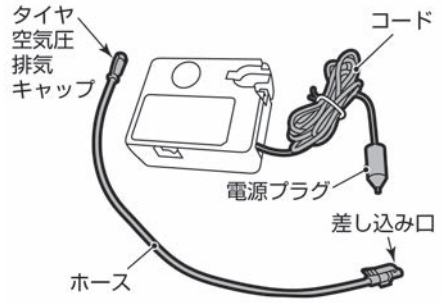
- タイヤトレッド部（接地面）の軽度なパンクは、タイヤ応急修理キットで応急修理できます。
- タイヤ応急修理キットは、サードシート運転席側のカップホルダー下部に格納されています。

➔ 工具、ジャッキ、タイヤ応急修理キットの格納場所（P.459）

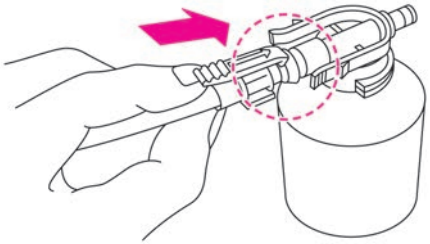
● 応急修理を目的としているため、修理後に長期間の走行はできません。修理後はすみやかに日産販売会社または専門の修理業者で点検、恒久修理またはタイヤ交換を行ってください。

応急修理のしかた

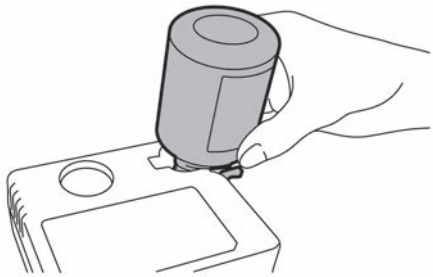
■ コンプレッサーの準備



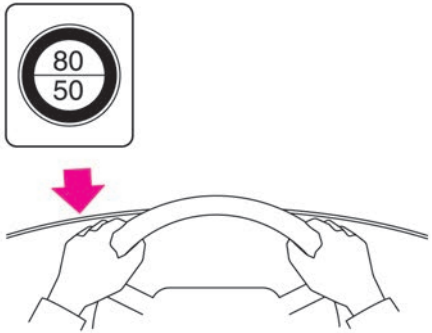
1. コンプレッサーからホース、電源プラグを取り出します。
（ホースはコンプレッサーの裏側に収納されています）



2. ホースの差し込み口を、修理剤ボトルにしっかりと接続します。



3. コンプレッサーに修理剤ボトルを固定します。

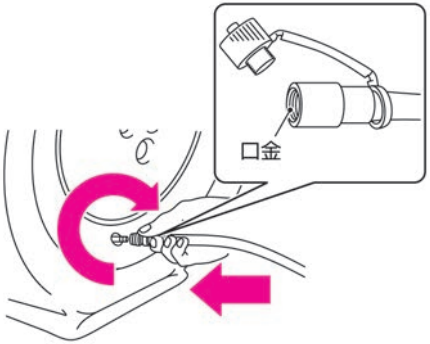


4. 修理剤ボトルの速度制限シールをはがし、運転者のよく見えるところに貼ります。

⚠ 注意

● **ハンドルのセンターパッド部には速度制限シールを貼らない。**
SRSエアバッグが正常に作動しなくなり、重大な傷害につながるおそれがあります。また、警告灯やスピードメーターが見えなくなる位置にも貼らないでください。

■ エアの注入



1. ホースにあるタイヤ空気圧排気キャップを取り外します。
パンクしたタイヤのバルブからキャップを外し、ホースの口金をパンクしたタイヤのバルブにしっかりとねじ込みます。

⚠ 注意

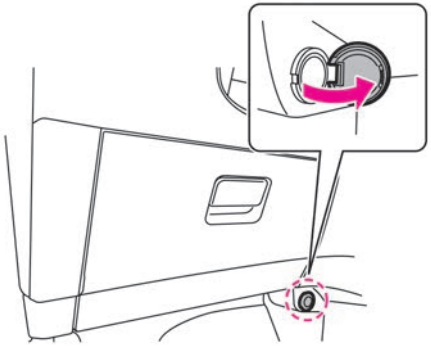
- **ホースとタイヤのバルブの接続をしっかりと行う。**
  接続が不十分な場合、空気が漏れたり、修理剤が飛び散ったりするおそれがあります。
- **破裂の危険があるので応急修理キット作動中は補修中のタイヤから離れる。**
- **タイヤに亀裂や変形が生じている場合、ただちにコンプレッサーのスイッチをOFF（「○」の位置）にし、修理を中止する。**

バルブを介して修理剤を注入するため、圧力が600kPaに達することがありますが、異常ではありません。通常は、30秒ほどで下がります。

- **空気を入れたあとは、ホースの口金が熱くなることがあるため、やけどしないように注意する。**

アドバイス

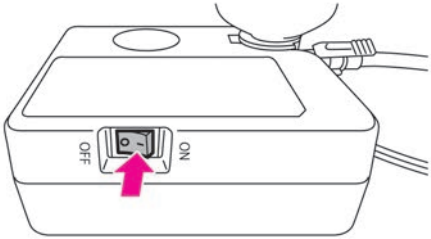
- コンプレッサーは長時間使用すると故障につながるおそれがあるため、15分以上連続して作動させないでください。タイヤ空気圧を昇圧できない場合は修理できません。



2. コンプレッサーのスイッチがOFF（「○」の位置）であることを確認し、電源プラグを車室内の電源ソケットに差し込みます。

➔ 電源ソケットの使いかた (P.378)

3. ＜パワースイッチ＞をONにします。

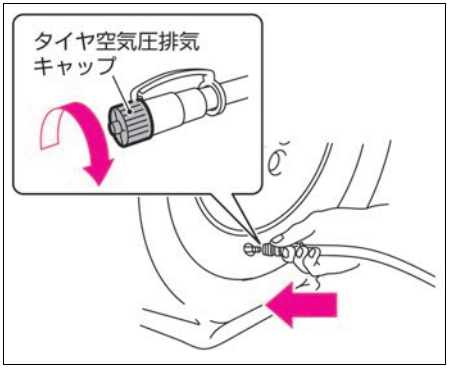


4. コンプレッサーのスイッチをON（「｜」の位置）にし、タイヤを指定空気圧まで昇圧させます。この際、実際の空気圧が測れるようにコンプレッサーを一時停止して空気圧計で測定してください。
※タイヤの指定空気圧は、運転席ドア開口部に表示されています。
5. 指定空気圧まで昇圧できたら、コンプレッサーのスイッチをOFF（「○」の位置）にし、電源プラグを電源ソケットから抜きます。
6. ホースをタイヤのバルブからすばやく取り外し、タイヤのバルブにキャップを取り付けます。
取り外したホースにタイヤ空気圧排気キャップを取り付けます。

10分以内に180kPaまで昇圧できない場合

10分以内に180kPaまで昇圧できない場合は、タイヤがひどい損傷を受けているおそれがあります。この場合は、本修理キットで応急修理をすることはできません。日産販売会社またはJAFなどにご連絡ください。

空気を入れすぎてしまったとき



ホースをタイヤのバルブから外します。ホース先端にタイヤ空気圧排気キャップをねじ込み、タイヤ空気圧排気キャップの突起部をタイヤバルブに押しあてて、空気を抜いてください。

■ **点検走行**

⚠ 注意

- **走行するときは、低速で慎重に運転し、特にカーブや旋回時には注意する。**

アドバイス

- 応急修理後の恒久修理の際、パンク穴を発見できないために恒久修理できないことがあります。そのまま走行を続ける場合は、こまめに空気圧をチェックしてください。頻繁に空気圧の低下がみられるときは、日産販売会社または修理会社で点検を受けてください。
- 修理剤は再使用できません。使用後は新しい修理剤をお求めください。詳しくは日産販売会社にご相談ください。

1. ただちに走行を始め、3km程度走行してください。80km/h以下の速度で注意深く運転してください。
2. 走行後、再度タイヤ空気圧を測定します。コンプレッサーのスイッチがOFF（「○」の位置）であることを確認し、空気圧計で測定してください。

130kPa未満の場合

本修理キットによる応急修理はできません。運転を中止して日産販売会社またはJAFなどのロードサービスにご連絡ください。

130kPa以上指定空気圧未満の場合

コンプレッサーのスイッチをON（「｜」の位置）にして指定空気圧まで昇圧し、点検走行の作業を行います。上記作業を繰り返しても指定空気圧より低下する場合は、本修理キットによる応急修理はできません。運転を中止して日産販売会社またはJAFなどのロードサービスにご連絡ください。

JAFの営業所一覧…別冊のメンテナンスノートをお読みください。

指定空気圧の場合

応急修理は完了です。すみやかに日産販売会社または専門の修理業者まで慎重に運転してください。

タイヤ応急修理キットの注意事項

⚠ 注意

タイヤ応急修理キットについて

- **タイヤ応急修理キットは搭載車両専用のため、他の車には使用しない。**
- **タイヤ応急修理キットは自動車用タイヤの空気充てんや空気圧チェック以外で使用しない。**
- **タイヤ応急修理キットはDC12V専用のため、他の電源での使用はしない。**
- **分解、改造などは絶対にしない。**
- **コンプレッサーに衝撃を与えない。**
  故障の原因となります。
- **お子さまが誤って手を触れないように注意する。**

修理剤について

- **修理剤を口に入れない。**

⚠ 注意

修理剤を飲み込むと健康に害があります。万一誤って飲んだ場合は、できるだけたくさんの水を飲み、ただちに医師の診療を受けてください。

- **万一、目や皮膚に付着したときは、水でよく洗い流す。**

  それでも異常を感じたときは、医師の診療を受けてください。

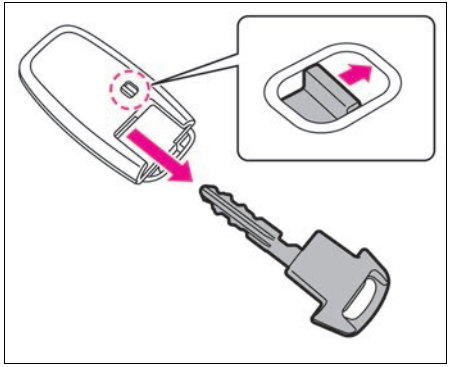
アドバイス

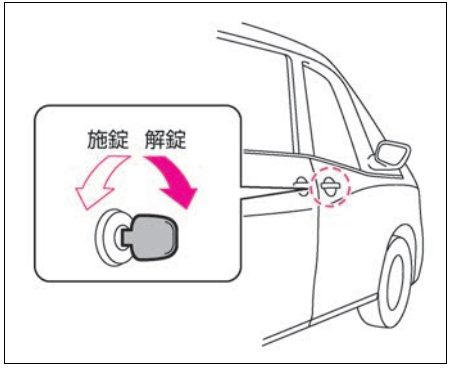
- タイヤ応急修理キットは、必ず日産純正品を使用してください。
- 水やほこりを避けて使用してください。

ドアが開かないときは

インテリジェントキーの電池が切れたときや、12Vバッテリーがあがったときなどドアが開かないときは、次の方法で施錠・解錠してください。

内蔵キー（メカニカルキー）でのドアの開けかた





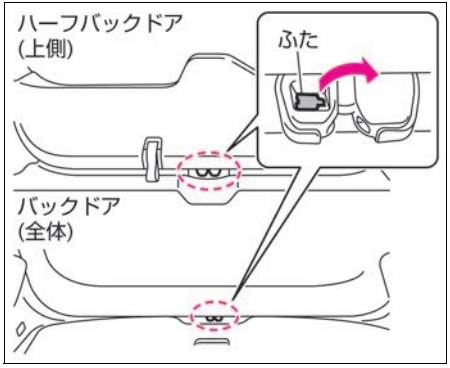
運転席ドアにある鍵穴に内蔵キーを差し込んで車両前方に内蔵キーを回すと解錠します。施錠するときは、車両後方に内蔵キーを回します。

緊急時のバックドアの開けかた

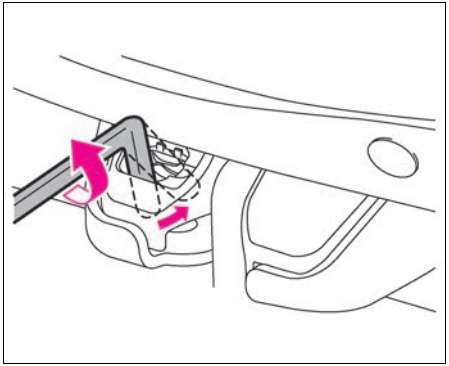
アドバイス

- 次の手順は、あくまで故障時の緊急手段です。故障の原因になるため、正常なときは使用しないでください。
- ＜バックドアオープナースイッチ＞などの故障につながるおそれがあるため、操作をしたときは日産販売会社で点検を受けてください。
- 操作後はなるべく早く日産販売会社で点検を受けてください。

12Vバッテリーあがりなどにより、バックドアを開けられなくなったときは、次の操作をしてください。



- バックドア（全体）、ハーフバックドア（上側）の車室内側にあるロック機構のふたを開けます。



●お手持ちの六角レンチを穴に差し込みレバーを矢印の方向に動かして解錠し、バックドアを持ち上げます。

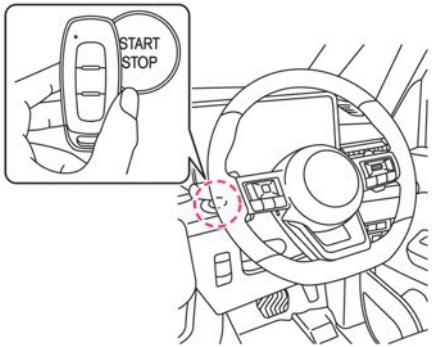
e-POWER システムを始動できないときは

キーの電池が切れたときや、使用環境によりキーと車両の通信が正常に行われていないときは、次の手順でe-POWERシステムを始動してください。

始動のしかた

アドバイス

● 次の手順でe-POWERシステムを始動できない場合は、早めに日産販売会社にご連絡ください。



1. <パワースイッチ>を押してから、キーのロゴの裏面を<パワースイッチ>に接触させます。
（ブザーが"ピピッ"と鳴ります）
2. ブザーが鳴ってから10秒以内に、ブレーキペダルをしっかりと踏みながら、<パワースイッチ>を押します。

● ドアの施錠・解錠は、内蔵キー（メカニカルキー）（➔P.402）をご使用ください。

● キーの電池が切れたときは、早めに電池を交換してください。
➔インテリジェントキーの電池交換(P.470)

停止のしかた

e-POWERシステムを停止するときは、次の操作を行ってください。

● <パワースイッチ>を長押しする。

12V バッテリーがあがったときは

12Vバッテリーがあがり、e-POWERシステムの始動ができなくなったときは救援車を依頼し、ブースターケーブル（別売り）をつないで始動してください。

⚠ 警告

● **ジャンプスタートを行うときは換気を十分に行い、火気は近づけない。**

12Vバッテリーから発生する可燃性ガスに引火して爆発するおそれがあります。

● **バッテリー液が付着したときは、すぐに多量の水で洗浄し、飲み込んだときは多量の水を飲んで応急処置をしたあと、医師の診療を受ける。**

バッテリー液は希硫酸です。目や皮膚に付着すると、失明や炎症など重大な傷害につながるおそれがあります。

● **ブースターケーブルを正しい順番と位置でつなぐ。**

● **ブースターケーブルを自車バッテリーの⊖端子に直接つながない。**

● **ブースターケーブルの⊕端子と⊖端子を接触させない。**

火花が発生し、12Vバッテリーから発生する可燃性ガスに引火して爆発し、やけどなど重大な傷害につながるおそれがあります。

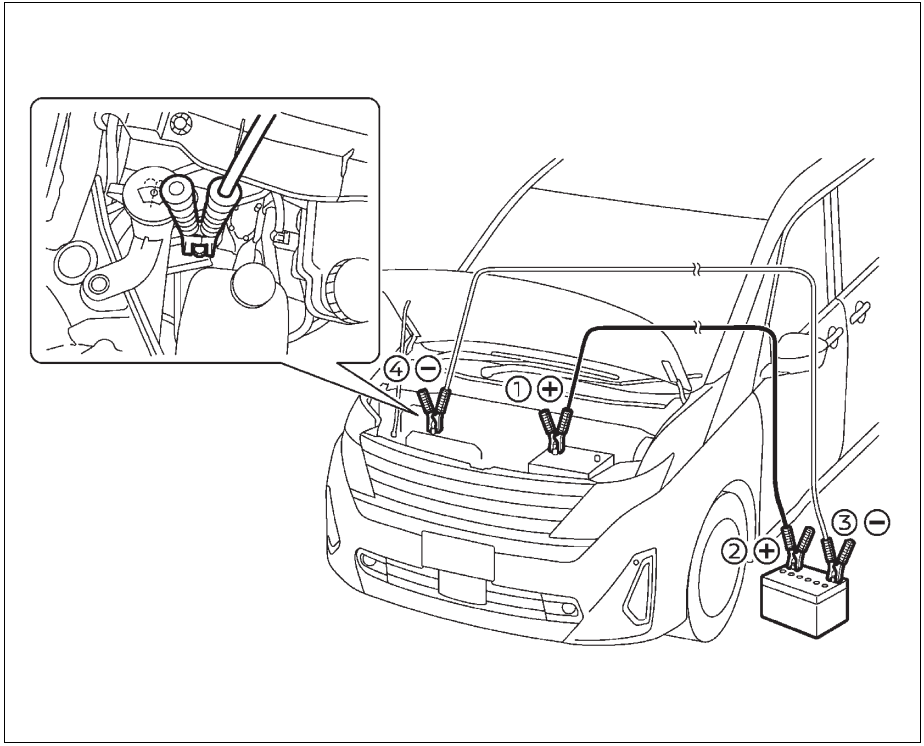
⚠ 警告

- **12Vバッテリーの⊕側ターミナルが周辺の金属と接触しないようにする。**

  接触するとショートして火災の原因となるおそれがあります。また、12Vバッテリーの端子の締め付けが緩いと、配線などが過熱、焼損し、火災につながるおそれがあります。

- **12Vバッテリーを交換するときは、必ず同じサイズ（型式）に交換し、動かないようにしっかりと固定する。**

  しっかり固定できていないと、ショートなどの原因となり火災につながるおそれがあります。詳しくは、日産販売会社にご相談ください。



ジャンプスタートのしかた

⚠ 警告

- **ブースターケーブルのワニグチクリップは、エンジンやモーターに絶対に接続しない。**

⚠ 注意

- **ブースターケーブルのワニグチクリップは、車体に触れたり、他のワニグチクリップと接触したりしないように注意する。**
- **ブースターケーブルは、確実に接続する。**

  エンジン始動時の振動で外れたりしないように確実につないでください。
- **冷却ファンやベルトに注意する。**

  ブースターケーブルをつなぐときや外すときは、冷却ファンやベルトに巻き込まないように注意してください。

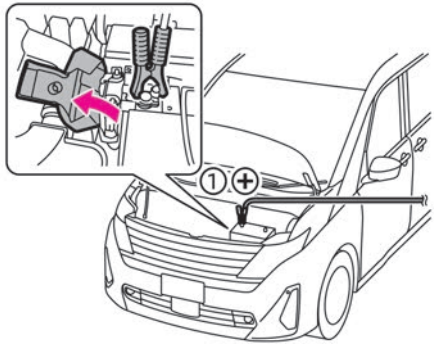
アドバイス

- 押しがけによる始動はできません。
- この車両を救援車として使用しないでください。
- 救援車には12Vバッテリー仕様の車両を使用してください。

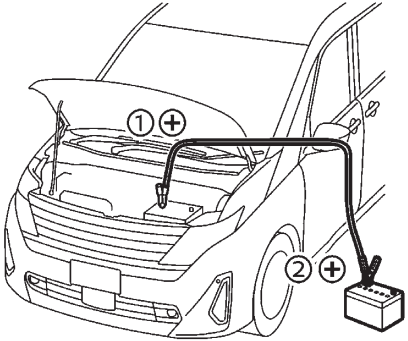
- e-POWERシステムが始動できない場合には、<パワースイッチ>をOFFにしてください。インテリジェントキーを車室内に置いた状態で、一度運転席ドアを開閉したあと、ナビゲーションシステム★、オーディオ★、ドアロックなどすべての操作を行わず、ドアを閉じた状態のまま3分以上待機します。その後、再始動してください。
- 12Vバッテリーがあがると、<パワースイッチ>のON・OFFができなくなります。すみやかに12Vバッテリーを充電してください。
- e-POWERシステムを始動するときは、ヘッドランプやエアコン、およびその他の電装品はOFFにしてください。
- e-POWERシステムが始動しても、しばらくエアコンやオーディオ★ を使用しないでください。

1. 自車と救援車の<パワースイッチ>をOFFにします。

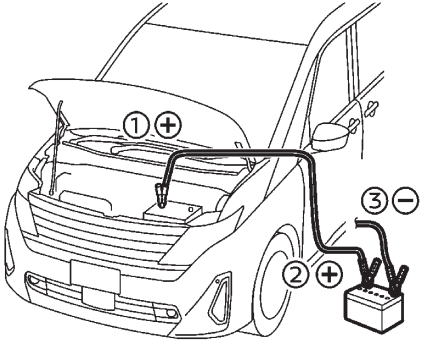
➲ パワースイッチ (P.188)



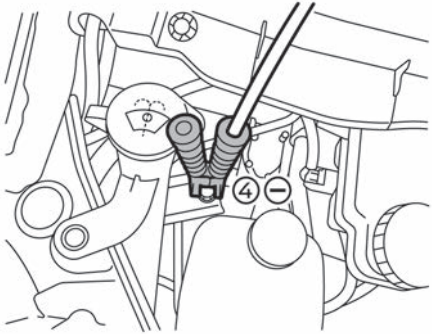
2. ブースターケーブル①を自車の12Vバッテリーの⊕端子に接続します。



3. 手順2のケーブルの反対側②を救援車の12Vバッテリーの⊕端子に接続します。



4. もう1本のブースターケーブル③を救援車の12Vバッテリーの⊖端子に接続します。



5. 手順4で接続したケーブルの反対側をイラストのような自車の車体④に接続します。
6. 救援車のエンジンを始動し、回転数を少し高めにします。
7. 自車のブレーキペダルをしっかりと踏みながら、<パワースイッチ>を一回押します。
8. 走行可能表示灯が点灯したことを確認し、ブースターケーブルをつないだときと逆の手順で外します。

出力制限表示灯が点灯したときは

出力制限表示灯［ ］が点灯したときは、次の対処方法に従ってください。

点灯したときの状況	対処方法	注意事項
走行中に出力制限表示灯［ ］が点灯したとき	**高速道路を走行しているとき** 80km/h以下で走行してください。次のパーキングエリアまたはサービスエリアで車両を止め、出力制限表示灯［ ］が消灯するまで待ちます。 **登坂路を走行しているとき** 安全な場所に停車し、出力制限表示灯［ ］が消灯するまで待ちます。 **一般道を走行しているとき** 安全な場所に停車し、出力制限表示灯［ ］が消灯するまで待ちます。 走行中に再度出力制限表示灯［ ］が点灯する場合は、➔処置のしかた（P.407）の手順に従ってください。	他の警告灯が点灯しているときは、そちらの警告灯に対する処置を優先して行ってください。出力制限表示灯［ ］のみが点灯した場合は、左記の対処方法に従ってください。

処置のしかた

⚠ 警告

- **ボンネットを開けるときは十分に注意する。**

  エンジンルーム内は高温になっているため、やけどなど重大な傷害につながるおそれがあります。

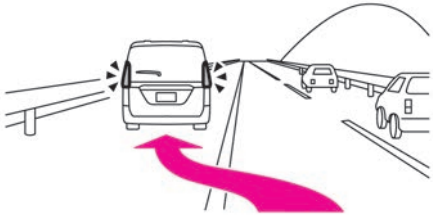
- **蒸気が出ているときは、ボンネットを開けない。**

  やけどなど重大な傷害につながるおそれがあります。

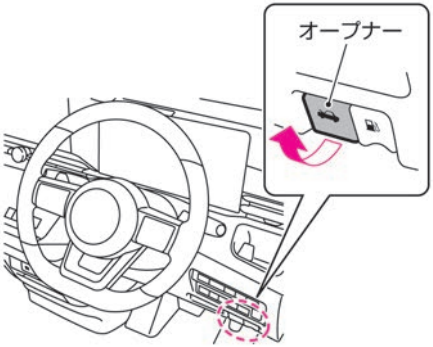
  e-POWERシステムを停止し、蒸気が出なくなるまで待ち、ボンネットを開けてください。

- **オーバーヒートしたときは、ただちに安全な場所に車を停めて処置をする。**

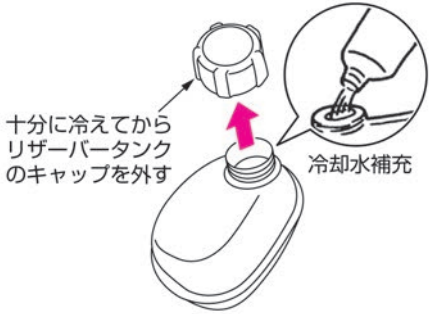
  そのまま走行を続けると、インバーター故障の原因となり、火災につながるおそれがあります。



1. ただちに安全な場所に停車します。
➔ 故障したときの対処のしかた (P.394)



2. e-POWERシステムを作動させたままボンネットを開け、風通しをよくしてエンジンを冷やします。
万一、冷却ファンが回っていないときは、ただちにe-POWERシステムを停止し、自然冷却してください。
3. メーター内の出力制限表示灯［ ］が消えたら、e-POWERシステムを停止させしばらく待ちます。
モーターが十分冷えてから冷却水の量、ホースなどからの水漏れを点検してください。



4. 冷却水が不足しているときは、インバーター冷却用ラジエーターリザーバータンクに冷却水を補充してください。
➔ エンジンルーム内の配置図 (P.463)
補充後は、しっかりキャップを閉めてください。

⚠ 警告

システム保護のため
一時的に出力制限中
安全な場所に車を停め
取扱説明書を見てください

5. 走行中、再度メーター内に出力制限表示灯［ ］、および警告メッセージが表示されたら、手順1～手順4の作業を繰り返し行ってください。
6. 早めに日産販売会社で点検を受けてください。

アドバイス

- 応急的に水だけを補充したときは、早めに日産販売会社で点検を受けてください。

警告灯がついたときは

警告灯は、車両故障などを運転者に知らせるためのものです。警告灯が点灯または点滅したときは、次の「説明・対処方法」に従ってください。警告や表示は、グレード、オプションなどにより異なります。

警告灯	名称	点灯・点滅する条件	説明・対処方法
	油圧警告灯	● 正常なときは、<パワースイッチ>をONにすると点灯し、e-POWERシステムが始動すると消灯します。 ● e-POWERシステムが作動しているとき、エンジン内部を潤滑しているオイルの圧力が低下すると点灯します。	● 点灯したときは、すみやかに安全な場所に停車し、日産販売会社にご連絡ください。 ⚠ 注意 ● **油圧警告灯が点灯したまま走行しない。** エンジンを破損するおそれがあります。
	e-POWERシステム警告灯	● <パワースイッチ>をONにすると点灯し、数秒後に消灯します。 ● <パワースイッチ>がONのとき、モーターや高電圧システムなどに異常が発生すると点灯します。	● 点灯したときは、すみやかに安全な場所に停車し、日産販売会社に連絡してください。 ● 点灯したときは、100V AC電源（1500W）★を使用しないでください。
	12V系充電警告灯	● <パワースイッチ>をONにすると点灯し、数秒後に消灯します。 ● e-POWERシステムが作動しているとき、12Vバッテリーの充電系統に異常があると点灯します。	● 点灯したときは、すみやかに安全な場所に停車し、日産販売会社にご連絡ください。 ⚠ 注意 ● **12V系充電警告灯が点灯したまま走行しない。** 12Vバッテリーが破損したり、エンジンが突然停止したりし、思わぬ事故につながるおそれがあります。

警告灯	名称	点灯・点滅する条件	説明・対処方法
	故障警告灯（MIL）	● 正常なときは、<パワースイッチ>をONにすると点灯し、e-POWERシステムが始動すると消灯します。 ● <パワースイッチ>がONで警告灯が点灯しているときに、システムチェックにより点滅することがありますが異常ではありません。 ● e-POWERシステムが作動しているとき、エンジン電子制御システムに異常があると点灯または点滅します。	● 点灯または点滅したときは、すみやかに安全な場所に停車し、日産販売会社にご連絡ください。
	ABS警告灯	● <パワースイッチ>をONにすると点灯し、数秒後に消灯します。 ● <パワースイッチ>がONのとき、ABSのシステムに異常があると点灯します。	● <パワースイッチ>をONにしても点灯しないとき、または点灯し続けるときは、高速走行や急ブレーキを避け、すみやかに日産販売会社で点検を受けてください。 アドバイス ●ABS警告灯が点灯したときは、ABSは作動しませんが、通常のブレーキ性能は確保されています。この場合、滑りやすい路面でのブレーキ時や急ブレーキ時にタイヤがロックすることがあります。
	電動パーキングブレーキ警告灯	● 正常なときは、<パワースイッチ>がONのとき、電動パーキングブレーキがかかっていると点灯し、電動パーキングブレーキを解除すると消灯します。 ● <パワースイッチ>がONのとき電動パーキングブレーキのシステムに異常があると点滅します。	● <パワースイッチ>がONで警告灯が点滅しているときに、電動パーキングブレーキを解除しても点滅が続くときは、すみやかに車両を安全な場所に停車し、日産販売会社にご連絡ください。

警告灯	名称	点灯・点滅する条件	説明・対処方法
	ブレーキ警告灯（赤色）	● 正常なときは、<パワースイッチ>をONにすると点灯し、数秒後に消灯します。 ● <パワースイッチ>がONのとき、次の場合は点灯し続けます。 — ブレーキ液が不足しているとき — ブレーキシステムに異常があるとき	● 走行中にブレーキ警告灯（赤色）が点灯した場合は、車両を停止し、次の確認を行ってください。 — ブレーキ液の量が規定通りに入っていることを確認してください。ブレーキ液が不足している場合は、ブレーキ液を補充し日産販売会社で点検を受けてください。 — ブレーキ液の量が適正のときは、他に原因があることが考えられますので、日産販売会社で点検を受けてください。 ● ブレーキシステムの電源系統に異常があるときは、ブザーが鳴ります。
	ブレーキシステム警告灯（黄色）	● 正常なときは、<パワースイッチ>をONにすると点灯し、数秒後に消灯します。 ● <パワースイッチ>がONのとき、次の機能に異常があると点灯します。 — 電動パーキングブレーキ — ブレーキシステム — 回生ブレーキ	● 走行中にブレーキシステム警告灯（黄色）が点灯した場合は、日産販売会社で点検を受けてください。

警告灯	名称	点灯・点滅する条件	説明・対処方法
	シートベルト警告灯	● <パワースイッチ>がONのとき、シートベルトが装着されていないと点灯します。 ● シートベルトを着用していない状態で走行すると（約15km/h以上）、警告灯が点滅します。 **シートベルト非着用警報（シートベルトリマインダー）** ● シートベルトを着用していない状態で車速が一定以上になると、ブザーが一定時間鳴ります。	● シートベルトを着用してください。 **警告** ● **走行中は全員がシートベルトを着用する。** 着用しないと、万一の事故時や急ブレーキ時に、死亡や重大な傷害につながるおそれがあります。 **知識** ● 助手席シートに荷物などを置くと、センサーが重量を検知して、警告灯が点灯することがあります。 ● 後席シートベルトの着用状態は、アドバンスドドライブアシストディスプレイにも表示されます。 警告メッセージ（➔P.420）
	SRSエアバッグ警告灯	● <パワースイッチ>をONにすると点灯し、約7秒後に消灯します。 ● <パワースイッチ>がONのとき、SRSエアバッグのシステム、プリテンショナー機能に異常があると、点灯を続けます。	**警告** ● **<パワースイッチ> をONにしても点灯しないとき、または点灯を続けるときは、放置したまま走行しない。** 万一のときSRSエアバッグ、プリテンショナーシートベルトが作動せず、重大な傷害につながるおそれがあります。
	VDC警告灯	● <パワースイッチ>をONにすると点灯し、数秒後に消灯します。 ● <パワースイッチ>がONのとき、VDCが作動すると点滅します。 ● <パワースイッチ>がONのとき、VDCシステムに異常があると点灯します。	● 点灯したときはVDCの作動は停止しますが、VDCシステムのない普通の車として走行できます。滑りやすい路面では注意して走行し、すみやかに日産販売会社で点検を受けてください。 ➔VDC（ビークルダイナミクスコントロール）（P.218）

警告灯	名称	点灯・点滅する条件	説明・対処方法
	EPS（電動パワーステアリング）警告灯	● ＜パワースイッチ＞をONにすると点灯し、e-POWERシステムを始動すると消灯します。 ● e-POWERシステムが作動しているとき、電動パワーステアリングのシステムに異常があると点灯します。	● すみやかに日産販売会社で点検を受けてください。 ● 赤色に点灯しているときは、電動パワーステアリングが作動しません。すみやかに安全な場所に停車し、日産販売会社にご連絡ください。 ● 黄色に点灯しているときは、電動パワーステアリングの倍力装置の能力が低下しており、ハンドル操作が重くなります。ハンドルをしっかりと握り、通常より強く操作してください。 アドバイス ●ハンドルに長時間力をかけた状態が続いたり停車中に操作を繰り返すと、システムの過熱を防ぐためハンドル操作力が重くなりますが、異常ではありません。しばらくハンドル操作を控え、システムの温度が下がると、通常のハンドル操作力に戻ります。 知識 ●すばやいハンドル操作を行うと、ハンドル付近から擦れるような音が聞こえてくることがありますが、異常ではありません。

警告灯	名称	点灯・点滅する条件	説明・対処方法
	燃料残量警告灯	● ＜パワースイッチ＞がONのとき、燃料の残量が少ないと黄色に点灯します。	● すみやかに指定の燃料を補給してください。 アドバイス ● 燃料切れでエンジンが停止したときは、e-POWERシステムの始動操作を繰り返さないでください。リチウムイオンバッテリー保護のため、始動できない場合があります。燃料を補給しても始動できない場合は、日産販売会社にご連絡ください。 ● 燃料の残量が約7ℓ以下で点灯します。なお、走行に使用できる燃料残量は、上記より若干少なくなります。 ● 車両姿勢、走行状況などによっては燃料がタンク内で移動するため、警告灯の点灯するタイミングが変わる場合があります。
	出力制限表示灯	● 正常なときは、＜パワースイッチ＞をONにすると点灯し、数秒後に消灯します。 ● ＜パワースイッチ＞がONのとき、次の場合に点灯します。 — リチウムイオンバッテリーの残量が極端に低下しているとき — 真冬の屋外などで、リチウムイオンバッテリーの温度が極端に低いとき — 上り坂の連続走行などで、走行用モーターやリチウムイオンバッテリーなどの温度が極端に高いとき — 発電出力が制限されているとき	● 点灯中は走行用モーターまたは発電用モーターの出力が制限され、アクセルペダルを踏み込んでも速度が上がりにくくなります。 ● アドバンスドドライブアシストディスプレイに出力制限警告（➔P.427）が表示されます。 ➔出力制限表示灯が点灯したときは（P.407）

警告灯	名称	点灯・点滅する条件	説明・対処方法
	電制シフト警告灯	● <パワースイッチ>をONにすると点灯し、数秒後に消灯します。 ● <パワースイッチ>がONのとき、電制シフトに異常があると点灯します。	● すみやかに日産販売会社で点検を受けてください。 ● 駐車するときはパーキングブレーキを確実にかけてください。 ● アドバンスドドライブアシストディスプレイにメッセージが表示されたときは、表示されたメッセージに従ってください。
OFF	インテリジェント エマージェンシーブレーキ警告灯	● <パワースイッチ>をONにすると点灯し、走行可能表示灯が点灯すると消灯します。 ● 次の場合は点灯します。 — インテリジェント エマージェンシーブレーキの設定をOFFにしているとき — VDCの設定をOFFにしているとき — インテリジェント エマージェンシーブレーキ、衝突回避ステアリングアシスト、インテリジェント FCW（前方衝突予測警報）、駐車支援機能（フロントソナー、コーナーソナー、リヤソナー）に異常が発生しているとき — フロントガラスの汚れなどにより、マルチセンシングフロントカメラの前方視界が遮蔽されていると判断したとき — 前方からの強い光により、マルチセンシングフロントカメラが前方を認識できなくなったとき — 炎天下に駐車したときなど、マルチセンシングフロントカメラが高温になったとき — 悪天候（雨、雪、霧、風塵、砂塵、吹雪など）で視界が悪いとき — フロントガラスの結露やくもりなどにより、マルチセンシングフロントカメラが前方を認識できなくなったとき	● インテリジェント エマージェンシーブレーキの設定をOFFにしていることによって点灯しているときは、ONにすると消灯します。 ● VDCの設定をOFFにしていることによって点灯しているときは、ONにすると消灯します。 ➔ VDCのON・OFFのしかた (P.219) ● 安全な場所に停車し、<パワースイッチ>をOFFにします。インテリジェントキーを車室内に置いた状態で、一度運転席ドアを開閉したあと、ナビゲーションシステム★、オーディオ★、ドアロックなどすべての操作を行わず、ドアを閉じた状態のまま3分以上待機します。 再始動後も警告灯が点灯が表示するときは、システムの異常が考えられます。通常走行に支障はありませんが、日産販売会社で点検を受けてください。 ● フロントガラスが汚れているときは、フロントガラスを清掃し、警告灯が消灯したことを確認してください。

☆／★：車両型式、オプションなどで異なる装備

警告灯	名称	点灯・点滅する条件	説明・対処方法
		● 次の場合にも点灯します。 — 周辺の電波源の影響を受けているとき — センサーの汚れなどで、インテリジェント エマージェンシーブレーキが一時的に作動できない状態になっているとき — 車両前部に取り付けられたレーダーセンサー周辺に雪や氷、泥などが付着しているとき — 道路形状や周辺の建造物により、レーダーセンサーが先行車を正確に検知できないとき（例：長い橋、雪原、長い壁の横など） — 夜間やトンネル内などでヘッドランプを点灯せず、真っ暗な状態が継続したとき — インテリジェント エマージェンシーブレーキのシステムチェックが正常に終了しなかったとき — けん引されているとき	● 車室内の温度が高いときなどは、温度が下がると自動的に作動を復帰します。 各システムについては、インテリジェント エマージェンシーブレーキ（➔P.276）、衝突回避ステアリングアシスト（➔P.282）、インテリジェント FCW（前方衝突予測警報）（➔P.302）をお読みください。
	踏み間違い衝突防止アシスト警告灯	● ＜パワースイッチ＞をONにすると点灯し、走行可能表示灯が点灯すると消灯します。 ● 次の場合は点灯します。 — 踏み間違い衝突防止アシストの設定をOFFにしているとき — VDCの設定をOFFにしているとき — 踏み間違い衝突防止アシストのシステムに異常が発生しているとき ● 次の場合はゆっくり点滅します。 — 踏み間違い衝突防止アシストのシステムが一時的に使用できない場合	● 踏み間違い衝突防止アシストの設定をOFFにしていることによって点灯しているときは、ONにすると消灯します。 ● VDCの設定をOFFにしていることによって点灯しているときは、ONにすると消灯します。 ➔VDCのON・OFFのしかた（P.219） ● 一度＜パワースイッチ＞をOFFにしてから再始動しても警告灯が点灯し続けるときは、システムの異常が考えられます。通常走行には支障はありませんが、日産販売会社で点検を受けてください。 ● システムについては、踏み間違い衝突防止アシスト（➔P.283）をお読みください。

警告灯	名称	点灯・点滅する条件	説明・対処方法
	マスターウォーニング	● メーターに警告メッセージが表示されると同時に点灯します。	● 同時に表示した警告メッセージを確認し、それぞれの対処方法に従ってください。
OFF	車両接近通報システム警告灯	● 車両接近通報装置に異常があると点灯します。	● すみやかに日産販売会社で点検を受けてください。
	手放し警告灯	● プロパイロットで車線維持機能（ハンドル支援）を行っているとき、ハンドルを持っていない、またはハンドル操作が検出されないと点灯します。 ● 手放し警告灯が点灯しているにもかかわらず、運転者のハンドル操作が検出されない場合は、警告音とともに手放し警告灯が点滅し、車線維持機能（ハンドル支援）は解除されます。 ● プロパイロットのシステムに異常があると点灯します。	● すみやかにハンドルを持って操作してください。運転者のハンドル操作を検出すると警告灯は消灯し、車線維持機能（ハンドル支援）が復帰します。 ● e-POWERシステム再始動後も警告灯が点灯し続けるときは、システムの異常が考えられます。通常走行には支障はありませんが、日産販売会社で点検を受けてください。

警告メッセージが表示されたときは

警告メッセージが表示されたときは、次の「説明・対処方法」に従ってください。表示は、グレード、オプションなどにより異なります。

警告メッセージ

画面表示	名称	表示する条件	説明・対処方法
BRAKE START STOP 始動時はブレーキを踏み パワースイッチを押してください	e-POWERシステム始動操作表示	● インテリジェントキーを持って車室内に入ると表示します。	● ブレーキペダルを踏みながら<パワースイッチ>を押すと、走行可能表示灯が点灯し、走行できるようになります。 ● 次の場合、表示が消えます。 — 走行可能表示灯が点灯したとき — リモコン機能、ドアにあるスイッチ、またはバックドアのスイッチでドアを施錠したとき
START STOP インテリジェントキーを パワースイッチに 接触させてください	インテリジェントキー非作動時e-POWERシステム始動表示	● インテリジェントキーの電池が切れたときや、使用環境により、キーと車両の通信が正常に行われないときに表示します。	● ブレーキペダルを踏みながら、キーの裏面を<パワースイッチ>に接触させてください。 ➲ e-POWERシステムを始動できないときは (P.403)
キー電池残量が 低下しています	インテリジェントキー電池切れ表示	● インテリジェントキーの電池切れが近くなると電池の交換を知らせます。	● 新しい電池に交換してください。 ➲ インテリジェントキーの電池交換 (P.470) ● 次の場合、インテリジェントキー電池切れ表示が消えます。 — 表示から約30秒経過したとき — <パワースイッチ>をON以外にしたとき

画面表示	名称	表示する条件	説明・対処方法
エンジンオイル オイル交換まで 232km	オイル交換時期表示	● 車両システムが自動で設定したエンジンオイル交換までの距離が1,500km未満になると、<パワースイッチ>をONにしたときに表示します。	● エンジンオイル交換後は、必ず表示をリセットしてください。リセットするときは、この画面を表示中にステアリングスイッチの<OK>スイッチを1秒以上押します。 アドバイス ●表示されたときは、できるだけ早くエンジンオイルを交換してください。劣化したエンジンオイルのまま走行し続けると、エンジンが破損するおそれがあります。 ●エンジンオイル交換時以外にリセットはしないでください。
エンジンオイル 交換してください		● 車両システムが自動で設定したエンジンオイル交換距離に達すると表示します。	
⚠警告 キーが 見つかりません	インテリジェントキー持ち出し警告	● 次の場合に表示します。 — 走行可能表示灯が点灯している状態で、インテリジェントキーが車外に持ち出されたとき — キーを携帯していないとき — 携帯しているキーの電池が切れているとき — 登録されていないキーを携帯しているとき	● 次のように対処してください。 — キーが車外に持ち出されていないか確認してください。 — キーを携帯してください。 — 新しい電池に交換してください。➔インテリジェントキーの電池交換(P.470) — 自車のキーであることを確認してください。 ● e-POWERシステムを停止させるときは、次の操作を行ってください。 — <パワースイッチ>を2秒以上押し続ける

画面表示	名称	表示する条件	説明・対処方法
	ドア開き警告	● ドアが確実に閉まっていないとき、開いている位置を表示します。	● ドアを確実に閉めてください。 ⚠ 注意 ● **走行前に表示が消えていることを確認する。** ドアが完全に閉まっていない（半ドア）と走行中に突然開き、思わぬ事故につながるおそれがあります。
	後席シートベルト警告	● ＜パワースイッチ＞がONのとき、シートベルトが装着されていない席を赤色で表示します。 ● シートベルトを着用している席は緑色で表示されます。	● シートベルトを着用してください。 ⚠ 警告 ● **走行中は全員がシートベルトを着用する。** 着用しないと、万一の事故時や急ブレーキ時に、死亡や重大な傷害につながるおそれがあります。
⚠警告 キーシステム故障 取扱説明書を見てください	キーシステム警告	● キーシステムに異常があると表示します。	● 日産販売会社にご連絡ください。＜パワースイッチ＞を切り替えられないことがあります。
⚠警告 Pレンジに入れてください	P戻し忘れ警告	● シフトポジションがP以外で運転席ドアが開いていると表示します。	● シフトポジションをPに入れてください。
⚠警告 パーキングブレーキを 解除してください	電動パーキングブレーキ戻し忘れ警告	● 電動パーキングブレーキをかけ、運転席ドアを閉めずにアクセルペダルを踏み、発進すると表示します。 ● 電動パーキングブレーキを解除し忘れたまま走行すると表示します。 ● 走行中、非常事態で電動パーキングブレーキを作動させると表示します。 ➔ 電動パーキングブレーキに関する注意事項 (P.193)	● すみやかに電動パーキングブレーキを解除してください。 ➔ 電動パーキングブレーキ (P.192)

画面表示	名称	表示する条件	説明・対処方法
⚠警告 ブレーキペダルを 踏んでください	電動パーキングブレーキ警告	● 急な坂道などで電動パーキングブレーキがかかった状態で車両が動くと表示し、ブザーが鳴ります。 ● 電動パーキングブレーキがかかった状態で、ブレーキペダルを踏まずに<電動パーキングブレーキスイッチ>を押した場合に表示します。	● すみやかにブレーキペダルを踏んでください。 ● 解除する場合は、ブレーキペダルを踏んでから<電動パーキングブレーキスイッチ>を押してください。 ➔ 電動パーキングブレーキ (P.192)
⚠警告 ブレーキを踏んでください	オートブレーキホールド警告	● オートブレーキホールド機能が作動中に車両が動いたときに表示し、ブザーが鳴ります。	● ブレーキペダルを踏んで車両を停止させてください。
AUTO HOLD 急坂路に停車しています 車が動くことがあります	オートブレーキホールド急坂路注意表示	● 急な坂道などでオートブレーキホールド機能が作動したときに表示し、ブザーが鳴ります。	● すみやかにブレーキペダルを踏んでください。 ● 急な坂道や滑りやすい路面でオートブレーキホールド機能が作動していても、車両が動き出すおそれがあります。 ➔ オートブレーキホールド (P.193)
AUTO HOLD 急坂路では ブレーキを踏んでください 車が動くことがあります	オートブレーキホールド急坂路操作表示	● 急な坂道などでオートブレーキホールド機能が作動してから一定時間経過し、ブレーキが踏まれていなかった場合に表示し、ブザーが鳴ります。	● すみやかにブレーキペダルを踏んでください。 ● 急な坂道などでオートブレーキホールド機能が作動してから一定時間経過し、電動パーキングブレーキがかかるときに車両が動き出すおそれがあります。 ➔ オートブレーキホールド (P.193)
AUTO HOLD ブレーキを踏み スイッチを操作すれば 解除できます	オートブレーキホールドスイッチ解除操作表示	● オートブレーキホールド機能が作動中、ブレーキペダルを踏まずに<オートブレーキホールドスイッチ>を押したときに表示します。	● ブレーキペダルを踏んでから<オートブレーキホールドスイッチ>を押してください。 ➔ オートブレーキホールド (P.193)

画面表示	名称	表示する条件	説明・対処方法
給油してください	燃料残量警告	● 燃料が少なくなると表示します。	● すみやかに指定の燃料を補給してください。 知識 ● 燃料の残量が約7ℓ以下で表示します。なお、走行に使用できる燃料容量は、上記残量より若干少なくなります。 ● 車両姿勢、走行状況によっては、燃料がタンク内で移動するため、警告が表示されるタイミングが変わる場合があります。
⚠警告 オーバーヒート 安全な場所に車を停め 取扱説明書を見てください	オーバーヒート警告	● エンジン冷却水の温度が異常に高くなると表示します。	● 表示したときは、ただちに安全な場所に車を停めて処置してください。 ➔ オーバーヒートしたときは (P.452) ⚠注意 ● **表示したまま走行をしない。** そのまま走行を続けると、エンジン故障の原因となり、火災につながるおそれがあります。
⚠警告 シャシー制御 システム故障 取扱説明書を見てください	シャシー制御表示	● シャシー制御のシステムに異常があると表示します。	● すみやかに日産販売会社で点検を受けてください。
⚠警告 4WD 4WDシステム異常 取扱説明書を見てください	4WD警告	● 走行可能表示灯が点灯しているとき、4WDシステムに異常があると表示します。	● 4WDシステムに異常が発生しているため2WD状態になっています。高速走行をせず、すみやかに日産販売会社で点検を受けてください。

画面表示	名称	表示する条件	説明・対処方法
⚠警告 踏み間違い衝突防止アシストが作動しました	踏み間違い衝突防止アシスト作動時表示	● 踏み間違い衝突防止アシストが作動すると表示します。	● 進行方向に壁などの障害物、車両や歩行者などを検知している場合に、アクセルペダルがすばやく深く踏み込まれたとシステムが判断したときに作動します。 ➔ 踏み間違い衝突防止アシスト (P.283)
⚠警告 ヘッドランプシステム異常 取扱説明書を見てください	ヘッドランプ警告	● LEDヘッドランプに異常があると表示します。	● 安全な場所に停車し、一度e-POWERシステムを停止してからマルチセンシングフロントカメラの前の障害物を取り除き、汚れを清掃してe-POWERシステムを再始動してください。 ● 再始動後もメッセージを表示するときは、すみやかに日産販売会社で点検を受けてください。

画面表示	名称	表示する条件	説明・対処方法
⚠警告 システム故障 取扱説明書を見てください	システム故障警告	● プロパイロット、踏み間違い衝突防止アシスト、BSW（後側方車両検知警報）、インテリジェントBSI（後側方衝突防止支援システム）、LDW（車線逸脱警報）、インテリジェントLI（車線逸脱防止支援システム）、RCTA（後退時車両検知警報）、インテリジェントDA（ふらつき警報）、標識検知機能、駐車支援機能（フロントソナー、コーナーソナー、リヤソナー）が故障すると表示します。	● 安全な場所に停車し、<パワースイッチ>をOFFにします。インテリジェントキーを車室内に置いた状態で、一度運転席ドアを開閉したあと、ナビゲーションシステム★、オーディオ★、ドアロックなどすべての操作を行わず、ドアを閉じた状態のまま3分以上待機します。 再始動後もメッセージが表示するときは、システムの異常が考えられます。通常走行に支障はありませんが、日産販売会社で点検を受けてください。 ➲ プロパイロット (P.229) ➲ 踏み間違い衝突防止アシスト (P.283) ➲ BSW（後側方車両検知警報）／インテリジェントBSI（後側方衝突防止支援システム） (P.289) ➲ LDW（車線逸脱警報）／インテリジェントLI（車線逸脱防止支援システム） (P.298) ➲ RCTA（後退時車両検知警報） (P.305) ➲ インテリジェントDA（ふらつき警報） (P.308) ➲ 標識検知機能 (P.309)

画面表示	名称	表示する条件	説明・対処方法
⚠警告 ふらつき警報 システム故障	インテリジェントDA（ふらつき警報）システム異常警告	● インテリジェントDA（ふらつき警報）に異常があると表示します。	● 安全な場所に停車し、一度e-POWERシステムを停止してから再始動してください。 ● 再始動後もメッセージを表示するときは、システムの異常が考えられます。通常走行に支障はありませんが、日産販売会社で点検を受けてください。 ➔インテリジェントDA（ふらつき警報）(P.308)
⚠警告 ソナー故障 取扱説明書を見てください	ソナーシステム異常警告A	● ソナーが故障したときに表示します。	● 安全な場所に停車し、一度e-POWERシステムを停止してから再始動してください。 ● 再始動後もメッセージを表示するときは、システムの異常が考えられます。 通常走行に支障はありませんが、日産販売会社で点検を受けてください。 ソナー表示（➔P.92または➔P.116）
現在ソナーが使用できません	ソナーシステム異常警告B	● ソナーが一時的に使用できない状態になっているときに表示します。	● 安全な場所に停車し、一度e-POWERシステムを停止してからソナーの汚れを取り除き、e-POWERシステムを再始動してください。 ● 他車のソナーが付近に存在するときや周囲で大きな音が鳴っているときは、静かな場所に移動し、一度e-POWERシステムを停止してから再始動してください。
ふらつき警報 休憩しませんか？	インテリジェントDA（ふらつき警報）表示	● 運転者のハンドル操作から注意力が低下していると判断したときに表示します。	● 表示・非表示の設定ができます。 ➔インテリジェントDA（ふらつき警報）(P.308)

画面表示	名称	表示する条件	説明・対処方法
警告 注意してください	進入禁止標識検知表示	● 前方の車両進入禁止標識を検知し、一方通行路へ進入する可能性がある場合に表示します。	● 表示・非表示の設定ができます。 ➔ 標識検知機能（P.309）
警告 注意してください	一時停止標識検知表示	● 前方の一時停止標識を検知した場合には、メーターに表示します。	● 表示・非表示の設定ができます。 ➔ 標識検知機能（P.309）
ライト消灯してください	ライト消し忘れ警告	● ＜パワースイッチ＞がON以外の位置で運転席ドアを開けたとき、次の場合に表示し、ブザーが鳴ります。 — ライトスイッチが＜ ＞の位置にあるとき — ライトスイッチを＜ /OFF＞の位置に回して、テールランプ表示灯［ ］が点灯しているとき	● ライトスイッチを＜AUTO＞の位置にする、または＜ /OFF＞の位置に回してテールランプ表示灯［ ］を消灯してください。
メンテナンス オイル/オイルフィルター	オイル/オイルフィルター交換表示	● 設定したオイル/オイルフィルター交換距離に達すると表示します。	● オイル/オイルフィルター交換距離は、設定したりリセットしたりできます。 設定については、メンテナンス（➔P.88または➔P.113）をお読みください。
メンテナンス タイヤ	タイヤ交換表示	● 設定したタイヤ交換距離に達すると表示します。	● タイヤ交換距離は、設定したりリセットしたりできます。 設定については、メンテナンス（➔P.88または➔P.113）をお読みください。
メンテナンス ユーザー	メンテナンス距離表示	● オイル/オイルフィルター、タイヤ以外の整備項目の点検距離または交換距離に達すると表示します。	● その他の整備項目には、例えばタイヤのローテーションを行う距離の設定ができます。項目の点検／交換距離は、設定したりリセットしたりできます。 設定については、メンテナンス（➔P.88または➔P.113）をお読みください。

画面表示	名称	表示する条件	説明・対処方法
❄ 0℃	凍結注意アラーム表示	● 外気温が3℃以下になったことを知らせます。	● 表示・非表示の設定ができます。 設定については、運転支援（➔P.80または➔P.106）をお読みください。
休息してください	走行時間アラーム表示	● 設定した時間まで連続走行したことを知らせます。	● 表示・非表示の設定ができます。 設定については、運転支援（➔P.80または➔P.106）をお読みください。
省電源のため自動的に 電源OFFします バッテリーあがりを防ぐため 電源をOFFします	自動電源OFF表示A	● e-POWERシステムが停止している状態で、<パワースイッチ>をONにしたまましばらくすると表示することがあります。	● そのまま<パワースイッチ>を切り替えないと、省エネのため<パワースイッチ>がOFFになります。
省電源のため自動的に 電源OFFしました バッテリーあがりを防ぐため 電源をOFFしました	自動電源OFF表示B	● e-POWERシステムが停止している状態で、<パワースイッチ>をONにしたまま時間が経過し、<パワースイッチ>が自動でOFFになったときに表示することがあります。	
⚠警告 システム保護のため 一時的に出力制限中 安全な場所に車を停め 取扱説明書を見てください	出力制限警告	● 出力制限表示灯［ ］が点灯すると同時に表示します。	● 出力が制限され、アクセルペダルを踏み込んでも速度が上がらなくなります。 ● リチウムイオンバッテリーの残量が極端に低下して点灯したときは、すみやかに安全な場所に停車し、日産販売会社にご連絡ください。
フロントデフロスタが 作動しているため マナーモードは使用できません	マナーモード警告A	● デフロスターが作動している場合に表示します。	● デフロスターが作動したため、マナーモードを使用できません。 ● デフロスター停止後に、<EVモードスイッチ>を押してください。 ➔マナーモード（P.216）

画面表示	名称	表示する条件	説明・対処方法
バッテリ残量が 少ないため現在 マナーモードは使用できません	マナーモード警告B	● リチウムイオンバッテリーの残量が少ない場合に表示します。	● リチウムイオンバッテリー残量低下によりマナーモード走行はできません。 ● チャージモードで走行するなど、リチウムイオンバッテリー残量を増やしてから＜EVモードスイッチ＞を押してください。 ➔ マナーモード (P.216)
作動条件外のため マナーモードは使用できません	マナーモード警告C	● マナーモードの作動条件から外れていると表示します。	● システムの判断によりマナーモードを使用できません。 （外気温が極端に低いときなど） ● 作動条件を満たすと表示が消えるので、そのときに＜EVモードスイッチ＞を押してください。 ➔ マナーモード (P.216)
作動条件外のため チャージモードは使用できません	チャージモード警告	● チャージモードの作動条件から外れていると表示します。	● システムの判断によりチャージモードを使用できません。 （外気温が極端に低いときなど） ● 作動条件を満たすと表示が消えるので、そのときに＜EVモードスイッチ＞を押し続けてください。 ➔ チャージモード (P.215)
⚠警告 e-POWERシステム停止 販売店で点検してください	e-POWERシステム警告A	● 停車中、e-POWERシステムに異常が発生し、e-POWERシステムが停止しているときに表示します。	● すみやかに日産販売会社にご連絡ください。
⚠警告 e-POWERシステム故障 次回始動できません 販売店で点検してください	e-POWERシステム警告B	● e-POWERシステムに異常が発生し、e-POWERシステムが再始動できないときに表示します。	● すみやかに日産販売会社にご連絡ください。
⚠警告 e-POWERシステム故障 走行制限中 販売店で点検してください	e-POWERシステム警告C	● e-POWERシステムに異常が発生し、出力が制限されていると表示します。	● すみやかに日産販売会社にご連絡ください。

画面表示	名称	表示する条件	説明・対処方法
⚠警告 e-POWERシステム停止 安全に停車してください	e-POWERシステム警告D	● 走行中、e-POWERシステムに異常が発生し、e-POWERシステムが停止しているときに表示します。	● すみやかに安全な場所に停車し、日産販売会社にご連絡ください。
⚠警告 e-POWERシステム停止 パーキングブレーキを かけてください	e-POWERシステム警告E	● 停車中、e-POWERシステムに異常が発生し、e-POWERシステムが停止しているときに表示します。	● すみやかにパーキングブレーキをかけ、日産販売会社にご連絡ください。
⚠警告 e-POWERシステム故障 安全に停車してください	e-POWERシステム警告F	● 走行中、e-POWERシステムに異常が発生し、出力が停止しているときに表示します。	● すみやかに安全な場所に停車し、日産販売会社にご連絡ください。
⚠警告 e-POWERシステム故障 走行制限中 安全に停車してください	e-POWERシステム警告G	● 走行中、e-POWERシステムに異常が発生し、出力が制限されていると表示します。	● すみやかに安全な場所に停車し、日産販売会社にご連絡ください。
⚠警告 e-POWERシステム故障 販売店で点検してください	e-POWERシステム警告H	● e-POWERシステムに異常が発生し、e-POWERシステムが停止せず、出力が制限されていないときに表示します。	● すみやかに日産販売会社にご連絡ください。
⚠警告 e-Pedalシステム異常 減速、停車する際は ブレーキを踏んでください	e-Pedal Stepシステム警告A	● e-Pedal Stepシステムが一時的に使用できない状態になっているときに表示します。	● システムが一時的に使用できない状態が改善されると、作動を再開できます。 ● 安全な場所に停車し、一度e-POWERシステムを停止してから再始動してください。 ● 再始動後もメッセージが表示されるときは、システムの異常が考えられます。日産販売会社で点検を受けてください。
⚠警告 現在e-Pedalシステムは 使用できません 減速する際は ブレーキを踏んでください	e-Pedal Stepシステム警告B		

画面表示	名称	表示する条件	説明・対処方法
⚠警告 駐車時は確実に パーキングブレーキを かけてください	電制シフト警告A	● 電制シフトに異常が発生したときに表示します。	● すみやかに日産販売会社で点検を受けてください。 ● 駐車するときは、パーキングブレーキを確実にかけてください。パーキングブレーキをかけていないと、<パワースイッチ>をOFFにできないことがあります。 ● <パワースイッチ>をOFFにできないときは、次の操作を行ってください。 — ①停車してパーキングブレーキをかけます。 — ②ブレーキペダルを踏み込みながら<パワースイッチ>を押して、<パワースイッチ>をONに切り替えます。 — ③<P>スイッチを押してPに切り替えます。 — ④<パワースイッチ>を押して、OFFに切り替えます。
⚠警告 トランスミッション システム異常 販売店で点検してください	電制シフト警告B	● 電制シフトに異常が発生したときに表示します。	● すみやかに日産販売会社で点検を受けてください。 ● オートP機能（➔P.192）が作動しないことがあるため、駐車するときは<シフトスイッチ>の<P>スイッチを押し、Pに切り替わったことを確認してください。
⚠警告 トランスミッションシステム異常 シフトボタンは使用できません 販売店で点検してください	電制シフト警告C	● <シフトスイッチ>に異常が発生したときに表示します。	● すみやかに日産販売会社で点検を受けてください。

画面表示	名称	表示する条件	説明・対処方法
⚠警告 シフトの状態を 確認してください	シフトポジション警告	● <シフトスイッチ>が押されたままの状態になったときに表示します。	● 次の確認を行ってください。 — 異物が挟まっていないか — 物などで押され続けていないか ● <シフトスイッチ>が押されていないときに表示された場合は、日産販売会社で点検を受けてください。
⚠警告 現在一部の運転支援が 使用できません センサー周辺を 拭いてください レーダー	フロントレーダーシステム停止警告	● 車両前部に取り付けられたレーダーセンサー周辺に雪や氷、泥などが付着し、次のシステムが停止すると表示します。 ➔ インテリジェント エマージェンシーブレーキ（P.276） ➔ 衝突回避ステアリングアシスト（P.282） ➔ インテリジェント FCW（前方衝突予測警報）（P.302）	● 安全な場所に停車し、一度e-POWERシステムを停止してからレーダーセンサーおよびその周辺の汚れなどを取り除き、e-POWERシステムを再始動してください。 ● 停止したときの状態が改善、または変更されると、システムは作動を再開します。
サイドレーダー及び その周辺が汚れています 拭いてください	サイドレーダーシステム停止警告	● 車両後部に取り付けられたレーダーセンサー周辺に雪や氷、泥などが付着し、次のシステムが停止すると表示します。 — ➔ BSW（後側方車両検知警報）／インテリジェント BSI（後側方衝突防止支援システム）（P.289） — ➔ RCTA（後退時車両検知警報）（P.305）	● レーダーセンサーおよびその周辺の汚れなどを取り除いてから、システムを一旦OFFにしたあと、再度ONにしてください。

画面表示	名称	表示する条件	説明・対処方法
作動範囲外のため 現在使用できません	作動範囲外警告	● 次のシステムが停止すると表示します。停止する条件については、各システムをお読みください。 — インテリジェント BSI（後側方衝突防止支援システム）（➔P.289） — インテリジェント LI（車線逸脱防止支援システム）（➔P.298） ● VDCをOFFにしたとき	● 停止したシステムを再び作動させる場合は、停止したときの状態が改善されてから、スイッチで再度ONにしてください。
車線認識カメラ・その周辺が 高温のため使用できません カメラが高温のため 現在使用できません	カメラ高温警告	● 炎天下に駐車したときなど、マルチセンシングフロントカメラが高温になり、次のシステムが停止すると表示します。 — インテリジェント BSI（後側方衝突防止支援システム）（➔P.289） — ➔LDW（車線逸脱警報）／インテリジェント LI（車線逸脱防止支援システム）（P.298）	● 停止したシステムを再び作動させる場合は、マルチセンシングフロントカメラ周辺の温度が下がってから、再度ONにしてください。
⚠警告 カメラが高温のため 一部の運転支援を 制限しています		● カメラおよびカメラ周辺の温度が高いときに表示します。	● 車室内の温度が下がるとシステムは自動的に作動を再開します。
滑りやすい路面のため 現在使用できません	スリップ警告	● 次のシステムが停止すると表示します。停止する条件については、各システムをお読みください。 — インテリジェント BSI（後側方衝突防止支援システム）（➔P.289） — インテリジェント LI（車線逸脱防止支援システム）（➔P.298） ● ABSまたはVDC（トラクションコントロール機能（TCS）は含まない）が作動したとき	● 停止したシステムを再び作動させる場合は、停止したときの状態が改善されてから、スイッチで再度ONにしてください。

画面表示	名称	表示する条件	説明・対処方法
システムOFF	システムOFF表示	● RCTA（後退時車両検知警報）がOFFのとき、シフトポジションをRにすると表示します。 ➔ RCTA（後退時車両検知警報）(P.305)	● RCTA（後退時車両検知警報）をONにすると、シフトポジションをRにしても表示されません。
⚠警告 システム故障のため、一部の運転支援を使用できません	インテリジェント エマージェンシーブレーキシステム故障警告	● インテリジェント エマージェンシーブレーキシステムが故障すると表示します。	● 安全な場所に停車し、一度e-POWERシステムを停止してから再始動してください。 ● 再始動後もメッセージを表示するときは、システムの異常が考えられます。通常走行に支障はありませんが、日産販売会社で点検を受けてください。 ➔ インテリジェント エマージェンシーブレーキ（P.276） ➔ 衝突回避ステアリングアシスト（P.282） ➔ インテリジェント FCW（前方衝突予測警報）（P.302）
⚠警告 視界不良のため一部の運転支援を制限しています	インテリジェント エマージェンシーブレーキシステム視界不良警告	● 悪天候（雨、雪、霧、風塵、砂塵、吹雪など）で視界が悪いときに表示します。 ● 前方から強い光（太陽光や対向車両のハイビームなど）を受けているときに表示します。	● 悪天候時にはインテリジェント エマージェンシーブレーキシステムは作動しません。 ● 状況が改善されると、システムは自動的に作動を再開します。
⚠警告 現在一部の運転支援が使用できません センサー周辺を拭いてください カメラ	カメラ視界不良警告	● 雨、雪、霧または、カメラ前方のフロントガラス凍結、汚れなどで、カメラの視界が確保できなくなったときに表示します。 ● 夜間やトンネル内などでヘッドランプを点灯せず、真っ暗な状態が継続したときに表示します。	● 安全な場所に停車し、一度e-POWERシステムを停止してからカメラ前方のフロントガラスの汚れなどを取り除き、e-POWERシステムを再始動してください。 ● 停止したときの状態が改善されると、システムは作動を再開します。

画面表示	名称	表示する条件	説明・対処方法
⚠警告 VDC OFFのため 一部の運転支援が 制限されています	VDC OFF警告	● VDCをOFFにしたときに表示します。	● VDCをOFFにしたときに停止する機能については、（➔P.219）をお読みください。
⚠警告 電波障害のため 一部の運転支援を 制限しています	インテリジェント エマージェンシーブレーキシステム電波障害警告	● 放送局など周辺の電波源により影響を受けているときに表示します。	● 周辺の電波源による影響を受けているときはインテリジェント エマージェンシーブレーキは作動しません。 ● 状態が改善されると、システムは作動を再開します。
⚠警告 現在一部の運転支援を 制限しています	インテリジェント エマージェンシーブレーキシステム作動制限警告	● インテリジェント エマージェンシーブレーキのシステムチェックが正常に終了しなかったとき表示します。 ➔インテリジェント エマージェンシーブレーキの作動が停止するとき（P.282） ● けん引されているときに表示します。	● 安全な場所に停車し、一度e-POWERシステムを停止してから再始動してください。 ● けん引されているときはインテリジェント エマージェンシーブレーキシステムは作動しません。 ● 状況が改善されると、システムは自動的に作動を再開します。
ブレーキを踏み シフト操作してください	シフト操作警告A	● ブレーキペダルを踏まずに＜シフトスイッチ＞を操作し、シフトポジションが切り替わらなかったときに表示します。	● ブレーキペダルを踏みながら＜シフトスイッチ＞を操作してください。 ➔シフトスイッチ（P.191）
Rレンジに入れるためには 車両を止めてください	シフト操作警告B	● 前進中にシフトポジションをRに切り替えようとしたときに表示します。	● 停車してから＜シフトスイッチ＞を操作してください。 ➔シフトスイッチ（P.191）
Dレンジに入れるためには 車両を止めてください	シフト操作警告C	● 後退中にシフトポジションをDに切り替えようとしたときに表示します。	● 停車してから＜シフトスイッチ＞を操作してください。 ➔シフトスイッチ（P.191）
Pレンジに入れるためには 車両を止めてください	シフト操作警告D	● 走行中にシフトポジションをPに切り替えようとしたときに表示します。	● 停車してから＜シフトスイッチ＞を操作してください。 ➔シフトスイッチ（P.191）

画面表示	名称	表示する条件	説明・対処方法
複数のシフトスイッチが 同時に押されました	シフト操作告知	● 複数の<シフトスイッチ>を同時に押したときに表示します。	● <シフトスイッチ>を同時に押した場合は、シフトポジションがPもしくはNに切り替わります。 ➔ シフトスイッチ (P.191)
⚠警告 ステアリングシステム故障 安全な場所に停車してください	EPS（電動パワーステアリング）警告A	● 電動パワーステアリングのシステムに異常があるときに表示します。	● 電動パワーステアリングが作動しません。 ● すみやかに安全な場所に停車し、日産販売会社にご連絡ください。
⚠警告 ステアリングシステム故障 販売店で点検してください	EPS（電動パワーステアリング）警告B	● 電動パワーステアリングのシステムに異常があるときに表示します。	● 電動パワーステアリングの倍力装置の能力が低下しており、ハンドル操作が重くなります。ハンドルをしっかりと握り、通常より強く操作してください。 ● すみやかに日産販売会社で点検を受けてください。

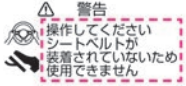
プロパイロット／プロパイロット 2.0 警告メッセージ

警告メッセージが表示されたときは、次の「説明・対処方法」に従ってください。表示は、グレード、オプションなどにより異なります。

画面表示	表示する条件	説明・対処方法
警告 前を向いてください	● 運転者が前方の状況に注意していないと判断したとき	● 運転者は前を向き、常に前方の状況に注意して運転してください。 ● 運転者が前を向くと警告は消灯します。
警告	● ハンドルを持っていない、またはハンドルを操作していないとき ● 3D高精度地図データと実際の道路が異なっていると判断したとき ● 車線逸脱警報が作動したとき ● ハンドルを持たずにアクセルペダル操作をしたとき	● すみやかにハンドルを持って操作してください。 ● 運転者のハンドル操作を検出すると警告は消灯します。
警告 ハンドルを操作してください	● 運転者が前方の状況に注意していない状態が継続したとき ● 運転者にハンドル操作を要求するとき	● すみやかにハンドルを持って操作してください。 ● 運転者のハンドル操作を検出すると警告は消灯します。
警告 減速します	● 運転者のハンドル操作がないため、自車を減速、緊急停止させるとき	● すみやかにハンドルを持って操作してください。 ● 運転者のハンドル操作を検出すると警告は消灯し、プロパイロット2.0が解除されます。

画面表示	表示メッセージ	表示する条件	説明・対処方法
アドバンスドドライブアシストディスプレイ 警告 システム故障	システム故障	● プロパイロット2.0に異常があるとき	● 安全な場所に停車して、e-POWERシステムを一旦停止して再始動し、再びシステムをONにしてください。

画面表示	表示メッセージ	表示する条件	説明・対処方法
	フロントレーダー及び その周辺が汚れています 拭いてください	● 車両前部に取り付けられたレーダーセンサー周辺に雪や氷、泥などが付着したとき	● 安全な場所に停車し、一度e-POWERシステムを停止してからレーダーセンサーおよびその周辺の汚れなどを取り除き、e-POWERシステムを再始動してください。 ➔ レーダーセンサーの取り扱い（P.475）
	シートベルトが 解除されているため 使用できません	● 運転席のシートベルトを解除したとき	● 運転席のシートベルトが解除されている場合は、プロパイロット2.0は使用することができません。
	パーキングブレーキが 作動しているため 使用できません	● 電動パーキングブレーキが作動したとき	● 電動パーキングブレーキが作動しているときは、プロパイロット2.0は使用することができません。
	滑りやすい路面のため 現在使用できません	● VDC（トラクションコントロールを含む）が作動したとき ● タイヤが空転したとき	● VDC／TCSが作動する、またはタイヤが空転するような状況では、プロパイロット2.0は使用できません。
	作動範囲外のため 現在使用できません	● VDCをOFFにしたとき	● VDCがOFFの場合は、プロパイロット2.0は使用できません。
アドバンスドドライブアシストディスプレイ ⚠ 警告 システム故障	システム故障	● 車線維持機能（ハンドル支援）に異常があるとき	● 安全な場所に停車して、e-POWERシステムを一旦停止して再始動し、再びシステムをONにしてください。

画面表示	表示メッセージ	表示する条件	説明・対処方法
	悪天候のため 現在使用できません	● ワイパーが高速で作動しているとき	● 状況が改善すると、車線維持機能（ハンドル支援）を使用することができます。 ● ワイパーの高速動作を解除してください。その後、プロパイロットを再度セット、もしくは<ハンドル支援スイッチ>を押してください。
	カメラが認識できないため 現在使用できません	● 雨、雪、霧または、カメラ前方のフロントガラスの凍結、汚れなどで、カメラの視界が確保できなくなったとき ● 前方から強い光を受けたとき	
	カメラが高温のため 現在使用できません	● カメラおよびカメラ周辺の温度が高いとき	● 状況が改善すると、車線維持機能（ハンドル支援）を使用することができます。
アドバンスドドライブアシストディスプレイ 	操作してください システム故障	● プロパイロット2.0に異常があるとき	● すみやかにハンドルを持って操作してください。 ● 安全な場所に停車して、e-POWERシステムを一旦停止して再始動し、再びシステムをONにしてください。
	操作してください フロントレーダーが 汚れているため 使用できません	● 車両前部に取り付けられたレーダーセンサー周辺に雪や氷、泥などが付着したとき	● すみやかにハンドルを持って操作してください。 ● 安全な場所に停車し、一度e-POWERシステムを停止してからレーダーセンサーおよびその周辺の汚れなどを取り除き、e-POWERシステムを再始動してください。 ➔ レーダーセンサーの取り扱い（P.475）

画面表示	表示メッセージ	表示する条件	説明・対処方法
	レーンを認識できません ハンドル支援を解除します	● 走行車線内にレーンマーカーに見えるようなものがあるなど、レーンマーカーが正しく検出できない状態が長時間続いたとき（雪のわだち、雨の日の周辺の光の反射、消し忘れのレーンマーカーなど）	● 再び車線維持機能（ハンドル支援）を使用したいときは、レーンマーカーがはっきりと描かれている道路でプロパイロットを再セット、もしくは＜ハンドル支援スイッチ＞を押してください。
	操作してください シートベルトが 装着されていないため 使用できません	● 運転者のシートベルトを解除したとき	● すみやかにハンドルを持って操作してください。 ● 運転席のシートベルトが解除されている場合はプロパイロット2.0は使用することができません。
	操作してください パーキングブレーキが 作動しているため 使用できません	● 電動パーキングブレーキをかけたとき	● すみやかにハンドルを持って操作してください。 ● 電動パーキングブレーキが作動しているときはプロパイロット2.0は使用することができません。
	操作してください 作動範囲外のため 使用できません	● VDCをOFFにしたとき	● すみやかにハンドルを持って操作してください。 ● VDCがOFFの場合は、プロパイロット2.0は使用できません。

画面表示	表示メッセージ	表示する条件	説明・対処方法
	操作してください	● 先行車を検出していないときに、車速が約25km/hを下回ったとき ● 運転席、助手席、後席シートのいずれかのドアを開けたとき ● 車速・車間制御機能により自車が停止後、約3分が経過したとき ● シフトポジションをD以外にしたとき	● すみやかにハンドルを持って操作してください。 ● 状況が改善すると、プロパイロット2.0を使用することができます。
	操作してください レーンを認識できません	● レーンマーカーを検出できなくなったとき	● すみやかにハンドルを持って操作してください。 ● 状況が改善すると、車線維持機能（ハンドル支援）を使用することができます。
	操作してください 悪天候のため 使用できません	● ワイパーが高速で作動しているとき	● すみやかにハンドルを持って操作してください。 ● 状況が改善すると、車線維持機能（ハンドル支援）を使用することができます。
	操作してください 視界不良のため 使用できません	● 雨、雪、霧または、カメラ前方のフロントガラスの凍結、汚れなどで、カメラの視界が確保できなくなったとき ● 前方から強い光を受けたとき	● すみやかにハンドルを持って操作してください。 ● 状況が改善すると、車線維持機能（ハンドル支援）を使用することができます。
	操作してください カメラが高温のため 使用できません	● カメラおよびカメラ周辺の温度が高いとき	● すみやかにハンドルを持って操作してください。 ● 室内の温度が下がると車線維持機能（ハンドル支援）を使用することができます。

画面表示	表示メッセージ	表示する条件	説明・対処方法
	操作してください この先、料金所です	● 前方に料金所があるとき	● すみやかにハンドルを持って操作してください。 ● 料金所、出口、車線数が減少する地点、急カーブ、交差点などではプロパイロット2.0は使用できません。
	操作してください この先、 急カーブです	● 前方に急なカーブがあるとき	● すみやかにハンドルを持って操作してください。 ● 料金所、出口、車線数が減少する地点、急カーブ、交差点などではプロパイロット2.0は使用できません。
	操作してください	● 料金所のない高速道路、または自動車専用道路の出口があるとき ● 3D高精度地図データがない区間に近づいたとき	● すみやかにハンドルを持って操作してください。 ● 料金所、出口、車線数が減少する地点、急カーブ、交差点などではプロパイロット2.0は使用できません。
アドバンスドドライブアシストディスプレイ 	ハンドルを持ってください （車速 作動範囲外）	● 標識検知機能が検出している速度を超えて走行しているとき	● すみやかにハンドルを持って操作してください。

画面表示	表示メッセージ	表示する条件	説明・対処方法
	ハンドルを持ってください （カーブ、分合流、道幅等）	● 急カーブに近づいたとき ● 分合流が続く区間を走行しているとき ● 車線幅の狭い道路を走行しているとき ● 制限速度50km/h以下を検出したとき ● システムが制御継続するのが難しいと判断した道路形状の区間に近づいたとき ● 道路区画線が存在しない区間に近づいたとき ● 車線幅が広い区間に近づいたとき	● すみやかにハンドルを持って操作してください。
	ハンドルを持ってください 車線減少します	● 車線数が減少する地点に近づいたとき	● すみやかにハンドルを持って操作してください。
	ハンドルを持ってください （交通規制）	● 工事区間など交通規制のある区間を検出したとき	● すみやかにハンドルを持って操作してください。
	ハンドルを持ってください 高精度地図がありません	● 料金所のない高速道路、または自動車専用道路の出口に近づいたとき ● 3D高精度地図データのない区間に近づいたとき	● すみやかにハンドルを持って操作してください。
	ハンドルを持ってください 高精度地図メンテナンス区間	● 3D高精度地図を工事などに合わせてメンテナンス中のとき	● すみやかにハンドルを持って操作してください。
	ハンドルを持ってください GPS信号を受信できません	● GPS信号を受信できなくなったとき ● トンネル内を走行しているとき	● すみやかにハンドルを持って操作してください。
	ハンドルを持ってください 悪天候のため使用できません	● ワイパーが低速で作動しているとき	● すみやかにハンドルを持って操作してください。

画面表示	表示メッセージ	表示する条件	説明・対処方法
	ハンドルを持ってください 対面通行区間です	● 対面通行区間に近づいたとき	● すみやかにハンドルを持って操作してください。
	ハンドルを持ってください ドライバーを認識できません	● 運転者を認識できなくなったとき	● すみやかにハンドルを持って操作してください。 ● ドライバーモニターカメラと運転者の間に遮るものがある場合は、取り除いてください。
	ハンドルを持ってください	● 接近警報が作動したとき	● すみやかにハンドルを持って操作してください。 ● 必要に応じてブレーキを操作し、車間距離を確保してください。
	一部のハンドル支援が 作動できません （システム故障）	● システムの一部に異常があり、車線維持機能（ハンドル支援）の一部が作動できないとき	● 安全な場所に停車して、e-POWERシステムを一旦停止して再始動し、再びシステムをONにしてください。
	一部のハンドル支援が 作動できません （サイドレーダー汚れ）	● 車両前部と車両後部に取り付けられたレーダーセンサー周辺に雪や氷、泥などが付着しており、車線維持機能（ハンドル支援）の一部が作動できないとき	● レーダーセンサーおよびその周辺の汚れなどを取り除いてから、システムを再度ONにしてください。 ➔ レーダーセンサーの取り扱い（P.475）
	一部のハンドル支援が 作動できません ドライバーを認識できません	● 運転者を検出できないとき	● 運転者を検出できない場合は、一部の車線維持機能（ハンドル支援）は使用できません。

画面表示	表示メッセージ	表示する条件	説明・対処方法
	一部のハンドル支援が 作動できません 高精度地図が使用できません	● ナビゲーションからの情報がこないなど、車線維持機能（ハンドル支援）の一部が作動できないとき	● 安全な場所に停車して、e-POWERシステムを一旦停止して再始動し、再びシステムをONにしてください。 ● 上記操作をしてもメッセージが表示される場合は、日産販売会社で点検を受けてください。
	一部のハンドル支援が 作動できません 高精度地図メンテナンス区間	● 3D高精度地図を工事などに合わせてメンテナンス中のとき	● すみやかにハンドルを持って操作してください。
	一部のハンドル支援が 作動できません 高精度地図がありません	● 料金所のない高速道路、または自動車専用道路の出口に近づいたとき ● 3D高精度地図データのない区間に近づいたとき	● すみやかにハンドルを持って操作してください。
	ハンドルを持ってください この先、料金所	● 自動車専用道路出口（料金所あり）	● すみやかにハンドルを持って操作してください。
	ハンドルを持ってください サイドレーダー 現在使用できません	● サイドレーダー異常を検知したとき	● すみやかにハンドルを持って操作してください。
	ハンドルを持ってください 全周囲カメラ 使用できません	● インテリジェント アラウンドビューモニターカメラ異常を検知したとき	● すみやかにハンドルを持って操作してください。
	ハンドルを持ってください （低温）	● 気温が低いとき	● すみやかにハンドルを持って操作してください。

画面表示	表示メッセージ	表示する条件	説明・対処方法
	一部のハンドル支援が 作動できません （カーブ、分合流、道幅等）	● 急カーブに近づいたとき ● 分合流が続く区間を走行しているとき ● 車線幅の狭い道路を走行しているとき ● 制限速度50km/h以下を検出したとき ● システムが制御継続するのが難しいと判断した道路形状の区間に近づいたとき ● 道路区画線が存在しない区間に近づいたとき ● 車線幅が広い区間に近づいたとき	● すみやかにハンドルを持って操作してください。
	一部のハンドル支援が 作動できません GPS信号を受信できません	● GPS信号を受信できなくなったとき ● トンネル内を走行しているとき	● すみやかにハンドルを持って操作してください。
	一部のハンドル支援が 作動できません この先、料金所	● 前方に料金所があるとき	● すみやかにハンドルを持って操作してください。
	一部のハンドル支援が 作動できません 対面通行区間です	● 対面通行区間に近づいたとき	● すみやかにハンドルを持って操作してください。
	一部のハンドル支援が 作動できません 車線減少します	● 車線数が減少する地点に近づいたとき	● すみやかにハンドルを持って操作してください。
	一部のハンドル支援が 作動できません （交通規制）	● 工事区間など交通規制のある区間を検出したとき	● すみやかにハンドルを持って操作してください。

画面表示	表示メッセージ	表示する条件	説明・対処方法
	一部のハンドル支援が 作動できません （車速 作動範囲外）	● 標識検知機能が検出している速度を超えて走行しているとき	● すみやかにハンドルを持って操作してください。
	一部のハンドル支援が 作動できません （高精度地図ライセンス切れ）	● 3D高精度地図データを利用するための契約がされていないとき	● 3D高精度地図データを利用するための契約については、日産販売会社にお問い合わせください。
	一部のハンドル支援が 作動できません サイドレーダー現在使用できません	● サイドレーダー異常を検知したとき	● ハンドル操作をして車線変更をしてください。
	一部のハンドル支援が 作動できません 全周囲カメラ使用できません	● インテリジェント アラウンドビューモニターカメラ異常を検知したとき	● ハンドル操作をして車線変更をしてください。
	一部のハンドル支援が 作動できません （低温）	● 気温が低いとき	● ハンドル操作をして車線変更をしてください。
	一部のハンドル支援が 作動できません 悪天候のため使用できません	● ワイパーが低速で作動しているとき	● ハンドル操作をして車線変更をしてください。
	車線変更支援を中止しました 車速が低すぎます	● 車速が約60km/hを下回り、車線変更支援が中止したとき	● ハンドル操作をして車線変更をしてください。
	車線変更支援を中止しました 車両を検知しました	● 目的の車線に車両を検出したため、車線変更支援機能が中止したとき	● ハンドル操作をして車線変更をしてください。
	車線変更支援を中止しました （カーブ、分合流、道幅等）	● システムで車線変更支援を行うことが難しい道路形状の区間のとき	● ハンドル操作をして車線変更をしてください。
	車線変更支援できません 分岐まで近すぎます	● 車線変更のスペースが検出できず、出口・分岐路近くになったとき	● ハンドル操作をして車線変更をしてください。

画面表示	表示メッセージ	表示する条件	説明・対処方法
	車線変更支援を中止しました	● 車線変更のスペースが検出できず、追い越し支援機能が中止したとき ● レーンマーカーが検出できなくなったとき ● 目的の車線の方向のレーンマーカーが白、または黄色の実線になったとき ● サイドレーダー部が汚れ、周辺車両との距離の測定が困難になったとき ● 車線変更支援機能に異常があるとき	● ハンドル操作をして車線変更をしてください。

警告表示	表示する条件	説明・対処方法
作動範囲外のため 現在使用できません	● VDCをOFFにしたとき ● プロパイロット パーキングが作動しているとき	● VDCがOFFの場合はプロパイロットを使用することができません。 ● プロパイロット パーキングが作動しているときは、プロパイロットを使用することができません。
パーキングブレーキが 作動しているため 使用できません	● 電動パーキングブレーキが作動したとき	● 電動パーキングブレーキが作動しているときはプロパイロットを使用することができません。
シートベルトが 解除されているため 使用できません	● 運転席のシートベルトを解除したとき	● 運転席のシートベルトが解除されている場合はプロパイロットを使用することができません。
システム故障 取扱説明書を見てください	● システム故障	● 安全な場所に停車して、一度<パワースイッチ>をOFFにしてからe-POWERシステムを再始動します。再始動後も警告灯が点灯し続けるときは、システムの異常が考えられます。通常走行には支障はありませんが、日産販売会社で点検を受けてください。

警告表示	表示する条件	説明・対処方法
停車状態を維持できません ブレーキを踏んでください ブレーキペダルを 踏んでください	● プロパイロットにより車両が停止中、運転席ドアが開いたが電動パーキングブレーキが正常に作動しなかったとき	● すみやかにブレーキペダルを踏んでください。
フロントレーダー及び その周辺が汚れています 拭いてください	● 車両前部に取り付けられたレーダーセンサー周辺に雪や氷、泥などが付着したとき	● 安全な場所に停車し、一度e-POWERシステムを停止してからレーダーセンサーおよびその周辺の汚れなどを取り除き、e-POWERシステムを再始動してください。 ➔ レーダーセンサーの取り扱い (P.475)
滑りやすい路面のため 現在使用できません	● VDC/TCSが作動したとき ● タイヤの空転を検出したとき	● VDC/TCSが作動する、またはタイヤが空転するような状況では、プロパイロットは使用できません。

プロパイロット（ハンドル支援）警告メッセージ

警告表示	表示する条件	説明・対処方法
レーンを認識できません ハンドル支援を解除します	● 走行車線内にレーンマーカーに見えるようなものがあるなど、レーンマーカーが正しく検出できない状態が長時間続いたとき（雪のわだち、雨の日の周辺の光の反射、消し忘れのレーンマーカーなど）	● 再度、車線維持機能（ハンドル支援）を使用したいときは、レーンマーカーがはっきりと描かれている道路でプロパイロットを再セット、もしくは<ハンドル支援スイッチ>を押してください。
悪天候のため 現在使用できません	● ワイパーを高速で作動させたとき	● ワイパーの高速動作を解除してください。その後、プロパイロットを再度セット、もしくは<ハンドル支援スイッチ>を押してください。
カメラが認識できないため 現在使用できません	● 雨、雪、霧または、カメラ前方のフロントガラスの凍結、汚れなどで、カメラの視界が確保できなくなったとき ● 前方から強い光（太陽光や対向車両のハイビームなど）を受けているときに表示します。	● 状況が改善されたあと、プロパイロットを再セット、もしくは<ハンドル支援スイッチ>を押してください。 ● 警告表示が出続ける場合は、安全な場所に停車して、e-POWERシステムを一旦停止してカメラ前方のフロントガラスの汚れなどを取り除いてください。
カメラが高温のため 現在使用できません	● カメラおよびカメラ周辺の温度が高いとき	● 車室内の温度が下がるとプロパイロットを使用することができます。
車線認識カメラ・その周辺が 高温のため使用できません		
⚠警告 システム故障 取扱説明書を見てください	● システム故障	● 安全な場所に停車して、e-POWERシステムを一旦停止して再始動し、再びシステムをONにしてください。

警告表示	表示する条件	説明・対処方法
⚠警告	● ハンドルを持っていない、またはハンドルを操作していないときに点灯します。 — 表示（赤）により警告します。 ● 点灯後、運転者がハンドルを操作しないときに点滅します。 — 音、表示（赤）、および短時間のブレーキ制御で段階的に警告します。	● すみやかにハンドルを持って操作してください。 ● 運転者のハンドル操作を検出すると警告は消灯します。
⚠警告 減速します	● 警告後、運転者のハンドル操作がない状態が継続したときに表示します。 — 緊急警報音が鳴るとともに車両を減速、緊急停止します。	● すみやかにハンドルを持って操作してください。 ● 運転者のハンドル操作を検出すると警告は消灯し、プロパイロットが解除されます。
⚠警告 ハンドルを操作してください	● 車両を緊急停止させたあと、運転者がハンドルを操作しないときに表示します。	● すみやかにハンドルを持って操作してください。 ● 運転者のハンドル操作を検出すると警告は消灯します。 ● ハンドル操作をすると、非常点滅表示灯は自動で消灯します。

ブザー（警報音）が鳴ったときは

車両盗難などを防ぐため、車内外でブザー（警報音）が鳴ることがあります。

どこで音が鳴りましたか？	どんな音が鳴りましたか？	何をしたときに鳴りましたか？	確認すること
車外	ピピピピ…（数秒間）	ドアにあるスイッチを押したとき	走行可能表示灯が点灯していないか キーを車室内またはラゲッジルーム内に置き忘れていないか いずれかのドアが半ドアになっていないか ドアを閉める前にドアにあるスイッチを押していないか
		キーの＜ドア施錠スイッチ＞を押したとき	走行可能表示灯が点灯していないか いずれかのドアが半ドアになっていないか ドアを閉める前に＜ドア施錠スイッチ＞を押してはいないか
		ドアを閉めたとき	無意識にドアにあるスイッチを押していないか
	ピッピッピッ（3回）	ドアを閉めたとき	走行可能表示灯が点灯しているときに、キーが車外に持ち出されていないか
	キー（金属音）	走行中にブレーキペダルを踏んだとき	ディスクブレーキのパッド（摩擦材）が摩耗していないか 金属音が発生したときは、すみやかに日産販売会社で点検を受けてください。そのまま走行を続けると、ブレーキが効かなくなり、事故につながるおそれがあります。
	ピー（継続）	ドアを閉めたとき	シフトポジションがP以外のまま、キーが車外に持ち出されていないか
車室内	ポロポロポロ（3回）	ドアを閉めたとき	走行可能表示灯が点灯しているときに、キーが車外に持ち出されていないか
		＜パワースイッチ＞を押したとき	キーを携帯しているか キーを携帯してもブザーが鳴るときは、キーの電池を交換してください
	ポロポロポロ…（繰り返し）	運転席ドアを開けたとき	＜パワースイッチ＞がONのままになっていないか シフトポジションをPにしているか

窓ガラスがくもったときは

●＜デフロスタースイッチ＞は、＜パワースイッチ＞がONのとき使えます。＜リヤウインドーデフォッガースイッチ＞は、走行可能表示灯が点灯しているときに使えます。

フロントガラスのくもりの取りかた

⚠ 注意

● **＜デフロスタースイッチ＞をONにしているときは、エアコンの設定温度を低くしない。**

フロントガラスの外側に露が付き、視界を妨げるおそれがあります。

アドバイス

● ＜デフロスタースイッチ＞をONにしているときは、内気循環にしないでください。くもりが取れにくくなります。

● ＜デフロスタースイッチ＞は、連続して長時間ONにしないでください。消費電力が多いため、12Vバッテリーあがりの原因になります。

●＜デフロスタースイッチ＞をタッチするとエアコンが作動し、外気導入に切り替わります。
（スイッチの表示灯が点灯）

●止めるときは、もう一度スイッチをタッチします。
（スイッチの表示灯が消灯）

デフロスタースイッチ（➔P.173）

バックドアガラスのくもりの取りかた

アドバイス

● 連続して長時間使用しないでください。消費電力が多いため12Vバッテリーあがりの原因になります。

●＜リヤウインドーデフォッガースイッチ＞をタッチすると約15分間作動し、バックドアガラスの熱線が暖まります。
（スイッチの表示灯が点灯）

●止めるときは、もう一度スイッチをタッチします。
（スイッチの表示灯が消灯）

リヤウインドーデフォッガースイッチ（➔P.173）

●＜リヤウインドーデフォッガースイッチ＞をタッチすると、ドアミラーヒーター★も同時に作動します。

■ **ワイパーデアイサー★**

アドバイス

● ガラスにたまった雪はこまめに取り除き、視界を確保してください。

●フロントガラスを温めて、ガラス下端にたまった雪を取り除きやすくします。
＜リヤウインドーデフォッガースイッチ＞をタッチすると約15分間作動します。
（スイッチの表示灯が点灯）

●止めるときは、もう一度スイッチをタッチします。
（スイッチの表示灯が消灯）

オーバーヒートしたときは

アドバンスドドライブアシストディスプレイにオーバーヒート警告（➔P.422）が表示されたときや、エンジンルームのすき間から蒸気が出ているときはオーバーヒートしています。次の方法で処置してください。

処置のしかた

⚠ 警告

● **ボンネットを開けるときは十分に注意する。**

エンジンルーム内は高温になっているため、やけどなど重大な傷害につながるおそれがあります。

● **蒸気が出ているときは、ボンネットを開けない。**

やけどなど重大な傷害につながるおそれがあります。

e-POWERシステムを停止し、蒸気が出なくなるまで待ち、ボンネットを開けてください。

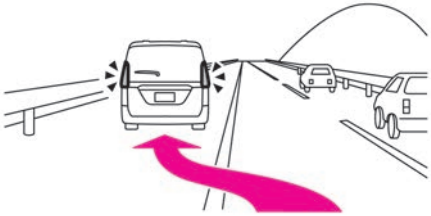
● **エンジンが十分に冷えていないときは、ラジエーターやリザーバータンクのキャップを外さない。**

⚠ 警告

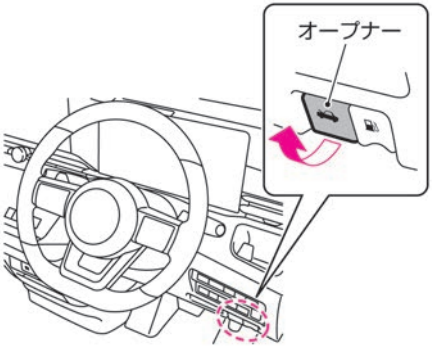
蒸気や熱湯が噴き出し、やけどなど重大な傷害につながるおそれがあります。

- **オーバーヒートしたときは、ただちに安全な場所に車を停めて処置をする。**

  そのまま走行を続けると、エンジン故障の原因となり、火災につながるおそれがあります。



1. ただちに安全な場所に停車します。
   ➔ 故障したときの対処のしかた (P.394)

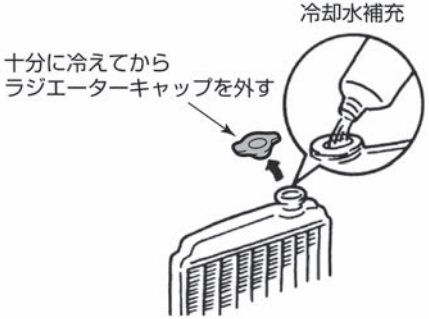


2. e-POWERシステムを作動させたままボンネットを開け、風通しをよくしてエンジンを冷やします。
   万一、冷却ファンが回っていないときは、ただちにe-POWERシステムを停止し、自然冷却してください。

⚠ 警告

オーバーヒート
安全な場所に車を停め
取扱説明書を見てください

3. アドバンスドドライブアシストディスプレイのオーバーヒート警告が消えたら、e-POWERシステムを停止させしばらく待ちます。
   エンジンが十分冷えてから冷却水の量、ホースなどからの水漏れを点検してください。



4. 冷却水が不足しているときは、エンジン冷却用のラジエーターとリザーバータンクに冷却水を補充してください。
   ➔ エンジンルーム内の配置図 (P.463)
   補充後は、しっかりキャップを閉めてください。
5. 走行中、再度アドバンスドドライブアシストディスプレイにオーバーヒート警告が表示されたら、手順1～手順4の作業を繰り返し行ってください。
6. 早めに日産販売会社で点検を受けてください。

アドバイス

- 応急的に水だけを補充したときは、早めに日産販売会社で点検を受けてください。

雪道やぬかるみにはまったときは

雪道、砂地、ぬかるみなどでタイヤが空転したり、埋まり込んで動けなくなったりしたときは、次の方法で脱出してください。

脱出のしかた

警告

- **周囲の安全を必ず確認する。**

  周囲の人や物との衝突を避けるため、前進と後退を繰り返すときは、周囲に何もないことを確認してください。特に脱出の瞬間は、車両が前方または後方に飛び出すおそれがあります。

- **必要以上にアクセルペダルを踏み込まない。**

  急発進して思わぬ事故につながるおそれがあります。

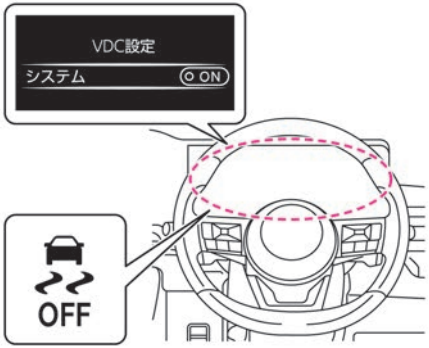
注意

- **脱出するときは、過度にタイヤを空転させない。**

  タイヤがバースト（破裂）したり、駆動部品が異常過熱したりすることにより思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

アドバイス

- 数回試しても脱出できないときは、日産販売会社またはJAFなどのロードサービスにご連絡ください。



1. メーターでVDCをOFFにします。
   ➔ VDCのON・OFFのしかた（P.219）
2. e-4ORCE（4WD）車は、ドライブモードセレクター（➔ P.213）をSNOWに切り替えます。
3. 車両の前後に障害物がないことを確認し、ハンドルを左右に回して前輪の周囲をならします。
   必要に応じ、タイヤの下に木材などをそえてください。
4. ゆっくりとアクセルペダルを踏み、前進または後退します。
   周囲の安全を確認したうえで、前進と後退を繰り返してください。

水没したときは

水没したときの対処のしかた

警告

- **水位が窓ガラスよりも高いとき、緊急脱出用ハンマーを使用した場合、割れたガラスが車室内に入り、ケガをするおそれがあります。**

緊急脱出用ハンマー（ディーラーオプション）について

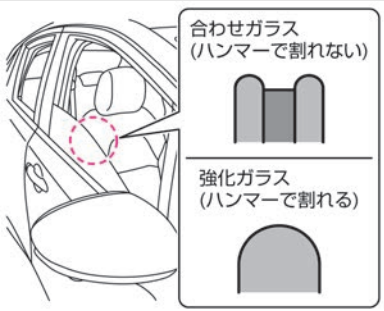
- **フロントウインドーガラスは合わせガラスのため、緊急脱出用ハンマーで割ることはできません。リヤドアガラス、バックドアガラスを割って脱出してください。**
- **ドアガラスは車種によって、合わせガラスを使用しています。ただし、車両の仕様変更により合わせガラスの位置が異なる場合があります。**

  合わせ、または強化ガラスの見分け方法については、ガラスの断面、もしくは刻印（マーク）を確認することで見分けることができます。

ガラスの断面で合わせガラスを見分ける方法

- ドアガラスを半分ほど開け、断面を上から確認し、2枚のガラスが貼り合わせられている場合は合わせガラスとなります。

⚠ 警告



ガラスにある刻印（マーク）で合わせガラスを見分ける方法

● ドアガラスには次のような刻印（マーク）が表示されています。
この表示によって、合わせガラスかどうかを見分けることができます。

※車両によっては、刻印（マーク）が表示されていない、またはガラスの種類を示す表示の位置が異なる場合があります。

水没したときは、次のような対処方法で車外に脱出してください。

● シートベルトを外して車外に脱出してください。
● ドアが開く水位が低いうちにドアを開けて、車外に脱出してください。
● ドアが開かなかった場合、窓ガラスを開け、窓から車外に脱出してください。
● <パワーウインドースイッチ>を押しても窓ガラスが開かない場合、次の方法で脱出してください。
  — 緊急脱出用ハンマー（ディーラーオプション）がある場合、窓ガラスを割り窓から車外に脱出してください。
  — 緊急脱出用ハンマー（ディーラーオプション）がない場合、または緊急脱出用ハンマーで窓ガラスが割れない場合には、車内外の水位が同じ高さくらいまで浸水するのを待ち、ドアを強く押し開けて車外に脱出してください。
  （車内外の水圧差がなくなると、ドアを開けることができます）
● 浸水・冠水被害に遭われた場合は、車両故障につながるおそれがあるため、すみやかに日産販売会社で点検を受けてください。

外装ランプが点灯しないときは

● 外装ランプはすべてLEDです。LEDが一部でも点灯しない場合は日産販売会社で点検を受けてください。
● ヘッドランプ、制動灯などは、雨天走行や洗車などにより、レンズ内面が一時的にくもることがあります。またヘッドランプ内と外気との温度差により、レンズ内面が結露することもあります。これは雨天時などに窓ガラスがくもるのと同様の現象で、機能上の問題ではありません。またレンズの構造上、レンズのふちに水滴が付着することがありますが、機能上の問題ではありません。ただし、ランプ内に水がたまっている場合やレンズ内面に大粒の水滴が付着している場合は、日産販売会社にご相談ください。

ヒューズが切れたときは

ランプがつかないときや電気系統の装置が作動しないときは、日産販売会社にご相談ください。

MEMO

メンテナンス

メンテナンスの前に

点検整備について P.458

工具・ジャッキ

工具★・ジャッキ★について P.459

点検と整備

エンジンルーム P.463
ウォッシャー液の補給 P.464
寒冷時の取り扱い P.465
タイヤ P.466
冬用タイヤ・タイヤチェーン P.468
ワイパー P.469
インテリジェントキーの電池交換 P.470
12Vバッテリー P.471
エンジンオイル P.472

清掃・お手入れ

外装のお手入れ P.473
内装のお手入れ P.477

サービスデータ

点検値 P.479
交換油脂類 P.479
車両仕様 P.482
イベントデータレコーダ（EDR） P.483
車両状態記録機能 P.484

点検整備について

道路運送車両法により、定期点検と日常点検が義務付けられています。正しい点検整備を行いお車を安全にお使いください。

点検整備の詳細については、別冊のメンテナンスノートをお読みください。

点検整備の種類

- 点検・整備および保証の内容は、別冊のメンテナンスノートに詳しく記載されていますので、必ずお読みください。
- **日常点検**
  走行距離や使用時の状態から判断し、適切な時期にお客さまご自身で行う点検です。
  いつもと違うことに気がついたら日産販売会社で点検を受けてください。（音、振動、におい、水漏れ、油漏れなど）
- **定期点検**
  1 年ごとに実施する点検です。12か月点検および24 か月点検があります。
- **その他の点検**
  新車時の無料点検や、厳しい使われかたをしたときに必要な点検があります。

車検、点検整備のとき

- 車検、点検整備については、日産販売会社にご相談ください。

工具★・ジャッキ★について

ジャッキアップをする場合は、この車両専用のジャッキを準備してください。詳しくは、日産販売会社にご相談ください。

車両の仕様変更または装備変更により、本書の内容が実車と一致しない場合がありますのであらかじめご了承ください。

工具、ジャッキ、タイヤ応急修理キットの格納場所

⚠ 注意

- **工具を使ったあとは、元の場所に収納する。**

  車室内に放置すると思わぬ事故につながるおそれがあります。

- 停止表示板（停止表示灯）、輪止めは標準で搭載されておりませんので必要に応じて準備してください。
- 工具の種類や発炎筒（➔P.395）などは、万一のときに困らないようにあらかじめ位置を確認しておいてください。
- 工具は、ラゲッジルーム内に格納できます。
  タイヤ応急修理キットは、サードシート運転席側のカップホルダー下部に格納されています。
  ➔応急修理する前に（P.398）
  ➔タイヤ応急修理キットについて（P.398）

ジャッキ、ハンドル兼ホイールナットレンチ、ハンドルレバーの取り出しかた（ディーラーオプション）

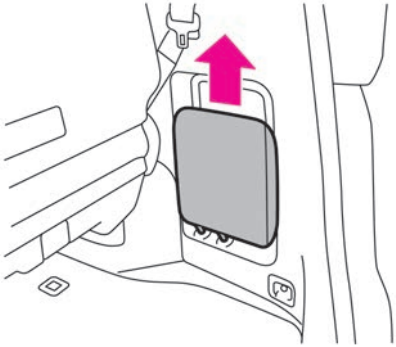
⚠ 注意

- **ジャッキを取り出すときは、手をぶつけないように注意する。**

  金属部などに手をぶつけると、ケガをするおそれがあります。
- **ジャッキはタイヤ交換またはタイヤチェーンの脱着以外には使用しない。**

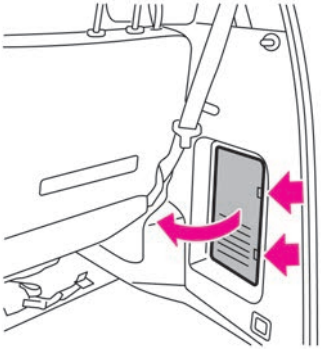
アドバイス

- ジャッキを格納するときは、ドライバーなどで無理に締め付けないでください。ジャッキ取り付け部が変形するおそれがあります。
- ジャッキが内装部品にぶつからないようにしてください。傷がつくおそれがあります。

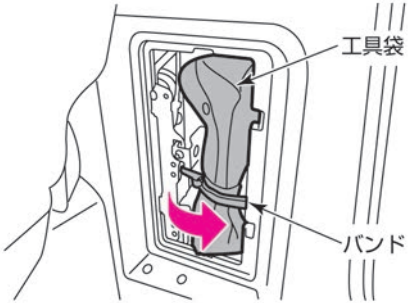


1. ラゲッジルーム右側に格納されているヘッド レストを取り出します。

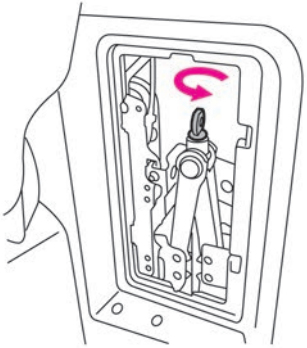
➔ヘッドレストの使いかた (P.159)



2. ふたを取り外します。



3. 工具袋を固定しているバンドを外し工具袋を取り出します。



4. ジャッキを緩めます。
5. 上部からゆっくりと抜き取ります。
※格納するときは、取り出したときと逆の手順で行い、ガタツキがなくなるまでしっかりと締め付けます。

- ジャッキアップをする場合は、この車両専用のジャッキを準備してください。詳しくは、日産販売会社にご相談ください。
- 工具袋を格納するときは、工具袋に付いているバンドできつく締めてから格納してください。工具がぶつかり合って音がでることがあります。

ジャッキの使いかた

⚠ 警告

- **ジャッキアップしたときは絶対に車両の下に入らない。**
  ジャッキが外れると、重大な傷害につながるおそれがあり非常に危険です。

⚠ 注意

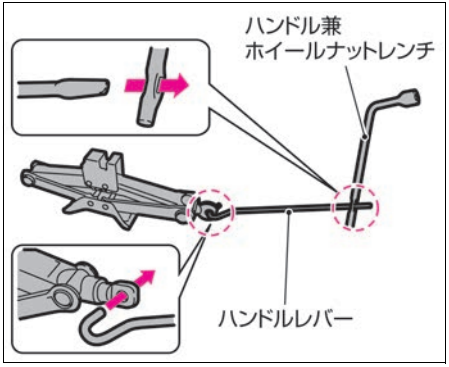
- **工具、ジャッキを使ったあとは、元の場所に収納する。**
  車室内に放置すると思わぬ事故につながるおそれがあります。
- **ハンドル兼ホイールナットレンチを回すときは、ハンドルレバーをしっかり握って回す。**
  ハンドルレバーが回転中に外れると、思わぬケガをするおそれがあります。
- **ハンドルレバーは、確実にハンドル兼ホイールナットレンチの穴に差し込む。**

⚠ 注意

ハンドルレバーが確実に差し込まれていないと、外れて思わぬケガをするおそれがあります。

- **ジャッキアップ中はe-POWERシステムを始動しない。**

  車が発進し、重大な傷害につながるおそれがあります。



- ジャッキにハンドルレバーとハンドル兼ホイールナットレンチをセットします。
- ジャッキを使って車両を持ち上げるときは、正しい位置にジャッキを設置してください。

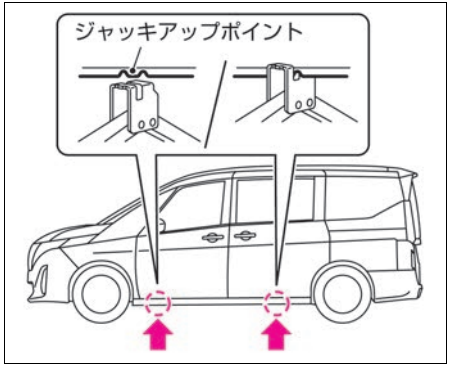
ジャッキアップポイント

⚠ 注意

- **ジャッキを使うときは、次のことを必ず守る。**
  - ジャッキは必ずこの車両専用のものを使い、他車のジャッキは使用しないでください。また、この車両専用のジャッキは他車に使用しないでください。
  - ジャッキはタイヤ交換またはタイヤチェーンの脱着以外には使用しないでください。
  - 平坦で硬いところに駐車して作業してください。
  - 使用前にパーキングブレーキをかけ、シフトポジションをPにしてください。
  - 輪止めなどで車を固定してください。
  - ジャッキの上下に台やブロックなどを入れないでください。
  - 人や荷物は必ず車から降ろしてください。

アドバイス

- ジャッキアップポイント以外のところにはジャッキをかけないでください。車体が変形するおそれがあります。



- 矢印の位置がジャッキアップポイントです。

ジャッキアップのしかた

⚠ 注意

- **柔らかい地面の上ではジャッキアップしない。**

  ジャッキが倒れ、事故につながるおそれがあります。

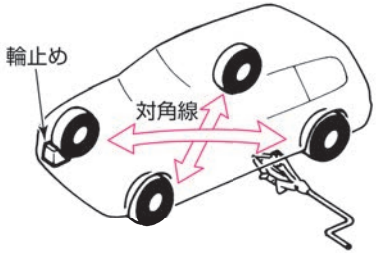
- **やむをえず傾斜地で作業するときは、ジャッキをかける位置と対角線の位置にあるタイヤの下り側に輪止めをし、車が動き出さないようにする。**

- 輪止めは標準で搭載されていませんので必要に応じて準備してください。なお、輪止めはタイヤを固定できる大きさの石、木片などで代用できます。

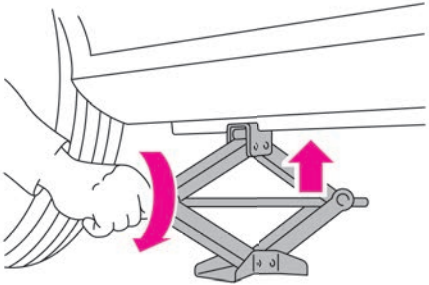
1. 交通の妨げにならず、安全に作業ができる地面（平坦な硬い場所）に

停車し、人や荷物を車から降ろします。

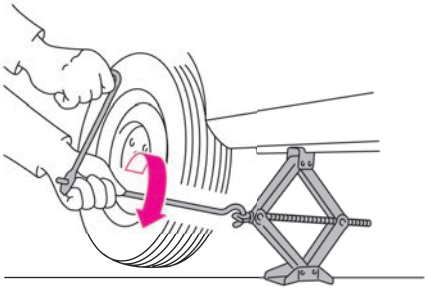
➔ 停車・駐車のしかた (P.197)



2. ジャッキをかける位置と対角線の位置にあるタイヤに輪止めをします。
前輪をジャッキアップするとき：後輪の後ろ側
後輪をジャッキアップするとき：前輪の前側



3. ジャッキの上部がジャッキアップポイントに接触するまで、ジャッキを矢印の方向に手で回します。

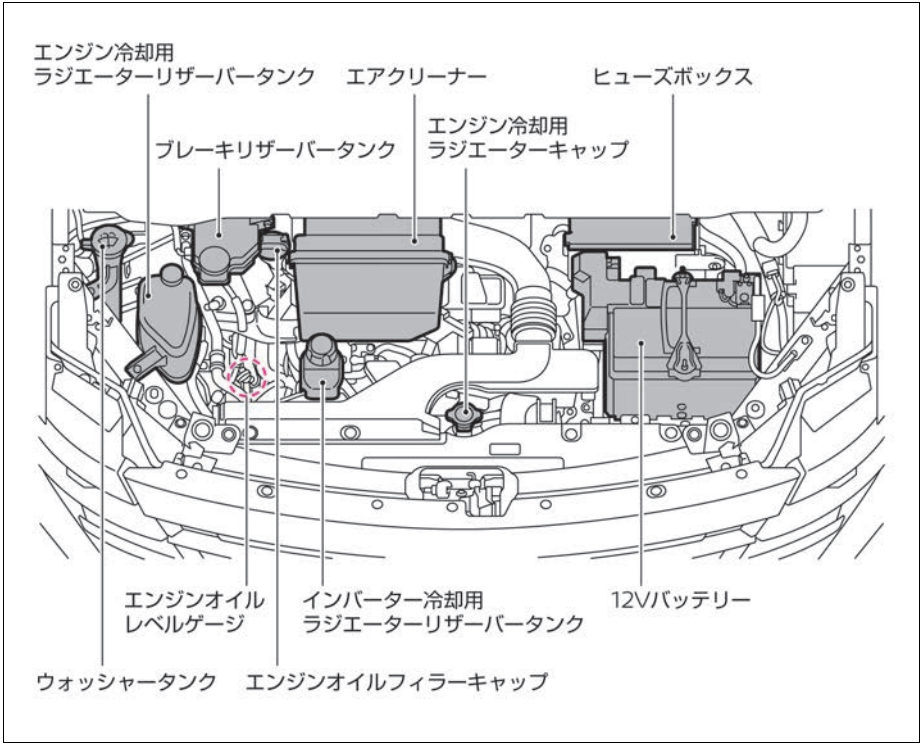


4. ハンドル兼ホイールナットレンチを回して、タイヤと地面が少し離れるまで、ジャッキアップします。

エンジンルーム

エンジンルーム内を点検するときは安全な場所に停車し、パーキングブレーキをかけた状態でボンネットを開けます。

エンジンルーム内の配置図



⚠ 警告

- **点検や整備に使用した工具や布などをエンジンルーム内に置き忘れない。**

  故障や車両火災につながるおそれがあります。

⚠ 注意

- **エンジンルーム内の作業をするときは、＜パワースイッチ＞をOFFにする。**

  e-POWERシステム作動中に手、衣服、工具などを入れると思わぬケガをするおそれがあります。

アドバイス

- 点検整備の詳細については、別冊のメンテナンスノートをお読みください。

ボンネットの開けかた、閉めかた

⚠ 警告

- **走行前、ボンネットが確実に閉まっていることを、必ず確認する。**

  ロックされていないと、走行中にボンネットが開き、思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠ 注意

- **風が強いときは、ボンネットをしっかり持ってゆっくりと開ける。**

⚠ 注意

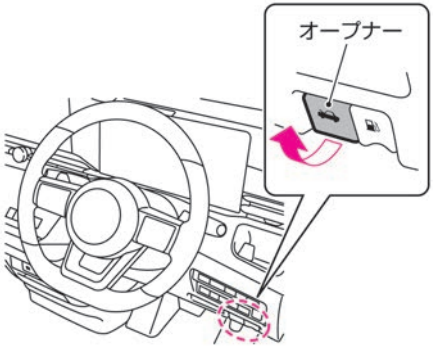
- **ステーを持つときは、必ず操作部を持つ。**

  e-POWERシステム停止直後はステーが高温になることがあるため、やけどをするおそれがあります。
- **ボンネットを開けたときは、ボンネットに頭などをぶつけないよう注意する。**
- **ラジエーターなどの高温部には触れない。**

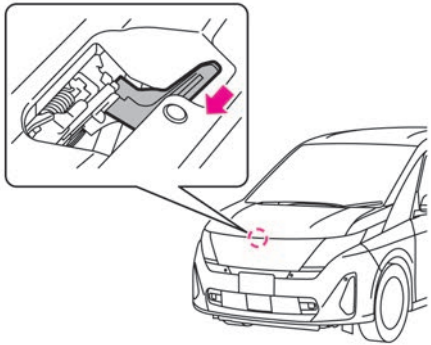
  やけどをするおそれがあります。
- **ボンネットを閉めるときは、手などを挟まないように注意して降ろす。**

アドバイス

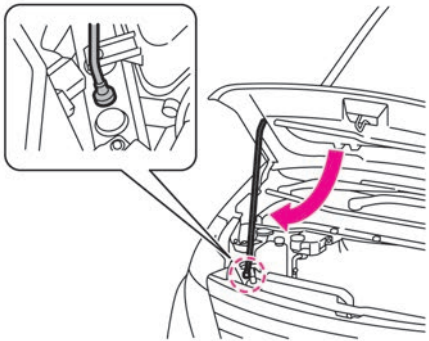
- ワイパーアームを起こしたままボンネットを開けないでください。ボンネットやワイパーを損傷します。
- ボンネットを閉めるときに、ボンネットに体重をかけて強い力で押すと、ボンネットがへこむおそれがあります。



1. 運転席の右下にあるオープナーを引くと、ボンネットが少し浮き上がります。



2. ボンネット先端のすき間に手を入れ、レバーを横に押しながらボンネットを持ち上げます。



3. ボンネット裏側に付いているステーの操作部を持ってフックから外し、車体の穴（ステー差し込み位置）に確実に差し込みます。

4. 閉めるときはステーをフックに戻し、ボンネットを20cm ～ 30cmの高さまでゆっくり降ろしてから、手を離して落としてロックします。ロックできなかったときは、レバーを操作してボンネットをもう一度持ち上げてから再度落としてください。ボンネットを上から押して閉めようとしないでください。

ウォッシャー液の補給

ウォッシャー液が不足しているときは、ウォッシャー液を補給してください。

補給のしかた

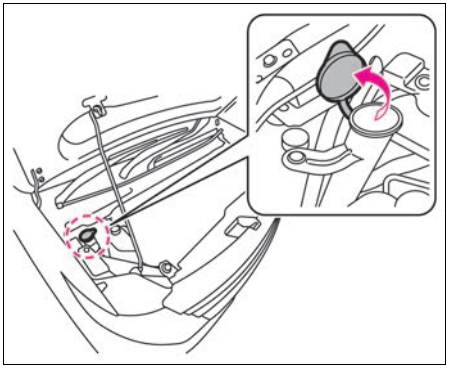
⚠ 注意

- **ウォッシャー液を補給するときは、液を高温部にかけない。**
  出火するおそれがあります。

アドバイス

- ウォッシャー液の代わりに石けん水などを入れないでください。塗装面がしみになるおそれがあります。

- フロントワイパーとリヤワイパーのウォッシャータンクは兼用です。



- 日産純正ウインドウォッシャー液をおすすめします。
  ウォッシャータンク容量については、
  ➔ エンジンオイル (P.479)をお読みください。

- 減っているときは、ウォッシャータンクのふたを開け、ウォッシャー液を補給してください。
- ウォッシャー液は、必要に応じ水で薄めてください。希釈割合はウォッシャー液の容器に表示してある凍結温度を参考にします。

寒冷時の取り扱い

寒冷時に備えて、準備や点検などを正しく行ってください。

冬の前の準備

■ 冷却水の濃度点検

- 冷却水の凍結を防ぐため、冷却水の濃度を点検してください。

冷却水の濃度	凍結温度
30%	約−15℃
50%	約−35℃

- 冷却水を補充・交換するときは、日産純正スーパーロングライフクーラント（50%希釈品）をお使いください。
  ➔ エンジンオイル (P.479)

アドバイス

- 寒冷地仕様車およびe-4ORCE（4WD）車の冷却水は工場出荷時に50%にしてあります。
- 冷却水の点検・補充・交換は日産販売会社にご相談ください。

■ 12Vバッテリーの液量、比重の点検

- 別冊のメンテナンスノート「簡単な整備のしかた」をお読みください。

■ 冬用タイヤ、タイヤチェーンの準備

- 冬用タイヤに交換するときは、4輪とも指定サイズで同一の銘柄、パターン（溝模様）のものに交換してください。
- タイヤチェーンは、タイヤサイズにあった日産純正品をおすすめします。

■ ウォッシャー液の濃度点検

- ウォッシャー液の凍結を防ぐため、ウォッシャー液の容器に記載してある凍結温度を参考に外気温に応じた希釈割合（濃度）にしてください。

運転する前に

⚠ 警告

- **ルーフに積もった雪は落とす。**
  窓ガラスに雪が滑り落ちると視界の妨げとなり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

アドバイス

- ドアなどの開閉部分を無理に開けないでください。ゴムがはがれたり損傷したりするおそれがあります。
- ワイパー、ドアミラー、パワーウインドーなどを無理に動かさないでください。装置が損傷するおそれがあります。

アドバイス

- ドアのキー穴部には、お湯をかけないでください。凍結するおそれがあります。

状況に応じて次のことを行ってください。

- ドアやワイパーなどが凍結したときは、無理に開けたり動かしたりせず、凍った部分にお湯をかけて氷を溶かしてください。溶けたらすぐに水分をふき取ってください。
- ガラスに雪や霜が積もっているときは、プラスチックの板などを使って、ガラスを傷つけないように雪を取り除いてください。
- 足まわり（ブレーキ周辺、フェンダーの裏側など）が凍りついているときは、部品を破損しないように注意しながら、付着した氷塊を取り除いてください。
- 車室内に乗り込むときは、靴についた雪を取り除いてください。

雪道の走行のしかた

■ 滑りやすい路面に注意

- 滑りやすい路面での急発進、急加速、急ブレーキ、急ハンドルなど無理な運転は危険ですのでしないでください。雪道や凍結路では速度を落とし、車間距離を取り、ゆとりある運転をしてください。
- 雪道、凍結路では早めに冬用タイヤ、タイヤチェーンなどを装着して走行してください。
  ➔ タイヤチェーンについて（P.468）
- 雪道を走行するときは、e-4ORCE（4WD）車はドライブモードセレクター（➔ P.213）をSNOWに切り替えます。

■ 走行中の雪の付着に注意

- ブレーキに付着した雪が凍結し、ブレーキの効きが悪くなることがあります。ときどきブレーキの効き具合を確認してください。効きが悪いときは、前後の車との距離を十分とり、低速走行で効きが回復するまでブレーキペダルを軽く踏んでください。
- フェンダーの裏側に付いた雪が積もり、ハンドルの切れが悪くなることがあります。ときどき確認して雪を取り除いてください。

■ 駐車するときの注意

- シフトポジションをPにし、パーキングブレーキをかけずに輪止めをしてください。パーキングブレーキをかけると、ブレーキが凍結して解除できなくなるおそれがあります。
- 軒下や樹木の下には駐車しないでください。落雪で車が損傷するおそれがあります。
- 雪が降りそうなときや降雪時にはワイパーアームを起こしておいてください。ブレードと窓ガラスが凍結し、破損するおそれがあります。

タイヤ

タイヤが摩耗・損傷していたり、適正な空気圧でないと、安全な走行ができず乗り心地も損なわれます。

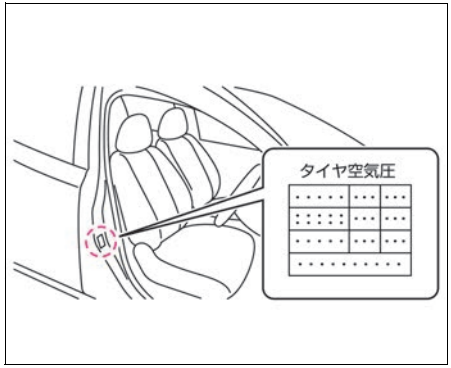
日常的に点検を行ってください。

タイヤの点検項目

安全な走行のため、タイヤの点検は次の項目を点検してください。

詳細は別冊のメンテナンスノートをお読みください。

タイヤ空気圧



- すべてのタイヤの空気圧を点検してください。
- タイヤの指定空気圧は運転席ドアの開口部に表示してあります。
- タイヤの空気は自然に少しずつ低下します。月に一度はタイヤエアゲージを使用して点検してください。
- タイヤ空気圧の点検は、走行前のタイヤが冷えているときに点検・調整してください。
- タイヤ側面の厚みが薄いタイヤは、空気圧が減っていることを目視で確認するこ

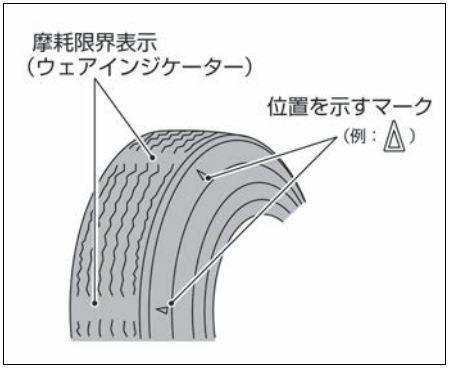
とが困難なため、必ずタイヤエアゲージを使用して点検してください。

- 走行直後はタイヤ空気圧が約1割上がることがあります。

タイヤの亀裂・損傷の有無

- タイヤの接地面や側面に著しい亀裂や損傷および針などの異物が刺さっていないか点検してください。

タイヤの溝の深さ、異常な摩耗



- タイヤの溝の深さが十分であるか、ウェアインジケーター（摩耗限界表示）が表れていないか点検してください。
- タイヤが摩耗して接地面とウェアインジケーター（摩耗限界表示）が同じ高さになったらタイヤを交換してください。

タイヤ・ロードホイールを交換するときは

アドバイス

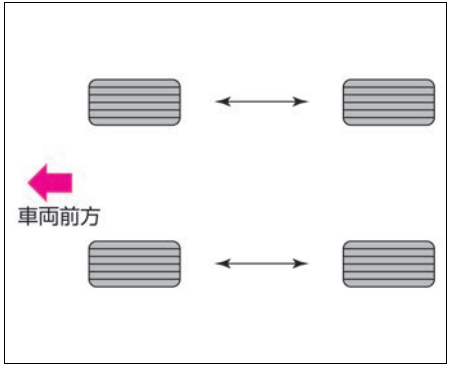
- ロードホイールは、リムサイズやインセットが同じでも、他の車のものは使えない場合があります。お手持ちのものをご使用になるときは、日産販売会社にご相談ください。
- アルミホイール★には荷重制限があるため、交換するときは日産販売会社にご相談ください。
- タイヤやロードホイールを交換したときは、ホイールバランスを確実に取ってください。
- バルブキャップは日産純正品を使用してください。日産純正品以外のバルブキャップを使用すると腐食して固着し、外れなくなる場合があります。
- バルブキャップは工具などを使用して締め付けると、破損するおそれがあります。
- ホイールナットの締め付けトルクは、108N・m（11kg・m）です。

- タイヤ交換をするときは、日産販売会社にご相談ください。
- タイヤを交換するときは、4輪とも同時期に行い、必ず指定サイズで同一の銘柄、パターン（溝模様）のタイヤを取り付けてください。
- タイヤサイズは運転席ドア開口部のタイヤ空気圧表示を参照してください。
- ロードホイールを交換するときは、必ず指定サイズで同一種類のロードホイールを取り付けてください。
  ロードホイールのサイズは巻末のサービスデータに記載してあります。

タイヤローテーションのしかた

アドバイス

- タイヤの位置交換と同時に空気圧も点検してください。
- タイヤの位置交換については、日産販売会社にご相談ください。



左右それぞれで、前後タイヤの交換を行ってください。タイヤの偏摩耗を防ぎ、寿命を延ばすために、約5,000kmごとにタイヤのローテーション（位置交換）を行うことをおすすめします。

タイヤに関する注意事項

⚠ 警告

- **タイヤの空気圧が不足したまま走行しない。**

  気温や高度の変化により、タイヤの空気圧は変化します。タイヤの空気圧が不足したまま走行すると、バースト（破裂）するなど、思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠ 注意

- **5〜7年を目安に必ず点検する。**

  タイヤはゴム製品のため、徐々に劣化します。引き続き使用する場合は安全走行を確保するため、必ず点検を受けてください。点検については日産販売会社へご相談ください。

- **指定サイズ以外のタイヤ・ロードホイールは絶対に取り付けない。**

  不適合なタイヤ・ロードホイールを取り付けると、安全性が損なわれ、思わぬ事故につながるおそれがあります。

- **タイヤを交換するときは、4輪とも同時期に行い、必ず指定サイズで同一の銘柄、パターン（溝模様）のタイヤを取り付ける。**

  特にe-4ORCE（4WD）車は、径が異なるタイヤを装着すると車の機構に無理がかかり、重大な故障につながります。また、VDCシステムが正常に作動しないことがあります。次のようなタイヤの装着はしないでください。回転差を吸収する機構に無理がかかり、過熱し火災につながるおそれがあります。

  — 摩耗差の大きいタイヤの装着

  — 前輪または後輪だけに冬用タイヤを装着

  — サイズや種類の異なるタイヤを個々に装着

- **著しく摩耗差のあるタイヤや空気圧が規定値と著しく異なるタイヤを装着しない。**

  車の性能が十分に発揮できなくなり、安全性を損なったり故障の原因になります。

冬用タイヤ・タイヤチェーン

雪道や凍結した道路を走行するときは、冬用タイヤやタイヤチェーンを装着してください。

冬用タイヤについて

⚠ 注意

- **タイヤチェーンを不適正に装着したり、タイヤサイズに合わないものを使用しない。**

  ブレーキ配管やフェンダーなどを破損するおそれがあります。

- 冬用タイヤを装着するときは、4輪とも指定サイズで同一の銘柄、パターン（溝模様）のものに交換してください。

タイヤチェーンについて

アドバイス

- タイヤチェーンを装着すると、ホイールカバー★やアルミホイール★に傷をつけるおそれがあります。
- 雪のない舗装路ではチェーンを装着したまま走行しないでください。チェーンの摩耗を早め、寿命が短くなります。また、e-4ORCE（4WD）車は車の性能が十分に発揮できなくなる場合があります。
- タイヤチェーンを装着しているときは、突起しているところや穴の上を走行しないでください。また、急ハンドルやタイヤがロックするようなブレーキ操作をしないでください。

タイヤチェーンを装着するときは、次のことを守ってください。

- タイヤチェーンを装着するときは、安全に作業できる平坦な場所に停車し、<パワースイッチ>をOFFにして作業してください。
- タイヤチェーンは必ず前2輪に装着してください。e-4ORCE（4WD）車も前2輪に装着してください。

- タイヤサイズに適合したチェーンを装着してください。
- タイヤチェーンに付属の取扱説明書に従って装着してください。
- タイヤチェーンに付属の取扱説明書で指定された速度で走行してください。
- お客さまのタイヤサイズに合ったタイヤチェーンでも使用できない場合があります。
- タイヤチェーンはお客さまの車に適合した日産純正品をおすすめします。
- 適合するタイヤチェーンについては日産販売会社にご相談ください。

ワイパー

ワイパーゴムが傷んでいると、きれいにふき取れなかったり、窓ガラスを傷つけたりします。

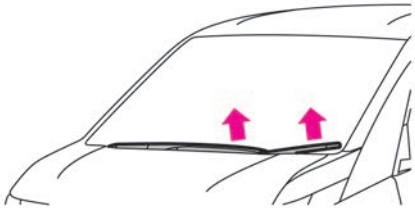
定期的に点検し、傷んでいるときは次の手順に従って交換してください。

ワイパーブレードの交換のしかた

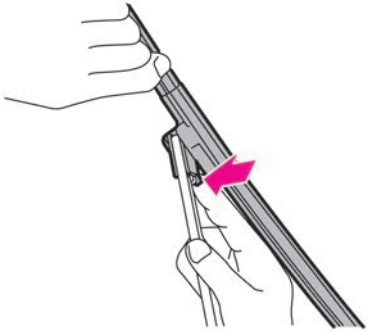
アドバイス

- 交換するときは、ワイパーアームおよびワイパーブレードがガラスに当たらないよう気を付けてください。ガラスに当たるとガラスが破損するおそれがあります。
- ワイパーブレードに大きな力を加えて変形させないでください。ふき取りにくくなったり、破損するおそれがあります。

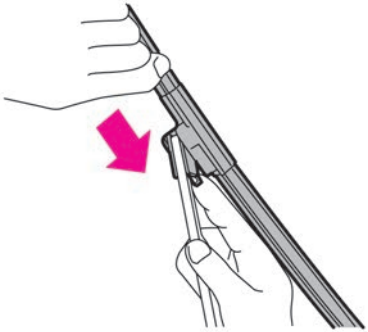
- リヤワイパーブレードの点検、交換が必要なときは、日産販売会社にご相談ください。



1. ワイパーアームを起こし、ワイパーブレードを少し傾けます。



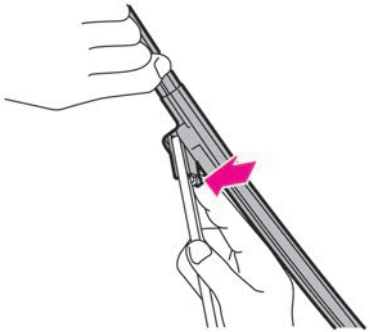
2. ワイパーブレードのツメを押したままにします。



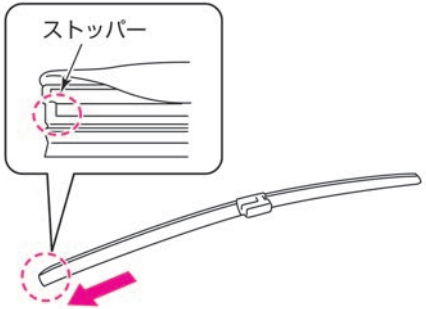
3. ワイパーブレードを矢印の方向に動かして取り外します。
4. 新しいワイパーブレードを取り付けます。取り付けは取り外したときと逆の手順で行い、ワイパーブレードが確実に固定されていることを確認します。

ワイパーゴムの交換のしかた

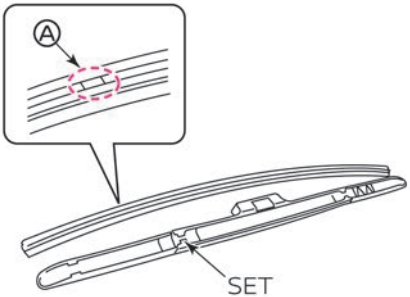
- ワイパーゴムに石けん水を塗ると脱着しやすくなります。



1. ワイパーアームからワイパーブレードを取り外します。



2. ワイパーゴムを矢印方向にスライドし、取り外します。



3. 取り付けるときは、取り外したときと逆の手順で行います。
ワイパーゴムのストッパーがない方からブレードに沿って差し込みます。
ワイパーゴムのⒶ部をワイパーブレードの「SET」の位置で確実に押し込み、固定します。

インテリジェントキーの電池交換

キーのスイッチを押しても作動しないときは、電池の消耗が考えられます。
次の手順に沿って、電池を交換してください。

電池交換のしかた

⚠ 警告

- **電池および取り外した部品は、お子さまが飲み込まないように注意する。**

インテリジェントキーには、ボタン電池が使用されています。誤って電池を飲み込むと、わずか 2 時間で重度の化学熱傷を引き起こし、死亡または重大な傷害につながるおそれがあります。新しい電池および取り外した電池は、お子さまの手の届かない場所に保管してください。

- **電池を飲み込んだり、体内に入れてしまった場合は、直ちに医師の診察を受ける。**

⚠ 注意

- **カバーがしっかりと閉まらない場合は、インテリジェントキーの使用を中止する。**

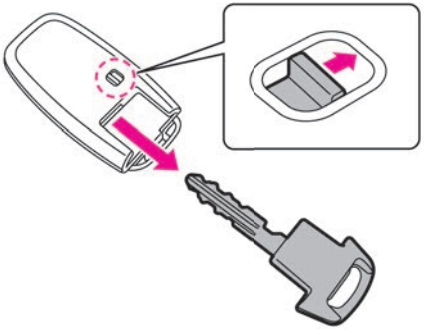
  インテリジェントキーをお子さまの手の届かない場所に保管し、すみやかに日産販売会社にご連絡ください。

アドバイス

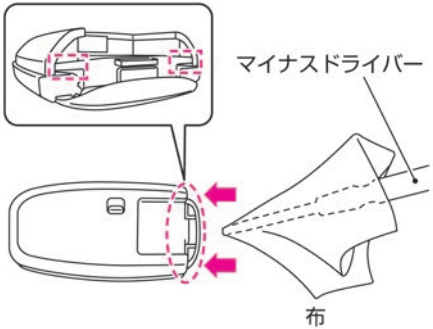
- 電池交換の際、キーを破損するおそれがあります。日産販売会社での交換をおすすめします。
- 内部回路、電子端子などに触れないでください。故障の原因となります。
- 電池交換の際は、必ず同じタイプの電池と交換してください。

アドバイス

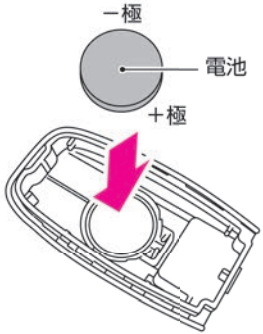
- 電池交換後は、キーシステムの各機能が正常に作動するか必ず確認してください。正常に作動しないときは故障が考えられますので、日産販売会社にご相談ください。



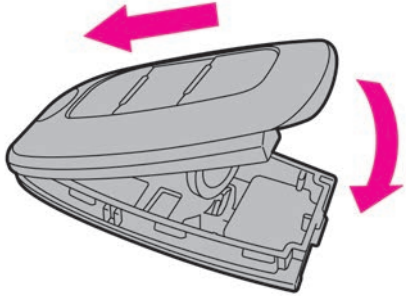
1. キー裏側のロックを外しながら、内蔵キー（メカニカルキー）を引き抜きます。



2. 左右のすき間にマイナスドライバーを差し込み、ひねってカバーを取り外します。（カバーが傷つかないように、マイナスドライバーに布を巻いてください）



3. 消耗した電池を取り外し、新しい電池をはめ込みます。（新しい電池は、＋極を下にして取り付けてください）
使用電池：CR2032



4. カバーの先端を合わせて上下のカバーを組み付けます。確実に取り付けられたことを確認してください。

12V バッテリー

12Vバッテリーのメンテナンスについては、メンテナンスノートをお読みください。
詳しくは日産販売会社にご相談ください。

12V バッテリーに関する注意事項

警告

- **12Vバッテリーを充電するときは換気を十分に行い、火気は近づけない。**

⚠ 警告

12Vバッテリーから発生する可燃性ガスに引火して爆発するおそれがあります。

- **バッテリー液が付着したときは、すぐに多量の水で洗浄し、飲み込んだときは多量の水を飲んで応急処置をしたあと、医師の診断を受ける。**

  バッテリー液は希硫酸です。目や皮膚に付着すると、失明や炎症など重大な傷害につながるおそれがあります。

⚠ 注意

- **12Vバッテリーの⊕側ターミナルが周辺の金属と接触しないようにする。**

  接触するとショートして火災の原因となるおそれがあります。また、12Vバッテリーの端子の締め付けが緩いと、配線などが過熱、焼損し、火災につながるおそれがあります。

- **12Vバッテリーを交換するときは、必ず同じサイズ（型式）に交換し、動かないようにしっかりと固定する。**

  しっかり固定できていないと、ショートなどの原因となり火災につながるおそれがあります。詳しくは、日産販売会社にご相談ください。

エンジンオイル

エンジンオイルの交換時期は別冊のメンテナンスノートをお読みください。

また、指定のエンジンオイルについては、巻末のサービスデータ（➔P.479）をお読みください。

エンジンオイルに関する注意事項

⚠ 注意

- **オイルの点検後は、オイルレベルゲージを確実に差し込む。**

  オイルレベルゲージが根元まで差し込まれていないと、オイルが噴き出し火災の原因になるおそれがあります。

- **エンジンオイルフィラーキャップは確実に閉める。**

  走行時にキャップが外れてエンジンオイルが噴き出すと、火災の原因になるおそれがあります。

アドバイス

- 適切にオイル交換が行われないと、エンジンの破損や火災など、思わぬ事故につながるおそれがあります。

外装のお手入れ

塗装面の変色やサビなどを防止するために、適切なお手入れが大切です。

洗車のしかた

- 塗装面に付着した汚れをそのままにすると、変色やサビの原因となります。次のような場合は、すぐに洗車してください。
  - ばい煙、虫の死がいや鳥の糞、樹液、鉄粉、コールタールなどが付着したとき
  - 海岸地区、凍結防止剤を散布した道路を走行したあと
  - ほこり、汚れがひどいとき

■ 水洗いするときは

- 水をかけながら下回りの汚れを洗い流します。
- 水をかけながら塗装面の高い位置から低い位置の順にセーム皮や柔らかいスポンジなどで汚れを落とします。汚れがひどいときは、ボディーシャンプーなどを使い、その後十分に水で洗い流します。
- はん点が残らないように水をふき取ります。

洗車時の注意

⚠ 注意

- **下回りを洗うときは、ケガをしないように注意する。**
- **エンジンルームを水で洗ったり、洗剤やワックスなどを直接スプレーしたりしない。**

  エンジンの始動不良や不調などの原因になるおそれがあります。また、電装品などに水がかかると、故障したり電気部品のショートにより車両火災につながるおそれがあり危険です。

  水や洗剤、ワックスなどの製品、もしくはその他シリコンを含む製品を使用する場合は、布に塗布してからエンジンルームをふいてください。
- **洗車、ワックス掛け、整備を行うとき、ボディーカバーを付け外しするとき、ハンズフリーセンサー周りに水を掛けるときなどは、＜オートドアメインスイッチ＞をOFFにする。（オートスライドドア付車）**

  ハンズフリーセンサーが反応してスライドドアが突然開閉し、思わぬケガをするおそれがあります。

➔ オートスライドドア★ (P.137)

アドバイス

- ケミカル用品などは用途により使い分けが必要です。用途にあった物をお使いください。
- ベンジン、シンナーなどの有機溶剤や酸、アルカリ性の溶液を使用しないでください。変色やしみの原因となります。
- 硬いブラシや、たわしなどは使用しないでください。塗装面を傷つけるおそれがあります。
- 寒冷時に洗車をするときは、ブレーキに直接水がかからないように注意してください。ブレーキ装置に水が入ると凍結し、走行できなくなるおそれがあります。
- 洗車をするときに、車体に体重をかけるなどして、強い力で押したときに、場所によっては車体がへこむおそれがあります。

洗車機を使うときは

アドバイス

- 自動洗車機で洗車すると、ブラシの傷がつき、塗装の光沢が失われたり劣化を早めたりすることがあります。
- ドアガラスのまわりに高圧ノズルを近づけないでください。車室内に水が漏れるおそれがあります。
- 自動洗車機で洗車すると、リヤワイパーを破損するおそれがあります。
- 洗車機の種類によってはスポイラーが引っ掛かり、洗車できないことがあります。
- アンダーカバーを外した状態で高圧洗浄機を使用しないでください。電気部品の故障などの原因になるおそれがあります。

アドバイス

- 高圧洗浄機を使用するときは、シャークフィンアンテナ★のまわりに高圧ノズルを近づけないでください。シール部が変形、破損するおそれがあります。

➔ 外観フロント (P.2)

- ドアミラーを格納してください。
➔ ドアミラーの格納のしかた (P.166)
- 燃料補給口を完全に閉めてください。
➔ 燃料補給口の開閉 (P.171)
- 高圧洗浄機を使用するときは、高圧ノズルと車体の距離を十分離して洗車してください。高圧ノズルを近づけすぎると、モールなど樹脂部分やシール材などが変形、損傷したり、塗装の劣化を早めたりすることがあります。

ワックスをかけるときは

アドバイス

- 塗装されていないバンパー、スポイラーなどの樹脂部品には、ワックスを使用しないでください。ムラになることがあります。
- コンパウンド（研磨剤）の入ったワックスを使うと、塗装面の光沢や水をはじく特性が失われることがあります。
- カメラのレンズ部にワックスを付けないでください。ワックスが付いた場合は、中性洗剤を薄めて柔らかい布に含ませ、ふき取ってください。

- ワックスがけは1か月に1回程度、または水はじきが悪くなったときに行ってください。かけかたは普通塗装車、メタリックおよびパール塗装車とも同じです。

ワックスのかけかた

① 塗装面の汚れを洗車などで取り除きます。

② 塗装面が冷えているとき（体温以下が目安）にワックスをかけます。
かけかたはワックス容器に記載してある説明に従ってください。

ワックスの選びかた

- コンパウンド（研磨剤）の入っていない、塗装に適したワックスをご使用ください。
日産純正カーワックスをおすすめします。詳しくは、日産販売会社にご相談ください。

アルミホイール★のお手入れ

アドバイス

- 変色やしみの原因になったり、傷をつけたりするおそれがあるため、次のことをお守りください。
  - 強酸性、強アルカリ性の洗剤は使用しない
  - 洗剤はホイールの表面が冷えているときに使用する（体温以下が目安）
  - 洗剤を使用したあとは、早めに十分洗い流す
  - 硬いブラシやコンパウンド（研磨剤）の入った洗剤などは使用しない

- 中性洗剤を含ませたスポンジなどを使い、汚れを落としてください。日産純正クリーナーをおすすめします。詳しくは、日産販売会社にご相談ください。

軽い補修のしかた

- フロントバンパー、リヤバンパーのレーダーセンサー周辺以外は、塗装面の小さい傷はタッチアップペイントを使い、早めに傷部を補修してください。
サビの発生を防ぎ、塗装面を長持ちさせます。
- フロントバンパー、リヤバンパーのレーダーセンサー周辺はタッチアップペイント含め塗装修理はできません。塗装する場合は日産販売会社にご相談ください。
➔ レーダーセンサーの取り扱い (P.475)

レーダーセンサー / カメラ類の取り扱い注意

⚠ 警告

- **センサー、カメラ部に強い衝撃を与えない。**
精密機器のため高圧洗車など、強い衝撃を与えないでください。故障、火災、または感電のおそれがあります。

⚠ 注意

- **フロントグリル、フロントバンパー、リヤバンパーのレーダーセンサー周辺に誤った塗装修理を行うと、本来の機能を発揮できなくなる可能性があります。**

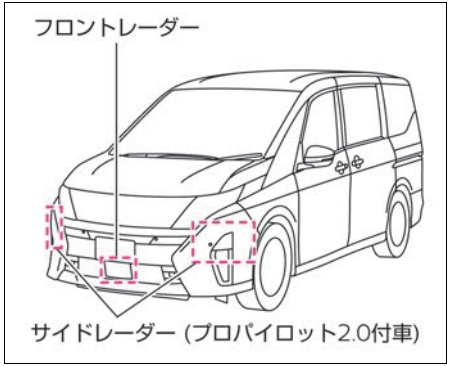
  適切な修理を行うため、日産販売会社にご相談ください。

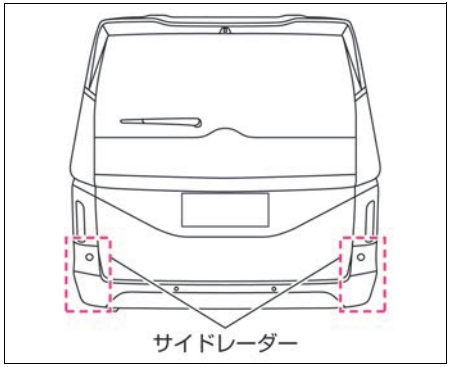
アドバイス

- カメラレンズ部に泥、雨滴、雪などが付着すると、モニター画像の映りが悪くなりますので、濡れた柔らかい布で汚れをふき取ったあと、乾いた柔らかい布でふき取ってください。
- カメラ部には傷をつけないでください。映像へ影響が出ることがあります。
- カメラレンズをアルコール、ベンジン、シンナーなどでふかないでください。変色などの原因になります。

レーダーセンサーの取り扱い

システムを正しく作動させるために次のことをお守りください。

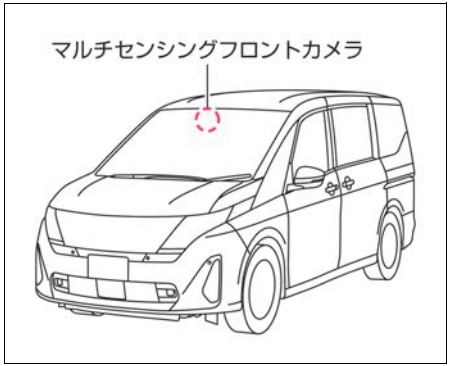




- 以下の状態の場合レーダーセンサーの性能が発揮できない可能性があります。取り付けた部品の除去、洗車、修理、もしくはバンパー交換を推奨します。
  - レーダーセンサー周辺へのステッカー貼り付け、後付け部品の取り付け
  - お客さまの手による補修
  - レーダーセンサー周辺の傷つき、鳥糞、虫、泥、雪などの付着
  - 衝突などでレーダーセンサー周辺を破損したとき
- フロントバンパー、リヤバンパーを改造、脱着したり、塗装したりしないでください。塗装する場合は日産販売会社にご相談ください。

マルチセンシングフロントカメラの取り扱い

システムを正しく作動させるため、次のことをお守りください。

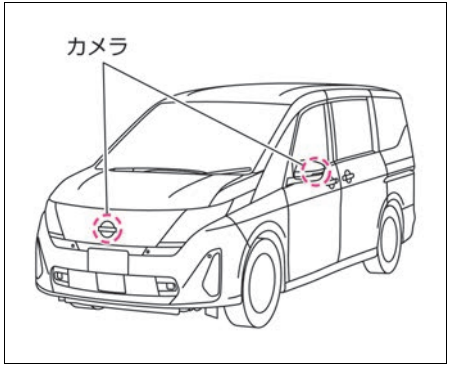


- カメラ前方のフロントガラスはいつもきれいにしておいてください。
  中性洗剤を薄めて柔らかい布に含ませてふき取ります。さらに乾いた柔らかい布でふき取ります。
- カメラ前方のフロントガラスにステッカー（透明なものを含む）を貼らないでください。

- インストルメントパネル上に鏡や白い紙などの光を反射しやすいものを置かないでください。太陽光が反射し、カメラの検知性能に影響が出るおそれがあります。
- カメラを取り外さないでください。故障、誤作動の原因になります。事故などでカメラ周辺部が変形した場合は、日産販売会社にご相談ください。
- フロントガラスが汚れていたり、マルチセンシングフロントカメラの前が障害物でふさがれていたり、カメラが前方を撮像できないとき、アドバンスドドライブアシストディスプレイにヘッドランプ警告の警告メッセージ（➲P.423）が表示されることがあります。カメラの前の障害物を取り除き、汚れを清掃してください。

フロントビューカメラ★／サイドビューカメラ★の取り扱い

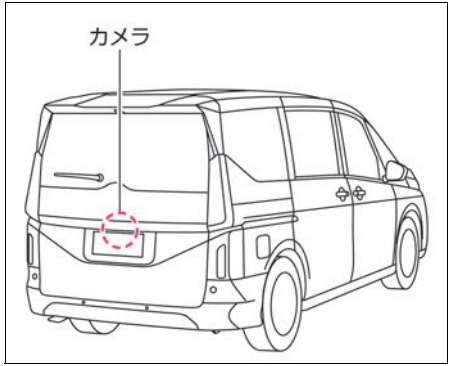
システムを正しく作動させるために、次のことをお守りください。



- カメラ周辺部はいつもきれいにしておいてください。
  アルコール、ベンジン、シンナーなどを使用してカメラを清掃しないでください。変色する原因となります。中性洗剤を薄めて柔らかい布に含ませてふき取ったあと、乾いた柔らかい布でふいてください。
- 衝突などでカメラ周辺を破損したときは、日産販売会社で点検を受けてください。

リヤビューカメラ★の取り扱い

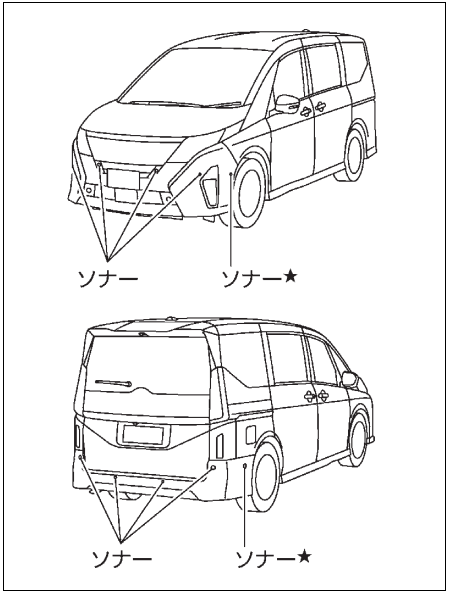
システムを正しく作動させるために、次のことをお守りください。



- カメラ周辺部はいつもきれいにしておいてください。
  アルコール、ベンジン、シンナーなどを使用してカメラを清掃しないでください。変色する原因となります。中性洗剤を薄めて柔らかい布に含ませてふき取ったあと、乾いた柔らかい布でふいてください。
- 光が反射するため、ナンバープレートにアクセサリーを取り付けないでください。
- 衝突などでカメラ周辺を破損したときは、日産販売会社で点検を受けてください。

ソナーの取り扱い

システムを正しく作動させるために、次のことをお守りください。



- ソナーはいつもきれいにしておいてください。
  汚れているときは、柔らかい布で傷つけないように注意してふき取ってください。
- ソナーまたはその周辺に強い衝撃を与えないでください。またソナーの取り外し、分解などをしないでください。故障、誤作動の原因になります。事故などでソナーの取り付け部が変形した場合は、日産販売会社にご相談ください。
- ソナーまたはその周辺にステッカー（透明なものを含む）を貼ったり、アクセサリーなどを取り付けないでください。故障、誤作動の原因になります。

内装のお手入れ

内装のお手入れについて

アドバイス

- 車室内に水をかけないでください。オーディオ★やスイッチ類、フロア下の配線や電気部品などに水がかかると故障するおそれがあります。
- ベンジン、シンナーなどの有機溶剤や酸、アルカリ性の溶剤を使用しないでください。変色やしみ、ひび割れ、塗装はがれなどの原因となるおそれがあります。また、各種クリーナー類には、これらの成分が含まれているおそれがあるため、確認してからご使用ください。
- オーディオ★やスイッチ類などの電装品、ブレーキペダル周りにシリコーン（シリコン）を含むケミカル用品（スプレー、グリース、オイルなど）を使用しないでください。電装品の故障につながるおそれがあります。
- 消臭剤・芳香剤、化粧品・日焼け止めなどは、容器からこぼしたりしないでください。また、吊り下げタイプの消臭剤・芳香剤などは、内装部品に接触しないようにしてください。含まれる成分によっては、内装部品に付着すると変色やしみ、ひび割れ、塗装はがれなどの原因となるおそれがあるため、付着した場合は、すみやかに柔らかい布でふき取ってください。
- 塩素系（二酸化塩素や次亜塩素酸）の洗浄液を使用しないでください。塗装はがれやサビなどの原因となるおそれがあります。やむをえず洗浄（除菌）する場合は、エタノール75%以下をご使用ください。エタノールを乾いた布に含ませ、内装部品をふいてください。エタノールがなくなるまでふき取ってください。ふき残しがあると塗装はがれや色落ちなどの原因となるおそれがあります。エタノールは、引火性ですので、火気に注意してください。
- 内装部品を固いもので擦ったり引っかいたりしないでください。傷がつき、破損するおそれがあります。

カーペットの汚れ取り

- 電気掃除機でほこりを取り除き、日産純正ルームクリーナーなどで汚れを落としてください。フロアカーペットを取り外したときは、敷き直すときにフロアカーペットがずれないように固定クリップで正しく確実に固定してください。
  ➔ フロアカーペット（P.388）

布、合成皮革の汚れ取り

- 中性洗剤を薄めて柔らかい布に含ませ、軽くふき取ります。さらに水に浸した布を固くしぼってふき取ります。汚れがひどいときは、日産純正ルームクリーナーなどで汚れを落としてください。

メーター表面やその他光沢のあるプラスチック部品の汚れ取り

アドバイス

- 乾いた布やウェットティッシュなどを使用しないでください。傷がついたり、変色したりする原因になります。
- ワックスやコーティング剤、油などが付着した布ではふかないでください。変色の原因になります。

- 塵、ほこりを取り除き、柔らかい布を真水に浸して、固くしぼってから軽くふき取ります。
  硬いブラシや布、ティッシュでこすると、傷がつくことがあります。

ガラスの汚れ取り

- バックドアガラスの内側を清掃するときは、熱線を切らないように水を含ませた柔らかい布で熱線にそって軽くふいてください。
- ガラスクリーナー、洗剤などは使用しないでください。
- ガラスの内側を清掃するときは、アンテナ線を切らないように、水を含ませた柔らかい布で軽くふいてください。

インテリジェント ルームミラー★のお手入れ

- ミラーやカメラ部は常にきれいな状態にしておいてください。汚れなどが付いていると見えにくくなるおそれがあります。
- ミラーやカメラ部を清掃するときは、乾いた柔らかい布などでそっとふいてください。
- 清掃するときはアルコール、ベンジン、シンナーなどの薬品でミラーやカメラ部をふかないでください。変色、劣化、故障の原因となります。汚れがひどいときは、まず濡れた柔らかい布でふいてから乾いた柔らかい布でふいてください。
- カメラ前面のバックドアガラスはいつもきれいにしておいてください。中性洗剤を薄めて柔らかい布に含ませてふき取ります。さらに乾いた布でふき取ります。油膜が付いているときは、油膜取りを使用して清掃してください。
- カメラ前面のバックドアガラスにステッカー（透明なものを含む）を貼らないでください。

サービスデータ

点検値

項目		点検値
ブレーキペダル※	遊び	3〜11mm
	床板とのすき間 エンジン回転中、約490N（50kg）で踏んだとき	105mm以上

※：ブレーキが正常に作動しないときは、必ず日産販売会社で点検を受けてください。また、ブレーキペダルの高さの調節が必要なときも、日産販売会社にご相談ください。

交換油脂類

お車の性能を適正に保つため、弊社指定銘柄のご使用をおすすめします。指定銘柄以外をお使いになる場合、指定銘柄に相当する品質のものをお使いください。記載の規定量は目安です。実際の量とは異なることがあります。交換時期については別冊のメンテナンスノートをお読みください。

エンジンオイル

適用		規定量（ℓ）	指定銘柄
HR14DDe	オイルのみ交換	3.0	日産純正SPストロングセーブ・X 0W-16 （API: SP、SAE: 0W-16）
	オイルとオイルフィルター交換	3.2	

■ 指定銘柄以外のエンジンオイルについて

指定銘柄以外をお使いになる場合は、下記に適合したエンジンオイルをお使いください。
グレード：API規格SPをお使いください。ILSACマークのついたものをおすすめします。

APIマーク

ILSACマーク

粘度：SAE規格0W-20をご使用ください。

エンジン冷却水

適用	規定量（ℓ）	指定銘柄
リヤオートエアコン付車	7.9※1	日産純正スーパーロングライフクーラント※2、※3
リヤクーラー付車	6.2※1	

※1：リザーバータンクの容量を含みます。
※2：走行用モーターやインバーターなどが破損するおそれがあるため、市販されている水漏れ防止剤などの添加剤は冷却水に添加しないでください。冷却水には、日産純正スーパーロングライフクーラントを必ずご使用ください。
※3：日産純正スーパーロングライフクーラントと日産純正ウインドウォッシャー液の色が似ているため、誤注入しないようにご注意ください。冷却回路にウォッシャー液が混入すると、内部が腐食したり、冷却水が変色したりするおそれがあります。

インバーター冷却水

適用	規定量（ℓ）	指定銘柄
2WD車	4.0※1	日産純正スーパーロングライフクーラント※2、※3
e-4ORCE（4WD）車	5.9※1	

※1：リザーバータンクの容量を含みます。
※2：走行用モーターやインバーターなどが破損するおそれがあるため、市販されている水漏れ防止剤などの添加剤は冷却水に添加しないでください。冷却水には、日産純正スーパーロングライフクーラントを必ずご使用ください。
※3：日産純正スーパーロングライフクーラントと日産純正ウインドウォッシャー液の色が似ているため、誤注入しないようにご注意ください。冷却回路にウォッシャー液が混入すると、内部が腐食したり、冷却水が変色したりするおそれがあります。

ギヤボックスオイル

適用	規定量（ℓ）	指定銘柄
全車	1.94	日産純正マチックフルードS※

※：必ず日産純正マチックフルードSを使用してください。日産純正マチックフルードS以外のフルードを使用するとギヤボックスが損傷するおそれがあります。

リヤファイナルドライブオイル

適用	規定量（ℓ）	指定銘柄
e-4ORCE（4WD）車	0.85	日産純正マチックフルードS※

※：必ず日産純正マチックフルードSを使用してください。日産純正マチックフルードS以外のフルードを使用するとリヤファイナルドライブが損傷するおそれがあります。

ブレーキフルード

適用	規定量（ℓ）	指定銘柄
全車	–	日産純正ブレーキフルードNo.2500（DOT3）

ウォッシャー液

適用	規定量（ℓ）	指定銘柄
全車	2.0	日産純正ウインドウォッシャー液※

※：外気温に応じて濃度を調節してください。

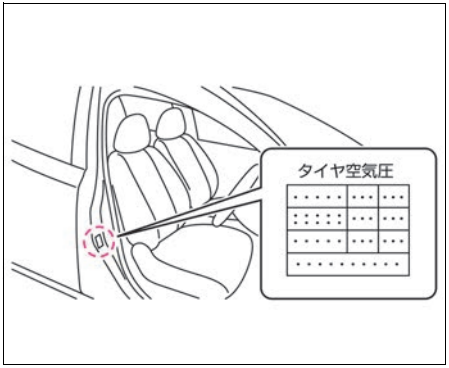
車両仕様

外装ランプ

●次の外装ランプはすべてLEDです。
— 前照灯（ヘッドランプ）
— 前部霧灯（フォグランプ）★
— 後部霧灯（リヤフォグランプ）★
— 車幅灯
— 番号灯
— 尾灯
— 制動灯
— ハイマウントストップランプ
— 後退灯
— 方向指示器 兼 非常点滅表示灯

タイヤ・ロードホイールサイズ

タイヤサイズ	ロードホイールサイズ		
	リムサイズ	P.C.D.	インセット
205/65R16 95H	16 × 6.0J	114.3mm （5穴）	45mm



タイヤの指定空気圧は運転席ドアの開口部に表示してあるため、確認してください。

イベントデータレコーダ（EDR）

車両データの記録・蓄積について

- イベントデータレコーダは一般的なデータレコーダとは異なり、会話などの音声は記録しません。
- 氏名、性別、年齢などの個人情報は記録しません。

この車両に装備されている以下システムの各コンピューターはイベントデータレコーダ機能を備えています。

以下システムの各コンピューターは正常に作動しているかどうかを常に診断し、イベントデータレコーダで車両が衝突したときなどの車両データを記録・蓄積しています。

■ SRSエアバッグシステム

SRSエアバッグシステムが作動したとき、もしくは一定以上の衝突が発生した場合に次の車両データを記録・蓄積します。

- エアバッグシステムの作動に関する情報
- エアバッグシステムの故障診断情報
- アクセルペダル、ブレーキペダル、ハンドルなどの操作状況
- 車速、エンジン回転数などの車両情報

■ プロパイロットシステム

プロパイロットシステムは次の車両データを記録・蓄積します。

- アクセルペダル、ブレーキペダル、ハンドルなどの操作状況
- 先行車やレーンマーカーなどの検知状況
- 車速などの車両情報
- プロパイロットの作動に関する情報
- プロパイロットの故障診断情報
- マルチセンシングフロントカメラの画像情報（SRSエアバッグ、インテリジェント エマージェンシーブレーキ作動時）

■ プロパイロット2.0システム★

プロパイロット2.0システムは車両データを記録・蓄積します。

➔ 車両データの記録・蓄積について（プロパイロット2.0付車）（P.272）

データの扱いについて

日産自動車および日産自動車が委託した第三者は、イベントデータレコーダに記録されたデータを日産自動車の車両衝突安全性能の向上を目的として、取得・利用することがあります。

なお、日産自動車および日産自動車が委託した第三者は、取得したデータを次の場合を除き、第三者へ開示・提供することはありません。

- 車両の使用者の同意がある場合
- 裁判所命令など、法的強制力のある要請に基づく場合

● 統計的な処理を行うなど、使用者や車両が特定できないように加工したデータを研究機関などに提供する場合

車両状態記録機能

車両状態の記録・蓄積について

車両状態記録機能は、次の車両データを記録・蓄積します。

● 車輪速などの車両走行情報

車両状態記録機能

● 車両状態記録機能は一般的なデータレコーダとは異なり、会話などの音声や映像は記録しません。

車両状態記録機能は品質維持を目的として、車両の運行状態を記録・蓄積します。

車両状態記録機能から得られたデータを元に的確なサービスを提供することができます。

データの取り扱いについて

日産自動車および日産自動車が委託した第三者は、車両状態記録機能に記録されたデータを日産自動車の車両衝突安全性能の向上を目的として、取得・利用することがあります。

なお、日産自動車および日産自動車が委託した第三者は、取得したデータを次の場合を除き、第三者へ開示・提供することはありません。

● 車両の使用者の同意がある場合

● 裁判所命令など、法的強制力のある要請に基づく場合

● 統計的な処理を行うなど、使用者や車両が特定できないように加工したデータを研究機関などに提供する場合

1

100V AC電源（1500W）
　100V AC電源（1500W） P.380
　100V AC電源（1500W）メイン
　スイッチ P.382
12V充電警告灯 P.55, P.56, P.57
12Vバッテリー
　12Vバッテリー P.471
　12Vバッテリー液量の点検・補給 ..... M
12Vバッテリーがあがったときは P.403

3

3点式シートベルト P.26

A

A/C（エアコン）
　エアコンスイッチ P.173
　エアコンを使うときに注意すること P.183
　吹き出し口 P.181
　プラズマクラスター搭載フロント
　オートエアコン P.183
　フロントオートエアコン+リヤオート
　エアコン／リヤクーラー P.173
ABS
　ABS P.217
　ABS警告灯 P.55, P.56, P.57

B

BSW（後側方車両検知警報） P.289

E

e-4ORCE（4WD）
　e-4ORCE（4WD）車の扱いかた P.216
e-Pedal Step P.211
e-Pedalインジケーター P.53
e-POWERシステム
　e-POWERシステム車が事故にあった
　ときの注意事項 P.17
　e-POWERシステムの取り扱いに関する
　注意事項 P.17
　ナビゲーションシステムを使ってより
　静かに走行する P.19
　燃費を良くするためのポイント P.19
e-POWERシステム警告灯 P.55, P.56, P.57
e-POWERシステムを始動できないときは P.403
ECO
　ECO P.214
　エコモード設定 P.214
EDR（イベントデータレコーダ） P.483
ELR（緊急固定）付シートベルト P.26
EPS（電動パワーステアリング）
警告灯 P.55, P.56, P.57
ETC ..... P.10, N
EVモードインジケーター P.52

I

ISO FIX対応チャイルドシート用アンカー P.43

L

LDW（車線逸脱警報） P.298

R

RCTA（後退時車両検知警報） P.305

S

SOSコール P.366
SPORT P.213
SRSエアバッグ P.31
SRSエアバッグ警告灯 P.55, P.56, P.57
STANDARD P.213

U

USB電源ソケット ..... P.378, N

V

VDC
　VDC P.218
　VDC OFF表示灯 P.58, P.59, P.60
　VDC警告灯 P.55, P.56, P.57

ア

アームレスト
　セカンドシート P.153
　フロントシート P.150
アウターミラー（ドアミラー） P.165
アシストグリップ P.390
アダプティブLEDヘッドライトシステム
　アダプティブLEDヘッドライト
　システム P.202

M「メンテナンスノート」をお読みください。
S「自動車検査証」をご参照ください。
N「ナビゲーションシステム取扱説明書」をお読みください。

アダプティブLEDヘッドライト
表示灯 P.58, P.59
アドバンスドドライブアシストディスプレイ
アドバンスドドライブアシストディスプレイ P.64, P.95
アドバンスドドライブアシストディスプレイ（ショートカットメニュー） P.76, P.105
エネルギーモニター P.68
各種設定画面 P.79, P.106
警告メッセージ P.75, P.104, P.418
車両情報 P.100
車両情報画面 P.65, P.96
ステアリングスイッチ P.64, P.76, P.95, P.105
その他の表示機能 P.92, P.116
パワーメーター P.96
ホーム P.65
アラーム（インテリジェントキー） P.451
アルミホイールのお手入れ P.474
アンサーバック機能 P.127
アンビエントライト P.361

イ

一時停止標識検知 P.309
移動物 検知機能 P.79, P.106, P.323
イベントデータレコーダ（EDR） P.483
イモビライザー（盗難防止装置） P.25
イルミネーションコントロール P.124
インジケーター（表示灯） P.58, P.59, P.60
インテリジェント BSI（後側方衝突防止支援システム） P.289
インテリジェント DA（ふらつき警報） P.308
インテリジェント FCW（前方衝突予測警報） P.302
インテリジェント LI（車線逸脱防止支援システム） P.298
インテリジェント アラウンドビューモニター
移動物 検知機能 P.323
インテリジェント アラウンドビューモニター P.317
インテリジェント アラウンドビューモニターに関する注意事項 P.326
ソナー機能について P.324
インテリジェント エマージェンシーブレーキ
インテリジェント エマージェンシーブレーキ P.276
インテリジェント エマージェンシーブレーキ警告灯 P.55, P.56, P.57
インテリジェント オートライトシステム（フロントワイパー連動、薄暮れ感知「おもいやりライト」機能付） P.198
インテリジェント ルームミラー P.162
インテリジェントキー
インテリジェントキーが正常に作動しないとき P.402
機能・使いかた P.126
電池交換のしかた P.470
ドアの施錠・解錠の作動範囲 P.127
インテリジェントトレースコントロール（コーナリング安定性向上システム） P.220
インナーミラー（ルームミラー） P.161
インバーター冷却水（規定量） P.481

ウ

ウィンカー（方向指示器） P.204
ウインドーガラス（パワーウインドー） P.168
ウォーニング（警告灯） P.55, P.56, P.57
ウォッシャー
ウォッシャー液（規定量） P.482
ウォッシャー液の補給 P.464
ウォッシャースイッチ P.209
ウォッシャーの噴霧状態点検 ..... M
動けなくなったときは P.394
運転するときに注意すること P.23
運転する前に P.22
運転前の準備 P.22

エ

エアコン
エアコンスイッチ P.173
エアコンを使うときに注意すること P.183
吹き出し口 P.181
プラズマクラスター搭載フロントオートエアコン P.183
フロントオートエアコン＋リヤオートエアコン／リヤクーラー P.173
リヤオートエアコン P.177
リヤクーラー P.179
エアバッグ
SRSエアバッグ P.31
SRSエアバッグ（前席） P.33
SRSエアバッグ警告灯 P.55, P.56, P.57
SRSカーテンエアバッグ P.36
SRSサイドエアバッグ（前席） P.35
エコドライブレポート P.93, P.117
エネルギーモニター P.68
エマージェンシーストップシグナル P.217
エンジン
エンジンオイル P.472
エンジンオイル（規定量） P.479
エンジンルームから蒸気が出ているとき P.452
エンジンルーム P.463
エンジン冷却水（規定量） P.481

オ

オイル P.479
応急修理する前に P.398
オーディオ
　オーディオ ..... P.185, N
　ステアリングスイッチ P.185
オートACC機能 P.190
オートクロージャー P.135
オートスライドドア
　運転席スイッチ P.141
　オートスライドドア P.137
　正常に作動しないとき P.143
　挟み込み防止機構 P.144
　ハンズフリーオートスライドドア P.139
　ハンズフリー機能 P.142
　ワンタッチオートスライドドア P.141
オートドアメインスイッチ P.138
オートブレーキホールド
　オートブレーキホールド P.193
　オートブレーキホールド
　表示灯 P.58, P.59, P.60
オートレベライザー P.198
オートロック機能 P.127, P.132
オーバーヒート P.452
オーバーヒート警告が表示されたとき P.452
お子さまの安全のために P.37
お子さまを乗せるときに注意すること P.37
オドメーター（積算距離計） P.50
音声操作表示 P.94

カ

外気温度計 P.50
回生ブレーキ P.14
外装のお手入れ P.473
外装ランプが点灯しないときは P.455
カギ（インテリジェントキー） P.126
各種設定画面 P.79, P.106
ガソリン P.171
カップホルダー
　サードシート用カップホルダー P.364
　フロントシート用カップホルダー P.363
カメラ
　フロントビュー／サイドビューカメラ P.476
　マルチセンシングフロントカメラ P.475
　リヤビューカメラ P.476
ガラスアンテナ P.185
ガラスのお手入れ（バックドアガラス） P.478
寒冷時の取り扱い P.465

キ

キー
　インテリジェントキー P.126
　インテリジェントキーに関する注意
　事項 P.129
　インテリジェントキーの電池交換 P.470
　メカニカルキー P.126
キー連動室内照明システム P.127
ギヤボックスオイル（規定量） P.481

ク

空気圧（タイヤ） P.466, P.483
くもり取り
　デフロスタースイッチ P.452
　リヤウインドーデフォッガースイッチ P.452
クラクション（ホーン） P.160
クリアランスランプ（車幅灯）
　スイッチ P.198
　点灯しないとき P.455
車のお手入れ P.473
グローブボックス P.362

ケ

警告灯 P.55, P.56, P.57
警告灯がついたときは P.409
警告メッセージ P.75, P.104, P.418
警告メッセージが表示されたときは P.418
警報ブザー音別一覧表（インテリジェント
キー） P.451
けん引について P.396

コ

工具 P.459
航続可能距離表示 P.49
後退灯
　点灯しないとき P.455
高電圧部品について P.16
後部霧灯（リヤフォグランプ）
　スイッチ P.204
　点灯しないとき P.455
　リヤフォグランプ表示灯 P.58, P.59, P.60
故障警告灯（MIL） P.55, P.56, P.57
故障したときは P.394
コンセント P.380
コンソールポケット P.363
コンソールボックス P.362
コンビニフック P.387

サ

サードシート
　格納のしかた P.158
　サードシート P.156

M「メンテナンスノート」をお読みください。
S「自動車検査証」をご参照ください。
N「ナビゲーションシステム取扱説明書」をお読みください。

サードシート用助手席側オート
スライドドアスイッチ P.142
サービスデータ P.479
最高速度標識検知 P.53, P.309
サイドアンダーミラー P.166
サイドミラー（ドアミラー） P.165
サイドレーダー P.475
先読み充放電制御 P.19
サンバイザー P.389

シ

シート
サードシート P.156
スマートマルチセンターシート P.154
セカンドシート P.151
チャイルドシート P.38
ヒーターシート P.377
フロントシート P.149
横スライド機構 P.153
シートベルト
シートベルト警告灯 P.55, P.56, P.57
シートベルトの着用のしかた P.26
シートベルトの注意事項 P.29
事故が起きたときは P.17
室内灯 P.360
始動しない P.403
始動のしかた P.188
シフトスイッチ P.191
シャシー制御 P.219
ジャッキ
ジャッキ P.459
ジャッキアップのしかた P.461
車幅灯
スイッチ P.198
点灯しないとき P.455
車両型式 ..... S
車両重量 ..... S
車両仕様 P.482
車両状態記録機能 P.484
車両情報 P.100
車両情報画面 P.65, P.96
車両寸法 ..... S
車両接近通報装置
車両接近通報システム
警告灯 P.55, P.56, P.57
車両接近通報装置 P.220
ジャンプスタートのしかた P.405
収納装備 P.362
出力制限表示灯 P.55, P.56, P.57
出力制限表示灯が点灯したときは P.407
乗車定員 ..... S
衝突回避ステアリングアシスト P.282
助手席アッパーボックス P.363
心臓ペースメーカーなどをご使用の方の
注意事項 P.24
進入禁止標識検知 P.309

ス

水温計 P.49
スイッチの操作
100V AC電源（1500W）メイン
スイッチ P.382
e-Pedalスイッチ P.211
EVモードスイッチ P.215
SOSコールスイッチ P.366
TRIP RESETスイッチ P.50
イルミネーションコントロール
スイッチ P.124
ウォッシャースイッチ P.209
運転席スイッチ（オートスライド
ドア） P.141
エアコンスイッチ P.173
オートドアメインスイッチ P.138
オートブレーキホールドスイッチ P.193
サードシート用助手席側オート
スライドドアスイッチ P.142
シフトスイッチ P.191
ステアリングスイッチ
（アドバンスド
ドライブアシスト
ディスプレイ） P.64, P.76, P.95, P.105
ステアリングスイッチ（オーディオ） P.185
前席ヒーターシートスイッチ P.377
デフロスタースイッチ P.452
電動パーキングブレーキスイッチ P.192
ドアミラースイッチ P.165
ドアロックスイッチ P.133
ハーフバックドアオープナースイッチ P.147
バックドアオープナースイッチ P.146
バックドアスイッチ P.132
パワーウインドースイッチ P.168
パワーウインドーロックスイッチ P.168
パワースイッチ P.188
ハンドル支援スイッチ P.235
ヒーターシートスイッチ
（セカンドシート（左右）） P.378
非常点滅表示灯スイッチ P.10
フォグランプスイッチ P.204
プロパイロット パーキングスイッチ P.331
ヘッドアップディスプレイスイッチ P.121
ヘッドランプスイッチ P.198
ヘッドランプレベライザースイッチ P.205
方向指示器スイッチ P.204
ライトスイッチ P.198
リヤウインドーデフォッガースイッチ P.452
リヤフォグランプスイッチ P.204
ワイパースイッチ P.206
ワンタッチオートスライドドア開閉
スイッチ P.141
ワンタッチスイッチ P.142
水没したときは P.454
ステアリング（ハンドル） P.159

ステアリングスイッチ
アドバンスド
ドライブアシスト
ディスプレイ P.64, P.76, P.95, P.105
オーディオ ..... P.185, N
音声操作 ..... N
ショートカットメニュー P.76, P.105
ハンズフリーフォン ..... N
プロパイロット P.235
ボイスアシスタント ..... N
ステアリングヒーター P.377
スピードメーター（速度計） P.49
スペアタイヤ
スペアタイヤ P.459
パンクしたときは P.398
スマートマルチセンターシート P.154
スモールランプ（車幅灯）
スイッチ P.198
点灯しないとき P.455
スライドドア
オートクロージャー P.135
スライドドア P.134
ワンタッチスイッチ P.142

セ

制限速度標識 P.73, P.103
制動灯（ブレーキランプ）
アクセルOFF時の制動灯（ブレーキランプ）について P.212
点灯しないとき P.455
セカンドシート
スマートマルチセンターシート P.154
セカンドシート P.151
横スライド機構 P.153
設定（メーター） P.79, P.106
先行車発進お知らせ P.315
センサー（ハンズフリーセンサー） P.142
洗車のしかた P.473
前照灯（ヘッドランプ）
スイッチ P.198
点灯しないとき P.455
先進事故自動通報システム P.366
前席シートバックポケット（アッパー） P.365
センターコンソールボックス P.362
全ドア連動ロック機能 P.142
前部霧灯（フォグランプ）
スイッチ P.204
点灯しないとき P.455
フォグランプ表示灯 P.58, P.59, P.60

ソ

走行 P.196
走行可能表示灯 P.58, P.59, P.60
走行支援機能 P.222
走行支援機能画面 P.118
走行支援グループ P.73, P.103
走行支援システム表示 P.120
走行時間アラーム P.79, P.106
走行用モーター P.14
速度計（スピードメーター） P.49
ソナー
ソナー P.92, P.116
ソナー設定 P.79, P.106
ソナーの取り扱い P.476

タ

タイヤ
アルミホイールのお手入れ P.474
応急修理のしかた P.399
タイヤ・ホイールを交換するとき P.467
タイヤ・ロードホイールサイズ P.483
タイヤ応急修理キット P.398
タイヤチェーンについて P.468
タイヤの位置交換
（ローテーション） P.467
タイヤの空気圧 P.466, P.483
タイヤの点検項目 P.466
パンク P.398
冬用タイヤについて P.468
正しい運転姿勢について P.22
ダブルプリテンショナー機構 P.26

チ

チケットホルダー P.389
チャージモード
EVモードスイッチ P.215
チャージモード P.215
チャージランプ
（充電警告灯） P.55, P.56, P.57
チャイルドシート P.38
チャイルドシート適合表 P.40
チャイルドセーフティドアロック P.135
着信表示 P.93
駐車支援システム P.317
駐車のしかた P.197
チルト・テレスコピックステアリング P.159

ツ

通話表示 P.93

テ

定期点検 ..... M

M「メンテナンスノート」をお読みください。
S「自動車検査証」をご参照ください。
N「ナビゲーションシステム取扱説明書」をお読みください。

停止のしかた.....P.189
停車のしかた.....P.197
低水温表示灯.....P.58, P.59, P.60
低速加速抑制機能.....P.285
低速衝突軽減ブレーキ機能.....P.285
ティッシュボックス収納.....P.362
テールランプ（尾灯）
　スイッチ.....P.198
　点灯しないとき.....P.455
テールランプ表示灯.....P.58, P.59, P.60
手放し警告灯.....P.55, P.56, P.57
デフロスタースイッチ.....P.452
デュアルバックドア.....P.145
点検整備について.....P.458
電源ソケット.....P.378
点検値／交換油脂類.....P.479
電制シフト警告灯.....P.55, P.56, P.57
電池交換のしかた（インテリジェントキー）.....P.470
電動格納式ドアミラー.....P.165
電動パーキングブレーキ
　電動パーキングブレーキ.....P.192
　電動パーキングブレーキ警告灯.....P.55, P.56, P.57
　電動パーキングブレーキに関する注意事項.....P.193
テンプメーター（水温計）.....P.49

ト

ドア
　スライドドア.....P.134
　ドアが開かないときは.....P.402
　ドアを室内から開けられないとき（チャイルドセーフティドアロック）.....P.135
　バックドア.....P.145
　バックドアスイッチ.....P.132
　フロントドア.....P.133
ドアミラー.....P.165
ドアミラーヒーター.....P.166
ドアロックスイッチ.....P.133
灯火装置（ランプ）の点灯、点滅具合、汚れ、損傷点検.....M
盗難防止装置
　イモビライザー.....P.25
時計.....P.49
ドライバーモニターシステム.....P.313
ドライブコンピュータ.....P.66, P.97
ドライブモードインジケーター.....P.52
ドライブモードセレクター
　ドライブモードインジケーター.....P.52
　ドライブモードセレクター.....P.213
ドライブレコーダー（メーカーオプションナビゲーションシステム装着車）.....P.369
トラブルがおきたときは
　12Vバッテリーがあがったときは.....P.403
　e-POWERシステムを始動できないときは.....P.403
　オーバーヒートしたときは.....P.452
　外装ランプが点灯しないときは.....P.455
　警告灯がついたときは.....P.409
　警告メッセージが表示されたときは.....P.418
　故障したときは.....P.394
　出力制限表示灯が点灯したときは.....P.407
　水没したときは.....P.454
　ドアが開かないときは.....P.402
　発炎筒.....P.395
　パンクしたときは.....P.398
　ヒューズが切れたときは.....P.455
　ブザー（警報音）が鳴ったときは.....P.451
　窓ガラスがくもったときは.....P.452
　雪道やぬかるみにはまったときは.....P.454
トリップメーター（区間距離計）.....P.50

ナ

内装のお手入れ.....P.477
ナビゲーションシステム.....N
ナビゲーションシステムを使ってより静かに走行する.....P.19
ナンバー灯（番号灯）
　スイッチ.....P.198
　点灯しないとき.....P.455

ニ

日常点検.....M
日産e-POWERと上手に付き合うために.....P.19

ネ

燃費情報表示.....P.66, P.97
燃費を良くするためのポイント.....P.19
燃料
　燃料計.....P.49
　燃料タンク容量.....P.171
　燃料補給口.....P.171
燃料残量警告灯.....P.55, P.56, P.57

ハ

パーキングブレーキ
　電動パーキングブレーキ.....P.192
パーソナルテーブル.....P.386
ハーフバックドア.....P.147
排気量.....S
ハイビームアシスト
　ハイビームアシスト.....P.200
　ハイビームアシスト表示灯.....P.60
ハイマウントストップランプ
　点灯しないとき.....P.455
ハザードスイッチ（非常点滅表示灯）.....P.10

挟み込み防止機構
オートスライドドア P.144
パワーウインドー P.169
発炎筒 P.395
バックドア
ハーフバックドア P.147
バックドアガラスのくもりの取りかた P.452
バックミラー（ルームミラー） P.161
発進 P.196
バッテリー
リチウムイオンバッテリー P.14
バッテリーセーバー
ヘッドランプ P.198
マップランプ P.360
ラゲッジランプ P.361
ルームランプ P.360
発電用モーター P.14
バニティミラー P.389
はみ出し通行禁止標識検知 P.309
パワーウインドー P.168
パワーウインドーが正常に作動しないとき P.169
パワースイッチでのモードの切り替えかた P.189
パワーメーター P.50, P.96
パンクしたときは P.398
番号灯
スイッチ P.198
点灯しないとき P.455
ハンズフリーオートスライドドア P.139
ハンズフリー機能 P.142
ハンドル P.159

ヒ

ヒーターシート P.377
ヒーター付ドアミラー P.166
非常停止のしかた P.189
非常点滅表示灯
スイッチ P.10
点灯しないとき P.455
尾灯
スイッチ P.198
点灯しないとき P.455
ヒューズが切れたときは P.455
標識検知機能
一時停止標識検知 P.309
最高速度標識検知 P.309
進入禁止標識検知 P.309
はみ出し通行禁止標識検知 P.309
標識検知機能 P.309
標識検知機能に関する注意事項 P.311
表示灯 P.58, P.59, P.60
表示灯がついたときは P.61
ヒルスタートアシスト P.220

フ

ブースターケーブルのつなぎかた P.403
フード（ボンネット） P.463
フォグランプ
スイッチ P.204
点灯しないとき P.455
フォグランプ表示灯 P.58, P.59, P.60
吹き出し口 P.181
ブザー（警報音）が鳴ったときは P.451
踏み間違い衝突防止アシスト
低速加速抑制機能 P.285
低速衝突軽減ブレーキ機能 P.285
踏み間違い衝突防止アシスト P.283
踏み間違い衝突防止アシスト警告灯 P.55, P.56, P.57
フューエルフィラーリッド（燃料補給口）
フューエルフィラーリッド（燃料補給口） P.171
フューエルメーター（燃料計） P.49
冬用タイヤ・タイヤチェーン P.468
プラズマクラスター搭載フロントオートエアコン P.183
ブレーキ（回生ブレーキ） P.14
ブレーキ液量の点検・補給 ..... M
ブレーキ警告灯（赤色） P.55, P.56, P.57
ブレーキシステム警告灯（黄色） P.55, P.56, P.57
ブレーキの効き点検 ..... M
ブレーキフルード（規定量） P.482
ブレーキペダルの踏みしろ ..... M
ブレーキランプ（制動灯）
アクセルOFF時の制動灯（ブレーキランプ）について P.212
フロアカーペット P.388
プロパイロット
車両情報画面 P.73, P.103
プロパイロット P.229
プロパイロット パーキング P.331
プロパイロット リモート パーキング P.352
プロパイロット2.0
3D高精度地図データ P.272
追い越し支援機能 P.260
車線変更支援機能 P.257
プロパイロット2.0 ..... P.229
プロパイロット2.0表示 P.120
ヘッドアップディスプレイ P.118
ルート走行支援機能 P.264
フロントガラスのくもりの取りかた P.452
フロントセンタートレイ P.363
フロントドア P.133

M「メンテナンスノート」をお読みください。
S「自動車検査証」をご参照ください。
N「ナビゲーションシステム取扱説明書」をお読みください。

へ

ヘッドアップディスプレイ
ON・OFFのしかた P.121
警告メッセージ P.120
最高速度標識検知表示 P.119
車速表示 P.118
走行支援システム表示 P.120
ナビゲーションシステム表示 P.119
プロパイロット2.0 ..... P.120
ヘッドアップディスプレイスイッチ P.121
ヘッドアップディスプレイとは P.118
ヘッドアップディスプレイの注意事項 P.120
ヘッドアップディスプレイの調整のしかた P.122
メッセージ表示 P.119
ヘッドランプ
自動点灯ランプの消灯のしかた（車両停車時） P.200
スイッチ P.198
点灯しないとき P.455
ヘッドランプ上向き表示灯 P.58, P.59, P.60
ヘッドランプ下向き表示灯 P.58, P.59
ヘッドランプの点灯、点滅具合、汚れ、損傷点検 ..... M
ヘッドランプレベライザースイッチ P.205
ヘッドレスト
サードシート P.159
セカンドシート P.152
フロントシート P.150

ホ

ホイールサイズ P.483
ホイールナットレンチ P.459
方向指示器
スイッチ P.204
点灯しないとき P.455
方向指示表示灯 P.58, P.59, P.60
方向指示器の点灯、点滅具合、汚れ、損傷点検 ..... M
防犯装置
イモビライザー P.25
ホーム P.65
ホーンの鳴らしかた P.160
ポジションインジケーター P.51
ポジションランプ（車幅灯）
スイッチ P.198
点灯しないとき P.455
ボトルホルダー P.364
ボンネット P.463

マ

マスターウォーニング P.55, P.56, P.57
マップランプ
キー連動室内照明システム P.360
マップランプ P.360
窓ガラスがくもったときは P.452
マナーモード
EVモードスイッチ P.216
マナーモード P.216
マルチセンシングフロントカメラ P.475

ミ

ミラー
インテリジェント ルームミラー P.162
サイドアンダーミラー P.166
ドアミラー P.165
バニティミラー P.389
ルームミラー P.161

メ

メーター
アドバンスドドライブアシストディスプレイ P.64, P.95
アドバンスドドライブアシストディスプレイ（ショートカットメニュー） P.76, P.105
オドメーター（積算距離計） P.50
外気温度計 P.50
各種設定画面 P.79, P.106
各部名称 P.46, P.47, P.48
警告灯 P.55, P.56, P.57
警告メッセージ P.75, P.104, P.418
車両情報画面 P.65, P.96
スピードメーター（速度計） P.49
時計 P.49
トリップメーター（区間距離計） P.50
パワーメーター P.50, P.96
表示灯 P.58, P.59, P.60
ヘッドアップディスプレイ P.118
メーターの明るさ調節のしかた P.124
メンテナンス設定 P.79, P.106
メンテナンスデータ（サービスデータ） P.479

モ

モーター P.14

ユ

油圧警告灯 P.55, P.56, P.57
雪道の走行のしかた P.466
雪道やぬかるみにはまったときは P.454

ヨ

横スライド機構 P.153

ラ

ライトスイッチ P.198
ラゲッジアンダーボックス P.389
ラゲッジランプ
　キー連動室内照明システム P.361
　ラゲッジランプ P.361
ランプ（室内灯）
　マップランプ P.360
　ラゲッジランプ P.361
　ルームランプ P.360
ランプ消し忘れ警報 P.198

リ

リチウムイオンバッテリー P.14
リヤウインドーデフォッガースイッチ P.452
リヤビューカメラ P.476
リヤファイナルドライブオイル
（規定量） P.482
リヤフォグランプ
　スイッチ P.204
　点灯しないとき P.455
　リヤフォグランプ表示灯 P.58, P.59, P.60
リヤワイパースイッチ P.208

ル

ルームミラー P.161
ルームランプ
　キー連動室内照明システム P.360
　マップランプ P.360
　ラゲッジランプ P.361
　ルームランプ P.360

レ

冷却水
　寒冷時の取り扱い P.465
　冷却水量の点検・補給 ..... M
レーダーセンサー P.475

ロ

ロードホイール
　お手入れ P.474
　交換 P.467
　サイズ P.483
ロールサンシェード P.386
路上で故障したときは P.394
ロックノブ P.134

ワ

ワイパー
　ワイパー・ウォッシャースイッチ P.206
　ワイパーゴムの交換 P.469
　ワイパーブレードの交換 P.469
ワイヤレス充電器 P.384
ワックスをかけるときは P.474
ワンタッチオートスライドドア P.141

M「メンテナンスノート」をお読みください。
S「自動車検査証」をご参照ください。
N「ナビゲーションシステム取扱説明書」をお読みください。

MEMO

警告灯・表示灯・警告メッセージが表示されたときは

メーター内に警告灯や警告メッセージが表示されたときは、すみやかに適切に対処する必要があります。詳しくは、警告灯（➔P.409）、警告メッセージ（➔P.418）をお読みください。表示灯については、表示灯（➔P.61）をお読みください。

警告灯 例

警告灯は、車両故障などを運転者に知らせるためのものです。警告灯が点灯または点滅したときは警告灯（➔P.409）に記載されている「説明・対処方法」に従ってください。

警告メッセージ 例

警告メッセージが表示されたときは、警告メッセージ（➔P.418）に記載されている「説明・対処方法」に従ってください。

表示灯 例

表示灯は、何らかのシステムが作動していることなどをお知らせするものです。点灯または点滅している理由は、表示灯（➔P.61）をお読みください。

MEMO